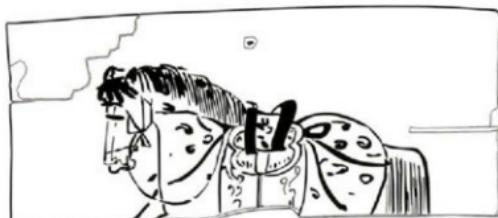


多賀城市文化財調査報告書第70集

市川橋遺跡

—城南土地区画整理事業に係る発掘調査報告書II—



平成15年3月

多賀城市教育委員会
多賀城市城南土地区画整理組合

序 文

このたび、市川橋遺跡城南地区における区画整理事業関連調査報告書を刊行する運びとなりました。城南地区の中の、南東ブロック全体の成果を収録したものであり、平成12年度に刊行した北東ブロックの報告書に続く第2冊目であります。城南地区の発掘調査では毎回膨大な資料が発見されており、当教育委員会では年度ごとに略報を作成し、成果の一部を速やかに皆様にお知らせしてきたところでありますが、それらの整理・検討を経て総合的にまとめたものが本書であります。かつて東北地方における律令国家最大の拠点であった多賀城ならではの貴重な資料が数多く掲載されておりますので、考古学・古代史など各分野の研究資料として、広く活用されることを願ってやみません。

本書に収録した城南地区南東ブロックは、多賀城の南面に建設された古代のまち並みの東側にあたります。南北大路から東に3条目の道路が発見され、城外の都市計画事業がこの地区まで及んでいることが明らかになりました。また、幹線道路である東西大路の延長線上にあり、その行方が注目されておりましたが、低地から丘陵にさしかかるところで造成工事の痕跡を発見し、丘陵部まで続いているという手がかりをつかむことができました。断片的で、しかも一度に多くを語らない発掘の成果というものは、傍目には地味であり、魅力的には感じられないかもしれません。しかし、そうした地道な成果が多賀城の歴史を解明する上で基礎的な資料になるのであります。私たちが「古代都市多賀城」と呼んでいるまち並みは発掘調査によって発見されたものであり、その解明は今後も発掘調査に拠らねばなりません。皆様のご理解・ご協力を切に願うものであります。

最後になりましたが、発掘調査から報告書の刊行まで、終始ご協力頂いた城南土地区画整理組合はじめ、関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成15年3月

多賀城市教育委員会

教育長 櫻井茂男

例　　言

- 1 本書は、城南土地区画整理事業に係る市川橋遺跡発掘調査報告書の第二冊目である。
- 2 本書には同事業に係る第26・27・28・29次調査のうち、南東ブロック（C区）の成果を収録した。
- 3 本書は「市川橋遺跡一城南土地区画整理事業に係る発掘調査報告書Ⅰ-」（2001）の続編である。遺跡の位置と環境、調査に至る経緯、調査方法等については同書を参照されたい。
- 4 本書に収録した出土遺物のうち、木簡・墨書き土器等文字資料の解説は平川南氏（国立歴史民俗博物館）に依頼した。木簡については廣瀬真理子氏（中央大学大学院）と連名の報告を付録として収録し、墨書き土器については石崎高臣氏（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター）、新井重行氏（東京大学大学院）の協力を得て廣瀬真理子氏（中央大学大学院）に執筆していただいた。
- 5 本書は、調査員高倉敏明、千葉孝弥、島田敬、鈴木孝行、斎藤稔、菊池豊、相澤正信、佐藤恵子、文屋亮が協議の上作成し、編集は千葉・鈴木が担当した。およその分担は以下のとおりである。

I・II・VII-1・VIII・IX-千葉、III-島田・佐藤、IV-菊池・相澤、V-鈴木・菊池・相澤、VI・VII-2～4-鈴木、VII-5-廣瀬、附章-平川・廣瀬

遺構図版は島田・菊池、遺物図版は臨時職員の協力を得て千葉・鈴木が作成し、遺物写真は土器を斎藤、木製品を鈴木が撮影した。また、第26・27次調査分については担当者武田健市（現・文化財課）が遺構・遺物の基礎整理を行った。
- 6 資料整理、図版作成に際し、臨時職員柏倉霜代（退職）、須藤美智子（退職）、熊谷純子、浦風志恵子、伊藤美恵子、鹿野智子、高橋千賀子（退職）、村上和恵、小野寺雪子、渡辺奈緒、中村千恵子、坂本英美、内海由美子、遠藤友美、横山佳織、小岩博江、今野妙子の協力を得た。
- 8 発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々および機関からご指導・ご協力を賜った。

桑原滋郎（宮城県考古学会） 進藤秋輝 生田和宏（東北歴史博物館） 三上喜孝（山形大学） 村木志伸（東北芸術工科大学） 石田明夫（会津若松市教育委員会） 手塚孝 菊地政信（米沢市教育委員会） 阿部明彦 伊藤邦弘 植松曉彦 須賀井明子（山形県埋蔵文化財センター） 國下多美樹（向日市埋蔵文化財センター） 小田桐淳 木村泰彦（長岡京市埋蔵文化財センター） 川越俊一 金田明大（奈良文化財研究所） 尾野善裕（京都国立博物館） 平尾政幸（京都市埋蔵文化財研究所） 吉川義彦（関西文化財調査会） 八木光則（盛岡市教育委員会） 田中広明（埼玉県埋蔵文化財調査事業団） 宮内庁正倉院事務所 国立歴史民俗博物館 笹神村教育委員会
- 9 今回収録した南東ブロックの成果については、以下の報告書で概要を述べているが、それらと本書とで見解が異なる場合は本書の記載内容が優先するものである。

「多賀城市文化財調査報告書第55集 市川橋遺跡-第23・24次発掘調査報告書-」（1999）
「多賀城市文化財調査報告書第59集 市川橋遺跡-城南土地区画整理事業に伴う発掘調査略報2-」（2000）
「多賀城市文化財調査報告書第64集 市川橋遺跡-城南土地区画整理事業に伴う発掘調査略報3-」（2001）
「多賀城市文化財調査報告書第67集 市川橋遺跡-城南土地区画整理事業に伴う発掘調査略報4-」（2002）
- 10 調査に関する諸記録および出土遺物はすべて多賀城市教育委員会が保管している。

目 次

序 文
例 言
目 次
挿図目次
表 目 次
写真図版目次

調査要項

調査体制

I	調査地の位置	1
1	方格地割の中の位置	1
2	周辺の調査成果	1
II	調査区の配置	2
III	調査経過	3
IV	西半部で発見した遺構	11
1	遺構分布状況	11
2	層 序	11
3	道路跡	16
4	掘立柱建物跡	18
5	柱列跡	30
6	豎穴住居跡	30
7	井戸跡	31
8	溝 跡	34
9	土 壁	43
10	河川跡	49
11	その他の遺構	52
V	東半部で発見した遺構	56
1	遺構分布状況	56
2	層 序	56
3	道路跡	61
4	橋 跡	67
5	掘立柱建物跡	68
6	柱列跡	88
7	豎穴住居跡	88
8	井戸跡	91

9	溝 跡	97
10	土 壤	101
11	河川跡	103
12	その他の遺構	103
VI	東端部で発見した遺構	104
1	遺構分布状況と層序	104
2	掘立柱建物跡	107
3	竪穴住居跡	107
4	溝 跡	107
5	土 壤	109
VII	出土遺物についての検討	110
1	土 器	110
2	木製品	128
3	金属製品	132
4	祭祀遺物	133
5	墨書・刻書土器	136
VIII	遺構の年代と変遷	158
1	遺構の年代	158
2	遺構の変遷	161
3	多賀城南東地区における方格地割の形成とその変遷	165
IX	ま と め	167
附章 第二六～二九次調査（C区）出土木簡について		

挿 図 目 次

第 1 図	域外の方格地割と調査地の位置	1	第 14 図	S B1466・1467・1468・1469柱穴断面図	29
第 2 図	調査区配置図	4	第 15 図	S A1203断面図	30
第 3 図	年度別調査区配置図	5	第 16 図	S I 1279断面図	30
第 4 図	西半部主要遺構位置図	12	第 17 図	S I 1280・1281断面図	31
第 5 図	西半部層序模式図・分布図	13~14	第 18 図	S E 1174・1217平面図・断面図	32
第 6 図	41区・23区断面図	15	第 19 図	S E 1285平面図・立面図・断面図	33
第 7 図	S X780断面図	17	第 20 図	S E 1332断面図	34
第 8 図	S B1171・1172・1173柱穴断面図	19	第 21 図	S D 1184・1185断面図	34
第 9 図	S B1228・1235・1236・1242柱穴断面図	21	第 22 図	S D 1240断面図	37
第 10 図	S B1381・1382柱穴断面図	23	第 23 図	S D 1287断面図	38
第 11 図	S B1395柱穴断面図	24	第 24 図	S D 1350断面図	39
第 12 図	S B1393A・1393B柱穴断面図	25	第 25 図	S D 1424断面図	40
第 13 図	S B1397・1380柱穴断面図	27	第 26 図	S D 1460断面図	41

第 27 図	S D1411断面図	42	第 70 図	畿内系土師器出土分布図	123
第 28 図	S K787断面図	46	第 71 図	C 区出土畿内系土師器	123
第 29 図	S K1342・1343断面図	46	第 72 図	青磁・灰釉陶器・綠釉陶器出土分布図	125
第 30 図	S K1366断面図	47	第 73 図	市川橋遺跡第4次調査出土曲物	129
第 31 図	S X1600断面図	50	第 74 図	挽物・曲物項目別グラフ	130
第 32 図	S X1351断面図	51	第 75 図	箇復元模式図	131
第 33 図	S X1200平面図・断面図	53	第 76 図	横笛計測値	132
第 34 図	東半部主要遺構位置図①	57	第 77 図	斎中の分類	134
第 35 図	東半部主要遺構位置図②	58	第 78 図	祭祀遺物出土分布図	135
第 36 図	東半部層序模式図	59~60	第 79 図	遺構変遷模式図①	162
第 37 図	116区断面図①	62	第 80 図	遺構変遷模式図②	163
第 38 図	116区断面図②	63	第 81 図	遺構変遷模式図③	164
第 39 図	S X1610側溝断面図①	64	第 82 図	18区遺構実測図①	169
第 40 図	S X1610側溝断面図②	65	第 83 図	18区遺構実測図②	170
第 41 図	S X1630橋脚立面図	67	第 84 図	18区遺構実測図③	171
第 42 図	S B1538A・1538B・1561柱穴断面図	69	第 85 図	41区遺構実測図①	172
第 43 図	S B1532・1533・1534柱穴断面図	71	第 86 図	41区遺構実測図②	173
第 44 図	S B1531・1539・1541・1546柱穴断面図	73	第 87 図	41区遺構実測図③	174
第 45 図	S B1562・1563B・1569柱穴断面図	75	第 88 図	41区遺構実測図④	175
第 46 図	S B1560柱穴断面図	77	第 89 図	41区遺構実測図⑤	176
第 47 図	S B1564柱穴断面図	78	第 90 図	41区遺構実測図⑥	177
第 48 図	S B1471・1472・1476柱穴断面図	82	第 91 図	23区遺構実測図	178
第 49 図	S B1473・1474・1475柱穴断面図	84	第 92 図	20区遺構実測図①	179
第 50 図	S B1477・1478・1480柱穴断面図	86	第 93 図	20区遺構実測図②	180
第 51 図	S B1484・1485柱穴断面図	87	第 94 図	20区遺構実測図③	181
第 52 図	S I 1488遺物出土状況	89	第 95 図	20区遺構実測図④	182
第 53 図	S I 1488平面図	90	第 96 図	20区遺構実測図⑤	183
第 54 図	S I 1479平面図	91	第 97 図	20区遺構実測図⑥	184
第 55 図	S E1545・1549平面図・断面図	92	第 98 図	68区遺構実測図①	185
第 56 図	S E1535平面図・立面図・断面図	94	第 99 図	68区遺構実測図②	186
第 57 図	S E1552平面図・立面図・断面図	95	第 100 国	69区遺構実測図①	187
第 58 国	S E1565平面図・立面図・断面図	96	第 101 国	69区遺構実測図②	188
第 59 国	S E1559平面図・立面図・断面図	97	第 102 国	69区遺構実測図③	189
第 60 国	東半部溝跡断面図	98	第 103 国	110区遺構実測図	190
第 61 国	S K1553・1554・1555・1557断面図	102	第 104 国	115区遺構実測図	191~192
第 62 国	東端部主要遺構位置図	105	第 105 国	115区 S X1630橋脚実測図	193
第 63 国	84区断面図	106	第 106 国	116区遺構実測図	194
第 64 国	S B1408柱穴、S K1409、S X1410断面図	108	第 107 国	78区遺構実測図①	195
第 65 国	主要遺構出土土器の組み合わせ	112	第 108 国	78区遺構実測図②	196
第 66 国	S X1351D出土土器図	114	第 109 国	78区遺構実測図③	197
第 67 国	主要遺構出土土器の器形分布図	115	第 110 国	78区遺構実測図④	198
第 68 国	主要遺構出土土器の組成	118	第 111 国	78区遺構実測図⑤	199
第 69 国	20区出土畿内系土師器高台付杯	121	第 112 国	78区遺構実測図⑥	200

第113図	78区遺構実測図(7).....	201
第114図	78区遺構実測図(8).....	202
第115図	79区遺構実測図(1).....	203
第116図	79区遺構実測図(2).....	204
第117図	79区遺構実測図(3).....	205
第118図	79区遺構実測図(4).....	206
第119図	70区遺構実測図.....	207
第120図	84区遺構実測図.....	208
第121図	112区遺構実測図	209
第122図	出土遺物実測図（土器1）.....	210
第123図	出土遺物実測図（土器2）.....	211
第124図	出土遺物実測図（土器3）.....	212
第125図	出土遺物実測図（土器4）.....	213
第126図	出土遺物実測図（土器5）.....	214
第127図	出土遺物実測図（土器6）.....	215
第128図	出土遺物実測図（土器7）.....	216
第129図	出土遺物実測図（土器8）.....	217
第130図	出土遺物実測図（土器9）.....	218
第131図	出土遺物実測図（土器10）.....	219
第132図	出土遺物実測図（土器11）.....	220
第133図	出土遺物実測図（土器12）.....	221
第134図	出土遺物実測図（土器13）.....	222
第135図	出土遺物実測図（土器14）.....	223
第136図	出土遺物実測図（土器15）.....	224
第137図	出土遺物実測図（土器16）.....	225
第138図	出土遺物実測図（土器17）.....	226
第139図	出土遺物実測図（土器18）.....	227
第140図	出土遺物実測図（土器19）.....	228
第141図	出土遺物実測図（土器20）.....	229
第142図	出土遺物実測図（土器21）.....	230
第143図	出土遺物実測図（土器22）.....	231
第144図	出土遺物実測図（土器23）.....	232
第145図	出土遺物実測図（土器24）.....	233
第146図	出土遺物実測図（土器25）.....	234
第147図	出土遺物実測図（土器26）.....	235
第148図	出土遺物実測図（土器27）.....	236
第149図	出土遺物実測図（土器28）.....	237
第150図	出土遺物実測図（土器29）.....	238
第151図	出土遺物実測図（土器30）.....	239
第152図	出土遺物実測図（土器31）.....	240
第153図	出土遺物実測図（土器32）.....	241
第154図	出土遺物実測図（土器33）.....	242
第155図	出土遺物実測図（土器34）.....	243
第156図	出土遺物実測図（土器35）.....	244
第157図	出土遺物実測図（土器36）.....	245
第158図	出土遺物実測図（土器37）.....	246
第159図	出土遺物実測図（土器38）.....	247
第160図	出土遺物実測図（土器39）.....	248
第161図	出土遺物実測図（土器40）.....	249
第162図	出土遺物実測図（土器41）.....	250
第163図	出土遺物実測図（土器42）.....	251
第164図	出土遺物実測図（土器43）.....	252
第165図	出土遺物実測図（土器44）.....	253
第166図	出土遺物実測図（土器45）.....	254
第167図	出土遺物実測図（土器46）.....	255
第168図	出土遺物実測図（土器47）.....	256
第169図	出土遺物実測図（土器48）.....	257
第170図	出土遺物実測図（土器49）.....	258
第171図	出土遺物実測図（土器50）.....	259
第172図	出土遺物実測図（土器51）.....	260
第173図	出土遺物実測図（土器52）.....	261
第174図	出土遺物実測図（土器53）.....	262
第175図	出土遺物実測図（土器54）.....	263
第176図	出土遺物実測図（土器55）.....	264
第177図	出土遺物実測図（土器56）.....	265
第178図	出土遺物実測図（土器57）.....	266
第179図	出土遺物実測図（土器58）.....	267
第180図	出土遺物実測図（土器59）.....	268
第181図	出土遺物実測図（土器60）.....	269
第182図	出土遺物実測図（土器61）.....	270
第183図	出土遺物実測図（土器62）.....	271
第184図	出土遺物実測図（土器63）.....	272
第185図	出土遺物実測図（土器64）.....	273
第186図	出土遺物実測図（土器65）.....	274
第187図	出土遺物実測図（土器66）.....	275
第188図	出土遺物実測図（土器67）.....	276
第189図	出土遺物実測図（土器68）.....	277
第190図	出土遺物実測図（土器69）.....	278
第191図	出土遺物実測図（土器70）.....	279
第192図	出土遺物実測図（土器71）.....	280
第193図	出土遺物実測図（土器72）.....	281
第194図	出土遺物実測図（土器73）.....	282
第195図	出土遺物実測図（土器74）.....	283
第196図	出土遺物実測図（土器75）.....	284
第197図	出土遺物実測図（土器76）.....	285
第198図	出土遺物実測図（土器77）.....	286

第199図	出土遺物実測図（土器78）	287	第240図	出土遺物実測図（木製品11）	328
第200図	出土遺物実測図（土器79）	288	第241図	出土遺物実測図（木製品12）	329
第201図	出土遺物実測図（土器80）	289	第242図	出土遺物実測図（木製品13）	330
第202図	出土遺物実測図（土器81）	290	第243図	出土遺物実測図（木製品14）	331
第203図	出土遺物実測図（土器82）	291	第244図	出土遺物実測図（木製品15）	332
第204図	出土遺物実測図（土器83）	292	第245図	出土遺物実測図（木製品16）	333
第205図	出土遺物実測図（土器84）	293	第246図	出土遺物実測図（木製品17）	334
第206図	出土遺物実測図（土器85）	294	第247図	出土遺物実測図（木製品18）	335
第207図	出土遺物実測図（土器86）	295	第248図	出土遺物実測図（木製品19）	336
第208図	出土遺物実測図（土器87）	296	第249図	出土遺物実測図（木製品20）	337
第209図	出土遺物実測図（土器88）	297	第250図	出土遺物実測図（木製品21）	338
第210図	出土遺物実測図（土器89）	298	第251図	出土遺物実測図（木製品22）	339
第211図	出土遺物実測図（土器90）	299	第252図	出土遺物実測図（木製品23）	340
第212図	出土遺物実測図（土器91）	300	第253図	出土遺物実測図（木製品24）	341
第213図	出土遺物実測図（土器92）	301	第254図	出土遺物実測図（木製品25）	342
第214図	出土遺物実測図（土器93）	302	第255図	出土遺物実測図（木製品26）	343
第215図	出土遺物実測図（土器94）	303	第256図	出土遺物実測図（木製品27）	344
第216図	出土遺物実測図（土器95）	304	第257図	出土遺物実測図（木製品28）	345
第217図	出土遺物実測図（土器96）	305	第258図	出土遺物実測図（木製品29）	346
第218図	出土遺物実測図（土器97）	306	第259図	出土遺物実測図（木製品30）	347
第219図	出土遺物実測図（土器98）	307	第260図	出土遺物実測図（木製品31）	348
第220図	出土遺物実測図（土器99）	308	第261図	出土遺物実測図（木製品32）	349
第221図	出土遺物実測図（土器100）	309	第262図	出土遺物実測図（木製品33）	350
第222図	出土遺物実測図（土器101）	310	第263図	出土遺物実測図（木製品34）	351
第223図	出土遺物実測図（土器102）	311	第264図	出土遺物実測図（木製品35）	352
第224図	出土遺物実測図（土器103）	312	第265図	出土遺物実測図（木製品36）	353
第225図	出土遺物実測図（土器104）	313	第266図	出土遺物実測図（木製品37）	354
第226図	出土遺物実測図（土器105）	314	第267図	出土遺物実測図（木製品38）	355
第227図	出土遺物実測図（土器106）	315	第268図	出土遺物実測図（木製品39）	356
第228図	出土遺物実測図（土器107）	316	第269図	出土遺物実測図（木製品40）	357
第229図	出土遺物実測図（土器108）	317	第270図	出土遺物実測図（木製品41）	358
第230図	出土遺物実測図（木製品1）	318	第271図	出土遺物実測図（木製品42）	359
第231図	出土遺物実測図（木製品2）	319	第272図	出土遺物実測図（木製品43）	360
第232図	出土遺物実測図（木製品3）	320	第273図	出土遺物実測図（木製品44）	361
第233図	出土遺物実測図（木製品4）	321	第274図	出土遺物実測図（木製品45）	362
第234図	出土遺物実測図（木製品5）	322	第275図	出土遺物実測図（木製品46）	363
第235図	出土遺物実測図（木製品6）	323	第276図	出土遺物実測図（木製品47）	364
第236図	出土遺物実測図（木製品7）	324	第277図	出土遺物実測図（金属製品1）	365
第237図	出土遺物実測図（木製品8）	325	第278図	出土遺物実測図（金属製品2）	366
第238図	出土遺物実測図（木製品9）	326	第279図	出土遺物実測図（金属製品3）	367
第239図	出土遺物実測図（木製品10）	327			

表 目 次

表1 C区調査面積一覧表.....	3	表31 出土遺物観察表(1)	369
表2 主要遺構出土遺物集計表	118	表32 出土遺物観察表(2)	370
表3 墓内系土師器と都城出土土器の比較	121	表33 出土遺物観察表(3)	371
表4 墓内系土師器一覧表	122	表34 出土遺物観察表(4)	372
表5 青磁・灰釉陶器・縁袖陶器一覧表	124	表35 出土遺物観察表(5)	373
表6 龍形土器一覧表	126	表36 出土遺物観察表(6)	374
表7 龍形土器・製塙土器一覧表	127	表37 出土遺物観察表(7)	375
表8 製塙土器一覧表	128	表38 出土遺物観察表(8)	376
表9 墨書・刻書土器器種別集計表	138	表39 出土遺物観察表(9)	377
表10 墨書・刻書土器一覧表(1)	139	表40 出土遺物観察表(10)	378
表11 墨書・刻書土器一覧表(2)	140	表41 出土遺物観察表(11)	379
表12 墨書・刻書土器一覧表(3)	141	表42 出土遺物観察表(12)	380
表13 墨書・刻書土器一覧表(4)	142	表43 出土遺物観察表(13)	381
表14 墨書・刻書土器一覧表(5)	143	表44 出土遺物観察表(14)	382
表15 墨書・刻書土器一覧表(6)	144	表45 出土遺物観察表(15)	383
表16 墨書・刻書土器一覧表(7)	145	表46 出土遺物観察表(16)	384
表17 墨書・刻書土器一覧表(8)	146	表47 出土遺物観察表(17)	385
表18 墨書・刻書土器一覧表(9)	147	表48 出土遺物観察表(18)	386
表19 墨書・刻書土器一覧表(10)	148	表49 出土遺物観察表(19)	387
表20 墨書・刻書土器一覧表(11)	149	表50 出土遺物観察表(20)	388
表21 墨書・刻書土器一覧表(12)	150	表51 出土遺物観察表(21)	389
表22 墨書・刻書土器一覧表(13)	151	表52 出土遺物観察表(22)	390
表23 墨書・刻書土器一覧表(14)	152	表53 出土遺物観察表(23)	391
表24 墨書・刻書土器一覧表(15)	153	表54 出土遺物観察表(24)	392
表25 墨書・刻書土器一覧表(16)	154	表55 出土遺物観察表(25)	393
表26 墨書・刻書土器一覧表(17)	155	表56 出土遺物観察表(26)	394
表27 墨書・刻書土器一覧表(18)	156	表57 出土遺物観察表(27)	395
表28 墨書・刻書土器一覧表(19)	157	表58 出土遺物観察表(28)	396
表29 S X1610・780・1607の変遷と相互の関係	165	表59 出土遺物観察表(29)	397
表30 S X1610・780・1607の規模・方向一覧表	166	表60 出土遺物観察表(30)	398

写真図版目次

図版1 特別史跡多賀城跡と市川橋遺跡	4 20区S D1291
図版2 C区調査区全景	5 41区S K1223駄馬出土状況
図版3 20・68・69区全景	6 20区S K1343漆紙文書出土状況
図版4 18・23・41区全景	図版20 1 20区S K787製塙土器出土状況
図版5 78区北半部	2 20区S K1343製塙土器出土状況
図版6 1 79区全景	3 20区S K1342
2 84区北半部	4 41区S X1227挽物高台付皿出土状況
図版7 115・116区全景	5 18区S X1200半截状況
図版8 1 115・116区遠景	図版21 1 79区調査区全景
2 115・116区遠景	2 79区調査区全景
図版9 1 18区調査区全景	図版22 1 71区調査区全景
2 18区調査区全景	2 70区調査区全景
図版10 1 41区調査区全景	図版23 1 115区S X1610東西大路東道路
2 23区調査区全景	2 115区S X1610東西大路東道路南側溝杭列出 土状況
図版11 1 69区調査区全景	3 115区S X1610東西大路東道路遺物出土状況 左:横笛 右:花形漆塗製品
2 110区調査区全景	図版24 1 115区S X1630橋
図版12 1 18区S X780東2道路検出状況	2 115区S X1630橋構築状況
2 18区S X780東2道路完削状況	3 78区S X1607東3道路
図版13 1 18区S B1171・1180	図版25 1 78区S B1531・1546
2 41区S B1236	2 78区S B1532・1533・1534
3 69区S B1466・1467・1468	3 78区S B1539
図版14 1 69区S B1466南妻棟通り柱穴半截状況	図版26 1 78区S B1541
2 69区S B1469	2 78区S B1537・1538
3 20区S B1393・1395	3 78区S B1561
図版15 1 20区S B1393・1395	図版27 1 78区S B1560
2 20区S B1381	2 78区S B1560柱穴半截状況 左:西北隅柱穴 右:南東隅柱穴
3 20区S B1382	3 78区S B1562
図版16 1 68区S B1396・1397	図版28 1 78区S B1563・1564
2 68区S B1380	2 79区S B1471
3 68区S B1380北妻棟通り柱穴半截状況	3 79区S B1471・1472・1476
図版17 1 20区S I 1280・1281豎穴住居	図版29 1 79区S B1472
2 18区S E1174	2 79区S B1477・1478・1480
3 18区S E1174底面荒出土状況	3 79区S B1473・1474・1475
4 20区S E1285	図版30 1 79区S I 1488
5 41区S E1217	2 79区S I 1488遺物出土状況
図版18 1 20区S X1351検出状況	3 79区S I 1488遺物出土状況
2 20区S X1351	図版31 1 78区S E1535検出状況
図版19 1 69区S D1411	
2 18区S D1185遺物出土状況	
3 20区S D1350	

- 2 78区 S E 1535
3 78区 S E 1549
4 78区 S E 1545
5 78区 S E 1565
6 78区 S E 1552
図版32 1 78区 S D 1522
2 78区 S D 1522木製品出土状況
図版33 1 116区 S K 1622漆紙出土状況
2 84区 S B 1408
図版34 1 84区全景
2 78区南半部
図版35 S X1351A・B・C出土土器
図版36 S X1351C出土土器
図版37 S X1351C出土土器
図版38 S X1351C出土土器
図版39 S X1351C出土土器
図版40 S X1351C・D出土土器
図版41 S X1351D、S K1343出土遺物
図版42 西半部造構外出土遺物
図版43 S X1351、S D 1377、西半部造構外出出土遺物
図版44 鎏型
図版45 西半部出土人面墨書き土器 1
図版46 西半部出土人面墨書き土器 2
図版47 西半部出土墨書き土器 1
図版48 西半部出土墨書き土器 2
図版49 西半部出土墨書き土器 3
図版50 西半部出土墨書き土器 4
図版51 西半部出土墨書き土器 5
図版52 西半部出土墨書き土器 6
図版53 S I 1488出土土器
図版54 S I 1488、S D 1515出土土器
図版55 S D 1515・1522・1501、S X1524出土土器
図版56 S D 1536・1502、S K 1571、造構外出土遺物
図版57 東半部出土墨書き土器 1
図版58 東半部出土墨書き土器 2
図版59 東半部出土墨書き土器 3
図版60 東半部出土墨書き土器 4
図版61 東半部出土墨書き土器 5
図版62 東半部出土墨書き土器 6
図版63 円面硯・風字硯
図版64 灰釉陶器 1
図版65 灰釉陶器 2
図版66 青磁・綠釉陶器・製塙土器
図版67 灰釉陶器・畿内系土器
図版68 畿内系土器・土鍤
図版69 木製品 1 (挽物)
図版70 木製品 2 (挽物)
図版71 木製品 3 (挽物)
図版72 木製品 4 (挽物)
図版73 木製品 5 (挽物)
図版74 木製品 6 (挽物)
図版75 木製品 7 (挽物)
図版76 木製品 8 (挽物)
図版77 木製品 9 (曲物)
図版78 木製品 10 (曲物)
図版79 木製品 11 (曲物・指物)
図版80 木製品 12 (形代)
図版81 木製品 13 (斎串)
図版82 木製品 14 (斎串)
図版83 木製品 15 (駄馬・横笛・花形漆塗製品)
図版84 木製品 16 (下駄)
図版85 木製品 17 (ヘラ状木製品・鎌柄・火鑓白・鍔はか)
図版86 木製品 18 (鍔)
図版87 木製品 19 (櫛・櫛屑・刀子柄・紡錘車ほか)
図版88 木製品 20 (曲物把手)
図版89 木製品 21 (箋・不明品)
図版90 金属製品

調査要項

- 1 遺跡名 市川橋遺跡（宮城県遺跡登録番号 18008）
- 2 所在地 多賀城市高崎字水入・丸山・高崎二丁目地内
- 3 調査期間 (1) 平成11年度 4月14日～1月31日
(2) 平成12年度 4月3日～8月31日
(3) 平成13年度 10月2日～12月3日
(4) 平成14年度 7月29日～10月29日
- 4 調査面積 (1) 平成11年度 5,374m²
(2) 平成12年度 9,144m²
(3) 平成13年度 667m²
(4) 平成14年度 1,656m²
合計 16,841m²
- 5 調査主体 多賀城市教育委員会 教育長 櫻井茂男
- 6 調査担当 多賀城市埋蔵文化財調査センター

調査体制

平成11年度（第26次調査）

所長 長田 幹

調査員 石川俊英* 千葉孝弥 相澤清利* 鈴木孝行 武田健市* 高橋圭藏 斎藤 稔 車田 敦*
堀口和代 菊池 豊* 佐藤恵子* 文屋 亮* 相澤正信*

平成12年度（第27次調査）

所長 長田 幹

調査員 石川俊英* 千葉孝弥 相澤清利 鈴木孝行 武田健市* 高橋圭藏 斎藤 稔 車田 敦
菊池 豊 佐藤恵子* 文屋 亮* 相澤正信* 若松啓文*

平成13年度（第28次調査）

所長 高倉敏明

調査員 千葉孝弥 石本 敏 相澤清利 鈴木孝行* 高橋圭藏 斎藤 稔 車田 敦 菊池 豊
佐藤恵子 文屋 亮 相澤正信 若松啓文 生田和宏

平成14年度（第29次調査）

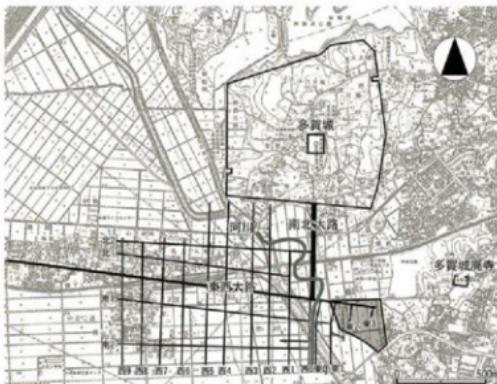
所長 高倉敏明

調査員 千葉孝弥* 島田 敏* 鈴木孝行* 斎藤 稔 菊池 豊* 佐藤恵子* 文屋 亮* 相澤正信
(* C区担当調査員)

I 調査地の位置

1 方格地割の中の位置

今回の調査対象地区は、城外の幹線道路である南北大路・東西大路の交差点から東側130~400mの地点に位置している。調査地区には東西大路の延長線上にある東西大路東道路(注1)と東2・東3南北道路があり、それらによる区画(注2)は西より「南1・東2区」、「南1・東3区」と、その東側に隣接する「方格地割外の地区」となる。方格地割が施工された多賀城南面の「まち並み」の中では最も東側に位置している(第1図)。



第1図 城外の方格地割と調査地の位置

2 周辺の調査成果

調査区周辺においては、宮城県教育委員会・多賀城市教育委員会によってこれまで7回の発掘調査が実施されており、それぞれ貴重な成果が挙げられている。以下、周辺の調査成果について概要を示すと次のとおりである。

水入遺跡(昭和54年度) : C区北西隅の調査。掘立柱建物、井戸、区画溝等9世紀代を中心とする遺構が発見され、10世紀にも及んでいることが確認された。掘立柱建物によって構成されるという点が一般集落との相違点として注目され、多賀城に関わる特殊な地区と考えられた。

第4次調査(昭和58年度) : C区北部の調査。東西方向の溝が4条発見され、多量の土器・木製品が出土した。建物等は発見されなかつたが、周辺に居住域の存在を想定した(これらの溝跡は後に東西大路東道路の側溝と判明)。

第6次調査(昭和61年度) : 第4次調査区北側の調査。中世以降の溝等を発見したのみで、古代の遺構は発見されなかつた。

(注1) 東西大路東道路とは、南北大路・東西大路交差点の東側における東西大路の延長線上にある東西道路をさす。詳細は後述するが東西大路と区別するために取て付した名称である。

(注2) 南北大路・東西大路交差点の南東部においては南辺と東辺の区画道路名を以って区画名とする(宮城県教育委員会「山王遺跡Ⅱ・多賀前地区遺構調査報告書」第167集 1995)

第8次調査（平成元年度）：第4次調査区南東部の調査。調査区東半部では整地層上面で小規模な掘立柱建物があり、その南側では多賀城南辺築地と同方向の東西溝を1条発見した。東西溝は東西大路の延長線上に位置することから、その南側溝の可能性が考えられた。しかし、調査区途中で止まっているなど、不明な点が多く残された。

立会い調査（平成5年度）：C区を東西に分ける雨水幹線改修工事に係る調査。遺構は発見できなかった。

第17次調査（平成5年度）：雨水幹線改修工事に係る調査。狭い範囲ながら東西大路の延長線上で側溝を確認し、第4次調査区の東西溝が東西大路（東西大路東道路）側溝であることを確認した。

第23次調査（平成9年度）：多賀城南面の城南地区を対象とした大規模な確認調査。C区においては8箇所のトレンチを設定し、遺構分布と旧地形のあり方を調査した。その結果、東2道路を発見し、東側丘陵部との間には広い沼状の低湿地の存在が考えられた。

なお、既調査成果の中には、C区の調査によって再確認されたものもあるが再検討の対象となったものがある。本文中で検討を加えたい。



第23次調査航空写真

II 調査区の配置

C区は造成計画から①住宅用地、②商業用地、③都市計画道路一清水沢・多賀城線一用地の3地区に区分され、調査区の設定もそれらに規制されたまとまりとなっている（第2図）。

①の地区では住宅内道路を対象としたため各調査区が連続して□状を呈することになった。その北辺西半分が69区、東半分が18区であり、東辺は41区、西辺は20区、南辺が23区である。20区ほぼ中央から西に

突き出で68区がある。南端部には幹線道路予定地に110区を設定した。

②の地区はC区を南北に貫く用水路を隔てて①の東側に位置する。大規模な商業店舗建設予定地を対象とし、さらに駐車場部分についても確認調査区を設定したため、平面的に広範囲に及ぶ調査区となった。北側から79区、115・116区、78区が接している。南端部には幹線道路予定地に70・71・72区を設定した。

③の地区については、丘陵部と低湿地からなる。丘陵部は丸山団古墳群の一部とされており、古墳を想定したトレンチを設定した。低湿地部分については、遺構分布密度が低いと予想されることから、小トレンチを設定して状況を確認し、遺構が存在しないと判断できる部分は調査の対象から除外した。

以下、発見した遺構・遺物について記載するにあたり、煩雑にならないよう①の地区を「西半部」、②の地区を「東半部」、③の地区を「東端部」として分けて記載する。これらはそれぞれ層序の関係も把握しやすく、遺構のまとまりも認められることから、造成計画による区分ではあるが敢えて踏襲した。

調査区	面積	調査区	面積	調査区	面積
18区	315m ²	71区	98m ²	78区	9525m ²
20区	927m ²	72区	108m ²	79区	1230m ²
23区	568m ²	73区	10m ²	84区	765m ²
41区	268m ²	74区	80m ²	110区	437m ²
68区	126m ²	75区	14m ²	112区	230m ²
69区	260m ²	76区	17m ²	115区	1150m ²
70区	180m ²	77区	27m ²	116区	506m ²

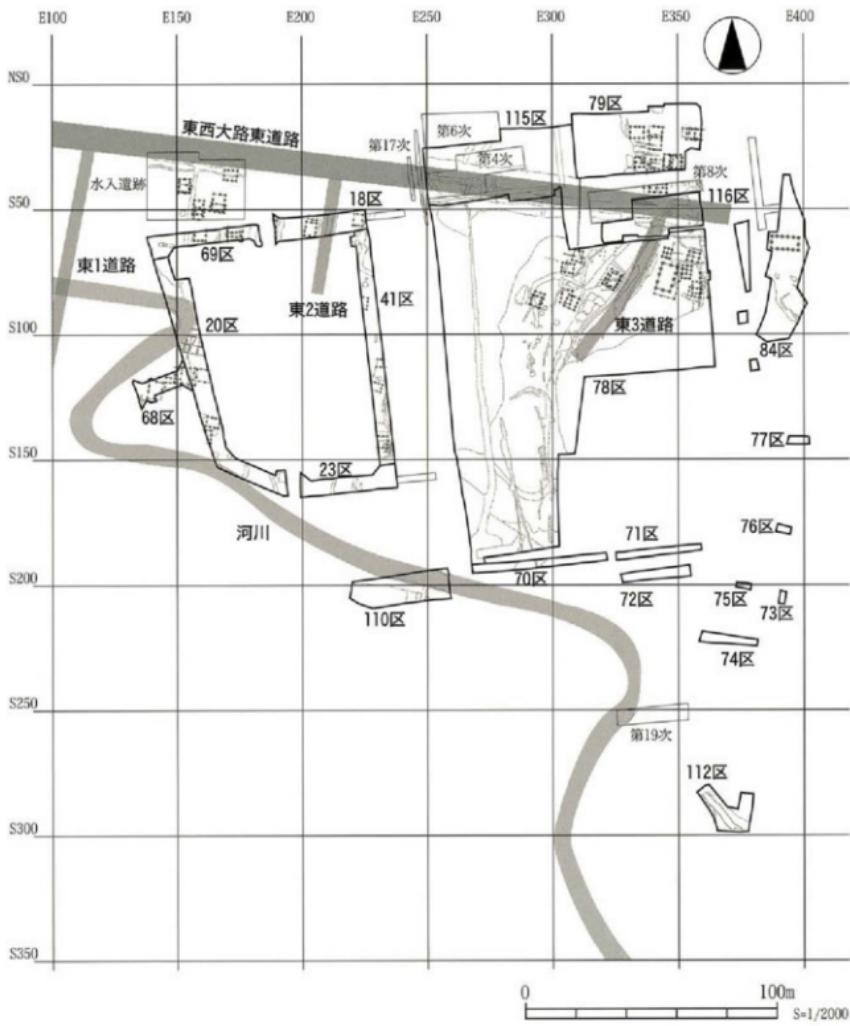
表1 C区調査面積一覧表

III 調査経過

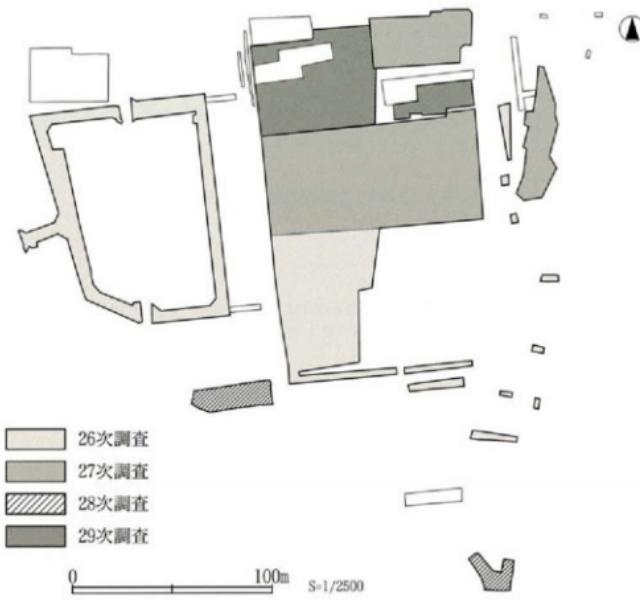
C区（南東ブロック）については、平成11年度から14年度にかけて4ヶ年にわたりて発掘調査を実施した。各調査の概要と経過については以下のとおりである。

第26次調査（平成11年度）

「西半部」全体と「東半部」南側の調査を行った。西半部の18区では第23次調査で発見した東2道路を調査し、その周辺で掘立柱建物や井戸を発見した。69区では水入遺跡調査地区で発見した南北溝の延長部分を検出し、南1・東2区を東西に二分するものであることが判明した。東半部では78区、さらにその南東の区画街路及び幹線道路建設地に70~77区を設定した。78区では南北溝S D1522から多量の木製品が出土したが、70~77区では遺構が希薄であった。年末から20区北半部の調査に着手した。これまで未確認であった旧河川の存在を確認し、翌年までかかって掘り上げた。「延暦9年」の木簡とともにロクロ調整された土師器が多量に出土し、多賀城周辺におけるロクロ土師器出現時期を示す良好な資料となった。年度末、第27次調査に先立って「東端部」周辺の試掘を行い、丸山団古墳群とされていたものの1基は土取り等後世の改変による残丘と判明した。その北側や西側の低湿地部分でも遺構は発見されなかった。



第2図 調査区配置図



第3図 年度別調査区配置図

18区

- 4.13 重機による表土除去 (~15日)。
 6.2 調査着手。調査区南壁等で土層堆積状況を検討する。
 6.12 東側から遺構検出作業を行う。
 6.25 東2道路 (S X780) を検出し、東側溝と西側溝のそれぞれの時期変遷を検討する。また、この西側で S B1171 を検出する。
 7.8 遺構検出状況の写真撮影を行う。
 7.12 東2道路、S B1171を中心で遺構の精査を行う (~8.30)
 9.3 東2道路の一番古い時期の側溝埋土を掘り上げ、写真撮影を行う。
 9.13 8月末から行っていた小柱穴の精査、図面作成等の一連の作業の終了をもって、調査区全体の作業を終了する。

20区

- 4.15 重機による表土除去 (~19日)。
 6.8 調査着手。調査区西壁等で土層堆積状況を検討する。また、遺構検出作業も開始する。
 6.11 南東端で堅穴住居跡 (S I 1281) を検出する。調査区北側を拡張し、検出状況の写真撮影を行う。
 6.22 縮尺 1/100 で検出遺構の平面図作成を行う (~25日)。
 7.5 遺構の精査を開始する。また、縮尺 1/20 の平面図作成も開始する。
 8.25 南東部において、S I 1281 の調査を開始する。併行して井戸跡 (S E 1285)、小溝群等の調査も行う (~11.5)。
 10.18 調査区中央の68柱との接続部付近で遺構検出作業を行う。多数の柱穴を検出し、S B1393・I395を確認する。
 11.4 北部において小溝群を検出し、埋土除去作業を行う。また、順次実測図作成も行う (~10日)。
 12.10 航空写真撮影を行う。

- 12.13 調査区東壁と西壁を清掃し、土層堆積状況の写真撮影と断面図作成を行う。
1.14 北半部で検出した大規模な河川跡（S X1351）の堆積土の掘り下げを行う。墨書き器、木製品、祭祀遺物が多数出土する。
1.31 調査終了。

23区

- 4.15 重機による表土除去。
4.19 調査区西壁沿いに排水溝を掘り、合わせて土層堆積状況の検討を行う（～28日）。
5.10 西側から遺構検出作業を行う（～14日）。
(調査一時中断)
7.22 調査再開。小柱穴、溝跡等を検出する。
7.27 調査区全景と土層堆積状況の写真撮影を行う。
7.28 調査区北壁、南壁、西壁の土層堆積状況の断面図作成を行なう。また、平面図作成も開始する。
8.4 溝跡（S D1276・1277）をはじめ、各遺構の埋土を掘り下げる。
8.30 調査終了。

41区

- 4.13 重機による表土除去。
4.14 調査区東壁と西壁沿いに排水溝を掘り、合わせて土層堆積状況の検討を行う（～27日）。
4.28 北側から遺構検出作業を行う。
5.13 遺構検出状況の全景写真撮影を行った後、南側から遺構埋土の掘り下げを行う。
5.26 縮尺1/20で平面図作成を開始する。北側で検出したS D1219の調査を行う。
6.2 南半部において、溝跡や柱穴の調査を行う。
6.11 北端部において、土壠等の埋土の掘り下げを行う。
7.22 S E1217の井戸側を検出する。段階的に平面図を作成しながら埋土を掘り下げる。
8.12 航空写真撮影を行う。
8.30 S E1217の埋土を掘り上げて、調査を終了する。

68区

- 4.15 重機による表土除去。
10.20 調査着手。遺構検出作業を行い、多数の柱穴を検出する。
10.29 各柱穴の重複関係の検討と柱痕跡の確認を行う。また、西半部において比較的大型の建物跡S B1380を検出する。
12.10 航空写真撮影を行う。
12.15 調査区の拭摸を行い、S B1380の北西隅柱穴と南側柱列の一部を確認し、全容をほぼ明らかにする。
1.24 検出した3棟の掘立柱建物跡（S B1393・1396・1397）の写真撮影を行う。
1.31 S B1380と重複し、それより古い時期の遺構の完掘作業、実測図作成、写真撮影をもって、調査を終了する。

69区

- 4.13 重機による表土除去。
7.23 調査着手。調査区内の粗削り作業と壁沿いに側溝を掘削する。
8.5 遺構検出作業を行う。調査区のほぼ全域で溝跡、土壠、柱穴を多数検出する（～9.9）。
9.16 全面精査後、遺構検出状況の全景写真撮影を行う。
9.27 西側から溝跡を中心に各遺構の調査を行う。その後、順次実測図の作成を行う（～11.9）。
10.12 東半部において小溝群を検出し、埋土の掘り下げを行う。
11.15 西半部において、重複する南北溝跡を確認する（S D1460）。
12.1 調査区東半部で3棟の掘立柱建物跡（S B1466～1468）を検出する。写真撮影の後、柱穴の裁割り等を行う。
12.9 中央部でS B1469を検出する。
12.10 航空写真撮影を行う。

- 12.18 S D1460、S B1466～1469の平面図、断面図作成を終了する。
12.21 調査区南壁・東壁等の土層堆積状況を確認し、写真撮影、断面図作成を行う。
1.17 土層断面図の補足を行い、調査を終了する。

70区

- 4.23 重機による表土除去。
5.20 遺構検出作業を行い、溝跡、土壤等を検出する。
5.24 各遺構の調査をほぼ終了し、調査区内の写真撮影を行う。
5.26 調査区北壁と南壁を精査し、土層堆積状況を検討した後、断面図作成を行う（～6.3）。また、縮尺1/20で平面図作成も行う。
6.8 調査終了。

71区

- 4.23 重機による表土除去。
5.11 遺構検出作業を行う。大部分が低湿地にあたるため遺構は検出されなかった。
5.20 北壁の土層堆積状況の断面図作成を行う。
5.25 北壁断面図の修正を行い、調査を終了する。

72区

- 4.20 重機による表土除去。
4.22 低湿地のため遺構は検出されなかった。調査区の位置を測量して調査を終了する。

73～77区

- 9.20 重機による表土除去。低湿地のため遺構は検出されなかった。各調査区の位置を測量して、調査を終了する。

78区

- 9.20 北側から重機による表土除去を行う。これと併行して、調査区内の粗削り、遺構検出作業を行う（～10.27）。また、調査区東端には低湿地が広がることを確認した。
10.6 S D1523・1525等の溝跡を検出し、埋土除去作業を開始する。
10.27 調査区の西側を南北に縦断するS D1522を検出し、埋土の掘り下げを行う。墨書き器、木製品、祭祀遺物が多数出土する。
11.9 S D1522が調査区南端を東西に延びる河川跡とつながることを確認する。
11.24 調査区南半部において、遺構検出作業を行い、溝跡等を検出する（～12.2）。
12.12 南半部検出の各溝跡の調査を行い、順次写真撮影、平面図作成を行う。
12.24 調査終了。

第27次調査（平成12年度）

「東半部」北側と「東端部」の調査を行った。平成9年度の確認調査結果から、78区では広い低湿地の存在を想定していたが、遺構面が予想以上の広がりを見せた。この結果、調査面積が当初の予定をはるかに超え、以後のスケジュールに大きく影響を及ぼした。東3道路の発見によって、この地区まで方格地割が施工されていたことが判明した。調査区北端部においては東西大路の南側溝を検出したが、その延長線上にある84区では5間の東西棟を発見し、大路は丘陵部まで延びていないと考えられるに至った。79区では焼失した堅穴住居をはじめ、数棟の掘立柱建物を発見したがここでも大路は検出できなかった。東西大路

の行方についてはC区北半部の調査において何らかの結論が得られると考えられるが、現時点では既存住宅の移転が完了しておらず、東西大路の本格的な調査は次年度以降に持ち越されることとなった。

78区

- 4.3 北側拡張区において、重機による表土除去を行う。
- 4.14 道構検出作業を行う。調査区北端において東西大路東道路（S X1610）の南側溝を検出す。その後、時期の変遷を検討する。
- 4.18 平成11年度において調査した S D1522 の北側部分を検出し、埋土の掘り下げを行う。また、この溝跡が東西大路東道路（S X1610）の南側溝（S D1616）と接続することを確認する。
- 4.19 多くの建物跡が存在することを確認していた調査区東半部を再度精査し、S B1539の検出状況を写真撮影する。
- 4.24 S B1531～1534・1537・1538周辺を精査し、それぞれの検出状況を写真撮影する。その後、各建物跡の調査を開始する。
- 4.26 調査区東半部において、南北方向に斜行する S D1502・1505を検出す。その後の調査で、この溝跡が東3道路（S X1603）の側溝にあたることが判明する。また、溝跡（S D1504～1508）や井戸跡（S E1535・1545・1549・1552・1559・1565）等を検出し、埋土の掘り下げを行う
- 5.18 調査区東側において、東側と南側に扉が付く大型の南北複数建物跡（S B1560）を検出す。また、東西大路東道路の南側溝のうち、灰白色火山灰降下以前のものの調査を行う。
- 5.25 S B1560の検討を行い、建て替えがないことを確認する。
- 6.8 航空写真撮影を行う。
- 7.7 S B1560を完掘し、平面図作成を行う。
- 7.11 東3道路（S X1603）の両側溝の変遷を再検討する。
- 7.12 2回目の航空写真撮影を行う。
- 7.24 東西大路東道路の両側溝及び、これと接続する S D1522の平面図補足・修正を行う。
- 7.31 調査区東半部検出の柱穴埋土を掘り下げ、実測図作成をもって、調査を終了する。

79区

- 5.29 道構検出作業を行う。調査区中央部から南側にかけて 6棟の掘立柱建物跡を検出す（～6.7）。
- 6.19 S B1471・1472の検出状況を写真撮影する。
- 6.22 S B1473～1476の検出状況を写真撮影する。その後順次写真撮影、実測図作成を行う。
- 6.29 調査区を拡張して、西側が低湿地として落ち込むことを確認する。
- 6.30 北端部において、S I 1479を検出す。
- 7.13 S B1471～1476を完掘し、平面図を作成する。
- 7.19 航空写真撮影を行う。
- 8.1 調査区西壁の土層堆積状況を写真撮影し、断面図作成を行う。
- 8.7 調査区東側で S B1484・1485を検出す。また、中央部で検出した小溝群の埋土の掘り下げを行う。
- 8.10 調査区南壁の土層堆積状況を写真撮影し、断面図作成を行う。
- 8.23 S B1484・1485と重複し、それより古い時期の S I 1488を検出し、埋土を掘り下げる。
- 8.31 S I 1488の完掘状況写真撮影、平面図作成をもって、調査を終了する。

84区

- 3.30 重機による表土除去。
- 4.10 道構検出作業を行う。調査区中央部で大型の建物跡（S B1408）を検出す。
- 4.14 調査区全体の道構検出状況を写真撮影する。
- 5.11 S B1408の各柱穴の埋土を掘り下げ、順次写真撮影、実測図作成を行う。
- 5.22 調査区西壁の土層堆積状況を写真撮影し、断面図を作成する。
- 5.31 調査区南端部を精査し、南側が低湿地として落ち込むことを確認する。
- 6.8 航空写真撮影を行う。
- 6.12 S B1408の西側を拡張し、西側柱列を確認する。この結果、S B1408は東西5間、南北2間の東西棟建物跡で

あることが判明する。

- 6.17 S B1408西側柱列の各柱穴埋土をすべて掘り上げ、実測図作成をもって、調査を終了する。

第28次調査（平成13年度）

「西半部」110区と「東端部」112区の調査を行った。110区では東西方向の河川を発見した。第26次調査で検出したものと一連と考えられ、木簡・漆紙文書をはじめ多くの木製品が出土した。112区は丘陵部に近く、竪穴住居などを発見した。

110区

10. 2 重機による表土除去。
10. 5 河川跡（S X1600）を検出し、埋土の除去に着手する。
11. 14 河川跡と重複し、それより古い時期の南北溝であるSD1602の埋土を掘り下げる。
11. 15 河川の堰跡の検出作業を行う。木簡や木製品及び人面墨書き土器が出土する。
12. 3 河川跡の残りをすべて掘り上げ、調査を終了する。

112区

11. 5 重機による表土除去。
11. 6 遺構検出作業を行い、竪穴住居跡、溝跡を検出する。また、北側は低湿地となり、岩盤が落ち込むことを確認する。
11. 8 S I 1605の精査を行う。また、調査区東壁の土層堆積状況の断面図作成を行う。
11. 14 S I 1605の平面図作成を終了する。調査終了。

第29次調査（平成14年度）

「東半部」北部における既存住宅の撤去が完了し、未調査区の調査に着手した。115区では東西大路を平面的に検出したが、これまで検出していた大路とは異なる要素が注目された。その続きは116区においても検出したが、整地して路面を嵩上げし、丘陵部に続く状況が見られたことから、第8次調査や第27次調査84区の成果との整合性に問題が生じた。

115区

7. 25 重機による表土除去。
7. 29 第4次調査区（昭和58年度実施）との重複部分において、埋土の除去を行う。
8. 2 遺構検出作業を行う。調査区東側において、東西大路東道路（S X1610）の北側溝を検出する。
8. 29 調査区西半部における、東西大路東道路の平面図作成を終了する。併行して、東半部において北側溝の埋土の掘り下げを行う。この時点で3時期の変遷を確認する。
9. 10 平成12年度調査において検出していた東西大路東道路の南側溝において、灰白色火山灰降下期側溝の埋土の掘り下げを行う。
9. 19 東西大路東道路の両側溝及び路面範囲の平面図作成を行う。
9. 25 調査区中央付近において、東西大路東道路の路面を横断し、両側溝と接続するSD1631の埋土の掘り下げを行う。丸太材や多数の杭等が打ち込まれており、この箇所に小規模な橋（S X1630）が架けられていたことを確認する。
10. 4 東西大路東道路の南側溝とSD1631の接続部分を精査する。このやや西側で、SD1522が南側溝と接続することを確認しており、SD1631とSD1522は排水の用途を持った一連の溝跡であると判断された。
10. 9 航空写真撮影を行う。
10. 12 現地説明会を開催する。

- 10.15 SX1630検出の杭列等の出土状況を写真撮影し、平面図を作成する。また、東西大路東道路の南側溝を時期毎に掘り下げ、順次写真撮影、実測図作成を行う。
- 10.22 東西大路東道路の路面に架かる橋において、3本の橋脚部の截割りを行う。写真撮影、断面図作成の後、丸太材の取り上げを行う。
- 10.23 調査終了。

116区

- 9.4 重機による表土除去。調査区の北側は第8次調査区(平成元年度実施)と重複する。
- 9.13 東側から遺構検出作業を行う。西側に隣接する115区から続く東西大路東道路(SX1610)の北側溝については、東側が調査区外まで延びることを確認する。南側溝についても、整地層の下に存在することを調査区東壁の土層観察により確認する。
- 9.18 調査区南西部で検出したSK1622から漆紙文書が出土する。
- 9.19 東西大路東道路の南側溝と東3道路(SX1603)の接続部を精查する。また、調査区東壁において土層堆積状況を検討し、東西大路東道路の両側溝と整地層との関係を把握する。
- 9.25 東西大路東道路と東3道路の各側溝、及び整地層との関係を整理する。
- 10.9 航空写真撮影を行う。
- 10.24 東西大路東道路の平面図補足と土層堆積状況の断面図作成を行う。
- 10.29 調査終了。

IV 西半部で発見した遺構

1 遺構分布状況

遺構は各調査区から発見している。種別ごとの分布をみると、道路跡は18区で1条発見しているのみであり、推定位置でも発見できなかったところがある。建物跡は18棟発見した。組み合わない柱穴も多数あり、さらに多くの建物が存在したと考えられる。20区中央部から68区にかけての地点に比較的集中しており、20区南半部や23区など南側の調査区では確認できなかった。竪穴住居跡はわずかに20区南半部で2軒、北半部で1軒発見したのみである。井戸跡は18区で1基、41区で2基、20区で2基、合計5基発見した。掘立柱建物の分布とおおよそ同様の傾向を示している。溝跡や土壤はほぼ全域にみられる。河川跡は20区北半部と110区で発見しており、一連のものと考えられる。小溝状遺構は20区・41区・69区でそれぞれ2ヶ所のまとまりを発見しており、単独の小規模な溝跡はほぼ全域で確認している（第4図）。

2 層序

西半部は、北側の市道新田・上野線周辺の微高地から南・東に向かって緩やかに傾斜する比較的平坦な地形となっている。調査区内には多数の堆積層や整地層が複雑に分布し、隣接する調査区でも対応関係が必ずしも明確でないことが原因して、層序の把握を困難にしている。しかし、10世紀前葉の灰白色火山灰層との関係や、各層の新旧関係を整理することによって、第Ⅰ層～第Ⅶ層として大きく把握することができた。それらの細分については、新旧関係が明確なものは1・2・3の数字を付して上下関係を示し、不明なものはa・b・cのアルファベットを用いて並列関係であることを示した。各層の概要は以下のとおりである。

第Ⅰ層 表土。現代の水田層。

第Ⅱ層 古代の遺構を覆う黒褐色・黒色粘土層。粘性がなく砂質に近い部分もある。18区南壁の一部、41区南半部の一部、23区中央部、68区東端部、69区西端部などほぼ全域に分布している。20区S X1351など比較的深い遺構上面に特に顯著に見られる。

第Ⅲ層 灰白色火山灰小ブロックを含む古代の堆積層。第Ⅱ層に直接覆われている。灰黄褐色砂質土、褐灰色粘土質土、オリーブ黒色粘土など場所によって土質が異なる。20・69区の一部にもみられるが、18区全体（南壁の一部？）、41区ほぼ全域、23区北半部などC区西半部でも特に東側に堆積している。

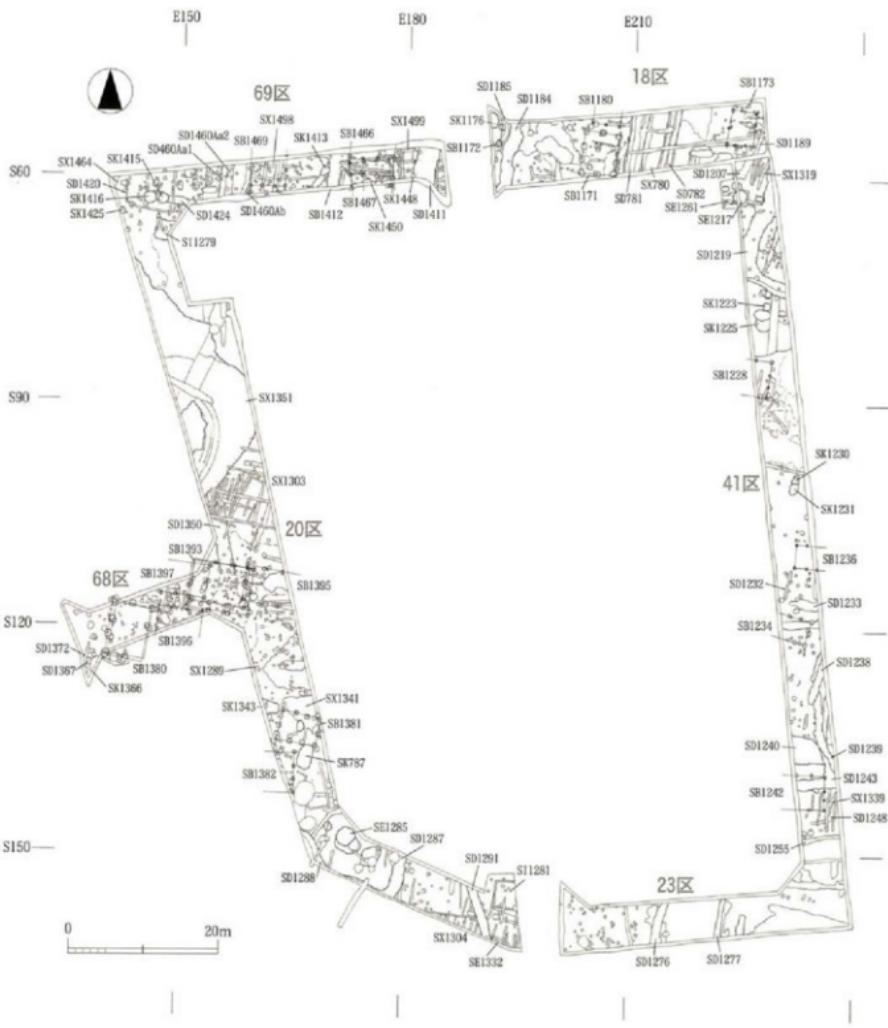
第Ⅳ層 10世紀前葉以降の堆積層。20区北部、23区中央部、41区の一部において遺構のくぼみに堆積している黒褐色粘土・砂質土、灰黄褐色粘土、暗灰黄色粘土質土、オリーブ黒色粘土質土。

第Ⅴ層 10世紀前葉に降下した灰白色火山灰の自然堆積層。遺構内にのみ堆積している。

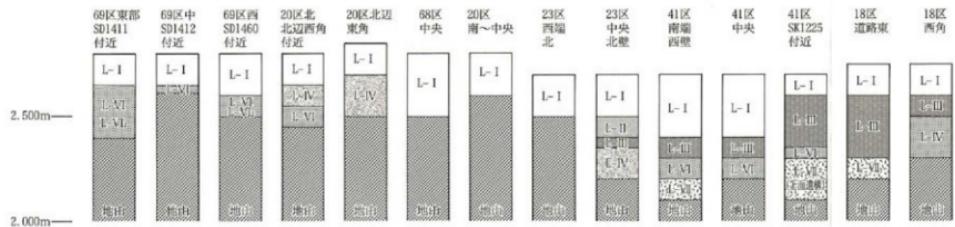
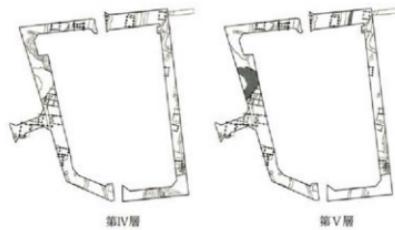
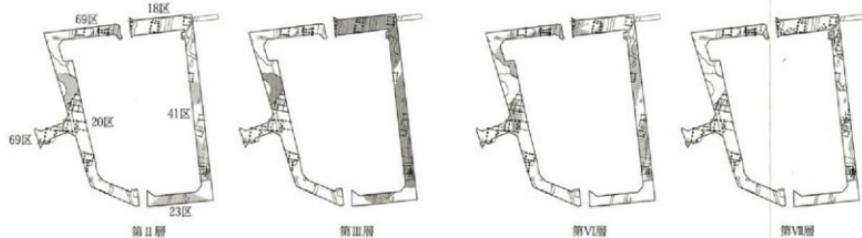
第VI層 18・41区から23区東部にかけて、また20区中央部から69区東部にかけて分布する黒褐色の砂質土および粘土質土。上面は10世紀前葉以前の遺構確認面となっている。

第VII層 地山ブロックを含む黒色土で地山直上に堆積する。18区北西から南壁、41区、69区東端部などに見られる。

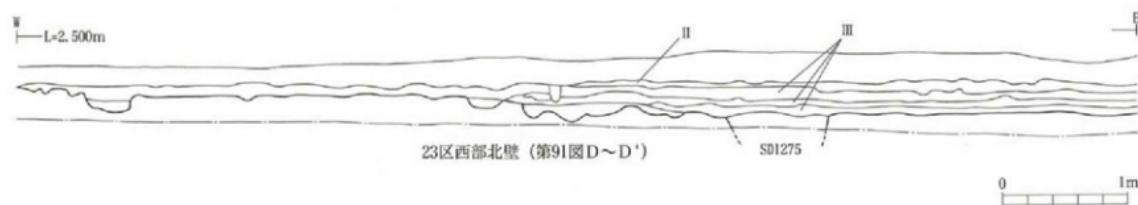
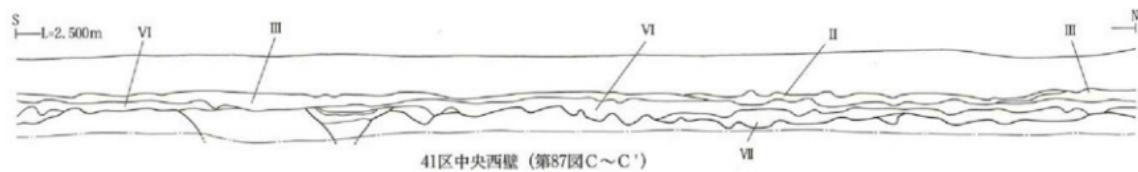
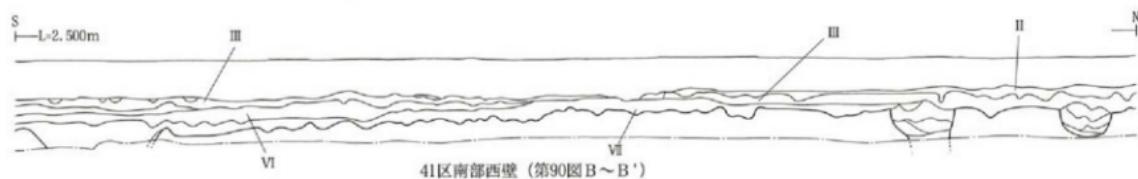
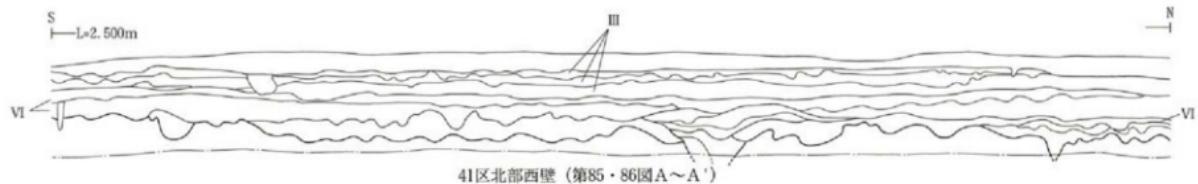
第VIII層 古代の遺構の基盤層である黄褐色砂質土・黄褐色砂。古代以前の河川堆積層も含めている。



第4図 西半部主要遺構位置図



第5図 西半部層序模式図・分布図



第6図 41区・23区断面図

3 道路跡

18区中央部で南北道路跡1条を発見した。

【S X780道路跡】(第83図)

18区中央部の第VIa層上面で発見した東2南北道路跡である。約8.3m検出した。S D1300、小溝跡と重複しており、S D1300より新しく、小溝跡より古い。ほぼ同位置で5時期の変遷がある(A→E期)。

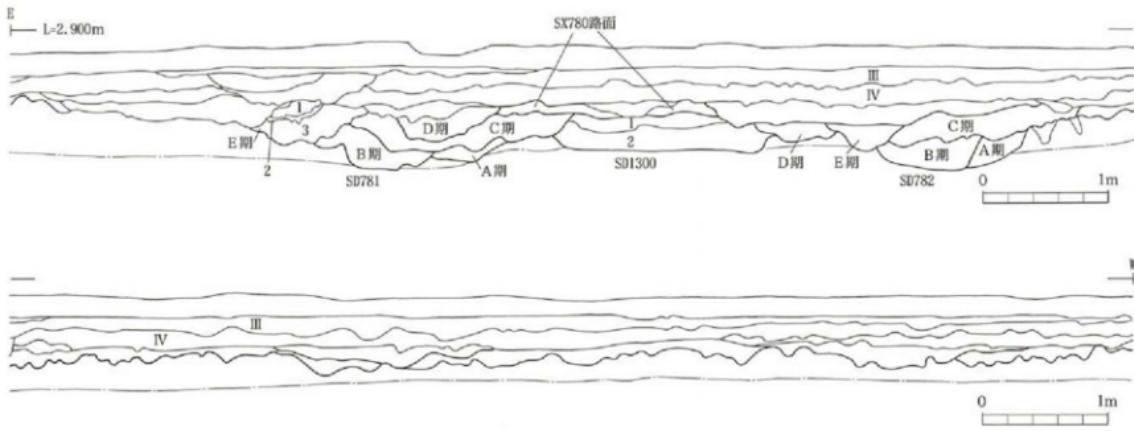
A期：東・西側溝を確認した。いずれも東半部をB期以降の側溝によって大きく破壊されている。路幅は4.1~4.3m(側溝心心間)であり、方向は北で約6度東に偏している。東側溝についてみると、規模は上幅0.9m、下幅0.6m、深さ10~32cmである。断面形は逆台形であり、壁はやや急に立ち上がっている。底面はおおよそ平坦である。埋土は多量の砂粒とにぶい黄色土ブロックを含む黒褐色粘土である。西側溝についてみると、規模は上幅0.3m以上、深さ20~30cmである。壁は緩やかな部分とU字状を呈する部分とがある。底面は南側に傾斜しており、比高差は約40cmである。埋土はにぶい黄褐色土を含む黒褐色粘質土である。

B期：A期より約1m東側に作り替えられたもので、東・西側溝を確認した。C期の側溝によって大きく破壊されている。路幅は約4.6m(側溝心心間)であり、方向は北で約7度東に偏している。東側溝についてみると、規模は上幅0.5~1.0m、下幅0.3~0.9m、深さ11~37cmである。壁は緩やかに立ち上がっている。底面は南側に傾斜しており、比高差は約30cmである。埋土はにぶい黄色土粒ブロックを含む黒褐色粘土である。西側溝についてみると、規模は上幅0.6~0.8m、下幅0.3~0.5m、深さ14~28cmである。断面形はU字状を呈し、壁は急に立ち上がっている。底面はやや南側に傾斜し、比高差は約10cmである。埋土はにぶい黄褐色土を含む黒褐色粘質土である。

C期：路面と東・西側溝を確認した。路幅は4.8~5.1m(側溝心心間)であり、方向は北で約9度東に偏している。東側溝についてみると、規模は上幅1.2~1.7m、下幅0.6~0.8m、深さ28~34cmである。壁は緩やかに立ち上がっている。底面は起伏があり、やや南側に傾斜している。埋土は黒褐色粘土である。西側溝についてみると、規模は上幅1.6m以上、下幅0.9m以上、深さ28~34cmである。壁は緩やかに立ち上がっている。底面はやや起伏があり、やや南側に傾斜している。埋土は黒褐色粘質土である。

D期：路面と東・西側溝を確認した。C期の東側溝を覆って炭化物粒・土器片を多く含むにぶい黄褐色砂質土が約10cmの厚さで堆積しており、その上面が路面となっている。西側溝がE期側溝によって大きく破壊されているため、路幅については不明である。方向は、東側溝でみると北で約9度東に偏している。東側溝はC期とほぼ同位置で作り替えられている。規模は上幅0.4~0.7m、下幅0.2~0.4m、深さ12~28cmである。壁は緩やかに立ち上がっている。底面はやや南へ傾斜しており、比高差は約10cmである。埋土は多量の砂粒を含む黒褐色粘土である。西側溝は北側をE期に壊されわずか1.8m検出した。C期より東側を作り替えられている。規模は上幅0.5m以上、下幅0.4m以上、深さ5~10cmである。壁は急に立ち上がりつつある。底面はわずかに南側に傾斜しており、比高差は9cmである。埋土は多量の砂粒を含む黒褐色粘質土である。

E期：路面と東・西側溝を確認した。路面はD期路面を踏襲し、D期側溝埋没後その上面も路面となつて全体に拡幅されている。路幅は約4.2m(側溝心心間)である。方向は北で約11度東に偏している。東側溝はD期の約1.0m(側溝心心間)東側に作り替えられている。規模は上幅0.4~0.7m、下幅0.3~0.4m、深さ14~34cmである。壁の立ち上がりは緩やかな部分と急な部分とがある。底面はほぼ平坦である。埋土



第7図 SX780断面図

は、1層が灰白色火山灰粒を含む褐灰色粘質土層、2層が灰白色火山灰自然堆積層、3層が黒褐色粘土の自然堆積層である。西側溝はD期とほぼ同位置で作り替えられている。規模は上幅0.5~0.9m、下幅0.3~0.5m、深さ20~28cmである。壁は緩やかに立ち上がり、底面はほぼ平坦である。埋土は炭化物粒・砂粒を多量に含む黒褐色粘質土である。

4 挖立柱建物跡

18区で4棟(S B1172・1180・1171・1173)、20区中央部から68区にかけて7棟(S B1380・1381・1382・1393・1395・1396・1397)、69区で4棟(S B1466・1467・1268・1469)、41区で4棟(S B1242・1228・1236・1235)、合計19棟発見した。調査区外に延びていくものが多く、南北棟・東西棟の区別がつかないものもある。また、調査区西端部で検出したものについては一本柱による痕跡の可能性もあるが、一応掘立柱建物の一部ととらえて記載する。

【S B1172建物跡】(第82図)

18区西半部の第VIa層上面で発見した掘立柱建物跡である。南北に並ぶ3基の柱穴を検出したのみであり、そのうち2基に抜取り穴がある。SD1185と重複しており、それより新しい。方向は北で約10度東へ偏している。柱間は北より約2.2m、約2.1mである。柱穴の平面形は方形を基調としており、規模は長辺77~86cm、短辺55~61cm、深さは24~34cmである。埋土は炭化物粒や黒色粘土ブロックを含むにぶい黄色土である。抜取り穴の埋土は炭化物粒を含む黒色粘土である。



【S B1180建物跡】(第83図)

18区中央部の第VIa層上面で発見した東西2間、南北2間以上の掘立柱建物跡である。すべての柱穴で柱痕跡を確認した。SK1178と重複しており、それより新しい。方向は、東西柱列でみると、東で5度49分南へ偏している。規模は東西柱列で総長3.84m、柱間は西より1.78m、2.06m、南北柱列の柱間は1.75mである。柱穴の平面形は方形を基調としており、規模は長辺34~40cm、短辺31~37cm、深さは28~48cmである。柱痕跡は直径10~12cmである。



【S B1171建物跡】(第83図)

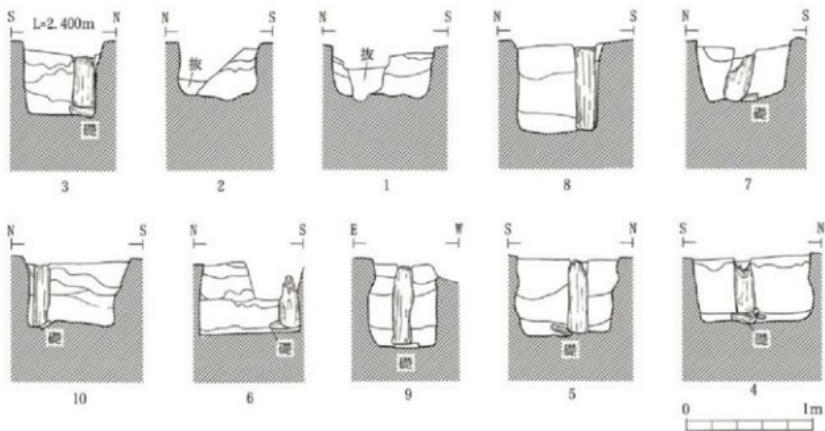
18区中央部の第VIa層上面で発見した桁行3間、梁行2間の南北棟掘立柱建物跡である。すべての柱穴を検出し、抜取り穴がある北西隅と北妻棟通柱穴以外では柱材が残存していた。北東隅柱穴では切り取り穴を確認した。SK778と重複しており、それより新しい。方向は、東側柱列でみると北で7度1分東へ偏している。桁行は東側柱列で5.49m、柱間は北より1.84m、1.84m、1.81mである。梁行は南妻で4.81m、柱間は西より2.23m、2.58mである。柱穴の平面形は方形であり、規模は長辺72~102cm、短辺58~76cm、深さは40~70cmであり、埋土はにぶい黄褐色土と黒色粘土の互層である。柱は直径12~20cmである。北妻の抜取り穴の埋土は黄色土ブロックを含む黒色粘土である。



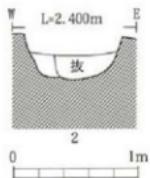
【S B1173建物跡】(第84図)

18区東半部の第VIb層上面で発見した桁行2間、梁行3間の南北棟掘立柱建物跡である。北妻は、東より1間目の柱穴がなく、2間となっている。南東隅をのぞくすべての柱穴で柱痕跡を確認した。SK1183、SD1197と重複しており、それより新しい。方向は、西側柱列でみると北で9度15分東へ偏している。

SB1171



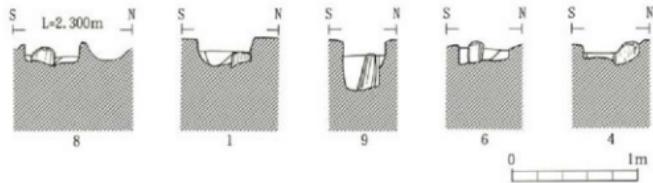
SB1172



凡 例

- 1 柱穴の番号：検出できたものについてのみ北西のものから順に付した。
- 2 建物模式図：●—柱痕跡を確認できたもの、○—柱痕跡を確認できなかったもの
- 3 柱穴断面図：柱—柱痕跡、抜—抜取り穴、礎—礎板

SB1173



第8図 SB1171・1172・1173柱穴断面図

桁行は西側柱列で4.66m、柱間は北より2.40m、2.26mである。梁行は南妻で約3.7m、柱間は西より1.15m、1.36m、約1.2mである。柱穴の平面形はおおよそ方形であり、規模は長辺25~47cm、短辺22~42cm、深さ16~40cm、埋土は黒褐色粘土を多量に含む暗灰黄色砂質土である。南妻の西より1間目と東側柱列の両隅柱をのぞいたすべての柱穴で柱材が残存している。直径10~14cmである。

【S B 1228建物跡】(第86図)

41区北半部の第VII d層上面で発見した南北3間、東西2間以上の掘立柱建物跡である。調査区の西側に延びているが、一応南北棟とみて記載する。全ての柱穴で柱痕跡を確認した。方向は、東側柱列でみると北で8度44分東へ偏している。桁行について東側柱列で4.94m、柱間は南より1.56m、1.52m、1.86mである。梁行については、北妻で1間分か2.27mである。柱穴の平面形は概ね方形であり、規模は長辺33~49cm、短辺27~47cm、深さは17~44cmである。埋土は黒褐色粘土を主体とし、にぶい黄色粘土粒・ブロックを少量含んでいる。柱痕跡は直径12~14cmである。

【S B 1236建物跡】(第88図)

41区中央部の第VII e層上面で発見した桁行3間以上、梁行2間の東西棟掘立柱建物跡である。西妻棟柱穴は近代以降の溝によって破壊されており、北西隅柱には抜取り穴がある。それ以外の柱穴では柱痕跡を確認した。方向は、南側柱列でみると東で4度30分南へ偏している。桁行については南側柱列で3.05m以上、柱間は西より1.59m、1.46mである。梁行については2間分で約3.4mである。柱穴の平面形はおおむね方形を基調とし、規模は長辺32~45cm、短辺28~30cm、深さは9~28cmである。埋土は褐灰色粘質土を主体とし、にぶい黄色土を斑状に含んでいる。柱痕跡は直径16~24cmで、埋土は黒褐色粘土である。

【S B 1235建物跡】(第88図)

41区中央部の第VII e層上面で発見した桁行3間以上、梁行2間の東西棟掘立柱建物跡である。西妻は調査区外に延びている。抜取り穴のあるものが多く、柱痕跡を確認できたのは北側柱列の東から1間目の柱穴のみである。方向は、北側柱列でみると東で約15度南へ偏している。桁行については、北側柱列で3.1m以上、柱間は西より約1.6m、約1.5mである。梁行については、東妻で総長約3.3m、柱間は南より約1.7m、約1.6mである。柱穴の平面形は方形を基調としており、規模は長辺44~68cm、短辺38~54cm、深さは9~31cmである。柱痕跡は直径14cmである。

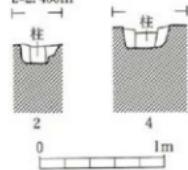
【S B 1242建物跡】(第90図)

41区南半部の第VII f層上面で発見した桁行3間以上、梁行3間の東西棟掘立柱建物跡である。抜取り穴のあるものが多く、柱痕跡を確認できたのは東妻の北から1間目と2間目の柱穴のみである。SD1234と重複しており、それより古い。方向は、東妻でみると北で約1度東へ偏している。桁行については、北側柱列で3.7m以上、柱間は西より約1.9m、約1.8mである。梁行については、東妻で総長



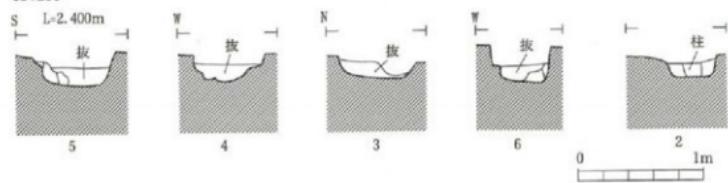
SB1236

L=2,400m



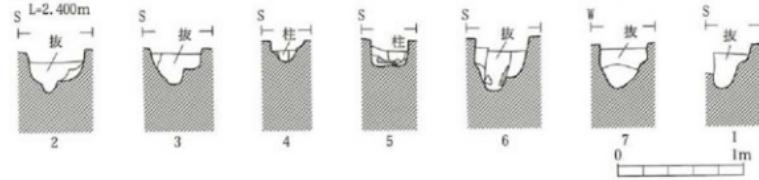
SB1235

S L=2,400m



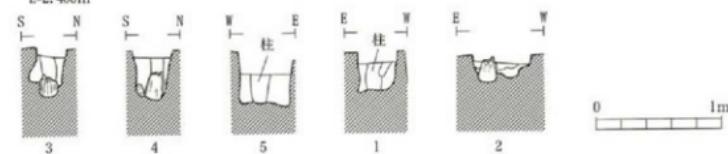
SB1242

S L=2,400m



SB1228

L=2,400m



第9図 SB1228・1235・1236・1242柱穴断面図

約4.4m、柱間は南より約1.4m、1.12m、約1.8mである。柱穴の平面形は方形と梢円形とがあり、前者についてみれば規模は長辺30~34cm、短辺27~38cm、深さは22~39cmである。東妻の南から1間目の柱穴には底面に礎板が据えられていた。埋土は黒褐色粘土と黄褐色粘土をブロック状に含んでいる。柱痕跡は直径12~15cmである。抜取り穴の埋土は炭化物を若干含む黄灰色土と暗灰色粘土である。

【S B1381建物跡】(第94図)

20区南半部の第VII層上面で発見した桁行3間、梁行2間の東西棟の掘立柱建物跡である。S X1341と重複しており、それより新しい。同位置で2時期の重複がある(A→B期)。



S B1381A:多くの柱穴がB期に壊されて不明であるが、北側柱列と南側柱列で6基の柱穴を確認した。柱穴は平面形が方形であり、規模は1辺約50cm、深さ22~34cm、埋土は黄褐色ブロックを含む黒褐色土である。柱痕跡は径14~18cmであり、埋土は黒褐色土である。

S B1381B: A期柱穴の抜取り穴を利用して、ほぼ同位置で建て替えたものである。ほとんどの柱穴で柱痕跡を確認した。北側柱列東より1間目の柱穴には切取り穴を確認した。方向は、南側柱列でみると東で9度49分南に偏している。桁行については、南側柱列で総長5.16m、柱間は西から1.97m、1.44m、1.80mである。梁行については、西妻で長総3.96m、柱間は北より2.03m、1.93mである。平面形は方形であり、規模は長辺49~75cm、短辺47~62cm、深さ17~32cm、埋土は地山ブロックを含む暗灰黄色土と暗オリーブ褐色土である。柱痕跡は直径12~24cmであり、埋土は炭化物粒・地山黄色土を含む暗オリーブ色粘土と黒褐色粘土である。

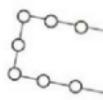
【S B1382建物跡】(第94図)

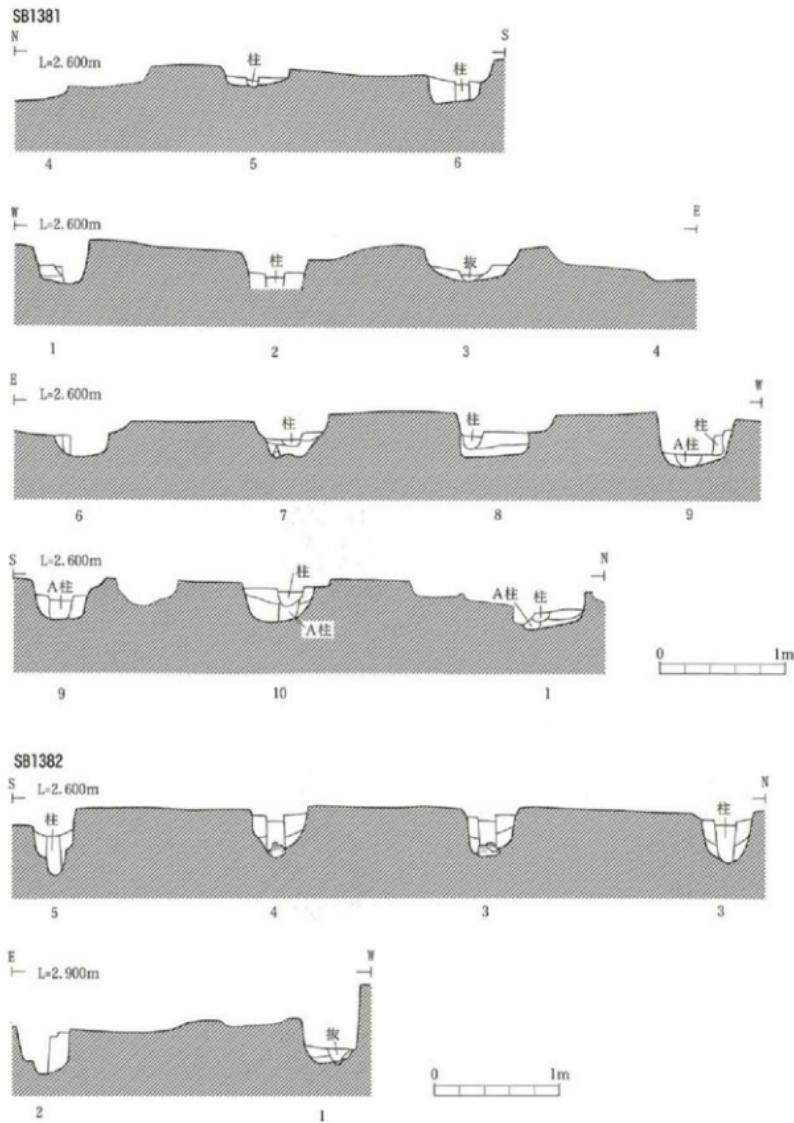
20区中央部の第VII層上面で発見した掘立柱建物跡である。東西1間、南北3間分検出したのみであり、調査区外に延びていくため詳細は不明であるが、桁行3間、梁行2間の南北棟と考えておく。東側柱列で柱痕跡を確認しており、方向は北で2度13分東に偏している。桁行については、5.42m、柱間は北より1.92m、1.71m、1.79mである。梁行については、北妻が1間分約2.3mである。柱穴は平面形が楕円形であり、規模は長辺41~47cm、短辺31~44cm、深さは36~54cmである。東側柱列の北より1間目と2間目の底面には柱材の一部が残存していた。柱痕跡は直径25cmである。



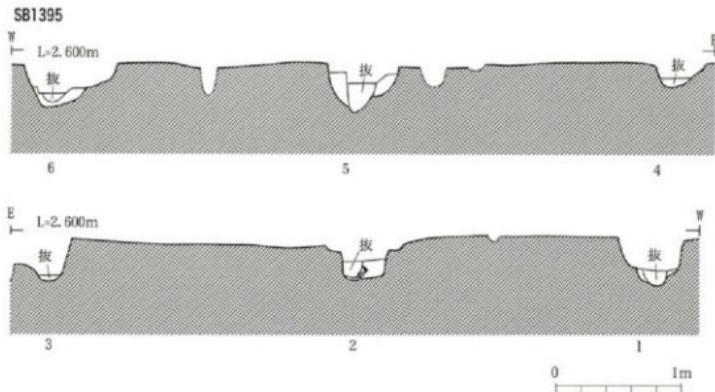
【S B1395建物跡】(第95図)

20区から68区にかけての第VIe層上面で発見した桁行3間以上、梁行2間の東西棟掘立柱建物跡である。柱穴はすべて抜取られており、西妻棟柱穴でのみ柱痕跡状に直径15cmの柱当たり痕跡が残されていた。S X1383・1384と重複しており、前者より古く後者より新しい。方向は、西妻でみると北で約9度東へ偏している。桁行は、北側柱列で4.7m以上、柱間は西より約2.3m、約2.4mである。梁行は西妻で約2.8m、柱間は北より約2.3m、約2.5mである。柱穴の平面形は方形であり、規模は長辺36~54cm、短辺25~48cm、深さは18~35cmであり、埋土は地山ブロックを含む灰黄褐色土・黄褐色土が主体である。抜穴の埋土は灰白色火山灰粒を含む黒褐色土である。





第10図 SB1381・1382柱穴断面図



第11図 SB1395柱穴断面図

【SB1393建物跡】(第98図)

68区東端部から20区にかけての第VIe層上面で発見した桁行3間、梁行2間の東西棟掘立柱建物跡である。SB1396、SD1350、SK1383・1368と重複しており、SD1350より新しく他より古い。2時期の重複があり(A→B期)、南側と東側に拡幅して建て替えられている。南側柱列と東妻ではB期と重複していないため、A期柱穴が良好に残存している。

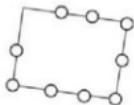
SB1393A：桁行については、南側柱列で約7.4m、柱間は西より約2.5m、約2.5m、約2.5mである。梁行については、東妻で約5.3m、柱間は北より約2.5m、約2.8mである。柱穴は平面形が方形であり、規模は長辺44~58cm、短辺35~57cm、深さは22~48cmである。北東・南西隅柱をのぞくすべての柱穴で礎板を確認した。埋土は灰黄褐色砂の地山ブロックを含む暗黄褐色・黒褐色土である。柱痕跡は南西隅柱、北東隅、南側柱列東から1間目で確認しており、直径12~18cm、埋土はそれぞれオリーブ褐色土、暗褐色土、黒褐色土である。

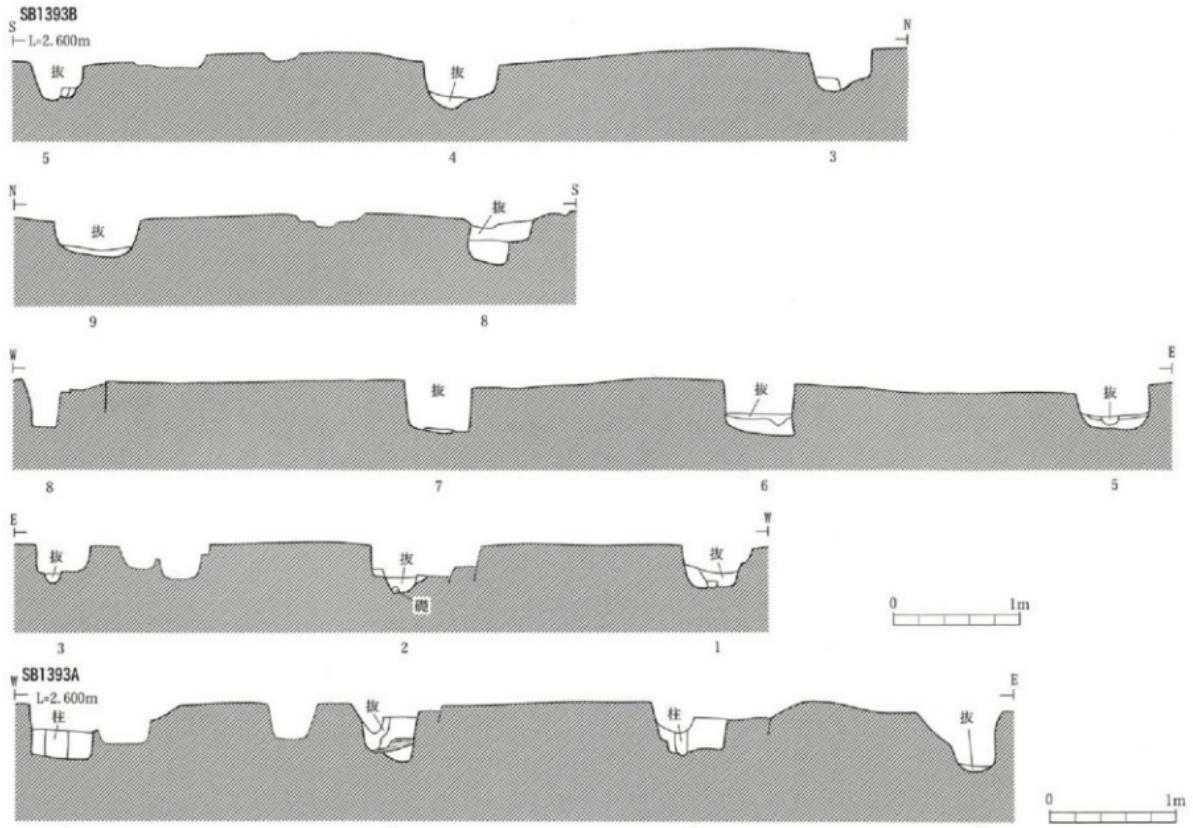
SB1393B：柱はすべて抜き取られており、柱位置が明らかなものはない。方向は、棟通でみると東で約7度南に偏している。桁行については、南側柱列で約8.4m、柱間は西より約2.9m、約2.6m、約2.8mである。梁行については、東妻で約6.3m、柱間は北より約3.1m、約3.2mである。柱穴は平面形が方形であり、規模は長辺46~75cm、短辺38~52cm、深さ22~43cmである。埋土は灰黄褐色と黒褐色土を主体とし、灰黄褐色砂の地山ブロックを含んでいる。抜取り穴の埋土は地山ブロックを含むオリーブ褐色土および黒褐色粘土である。

【SB1396建物跡】(第98図)

68区東半部の第VII層上面で発見した東西3間、南北2間以上の掘立柱建物跡である。調査区外に延びているため明確ではないが一応東西棟と考えておきたい。

SB1393と重複しており、それより新しい。全ての柱穴で柱痕跡を確認しており、方向は北側柱列でみると東で5度47分南へ偏している。桁行は、北側柱列で5.92



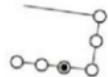


第12図 SB1393A・1393B柱穴断面図

m、柱間は西より1.85m、2.03m、2.04mである。梁行は、西妻で1間分が1.79mである。柱穴の平面形は方形であり、規模は長辺32~38cm、短辺20~32cmである。柱痕跡は直径約15cmである。

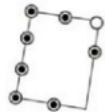
【S B1397建物跡】(第98図)

68区東半部の第VII層上面で発見した桁行3間以上、梁行2間の東西棟掘立柱建物跡である。ほとんどの柱穴に抜取り穴があり、柱痕跡を確認できたのは1箇所のみである。方向は南側柱列でみると東で約8度南、東妻でみると北で約12度東へ偏している。桁行は南側柱列で5.9m以上、柱間は西より約2.0m、約2.0m、約1.9mである。梁行は東妻で約4.4m、柱間は北より約2.0m、約2.4mである。柱穴の平面形は方形を基調としており、規模は長辺48~65cm、短辺43~46cm、深さ42~52cmであり、埋土は地山ブロックを含むオリーブ褐色土・黒褐色土である。柱痕跡は直径18cmであり、埋土は地山粒を含む暗褐色土である。抜取り穴の埋土は暗灰黄色土および暗オリーブ褐色粘土である。



【S B1380建物跡】(第99図)

68区西半部の第VII層上面で発見した桁行3間、梁行2間の南北棟掘立柱建物跡である。南東隅柱と東側柱列南から1間目の柱穴は調査区外にのびている。小柱穴を介してS B1366と重複しており、それより新しい。ほぼ同位置で2時期の重複がある(A期→B期)。



S B1380A : B期柱穴や抜取り穴によって破壊されており、柱位置がわかるものはない。柱穴の平面形は方形を基調としており、規模は長辺56~100cm、短辺40~70cm、深さ38~48cmである。埋土は炭化物粒・地山粒を含む黄褐色砂質土であり、西側柱北より1間目・2間目の柱穴では礎板を確認した。柱痕跡は東側柱列の北より1間目柱穴でのみを確認している。直径16cmであり、埋土はオリーブ黒色粘土である。抜取り穴の埋土は炭化物粒・黄褐色土を含む暗灰黄色土である。

S B1380B : A期の柱を抜取った後、西側柱をやや西側に、南妻をやや北側に移して建て替えたものである。西側柱列と北妻棟通柱穴では柱材が残存しており、南妻棟通と東妻の北より1間目では柱痕跡を確認した。北東隅柱は抜き取り穴がある。方向は西側柱列でみると北で9度40分東へ偏している。桁行については、西側柱列で7.20m、柱間は北より2.67m、2.11m、2.42mである。梁行については、北妻で約5.4m、柱間は西より2.77m、約2.6mである。柱穴は平面形が方形であり、規模は長辺66~88cm、短辺51~80cm、深さ35~66cmである。埋土は多量の地山ブロックを含むオリーブ褐色土と暗オリーブ褐色土の互層である。柱材は直径15cmである。北西隅、東側柱列北から1間目の柱穴では、柱が掘り方底面よりそれぞれ約20cm、約10cmの深さまで沈み込んでいる。

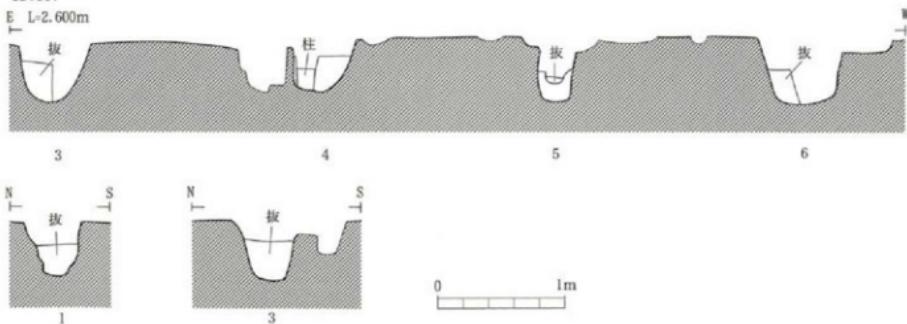
【S B1469建物跡】(第101図)

69区西半部の第VIh層上面で発見した南北2間以上、東西3間の掘立柱建物跡である。調査区の北側に延びる南北棟と想定しておきたい。南妻と東・西側柱列の一部を確認した。S D1460、S X1498と重複しており、それより新しい。側柱は抜取られているものがあるが、南妻ではすべての柱穴で柱痕跡を確認しており、方向は東で0度44分南に偏している。桁行については南妻で4.65m、柱間は西より1.50m、1.68m、1.47mである。桁行については東側柱列で2間分が約4.2mである。柱穴の平面形は方



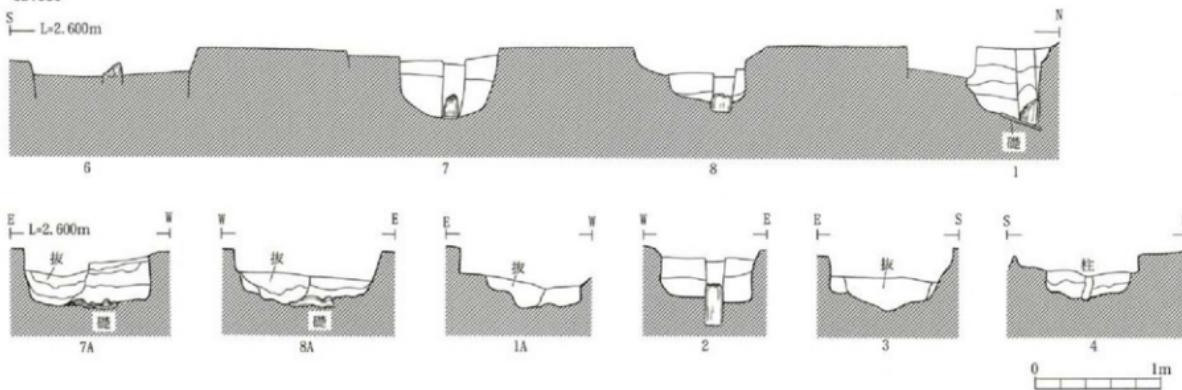
SB1397

E L=2,600m



SB1380

S L=2,600m



第13図 SB1397・1380柱穴断面図

形を基調としており、規模は長辺38~50cm、短辺30~40cm、深さは24~44cmである。埋土は黒褐色粘質土を主体とし、にぶい黄色粘質土や炭化物を含んでいる。南妻の東から1間目では礎板を確認した。柱痕跡は直径12~15cmであり、埋土は黒褐色粘土である。南東隅柱では一部柱材が残存していた。抜取り穴の埋土は炭化物、焼土、にぶい黄色粘質土を少量含む黒褐色粘土である。

【S B1466建物跡】(第102図)

69区東半部の第VIg層上面で発見した桁行3間、梁行2間以上の東西棟掘立柱建物である。検出したのは南側柱列と東・西妻各1間分である。南側柱列の西から1間目の柱穴では直径15cm柱材が残存していたが、それ以外はすべて抜取られていた。S B1467・1468と重複しており、それらより新しい。方向は、南側柱列でみると東で約4度南へ偏している。桁行については、南側柱列で総長約5.9m、柱間は西より約2.0m、約1.9m、約2.1mである。梁行柱間にについては、いずれも1間分約2.4mである。柱穴の平面形は方形を基調としており、規模は最も大きなもので70×55cm、小さいもので42×41cm、深さは30~36cmである。埋土は黒褐色粘質土を主体とし、にぶい黄色粘質土ブロックを含んでいる。抜取り穴の埋土は、黄褐色粘質土や砂粒を含む黒褐色粘質土を主体としている。



【S B1467建物跡】(第102図)

69区東半部の第VIIi層上面で発見した桁行3間、梁行2間の東西棟掘立柱建物である。東妻棟通下の柱穴では柱材が残存しており、北西隅柱では柱痕跡を確認した。それ以外の柱穴では抜取り穴を確認した。S B1466・1468、S D1431と重複しており、S B1466より新しく、S B1468、S D1431より古い。方向は北側柱列でみると、東で約6度北へ偏している。桁行については、北側柱列で約5.2m、柱間は西より約1.9m、約1.6m、約1.7mである。梁行については、東妻で約3.4m、柱間は南より約1.8m、約1.7mである。柱穴の平面形は方形と梢円形とがあり、前者の規模は最も大きなもので49×38cm、小さなもので35×30cm、深さは12~48cmである。埋土は黒褐色土と灰黃褐色粘質土を主体とし、にぶい黄色粘質土ブロックを含んでいる。柱材は直径12cm、柱痕跡は直径15cmで埋土は褐灰色・黒褐色粘土である。



【S B1468建物跡】(第102図)

69区東半部の第VIII層上面で発見した桁行2間以上、梁行2間の南北棟掘立柱建物である。ほぼ同位置で2時期の重複がある(A→B)。S B1466・1467、S D1431と重複しており、S D1431より新しく、S B1466・1467より古い。

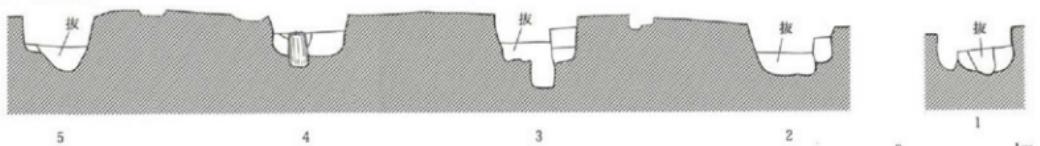


S B1468A: B期で破壊されており、柱位置がわかるものはない。柱穴の平面形は概ね方形を基調としており、規模は長辺32cm、短辺28~32cm、深さは28~58cmである。埋土は、少量の炭化物とにぶい黄色粘質土ブロックを含む黒褐色粘質土である。

S B1468B: A期の柱を抜取り、ほぼ同位置で建てかえられたものである。北西隅柱で柱痕跡を確認した。方向は、北妻でみると東で約3度北へ偏している。桁行柱間は、東側柱列で1間分約2.0mである。梁行については、北妻で約4.0m、柱間は西より約2.0m、約1.9mである。柱穴の平面形は方形を基調としており、規模は長辺34~36cm、短辺32~35cm、深さは31~51cmである。埋土はにぶい黄色粘質土ブロックを含む褐灰色土と灰黄色粘質土である。柱痕跡は直径15cmのであり、埋土は褐灰色粘土である。抜取り穴の

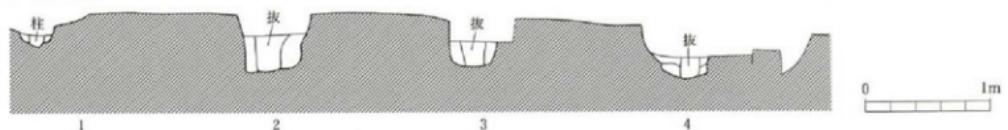
SB1466

W
L=2.700m



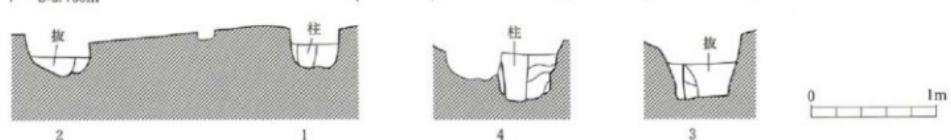
SB1467

W
L=2.700m



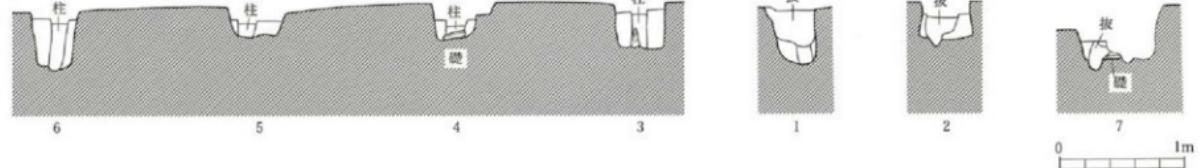
SB1468

E
L=2.700m



SB1469

W
L=2.700m



第14図 SB1466・1467・1468・1469柱穴断面図

埋土は黒褐色粘質土である。

5 柱列跡

【S A1203断面】(第83図)

18区中央部の第VI層上面で発見した南北方向の柱列跡である。溝状の掘り方の中に丸太材を密接して立て並べたものと推定されるが、すべて抜取られているため、掘り方底面に柱の当たり痕跡をわずかに残すにすぎない。5.2m検出し、さらに調査区南側に延びている。S B1171と重複しており、それより古い。方向は、北で約11度東へ偏している。掘り方の規模は、上幅18~28cm、下幅6~12cm、深さ約20cmであり、埋土はにぶい黄色土ブロックを多量に含む黒褐色土である。柱の当たり痕跡は、直径10~14cm、深さ約4cmである。抜取り穴の埋土は炭化物粒を少量含む黒褐色粘土である。

6 壴穴住居跡

20区南端部と20・69区接続部で3軒発見した。

【S I 1281竪穴住居跡】(第92図)

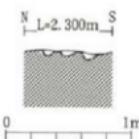
20区南端部の第VIII層上面で発見した竪穴住居跡である。東辺は調査区外にのびている。検出した段階で、南辺付近では床面が、北辺付近では掘り方が既に露出していた。平面形は方形であり、規模は西辺が約3.5m、南辺が3.2m以上である。方向は、西辺でみると北で約5度東へ偏している。床面は、炭化物粒をわずかに含む砂質土による貼床である。周溝は各辺で確認しており、規模は上幅15~25cm、深さ15~25cmである。埋土は炭化物粒と黄褐色砂質土を少量含む灰黄褐色砂質土が主体である。柱穴、カマド等は確認できなかった。

【S I 1280竪穴住居跡】(第92図)

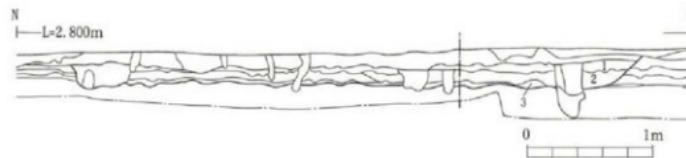
20区南端部の第VIII層上面で発見した竪穴住居跡である。東辺は調査区外にのびている。削平が著しく、掘り方を残すのみである。S I 1281と重複しており、それより古い。平面形は方形であり、規模は西辺で約3.3m、南辺で3.6m以上である。方向は、西辺でみると北で約12度東へ偏している。掘り方は7~10cm残存しており、埋土は炭化物粒・地山粒を含む灰黄褐色砂質土である。

【S I 1279竪穴住居跡】(第100図)

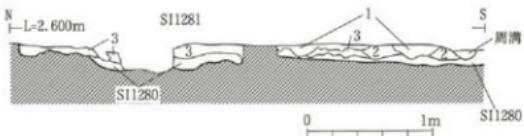
20区北端部の第VIII層上面で発見した竪穴住居跡である。東辺は調査区外にのびている。平面形は長方形を呈し、規模は南北1.7m、東西2.6m以上である。方向は西辺でみると北で約10度東へ偏している。壁高は約20cmであり、埋土は3層に分けられる。1層が黄褐色土およびオリーブ褐色粘質土ブロックを含む暗灰黄色砂質土、2層が暗灰黄色砂質土、3層が黄褐色土ブロックを含む黒褐色粘質土である。



第15図 S A1203断面図



第16図 S I 1279断面図



第17図 S I 1280・1281断面図

7 井戸跡

20区南東部で1基、18区中央部で2基、41区で2基と合計5基発見した。

【S E 1174井戸跡】(第83図)

18区中央部の第VIa層上面で発見した井戸跡である。曲物を積み上げて井戸側としている。曲物は大きさの異なるものが3段に、小さいものから順に積み上げられている。規模は上段が直径50cm、高さ35cm、中段が直径45cm、高さ35cm、下段が直径40cm、高さ20cmである。それらを挟み込むように、2本の杭が掘り方底面に斜めに打ちこまれている。掘り方は、平面形が円形で、壁はほぼ垂直に掘り込まれている。規模は直径約70cm、深さ約80cmである。掘り方埋土は、多量の炭化物粒・地山粒を含む黒色粘土である。井戸側内埋土は黒色粘土の自然堆積層であり、最上部のくぼみには灰白色火山灰が堆積している。下段曲物の底面からは竹製の編物が出土した。

【S E 1217井戸跡】(第85図)

41区北半部の第VIIc層上面で発見した井戸跡である。削り貫き材と曲物を組み合わせた井戸側を備えている。S E 1261、S D 1260、S K 1215・1218と重複しており、S K 1215より古く、そのほかのものより新しい。井戸側は、掘り方のやや西よりに曲物が2段に重ねて据えられており、その西側に削り貫き材が密着して据えている。曲物は直径54cmであり、削り貫き材は直径約70cmの丸太材を半蔵して削り貫いたものである。掘り方の平面形はおおよそ円形であり、壁面は削り貫き材がある西壁はほぼ垂直に立ち上がっているが、そのほかは比較的緩やかに立ち上がっている。規模は、直径1.8m、深さは74cmである。掘り方内の埋土は15層に分けられる。2～15層は掘り方埋土(裏込め)であるが、1層は掘り方埋土と削り貫き材の間にあって幅3～6cmで垂直に立ち上がり、土質は柔らかい粘土である。井戸側の一部が腐食して粘土化した可能性がある。側内埋土より木筒(第47・48号)が出土している。

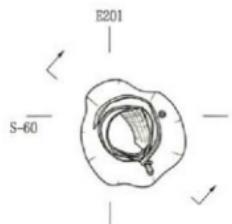
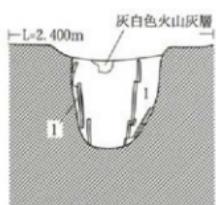
【S E 1332井戸跡】(第92図)

20区南半部の第VIII層上面で発見した井戸跡である。ほとんどの部分は調査区外にあり、掘り方および切取り穴の一部を確認したのみである。S X 1304小溝群と重複しており、それより古い。掘り方の平面形はおおよそ円形であり、壁は大きくえぐれている。規模は直径2.0m以上である。埋土は1層が炭化物粒・地山粒を含む暗灰黄色土、2層が炭化物粒・地山ブロックを含む黒褐色土である。抜取り穴は上方が大きく開き、下部は垂直に落ち込んでいる。規模は直径1.5m以上である。埋土は炭化物粒・焼土粒を含む黒褐色土である。

【S E 1285井戸跡】(第93図)

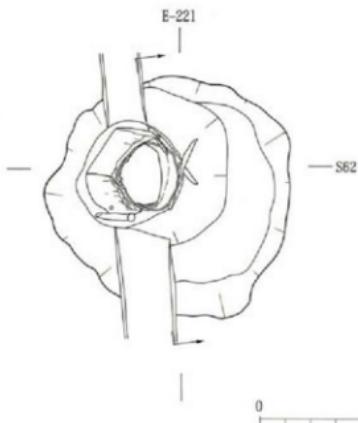
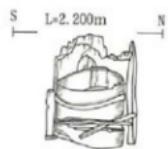
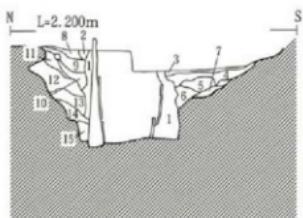
20区南半部の第VIII層上面で発見した井戸跡である。縦板と横板を組み合わせた井戸側を備えている。S K 1349・1353と重複しており、それより新しい。井戸側の構造は複雑であり、概ね次の工程で構築され

SE1174



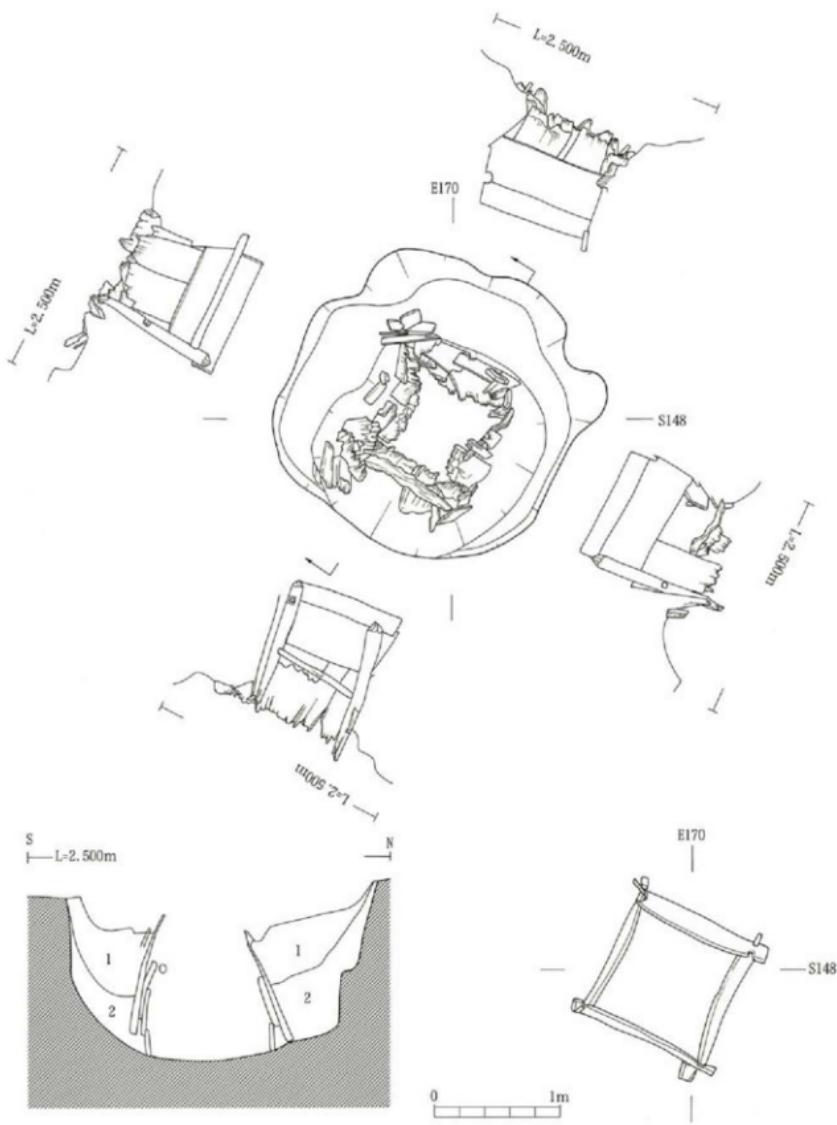
0 — 1m

SE1217



0 — 1m

第18図 SE1174・1217平面図・断面図



第19図 SE 1285平面図・立面図・断面図

ている。①横板を蒸電組にし、2段に重ねて掘り方底面に据える（上：a、下：b）。②bの内側に仕口を直角に合わせた横板をはめ込んで固定する(c)。③a・bの南辺内側両端に2本の支柱（掘り方底面には達しない）を立て(d)、H字状に丸太材の横桟をわたして支える。④aの外側各辺に数枚の紙板を並べる(e)。⑤(e)の外側に横板を2段に重ねる。これらの検出面における内法は80×70cmであり、下部の横板部分では95×95cmである。掘り方の平面形は方形であり、壁はほぼ垂直に立ち上がっている。規模は長辺2.4m、短辺2.2m、深さは1.5mである。側板は切取り穴によって上部の多くは除去されている。切取り穴の埋土は灰白色火山灰を含む黒褐色粘土である。

井戸側部材の寸法については以下のとおりである。

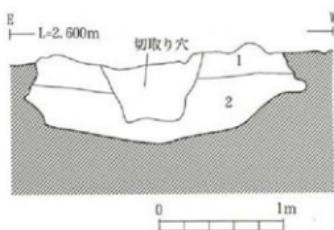
a：高さ33～41.3cm、幅127.5～129.2cm、厚さ4～5cm。

b：高さ15.3～16.5cm、幅106～130.4cm、厚さ3.8～6.0cm。

c：高さ16～22.5cm、幅96.7～104cm。

d：(南東) 長さ122.5cm、径8.5～9cm、(南西) 長さ76cm、径6cm。

e：高さ45～100cm、幅19～65cm、厚さ1.5～2.5cm。



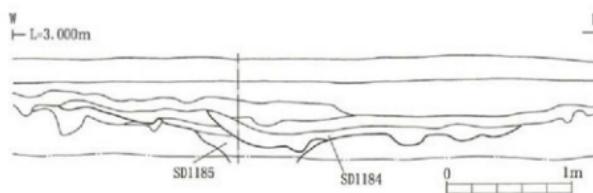
第20図 S E1332断面図

8 溝 跡

20区で12条(S D1287・1288・1291・1306・1327・1328・1334・1337・1338・1350・1367・1372)、18区で10条、41区で18条、68区で2条、69区で26条、全体で68条発見した。以下、主なものについて説明する。

【S D1184溝跡】(第82図)

18区西部の第VIIa層上面で発見した南北溝跡である。やや蛇行しており、平面的にも凹凸が著しい。長さ4.9mにわたって検出した。方向は南北両端部で計測すると、北で約9度東に偏している。S D1185、



第21図 S D1184・1185断面図

S K785と重複しており、S D1185より新しくS K785より古い。規模は上幅0.6~1.0m、下幅0.4~0.7cm m、深さ9~22cmである。壁面は西側がやや急で東側は緩やかに立ち上がっている。東側にはテラス状の段がある。底面は起伏があり南へ傾斜している。比高差は約20cmである。埋土は黒色粘土を主体とする自然堆積土である。

【S D1185溝跡】(第82図)

18区西部の第VII層上面で発見した南北溝跡である。北側から西側にかけて大きく屈曲しており、検出した長さは約6.0mである。S B1172、S D1184と重複しており、そのいずれよりも古い。規模は上幅0.9~1.0cm、下幅0.4~0.6m、深さ25~28cmである。底面は起伏があり、壁は緩やかに立ち上がっている。埋土は、1層かにぶい黄褐色土を主体とするもので人為的な埋め戻しによるとみられる。2層は炭化物層、3層は褐灰色粘土の自然堆積層である。

【S D1300溝跡】(第83図)

18区中央部の第VII層上面で発見した南北溝跡である。S X780道路跡(東2C期)と重複しており、それより古い。規模は上幅1.9m以上、下幅1.8m以上、深さ10~28cmである。断面形は浅い皿状を呈し、底面は平坦であるが、壁は急に立ち上がっている。方向はS X780とおおよそ一致している。埋土は、1層が砂粒を多量に含む褐灰色粘質土、2層が木片を多量に含む黄褐色粘質土である。

【S D1196溝跡】(第84図)

18区東半部の第VII層上面で発見した東西溝跡である。検出した長さは約5.1mである。方向は東で約3度南に偏している。S D1198、S K1181・1182と重複しており、そのいずれよりも古い。規模は上幅1.8~2.1m、下幅0.6~0.8m、深さ4~9cmである。底面はやや起伏があり、壁面はほぼ垂直に立ち上がっている。埋土はにぶい黄褐色地山ブロックを含む黒褐色粘土である。

【S D1198溝跡】(第84図)

18区東半部の第VIIc層上面で発見した南北溝跡である。南半部は西側に大きく屈曲しており、検出した長さは約6.8mである。直線的な北半部でみると、方向は北で約23度東に偏している。S K1183と重複しており、それより古い。規模は上幅0.5~1.1m、下幅0.3~0.9m、深さ9~18cmである。壁面は概ね緩やかに立ち上がっている。底面は南側に傾斜しており、比高差は約10cmである。埋土は黒褐色粘土である。

【S D1260溝跡】(第85図)

41区北端部の第VIIc層上面で発見した東西方向の溝跡である。S E1217、S E1261、S K1218と重複しており、S E1261より新しく、S E1217、S K1218より古い。規模は長さ1.6m以上、上幅0.6mである。方向は東西発掘基準線と一致している。

【S D1212溝跡】(第85図)

41区北半部の第VIIc層上面で発見した東西方向の溝跡である。検出した長さは1.8mである。S K1218と重複しており、S E1261よりも古い。規模は上幅0.4、下幅0.2~0.3m、深さ17cmである。方向は東で約13度南に偏している。

【S D1219溝跡】(第85図)

41区北半部の第VIIc層上面で発見した大きく蛇行する溝跡である。S X1227、S D1212・1221、S K1222・1223と重複しており、それより古い。規模は上幅1.9~2.2m、下幅0.9~1.3m、深さ14~23cmである。南北方向の部分についてみると、底面は概ね平坦であるが、東西方向の部分では起伏が著しい。壁の立ち

上がりは全体的に緩やかである。埋土は2層に区分され、いずれも自然堆積土である。1層はにぶい黄色粘質土粒を若干含むオリーブ黒色粘土、2層はにぶい黄色粘質土小ブロックを含む黒色粘土である。埋土2層の上面からは多量の杭が出土しており、護岸に用いられていた可能性がある。

【S D1220溝跡】(第85図)

41区北半部の第VIIc層上面で発見した南北方向の溝跡である。長さ7.0m以上検出した。S D1219と重複しており、それより新しい。方向は北で約18度東へ偏している。規模は上幅0.4~0.6m、下幅0.2~0.4m、深さ11~17cmである。壁は緩やかに立ち上がっているが、底面、壁ともにやや起伏がある。埋土は黒褐色粘土を主体とし、にぶい黄色粘質土を多量に含んでいる。

【S D1221溝跡】(第85図)

41区北半部の第VIIc層上面で発見した東西方向の溝跡である。検出した長さは約6.5mである。S D1219、S K1222、S X1227と重複しており、S D1219、S X1227・4層より新しく、S K1222、S X1227・2層より古い。規模は上幅0.5~0.8m、下幅0.2~0.6m、深さ9~23cmである。底面は概ね平坦であるが、西壁付近で土橋状に高くなっている部分があり、ほかの底面との比高差は約15cmである。断面は逆台形を呈し、急な角度で立ち上がっている。埋土は黒褐色粘土を主体とする自然堆積土である。

【S D1233溝跡】(第88図)

41区中央部の第VIIe層上面で発見した東西方向の溝跡である。調査区東壁から約3.5mの地点で浅くなつて途切れている。方向はおおよそ東西発掘基準線と一致している。規模は上幅0.5~1.5m、下幅0.4~1.2m、深さ27cmである。底面は概ね平坦であり、壁は緩やかに立ち上がっている。埋土は褐灰色・暗褐色・黒褐色粘質土の自然堆積土であり、炭化物、にぶい黄色粘質土、砂粒を含んでいる。

【S D1234溝跡】(第88図)

41区中央部の第VIIe層上面で発見した東西方向の溝跡である。S BI235と重複しており、それより古い。調査区東壁から約5.0mの地点で浅くなつて途切れている。方向はおおよそ東西発掘基準線と一致しており、規模は上幅0.7~1.2m、下幅0.5~0.8m、深さ3~6cmである。底面は概ね平坦であり、壁は緩やかに立ち上がっている。埋土は黒褐色粘質土の自然堆積土である。

【S D1238溝跡】(第89図)

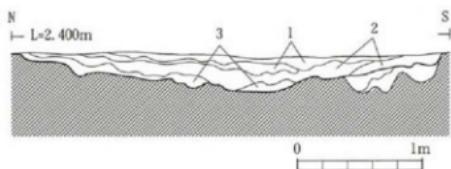
41区南半部の第VIII層上面で発見した南北方向の溝跡である。長さ5.0mにわたって検出した。S D1239と重複しており、それより新しい。方向は北で約16度東へ偏している。規模は上幅1.2~1.5m、下幅1.0m、深さ8~14cmである。断面は浅い逆台形を呈しており、壁は概ね緩やかに立ち上がっている。底面は概ね平坦であるが、南端部付近では一部段掘り状になっている。埋土は黒褐色粘質土の自然堆積土である。

【S D1240溝跡】(第89・90図)

41区南端部第VIII層上面で発見した東西溝跡である。検出した長さは約6.0mである。S K1241、S D1239・1243と重複しており、S K1241より新しく、S D1239・1243より古い。方向は、東で約6度南に偏している。規模は上幅2.9~3.7m、下幅2.5~2.9m、深さ30~40cmである。断面は浅い皿状を呈しており、壁は緩やかに立ち上がっている。底面には若干の起伏が見られ、東側から西側へ向かって傾斜している。比高差は約22cmである。埋土は3層に区分され、1層は砂を多量に含む黒褐色粘土であり、人為的な堆積土とみられる。2~3層は黒色粘土・黒褐色粘土の自然堆積土である。

【S D1239溝跡】(第90図)

41区南端部の第VII層上面で発見した南北溝である。検出した長さは約12.0mであり、南半部は東側へ湾曲している。S D1240・1243・1238と重複しており、S D1238より古く、S D1240・1243より新しい。規模は上幅1.0~1.2m、下幅0.7~0.9m、深さ6~12cmである。断面形は浅い逆台形を呈しており、壁は緩やかに立ち上がっている。底面は僅かに南側から北側へ傾斜しており、比高差は約11cmである。



第22図 S D1240断面図

【S D1243溝跡】(第90図)

41区南半部の第VII f層上面で発見した東西溝である。検出したのは6.0mであり、調査区外にさらに延びている。その北壁にS D1262南北溝が「T」字状に連結している。S B1242、S K1244と重複しており、S K1244より古く、ほかのものより新しい。方向は東で約5度北に偏している。規模は上幅1.5m、下幅1.2~1.4m、深さ18~24cmである。断面形は浅い逆台形を呈しており、壁は緩やかに立ち上がっている。底面は概ね平坦である。埋土は黒褐色粘質土の自然堆積土である。

【S D1262溝跡】(第90図)

41区南半部の第VII層上面で発見したS D1243溝跡に連結する南北溝である。約11.0m検出した。S D1240・1239、S K1241と重複しており、S K1241より新しく、ほかのものより古い。方向はおおよそ南北発掘基準線と一致している。規模は上幅0.8m、深さ3~23cmである。壁面は緩やかに立ち上がり、底面は起伏が著しい。埋土は2層に区分され、1層は砂粒を多量に含む黒褐色粘土、2層は褐灰色粘土であり、いずれも自然堆積土である。

【S D1255溝跡】(第90図)

41区南半部の第VII層上面で発見した東西溝である。長さ6.0m以上検出し、さらに調査区外に延びている。方向は東で約9度北へ偏している。規模は上幅0.4~0.8m、下幅0.4~0.7m、深さ3~5cmである。断面形は浅い皿状を呈しており、壁は緩やかに立ち上がっている。底面には若干の起伏が見られる。埋土は黒褐色粘土を主体とし、炭化物やにぶい黄色粘質土ブロックを多量に含んでいる。

【S D1291溝跡】(第92図)

20区南半部の第VII層上面で発見した南北溝である。検出した長さは約7.5mである。S K1307、S X1304小溝群と重複しており、それらより新しい。直線的に延びており、方向は北で約19度西へ偏している。規模は上幅1.0~1.3m、下幅0.4~0.5m、深さ25~28cmである。底面は概ね平坦であり、壁面は緩やかに立ち上がっている。埋土は3層に大別され、1層は黒褐色土、2層は黒褐色粘土、3層は地山粒を含む暗オリーブ褐色砂質土である。

【S D1287溝跡】(第92・93図)

20区南部の第VII層上面で発見した南北溝跡である。検出した長さは約6.2mである。SK1323と重複しており、それより古い。ほぼ同位置で5時期の重複がある(A→E期)。

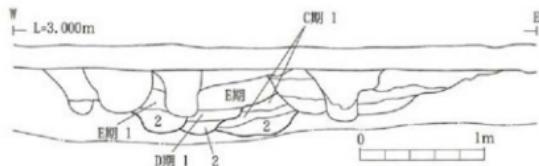
S D1287A: B期以降の破壊が著しく、長さ1.8m検出したのみである。残存部でみると北側から南西方向にかけて大きく屈曲している。規模は上幅0.2~0.3m、下幅0.1~0.2m、深さ12cmである。底面にはやや起伏があり、壁は緩やかに立ち上がっている。埋土は黒褐色土を主体とする自然堆積土である。

S D1287B: 方向は北で約8度東へ偏しており、直線的に延びているが、南端ではやや東側に屈曲している。規模は上幅0.4m、下幅0.1~0.2m、深さ19cmである。壁は緩やかに立ち上がっている。埋土は褐灰色粘土を主体とする自然堆積土である。

S D1287C: 方向は北半部では北で約15度東へ偏しているが、南半部ではやや西側に屈曲している。規模は上幅0.3~0.4m、下幅0.2~0.3m、深さ33cmである。底面は概ね平坦であり、壁は急に立ち上がっており。埋土は、1層が黒褐色および黄灰色砂質土、2層が黒褐色および褐灰色を主体とする粘質土である。

S D1287D: 方向は北半部では北で約15度東へ偏しているが、南半部ではやや西側に屈曲している。規模は上幅1.0m、下幅0.3~0.4m、深さ30cmである。壁は緩やかに立ち上がり。埋土は1層が少量の炭化物粒を含む黄灰色土、2層が少量の地山粒と少量の炭化物粒を含む黒褐色土である。

S D1287E: 方向は北で約12度東へ偏しており、南端部では西側に屈曲してSX1288に合流している。規模は上幅1.3~1.6m、下幅0.5~0.8m、深さ20cmである。底面は概ね平坦であり、壁は緩やかに立ち上がり。埋土は暗褐色砂質土および炭化物粒を含む黒褐色土である。



第23図 S D1287断面図

【S D1337溝跡】(第93図)

20区南部の第VII層上面で発見した南北溝跡である。検出した長さは約5.0mである。SK1336と重複しており、それより古い。方向は直線部分でみると、北で約35度東へ偏している。規模は上幅0.4~0.8m、下幅0.2~0.4m、深さ42cmである。断面形はU字形を呈し、底面はわずかに南側に傾斜している。埋土は1層が地山粒を少量含む灰黄褐色砂質土、2層が炭化物粒・地山ブロックを含む暗灰黄褐色砂質土である。

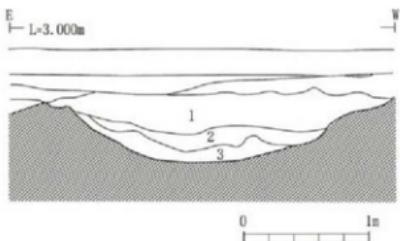
【S D1338溝跡】(第94図)

20区中央南部の第VII層上面で発見した東西溝跡である。方向は東で約1度南へ偏している。長さは東西3.0m以上あり、上幅0.4~0.5m、下幅0.2m、深さ25cmである。断面形はU字形を呈し、底面は平坦である。埋土は地山粒を含む灰黄褐色砂質土である。

【S D1350溝跡】(第96図)

20区中央北部の第VII層上面で発見した南北溝跡である。南半部は第VIe層に覆われている。長さ18.0m以

上にわたって検出した。方向は北で約8度西に偏している。SBI1393・1394、SX1351B・1375と重複しており、そのいずれよりも古い。規模は上幅1.8~2.1m、下幅0.6~0.8m、深さ40~60cmである。壁面は部分的に急なところもあるが概ね緩やかに立ち上がっている。底面は南へ傾斜しており、比高差は45cmである。埋土は3層に大別でき、1層が灰黄褐色砂（地山）ブロックを多量に含む人為的な埋土である。2層は黒褐色粘土、3層はオリーブ黒色砂を主体とするものである。



第24図 S D1350断面図

【S D1379】（第97図）

20区北半部のSX1351C埋土上面で検出した溝跡である。南北約12.0m検出した。SD1376と重複しており、それより古い。方向はSX1351と概ね同様である。規模は上幅0.6~0.9m、下幅0.3~0.5m、深さは西壁南側で15~33cmである。断面形は箱形であり、壁はほぼ垂直に立ち上がっている。埋土は炭化物粒を含む黒褐色粘土である。

【S D1376】（第97図）

20区北半部のSX1351C埋土上面で検出した溝跡である。南北約16.0m検出した。方向はSX1351と概ね同様である。規模は上幅0.6~0.9m、下幅0.2~0.5m、深さは30~35cmである。壁は垂直に立ち上がる部分や緩やかな部分があり一定ではない。埋土は黒褐色粘土である。

【S D1354】（第97図）

20区北半部のSX1351Dの埋土上面で検出した東西溝跡である。検出した長さは6.3mである。方向は東で約29度南に偏している。規模は上幅0.9~1.1m、下幅0.4~0.5m、深さ20~30cmである。断面形は下部がU字形を呈し、上部は緩やかに立ち上がっている。底面には起伏がある。埋土は1層が灰白色火山灰の自然堆積土、2層が灰黄褐色粘土である。

【S D1367溝跡】（第99図）

68区西半部の第VII層上面で発見した東西溝跡である。約1.5m検出したのみである。方向は東で約3度南に偏している。SD1372、SK1348と重複しており、それより古い。規模は上幅0.8~0.9m、下幅0.6~0.7m、深さ8cmである。断面形は浅い皿状である。底面は西へ傾斜しており比高差は5cmである。

【S D1372溝跡】（第99図）

68区西半部第VII層上面で発見した南北溝跡である。長さ3.0m以上で調査区南側にのびている。方向は北で約8度東に偏している。SD1367と重複しており、それより新しい。規模は上幅0.3m、下幅0.1~0.3m、深さ10cmである。壁は緩やかに立ち上がっている。底面はわずかに南側に傾斜しており、比高差は6

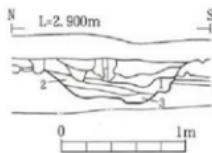
cmである。

【S D1420溝跡】(第100図)

69区西端部の第VII層上面で発見した「L」字状に屈曲する溝跡である。東西方向で約6.1m、南北方向で約2.9m検出した。S D1459・1464・1419と重複しており、S D1459・1464よりは新しく、S D1419より古い。方向は、南北方向は発掘基準線と一致しており、東西方向は西で約8度北に偏している。規模は上幅12~24cm、下幅7~13cm、深さ4~7cmである。底面は概ね平坦であり、比高差もほとんどない。壁は緩やかに立ち上がっている。埋土は炭化物を少量含む暗オリーブ褐色粘質土の自然堆積土である。

【S D1424溝跡】(第100図)

69区西端部の第VII層上面で発見した東西溝跡である。S K1415・1416、S D1422・1423と重複しており、S D1422より新しく、S K1415・1416、S D1423より古い。規模は上幅0.9~1.2m、下幅0.5~0.6m、深さ30cmである。断面形は逆台形を呈しており、底面は概ね平坦で、壁は緩やかに立ち上がっている。方向は西で約12度北に偏している。埋土は3層に区分され、1層はにぶい黄色粘質土ブロックを多量に含む暗灰黄色粘質土で、人為的に埋め戻されたものと考えられる。2層はにぶい黄色粘質土粒を少量含む灰黄褐色粘質土、3層は炭化物を少量含む黒褐色粘質土でいずれも自然堆積土である。



第25図 S D1424断面図

【S D1460溝跡】(第101図)

69区西半部の第VII層上面で発見した南北方向の溝跡である。ほぼ同位置で4時期の重複がある。直接の新旧関係が把握できないものがあり、①A a 1→A a 2→1460 A b→B、②A a 1→1460 A b→A a 2→B、③1460 A b→A a 1→A a 2→Bのような3通りの変遷案が想定される。

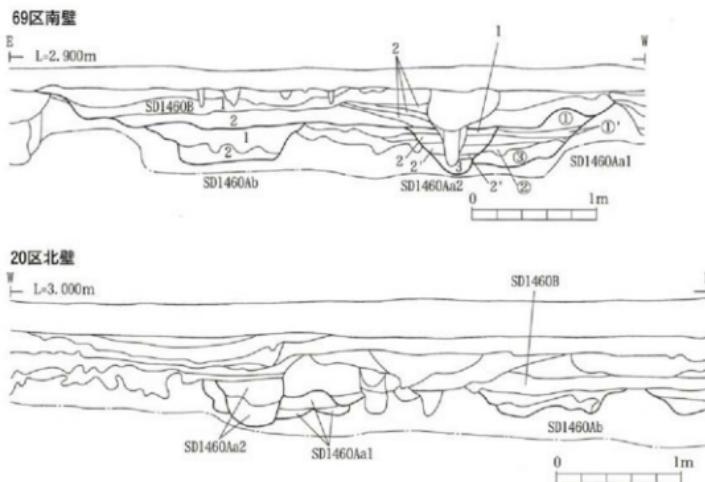
S D 1460 A a 1：最も西側にある溝である。A a 2より古いが、A bとの新旧関係は不明である。東側の壁をS D1460 A a 2に壊されており、残存している部分では上幅0.7m以上、下幅0.5m以上、深さ32~47cmである。方向は北で約7度東に偏している。底面は概ね平坦である。溝の中央より東側はS D1462に壊されて不明だが、西側ではやや急角度で立ち上がっている。底面は北側から南側に向かって緩やかに傾斜しており、比高差は15cmである。埋土は3層に大別できる。1層はにぶい黄色粘質土粒や炭化物を少量含む黒褐色粘質土であり、2層は暗灰黄色砂質土である。3層はにぶい黄色粘質土や砂のブロックを多量に含む黒褐色粘質土である。

S D1460 A a 2：上幅0.6~1.0m、下幅0.2~0.3m、深さ40cmである。方向は北で約6度東に偏している。断面形は緩やかな「U」字状を呈しており、底面は北側から南側へ向かって緩やかに傾斜している。その比高差は約4cmである。埋土は3層に区分され、1層はにぶい黄色粘質土ブロックを含む暗褐色粘質土、2層は炭化物やにぶい黄色粘質土粒を少量含む黒褐色粘質土、3層は砂のブロックを含む黒褐色粘質

土である。

S D1460A b : 上幅0.5~1.0m、下幅0.3~0.7m、深さ14~34cmである。方向は北で約11度東に偏している。断面形は逆台形を呈し、やや急角度で立ち上がっている。底面は北側から南側へ向かって傾斜しており、比高差は約18cmである。埋土は2層に分けられ、1層はにぶい黄色粘質土粒や炭化物を含む黒褐色粘質土である。2層は多量の砂粒を含む黄褐色砂質土である。

S D1460B : 古い3条の溝をすべて覆う、最も新しい段階の溝である。断面形は浅い皿状を呈し、規模は上幅4.0~4.1m、下幅3.2~3.7m、深さ10~30cmである。方向は北で約6度東に偏している。底面は北側から南側へ向かってやや傾斜しており、比高差は約8cmである。壁は緩やかに立ち上がっている。埋土は2層に区分され、1層は焼土や炭化物を含む黒褐色砂質土の自然堆積土である。2層は焼土や炭化物、にぶい黄色粘質土ブロックを含む黒褐色砂質土である。



第26図 SD1460断面図

【SD1414溝跡】(第102図)

69区東半部の第VII層上面で発見したL字状に屈曲する溝跡である。東西方向で約5.3m、南北方向で約1.0m検出した。S B1467・1468、SD1449・1464・1453・1431と重複しており、SD1449・1453より新しく、S B1467・1468とSD1431より古い。方向は、南北方向については概ね発掘基準線と一致しており、東西方向については西で約14度北に偏している。規模は上幅0.3~0.4m、下幅0.2~0.3m、深さ7~8cmである。底面は概ね平坦であり、比高差はほとんどない。壁は緩やかに立ち上がっている。埋土は黒褐色粘質土を主体とし、炭化物やにぶい黄色粘質土粒を少量含む自然堆積土である。

【SD1437溝跡】(第102図)

69区東半部の第VIIg層上面で発見した南北方向の溝跡である。長さ2.9mにわたって検出した。SD1412

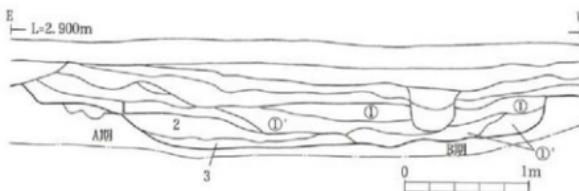
と重複しており、それより新しい。方向は北で約9度東へ偏している。規模は上幅0.3~0.4m、下幅0.2~0.3m、深さ12~14cmである。断面形は浅い皿状を呈しており、壁は緩やかに立ち上がっている。底面は概ね平坦である。埋土は黒褐色砂質土の自然堆積土である。

【S D1411溝跡】(第102図)

69区東半部の第VIIg層上面で発見した南北溝跡である。長さ約4.1m検出した。ほぼ同位置で2時期の重複がある(A→B期)。

S D1411A: 東壁から底部にかけて部分的に残存している。規模は上幅1.9m以上、下幅1.7m以上、深さ56cmである。底面は概ね平坦であり、壁は緩やかに立ち上がっている。埋土は3層に区分され、1層は黒褐色砂質土、2層はにぶい黄色粘質土ブロックを含む黒色粘質土、3層は黒褐色粘質土である。

S D1411B: 方向は、北で約8度東へ偏している。規模は、上幅2.4~2.7m、下幅1.6~2.2m、深さ26~54cmである。断面形は浅い逆台形を呈しており、壁は概ね緩やかに立ち上がっている。底部には若干凹凸がある。埋土は炭化物を含む黒色と黒褐色粘質土である。



第27図 S D1411断面図

【S D1412・1431・1470溝跡】(第102図)

69区東半部の第VIIg層上面で発見した南北溝と東西溝である。調査区北壁際にあるS D1470東西溝の南壁にS D1412・1431南北溝が連結するような状況で検出した。これらの関係については必ずしも明確でできなかつた。

S D1412: S D1440、SK1413と重複しており、S D1440より新しく、SK1413より古い。方向は北で約8度東へ偏している。規模は上幅1.2~1.5m、下幅0.5~0.7m、深さ21~42cmである。底面は北側から南側に傾斜しており、比高差は21cmである。壁は緩やかに立ち上がっており、底部から壁にかけて若干凹凸が見られる。埋土は4層に区分される。1層は褐灰色粘質土、2層はにぶい黄色粘質土ブロックを含む黒褐色砂質土、3層は多量の焼土を含む褐灰色粘質土、4層はにぶい黄色粘質土ブロックを少量含む黒褐色粘質土である。1層は自然堆積土、2・3層は人為的な堆積土と見られる。

S D1431: SB1466・1467と重複しており、それより古い。方向は北で約10度西へ偏している。規模は上幅0.7~0.9m、下幅0.3m、深さ38cmである。底面は北側から南側にやや傾斜しており、比高差は16cmである。断面形は概ね逆台形を呈している。底面から壁面にかけて若干凹凸が見られるものの、底面は概ね平坦である。埋土はにぶい黄色粘質土ブロックを多量に含む黒褐色粘質土である。

S D1470: 東西約11.0m検出した。方向は東で約3度南に偏している。規模は0.7~0.9mである。

【S D1440溝跡】(第102図)

69区東半部の第VII層上面で発見した北東一南西方向の溝跡である。検出した長さは約2.5mである。S K 1413、S D1412・1439と重複しており、それより古い。方向は北で約34度東へ偏している。規模は上幅0.7~0.9m、下幅0.5~0.6m、深さ9~18cmである。断面形は逆台形を呈し、壁は緩やかに立ち上がっている。底面は概ね平坦である。埋土は2層に分けられ、1層は炭化物やにぶい黄色粘質土粒を少量含む黒褐色粘質土、2層はにぶい黄色粘質土ブロックを含む黒褐色砂質土である。いずれも自然堆積土である。

9 土 壤

20区調査区全体で19基、18区で4基、41区で12基、69区で10基、68区で2基、合計47基発見した。以下、主なものについて説明する。

【S K1176土壤】(第82図)

18区西半部の第VII層上面で発見した。平面形は概ね方形であり、規模は一边約2.0m、深さ約30cmである。底面は平坦で、壁は急に立ち上がっている。埋土は黒褐色粘質土である。

【S K1178土壤】(第82図)

18区西半部の第VII層上面で発見した。S B1173と重複しており、それより古い。平面形は梢円形であり、断面形は浅い箱形である。規模は、長径0.8m、短径0.6m、深さ18cmである底面は平坦であり、壁は垂直に立ち上がっている。埋土は、1層が暗灰黄色粘土ブロックを含む黒褐色粘質土、2層が炭化物・木片や暗灰黄色粘質土を含む黒色粘土である。

【S K1179土壤】(第82図)

18区西半部の第VII層上面で発見した。平面形は概ね梢円形であり、断面形は浅い箱形である。規模は長径0.7m、短径0.6m、深さ14cmである。壁は急に立ち上がっている。埋土は暗灰黄色砂と黒褐色粘土ブロックを含む暗灰黄色粘土である。

【S K1181土壤】(第84図)

18区東半部のS K1182上面で発見した。S D1196・1194、S K1182と重複しており、それより新しい。平面形は梢円形であり、断面形は浅い皿状である。規模は長径3.1m、短径1.0m、深さ14~24cmである。底面に起伏があり、壁は緩やかに立ち上がっている。

【S K1216土壤】(第85図)

41区北半部の第VII層上面で発見した。西側は調査区外へ延びている。平面形は不整形であり、規模は長軸1.2m以上、短軸0.7m、深さ約28cmである。壁の東側はほぼ垂直に立ち上がっているが、西側では比較的緩やかである。底面には若干の起伏がみられる。埋土は3層に分けられ、1層は黒色粘土、2層は黒褐色粘質土、3層はにぶい黄色粘質土ブロックを少量含む黒褐色粘質土である。いずれも自然堆積土である。

【S K1215土壤】(第85図)

41区北半部の第VIIc層上面で発見した。S E1217、S K1218と重複しており、それより新しい。平面形は概ね方形であり、断面形は浅い櫛鉢状を呈している。規模は長辺1.4m、短辺1.0m、深さ約30cmである。埋土は黒褐色粘質土を主体とする自然堆積土である。

【S K1213土壤】(第85図)

41区北半部の第VII層上面で発見した。平面形はやや東西方向に長い梢円形であり、断面形は逆台形を呈している。規模は長径1.1m、短径0.6m、深さ22cmである。壁はやや急に立ち上がっている。埋土は3層

に区分され、1層は黒褐色粘質土、2層はにぶい黄色粘質土を含む黒褐色粘質土、3層はにぶい黄色粘質土ブロックを多量に含む黄灰色粘質土である。

【SK1218土壤】(第85図)

41区北半部の第VII層上面で発見した。平面形は南北に長い方形である。SE1217、SK1215と重複しており、それより古い。SE1217に大きく破壊されている。規模は長辺2.2m、短辺1.2m以上である。

【SK1224土壤】(第86図)

41区北半部のSX1227・2層上面で発見した。平面形は東西方向に長い方形である。規模は長辺1.0m以上、短辺0.7m、深さ11cmである。

【SK1223土壤】(第86図)

41区北半部のSX1227・2層上面で発見した。平面形はおおよそ方形であり、規模は長辺0.7m、短辺0.6mである。底面は概ね平坦であり、壁はほぼ垂直に立ち上がっている。埋土は黒色粘土の自然堆積土である。

【SK1222土壤】(第86図)

41区北半部のSX1227・2層上面で発見した。SD1221・1219と重複しており、それより新しい。平面形は概ね円形であり、断面形は逆台形である。規模は、直径約0.9m、深さ18~29cmである。底面は概ね平坦であり、壁はやや急に立ち上がっている。埋土は2層に区分され、1層はにぶい黄色粘質土ブロック、2層は砂のブロックを多量に含むオリーブ黒色粘土であり、いずれも人為的堆積土である。なお、底面のほぼ中央部から凝灰岩製の大型の砥石が出土した。

【SK1225土壤】(第86図)

41区北半部の第VII層上面で発見した。SD1226、SX1227と重複しており、それより古い。平面形は概ね円形であり、規模は直径2.3m、深さ45cmである。底面は南側がやや深くなっている。壁は概ね緩やかに立ち上がっている。埋土は黒色粘土やオリーブ黒色粘土の自然堆積土である。

【SK1231土壤】(第87図)

41区中央部の第VII層上面で発見した。SK1230と重複しており、それより古い。平面形は概ね梢円形であり、南北に長い。規模は、長径1.6m、短径1.0m、深さ4~14cmである。底面は若干凹凸があり、南側で最も深くなっている。壁は緩やかに立ち上がっている。埋土は4層に区分できる。1層は地山ブロックを多量に含む暗褐色粘質土であり、人為的な堆積土である。2~4層は黒色粘土が主体で炭化物や植物遺体を多量に含んでいる。

【SK1230土壤】(第87図)

41区中央部の第VII層上面で発見した。SK1231と重複しており、それより新しい。平面形は不整形であり、断面形は浅い掘り鉢状を呈している。規模は長軸1.3m、短軸1.0m、深さ18cmである。底面はやや凹凸があり、中央部で深く窪んでいる。壁は緩やかに立ち上がっている。埋土は2層に区分できる。1層は暗褐色粘質土を主体とし地山ブロックを小量含む人為的な堆積土であり、2層は黒色粘質土が主体で植物遺体を少量含む自然堆積土である。

【SK1292土壤】(第92図)

20区南半部の第VII層上面で発見した。平面形は梢円形であり、断面形は浅い皿状である。規模は長径0.9m、短径0.7m、深さ20cmである。埋土は炭化物、焼土粒、砂粒を含む黒褐色土である。

【S K1307土壤】(第92図)

20区南半部の第VII層上面で発見した。SD1291、SX1304と重複しており、SX1304より新しく、SD1291より古い。平面形は楕円形を呈し、規模は長径1.1m、短径0.6mである。底面は丸底状で、壁は内湾ぎみに立ち上がっている。埋土は1層が炭化物を含む黒褐色土、2層が炭化物を含む黄褐色砂質土、3層が砂粒・炭化物粒を含む暗灰黄色土である。

【S K1306土壤】(第92図)

20区南半部の第VII層上面で発見した南北に長い土壤である。主軸方向は北で約5度東に偏している。平面形は楕円形であり、断面形はU字形を呈している。規模は長径2.4m以上、短径上幅0.6m、下幅0.3m、深さ52cmである。埋土は1層が炭化物粒を含む黒褐色土、2層がにぶい黄褐色砂質土である。

【S K1320土壤】(第93図)

20区南半部の第VII層上面で発見した。SD1321と重複しており、それより古い。平面形は北半部が円形、南半部が方形を呈しており、断面形は浅い皿状を呈している。規模は長軸2.8m、短軸2.2m、深さ10~14cmである。底面には起伏がある。埋土は灰白色火山灰粒を含む黒褐色粘土質土である。

【S K1323土壤】(第93図)

20区南半部の第VII層上面で発見した。SD1287と重複しており、それより新しい。平面形は楕円形で、断面形は浅い皿状である。規模は長径0.9m、短径0.7m、深さ6cmである。埋土は多量の炭化物・焼土粒を含む黒褐色土である。

【S K1326土壤】(第93図)

20区南半部の第VII層上面で発見した。平面形はおおよそ円形を呈し、断面形は浅い皿状である。規模は直径約1.2m、深さ15cmである。底面には起伏がある。埋土は炭化物粒・黄褐色砂質土を含む灰黄褐色土である。

【S K1336土壤】(第93図)

20区南半部の第VII層上面で発見した。SD1337と重複しており、それより新しい。平面形は楕円形で、断面形は浅い皿状である。規模は長径1.6m、短径1.0m、深さ14cmである。底面は起伏があり、壁面は緩やかに立ち上がっている。埋土は1層が炭化物粒・焼土粒を含む黒褐色土、2層が炭化物粒・焼土粒・黄褐色砂質土を含む黒褐色砂質土である。

【S K1349土壤】(第93図)

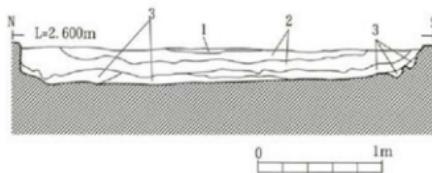
20区南半部の第VII層上面で発見した。SE1285、SK1352・1353と重複しており、SE1285より古く、SK1352・1353より新しい。平面形は方形であり、規模は長辺1.5m、短辺1.2m、深さ60cmである。壁面は、北辺と西辺は緩やかであるが、南辺と東辺は垂直に立ち上がっている。埋土は1層が砂粒を含む黒褐色粘土、2層が砂粒を含む黄灰色粘土、3層が砂粒を含む黒褐色粘土である。

【S K1353土壤】(第93図)

20区南半部の第VII層上面で発見した。SE1285、SK1349・1352と重複しており、それより古い。平面形は概ね楕円形であり、断面形は箱形である。規模は長径3.5m、短径2.3m、深さ1.2mである。底面は平坦で、壁は垂直に立ち上がっている。埋土は地山の砂粒をブロック状に含む黄灰色粘土であり、人為的な埋め戻しとみられる。

【SK787土壤】(第94図)

20区中央部の第VII層上面で発見した。平面形は梢円形であり、断面形は浅い皿状である。規模は長径3.3m、短径1.9m、深さ26~28cmである。埋土は1層が多量の炭化物を含む黒褐色土、2層が暗灰黄色粘土ブロックを含む黒褐色土、3層が暗灰黄色土および粘土ブロックを主体とする層である。



第28図 SK787断面図

【SK1333土壤】(第94図)

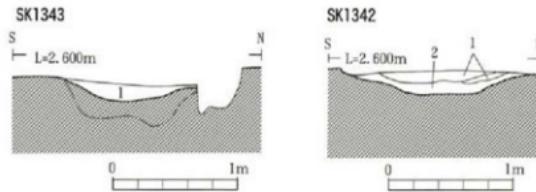
20区中央部の第VII層上面で発見した。西半部は調査区外にあり、北側と南側は搅乱によって破壊されているため平面形は不明である。断面形は浅い皿状である。規模は長軸2.8m以上、短軸1.6m以上、深さ5~8cmである。埋土は1層が炭化物粒を含む暗灰黄色土、2層が黄褐色砂質土である。

【SK1342土壤】(第94図)

20区中央部の第VII層上面で発見した。SK1341と重複しており、それより新しい。平面形は概ね梢円形であり、断面形は浅い皿状である。規模は長軸1.5m、短軸0.9m、深さ22cmである。壁面は緩やかに立ち上がっている。埋土は1層が多量の炭化物粒・焼土粒を含む暗黄褐色土、2層が黄褐色土ブロックを含む暗灰黄色土である。

【SK1343土壤】(第94図)

20区中央部の第VII層上面で発見した。小柱穴と重複しており、それより古い。平面形は概ね方形であり、断面形は浅い皿状である。規模は長辺1.8m以上、短辺1.3m、深さ18cmである。壁は底面から緩やかに立ち上がっている。埋土は炭化物粒・焼土粒を含む黒褐色砂質土である。遺物は、寶亀三年の漆紙文書が1点出土している。



第29図 SK1342・1343断面図

【SK1334土壤】(第94図)

20区中央部の第VII層上面で発見した。東側は調査区外に延びているが、平面形は東西に長い溝状を呈しており、断面形はU字形である。主軸方向は東で約24度南へ偏している。規模は、長径1.4m以上、短径

0.7m、深さ65cmである。底面は西に傾斜しており、両端部における比高差は16cmである。埋土は1層が炭化物粒を少量含む暗灰黄色砂質土、2層が炭化物粒を少量含む黒褐色砂質土、3層が焼土ブロック・炭化物粒を含む暗灰黄色砂質土、4層が地山粒・焼土粒を含む黒褐色土、5層が多くの植物遺体を含む黒褐色粘土、6層が地山粒を含む黄灰砂質土である。

【SK1385土壤】(第95図)

20区中央部の第VII層上面で発見した。SX1383と重複しており、それより古い。平面形は概ね円形であり、断面形は皿状で底面から緩やかに立ち上がっている。規模は長径1.2m、短径0.9m、深さ18cmである。埋土は1層が灰黒褐色土、2層が炭化物粒を含む暗灰黄色土、3層が黄褐色土地山ブロックを含む暗灰黄色粘土である。

【SK1386土壤】(第95図)

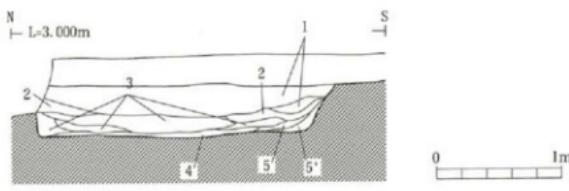
20区中央部の第VI層上面で発見した。SB1394と重複しており、それより新しい。平面形は概ね円形であり、規模は長径1.3m、短径1.0m、深さ42cmである。壁面は、西側は緩やかであるが、東側はやや急に立ち上がっている。埋土は、1層は多量の黄褐色土地山ブロックと炭化物を含む黒褐色粘土、2層は極めて多量の炭化物を含む黒色粘土、3層は黄褐色地山ブロックと多量の炭化物を含む黒色粘土である。

【SK1405土壤】(第95図)

20区中央部の第VI層上面で発見した。SK1350、SX1383と重複しており、SK1350より新しく、SX1383より古い。平面形は梢円形であり、規模は長径2.0m、短径1.1m、深さ40cmである。底面は起伏があり、壁は緩やかに立ち上がっている。埋土は1層が多量の炭化物を含む黒褐色土、2層が黄褐色土ブロックを含む黒褐色土である。

【SK1366土壤】(第99図)

68区西半部の第VII層上面で発見した。SD1367と重複しており、それより新しい。全体を検出できなかつたが、平面形は概ね梢円形であり、断面形は箱型である。規模は長径4.0m以上、短径2.3m、深さ40cmである。底面は平坦で、壁面は急に立ち上がっている。埋土は、1層が炭化物粒を少量含む黒褐色砂質土、2層が地山粒を含む暗灰黄色砂質土、3層が焼土粒・炭化物粒・地山粒を含む黒褐色土、4層が多量の炭化物・灰・木片を含む黒色粘土、5層が地山ブロックを多量に含む黒褐色土である。



第30図 SK1366断面図

【SK1348土壤】(第99図)

68区西半部の第VII層上面で発見した。平面形は概ね円形であり、規模は長径0.9m、短径0.7mである。断面形は浅い皿状であり、壁は底面から緩やかに立ち上がっている。遺物は、イノシシの下歯が出土している。

【S K1415土壤】(第100図)

69区西端部の第VII層上面で発見した。SD1424と重複しており、それより新しい。平面形は梢円形で、断面形は浅い皿状である。規模は、長径1.4m、短径1.3mである。壁は緩やかに立ち上がっている。埋土は2層に区分される。1層にはぶい黄色粘質土ブロックを含む黒褐色粘質土で人為的な堆積土であり、2層は炭化物を少量含む黒褐色砂質土の自然堆積土である。

【S K1416土壤】(第100図)

69区西端部の第VII層上面で発見した。SD1424と重複しており、それより新しい。平面形は梢円形で、断面形は浅い皿状である。規模は、長径1.7m、短径1.6m、深さは16cmである。壁は緩やかに立ち上がっている。埋土は2層に区分され、1層は黒褐色粘質土を主体とし、炭化物、焼土ブロックを含む人為的堆積土、2層は炭化物の自然堆積土である。

【S K1417土壤】(第100図)

69区西端部の第VII層上面で発見した。平面形は概ね梢円形を呈し、断面形は浅い皿状を呈している。規模は、長径1.1m、短径0.7m、深さ12cmで、壁は緩やかに立ち上がっている。埋土は2層に区分され、1層は黒褐色粘質土を主体とし、若干の炭化物を含む自然堆積土、2層は黄灰色粘質土を主体とし、にぶい黄色粘質土をブロック状に含む人為堆積土である。

【S K1418土壤】(第100図)

69区西端部の第VII層上面で発見した。平面形は概ね梢円形を呈し、断面形は浅い逆台形である。規模は、長径1.3m、短径0.8m、深さ24cmである。壁はやや急に立ち上がっている。埋土は2層に区分され、1層は黒褐色粘質土を主体とし、多量の炭化物を含む自然堆積土。2層は黒褐色粘質土を主体とし、若干の炭化物やにぶい黄色粘質土をブロック状に含む人為堆積土である。

【S K1425土壤】(第100図)

69区西端部の第VII層上面で発見した。平面形は方形であり、規模は長辺0.8m、短辺0.6m、深さ35cmである。底面が丸くぼんやり、壁はほぼ垂直に立ち上がっている。埋土は2層に区分され、1層は黒褐色砂質土、2層は黒褐色粘質土で、いずれもにぶい黄色粘質土ブロックを含む人為的堆積土である。

【S K1413土壤】(第102図)

69区東半部の第VII層上面で発見した。SD1412・1439・1440と重複しており、それより新しい。平面形はやや歪んだ梢円形であり、断面形は浅い皿状である。規模は、長径1.5m、短径1.1m、深さ13cmである。底面から壁面にかけて緩やかに立ち上がっている。埋土は炭化物を含む黒褐色砂質土の自然堆積土である。

【S K1448土壤】(第102図)

69区東半部の第VII層上面で発見した。SD1411と重複しており、それより新しい。平面形はおおよそ円形であり、規模は直径約0.6m、深さ23cmである。壁は上部では緩やかであるが、ほとんどの部分ではやや急角度に立ち上がっている。埋土は2層に区分され、1層は黒褐色粘質土を主体とし、焼土ブロックを多量に含む人為的堆積土、2層は褐灰色粘質土を主体とし、少量の炭化物粒を含む自然堆積土である。

【S K1450土壤】(第102図)

69区東半部の第VII層上面で発見した。調査区外にのびているため全容は不明であるが、平面形はおおよそ円形である。規模は直径約1.6m、深さ58cmであり、壁は底面からやや急角度に立ち上がっている。埋土

は4層に区分される。1層は黒色砂質土を主体とし、二次堆積した灰白色火山灰粒、焼土、炭化物などを少量に含む自然堆積土である。2層は黒色粘質土を主体とし、多量の炭化物粒や焼土を含む人為的堆積土。3層は粗砂を主体とする自然堆積土、4層は黒褐色～黒色粘質土を主体とし、にぶい黄色粘質土をブロック状に多量に含む人為的堆積土である。

【S D1602溝跡】(第103図)

110区の第VII層上面で発見した南北溝である。S D1600と重複関係があり、S D1600Bよりも新しく、S D1600Cとは合流する。規模は上幅1.0～1.8m、下幅0.7～1.1m、深さは40cmである。方向は北で約13度東に偏している。埋土は2層に分けられ、上層は黒褐色粘質土、下層は暗灰黄色砂である。遺物は須恵器杯（ヘラ切り）が出土している。

【S D1603溝跡】(第103図)

110区西半部の第VII層上面で発見した東西溝である。規模は上幅0.8～0.9m、下幅0.6m、深さは7cmである。方向は西で約7度北に偏している。遺物は出土していない。

【S D1604溝跡】(第103図)

110区中央部の第VII層上面で発見した南北溝である。規模は上幅3.7mである。方向は北で約6度東に偏している。遺物は出土していない。

10 河川跡

20区北半部と南端部、110区で発見した。蛇行する一連の河川と考えられるものである。

【S X1600河川跡】(第103図)

110区で発見した東西方向の河川跡である。3時期の変遷（A→C期）を確認した。方向は東で約15度南に偏している。以下、古い順に説明する。

S X1600A：規模は、上幅13.0m以上、深さ1.1m以上である。埋土は砂と粗砂の互層である。S D1604はこの時期に合流する。遺物は出土していない。

S X1600B：規模は、上幅13.5m以上、深さ0.9mである。壁は緩やかに立ち上がっている。埋土は黒褐色粘質土と砂の互層である。遺物は、人面墨書土器、木筒（第23号）、木製品（挽物皿・蓋、箸状製品、火鑽臼、ヘラ状製品、横櫛、檜扇、錘、人形、鐵形、刀形、舟形、箇、不明品）、漆紙文書が出土している。

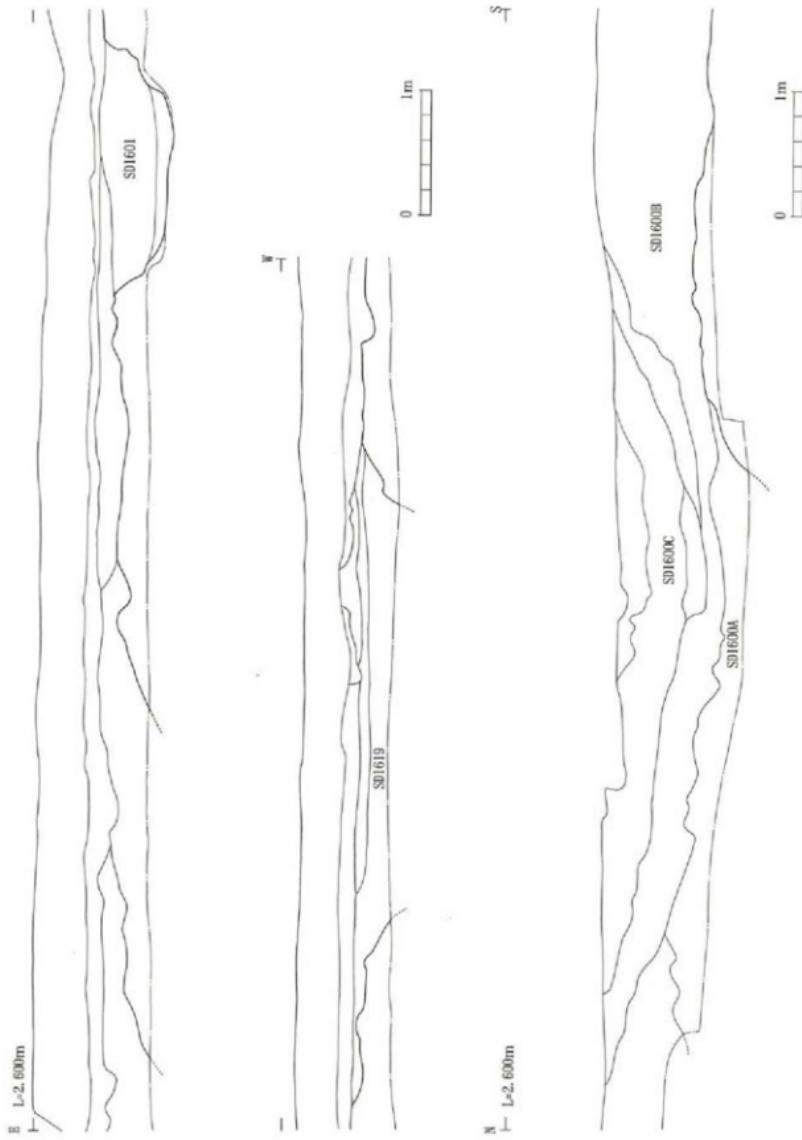
S X1600C：規模は上幅6.7m、下幅4.4m、深さ0.7mである。S D1601はこの時期に合流する。壁は緩やかに立ち上がっている。埋土は黒褐色粘質土である。この時期に伴う施設として、S D1601の下流において杭列を3条（杭列1～3）検出した。方向は流路とほぼ直交している。杭列1と杭列2の間にはしがらみが組まれており、S D1601の導水施設（堰）と考えられる。遺物は墨書土器、人面墨書土器、木筒（第19・25～27・29～37号）、木製品（挽物皿・高台付皿・蓋・合子、曲物、人形、斎申、錘、紡錘車、下駄、不明品）、鐵製品（鐵・釣針）などが出土している。

【S X1288溝跡】(第93図)

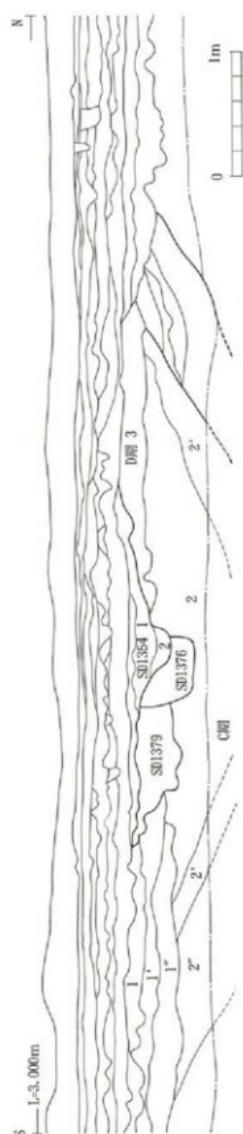
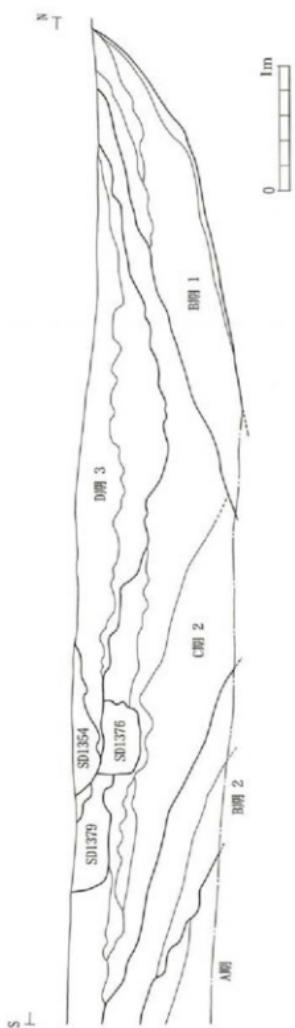
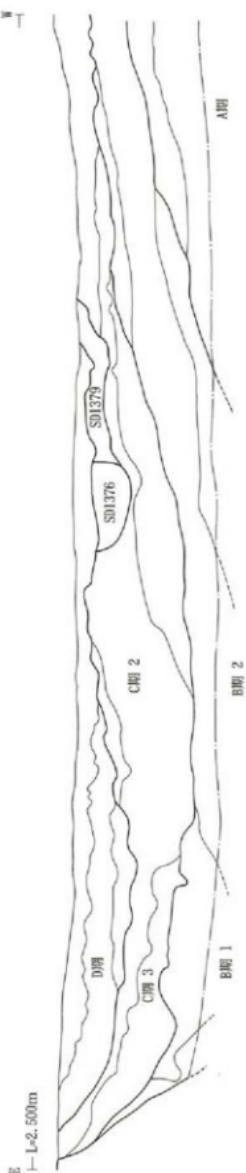
20区南半部の第VII層上面で発見した東西方向の河川である。その北岸を約5.0m検出したのみである。S D1287Eが合流しており、その約2.0m西側に設定したトレンチにおいて、深さは1.5m以上であることを確認した。

【S X1351河川跡】(第97図)

20区北半部の第VII層上面で発見した河川跡である。南北約36mの範囲において、大きく屈曲する部分を



第31图 S X 1600断面图



第32図 S-X1351断面図

検出した。4時期の流路に区分できる(A→D期)。

S X1351A : 南北約11.0mの範囲で検出した。位置的には最も西側に寄っており、東側はB期の流路によって大きく破壊されている。規模は幅2.8m以上、深さ1.1m以上である。埋土は黒色粘土の薄層が入る灰色粗砂である。

S X1351B : 南北約22.0mの範囲で検出した。本河川の北岸に接してS D1462があるが、新旧関係は明確にできなかった。南側はC期の流路によって大きく破壊されている。規模は、幅8.0m以上、下幅3.6m、深さは1.2~1.4mである。壁面は緩やかに立ち上がっている。埋土は2層に大別でき、1層は黒褐色粘土と砂の互層、2層は黒褐色粘土・粗砂・細砂の互層である。

S X1351C : 南北約20.0mの範囲で検出した。D期の埋土によってほぼ全面を覆われている。規模は上幅4.5~7.0m、下幅1.6~2.7m、深さは約1.1~1.3mである。壁面は概ね緩やかに立ち上がっているが、屈曲部における東岸はほぼ垂直に立ち上がっている(調査区東壁崩壊により確認)。埋土は2層に大別でき、1層は黒褐色粘土、2層は暗灰黄色砂・黒褐色粘土の互層である。南端部の壁面が立ち上がる部分において6本の杭列を発見した。杭は直径6~8cmであり、30~40cmの間隔で並んでいる。2層より木簡(第22・24・28・38号)や多数の墨書き器が出土した。墨書き器には「山田連」や多数の「山」がある。

S X1351D : 南北約20.0mの範囲で検出した。S X1303小溝群と重複し、それより古い。規模は上幅2.0~6.0m、下幅2.0~2.4m、深さ20~80cmである。底面には起伏があり、壁面は概ね緩やかに立ち上がっている。埋土は3層に区分され、1層は灰白色火山灰を含む灰黄褐色土層、2層は灰白色火山灰層、3層は炭化物粒を含む黒褐色粘土であり、木片を含んでいる。3層より木簡(第21号)が出土した。

【S X1464溝跡】(第100図)

69区西半部の第VII層上面で発見したおおよそ南北方向にのびる溝状の落ち込みである。調査区北西隅でその一部を検出したのみである。検出したのは上幅2.6mであるが、さらに西側に広がっている。方向は北で約24度東に偏している。S D1420と重複しており、それより古い。0.4mまで掘り下げたが、西側に向かってさらに深くなっている。埋土は、1層が暗灰黄色粘質土、2層が黒褐色粘土である。

11 その他の遺構

その他の遺構として、平面形が不整形で断面形が浅い皿状を呈する落ち込みや、小溝群などを検出している。小溝群は、20区南東部と北半部の河川跡南側の2ヶ所で発見している。

【S X1200曲物埋設遺構】(第84図)

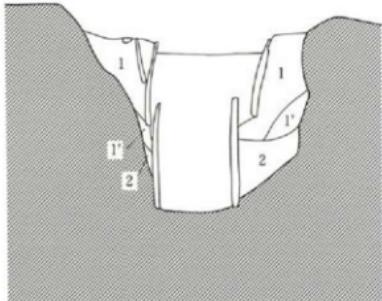
18区東半部の第VII層上面で発見した曲物埋設遺構である。掘り方の中に、底のない曲物を2段に重ねて埋設したものである。S K1183と重複しており、それより新しい。掘り方は、平面形が円形で、壁は北側がやや開き、南側はほぼ垂直に立ち上っている。規模は直径50~55cm、深さ40cmである。埋土は2層に大別でき、1層は灰黄褐色粘土ブロックを含む黒褐色粘土、2層は少量の黒褐色粘土を含むオリーブ黒色砂である。曲物は直径15cm、高さ22cmの小さなものを下に、直径25cm、高さ16cm大きなものを上にしている。曲物内埋土は黒褐色粘土である。

【S X778】(第82図)

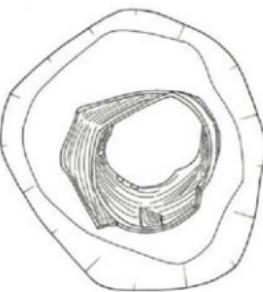
18区西半部の第VI層上面で発見した落ち込みである。S B1171、S D1184・1185、S K1177と重複しており、それより新しい。底面は起伏がある。規模は東西10.5m、南北4.0m以上、深さ7~18cmである。埋土は黒褐色粘質土を主体とする自然堆積土である。

SX1200

— L=2.300m



E22



50cm

第33図 SX1200平面図・断面図

【S X1177】(第82図)

18区西半部の第VI層上面で発見した落ち込みである。S D1187、S X778と重複しており、S X778より古く、S D1187より新しい。底面は概ね平坦である。規模は長径5.3m、短径2.5m、深さ15~26cmである。埋土は黒褐色土である。

【S X1182】(第84図)

18区東半部の第VIII層上面で発見した落ち込みである。S D1193・1194・1196、S K1181と重複しており、S D1196より新しく、他のものより古い。規模は長径3.7m、短径2.4m以上、深さ約20cmである。底面は起伏が著しい。埋土はにぶい黄褐色粘質土ブロックを含む黒褐色粘土である。

【S X1226】(第86図)

41区北半部の第VII層上面で発見した東西方向にのびる溝状の落ち込みである。東壁より約5.0m検出した。S K1225、S X1227 I・2層と重複しており、S K1225より新しく、S X1227 I・2層より古い。規模は上幅0.6~1.5m、下幅0.38~1.2m、深さ10~14cmである。底面は凹凸が著しく、壁も緩やかな部分と急角度に立ち上がる部分がある。埋土はオリーブ黒色粘土を主体とする自然堆積土である。

【S X1227】(第86図)

41区北半部の第VII層上面で発見した不整形の落ち込みである。S K1223・1222・1225、S D1221、S X1226と重複しており、S K1223・1222、S X1226より新しく、S D1221、S K1225より古い。規模は南北約10.0m、東西6.0m以上である。断面形は浅い皿状を呈しており、底面には中央部付近に起伏がある。埋土は3層に大別できる。1層は黒褐色粘土を主体とし、にぶい黄色粘質土小ブロックが混入している。2層は黒褐色粘土を主体とし、炭化物、にぶい黄色粘質土を多量に含む人為的な堆積土である。3層は黒褐色粘土である。

【S X1341】(第94図)

20区中央部の第VII層上面で発見した落ち込みである。S B1381、S K1342と重複しており、それより古い。規模は長径約4.4m、短径約4.1m、深さ約30cmである。埋土は、1層が黄褐色土ブロック・炭化物粒を含む黒褐色土および粘質土、2層が黄褐色砂粒と炭化物粒を含む黒褐色粘質土、3層が砂(地山)ブロックを含む黒褐色土である。

【S X1368】(第95図)

20区中央部の第VI層上面で発見した炭化物が堆積している落ち込みである。S K1386と重複しており、それより新しい。規模は長径約4.0m、短径約3.0m、深さ約10cmである。

【S X1383】(第95図)

20区中央部の第VI層上面で発見した炭化物が堆積する落ち込みである。S D1370、S K1385と重複しており、それより新しい。規模は長径約2.8m、短径約2.1m、深さ約10cmである。

【S X1384】(第95図)

20区中央部の第VII層上面で発見した落ち込みである。S B1395と重複しており、それより古い。規模は長径約3.2m、短径約2.6m、深さ約25cmである。埋土は少量の炭化物粒を含む灰黄褐色砂質土である

【S X1374】(第99図)

68区西部の第VII層上面で発見した炭化物が堆積している落ち込みである。規模は長径1.7m、短径1.2m、深さ10cmである。

【S X1319】(第85図)

41区北半部の第VII層上面で発見した南北方向の4条の小溝跡である。規模は、最も長いもので4.0m以上、幅24~42cm、深さ9~14cmである。方向は北で約21度東に偏している。埋土は黒褐色粘質土である。

【S X1339小溝群】(第90図)

41区南半部の第VII層上面で発見した南北方向の4条の小溝群である。S D1247、I248と重複し、それより新しい。規模は、最も長いもので5.9m、幅24~36cm、深さ2~6cmである。方向は北で約4度東に偏している。埋土は黒褐色粘質土である。

【S X1304小溝群】(第92図)

20区南半部の第VII層上面で発見した小溝群である。南北方向のものが18条、東西方向のものが3条ある。東西方向のものはおよそ中央部にあり、その南側と北側にそれぞれ南北方向のものがある。S E1332、S I281、S D1295と重複しており、S D1291より古く、ほかのものより新しい。

【S X1303小溝群】(第96図)

20区中央部において、河川跡周辺の第VII層上面で発見した小溝群である。南北方向のものが16条、東西方向のものが8条あり、新旧関係・方向・埋土の状況などからおよそ4時期に区分できる(a~d群)。S D1350、S X1351と重複しており、それより新しい。

a群:最も古い東西方向の小溝群である。方向は東で約16度南へ偏している。最も長いもので見ると、全長約5.8m、幅16~52cm、深さ2~9cmである。埋土は暗灰黄色粘土である。

b群:南北方向の小溝群である。方向は北で約12度東へ偏している。最も長いもので、7.2m以上、幅28cm、深さ7~11cmである。埋土は地山砂粒を含む暗黄褐色粘質土である。

c群:南北方向の小溝群である。方向は北で約22度東へ偏している。最も長いもので、約9.0m、幅18~

34cm、深さ5～13cmである。埋土は灰白色火山灰粒を含む暗灰黄色粘質土である。

d群：東西方向の小溝群である。S X1351と重複しているのはこの時期のものである。方向は東で約10度南へ偏している。最も長いもので、8.9m以上、幅16～44cmである。埋土は灰白色火山灰粒・炭化物粒・地山砂粒を含む黒褐色砂質土である。

【S X1498小溝群】(第101図)

69区西半部の第VII層上面で発見した小溝群である。南北方向のものが4条、東西方向のものが2条あり、南北方向のものが新しい。東西方向のものはS D1460と重複しており、それよりは古い。方向は東西方向のものは発掘基準線に平行しており、南北方向のものは北で約8度東へ偏している。南北方向のものについてみると、最も長いもので4.3m以上、幅26～42、深さ3～14cmである。東西方向は、最も長いもので8.8m以上、幅19～42cm、深さ3～6cmである。埋土はにぶい黄色粘質土粒、炭化物を含む黒褐色粘質土である。

【S X1499小溝群】(第102図)

69区東半部の第VII層上面で発見した小溝群である。南北方向のものが3条、東西方向のものが6条あり、南北方向のものが新しい。東西方向のものはS D1411と重複しており、それよりは古い。方向は東西方向のものは東西発掘基準線に一致しており、南北方向のものは北で4度西へ偏している。南北方向のものでみると、最も長いもので4.5m以上、幅14～28cm、深さ12～14cmである。断面形はU字状であり、埋土は炭化物を少量含む黒褐色粘質土である。東西方向のものは、最も長いものが1.2m以上、幅34cm、深さ6～7cmである。断面形はU字状であり、埋土は炭化物を少量含む黒色粘質土である。

【S X1289】(第95図)

20区中央部の第VIII層上面で検出したV字形の落ち込みである。方向は北辺では東で約43度北に、南辺では東で南へ約67度偏している。規模は上幅2.3～3.5m、下幅0.8～1.4m、深さ30～45cmである。底面、壁とともに起伏があり不規則である。埋土は3層に分けられ1層は少量の炭化物粒を含むオリーブ褐色砂質土、2層が少量の炭化物粒・地山粒を含む暗灰黄色砂、3層が少量の炭化物粒、砂ブロックを含む黒褐色砂である。

V 東半部で発見した遺構

1 遺構分布状況

「東半部」は広い78区を中心に、その北端部に115区、北東部に116区、さらにその北に79区がある。一方、78区の南側には東西方向の細長い調査区が3箇所あり、78区南端部に接して70区、その東側に71区、その南側に72区がある。

「東半部」の北東部に位置する79区は、その北東部に丘陵の一部が及んでおり、西側の低湿地に向かって緩やかに落ち込んでいく地形である。丘陵部から低湿地にかけて堅穴住居跡や掘立柱建物を発見した。

78区は南東部に低湿地がある。この低湿地に対しては、人為的な手がほとんど加えられていないが、北東部の東壁付近では地山の縁辺部にのみ狭い範囲で整地され、掘立柱建物がつくられている。北西部には10世紀以降に蓄積した第III層があり、115区に及んでいる。建物跡・井戸跡等は第III層と低湿地にはまれた地山部分に集中している。116区には79区から続く微高地があり、比較的安定した地盤となっている。この地区では低湿地から丘陵部にかけて整地地形を施している。東西大路東道路建設に係る地盤の嵩上げと見られる。70区は、中央部に溝や土壙が少数みられるが、西半部や東半部は河川の流路となっており、71区や72区は低湿地となっている。

2 層 序

第I層 表土。現代の水田層。

第II層 古代の遺構全体を覆う黒褐色粘質土・粘土である。70区、71区など南部の地区に厚く堆積している。

第III層 灰白色火山灰小ブロックを含む古代の堆積層。褐灰色粘土、オリーブ褐色粘土主体の堆積層である。78区から115区、70区から71区にかけて広く厚く分布している。

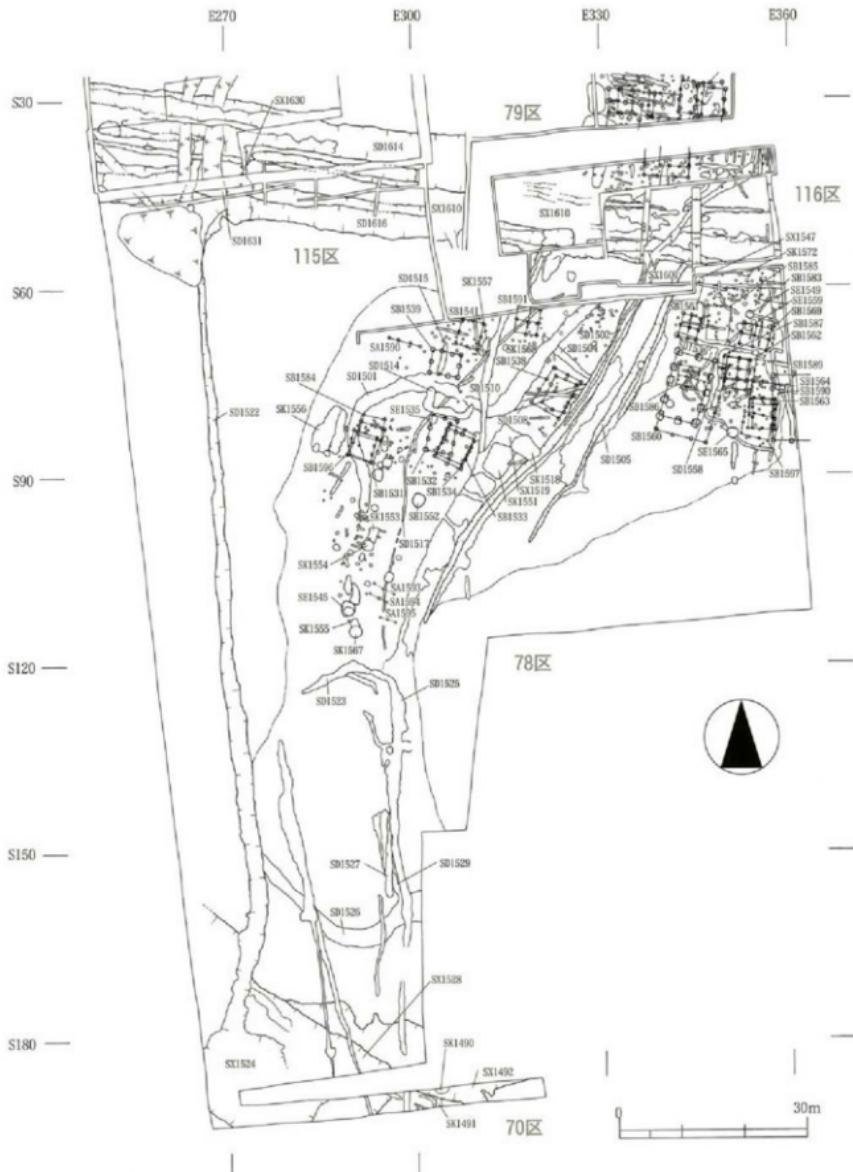
第IV層 10世紀前葉以降の堆積層。115区、78区、70区などに分布する黒褐色粘土・粘質土、オリーブ褐色粘土である。115区東西大路東道路C期の路面整地層は時期的にこの層に対応する。

第V層 10世紀前葉に降下した灰白色火山灰の純堆積層。115区、78区、79区の一部の遺構に見られる。115区東西大路東道路E期の側溝に厚く堆積している。

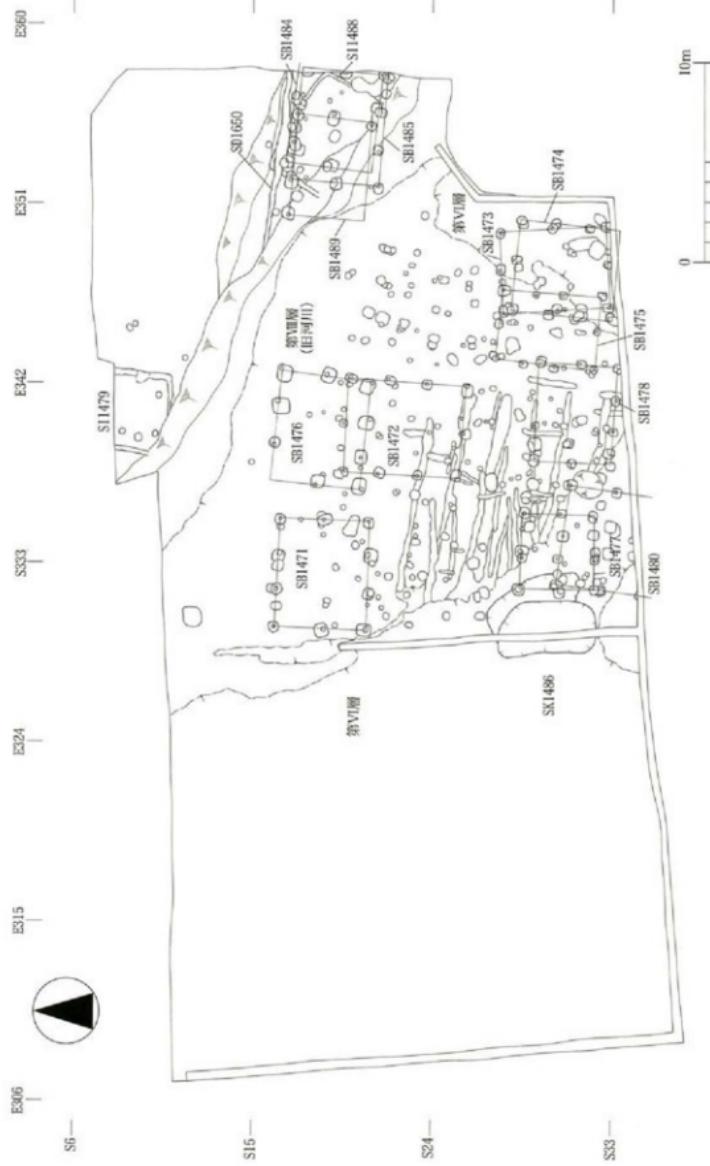
第VI層 10世紀前葉以前の堆積層。黒褐色粘質土である。79区西半、115区、78区84区南部に分布する。115区、116区の東西大路東道路E期の路面整地は時期的にこの層に対応する。

第VII層 地山直上に堆積する黒色粘土層。78区西半部から115区にかけて分布している。

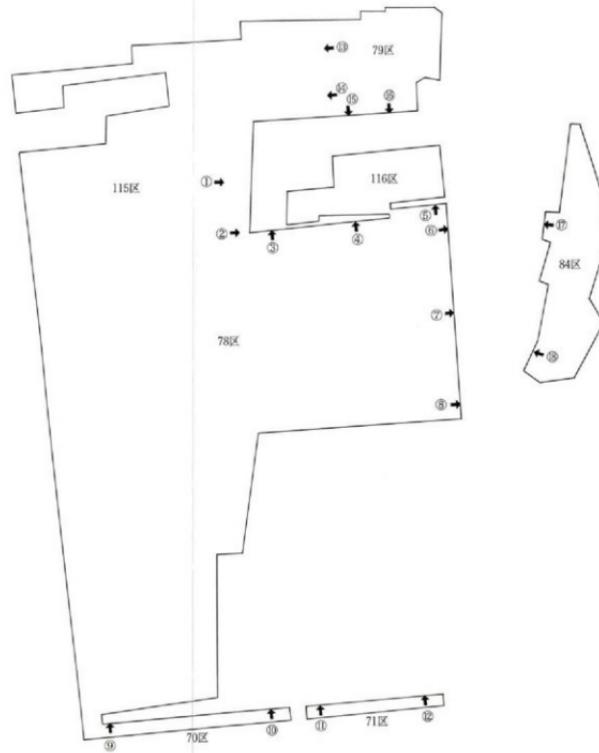
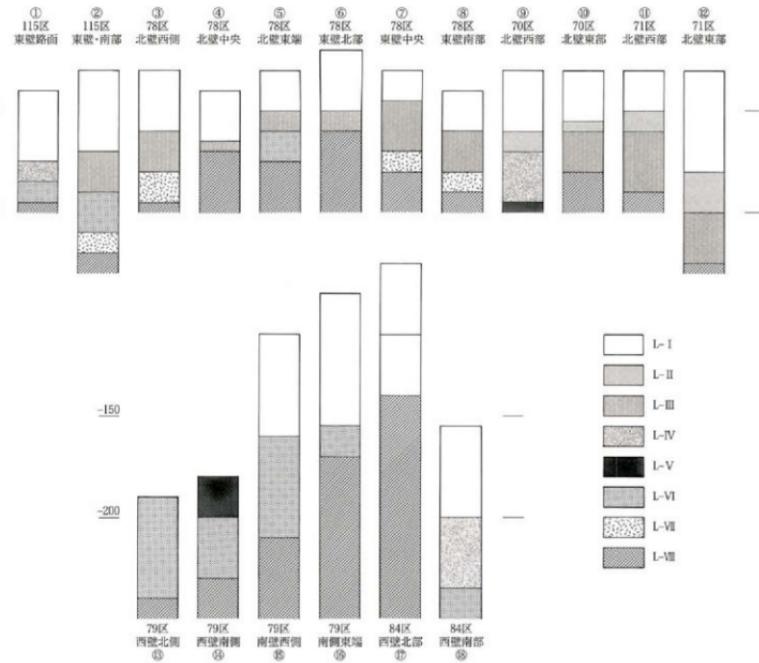
第VIII層 古代の遺構の基盤層。黄褐色砂質土、黄褐色砂である。古代以前の河川、亜泥炭層、丘陵部の岩盤も含む。亜泥炭層は78区東端、岩盤は79区東半に分布する。



第34図 東半部主要遺構位置図(1)



第35圖 東半部主要遺構位置圖(2)



第36図 東半部層序模式図

3 道路跡

【S X1610東西大路東道路】(第104・106図)

115区から116区にかけての東西大路延長線上で発見した素掘りの側溝を伴う道路跡である。約80mにわたって検出し、東3道路との交差点も確認した。路面は3時期、南北両側溝では各6時期の変遷があることが判明した。しかし、両側溝の対応関係が確認できたのは3時期のみであった。そのため、重複関係が明らかな南側溝を軸に6時期の変遷(A→F期)について説明する。

S X1610A：遺存している路面は地山であり、路面幅は6.0m以上である。南側溝は115区から116区にかけて確認した。6時期確認した側溝の中では最も北に位置する。規模は上幅1.2m、下幅0.3～0.6m、深さ45cmである。埋土は地山ブロックを多量に含む黒色粘質土である。方向は西で約8度北に偏る。底面レベルについてみると、116区東端では1.40m、115区東端では1.86mであり、西に46cm下っている。北側溝はSD1614a～c期がこの時期に伴うと考えられる。

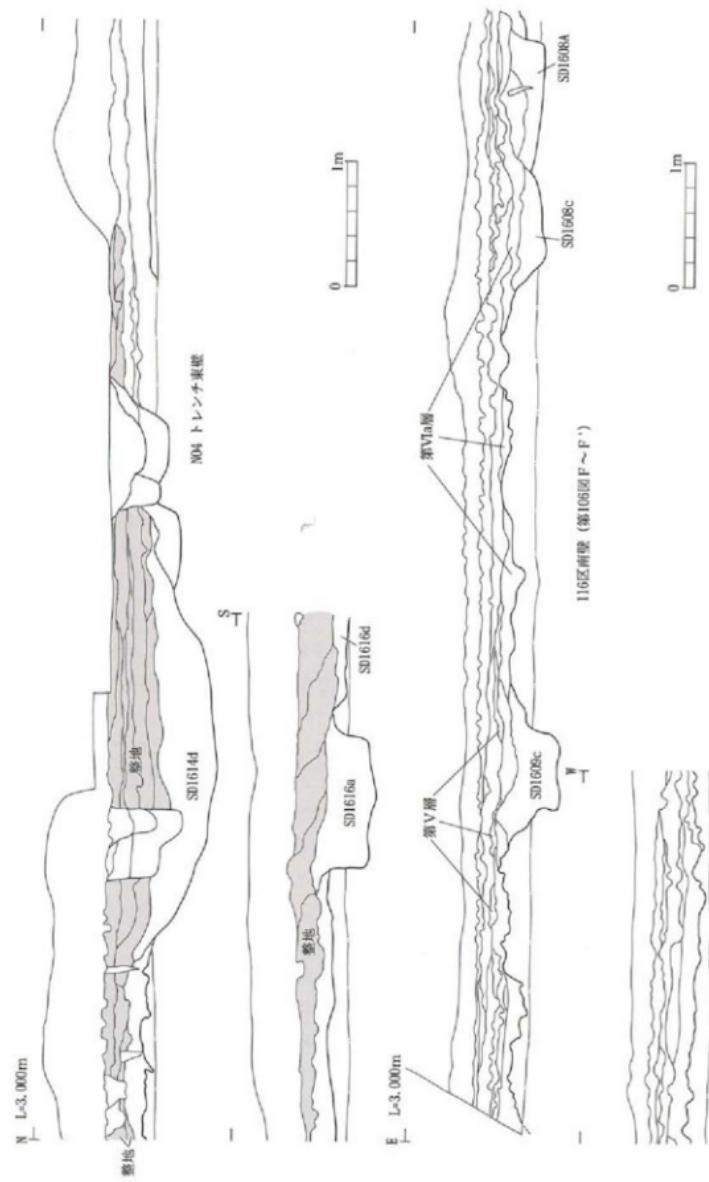
S X1610B：遺存している路面は地山であり、路幅は3.8m以上である。南側溝についてみると、規模は上幅1.7m以上、下幅1.2m、深さ70cmである。埋土は大きく3層に分けられ、1層は植物遺体を含む黒褐色土、2層は植物遺体を多量に含む黒褐色土、3層は地山ブロックを多量に含む黒褐色土である。115区東端部付近では護岸するための杭が打ち込まれていた。北側溝はSD1614a～c期がこの時期に伴うと考えられる。

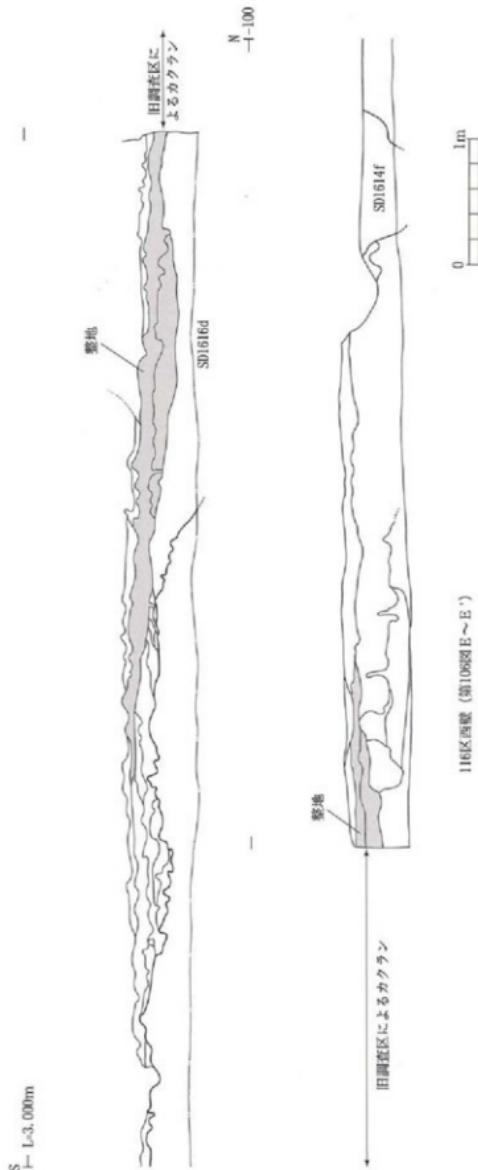
S X1610C：路面は整地地形を施している。116区ではこの整地は認められず、地山を路面としている。路幅は3.5m以上である。南側溝は115区から116区にかけて確認した。規模は上幅2.0～3.2m、下幅0.8～1.3m、深さは50～80cmである。壁は緩やかに立ち上がる。埋土は上層が黒褐色土を主体とし、下層は地山ブロックを含む黒色粘質土である。底面レベルについてみると、115区東端では1.12m、116区中央部では1.56mであり、西に44cm下っている。115区においては路肩に杭が多数打ち込まれており、護岸していた様子がうかがえる。北側溝については、どの時期の側溝がこれにあたるか不明である。北側溝はSD1614a～c期がこの時期に伴うと考えられる。

S X1610D：115区から116区にかけて検出した。規模は側溝心々間でみると11.80mであり、路幅でみると7.60mである。SD1631Aを伴う。南側溝(S D1616d)についてみると、規模は上幅2.0m、下幅1.20m、深さは85cmである。埋土は地山ブロックを多く含む黒褐色粘質土である。底面レベルについてみると、115区東端では1.12m、116区中央部では1.74mであり、62cm西に下っている。北側溝(S D1614d)についてみると、規模は上幅4.7m、下幅4.1m、深さ52cmである。埋土は地山ブロックを含む黒褐色粘質土である。底面レベルについてみると、115区東端では1.20m、116区西端では1.74mであり、西に54cm下っている。

S X1610E：115区から116区中央部にかけて確認した。路面及び南北両側溝を両地区で確認できたのはこの時期のみである。115区中央部から116区中央部までの路面はC期の側溝及び路面を黒褐色粘土、黄褐色砂、丘陵部の岩盤ブロックで整地して造成しているが116区の東側では整地は認められず地山が現れている。規模は側溝心々でみると、115区では10.5m、116区では11.5mである。路幅でみると、115区では4.5～6.0m、116区では9.5mである。南側溝についてみると、115区では良好な状態で残存していたが、116区では東になるほど浅くなり、中央部付近から東側では確認できなかった。かなり削平されているものと考えられる。規模は115区でみると、上幅2.0m、下幅1.2m、深さ75cm、116区西端でみると、上幅0.6m以

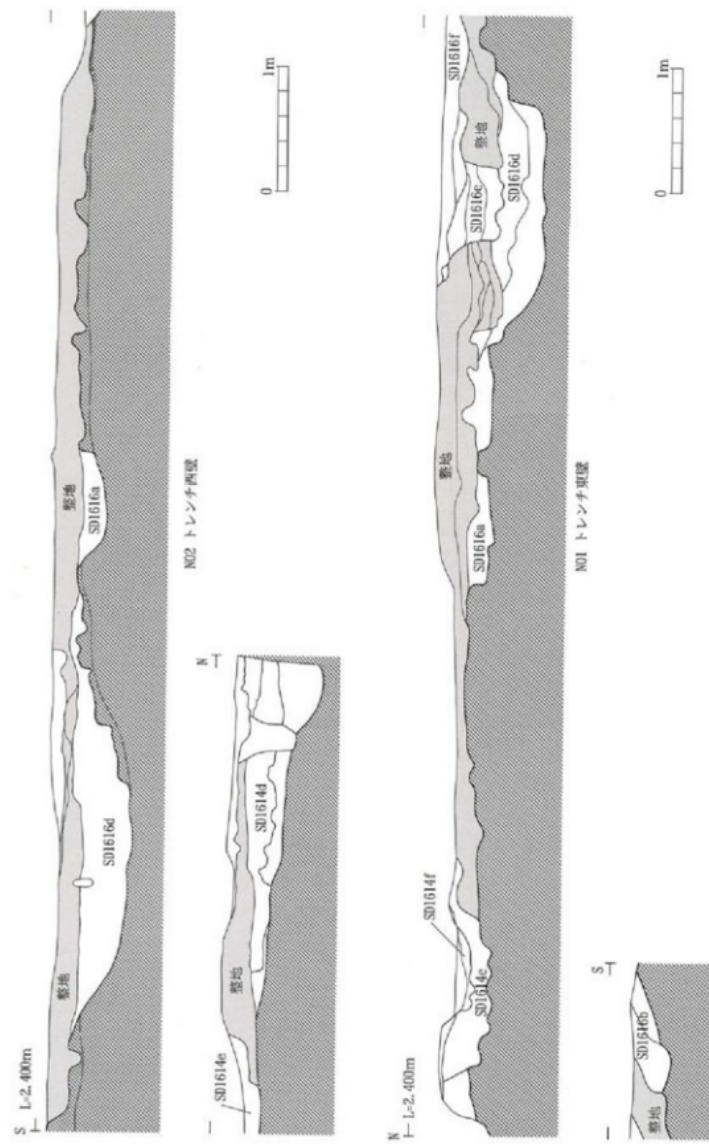
第37図 116区断面図(1)



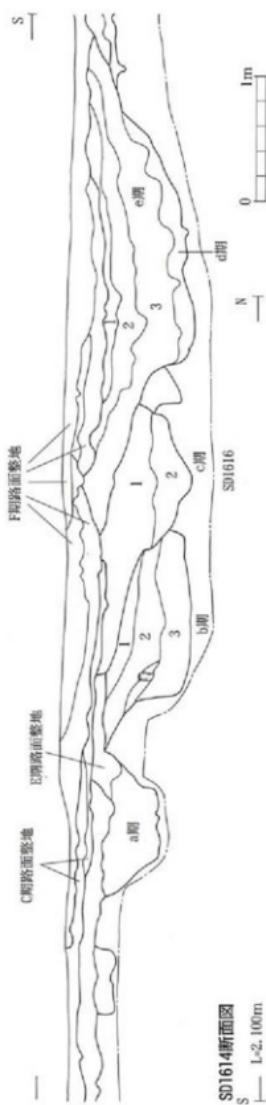


第39図 116K断面図(2)

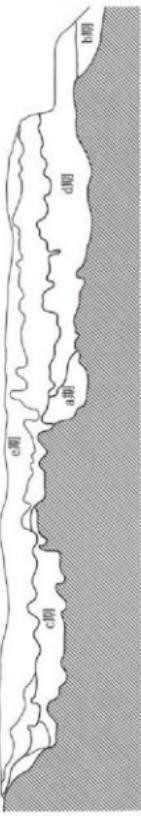
第39図 SX1610号溝断面図(1)



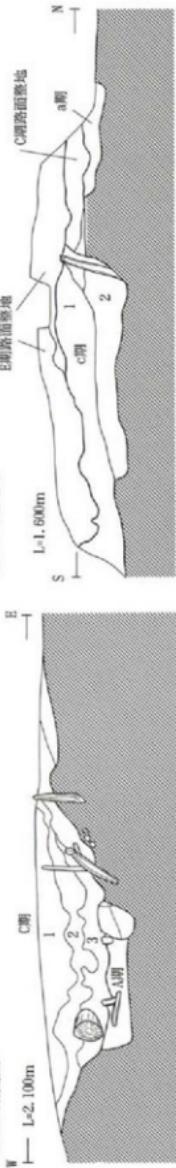
SX1610
N
— L=2.400m



SD1614断面図
S
— L=2.000m



SD1616断面図
S
— L=1.000m



第40図 SX1610断面図(2)

上、深さは48cmである。埋土は3層に分けられ、1層が灰白色火山灰を少量含む暗オリーブ褐色土、2層が灰白色火山灰の自然堆積土、3層が黒褐色土である。側溝の底面レベルは、115区東端では1.20m、116区西端では1.73mであり、西に61cm下っている。北側溝についてみると、南側溝同様に115区では良好に残存していたが、116区においては東側ほど浅くなり、中央部から東側では確認できなかった。規模は115区では上幅8.7m、下幅2.5m、深さ65cm、116区西端では上幅1.2m、深さ40cmである。埋土は2層に分けられ、1層が灰白色火山灰の自然堆積土、2層が黒褐色土粘質土である。底面レベルについてみると、115区西端では1.40m、116区西端では1.75mであり、西に35cm下っている。

S X1610F：115区東端から116区にかけて確認した。遺存する路面は、115区東端では整地地形が施されているが、116区では整地地形は確認できなかった。規模は両側溝を確認できた116区でみると、側溝心々間で6.7m、路面幅は5.2mである。南側溝は上幅1.3～2.3m、下幅0.3～0.7m、深さ20cmであり、埋土は暗灰黄色粘質土である。底面レベルについてみると、西端では2.03m、東端では1.88mであり、西に15cm下っている。北側溝は上幅0.4～1.3m、深さ25cmであり、埋土は暗灰黄色粘質土である。底面レベルについてみると、西端では2.39m、東端では1.88mであり、西に51cm下っている。

S D1616南側溝：6時期の変遷（a→f期）を確認した。新しくなるにつれて南へと移動している。e期の埋土上層に灰白色火山灰が自然堆積している。遺物は土師器杯・甕、須恵器杯・甕・長頸瓶・瓶、墨書き土器、人面墨書き土器、木製品（挽物皿・曲物・箱・檜扇・人形・絵馬・錘・栓）、木簡（第9号）、金属製品（釘、紡錘車、刀、刀子、獸脚、不明製品）が出土している。

S D1614北側溝：6時期の変遷（a→f期）を確認した。a・b期についてはd期より古く、c期についてはe期より古い。また、a・b期とc期との新旧関係は不明である。e期の埋土上層に灰白色火山灰が自然堆積している。遺物は土師器杯・甕、須恵器杯・甕・瓶、墨書き土器、人面墨書き土器、木製品（挽物皿・高台付皿・曲物・下駄・人形・斎串・馬櫛・漆器箱・不明製品）、横笛、木簡（第8・10～13・15・16号）、金属製品（鉄鎌）が出土している。

【S X1607東3道路】（第106図）

78区から116区にかけての第VII層上面で確認した素掘りの側溝を伴う南北道路である。多賀城外の方格地割りの中で最も東側に位置する。S D1504とS X1547、S K1518と重複があり、S D1504よりも新しいがS X1547、S K1518よりも古い。第VIa層に覆われる。116区では東西大路東道路との交差点を確認した。3時期の変遷があり、方向は北で32度東に偏している。以下古い順に説明する。

A期：西側溝のみ確認した。S X1610東西大路東道路B期と接続する。上幅0.8m以上、下幅0.3～0.7m、深さ46cmである。方向は北で約30度東に偏する。埋土は2層に分けられ、1層はにぶい黄褐色粘質土ブロックを含む黒褐色土、2層は灰黃褐色粘質土である。

B期：路面は地山である。路幅は側溝心々間で4.9mである。西側溝は23m検出し、上幅0.30～0.80m、下幅0.25～0.70m、深さ40cmである。底面レベルについてみると、北端が1.93m、南端が2.03mであり、10cm北に下っている。

C期：路面は地山である。S X1610東西大路東道路D期に接続する。路幅は側溝心々間で5.7mである。東側溝は49m検出し、上幅0.40～1.50m、下幅0.20～1.10m、深さ40cmである。埋土はオリーブ黒色粘質土である。底面レベルについてみると北端が1.78m、南端が1.95mであり、北に17cm下っている。西側溝は67m検出した。直線的ではなく、南半部でやや西側にふくらむ。規模は上幅0.95～1.05m、下幅0.7～

0.9m、深さ32cmである。底面レベルについてみると、北端では1.96m、南端では2.14mであり、北に18cm下っている。

D期：東側溝を約20m検出したのみである。S X1547に棲され、東西大路東道路まで確認できない。

【S D1631溝跡】(第104図)

東西大路東道路を横断する溝跡である。2時期の変遷を確認した。S X1630橋跡を伴う。以下、古い順に説明する。

S D1631A：東西大路東道路南側溝 S D1616d・北側溝 S D1614dと連続する時期である。規模は上幅3.3m、下幅1.0m、深さ24cmである。埋土は暗オリーブ褐色土である。遺物は墨書き土器、人面墨書き土器、製塙土器、木製品(挽物皿)、金属製品(釘、不明製品)が出土している。

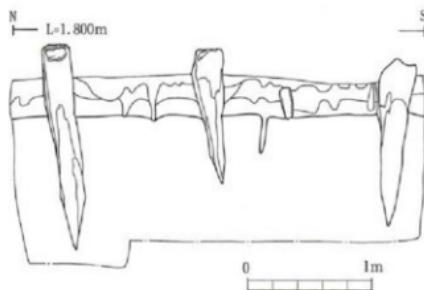
S D1631B：埋土の一部を検出したにすぎないが、S D1616と合流することを確認した。埋土は、木片を多く含む黒褐色砂質土である。

S D1631C：6.0m検出した。S D1616eよりも新しい。規模は上幅3.9m、下幅1.3m、深さ65cmである。埋土は3層に分けられ、1層が黄灰色粘質土、2層がにぶい黄色砂、3層が黒褐色粘質土である。底面には石が多く置かれていた。遺物は墨書き土器、人面墨書き土器、灰釉陶器、製塙土器、竈形土器、木製品(挽物皿・漆器)、金属製品(刀・刀子・鎌・釘)などが出土している。

4 橋 跡

【S X1630橋跡】(第105図)

東西大路東道路を横断するS D1631溝跡内において橋脚と考えられる打ち込み式の柱列1条を検出した。S D1631の規模から推定すると、規模は桁行2間(約5.0m)、梁行2間(2.70m)であり、橋脚は直径25~30cmである。橋脚は地山面から0.6~1.1m打ち込まれていた。この他にもこれよりも小規模な杭を多数発見していることから、数時期の変遷があると考えられる。



第41図 S X1630橋脚立面図

5 掘立柱建物跡

【S B1538建物跡】(第110図)

78区西半部の第VII層上面で発見した桁行3間、梁行2間の南北棟掘立柱建物である。

ほぼ同位置で二時期の重複がある。S D1507・1508・1509と重複しており、それより新らしい。

S B1538A：柱穴は10基すべて発見しており、南東隅柱、東側柱列の南から1間目では直径12~19cmの柱材が残存していた。北西隅、南西隅、西側柱列の南から1間目の柱穴では柱痕跡を確認した。そのほかの柱穴では抜取り穴を確認した。方向は西側柱列でみると、北で27度5分東へ偏している。桁行については、西側柱列で4.92m、柱間は南より1.62m、約1.7m、約1.6mである。梁行については、北妻で約3.6m、柱間は西より約1.8m、約1.8mであり、南妻で3.87mである。柱穴の平面形は概ね方形を基調としており、規模は長辺で44~61cm、短辺34~54cm、深さは19~42cmである。埋土は、にぶい黄色粘質土と砂質土ブロックを多量に含む灰色・黒色粘土である。南東隅柱では礎板を確認した。柱痕跡は直径16~18cmであり、埋土は黒色粘土である。

S B1538B (S B1537)

A期より北・南・西側の三方に拡張して建て替えたものである。東側柱列の南から2間目の柱穴でB期との新旧関係を確認した。柱穴は10基すべて発見しているが、ほとんどが抜取られており、柱痕跡を確認できたのは北妻の両隅柱のみである。方向は、北妻でみると東で30度南に偏しており、東側柱列でみると北で約31度東へ偏している。桁行については、東側柱列で約6.8m、柱間は南より約2.2m、約2.2m、約2.4mである。梁行については、北妻で4.96m、柱間は西より約2.6m、約2.3mである。柱穴の平面形は概ね方形を基調としており、規模は長辺43~59cm、短辺38~50cm、深さは17~46cmである。埋土は、にぶい黄色粘質土や砂のブロックを多量に含む黒褐色・黒色粘土である。南東隅柱、南妻棟通、東側柱列の南から1間目、西側柱列の南より1間目で礎板を確認した。柱痕跡は直径10~15cmであり、埋土は黒褐色粘土である。

【S B1561建物跡】(第112図)

78区東半部の第VII層上面で発見した桁行2間、梁行2間の南北棟総柱式掘立柱建物である。S D1536と重複しており、それより新らしい。柱穴は9基すべて発見し、北東

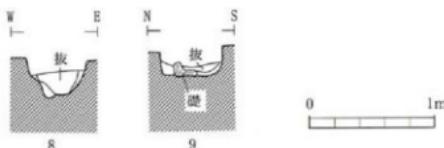
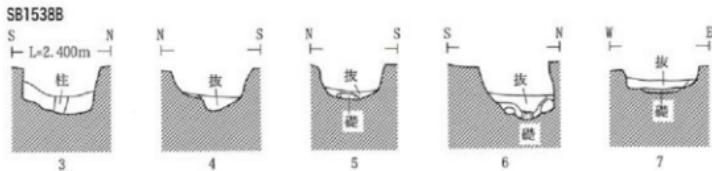
隅柱、東側柱列南から1間目、南妻棟通など抜取られているもの以外で柱痕跡を確認した。北西隅、西側柱列の1間目、中央の柱穴では柱材が良好に残存していた。方向

は、西側柱列でみると北で14度33分東へ偏している。桁行については、西側柱列で3.50m、柱間は南より1.63m、1.87mである。梁行については、北妻で約2.7m、柱間は西

より1.36m、約1.4mである。柱穴の平面形は方形を基調とし、規模は長辺38~60cm、短辺37~50cm、深さは16~40cmである。埋土はにぶい黄色粘質土（地山）小ブロックや炭化物を含む黒褐色粘質土である。柱

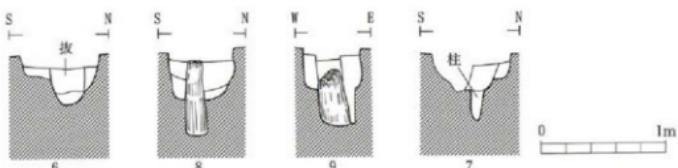
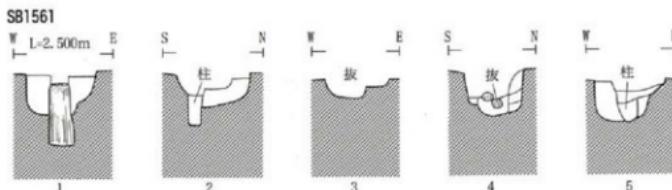
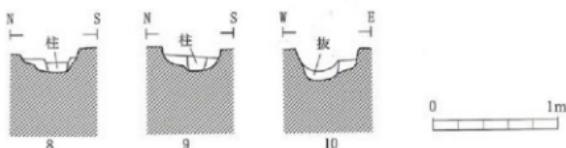
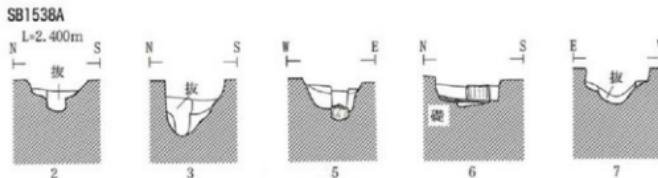
痕跡は直径12~16cmであり、埋土は黒褐色粘土である。柱材は直径18~24cm、長さ43~60cmであり、掘り方底面から26~30cm沈み込んでいる。本建物は、抜取り穴や切取り穴に炭化物が多量に認められ、焼失した可能性がある。





凡例

- 柱穴の番号：検出できたものについてのみ北西のものから順に付した。
- 建物模式図：●—柱痕跡を確認できたもの、○—柱痕跡を確認できなかったもの
- 柱穴断面図：柱—柱痕跡、抜—抜取り穴、置—置板



第42図 SB1538A・1538B・1561柱穴断面図

【S B1532建物跡】(第107図)

78区西半部の第VII層上面で発見した桁行3間、梁行2間の南北棟掘立柱建物跡である。南妻は3間であるが、西から1間目が小規模な間柱的なものである。S B1533・1534、S E1535と重複しており、S E1535に北西隅柱を破壊している。S B1533・1534との関係は不明である。柱穴は北西隅柱をのぞく10基を発見した。南東隅柱、南妻の柱穴では柱材が残存しており、東側柱列の南から1・2間目、南西隅、南妻西より1間目では柱痕跡を確認した。そのほかの柱穴では抜取り穴を確認した。方向は、南妻でみると東で7度47分南へ偏している。桁行については、東側柱列で約5.3m、柱間は南より1.76m、1.50m、約2.0mである。梁行については、南妻で4.21m、柱間は西より1.40m、1.41m、1.40mであり、北妻は棟通と隅柱の間が約2.2mである。柱穴の平面形は方形を基調としており、規模は長辺50~81cm、短辺51~67cm、深さは19~47cmである。埋土は、にぶい黄色粘質土ブロックを含む黒褐色粘土と黒色粘土ブロックを含む黒色砂の互層であり、版築状になっている。南妻の間柱は平面形がおおよそ方形であり、規模は長辺38cm、短辺35cmである。柱痕跡は直径14cmであり、側柱等と比較して小規模である。北東隅柱では礎板を確認している。柱痕跡は直径14~22cmであり、埋土は黒褐色、オリーブ黒色粘土である。柱材は直径14~16cm、長さ8~63cmである。

【S B1533建物跡】(第107図)

78区西半部の第VII層上面で発見した桁行3間、梁行2間の南北棟掘立柱建物跡である。北東隅柱は攪乱によって一部破壊されているが、柱穴は10基すべて発見した。多くの柱は抜取られており、柱痕跡を確認できたのは、北妻棟通と南東隅柱穴の2基のみである。S B1532、S B1534と重複しており、新旧関係はいずれとも不明である。方向は、西側柱列でみると北で約28度東へ偏している。桁行については、西側柱列で約4.8m、柱間は南より約1.4m、約1.7m、約1.7mである。梁行については、南妻で約4.5m、柱間は西より約2.2m、約2.3mである。柱穴の平面形は方形を基調としており、規模は長辺47~72cm、短辺43~63cm、深さは16~26cmである。埋土は、オリーブ褐色・暗灰黄色砂質土で、黒褐色粘土をわずかに含んでいる。柱痕跡は直径16~20cmで、埋土は暗オリーブ褐色粘土である。

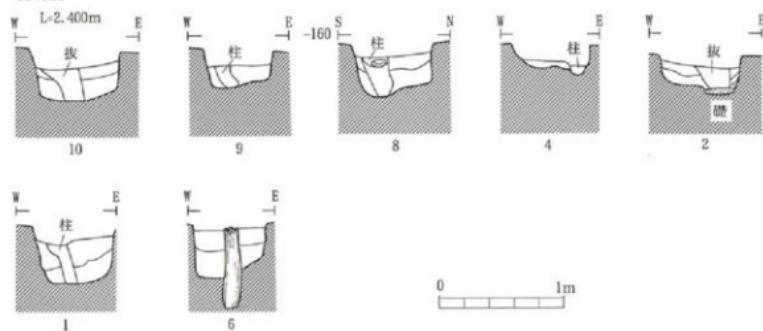
【S B1534建物跡】(第107図)

78区西半部の第VII層上面で発見した桁行3間、梁行2間の南北棟掘立柱建物跡である。S B1532・1533と重複しているが、新旧関係は不明である。柱穴は、北東隅柱が攪乱で破壊されており、ほかの9基を発見した。南西隅柱、南妻棟通、西側柱列の南から2間目、東側柱列の南から1間目の各柱穴では柱材が残存しており、北妻では柱痕跡を確認した。南東隅柱では抜取り穴を確認した。方向は、西側柱列でみると北で23度57分東へ偏している。桁行については、西側柱列で4.90m、柱間は南より1.76m、1.50m、1.64mである。梁行については、南妻で約4.3m、柱間は西より2.05m、約2.2mである。柱穴の平面形は方形を基調としており、規模は長辺35~51cm、短辺31~48cm、深さは19~40cmである。埋土は、黒褐色粘土ブロックを含む灰色砂質土である。柱痕跡は直径12~16cmの円形であり、埋土は黒褐色粘土である。柱材は直径10~16cm、長さ12~42cmである。

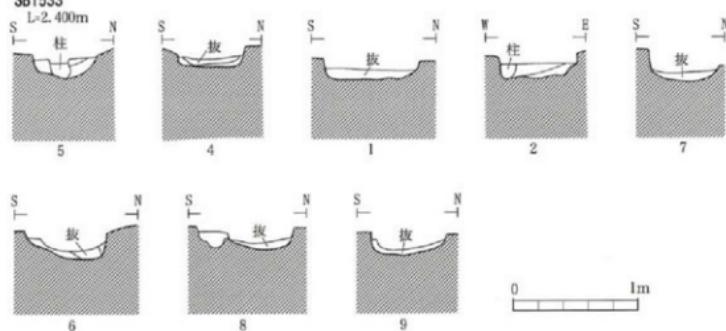
なお、本建物はS B1533と両柱列がおおよそ重複しており、南北に位置をずらして建て替えた可能性がある



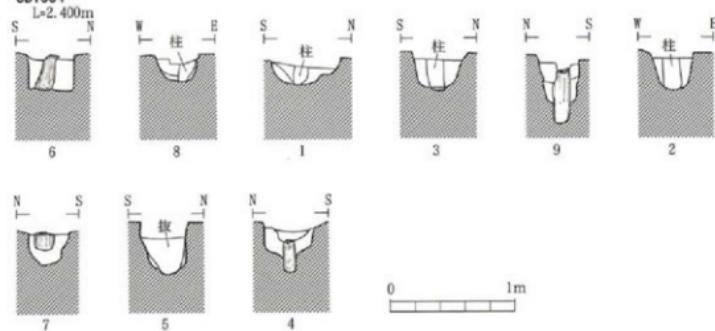
SB1532



SB1533



SB1534



第43図 S B 1532・1533・1534柱穴断面図

る。切り合はないが、柱穴が方形で大きく、柱の多くが抜取られている S B1533が古い様相を示している。

【S B1541建物跡】(第108図)

78区西半部の第VII層上面で発見した桁行2間、梁行2間の南北棟掘立柱建物跡である。北西隅柱は排水溝で一部壊されているが、そのほかの柱穴は8基すべて検出し、柱痕跡は棟通柱穴で確認した。それ以外の柱穴では抜取り穴を確認した。S K1557、S D1511と重複しており、S K1557より新しく、S D1511より古い。方向は、棟通柱穴でみると北で約12度東へ偏している。桁行については、東側柱列で約4.3m、柱間は南より約2.1m、約2.2mである。梁行については、南妻で約3.6m、柱間は西より約1.8m、約1.8mである。柱穴の平面形は方形を基調としており、規模は長辺44~47cm、短辺39~41cm、深さは19~34cmである。埋土は、黄褐色粘質土や暗灰黄色粘質土であり、黒褐色粘土やにぶい黄褐色砂質土を少量含んでいる。柱痕跡は直径14cmであり、埋土は黄褐色粘土である。北妻棟通柱穴では直径10cm、長さ14cmの柱材が残存していた。

【S B1531建物跡】(第109図)

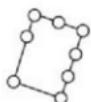
78区西半部の第VII層上面で発見した桁行3間、梁行2間の南北棟掘立柱建物跡である。柱穴は南妻棟通、西側柱列南から1間目の柱穴を除き、8基発見し、すべての柱穴で抜取り穴を確認した。S B1546、S D1513と重複しており、S D1513より古く、S B1546より新しい。方向は東側柱列の北で約19度東へ偏している。桁行については、東側柱列で約5.7m、柱間は南より約1.9m、約2.0m、約1.8mである。梁行については、北妻で約4.1m、柱間は西より約1.9m、約2.2mである。柱穴の平面形は方形を基調としており、規模は長辺50~83cm、短辺30~60cm、深さは20~25cmである。埋土は暗オリーブ褐色の砂質土である。

【S B1539建物跡】(第108図)

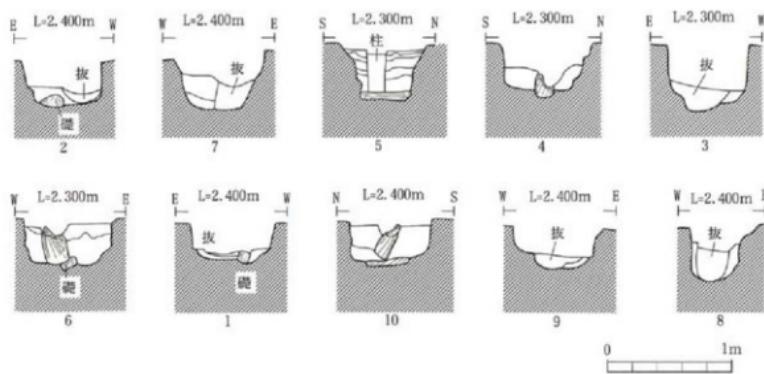
78区西半部の第VII層上面で発見した桁行3間、梁行2間の東西棟掘立柱建物跡である。柱穴は10基すべて検出し、東妻と西妻棟通で柱痕跡を確認した。そのほかの柱穴では抜取り穴を確認した。S D1515と重複しており、それより新しい。方向は、東妻でみると北で10度27分東へ偏している。桁行については、北側柱列で約4.6m、柱間は西より約1.4m、約1.8m、約1.4mである。梁行については、東妻で3.69m、柱間は南より1.85m、1.84mである。柱穴の平面形は方形を基調としており、規模は長辺63~78cm、短辺60~70cm、深さは32~47cmである。埋土は、にぶい黄褐色粘質土ブロックを含む黒褐色粘質土である。東妻棟通柱穴は、黒褐色粘質土とにぶい黄褐色粘質土の互層で版築状になっている。多くの柱穴には礎板があり、南西隅、北東隅、北妻の西へ1間目をのぞく7基の柱穴で確認した。柱痕跡は直径16~22cmであり、埋土は黒褐色粘土である。

【S B1546建物跡】(第109図)

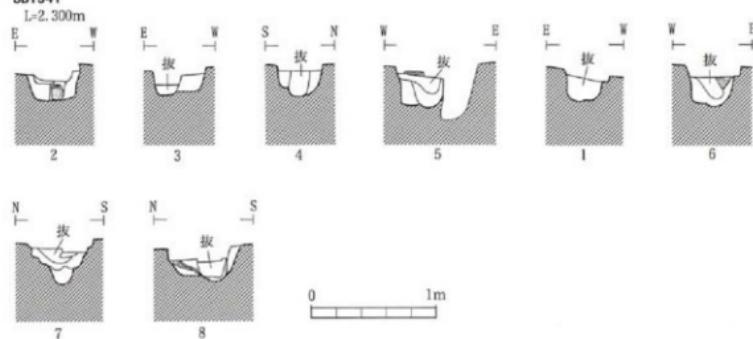
78区西半部の第VII層上面で発見した桁行3間、梁行2間の南北棟掘立柱建物跡である。柱穴は8基検出し、南東隅柱をのぞく東側柱列で柱痕跡を確認した。S B1531・1584、S D1513と重複しており、S B1531、S D1513より古く、S B1584より新しい。方向は、東側柱列でみると北で約18度東へ偏している。桁行につい



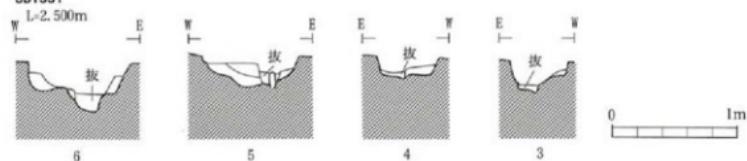
SB1539



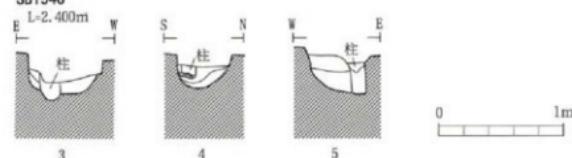
SB1541



SB1531



SB1546



第44図 S B1531・1539・1541・1546柱穴断面図

ては、東側柱列で約4.2m、柱間は南より約1.4m、1.34m、1.44mである。梁行については、北妻で約4.0m、柱間は西から約2.0m、約2.0mである。柱穴の平面形は方形を基調としており、規模は長辺37～58cm、短辺34～50cm、深さは28～38cmである。埋土は、黒褐色粘質土を含む暗灰黄色・暗オリーブ褐色砂質土である。北妻棟通では礎板を確認した。8×26cm、8×32cmの板材である。柱痕跡は直径14～16cmであり、埋土は黒褐色・オリーブ黒色粘質土である。

【S B1569建物跡】(第112図)

78区東半部の第VIII層上面で発見した桁行・梁行2間の純柱式東西棟掘立柱建物である。ほぼ同位置で2時期の重複(A→B)がある。

S B1569A : B期の柱穴で大きく壊されるため詳細は不明である。規模・方向についてはおよそB期と同様である。

S B1569B : A期の柱を抜取り、ほぼ同位置で建て替えたものである。北東・

北西・南西隅、南側柱列西より1間目、中央の柱穴で柱痕跡を確認した。そのほかの柱穴では抜取り穴を確認した。方向は、西妻でみると北で12度53分東へ偏している。桁行については、北側柱列で4.44m、柱間は西より約1.9m、約2.6mである。梁行については、西妻で3.54m、柱間は南より約1.8m、約1.9mである。柱穴の平面形は方形を基調としており、規模は長辺40～54cm、短辺30～40cm、深さは22～34cmである。埋土は、にぶい黄色砂や炭化物を含む黒褐色砂質土である。南西隅柱と南側柱列の東から1間目で礎板を確認した。8×22cm、12×14cm、17×17cmの板材である。柱痕跡は直径12～18cmであり、埋土は黒褐色粘土である。



【S B1563建物跡】(第113図)

78区東半部の第VIII層上面で発見した桁行3間、梁行2間の南北棟掘立柱建物跡である。S B1564・1590・1597と重複しており、S B1597より古いが、S B1564・1590との新旧関係は不明である。ほぼ同位置で建て替えている(A→B)。

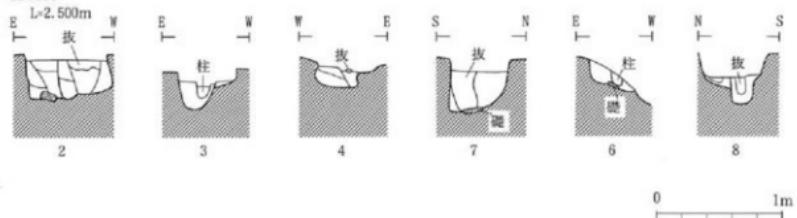
S B : 1563A : 柱穴は10基すべて発見しており、南西隅をのぞく西側柱列、北妻・南妻棟通で柱痕跡を確認した。方向は、西側柱列でみると北で約5度東へ偏している。桁行については、西側柱列で約4.5m、柱間は南より約1.9m、1.26m、1.30mである。

梁行については、北妻で約3.6m、柱間は西から1.74m、約1.9mである。柱穴の平面形は方形を基調としており、規模は長辺30～45cm、短辺25～30cmである。柱痕跡は直径12～14cmであり、埋土は黒褐色粘土である。

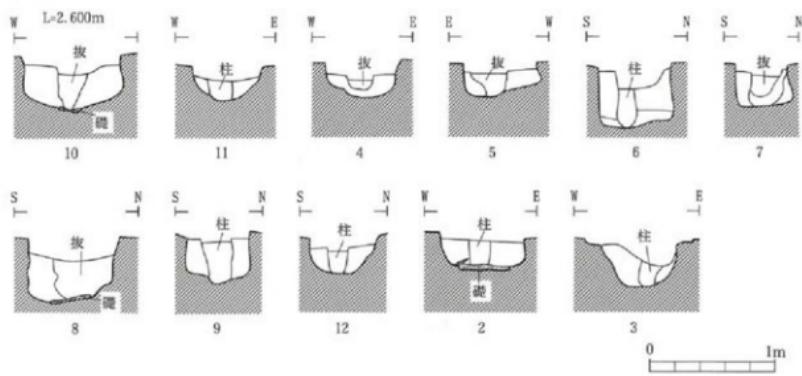
S B1563B : A期よりやや東側に建て替えたものである。西側柱列では柱穴が重複していない。柱穴は10基すべて発見した。東側柱列の南から2間目・3間目は抜取られているが、そのほかの柱穴では柱痕跡を確認した。南妻の両隅柱以外では柱材が良好に残存していた。方向は、西側柱列でみると、北で2度12分東へ偏している。桁行については、西側柱列で4.67m、柱間は南より1.67m、1.54m、1.46mである。梁行については、北妻で3.42m、柱間は西より1.62m、1.80mである。柱穴の平面形は概ね方形を基調としており、規模は長辺31～42cm、短辺28～35cm、深さは30～44cmである。埋土は、黒褐色粘土、黄褐色砂質土、炭化物粒などを含む黒褐色・暗灰黄色粘質土である。西側柱列の柱穴は、埋土に灰黄色の砂を多量に含んでいるのが特徴的である。柱痕跡は直径14～16cmであり、埋土は黒褐色粘土である。柱材は直径11～13cm、長さ12～40cmである。



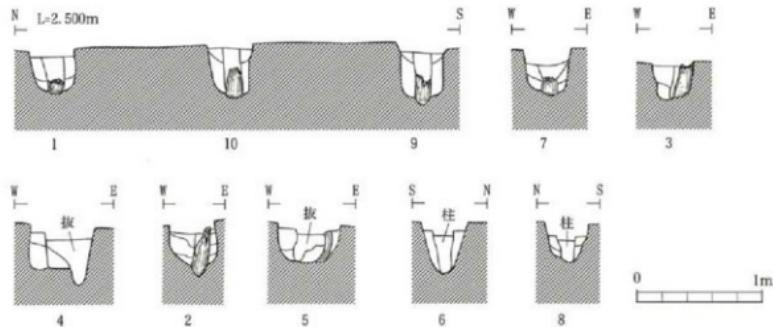
SB1569



SB1562



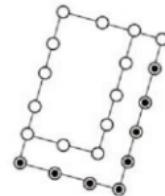
SB1563B



第45図 SB1562・1563B・1569柱穴断面図

【S B1560建物跡】(第114図)

78区東半部の第VII層上面で発見した桁行5間、梁行3間の南北棟掘立柱建物跡である。東側と南側の二面に扉が付いている。柱穴はすべて検出しており、身舎の柱穴はすべて抜取られているが、廂の柱穴は北東隅柱以外では切取り穴を除去した段階ですべて柱痕跡を確認した。S B1562、S D1558・1570、S K1576と重複しており、S B1562との新旧関係は不明であるが、それ以外のものより新しい。方向は東側柱列でみると北で16度18分東へ偏している。桁行については、東側柱列で約12.7m、柱間は南より2.40m、2.50m、2.70m、2.40m、約2.7mである。



一方、西側柱列も抜取り穴の先端に柱の当たり痕跡を明瞭にとどめていることから柱位置の推定が可能であり、総長約12.7m、柱間は南より約2.5m、約2.5m、約2.6m、約2.6m、約2.5mである。梁行については、南妻で約8.40m、柱間は西より2.70m、3.00m、2.60mであり、北妻で約8.3m、柱間は西より約3.0m、約2.9m、廂の出が約2.4mである。柱穴の平面形についてみると、身舎の柱穴は方形であり、廂の柱穴もおよそ方形である。規模は、前者が長辺85cm、短辺80cm、深さは48cmであり、後者が長辺24~65cm、短辺24~56cm、深さは22~40cmと一回り以上小規模である。埋土は、にぶい黄色砂質土小ブロックを含む黒褐色粘質土である。廂柱穴の柱痕跡は直径11~16cmである。身舎部分では柱の当たり痕跡より直径約25cmと推定される。

遺物は身舎の南西隅柱から木簡(第45号)が出土している。

【S B1562建物跡】(第113図)

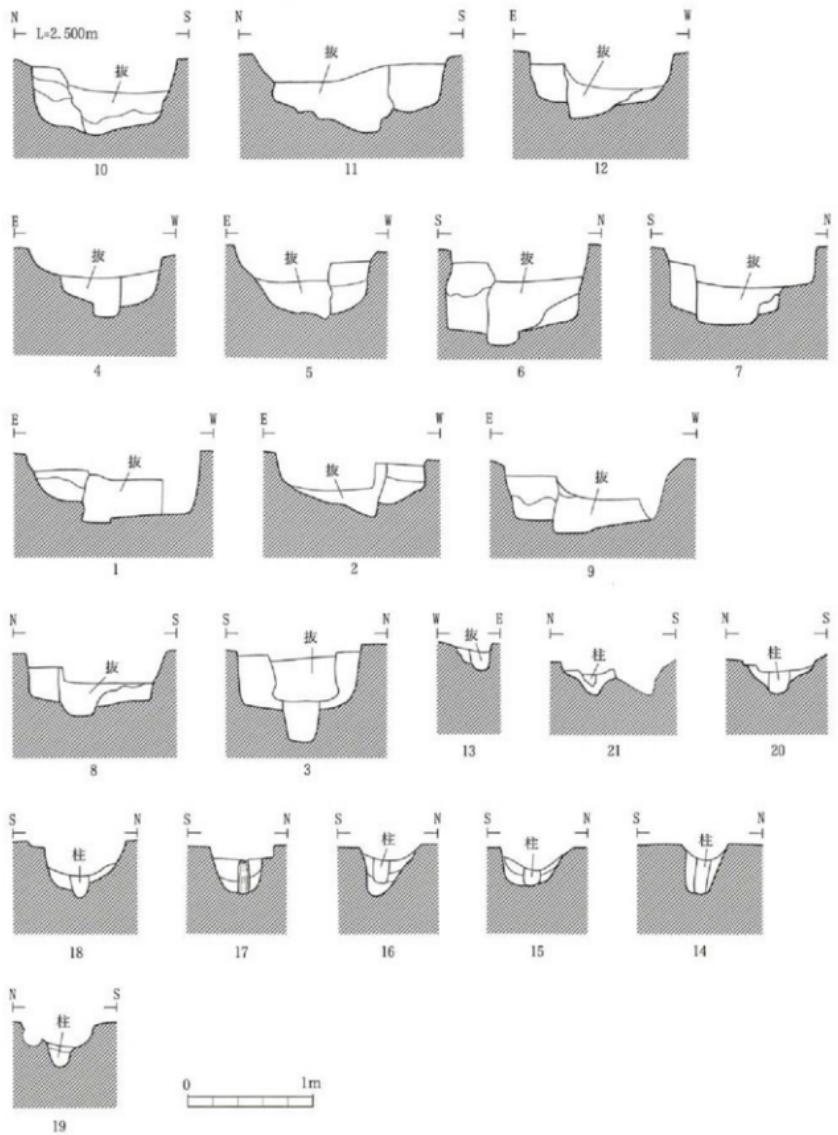
78区東半部の第VII層上面で発見した桁行3間、梁行2間の南北棟絶柱建物跡である。柱穴は12基すべて発見した。柱痕跡は棟通、北東隅、南東隅、西側柱列の南から1間目の各柱穴で確認しており、そのほかの柱穴では抜き穴を確認した。S B1587と重複しており、それより新しい。方向は、東側柱列でみると北で8度12分東へ偏している。桁行については、東側柱列で4.92m、柱間は南より約1.6m、約1.6m、約1.7mである。梁行については、北妻で約3.6m、柱間は西より約1.8m、1.80mである。柱穴の平面形は方形を基調としており、規模は長辺45~78cm、短辺38~50cm、深さは20~52cmである。埋土は、灰オリーブ砂質土ブロックを多量に含む黒褐色砂質土・黒褐色粘質土である。柱痕跡は直径16~24cmの円形であり、埋土は黒褐色・褐灰色粘土である。



【S B1564建物跡】(第113図)

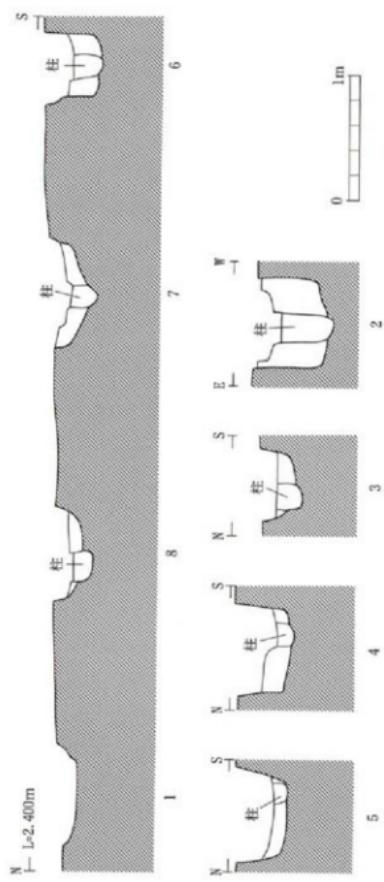
78区東半部の第VII層上面で発見した桁行5間、梁行2間以上の南北棟掘立柱建物跡である。西側柱列と北妻・南妻の一部である8基の柱穴を検出した。北西隅柱を除いて柱痕跡を確認した。S D1581・1582、S B1563・1596・1597と重複しており、S B1596、S D1581・1582より新しい。そのほかのものとの新旧関係は不明である。方向は西側柱列でみると、北で1度31分東へ偏している。桁行については、西側柱列で約10.1m、柱間は南より2.10m、2.13m、1.84m、2.18m、約1.8mである。梁行については、南妻の1間分が約3.03mである。柱穴の平面形は方形であり、規模は長辺62~88cm、短辺54~72cm、深さは18~60cmである。埋土は、地山粒や炭化物を若干含む黒色粘土である。柱痕跡は直径22~28cmで、埋土は黒褐色粘土である。





第46図 S B1560柱穴断面図

第47圖 S B 1564柱穴斷面圖



【S B1587建物跡】(第113図)

78区東半部の第VII層上面で発見した桁行2間、梁行2間の東西棟掘立柱建物跡である。S B1562と重複しており、それより古い。ほぼ同位置で2時期の重複がある(A→B)。

S B1587A: 東妻棟通と北側柱列の西より1間目をのぞく6基の柱穴を発見し、南側柱列でのみ柱痕跡を確認した。西妻棟通柱穴では抜取り穴を確認した。方向は、南側柱列でみると東で8度34分南へ偏している。桁行については、南側柱列で3.81m、柱間は西より1.84m、1.97mである。梁行については、西妻で約3.5m、柱間は南より約1.8m、約1.7mである。柱穴の平面形は概ね方形であり、規模は長辺25~40cm、短辺23~30cmである。柱痕跡は直径8~20cmである。



S B1587B: 柱穴は8基すべて発見し、S B1562に壊されている北東隅柱と北側柱列の東より1間目を除く全ての柱穴で柱痕跡を確認した。方向は、西側柱列でみると北で11度22分東へ偏している。桁行についてみると、南側柱列で4.31m、柱間は西より2.28m、2.03mである。梁行については、西妻で3.85m、柱間は南より1.83m、2.02mである。柱穴の平面形は概ね方形であり、規模は長辺28~46cm、短辺20~32cmである。柱痕跡は直径7~15cmである。柱穴の截割りは行っていない。

【S B1597建物跡】(第113図)

78区東半部の第VII層上面で発見した桁行3間、梁行2間の東西棟掘立柱建物跡である。柱穴は10基すべて発見し、南東隅柱、南西隅柱、北西隅柱以外の柱穴で柱痕跡を確認した。S B1564・1596、S D1582と重複があり、S B1596、S D1582よりは新しいが、S B1564との新旧関係は不明である。方向は、北側柱列でみると東で約12度南に偏している。桁行については、北側柱列で約4.5m、柱間は西より約1.5m、1.47m、1.54mである。梁行については、西妻で約3.5m、柱間は南より約1.8m、約1.7mである。柱穴の平面形は方形を基調としており、規模は長辺30~45cm、短辺30~40cmである。柱痕跡は直径12~16cmであり、埋土は黒褐色粘土である。柱穴の截割りは行っていない。



【S B1590建物跡】(第113図)

78区東半部の第VII層上面で発見した桁行2間、梁行2間の東西棟掘立柱建物跡である。柱穴は北東隅柱を除く7基を発見し、その全ての柱穴で柱痕跡を確認した。S B1589と重複しており、それより新しい。方向は、南側柱列でみると東で5度20分南に偏しており、西妻でみると北で4度24分東へ偏している。桁行については、南側柱列で4.07m、柱間は西より2.20m、1.87mである。梁行については、西妻で3.38m、柱間は南より1.77m、1.61mである。柱穴の平面形は概ね方形であり、規模は長辺21cm~72cm、短辺27~42cmである。柱痕跡は直径13~18cmである。柱穴の截割りは行っていない。



【S B1586建物跡】(第114図)

78区東半部の第VII層上面で発見した桁行2間、梁行2間の総柱式南北棟掘立柱建物跡である。柱穴は南東隅柱を除く8基を発見し、南西隅柱と北妻の棟通下の柱穴で柱痕跡を確認した。それ以外の柱穴では抜取り穴を確認した。S B1560と重複しているが、新旧関係は不明である。方向は、西側柱列でみると北で約11度東へ偏している。桁行については、西側柱列で約3.3m、柱間は南より約1.6m、



約1.8mである。梁行については、北妻で約3.3m、柱間は西より約1.8m、約1.5mである。柱穴の平面形はおおよそ円形を呈しており、規模は直径約35cmである。柱痕跡は直径6~11cmである。柱穴の截割りは行っていない。

【S B1585建物跡】(第112図)

78区東半部の第VII層上面で発見した桁行3間、梁行2間の南北棟掘立柱建物跡である。S D1579と重複しており、それより新しい。南西隅柱を除く9基の柱穴を発見した。抜取られている南妻棟通と東側柱列の南より1間目の柱穴以外の柱穴で柱痕跡を確認した。方向は、東側柱列でみると北で4度33分東へ偏している。桁行については、東側柱列で5.27m、柱間は南から約1.8m、約1.9m、1.66mである。梁行については、北妻で3.60m、柱間は西より1.99m、1.61mである。柱穴の平面形は隅丸方形であり、規模は長辺20~34cm、短辺19~34cmである。柱痕跡は直径11~12cmである。柱穴の截割りは行っていない。



【S B1589建物跡】(第113図)

78区東半部の第VII層上面で発見した南北2間、東西2間以上の掘立柱建物跡である。5基の柱穴を発見し、南側柱列の西より1間目を除いて柱痕跡を確認した。調査区外に延びているため詳細は不明であるが、東西棟の可能性を考えておきたい。S B1590と重複し、それより古い。方向は、西妻でみると北で5度54分東へ偏している。梁行については、西妻で3.30m、柱間は南より1.63m、1.67mである。柱穴の平面形は概ね方形であり、規模は長辺32cm~52cm、短辺が28~48cmである。柱痕跡は直径12~15cmである。柱穴の截割りは行っていない。



【S B1583建物跡】(第112図)

78区東半部の第VII層上面で発見した桁行2間以上、梁行2間の東西棟掘立柱建物跡である。桁行方向は1間分検出したのみであるが、その全ての柱穴で柱痕跡を確認した。方向は、西妻でみると、北で9度39分東へ偏している。梁行については、西妻で2.79m、柱間は南より1.43m、1.36mである。柱穴の平面形はおおよそ方形であり、規模は長辺21~31cm、短辺で17~23cmである。柱痕跡は直径7~16cmである。柱穴の截割りは行っていない。



【S B1584建物跡】(第109図)

78区西半部の第VII層上面で発見した桁行2間、梁行2間の東西棟掘立柱建物跡である。同位置で3時期の重複がある(A期→B期→C期)。S B1531・1546、S D1501と重複しており、それより古い。柱穴の截割りは行っていないため、詳細不明な部分もある。



S B1584 A : 北東隅柱、北側柱列の東から1間目、東妻棟通、南側柱列の東から1間目の柱穴4基を発見した。柱穴の平面形は概ね方形を呈しており、規模は東妻棟通柱穴で見ると長辺40cm、短辺36cmである。

S B1584 B : 南側柱列の西から1間目は抜取られているが、北東隅、東妻の北から1間目で柱痕跡を確認した。方向は、東妻で見ると北で約7度東へ偏している。桁行については、南側柱列で約3.7m、柱間は西より約1.9m、約1.8mである。梁行については、東妻で約3.2m、柱間は南より約1.8m、1.38mである。

柱穴の平面形は概ね方形であり、規模は北東隅柱で見ると長辺40cm、短辺32cmである。柱痕跡は直径10～12cmである。

S B1584C：B期とほぼ同位置で建て替えたものである。柱穴は北西隅柱を除く7基を発見し、北東隅柱、東妻の北より1間目の柱穴で柱痕跡を確認した。方向は、東妻でみると北で約11度東へ偏している。桁行について、南側柱列で約3.8m、柱間は西より約1.9m、約1.9mである。梁行については、東妻で約3.3m、柱間は南より約1.4m、1.83mである。柱穴の平面形は方形を基調としており、規模は長辺24～40cm、短辺24～33cmである。柱痕跡は直径10～16cmである。

【S B1591建物跡】(第111図)

78区西半部の第VII層上面で発見した桁行2間、梁行2間の総柱式東西棟掘立柱建物跡である。柱穴は北西隅、南西隅、北妻棟通を除く6基の柱穴を発見し、南東隅と西側柱列の南より1間目で柱痕跡を確認した。S D1517と重複しており、それより古い。方向は、東側柱列で見ると北で約10度東に偏している。桁行については、東側柱列で約4.0m、柱間は南より約1.8m、約2.2mである。柱穴の平面形は方形であり、規模は長辺40cm～58cm、短辺40～42cmである。柱痕跡は直径12cmである。柱穴の截割りは行っていない。



【S B1471建物跡】(第118図)

79区中央部の第VII層上面で発見した桁行3間、梁行2間の東西棟掘立柱建物跡である。S X1481小溝群と重複しており、それより新しい。柱穴は10基全て発見し、東妻と西妻両隅の柱穴で柱痕跡を確認した。それ以外の柱穴には抜取り穴があり、炭化物粒・焼土粒が含まれていた。方向は、東妻でみると北で1度40分東へ偏している。桁行については、北側柱列で5.34m、柱間は西より約1.8m、約1.8m、約1.7mである。梁行については、東妻で4.44m、柱間は北より2.26m、2.18mである。柱穴の平面形は方形を基調としており、規模は長辺50～81cm、短辺46～76cm、深さ30～50cmである。埋土は、にぶい黄色土（地山）ブロックを含む灰白色粘土であり、炭化物粒や黒色粘土ブロックを含むものもある。東妻棟通下、南西隅、北側柱列の両隅柱を除く2基の柱穴で礎板を確認した。柱痕跡は直径14～20cmであり、埋土は上部に炭化物粒や焼土粒を含む褐灰色粘土である。なお、北西隅柱穴では柱材が残存していた。

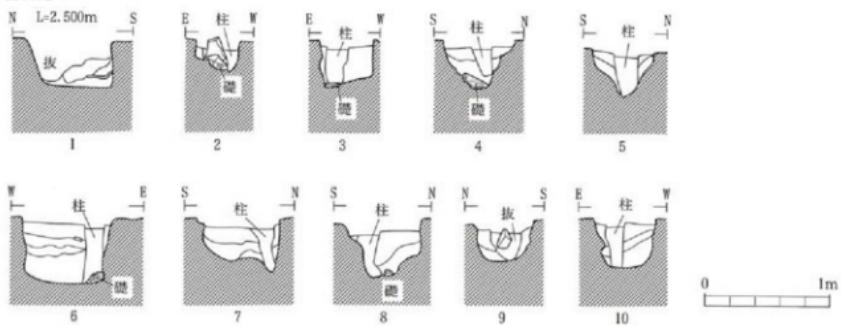


【S B1472建物跡】(第118図)

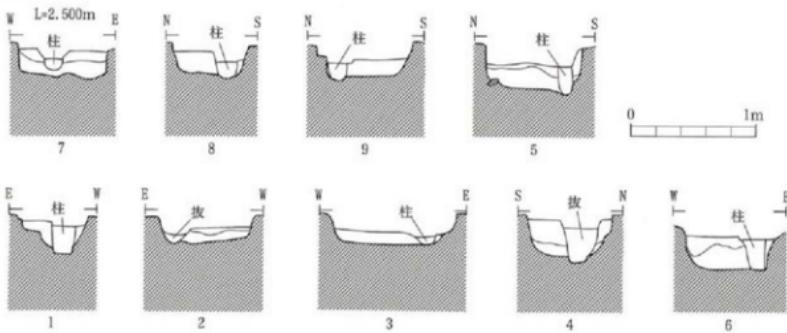
79区中央部の第VII層上面で発見した桁行3間、梁行2間の南北棟掘立柱建物跡である。小溝群S X1481小溝群と重複しており、それより新しい。柱穴は10基全て発見し、北妻棟通下、北西隅、西側柱列の南より2間目の柱穴を除いて柱痕跡を確認した。それ以外の柱穴には抜取り穴があり、炭化物粒を含んでいる。方向は、東側柱列でみると北で4度8分東に偏している。桁行については、東側柱列で5.78m、柱間は北から1.89m、1.87m、2.03mである。梁行については、南妻で4.78m、柱間は西より2.35m、2.39mである。柱穴の平面形は方形を基調としており、規模は長辺40～71cm、短辺38～51cm、深さ24～54cmである。埋土はにぶい黄色砂質土を含む黒褐色粘土である。北妻棟通下、北東・南東・南西隅、東西側柱列北から1間目の各柱穴では礎板を確認した。柱痕跡は直径16～18cmであり、埋土は上部に炭化物粒を含む黒褐色粘土である。



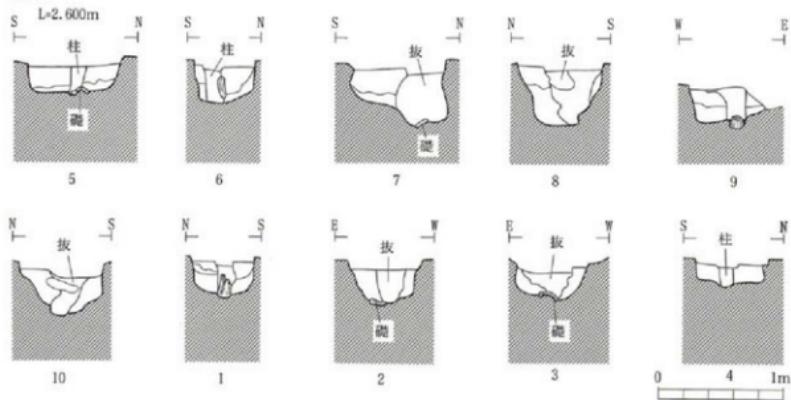
SB1472



SB1476



SB1471



第48図 S B1471・1472・1476柱穴断面図

【S B1476建物跡】(第118図)

79区中央部の第VII層上面で発見した桁行3間、梁行2間の東西棟掘立柱建物跡である。柱穴は9基を発見し、東妻棟通と北側柱列の東から2間目を除く柱穴で柱痕跡を確認した。方向は、東妻でみると北で7度55分東へ偏している。桁行については、南側柱列で5.38m、柱間は西より1.80m、1.80m、1.81mである。梁行については、東妻で4.25mである。柱穴の平面形は方形を基調としており、規模は長辺68~91cm、短辺54~75cm、深さ20~36cmである。埋土は黒褐色粘土ブロックを含む暗灰黄色砂質土である。柱痕跡は直径16~25cmであり、埋土は少量の炭化物粒を含む灰黄褐色粘土である。



【S B1473建物跡】(第116図)

79区東半部の第VI層上面で発見した桁行2間、梁行2間の南北棟掘立柱建物跡である。S B1474と重複しており、それより新しい。柱穴は8基全て発見した。南妻棟通と南東隅柱穴は抜取られており、それ以外の柱穴で柱痕跡を確認した。方向は、西側柱列でみると、北で2度44分西へ偏している。桁行については、西側柱列で5.23m、柱間は北より2.71m、2.52mである。梁行については、北妻で4.11m、柱間は西より2.15、1.96mである。柱穴の平面形は方形を基調としており、規模は長辺46~62cm、短辺39~51cm、深さ17~32cmである。埋土は多量の炭化物粒や浅黄色砂質土を含む黒褐色粘土・褐灰色粘土である。南西隅、東側柱列の南から1間目の柱穴で礎板を確認している。柱痕跡は直径14~18cmであり、埋土は多量の炭化物粒を含む黒褐色・褐灰色粘土である。抜取り穴にも炭化物粒が含まれていることから、本建物跡は焼失した可能性がある。



【S B1474建物跡】(第116図)

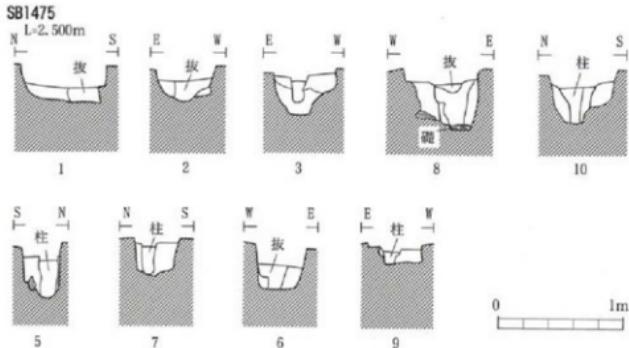
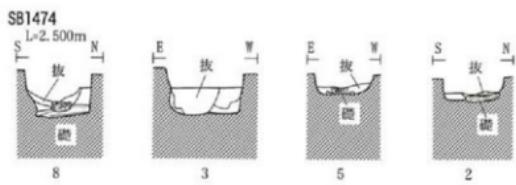
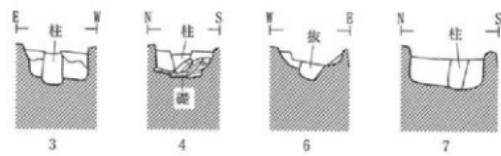
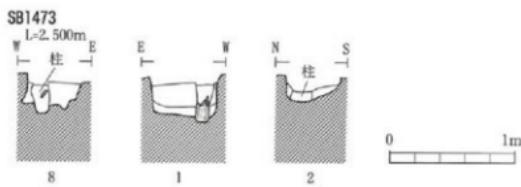
79区東半部の第VI層上面で発見した桁行3間、梁行2間の南北棟掘立柱建物跡である。S B1473と重複しており、それより古い。柱穴は9基検出し、その全てに抜取り穴がある。方向は、西側柱列でみると北で約5度東へ偏している。桁行については、西側柱列で約4.9m、柱間は北より約1.9m、約1.4m、約1.6mである。梁行については、北妻で約4.5m、柱間は西より約2.6m、約1.9mである。柱穴の平面形は方形を基調としており、規模は長辺42~71cm、短辺42~63cm、深さ16~38cmである。埋土は、にぶい黄色粘質土・浅黄色砂を含む黒褐色・褐灰色粘土である。南妻棟通下、南西隅、北東隅、東側柱列の北から2間目を除く5基の柱穴で礎板を検出した。



【S B1475建物跡】(第116図)

79区東半部の第VI層上面で発見した桁行3間、梁行2間の南北棟掘立柱建物跡である。柱穴は10基すべてを発見し、北妻棟通、北西隅、南妻両隅の柱穴を除いて柱痕跡を確認した。他の柱穴には抜取り穴がある。方向は、西側柱列でみると北で約5度東へ偏している。桁行については、西側柱列で約5.0m、柱間は北より約1.4m、1.57m、約2.0mである。梁行については、北妻で約3.5m、柱間は西より約1.8m、約1.7mである。平面形は方形を基調としている。規模は長辺32~62cm、短辺31~53cm、深さ15~50cmである。埋土は少量の炭化物粒やにぶい黄色粘質土ブロックを含む黒褐色・褐灰色粘土である。南西隅柱で礎板を発見した。柱痕跡は直径14~18cmであり、埋土は褐灰色粘土である。





第49図 SB1473・1474・1475柱穴断面図

【S B1477建物跡】(第117図)

79区中央部の第VI層上面で発見した桁行2間、梁行2間の東西棟掘立柱建物跡である。S B1480、S X1481と重複しており、そのいずれよりも新しい。柱穴は全て発見し、東妻棟通、北西隅、南側柱列西より1間目の柱穴で柱痕跡を確認した。他の柱穴は抜取り穴で壊されている。方向は、東妻でみると北で約5度東へ偏している。桁行については、北側柱列で約3.7m、柱間は西より約1.8m、約1.9mである。梁行については、東妻で約3.5m、柱間は北より約1.8m、約1.7mである。柱穴の平面形は方形を基調とし、規模は長辺44~65cm、短辺40~58cm、深さ27~48cmである。埋土は、炭化物やにぶい黄色粘土・灰色粘土を多く含む黒褐色粘土である。柱痕跡は直径14~16cmであり、埋土は砂粒を含む黒褐色粘土である。本建物跡には多くの柱穴で礎板を確認した。西妻棟通下や北側柱列中央の柱穴では須恵器甕の破片を転用している。



【S B1478建物跡】(第117図)

79区中央部の第VI層上面で発見した桁行3間、梁行2間の東西棟掘立柱建物跡である。S X1481と重複し、それより新しい。柱穴は9基発見し、東妻棟通下と南側柱列の西より1・2間目で柱痕跡を確認した。他の柱穴には抜取り穴がある。方向は、東妻でみると北で約4度東へ偏している。桁行については、南側柱列で約4.8m、柱間は西より約1.5m、1.56m、約1.7mである。梁行については、東妻で約4.0m、柱間は北より約1.9m、約2.0mである。柱穴の平面形は方形を基調とし、規模は長辺42~58cm、短辺33~53cm、深さ20~38cmである。埋土は、浅黄色粘土・にぶい黄褐色粘土・灰黄褐色粘土を多量に含む黒褐色粘土であり、炭化物ブロックも少量含んでいる。北側柱列、南西隅、東妻棟通下の柱穴では礎板を確認した。柱痕跡は直径12~16cmであり、埋土は褐灰色粘土である。北西隅柱の抜取り穴には多量の炭化物を含んでいる。



【S B1480建物跡】(第117図)

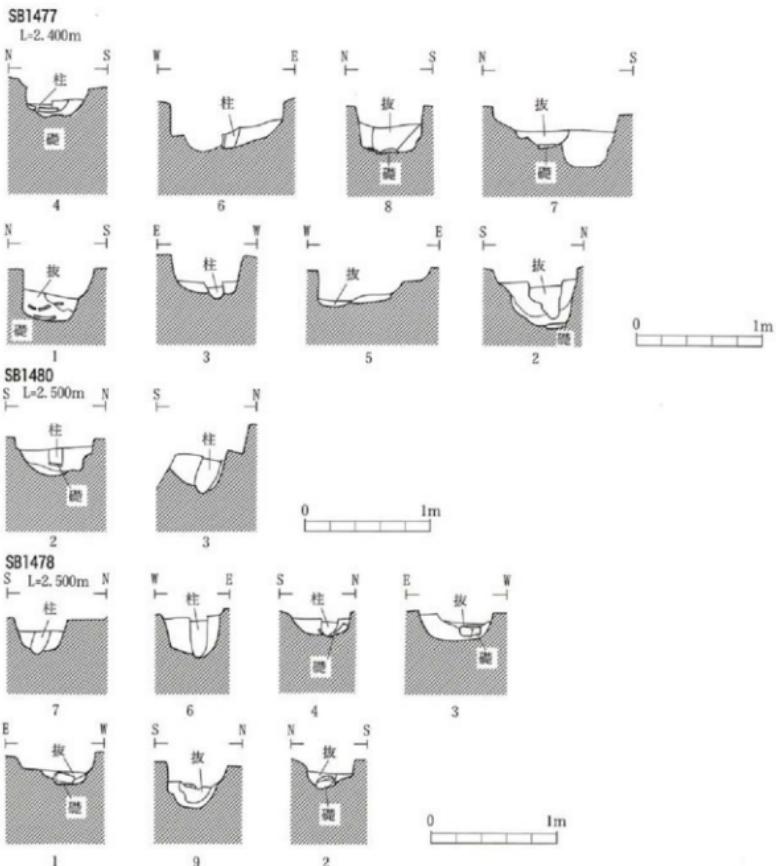
79区中央部の第VI層上面で発見した桁行2間、梁行2間の東西棟掘立柱建物跡である。S B1477と重複しており、それより古い。柱穴は6基発見し、東妻と北側柱列中央の柱穴で柱痕跡を確認した。西妻は抜取り穴で壊されている。方向は、北側柱列でみると東で約10度南へ偏している。桁行については、北側柱列で約5.0m、柱間は西より約2.4m、2.52mである。梁行については、西妻で約4.7m、柱間は北より約2.3m、約2.4mである。柱穴の平面形は方形であり、規模は長辺52~65cm、短辺47~55cm、深さ24~39cmである。埋土は炭化物やにぶい黄色土ブロックを含む黒褐色土・灰黄褐色粘土である。北側柱列の2基の柱穴では礎板を確認した。柱痕跡は直径12~14cmであり、埋土は褐灰色粘土である。



【S B1484建物跡】(第115図)

79区東半部の第VII層上面で発見した桁行3間以上、梁行2間の東西棟掘立柱建物跡である。S B1485、S D1650と重複しており、それらより新しい。柱穴は6基発見したが、全てに抜取り穴がある。方向は、北側柱列でみると東で11度54分南へ偏している。桁行については、北側柱列で3.4m以上、柱間は西より約1.9m、約1.5mである。梁行柱間は、西妻1間分が約2.1mである。柱穴の平面形は方形





第50図 SB1477・1478・1480柱穴断面図

を基調とし、規模は長辺49～66cm、短辺40～62cm、深さ23～34cmである。埋土は炭化物ブロックや褐色・暗褐色・明黄褐色土を含むにぶい黄褐色土である。

【SB1485建物跡】(第115図)

79区東半部の第VII層上面で発見した桁行3間、梁行2間の東西棟掘立柱建物跡である。S B1484・1489と重複しており、S B1484より古く、S B1489より新しい。柱穴は10基全てを発見し、西妻両隅柱、東妻棟通下、南北両側柱列の西から2間目の柱穴で柱痕跡を確認した。方向は、西妻でみると北で0度28分東へ偏している。桁行については、北側柱列で約5.4m、柱間は西より1.85m、約1.8m、約1.6mである。梁行については、西妻で4.49m、柱間は北より約2.3m、約2.4mである。柱穴の平面形は方形を基調としており、規模は長辺50～80cm、短辺40～65cm、深さ40～66cmである。埋土は地山ブロックを多量に含むにぶい黄褐色土である。柱痕跡は直径約18cmであり、埋土は多量の炭化物粒を含む黒褐色土である。



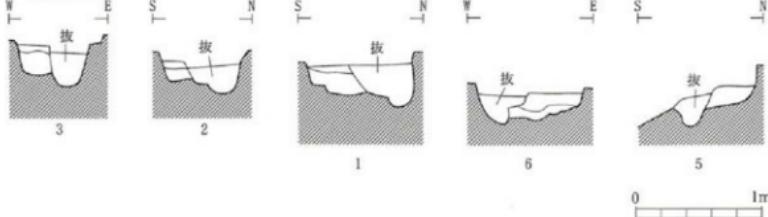
【SB1489建物跡】(第115図)

79区東半部の第VII層上面で発見した桁行3間以上、梁行2間以上の東西棟掘立柱建物跡である。S B1485と重複しており、それより古い。柱穴は6基発見し、東妻と北西隅の柱穴で柱痕跡を確認した。方向は、北側柱列でみると東で5度11分南へ偏している。桁行については、北側柱列で5.80m、柱間は西より約1.8m、約1.6m、約1.6mである。梁行については、東妻で3.70m、柱間は北より1.79m、1.93mである。柱穴の平面形は方形を基調とし、規模は長辺52～92cm、短辺47～63cm、深さ32～65cmである。埋土は、明黄褐色の地山ブロックを多く含む暗褐色・灰黄褐色土であり、多量の炭化物粒を含んでいる。柱痕跡は直径18～20cmであり、埋土は暗褐色粘質土である。



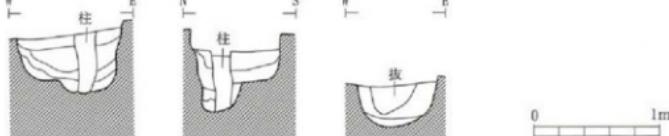
SB1484

L=3.700m



SB1485

L=3.500m



第51図 S B1484・1485柱穴断面図

6 柱列跡

【S A1540柱列跡】(第108図)

78区西半部の第VII層上面で発見した東西3間の柱列跡である。柱痕跡は西から一間目では、切取り穴を掘り上げた段階で柱痕跡を確認した。方向は東で16度南に偏している。総長約5.2mであり、柱間は西より約1.7m、約1.8m、約1.7mである。柱穴の平面形は概ね方形であり、規模は最も大きなものが一辺42cm、最も小さなものが一辺約35cmである。柱痕跡は直径13cmである。柱穴の断割りは行っていない。

【S A1593柱列跡】

78区西半部の第VII層上面で発見した東西2間の柱列跡である。西側の柱で柱痕跡を確認した。方向は東で29度南へ偏している。柱間は西より約1.6m、約1.9mである。柱穴の平面形は概ね方形であり、規模は長辺26~40cm、短辺24~38cmである。直径18cmである。柱穴の断割りは行っていない。

【S A1594柱列跡】

78区西半部の第VII層上面で発見した東西2間の柱列跡である。西から1間目で柱痕跡を確認した。S A1593の約1m南にある。方向は、東で28度南へ偏している。総長約3.1m、柱間は西より1.6m、約1.5mである。柱穴の平面形は概ね方形であり、規模は最も大きなものが一辺40cm、最も小さなものが一辺約28cmである。柱痕跡は直径約13cmである。柱穴の断割りは行っていない。

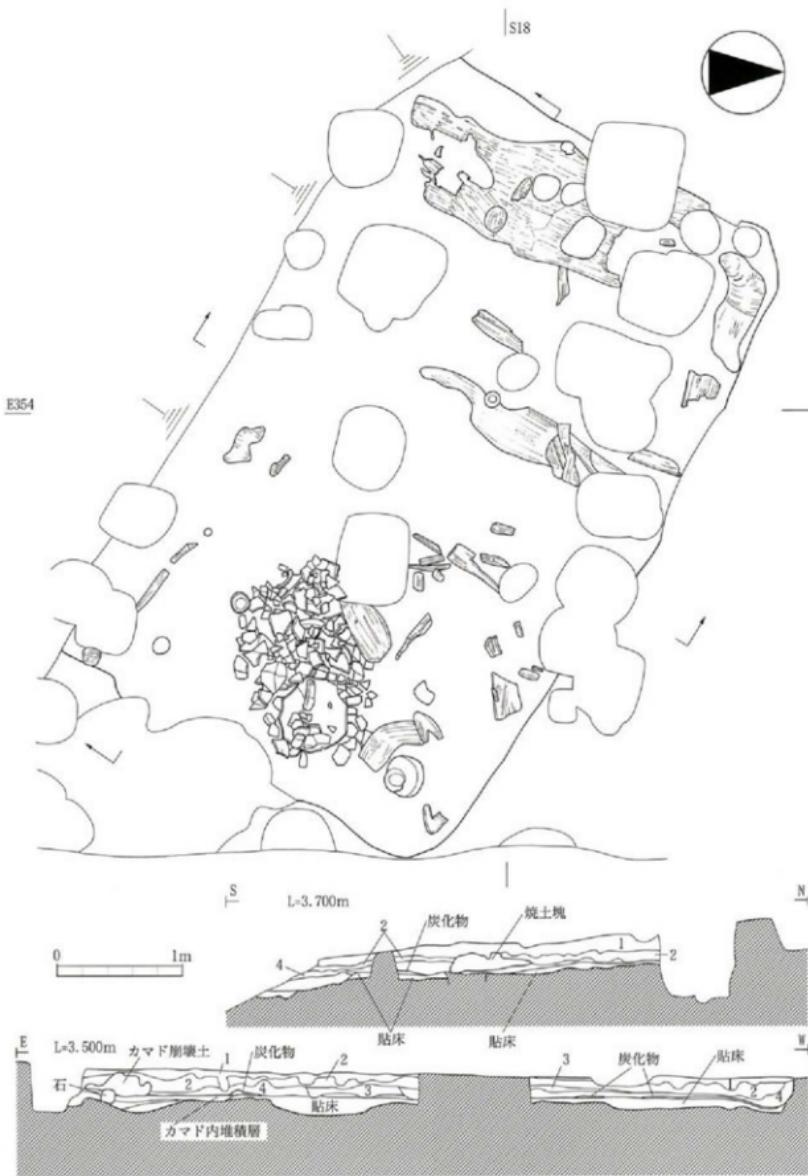
【S A1595柱列跡】

78区西半部の第VII層上面で発見した東西方向2間の柱列跡である。いずれの柱穴でも柱痕跡を確認した。方向は東で17度44分南へ偏している。総長2.62m、柱間は西より約1.1m、約1.5mである。柱穴の平面形は梢円形であり、規模は長辺22~34cm、短辺20~32cmである。柱痕跡は直径11~22cmである。柱穴の断割りは行っていない。

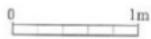
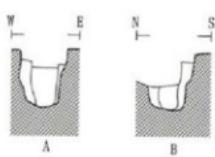
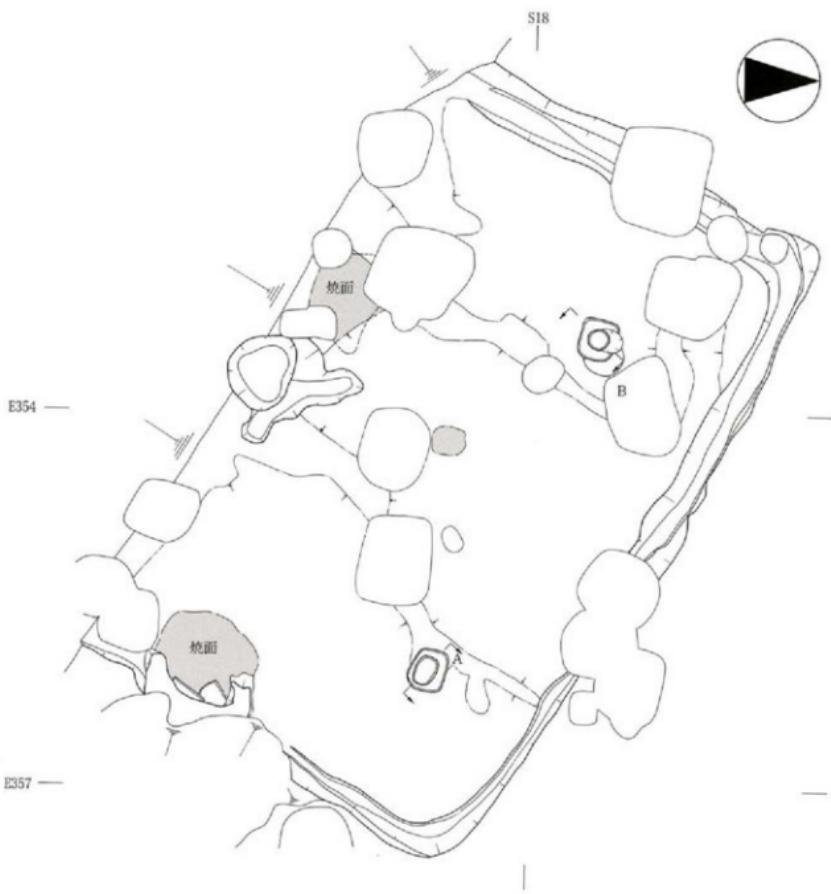
7 竪穴住居跡

【S I 1488竪穴住居】(第115図)

79区東半部の第VII層(岩盤)上面で発見した竪穴住居跡である。S B1484・1485・1489、S D1650と重複しており、それらより古い。平面形は方形であり、南辺は後世の削平で失われている。方向は、北辺でみると東で約31度南へ偏している。規模は東西約5.7mであり、壁高は北壁付近で25cmある。床面は、ほぼ全面に凝灰岩粒を含む灰黄褐色土の貼床がある。床面上で周溝、柱穴、カマドを検出した。周溝はカマド下を除いて各辺で確認した。規模は上幅10~25cm、深さ3~6cmであり、底面から非常に緩やかに立ち上がりっている。住居内埋土最下層(4層)で埋まっている。柱穴は北辺に平行して2基発見した。平面形は方形であり、規模は長辺35cm、短辺30cmである。柱痕跡は直径16cmである。カマドは東辺に敷設されている。明黄褐色粘質土を貼付けて構築した側壁の一部が残存しており、その前面には東西80cm、南北60cmの範囲で焼面がみられる。カマドの奥壁には方形の石を入れて補強している。埋土は4層に区分され、1層は明黄褐色土を主体とするもので、人為的に埋められた様相を呈している。2~4層は明黄褐色土やにぶい黄褐色土などを主体とし、炭化物を多く含んでいる。住居構築材とみられる板状の炭化物も確認できたことから、本住居は焼失した可能性が高い。住居内からは土師器杯、須恵器杯・甌、漆紙文書などが出土しており、特に北東隅からは須恵器大甌がつぶれた状態で出土している。



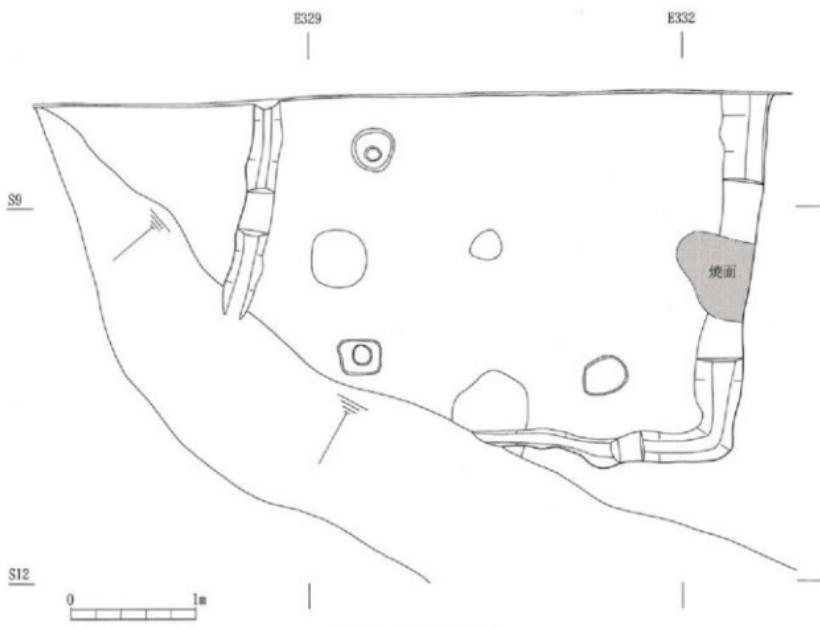
第52圖 S I 1488遺物出土狀況



第53図 SII 1488平面図

【S I 1479堅穴住居】

79区中央部の北壁付近で発見した堅穴住居跡である。北辺は調査区外にあるが、平面形は方形である。残存状況は悪く、南部では床面が露出しており、北半部でも部分的に埋土が残存するのみである。南西隅は後世の削平で失われている。方向は、東辺でみると北で約6度東に偏している。規模は東西約4.1m、南北3.0m以上である。地山面をそのまま床面としており、周溝、柱穴、焼面などを検出した。周溝は各辺で確認し、上幅12~33cm、深さ8~13cmであり、埋土は褐色土である。柱穴は西壁と平行して2基検出した。平面形は方形であり、規模は長辺35cm、短辺30cmで、円形の柱痕跡がある。主柱穴とみられる。焼面は東辺に接して60×60cmの範囲で確認した。側壁等は確認できなかったがカマドの痕跡と考えられる。



第54図 S I 1479平面図

8 井戸跡

【S E 1545井戸跡】

78区西部の第VII層上面で発見した井戸跡である。縦板が一部残存しており、縦板組みの井戸側を備えたものと見られる。井戸側の内法は、東西85cm、南北50~60cmの長方形である。井戸側は掘り方のやや南よりに据えられており、南側から掘り込まれた抜取り穴によって西面の一部を除いてほぼ抜取られている。掘り方の平面形はおおよそ方形であり、規模は長辺2.3m、短辺2.0m、深さは90cmである。壁の立ち上がりは全体的に急であるが、特に東壁ではほぼ垂直に立ち上がっている。掘り方の埋土は4層に区分され、

1層はオリーブ褐色粘質土、2~4層は炭化物粒やにぶい黄色粘質土粒を含む黒褐色粘土である。

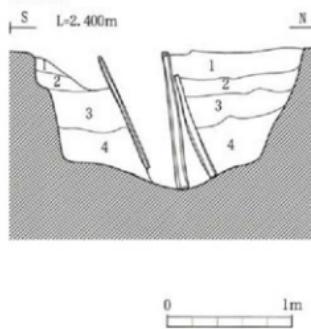
【S E 1549井戸跡】(第112図)

78区東半部の第VII層上面で発見した井戸跡である。東西方向の小溝跡と重複しており、それより新しい。横板を蒸籠組にし、その下に曲物を据えた井戸側をもつものであるが、中央付近に掘り込まれた抜取り穴によって西面の側板一枚を除き全て抜き取られている。井戸側横板部分の内法は、東西40~45cm、南北約50cmであり、曲物は直径55cm、高さ38cmである。掘り方の平面形は概ね円形であり、規模は直径約1.2mである。壁は急角度に掘り込まれ、さらに内側へ向かってやや窄まっている。掘り方埋土は4層に区分され、1層は黒褐色の粘土、2層はオリーブ黒色砂質土、3層は黒褐色粘質土、4層はオリーブ黒色砂質土である。

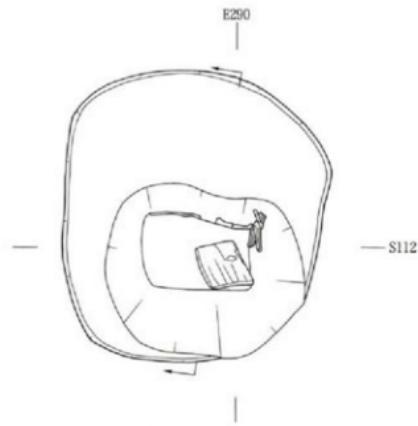
【S E 1535井戸跡】

78区西半部の第VII層上面で発見した井戸跡である。S B1532、S D1517と重複しており、それらより新しい。掘り方の平面形は方形で、壁は上端部で若干開き気味になるが、全体的にはほぼ垂直に立ち上がっていいる。規模は、一辺1.2m、深さは1.5mである。埋土は3層に区分され、上層からオリーブ褐色砂質土、

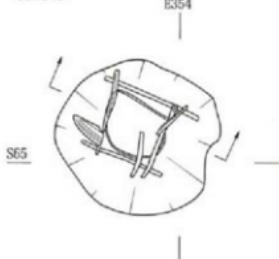
SE1545



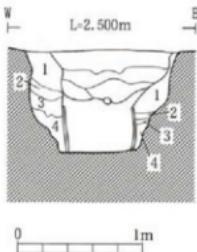
E290



SE1549



E354



第55図 S E 1545・1549平面図・断面図

褐灰色砂質土、黒褐色粘質土となる。井戸側は縦板組であり、①四隅に丸太の支柱を打ち込み、②東・西面には2本、南・北面には1本の丸太による横桟を渡し、③その外側に各辺とも3～4枚の縦板を並べるという構造であり、掘り方のほぼ中央に据えられている。支柱は長さ2～2.2m、直径10～12cmであり、先端を尖らせている。横桟の長さは0.6～0.9m、直径6～8cmであり、片側を尖らせ、もう一方は支柱に楕状の抉りを入れて連結している。井戸側の内法は東西で70～85cm、南北で75～80cmである。井戸側内埋土は6層に区分される自然堆積土である。そのうち2層はレンズ状に堆積した灰白色火山灰層である。

【S E 1552井戸跡】

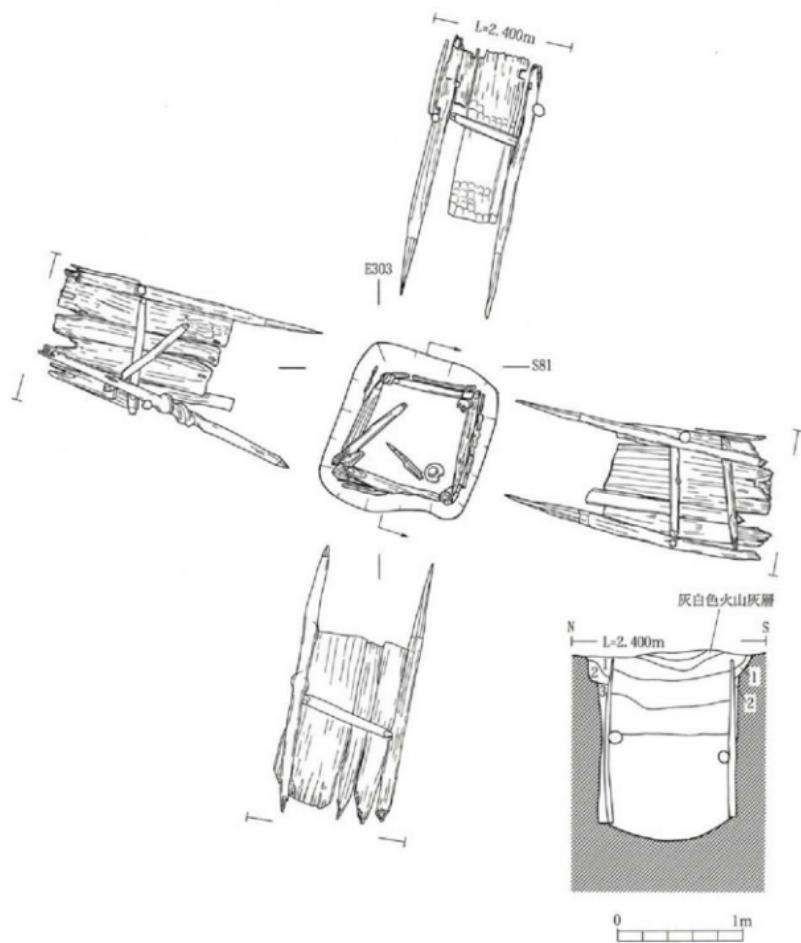
78区西半部の第VII層で発見した井戸跡である。板材と曲物による井戸側を備えている。掘り方の平面形はほぼ方形であり、断面形が漏斗状に掘り込まれている。規模は、長径2.4m、短径1.9mであり、上から約1.1m付近で段が付き、その下は直径0.6mとすぼまっている。段の上は支柱を立てた板組み構造であり、段の下には曲物を二段に重ねて据えている。井戸側上部は、残存している部材から四隅に支柱を立てて横桟をわたし、縦板を並べた構造と考えられる。規模は、内法で一辺約60cmである。井戸側下部は曲物を二段に重ねたものであり、上段に方形、下段に円形の曲物を使用している。掘り方の埋土は3層に分けられ、上層からオリーブ褐色砂質土、褐灰色砂質土、黒褐色粘質土である。井戸側上部の板組み部分は、掘り方中央付近に掘り込まれた抜取り穴によってほとんどが抜取られており、西側の一部を残すのみである。抜取り穴の平面形はおおよそ方形であり、規模は一辺約1.4mである。埋土は2層に区分されるが、いずれも黒褐色粘質土によって人為的に埋め戻したものである。井戸側下部の曲物は、上段の方形のものが長辺60cm、短辺48cm、高さ20cmであり、下段の円形のものは、直径が50～55cm、高さ30cmである。遺物は木製の鉤がほぼ完形で出土している

【S E 1565井戸跡】(第113図)

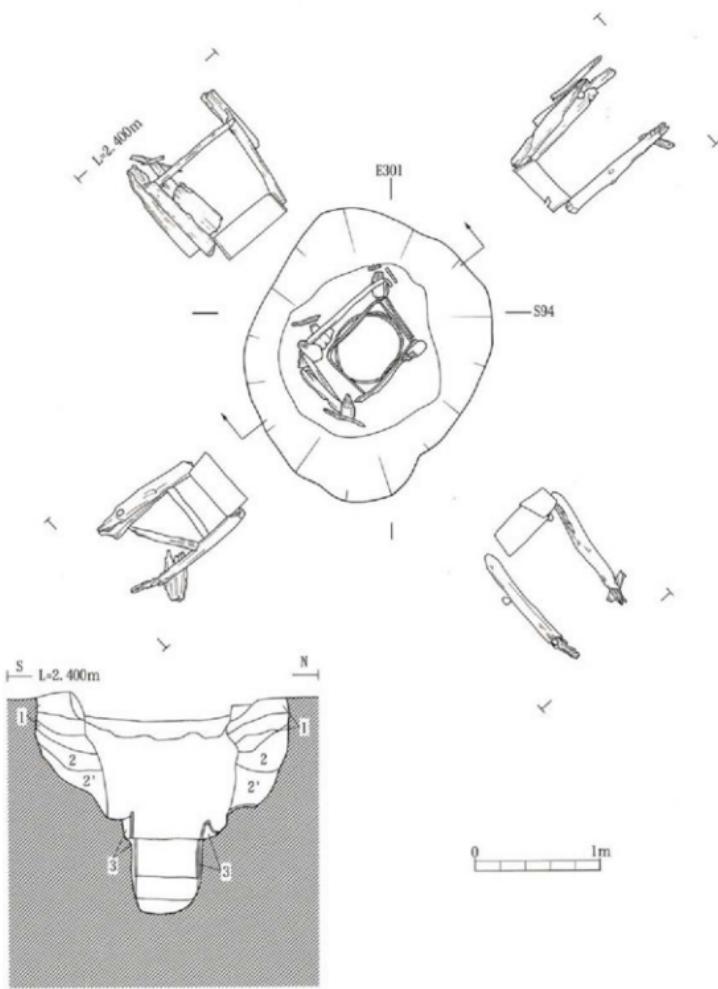
78区東半部の第VII層上面で発見した井戸跡である。SD1573・1582と重複しており、それより新しい。方形の曲物を二段に積み重ね、その周囲に各辺とも2～3枚の縦板を立て並べた井戸側を備えている。井戸側の内法は50×60cmであり、やや東西方向に長い。掘り方は平面形が梢円形であり、規模は長径1.7m、短径1.5m、深さ約1.1mである。埋土は5層に分けられ、1層は黒褐色粘質土、2層は黄灰色砂質土、3～5層は黒褐色粘土である。このうち4層には多量の木製品、建築部材等が詰め込まれている。曲物は、上段のものが長辺50cm、短辺45cm、高さ20cmであり、下段のものが長辺42cm、短辺40cm、高さ35cmである。井戸側内埋土は、若干の炭化物を含む黒褐色粘土である。

【S E 1559井戸跡】(第112図)

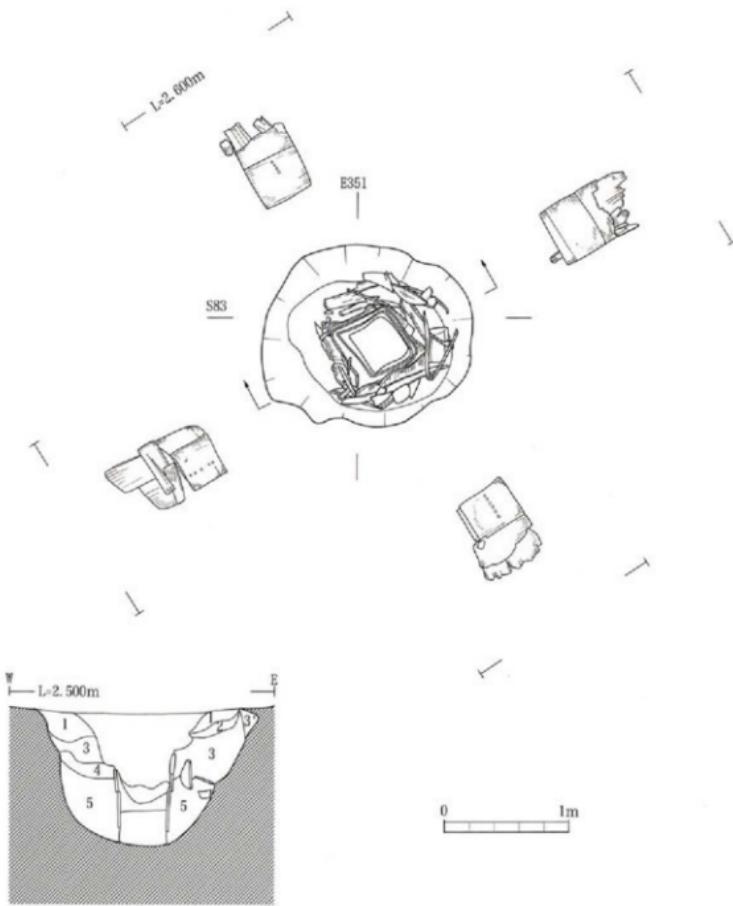
78区東半部の第VII層上面で発見した井戸跡である。南北方向の小溝跡と重複しており、それより新しい。丸太材による支柱が北西・南西隅にあり、横桟、北面の縦板、西面の側板の一部などが残存しており、縦板組の井戸側を備えたものである。井戸側の内法は一辺60cmであり、縦板は幅60cm、残存長80cmであった。掘り方は南側から掘り込まれた抜取り穴によって大きく壊されているが、一辺1.1～1.2mの方形であり、深さは95cmである。壁はほぼ垂直に掘り込まれているが、東側では一部幅約10cmの段が付いている。埋土は黒色粘土の単層である。抜取り穴は、規模が長径1.3m、短径1.1mの梢円形であり、埋土は上層が黒褐色粘土、下層が黒色粘土である。



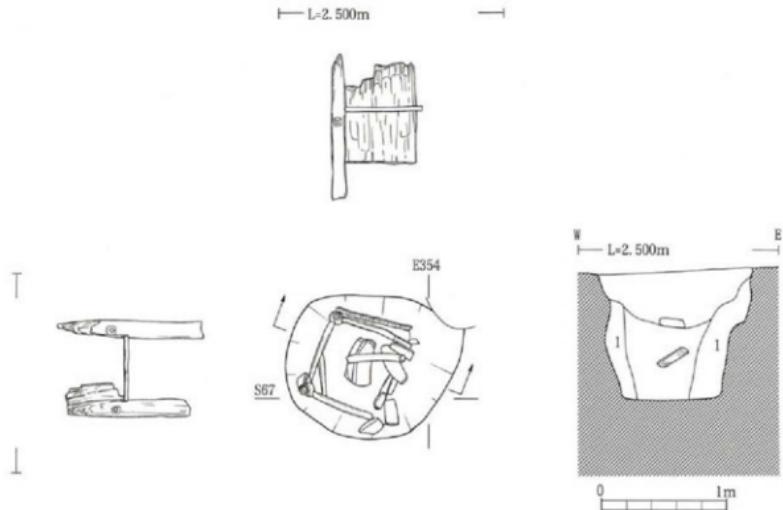
第56圖 S E 1535平面圖・立面圖・斷面圖



第57図 SE 1552平面図・立面図・断面図



第58図 S E 1565平面図・立面図・断面図



第59図 S E 1559平面図・立面図・断面図

9 溝 跡

【S D1522溝跡】

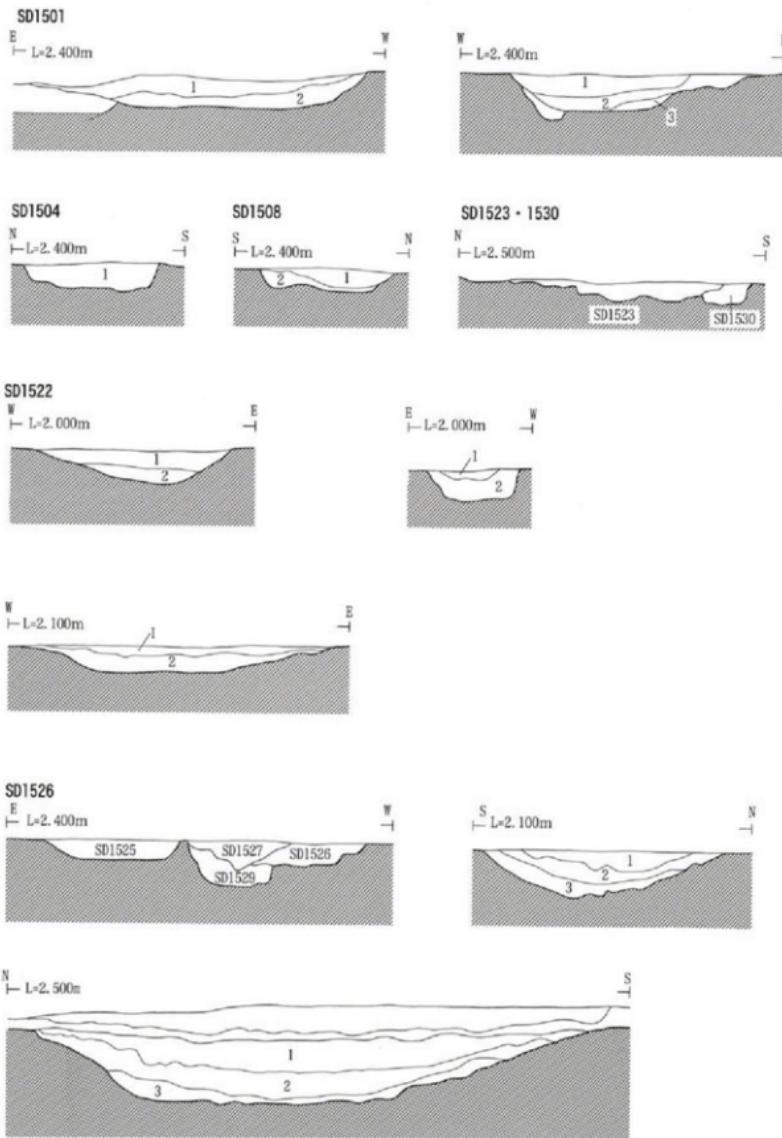
78区西半部の第VII上面で発見した南北溝跡である。S D1526、S X1528と重複しており、それらより新しい。S X1610の南側溝(S D1616)からS X1524にかけて約130m検出した。南端部では東西方向に扇状に広がっている。方向は、北で約5度西に偏している。規模は上幅0.9~4.0m、下幅0.6~2.0m、深さ20~30cmである。底面は南側から北側に向かって傾斜しており、比高差は北端部と南端部で27cmである。埋土は、1層が砂粒を多量に含む黒褐色粘土、2層が黒褐色粘土である。遺物は、1層から木簡(第39~41・43・44・46号)や絵馬、2層からも木簡(第42号)、絵馬などが出土している。

【S D1523・1525溝跡】

78区南半部の第VII層で発見した長さ16.8mの東西方向の溝跡と74.5m以上の南北溝跡である。東西方向S D1523の東端部が南北方向のS D1525に接続するように発見した。以下に個別に記載する。

S D1523溝跡：長さ16.8mの東西方向の溝跡である。S D1530と重複し、それより新しい。方向は東で約27度北へ偏している。規模は上幅0.45~1.7m、下幅0.2~0.8m、深さ4~15cmである。壁は緩やかに立ち上がり、底面には若干の凹凸が見られる。埋土は黒褐色粘土と黄褐色砂質土を帯状に含む暗褐色砂質土である。

S D1525溝跡：長さ74.5m以上の南北方向の溝跡である。S D1526、S D1527、S X1528、S D1529、S D1530と重複があり、これらより新しい。規模は上幅0.5~2.8m、下幅0.3~2.0m、深さ4~16cmである。断面形は浅い逆台形を呈している。底面は概ね平坦である。方向は概ね南北発掘基準線に沿っている。



第60図 東半部溝跡断面図

【S D1526溝跡】

78区南半部の第VII層上面で発見した蛇行する溝である。S D1522の東側から調査区西壁にかけて約30mの範囲で検出した。大きく南側に屈曲しているが、おおよそ東西方向に延びている。S D1522・1525・1527と重複があり、それより古い。規模は上幅2.0~5.0m、下幅0.6~2.0m、深さ38~58cmである。断面形は浅い逆台形を呈しており、壁は緩やかに立ち上がっている。底面は西側へ向かって傾斜しており、両端部でみると比高差は約20cmである。埋土は3層に区分され、1層は、褐灰色粘土ブロックを含む黄褐色粘土、2層は褐灰色粘土粒を含む黒色粘土、3層はにぶい黄色土と黒色粘土のブロックを含む灰白色粘土である。

【S D1527溝跡】

78区南半部の第VII層上面で発見した南北溝跡である。検出した長さは13.7mである。S D1525・1526・1529と重複しており、S D1526・1529より新しく、S D1525より古い。方向は、北で約5度東へ偏している。規模は上幅1.0m、下幅0.5m、深さ24cmである。底面には凹凸が見られ、中央付近で深くなっている。壁は緩やかに立ち上がっている。埋土は灰黄褐色粘土である。

【S D1529溝跡】

78区南半部の第VII層上面で発見した南北溝跡である。S D1525・1526と重複しており、これらに大きく破壊されている。検出した長さは6.0mである。方向は、おおよそ南北発掘基準線に沿っている。規模は残存部分で上幅0.7m、下幅0.6m深さ36cmである。断面形は逆台形を呈している。底面は南側に向かって傾斜しており、比高差は15cmである。埋土は灰黄褐色粘土と黄褐色砂の互層である。

【S D1514溝跡】(第107図)

78区西半部の第VI層上面で発見した「コ」字状を呈する溝跡である。長さは東西方向で7.5m、南北方向は西側で3.7m、東側で2.6mである。S D1501・1517と重複しており、これらより新しい。方向は、東西方向のものでみると西で約12度北へ偏している。規模は上幅0.9~1.5m、下幅0.5~1.1m、深さ7~12cmである。底面はやや起伏があり、壁は全体的に緩やかに立ち上がっている。埋土は、上層が灰白色火山灰粒含む褐灰色粘土質、下層が黒褐色粘土質である。

【S D1515溝跡】(第108図)

78区西半部の第VII層上面で発見した南北方向の溝跡である。5.4m検出した。S B1539と重複関係があり、それより古い。方向は北で約14度偏している。同位置で3時期の重複を確認したが、新期ものを除いた2条は直接の関係が不明である(S D1515A 1・S D1515A 2→S D1515B)。

S D1515A 1：東肩の一部を残してB期に大きく破壊されている。埋土は、褐灰色粘土を帶状に混入する浅黄色粘土質である。

S D1515A 2：上端部分をB期に大きく壊されている。底部にはやや起伏がある。断面形は逆台形を呈している。埋土は、にぶい黄色砂質土の小ブロック含む褐灰色粘土である。

S D1515B：規模は上幅70~95cm、下幅27~38cm、深さ20cmである。底部は概ね平坦で、壁が緩やかに立ち上がっている。断面形は浅いU字形を呈している。埋土は、上層が暗褐色粘土質、下層が炭化物を多量に含む黒褐色粘土である。

【S D1508溝跡】(第110図)

78区西半部の第VII層上面で発見した東西溝跡である。S D1501とS X1607(東3道路)の間において長

さ約11m検出した。S B1537・1538、S D1501・1502・1507・1509と重複しており、S D1509より新しく、そのほかより古い。方向は東で約17度北へ偏している。規模は上幅0.5~1.2m、下幅0.4~0.8m、深さ4~16cmである。断面形は浅い逆台形を呈している。底面は東側から西側にかけて傾斜しており、比高差は12cmである。壁は緩やかに立ち上がっている。埋土は、1層は黒褐色粘質土、2層は砂や粘土の小ブロックを若干含む黒褐色粘質土である。

【S D1517溝跡】(第107~109図)

78区西半部の第VI層上面で発見した南北方向の溝跡である。長さ約61.0mにわたって検出した。S E1535、S D1510・1513・1514・1516・1520と重複しており、これらより古い。方向は、北半部については北で約44度東へ偏しており、南半部については北で約7度東へ偏している。規模は上幅0.3~0.6m、下幅0.1~0.3m、深さ4~14cmである。断面形は浅い「U」字状を呈している。底面は概ね平坦ある。埋土は褐灰色粘土である。

【S D1501溝跡】(第109~111図)

78区西半部の第VI層上面で発見した溝跡である。調査区北端から南西方向に約16m直線的に延び、北側に大きく屈曲して南側に延びている。検出した長さはおよそ62.0mである。S B1531・1546、S D1504・1517・1510・1514と重複しており、S D1510・1514より新しく、それ以外のものより古い。S D1510・1514と重複する付近では、灰白色火山灰ブロックを含む堆積土があり、本溝跡はこの堆積土を除去した後に発見した。方向は、調査区北壁から南へ延びる直線的な部分についてみると北で約40度東へ偏している。規模は上幅1.6~2.7m、下幅0.4~1.6m、深さ10~36cmである。断面形は浅い逆台形を呈しており、底面は、北側に大きく屈曲する部分が約20~30cm低く、溝の中央部へ向かって傾斜している。埋土は3層に区分され、1層は炭化物やにぶい黄色砂質土ブロックを含む黒褐色粘土、2層は黒色粘土、3層はにぶい黄色砂質土ブロックを多量に含む黒色粘土である。

【S D1504溝跡】(第110図)

78区西半部の第VII層上面で発見した東西方向の溝跡である。S D1501から東3道路にかけて約9.8m検出した。S D1501・1502と重複しており、これらより古い。方向は東で約40度南に偏している。規模は、上幅0.5~1.4m、下幅0.3~0.9m、深さ14~20cmである。断面形は浅い逆台形を呈している。底面にはやや凹凸が見られるものの概ね平坦である。壁は一部急な部分もあるが、それ以外では緩やかに立ち上がっていている。埋土はにぶい黄色砂質土ブロックを多量に含む黒褐色粘質土である。

【S D1536・1558溝跡】(第112~114図)

78区東半部の第VII層上面で発見したT字状の溝跡である。東西方向がS D1536、南北方向がS D1558である。S B1560・1570・1580と重複しており、S D1580より新しく、S B1560・1570より古い。

S D1536：方向は東で約14度南へ偏している。長さ15.0mであり、上幅0.5~0.9m、下幅0.3~0.6m、深さ4~19cmである。断面形は緩やかなU字状を呈している。底面は東側から西側へ傾斜し、比高差は15cmである。

S D1558：北端部はやや東に弯曲し、南端部は西に屈曲している。方向は、北で約11度東に偏している。長さ10.0m、上幅0.4~1.0m、下幅0.2~0.7m、深さ4~19cmである。

【S D1570溝跡】(第114図)

78区東半部の第VII層上面で発見した南北方向の溝跡である。S B1560・S D1558と重複しており、S D

1558より新しく、S B1560より古い。方向は北で約4度東へ偏している。長さ7.1m、上幅0.5~1.2m、下幅0.3~0.6m、深さ7~21cmである。断面形は浅い皿状を呈しており、底面は概ね平坦である。埋土は炭化物を少量含む黒褐色粘質土である。

【S D1494溝跡】(第119図)

70区中央部の第VII層上面で発見した南北溝跡である。S X1495と重複しており、それより新しい。規模は上幅1.0m、下幅0.9m、深さ35cmである。断面形は浅い逆台形を呈しており、底面には著しい凹凸が見られる。方向は、北で約1度西へ偏している。埋土は3層で、1層は灰色砂質土、2層は黄灰色粘質土、3層は灰色粘質土である。

10 土 壤

【S K1518土壤】(第110図)

78区西半部の第VII層上面で発見した。S D1502(東3道路西側溝)、S K1551と重複しており、それより新しい。平面形は概ね方形であり、規模は長辺4.5m、短辺2.5~3.4m、深さ10~28cmである。壁は緩やかであるが、底面には若干凹凸が見られ、南東方向に傾斜している。埋土は3層に区分され、1層は灰白色火山灰をブロック状に含む黒褐色粘土、2層は炭化物を多量に含む黒褐色粘質土、3層はにぶい黄色粘質土ブロックを少量含む褐灰色粘土であり、いずれも自然堆積層である。

【S K1551土壤】

78区西半部の第VII層上面で発見した。S K1518、S X1519と重複しており、それより古い。平面形は概ね方形であり、規模は長辺5.0m、短辺3.7mである。壁は緩やかに立ち上がっている。埋土は1層の暗灰黄色粘質土層と2層の黒褐色粘土層に区分され、いずれも炭化物を含む自然堆積層である。

【S K1553土壤】

78区西半部の第VII層上面で発見した。S K1554と重複しており、それより古い。平面形は長方形で南北に長く、規模は長辺3.7m以上、短辺1.6mである。底面は中央部付近が最も深い。壁は緩やかに立ち上がっている。埋土は3層に区分され、1層は褐灰色粘土粒を多量に含むにぶい黄色砂質土、2層は黒色粘土やにぶい黄色土粒を含む褐灰色粘土、3層は炭化物を含む黒褐色粘土である。

【S K1554土壤】

78区西半部の第VII層上面で発見した。S K1553と重複しており、それより新しい。平面形は不整形であり、規模は長軸2.0m、短軸1.5mである。底面は概ね平坦であり、壁は緩やかに立ち上がっている。埋土はにぶい黄色砂質土粒を含む褐灰色粘質土である。

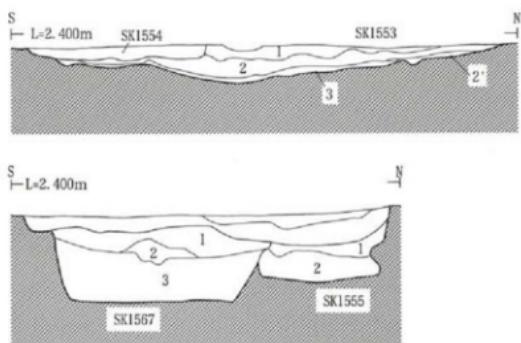
【S K1555土壤】

78区西半部の第VII層上面で発見した。S K1567と重複しており、それより古い。S K1567によって破壊されているが、平面形はおよそ梢円形と見られる。北壁の一部は内側に突き出ているが、ほとんどの壁は急角度で立ち上がっている。底面は平坦である。埋土は、上層が緑灰色粘土粒を含む褐灰色砂質土、下層が褐灰色粘土ブロックを含む黒褐色粘土である。

【S K1567土壤】

78区中央部の第VII層上面で発見した。S K1555と重複しており、それより新しい。平面形はおよそ円形であり、規模は直径約1.8mである。底面は凹凸がほとんどなく平坦である。壁は急角度で立ち上がっており、埋土は3層に区分され、1層は黒褐色粘土ブロックを多く含む浅黄色砂層、2層は黒褐色粘土、3

層は緑灰色粘土ブロックを多く含む黒褐色粘土である。



第61図 SK1553・1554・1555・1567断面図

【SK1557土壤】(第108図)

78区西半部の第VII層上面で発見した。SB1541、SD1511と重複しており、それより古い。平面形は、北半部は梢円形、南半部は概ね方形を呈しており、南北に長い。規模は長径3.3m、短径1.5mである。底面は概ね平坦であり、壁も緩やかに立ち上がっている。埋土はにぶい黄色砂質土粒を含む黒褐色粘土である。

【SK1568土壤】(第111図)

78区東半部の第VII層上面で発見した。平面形は梢円形であり、規模は長径1.0m、短径0.7mである。底面はほぼ平坦で、壁も緩やかに立ち上がっている。埋土はにぶい黄色砂質土ブロックを含む黒褐色粘土である。

【SK1576土壤】(第114図)

78区東半部の第VII層上面で発見した。SB1560と重複しており、それより古い。平面形は梢円形であり、規模は長径1.6m、短径1.2mである。底面には緩やかな凹凸が見られ、壁は比較的緩やかに立ち上がっている。埋土は、多量の炭化物とにぶい黄色砂質土ブロックを少量含む黒褐色粘土である。

【SK1572土壤】

78区北半部の第VII層上面で発見した。調査区の北壁際において南半部のみを検出した。北壁の断面観察によると、灰白色火山灰の二次堆積層が上面を覆っている。平面形は不整方形であり、規模は東西1.5m、南北0.8m以上である。断面形は浅い皿状であり、底面は中央部に向かって深くなっている。壁は比較的緩やかに立ち上がっている。埋土は、上層が炭化粒を含む黒褐色粘土、下層が黒褐色粘土の薄層を含む緑灰色砂質土である。

【SK1622土壤】(第106図)

116区西半部の第VII層上面で発見した。小柱穴と重複しており、それよりも古い。規模は長径1.8m、短径1.3mである。遺物は土師器杯・甕、須恵器杯(ヘラ切り)、漆紙が出土している。

【SK1490土壤】(第119図)

70区中央部の第VII層上面で発見した。SD1492と重複しており、それより新しい。平面形は梢円形で、

断面形は浅い皿状である。規模は、長径1.1m以上、短径0.9mである。壁は非常に緩やかに立ち上がっており。埋土は炭化物を若干含む褐灰色粘土である。

【S K1491土壤】(第119図)

70区中央部の第VII層で発見した。SD1510と重複しており、それより新しい。平面形はおおよそ長方形であり、規模は長辺1.5m以上、短辺0.8m、深さ30cmである。

【S K1486土壤】(第117図)

79区中央部の第VI層上面で発見した。平面形は不整形であり、規模は長径5.2m、短径2.7m、深さ1.1mである。断面形はほぼ垂直に立ち上がっており、底面はおおむね平坦である。埋土は、上層が黒褐色粘土、下層が植物遺体を多量に含む黒褐色土である。

11 河川跡

【S X1528河川跡】

78区南半部の第VII層上面で発見した南北方向の河川跡である。長さ115m以上、幅約30mである。SX1524、SD1525と重複しており、これらより古い。平面のみの調査のため、詳細は不明である。

【S X1492溝跡】(第119図)

70区東半部の第VII層上面で発見した河川跡である。SK1490と重複しており、それより古い。調査区南壁から北壁に向かって扇状に広がっている。規模は上幅3.9~14.2m、深さ30~46cmである。断面形は浅い皿状を呈しており、壁は緩やかに立ち上がっている。埋土は9層に細分され、1層は淡黄色砂質土で灰白色粘土ブロックを含んでいる。2層は褐灰色粘土、3層は灰黄色粘質土を主体として黒色の薄層との互層である。4層は黄灰色粘土、5層は褐灰色土が主体で灰色粘土と黒色粘土の互層を含む層、6層は淡黄色粘土、7層は黄灰色粘土・黒灰色粘質土粒を含む褐灰色粘土、8層は緑灰色粘土をブロックを含む暗灰色粘土、9層は黄灰色粘質土と灰黑色土の薄層を含む灰色粘土である。

12 その他の遺構

【S X1519】

78区西半部の第VII層上面で発見した落ち込みである。規模は、南北13.0m以上、東西約7.0mの範囲に及んでおり、深さは8~12cmである。SD1501、SK1518・1551と重複しており、それらを覆っている。埋土は灰白色火山灰を含む黒褐色粘土である。

【S X1524】

78区南端部から70区にかけての第VII層上面で発見した。SD1522溝跡とSX1492河川との接続部にある浅い落ち込みである。SX1528と重複しており、それより新しい。規模は東西20m以上、深さ24cmである。埋土は、上層が灰白色火山灰粒や砂粒を多量に含む黒褐色粘土、下層がグライ化した粘質土ブロックを少量含む黒褐色粘土である。1層より木簡(第18・20号)が出土した。

【S X1547】(第112図)

78区東半部の第VII層上面で発見した土壤状の落ち込みである。SX1607(東3道路)、SD1577・1578と重複しており、SD1577・1578より古く、SX1607(東3道路跡)より新しい。平面形は不整形であり、規模は11m以上である。116区でも同様の落ち込みが確認されている。埋土は最上層が灰白色火山灰の二次堆積層、2層は灰白色火山灰層、3層は黒褐色粘土である。

【S X1482】

79区西半部の第VI層上面で発見した。平面形は不整形であり、規模は長径4.8m、短径2.5m、深さ43cmである。断面形は非常に緩やかであり、底面は凹凸がある。埋土は4層に区分され、1層が炭化物を含む灰黄褐色土、2層が灰白色火山灰ブロックを多含む黒褐色粘土、3層が灰白色火山灰の自然堆積土、4層は炭化物粒・砂粒を含む黒褐色粘土である。

VI 東端部で発見した遺構

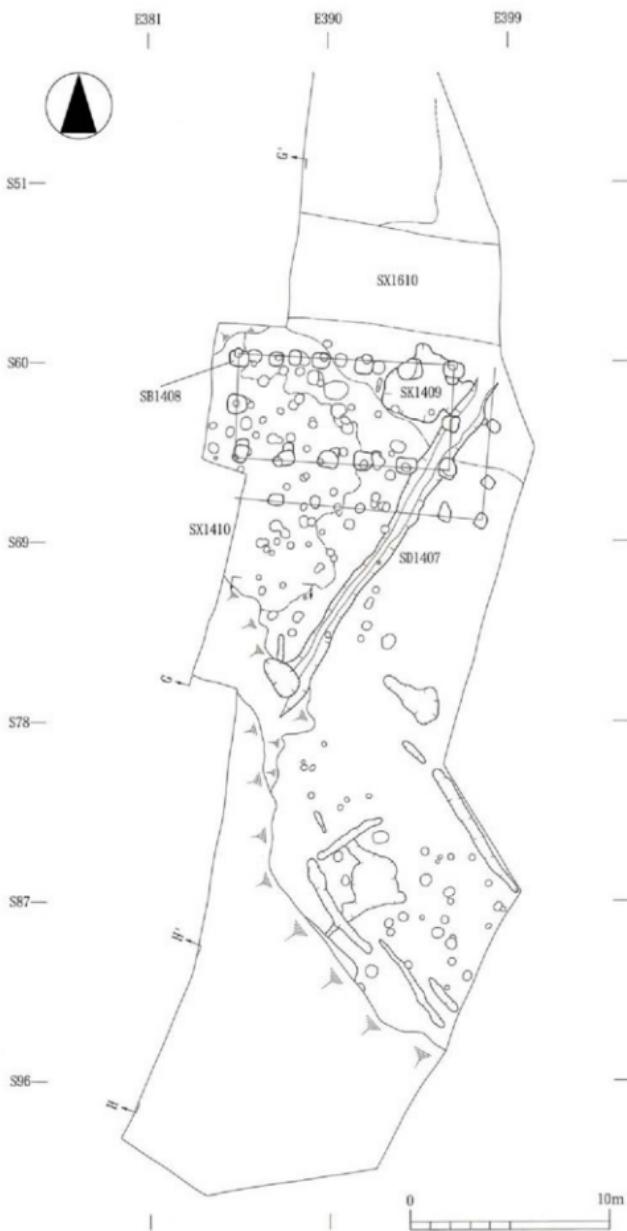
1 遺構分布状況と層序

「東端部」は丘陵部とそれに接した低湿地である。北端の84区は丘陵部であり、岩盤上にぶい黄褐色砂質土（第III層）の堆積があり、その上に整地層（S X1410）がある。この整地層は丘陵の西側の緩斜面をぶい黄色粘質土ブロックを多量に含む褐色砂質土を盛って造成したものであり、厚さは残存部分で6～20cmである。南北約18.0m、東西10.0m以下の範囲に及んでいる。第III層および整地層上面では掘立柱建物、溝、土壤などを発見した（註）。これらはすべて10世紀前葉以降の暗褐色砂質土層（第II層）に覆われている。

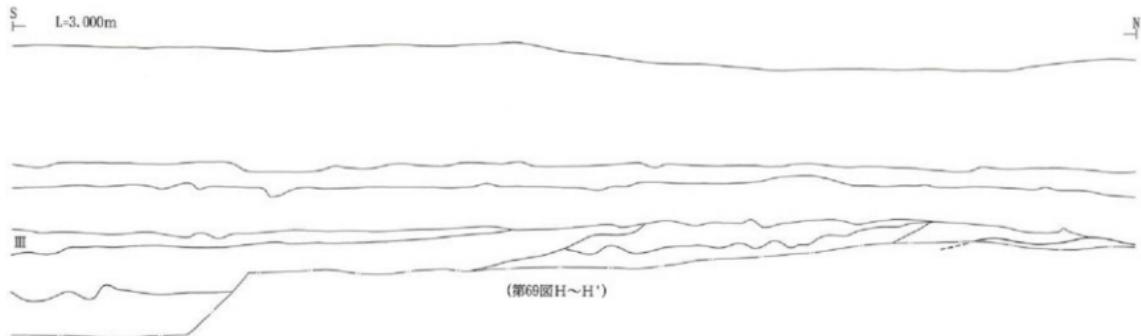
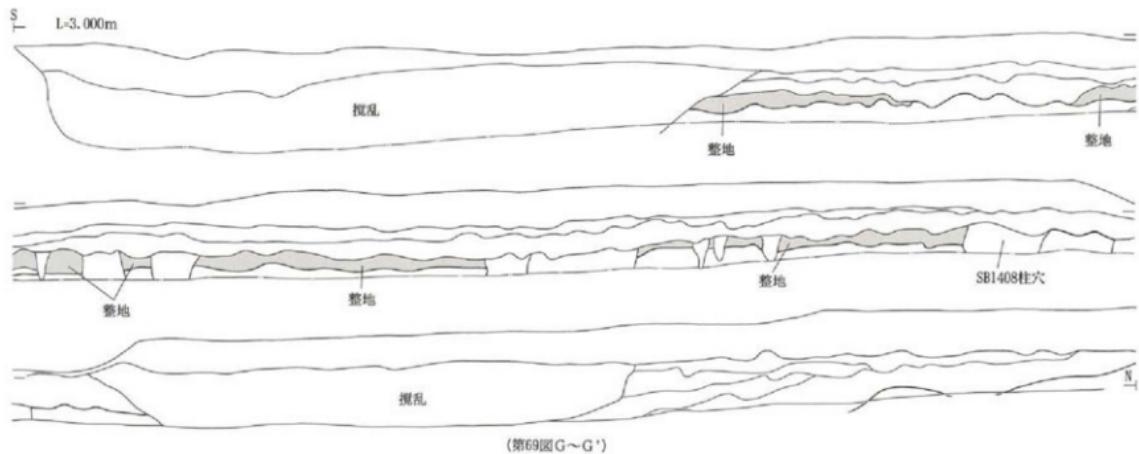
84区の南側から112区にかけては広い範囲が低湿地となっており、10世紀前葉の灰白色火山灰降下以前も遺構は存在しないことが確認できた。

112区は丘陵部の先端であり、岩盤（第VI層）上で竪穴住居や溝などを発見した。本地区は、表土（第I層）下に 黒褐色粘質土（第II層）、暗オリーブ褐色粘質土（第III層）、黒褐色粘質土（第IV層）があり、さらにその下層には上面に灰白色火山灰ブロック含む黄褐色砂質土（第V層）が堆積している。遺構はすべてこの第V層に覆われている。

（註）第26次調査の際、掘立柱建物の北側において整地層より新しい砂・砂質土の堆積を確認しながら精査に至らず調査を終了した。その堆積層の範囲は、第29次調査116区の調査で検出した東西大路東道路の延長線上にある。調査終了後、その位置関係および航空写真等を詳細に検討した結果、それらは東西大路東道路の一部である可能性がきわめて高いと考えられるに至った。



第62図 東端部主要遺構位置図



第63圖 84區斷面圖

2 挖立柱建物跡

【S B1408建物跡】(第120図)

84区中央部の整地層上面で発見した桁行6間、梁行3間の東西棟掘立柱建物跡である。ほぼ同位置で2時期の重複があり(A→B)、新しい段階には東・南北面廻付建物に建て替えられている。

S B1408A：桁行5間、梁行2間の切妻建物である。北・南側柱列の東から1間目、東妻槻通、南東隅などをのぞく10基の柱穴を発見した。いずれの柱穴でも柱痕跡は確認していない。方向は、北側柱列でみると東で約7度南に偏している。桁行については、北側柱列で約9.9m、柱間は西より約2.0m、約2.3m、約2.0m、約3.8m(2間分)である。梁行については、西妻で約4.5m、柱間は南より約2.1m、約2.4mである。柱穴の平面形は概ね方形を基調としており、規模は長辺60~70cm、短辺58~60cm、深さ40~44cmである。

S B1408B：A期よりやや西側に拡張し、桁行6間、梁行3間の東・南二面廻付建物に建てえたものである。北東隅、南西隅、南側柱列の東から2間目の柱穴をのぞくすべての柱穴を検出し西妻槻通、南東隅、南側柱列西から1・2間目、北側柱列西から1間目、北東隅など6基の柱穴で柱痕跡を確認した。方向は、北側柱列でみると東で約4度南に偏している。桁行については、南入側柱列で約12.6m、柱間は西より2.19m、2.09m、約2.1m、約2.2m、約2.4m、約1.7mである。梁行については、身舎東妻で約7.4m、柱間は南より約2.1m、約2.5m、約2.8mである。身舎柱穴の平面形は方形を基調としており、規模は最も大きなもので105×80cm、最も小さいもので75×65cmであり、深さは42~82cmである。埋土はにぶい黄褐色砂質土を主体としているが、北側の柱穴は砂粒を多く混入するのに対し、南側の柱穴は凝灰岩等の地山ブロックを多く含むという特徴がある。北側柱列の北東隅柱から西に1間目、2間目、3間目の柱穴では礎板を確認した。痕跡は直径20~28cmの円形であり、埋土は褐色砂質土を主体とて炭化物粒を多量に含んでいる。雁柱穴の平面形はおよそ方形であり、規模は長辺48~95cm、短辺52~60cmである。東妻の埋土はしまりのないものが多く、柱痕跡は確認できなかった。抜取り穴で全体が破壊されている可能性がある。

3 積穴住居跡

【S I 1605積穴住居跡】(第121図)

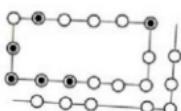
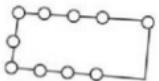
112区の西半部の第VI層上面で発見した積穴住居である。S X1606と重複があり、これよりも古い。規模は南北約5.3m、東西1.2m以上である。貼床は認められなかった。方向は東辺でみると、北で約14度西に偏する。4層に分けられ、上層から黒褐色粘質土、オリーブ褐色粘質土、暗灰黄色粘質土、にぶい黄色粘質土である。壁際で幅20~30cm、深さ7cmの周溝を検出している。

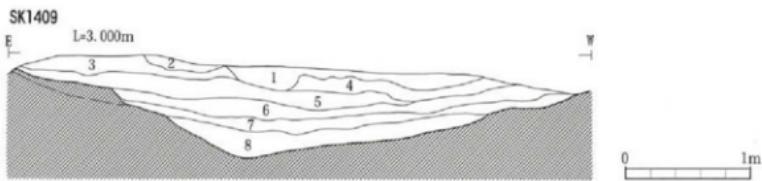
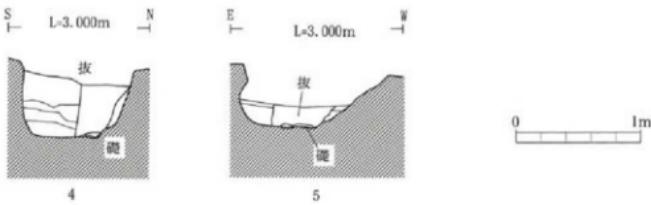
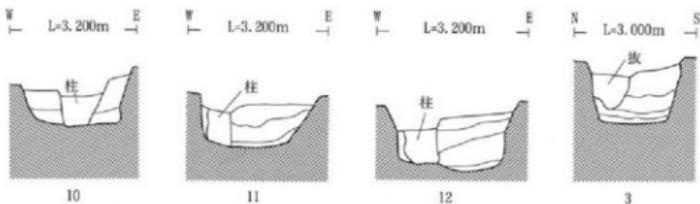
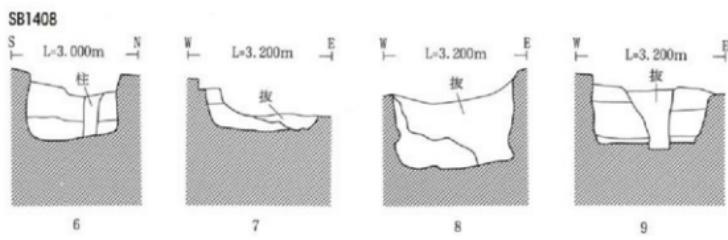
遺物は土師器杯・甕の小片、須恵器甕が出土している。

4 溝 跡

【S D1407溝跡】(第120図)

84区中央部の第VI層上面で発見した南北方向の溝跡である。長さ17.5m以上にわたって検出した。S B1408、S K1409と重複しており、それらより新しい。方向は、北で約33度東へ偏している。規模は、上幅0.8~1.5m、下幅0.3~0.8m、深さ3~18cmである。断面形は浅い逆台形を呈しており、底面は北側から





第64図 SB1408柱穴、SK1409、SX1410断面図

南側へ傾斜して約36cmの比高差がある。

【S D1606溝跡】(第121図)

112区のVI層上面で発見した溝跡である。S I 1605と重複があり、これよりも新しい。規模は上幅2.8m、下幅0.8m、深さは37cmである。壁は緩やかに立ち上がる。方向は北で約41度西に偏する。埋土は黄褐色砂質土であり、第V層と近似している。遺物は土師器杯・甕、須恵器杯・甕の小片が出土している。

5 土 壤

【S K1409土壤】(第120図)

84区中央部の第VI層上面で発見した。S B1408、S D1407と重複しており、それらより古い。平面形は不整形であり、断面形は浅い皿状で壁は緩やかに立ちあがっている。規模は長径4.6m、短径3.8mである。埋土は8層に区分できる。1層は風化した凝灰岩片を含む黄褐色砂質土、2層は炭化物や風化した凝灰岩片を少量含む褐色砂質土、3層は風化した凝灰岩片を多量に含むにぶい黄褐色砂質土、4層はにぶい黄褐色砂質土粒を含む暗褐色砂質土、5層はにぶい黄褐色粘質土粒を含むにぶい黄褐色砂質土、6層は炭化物を少量含む黒褐色粘質土。7層はにぶい黄褐色砂質土、8層は黒褐色粘土がレンズ状に自然堆積する灰黄色粘土である。

VII 出土遺物についての検討

C区から出土した遺物には、土師器、須恵器、須恵系土器などの土器類をはじめ、青磁、灰釉陶器、綠釉陶器などの陶磁器類、硯、瓦、土製品、石製品、金属製品、木製品、竹製品、動物遺存体などがある。それらの数量は、土器、陶磁器、硯、瓦、埠、土製品、石製品がテン箱約580個（内、平成9年度の確認調査分48個）、木製品が925点、金属製品が33点である。

1 土 器

(I) 出土土器の分類

C区から出土した土師器には杯、高台付杯、皿、高台付皿、高杯、蓋、耳皿、甕、瓶、羽釜、器台（古墳時代）などがある。須恵器には杯、高台付杯、稜挽、双耳杯、甕、長頸瓶、広口壺、鉄鉢、鳥形瓶、蓋などがあり、特殊なものとして、全面にヘラミガキを施した「ミガキの須恵器」には杯、稜挽、蓋などがある。須恵系土器には杯、高台付杯、高台付皿、高台付鉢などがある。

本節では、土師器杯・甕と須恵器杯を対象として分析し、C区の遺構の年代について考える手がかりとしたい。その作業に先立ち、土師器杯・甕、須恵器杯を次のように分類する。分類にあたっては、ロクロからの切り離し方法や調整手法に重点を置いた。

[土師器杯]

A類：ロクロ調整を行わないもの

A I類：丸底杯。

- a : 体部に段を有し、口縁部がヨコナデ、底部がヘラケズリされる
- b : 体部に段がなく、口縁部がヘラミガキ、底部がヘラケズリされる

A II類：平底杯。

- a : 口縁部がヨコナデ、底部がヘラケズリされるもの
- b : 口縁部から底部までヘラケズリで仕上げられるもの
- c : 口縁部から底部までヘラミガキで仕上げられるもの

A III類：深めの平底杯。内外全面をヘラミガキ・黒色処理で仕上げられたもの

B類：ロクロ調整を行ったもの

B I類：ロクロからの切り離し後、回転ヘラケズリされるもの

B II類：ロクロからの切り離し後、手持ちヘラケズリされるもの

B III類：ロクロからの切り離しがヘラ切りで、再調整されないもの

B IV類：ロクロからの切り離しが静止糸切りで、再調整されないもの

B V類：ロクロからの切り離しが回転糸切りで、再調整されないもの

B I・II類では、ロクロからの切り離しが識別できる資料があり、ヘラ切りによるものをa、静止糸切りによるものをb、回転糸切り（糸切り）によるものをcとして細分する。

[土師器甕]

A類：ロクロ調整を行わないもの

B類：ロクロ調整を行ったもの

[須恵器杯]

I類：ロクロからの切り離し後、回転ヘラケズリされるもの

II類：ロクロからの切り離し後、手持ちヘラケズリされるもの

III類：ロクロからの切り離しがヘラ切りで、再調整されないもの

IV類：ロクロからの切り離しが静止糸切りで、再調整されないもの

V類：ロクロからの切り離しが回転糸切りで、再調整されないもの

I・II類では、ロクロからの切り離しが識別できる資料があり、ヘラ切りによるものをa、静止糸切りによるものをb、回転糸切り（糸切り）によるものをcとして細分する。

(2) 出土土器の概要

C区の遺構から出土した土器の内、比較的良好な資料が出土した遺構としては次のものがある。

① S D1184 (18区・南北溝)

② S X1351 (20区・河川)

③ S X1341 (20区・落ち込み)

④ S D1522 (78区・南北溝)

後述するが、①～④の遺構から出土した土器群は、土師器杯・甕にロクロ調整を行わないものと行ったものが共伴するという特徴がある。しかも②には年代が明らかな木簡が共伴しており、実年代の一端を押さえることができる。

以下、(1)の分類によって各遺構出土土器の概要^(註1)と、それらの器形について検討する。器形については、径高指数と外傾度によって示す^(註2)。

① S D1184出土土器

1層からは土師器杯A II a・A III・B II c、土師器甕A・B、須恵器杯II・II a・II c・IIIが出土している。土師器杯ではB II cが2点（破片資料では口縁部4点、体部14点）に対し、A類はほぼ完形の杯A IIIが1点、杯A II aが1点あり、口縁部破片資料も9点出土している。土師器甕は、B類が口縁部・体部とも各2点に対し、A類はヨコナデ調整された口縁部が2点、ハケメ調整された体部が128点、木葉痕を残す底部が4点と圧倒的に多い。須恵器杯はIIが2点、II aが1点（破片）、II cが1点（破片）、IIIが3点（破片12点）ある。須恵器杯についてみると、径高指数は20～31の間に、外傾度は26～29の間に分布している。この他、底部に回転糸切り痕を残す細身の須恵器瓶（平城宮分類：壺G）が1点出土している。

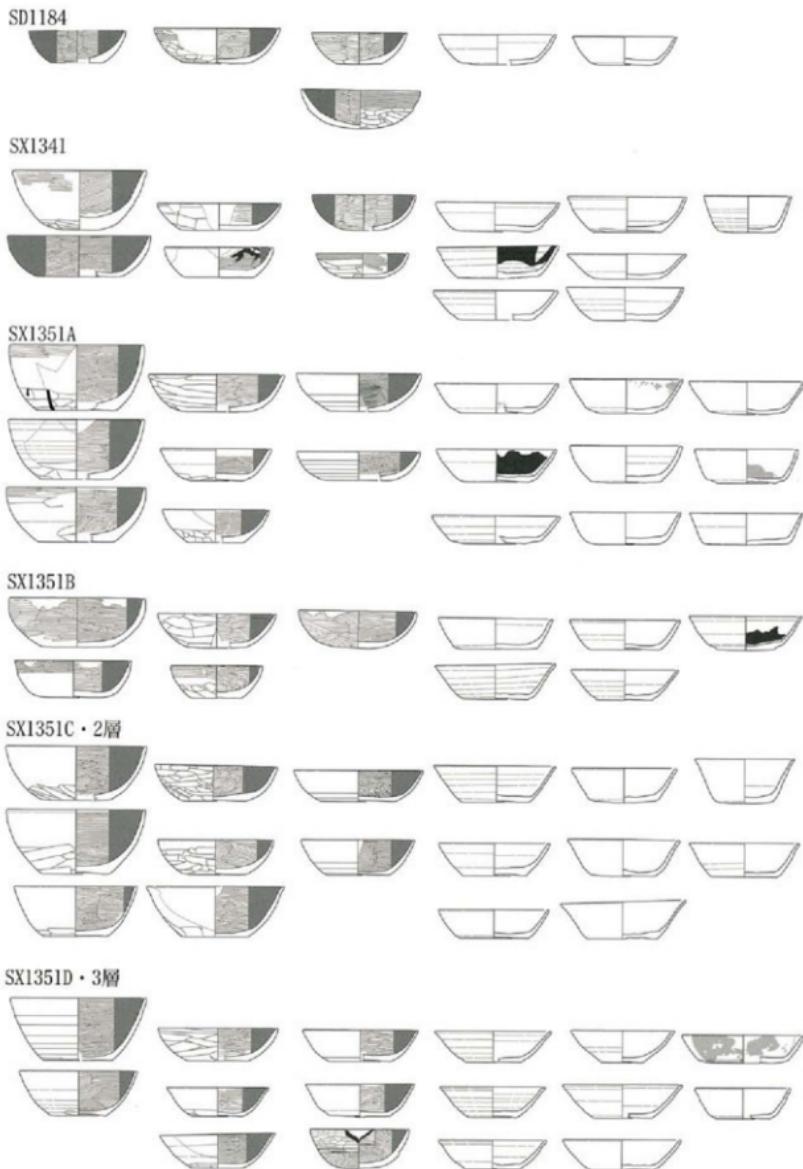
2層からは土師器杯A II a・A II b・A III、土師器甕A、須恵器杯II・IIIが出土している。土師器杯はA II a、A II b、A IIIが各1点、須恵器杯はIIIが1点（破片5点）、IIが1点（破片）ある。観に転用された高台付杯も1点出土しており、ロクロからの切り離しはヘラ切りである。土師器杯についてみると、径高指数は28～40の間、外傾度は42である。

② S X1351出土土器

S X1351はC区の中で最も多量の土器が出土した遺構である。A～D期に区分され、A～C期の埋土か

(註1) 文中における土器の点数は、基本的に口縁部あるいは底部が1/4以上残存しているものを対象としており、それ以外の小破片については「破片資料」あるいは「破片」と明記して区別している。

(註2) C区から出土した須恵器はヘラ切りによるものが多く、底部と体部との境界が不明瞭なものが多いため、外傾度の計測に当たっては底部から1/3までの高さの傾きは除外するという方法を探った（奈良國立文化財研究所『平城宮発掘調査報告Ⅱ』1962）。ただし、土師器杯については口縁部外縁と底部を結んだ直線と、船直線とがなす角度によって求めた。



第65図 主要遺構出土土器の組み合わせ

らは完形に近いものが多数出土した。

S X1351A：底面から出土したものとそれよりやや上位から出土したものとがあるが、ここでは一括して取り扱う。土師器杯A II c・B I・B I c・B II・B II b・B II c・B III、土師器甕A、須恵器杯I・II・II c・IIIが出土している。土師器杯A類はA IIIが1点と口縁部破片資料が14点ある。A II cは外面口縁部付近にヘラケズリがわざかに確認できる。B類では杯B Iが1点、B I cが1点、B IIが5点（破片5点）、B II cが2点（破片1点）あり、ほかに破片資料としてB IIIが3点、B II bが1点ある。土師器甕Aは、口縁部をヨコナデしたものが2点（破片）、体部外面をハケメ調整したものが4点（破片17点）、底部に木葉痕を残すものが2点（破片2点）ある。この他、ロクロ調整の有無を識別できない体部破片資料として、手持ちヘラケズリされたものが3点ある。

S X1351B：土師器杯A II a・A II c・B II、土師器甕A・B、須恵器杯I・II・IIIが出土している。土師器杯A類はA II aが1点、A II cが3点あり、ほかに口縁部破片資料が6点出土している。B類ではB IIが1点と口縁部破片資料が11点あり、ほかにロクロ調整の有無を識別できない体部破片が6点ある。土師器甕はすべて破片資料であり、甕Aは口縁部やハケメ調整された体部が21点、木葉痕を残す底部が4点ある。甕Bは口縁部・体部が5点あり、底部に糸切り痕を残すものが1点ある。須恵器杯はIIIが12点（破片11点）、IIが1点（破片1点）あり、破片資料ではあるがIが2点ある。土師器杯は1点のみであるが径高指数が36、外傾度は34である。須恵器杯は径高指数が25～31の間に分布しており、27～29に集中している。外傾度は26～39の間に分布し、33～39周辺がやや多い。

S X1351C：2層に区分される。

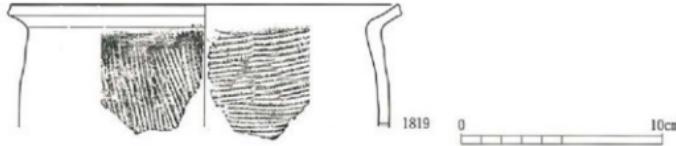
1層からは土師器杯B I・B I c・B II・B II a・B II b、土師器甕A・B、須恵器杯I・III・Vが出土している。土師器杯ではB Iが2点（破片1点）、B I cが1点、B IIが3点（破片1点）、B II aが1点、・B II cが1点あり、破片資料ではあるがB II bが1点ある。土師器甕は、ハケメ調整された甕Aが1点（破片5点）、甕Bが3点（破片20点）ある。甕Bには平行叩きがあるものが2点ある。須恵器杯はIIIが16点（破片14点）、Vが1点（破片1点）であり、そのほかIの破片資料が1点ある。土師器杯は径高指数が25～41、外傾度は26～44の間に分布しており、特にまとまりはみられない。一方、須恵器杯は径高指数が26～38の間に分布し、26～32周辺にややまとまりがある。外傾度は26～37の間に分布し、33～35周辺にややまとまりがみられる。

2層からは土師器杯A・B I・B I b・B I c・B II・B II b・B II c・B III・B V、土師器甕A・B、須恵器杯III・V・II a・II・I・II cが出土している。土師器杯A類は口縁部破片資料が2点あるのみである。B Iが4点（破片2点）、B I cが1点（破片1点）、B IIが10点（破片1点）、B II cが4点（破片1点）、ほかに破片資料としてB Vが4点、B I b・B II b・B IIIが各1点ある。土師器甕はA類が10点（破片33点）あり、ハケメ調整されたものがほとんどである。そのうち底部に木葉痕を残すものが2点（破片3点）ある。B類は8点（破片76点）あり、そのうち底部の切り離しがわかるものは回転糸切り1点（破片1点）、ヘラ切り1点（破片）がある。須恵器杯は多くの資料が出土しており、IIIが67点（破片82点）、Vが3点（破片3点）、II aが3点あり、破片資料としてIIが3点、Iが2点、II cが1点ある。土師器杯は径高指数が26～41の間に分布しており、26～31周辺がやや多い。外傾度は33～46の間に分布しており、39～46周辺がやや多い。一方、須恵器杯は、径高指数23～45の間に分布し、23～31周辺、特に28～31の間に集中している。外傾度は22～43の間に分布しており、30～35周辺に集中している。須恵器杯に器

形のまとまりが顯著にみられる一方で、土師器杯にはほとんど窺われない。

S X1351D 3層に区分しているが、1・2層は除外し、最下層の3層のみを対象とする（註3）。

土師器杯A I a・A I b・A II・B III・B II・B I・B II c・B II a・B I a・B I c・B IV、土師器甕A・B、須恵器杯I・II・II a・II b・III・Vが出土している。土師器杯は、A類がA I a、A I b、A IIが各1点と、ほかに破片資料が9点出土している。A I aの杯（546）は外面全体をヘラミガキし、杯A I bの杯（542）も外面口縁部をヘラミガキして仕上げている。杯A IIの杯（540）も底部にヘラミガキが観察される。B類は13点（破片127点）あり、そのうちB IIIが1点（破片9点）、B IIが5点（破片19点）、B Iが1点（破片7点）、B II cが2点（破片2点）、B II aが1点、B I aが2点（破片1点）、そのほか破片資料としてB Vが20点、B I cが1点、B IVが1点ある。B類が圧倒的に多い。土師器甕は、A類はすべて破片資料であり、ハケメ調整された体部破片や木葉痕のある底部破片など19点あるにすぎない。B類は9点（破片150点）ある。その中で、体部に叩きのあるものが2点（破片9点）ある。破片資料ではあるが、ロクロからの切り離しがわかるものでは、ヘラ切りが1点、静止系切りが1点、回転系切りが9点ある。須恵器杯はIIIが24点（破片93点）、Vが7点（破片13点）、IIが4点（破片5点）、Iが1点、II bが1点あり、破片資料ではII aが3点ある。土師器杯は径高指数が27～46の間に分布しているが、27～31にややまとまりがある。外傾度は28～43の間に分布している。須恵器杯は径高指数が25～34の間に分布し、外傾度は29～39の間に分布している。

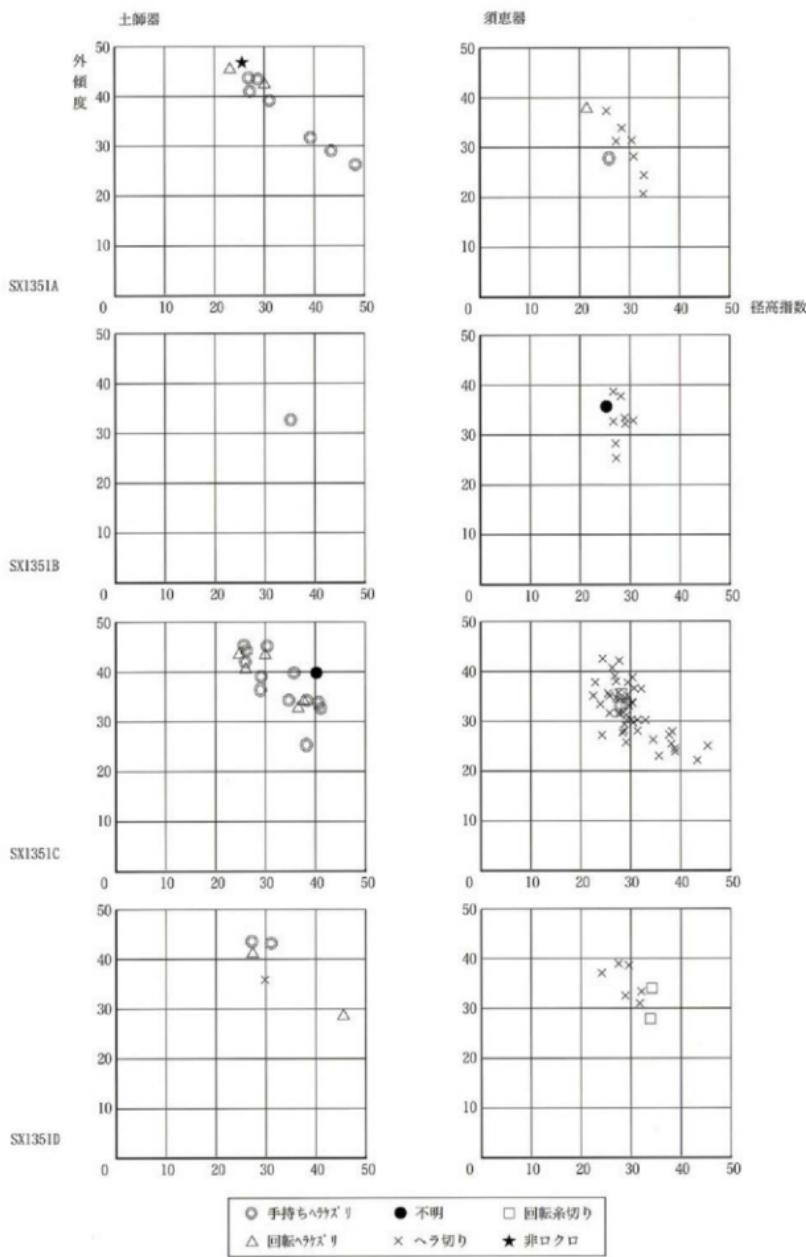


第66図 S X1351D出土土師器甕

③ S X1341出土土器

ほとんどの資料が1/4以上残存しており、小破片はきわめて少ない。土師器杯A I b・A II a・A II b・A II c・A III・B II、須恵器杯III・II cが出土している。土師器杯は、A類はA I bが1点、A II aが1点、A II bが1点、A II cが2点、A IIIが1点あり、ほかに破片資料が3点ある。B類は杯B IIが1点ある。土師器甕はA類のみ5点（破片15点）出土している。そのうちヨコナデ調整された体部破片が7点あり、木葉痕がある底部が2点（破片3点）ある。須恵器杯はIIIが8点（破片3点）、II cが1点出土している。土師器杯は、径高指数が22～29の間に、外傾度は34～48の間に分布している。須恵器杯は径高指数が22～43の間に分布しており、22～30がやや多い。外傾度は20～45の間に分布しており、31・32、38などにややまとまりがある。

（註3）S X1351D 2層は灰白色火山灰の自然堆積層およびその直上の堆積層であり、1層は周辺一部の遺構を覆う第V層と同一の堆積層である。西半部の調査において、灰白色火山灰は遺構埋土上層などでわずかに確認できる程度であり、火山灰降下以降の遺構にいたってはほとんど確認できない。したがって、S X1351D 2層出土土器は、2層堆積時の一般的なあり方を反映していない可能性が高い。S X1351出土土器の中で完形資料およびそれに近似するものと破片資料との比率をみると、土師器杯ではS X1351Aが15:85、S X1351Bが17:83、S X1351Cが42:58、S X1351Dが6:94であり、須恵器杯ではS X1351Aが57:43、S X1351Bが64:46、S X1351Cが43:57、S X1351Dが18:82である。A～C期と比較してD期における破片資料の割合が著しく高く、その可能性が高いことを示している。



第67図 主要遺構出土土器の器形分布図

④ S D1522出土土器

I層からは土師器杯A・B V・B II・B I・B II c・B III・B I c・II b、土師器壺A・B、須恵器杯V・III・II・I・II bが出土している。土師器杯A類は破片資料が7点あるのみである。B類はロクロからの切り離しがわかるものが23点（破片36点）あり、B Vが8点（破片9点）、B IIが6点（破片3点）、B Iが6点（破片17点）、B II cが3点（破片2点）あり、ほかに破片資料としてB IIIが3点、B I c・B II bが各1点ある。そのほか口縁部・体部破片資料が81点ある。土師器壺はA類とB類があり、A類がヨコナデやハケメ調整されたものが2点（破片39点）あり、そのうち底部に木葉痕のあるものが4点（破片）ある。B類は12点（破片132点）ある。そのうちロクロからの切り離しがわかるものは、回転糸切り（糸切り）2点（破片4点）、回転ヘラケズリ2点あり、破片資料で静止糸切りが2点ある。須恵器杯はVが13点（破片16点）、IIIが9点（破片54点）、IIが4点（破片4点）、Iが1点（破片3点）、II bが1点ある。土師器杯は径高指数が28～40、外傾度が28～42の間に集中している。須恵器杯は径高指数が24～41の間に分布し、26～33周辺に集中している。外傾度は26～43の間に分布しており、34～40周辺に集中している。

2層からは土師器杯A・B II・B I c・B I・B I b・B II c、土師器壺A・B、須恵器杯III・V・II・I cが出土している。土師器杯A類は破片資料がわずかに2点あるのみである。B類はロクロからの切り離しがわかるものが13点（破片14点）あり、B IIが11点（破片1点）、B I cが2点あり、破片資料としてB Iが11点、B I bが1点、B II cが1点ある。すべて再調整を施したものである。土師器壺はA類・B類ともすべて破片資料である。壺Aはヨコナデやハケメ調整された口縁部・体部が26点あり、底部に木葉痕があるものも3点ある。壺Bは28点あり、そのうち回転糸切り（糸切り）痕を残す底部破片が2点ある。須恵器杯は杯IIIが9点（破片34点）、杯Vが8点（破片6点）、杯IIが3点（破片1点）、杯I cが2点（破片）ある。土師器杯は径高指数が29～42の間に、外傾度は24～41の間に分布している。いずれもまとまりは認めがたい。一方、須恵器杯は、径高指数が25～39の間に分布し、25～31周辺に集中している。外傾度は21～42の間に分布しており、31～36と38～42周辺にややまとまりがある。ロクロからの切り離し手法別でみると、土師器杯ではB V・B IIの外傾度が高く、特にB Vにはまとまりがある。須恵器杯ではIIIの外傾度が高く、Vは低いという傾向が見られる。

⑤ S D1502出土土器

I層出土土器を対象とする。土師器杯B I・B V・B II・B I b、土師器壺A・B、須恵器杯V・III・II・II aが出土している。土師器杯はロクロからの切り離しがわかるものが3点（破片15点）と口縁部破片資料が6点あり、B Iが2点（破片5点）、B Vが1点（破片5点）、そのほか破片資料としてB IIが4点、B I bが1点ある。土師器壺はすべて破片資料である。壺Aはハケメ調整されたものが1点のみであるのに対し、壺Bは底部に糸切り（回転糸切り）痕を残すもの4点、ヘラ切り痕のあるもの1点のほか、口縁部・体部が51点ある。須恵器杯はVが1点（破片5点）、IIIが6点（破片44点）、IIが3点（破片3点）あり、破片資料としてII aが1点ある。土師器杯は径高指数が29～40、外傾度は36～40であり、須恵器杯は径高指数が25～42、外傾度は17～40である。外傾度が20未満の資料が2点ある。

③ 出土土器の年代

【S X1351出土土器の特徴と年代】

S X1351C出土土器は延暦9年（790）、S X1351Dは延暦24年（805）の木簡と共に伴っている。以下、それらの特徴を多賀城跡等の出土資料と比較し、木簡の年代との整合性を検討する。

S X1351出土土器は、土師器杯・甕においてA類とB類の共伴が最大の特徴である。このような土器群の存在は、これまで伊治城跡^(註4)や多賀城跡^(註5)で知られていたが、その実態はさほど明瞭とは言いかたいものであった。それは、良好な資料に恵まれなかつたことに加え、国分寺下層式から表形ノ入式へ移行する過程が不明瞭だったことによると考えられる。そのような状況の中で、S X1351出土土器は現時点では質・量ともに最も良好な資料といえるであろう。

土師器杯におけるA類の割合を時期別にみると、最も古いA期で44%、B期で84%、C期で4%、D期で15%である。B期の割合が突出しているが、分析の対象とした資料点数が少ないので実態を示していない可能性がある。このB期を除外すると、新しくなるにしたがってA類が減少し、B類が増加するという傾向が窺われる。これは、東北地方における土師器の基本的な変遷として理解されているものである。B類についてみると、ロクロからの切り離し後に再調整を行つたものが主体を占め、A期で47%（B I 6%、B II 41%）、B期で8%（B II 8%）、C期で85%（B I 30%、B II 55%）、D期で48%（B I 14%、B II 34%）となっている。各時期と通じてB IIの割合が高い。

ところで、B IIは器形上2種類に細分できる。器高が低く、底径の割合が大きいB II₁（S X1351 A : 1582、S X1351 C : 1420・1427）と、器高が高くて底径の割合も大きく、器壁が厚いB II₂（S X1351 A : 1584・1566・1577、S X1351 C : 1316・1425・1426）である。両者とも、ヘラケズリが底部全体におよぶことから切り離し痕跡が失われ、ロクロ調整か否か識別困難な資料もある（320・325・402、図版36～38）。このような器形上の特徴も考慮し、9世紀前葉頃の多賀城跡S I 2153・2160A、その類例とされる市川橋遺跡第7次調査S K236土壤、伊治城跡S I 173・168住居跡、胆沢城跡S D114溝第3 b層・S I 471住居跡出土資料と比較する。これらの年代は、さかのぼっても8世紀末までとされている（註6）。

B II₁はS X1351 Aからは3点出土しているが、多賀城跡S I 2153・2160Aなどには見られず、それらに後続する9世紀前半代のS E2101 B III層や9世紀中葉頃のS K2167にも見られない。B II₂についても市川橋遺跡第7次調査S K236土壤出土資料（註7）に2点含まれているが、そのほかの土器群には見られない。しかし、S I 2153・2160AやS E2101 B III層からは、B II₁と共に通する器形で回転ヘラケズリされた杯が出土しており、伊治城跡S I 173や多賀城跡S I 2153からもB II₂と共に通する器形で回転ヘラケズリされた資料が出土している。このような現象は、多賀城跡S I 2153・2160Aやそれと同時期とされる土器群とS X1351 A出土土器群とが年代的に接していることを窺わせ、器形に対し、再調整手法が短い時間幅で変化したと考えられる。B II₁・B II₂は、多賀城跡S I 2153・2160Aなどに継承されることから古い要素と考えられ、それを含むS X1351 A・B・Cは多賀城跡S I 2153・2160Aより古い土器群と見ることができよう。なお、B II₂は国分寺下層式新段階の杯にきわめて類似している（註8）。底部から口縁部まで外面全体を手持ちヘラケズリで仕上げるという手法は国分寺下層式の伝統を残した結果かと考えられ、土師器製作にロクロを使用した初期の形態を示している可能性がある。B II₂についても、器壁の厚さや、口縁部が先細り

（註4）宮城県多賀城跡調査研究所「伊治城跡I」多賀城跡開闢跡発掘調査報告書第3編 1978

（註5）白鳥良一は、多賀城跡出土土器をA～F群の6段階に分類し、同様な特徴をもつものを日群土器として8世紀末頃に位置づけた（白鳥良一「多賀城跡出土土器の変遷」『研究紀要VI』宮城県多賀城跡調査研究所 1980）。

（註6）宮城県多賀城跡調査研究所「第62・63次調査」『宮城県多賀城跡調査研究所年報1992』1993

（註7）S K236から出土した土師器杯2点（報告書第25図I・3）はロクロ調整を行わないものとして報告している（多賀城跡埋蔵文化財調査センター「市川橋遺跡－平成元年度発掘調査報告書」1990）が、その後の検討の結果、現在ではロクロ調整を行つたものと見ている。

（註8）村田晃一是、8世紀第4四半期から9世紀第4四半期を中心とする土器群において、ロクロ土師器の器形は前段階の国分寺下層式新段階における平底タイプと変わらないと指摘している（村田晃一「土器から見た官衙の終末」『古代官衙の終末をめぐる諸問題』第3回東日本埋蔵文化財研究会 1994）。

土 師 器

多賀城跡	伊治城跡S1173	B I		
	大畠S2153	B I		
	大畠S2160	B I	B II	
	大畠S2168	B I	B III	
	大畠S2167	B I	B II	
	鴨の池S107	B II	B V	
	鴨の池7号	B II	B V	

須 恵 器

伊治城跡S1173	I	II	
大畠S2153	II	III	
大畠S2160	II	III	
大畠S2168	I	II	V
大畠S2167	II	III	V

『宮城県多賀城跡調査研究会年報』(1992年)(1993)を次実

S11564	A	B III	
S11561	A	B II	
S11561A	A	B I	B III
S11561B	A	B II	B IV
S11561C	A	B I	B II B V
S11561D	A	B I	B II B III B V
S11562	A	B I	B II B III B V
S11562	B I	B II	B V

S11564	I	II	III
S11561	I	II	III
S11561A	I	II	III
S11561B	I	II	III
S11561C	I	II	III
S11561D	II	III	V
S11562	II	III	V
S11562	II	III	V

第68図 主要遺構出土土器の組成

	S11564	S11561B	S11561C-I型	S11561C-II型	S11561D・彫	S11564	S11562	S11562-I型	S11562-II型	S11564・彫	S11564-V
A	1(14)	4(6)		0(2)	3(10)	6(3)		0(5)	0(1)	0(9)	2(4)
B I	1(0)		2(1)	4(2)	1(7)		2(5)	6(17)	0(11)		
B I a					2(1)						
B I b				0(1)			0(1)				
B I c	1(0)		1(0)	1(1)	0(1)			0(1)	2(0)		
B II	5(5)	1(0)	3(1)	10(1)	5(19)	1(0)	0(4)	6(3)	11(0)		
B II a			1(0)		1(0)						
B II b	0(1)		0(1)	0(1)				0(1)			
B II c	2(1)		1(0)	4(1)	2(2)			3(2)	0(1)	3(0)	
B III	0(3)			0(1)	1(9)			0(3)			
B IV					0(1)						
B V		0(1)			0(4)	0(20)		1(5)	8(9)		
I		1(1)	0(2)	0(1)	0(2)	1(0)			1(3)		
I a											
I b						0(2)					
I c										0(10)	
II		1(0)	1(1)		0(3)	4(5)		3(3)	4(4)	3(1)	2(0)
II a					3(0)	0(3)	1(0)	0(1)			0(1)
II b						1(0)			1(0)		
II c		0(1)					1(0)				
III	19(14)	12(11)	16(14)	67(82)	24(93)	8(3)	6(44)	9(54)	9(34)	3(12)	1(5)
IV								1(5)	13(16)	8(6)	
V			1(1)	3(3)	7(13)						

表2 主要遺構出土遺物集計表

() 内破片資料

状を呈すという特徴は、ロクロ回転を利用してはいるものの、国分寺下層式の杯との類似性を残している。

次に須恵器杯についてみると、各時期を通してⅢ類が主体となっており、A期で90%、B期で86%、C期2層で91%、C期1層で91%、D期で77%となっている。S XI351A・B・Cの様相は多賀城跡S I 2153・2160Aと一致しているが、S XI351Aにはロクロ調整の際に底部の一部まで挽き出した古い形態（1571・1573・1597・1605）が含まれている（註6）。IV類はほとんどみられない。V類はC期2層の4%をはじめとし、C期1層で6%、D期3層で13%と次第に増加している。V類は多賀城跡S I 2153・2160Aには見られないが、それよりやや新しい多賀城跡S E2101Bには既に13~14%含まれており、それ以前から存在した可能性が高い（註7）。C期2層から出土したV類は多賀城周辺における古い出土例と考えられる。D期3層は10世紀前葉を下限とするが、須恵器土器を全く含んでいないことから、1・2層とは明瞭に区別され、およそ9世紀代に収まるところができる。土師器杯の構成をみると、B Vの割り合いは多賀城跡S K2167に近く、B Vが半数以上を占める多賀城跡鴻の池10層よりは明らかに古い要素を持っている。須恵器杯については多賀城跡S E2101B III層に近似しており、土師器杯より古い様相を呈している。したがって、D期3層の年代は延暦24年（805）を上限として9世紀中葉頃と考えられる。

以上のように、S XI351出土資料は周辺遺跡における9世紀前半代の土器群とも無理なく連続し、共伴した木簡の年代とも矛盾しない。したがって、C期は延暦9年（790）以降延暦24年（805）以前の約15年間にほぼ限定することができる。D期は延暦24年（805）を上限として9世紀中葉、B期は延暦9年（790）を下限としてそれ以前のものであり、A期はB期よりも古いためが与えられる。

【S XI341出土土器の年代】

S XI341出土土器の特徴は、①土師器杯はA類とB類があり、A類が90%、B類が10%とA類が圧倒的に多い。②土師器甕はA類のみ出土している。③須恵器杯はI・II・III類があり、III類が74%、I・IIはそれぞれ13%である。S XI351出土土器群と比較すると、①についてみると、A類の割合が高くB類は少數であることと、B類はすべて再調整を施したものであるこの2点はS XI351Aより古い要素である。②についてはS XI351Aと共通している。③については、III類が主体でV類を全く含まない点はS XI351Aと共通しているが、再調整を施したものの割合が高いことはそれより古い要素と見られる。したがって、延暦9年（790）以前のS XI351Aとは共通点を有しながら、それよりやや古い要素を持つ土器群と捉えることができる。

【S D1184出土土器の年代】

S D1184出土土器の特徴は、①土師器杯にA類とB類があり、出土した破片全体の割合としてはA類83%に対しB類17%であり、A類が圧倒的に多い。②土師器甕にもA類とB類があり、B類98%に対し、A類が2%である。③須恵器杯はI・II・III類があり、III類が60%、I類が29%、II類が11%である。これらの特徴のうち、①についてはS XI341の割合と近似しているが、A Iを含んでいる。②については、甕Bが少量含まれる点でS XI351Bと共通する。③についてはI・II・IIIで構成される点はS XI341やS XI351A・Bと共に通するが、その割合はS XI341に近く、再調整されるものの割合が多い点でそれよりやや古い様相と見ることができる。以上のことから、延暦9年（780）以前のS XI351Aよりもやや古いS XI341とは共通点やそれより古い要素を認めることができる一方で、延暦9年（790）以前でもS XI351Aより新し

（註6）多賀城政序第Ⅱ期から第Ⅳ期のはじめ頃を中心とした時期に比定されている（岡田茂弘・森原滋郎「多賀城周辺における古代杯形土器の変遷」『研究紀要Ⅰ』宮城県多賀城跡調査研究所、1974）。

（註7）註5において、B群土器に糸切り無調整のものがさわめて少量含まれるとの記載がある。

い S X1351Bとの共通点も認められる土器群とすることができる。

【S D1522出土土器の年代】

2層出土資料が少ないため1層出土土器と併せて検討する。S D1522出土土器の特徴は、①土師器杯にはA・B類がある。A類は極めて少ない。②土師器杯B類は再調整を施したB I・B IIの割合が72%を占め、無調整のIII・Vの22%を大きく上回る。③土師器壺はA類とB類があり、A類22%、B類78%とB類が多い。④須恵器杯は再調整を施したI・IIが10%であるのに対し、無調整のIII・Vが90%と高い比率を占めている。⑤についてみると、再調整を施したB I・B IIの割合がS X1351Cよりやや少ないがS X1351D(3層)よりも多く、それより古い様相を呈している。⑥についてみると、S D1522では壺A29%、壺B71%に対し、S X1351C(1・2層)では壺A31%、壺B69%とほぼ共通しているが、S X1351Cには叩き成形を行ったものが含まれているのに対し、S X1522には含まれておらず、S X1351Cに古い要素を認めることができる。⑦についてみると、Vの割合はS X1351D(3層)よりも多いが、I・IIの割合はS X1351D(3層)と同一である。このように、土師器杯についてみれば、S X1351Cとは共通する部分を多く持ちながらわずかに新しい要素が見られ、須恵器杯ではS X1351Dに共通性が見られる。ここではS X1351Cに共通する要素を認めつつも延暦24年(805)を上限とし、9世紀中葉としたS X1351D(3層)出土土器に近い年代を想定しておきたい。

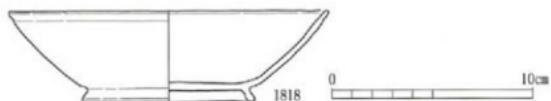
【S D1184・S X1341・S X1351・S D1522出土土器群の年代】

これまでの検討の結果、S X1351C期については延暦9年(790)以降、延暦24年(805)以前の15年間に限定される。S X1351D期については延暦24年(805)を上限とし、下限は10世紀前葉頃であるが、最下層の3層はおおよそ9世紀中葉に位置づけられる。S X1341・S X1351A・S X1351Bは、延暦9年(790)以前である。S X1351A・S X1351Bについては新旧関係が明らかであるが、それらとS X1341との前後関係は土師器・須恵器におけるわずかな調整手法の違いだけということになる。これらより古い様相を持つとしたS D1184についても同様である。S D1184(1層)から出土した須恵器瓶(壺G)は口縁部から体部にかけて欠損しているため詳細は不明であるが、県内ではおおよそ長岡京期の遺物に伴っていることを考慮すると、8世紀後葉を大きく遡る年代は考えがたい。S D1184・S X1341とS X1351A・S X1351B出土土器群の微妙な違いがどれほどの時間差をもつものかは判断できない。ここではS D1184・S X1341・S X1351A・S X1351Bを延暦9年(790)以前の8世紀後葉、S D1522を延暦24年(805)以降9世紀中葉としておきたい。

(4) 畿内系土師器について

畿内系土師器がC区西半部から138点出土している(表2)。これらは、内面にヘラミガキ・黒色処理を施した在地の一般的な土師器と明確に区別される。これらには、ヨコナデ、ヘラケズリ、粗いヘラミガキなどの調整が観察され、装飾的に暗文が施されたものもある。色調は全体的に橙色を呈するものが多く、在地の土師器と比較して赤味が強い印象を受ける。これら的一群は形態的特徴や調整手法、暗文の存在などから畿内系土器と類似しており、本文中では「畿内系土師器」と表記した。器種としては、平城宮の土器分類による椀A・杯A・杯B・皿・高杯・壺E・壺を確認した(表3)。小破片が多く、杯と椀の識別が困難な資料が多い。煮沸形態については、口縁部をヨコナデ、体部をハケメ調整した壺がほかにも出土しているが、丸底を呈する底部は1点も見出されず、断定するに至らなかった。畿内系土師器はS X1351河川跡やその北側にあるS D1460から多く出土しており、C区西半部でも北西部に集中している(第70図)。年

代的には、S XI351Aからも出土していることから、延暦9年(790)以前に遡るものも認められる。
(畿内系土師器を図化するにあたっては、関西地方と同様な表現方法を用いた。)



第69図 20区出土畿内系土師器高台付杯

畿内系土師器は、県内では仙台市・郡山遺跡^(註8)と亘理町・堀の内遺跡^(註9)で杯が各1点出土しており、いずれも飛鳥III段階(7世紀第3四半期)と考えられている。その他、特に記載はないが市川橋遺跡水入地区^(註10)、多賀城跡政府地区^(註11)からも外面を面取りした土師器高杯の脚部が各1点出土しており、畿内系土師器の可能性がある。C区出土資料は共伴した遺物から8世紀後葉から9世紀初頭にかけての年代が想定されることから、平城宮・長岡宮・長岡京出土資料との比較・検討を行った^(註12)。その結果については表3のとおりである。胎土については、III(330)が長岡宮域の製品と共通することが確認できたが^(註13)、そのほかの資料についてはその違いが際立った。特に胎土中に含まれる透明感のある石英粒は平城宮・長岡宮・長岡京出土資料にはほとんど見ることができないものであった。

以上のように、C区から出土した畿内系土師器は、器形上類似する点が多く認められる一方で、胎土や調整については相違点がいくつか見出された。また、ヘラケズリ後にヘラミガキされた椀^(註14)や底部を調整しない皿など、長岡宮・京城では少ないものも含まれていることが明らかになった。現時点では、これらの資料が畿内からの搬入品か、畿内以外の地域で生産されたものか確定するまでに至らなかった。

資料名・特徴		平城宮・長岡宮・長岡京出土資料
壺(466)	外面のヘラミガキが不明瞭。	明瞭
椀(329)	口縁部内面に軽いくぼみを形成。 ヘラケズリ後に疊らなヘラミガキを施す	長岡京期にはみられない(平城IV・V段階から多いものが多い)。 長岡京期には少ない(ヘラケズリ仕上げが主流)。
皿(330)		
蓋(508)	口径が17.5cm、器高が4.9cmと高い。 法量の割にツマミが大きい。	長岡京の法量区分には入らない(天井部付近の器厚からすればもっと口径が大きいのが一般的)。
高杯(509)	ヘラケズリ後ヘラミガキを施す。	ヨコナデで仕上げるのが基本的。
高杯(166)	柱状部内面にシリ目をそのまま残し、杯部との接合部が粗雑。	長岡宮・京出土資料は丁寧に仕上げている。
高杯(465)	脚部内面にヘラケズリ痕をそのまま残す。	宮城では基本的にハケメカナデ調整で仕上げる

表3 猥内系土師器と都城出土土器の比較

(註8) 仙台市教育委員会「郡山遺跡Ⅲ—昭和57年度発掘調査概報—」仙台市文化財調査報告書第46集 1983

(註9) 亘理町教育委員会「堀の内遺跡」亘理町文化財調査報告書第7集 1997

(註10) 宮城県教育委員会「水入遺跡発掘調査報告書」宮城県文化財調査報告書第84集 1982

(註11) 宮城県教育委員会・宮城県多賀城跡調査研究所「多賀城跡 政府跡 本文編」1982

(註12) 平城宮出土資料については奈良文化財研究所の川越後一・金田明大、長岡宮出土資料については向日市埋蔵文化財センターの國下多美樹、長岡京出土資料については長岡京市埋蔵文化財センターの小田桐樹・木村泰彦ほか多くの所員の方々にご教示を得た。

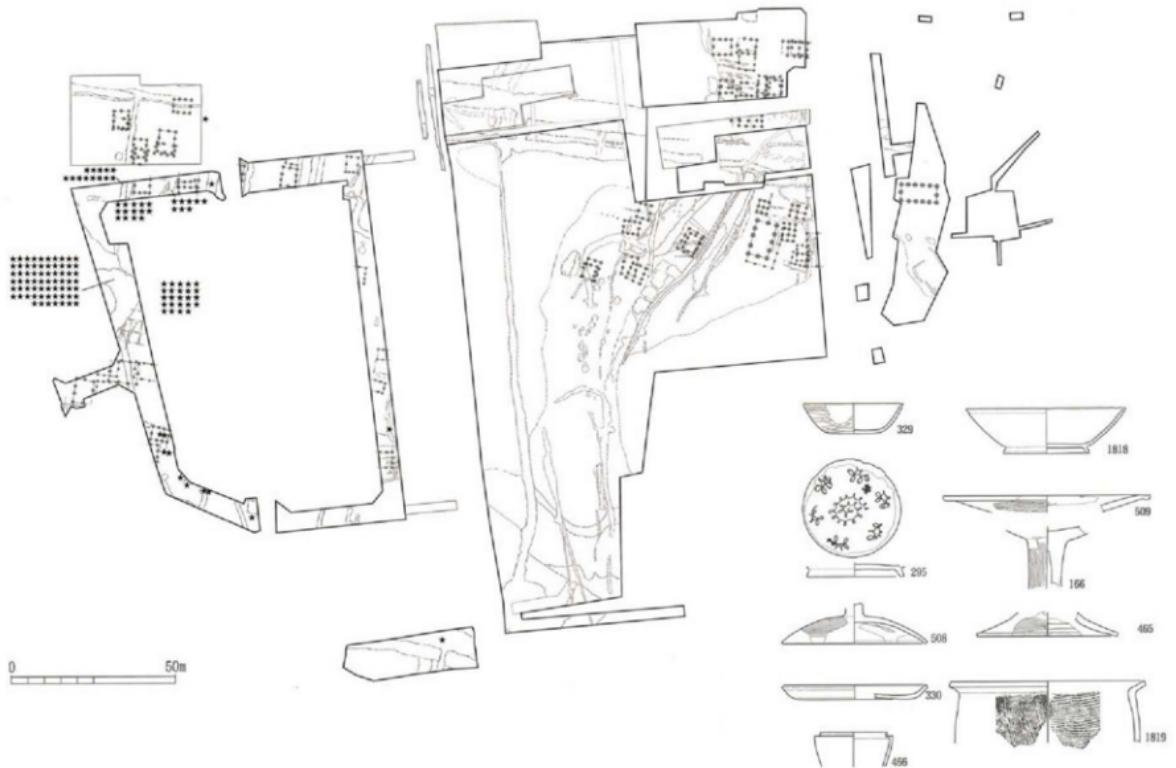
(註13) 向日市埋蔵文化財センターでは宮城から出土した土師器を1~Ⅷ群に分類しており(向日市教育委員会「胎土から見た長岡京期の土器—土器群地図定の基礎的作業として」『向日市埋蔵文化財調査報告書』第18集 1986)、阿センターの國下氏よりそのⅦ群に類似するとの指摘を受けた。

(註14) 長岡京では「あまり例を見ない一群」として報告例がある(財團法人長岡京市埋蔵文化財センター「長岡京跡右京城の調査」『長岡京市埋蔵文化財センター年報 平成10年度』2000)。

No.	区名	遺構・層位	器種	備考	報告書号	登錄番号	
1	110K	S X1600 - 1 層	杯		4476		
2	200K	S D1287 - 1 層	高杯		196	2184	
3	200K	S D1287E - 1 層	杯	附A	4277		
4	200K	S D1301 - 1 層	杯		4278		
5	200K	S E1285 - 深穴	蓋		4276		
6	200K	S K1342 - 3 層	高杯		4280		
7	200K	S X1352	杯	附A	2225		
8	200K	S X1351A - 底面	杯		4249		
9	200K	S X1351A - 高杯	高杯		4250		
10	200K	S X1351C - 1 層	高台付杯	杯B	295	1303	
11	200K	S X1351C - 1 層	高杯		1988	2186	
12	200K	S X1351C - 1 層	蓋		2203		
13	200K	S X1351C - 2 層	杯	附A	329	2180	
14	200K	S X1351C - 2 層	皿		330	2182	
15	200K	S X1351D - 1 層	高杯		495	2189	
16	200K	S X1351D - 1 層	高杯		2191		
17	200K	S X1351D - 1 層	高杯		1987	2197	
18	200K	S X1351D - 1 层	高杯		2199		
19	200K	S X1351D - 1 层	蓋		2204		
20	200K	S X1351D - 1 层	蓋		2206		
21	200K	S X1351D - 1 层	杯	附A	2210		
22	200K	S X1351D - 1 层	杯	附A	2212		
23	200K	S X1351D - 1 层	裏	附E	496	2216	
24	200K	S X1351D - 1 层	裏	附E	2217		
25	200K	S X1351D - 1 层	杯	杯A・B	4266		
26	200K	S X1351D - 1 层	皿		4267		
27	200K	S X1351D - 1 层	皿		4268		
28	200K	S X1351D - 1 层	杯		4269		
29	200K	S X1351D - 1 层	高台付杯	杯B	4270		
30	200K	S X1351D - 1 层	杯		4271		
31	200K	S X1351D - 1 层	杯		4272		
32	200K	S X1351D - 1 层	杯	杯A	4273		
33	200K	S X1351D - 1 层	杯	附A	4274		
34	200K	S X1351D - 1 层	杯		4275		
35	200K	S X1351D - 1 层	裏		1819	4295	
36	200K	S X1351D - 2 层	蓋		2179		
37	200K	S X1351D - 2 层	皿		2183		
38	200K	S X1351D - 2 层	高杯		2185		
39	200K	S X1351D - 2 层	高杯		507	2188	
40	200K	S X1351D - 2 层	高杯		1986	2190	
41	200K	S X1351D - 2 层	高杯		2192		
42	200K	S X1351D - 2 层	高杯		2193		
43	200K	S X1351D - 2 层	高杯		2194		
44	200K	S X1351D - 2 层	高杯		2195		
45	200K	S X1351D - 2 层	高杯		2198		
46	200K	S X1351D - 2 层	高杯		2200		
47	200K	S X1351D - 2 层	高杯		2201		
48	200K	S X1351D - 2 层	蓋	508	2202		
49	200K	S X1351D - 2 层	蓋		2205		
50	200K	S X1351D - 2 层	蓋		2207		
51	200K	S X1351D - 2 层	蓋		2208		
52	200K	S X1351D - 2 层	杯	附A	2211		
53	200K	S X1351D - 2 层	蓋		2213		
54	200K	S X1351D - 2 层	杯	附A	2215		
55	200K	S X1351D - 2 层	裏	附E	2218		
56	200K	S X1351D - 2 层	裏	附E	2220		
57	200K	S X1351D - 2 层	杯	附A	4251		
58	200K	S X1351D - 2 层	蓋		4252		
59	200K	S X1351D - 2 层	蓋		4253		
60	200K	S X1351D - 2 层	蓋		4254		
61	200K	S X1351D - 2 层	杯		4255		
62	200K	S X1351D - 2 层	杯	附A	4256		
63	200K	S X1351D - 2 层	杯		4258		
64	200K	S X1351D - 2 层	杯		4260		
65	200K	S X1351D - 2 层	杯		4261		
66	200K	S X1351D - 2 层	杯		4263		
67	200K	S X1351D - 2 层	杯		4264		
68	200K	S X1351D - 2 层	杯		4265		
69	200K	S X1351D - 3 层	杯	附A	1983	2181	
70	200K	S X1351D - 3 层	高杯		2187		
71	200K	S X1351D - 3 层	高杯			2196	
72	200K	S X1351D - 3 层	蓋			2209	
73	200K	S X1351D - 3 层	杯			2214	
74	200K	S X1351D - 3 层	高杯			2427	
75	200K	S X1351D - 3 层	杯			2428	
76	200K	第1層	高台付杯	杯B		2177	
77	200K	第1層	杯	杯A・B		2178	
78	200K	第1層	蓋			2221	
79	200K	第1層	高杯			2222	
80	200K	第1層	高杯			2223	
81	200K	第1層	高杯			2224	
82	200K	第1層	杯	杯A・B		4177	
83	200K	第1層	蓋			2252	
84	200K	不明	甕	甕E		2219	
85	200K	不明	杯			4282	
86	200K	不明	杯			4283	
87	200K	不明	杯			4284	
88	410K	S D1299 - 1 层	蓋			34	
89	600K	S D1460B - 1 层	杯	附A		708	
90	600K	S D1411 - 1 层	高台付杯	杯B		4187	
91	600K	S D1412 - 1 层	甕	甕E		2243	
92	600K	S D1412 - 1 层	高杯			5672	
93	600K	S D1412 - 1 层	杯			5673	
94	600K	S D1412 - 1 层	高杯			5674	
95	600K	S D1412 - 1 层	甕			5675	
96	600K	S D1412 - 1 层	杯			5677	
97	600K	S D1412 - 1 层	蓋			5678	
98	600K	S D1412 - 1 层	蓋			5679	
99	600K	S D1460B - 1 层	杯	杯A・B		4203	
100	600K	S D1460B - 1 层	高杯			1988	709
101	600K	S D1460B - 1 层	杯	杯A・B		779	
102	600K	S D1460B - 1 层	杯	杯A・B		771	
103	600K	S D1460B - 1 层	杯	杯A・B		772	
104	600K	S D1460B - 1 层	蓋			773	
105	600K	S D1460B - 1 层	杯	附A		774	
106	600K	S D1460B - 1 层	蓋			775	
107	600K	S D1460B - 1 层	杯	附A		776	
108	600K	S D1460B - 1 层	蓋			777	
109	600K	S D1460B - 1 层	高杯			778	
110	600K	S D1460B - 1 层	高杯			779	
111	600K	S D1460B - 1 层	高杯			780	
112	600K	被塗圓	杯	附A		2235	
113	600K	被塗圓	杯	附A		2236	
114	600K	被塗圓	蓋			2237	
115	600K	被塗圓	蓋			2238	
116	600K	被塗圓	蓋			2239	
117	600K	被塗圓	蓋			1985	4200
118	600K	被塗圓	蓋				4201
119	600K	被塗圓	杯	附A			4202
120	600K	被塗圓	杯	附A			4204
121	600K	被塗圓	杯				4205
122	600K	第1層	甕				2229
123	600K	第1層	甕				2230
124	600K	第1層	杯	杯A・B			2231
125	600K	第1層	杯	附A			2232
126	600K	第1層	杯	附A			2233
127	600K	第1層	杯	附A			2234
128	600K	第1層	蓋				2240
129	600K	第1層	蓋				2241
130	600K	第1層	蓋				2242
131	600K	第1層	杯	附A			2244
132	600K	第1層	杯				2245
133	600K	第1層	高杯				2246
134	600K	第1層	高杯				2247
135	600K	第1層	高杯				2248
136	600K	第1層	高杯				2249
137	600K	第1層	高杯				2250
138	600K	不明	高杯				2251

(表中の番号は本表の通し番号であり、報告番号が英図鑑・遺物写真の番号を示す)

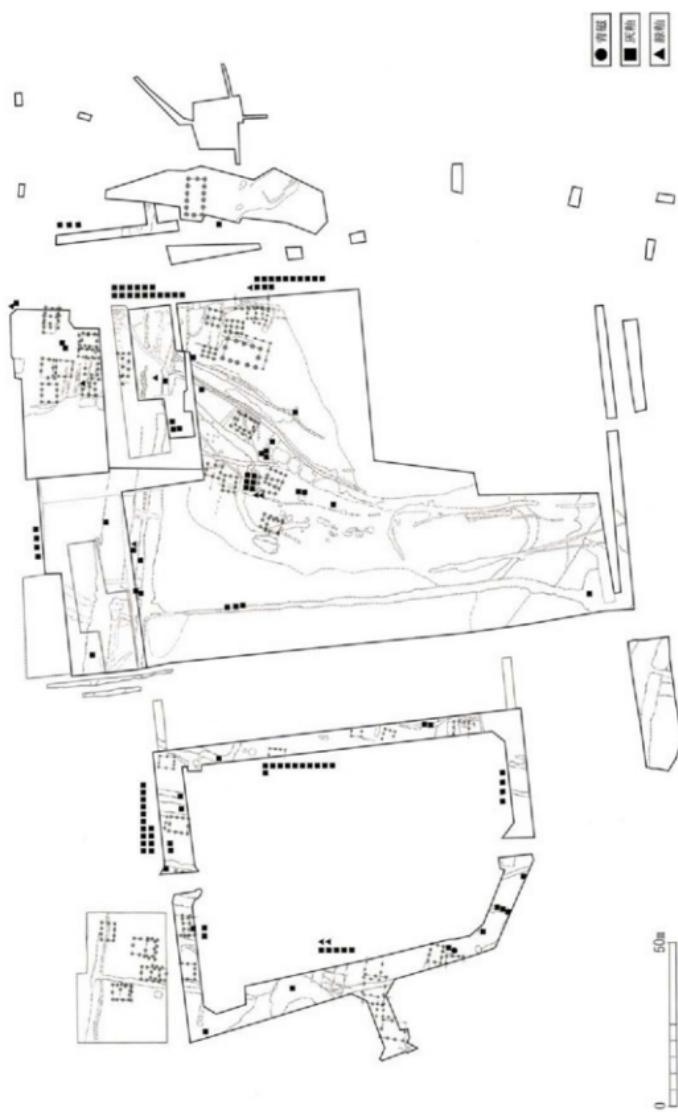
表4 繼内系土師器一覧表



第70図 機内系土師器出土分布図

第71図 C区出土機内系土師器

第72圖 青磁・灰陶・綠釉陶器・綠釉陶器出土層分布図



No.	区名	遺構・層位	備考	報告番号	登錄番号
1	41区	検出面		234	
2	41区	表探		270	
3	18区	S D1188・1層		337	
4	18区	S K1177・1層		728	489
5	18区	検出面		546	
6	18区	検出面		547	
7	18区	第Ⅱ層		550	
8	18区	第Ⅰ層		785	584
9	18区	第Ⅱ層		657	
10	18区	第Ⅲ層		658	
11	18区	第Ⅳ層		659	
12	18区	第Ⅴ層		660	
13	18区	第Ⅵ層		661	
14	18区	第Ⅶ層		662	
15	18区	第Ⅷ層		663	
16	18区	第Ⅸ層		664	
17	18区	第Ⅹ層		665	
18	18区	第Ⅺ層		666	
19	18区	第Ⅻ層		667	
20	18区	S K775・1層		668	
21	69区	S D1411・1層		751	
22	69区	第Ⅱ層		964	
23	69区	検出面		965	
24	69区	第Ⅲ層		983	
25	69区	第Ⅳ層		984	
26	23区	第Ⅱ層	底跡	1051	
27	23区	第Ⅲ層	体部破片	1072	
28	18区	検出面	ヒサシのみ	1097	
29	18区	検出面		1098	
30	20区	S D1379・1層		1116	
31	20区	S D1287・1層	カマ口～体部	167	1124
32	20区	S D1287・1層	スノ部分のみ	169	1125
33	20区	S D1287・検出面	カマ口のみ、H27と同一か	168	1126
34	20区	S D1287・1層	カマ口のみ、H36と同一か	153	1127
35	20区	S X1351D・3層		1465	
36	20区	S X1351D・3層		579	1466
37	20区	S X1351D・3層		1467	
38	20区	S X1351D・3層		580	1468
39	20区	S X1351D・3層		1469	
40	20区	S X1351D・3層		1470	
41	20区	S X1351D・3層		1471	
42	20区	S X1351D・3層		1472	
43	20区	S X1351D・3層		1473	
44	20区	S X1351C・2層		1474	
45	20区	S X1351B・1層		1554	
46	20区	S X1351D・3層		1476	
47	20区	S X1351D・3層		1482	
48	20区	S X1351C・2層		1487	
49	20区	S X1351B・1層		1554	
50	20区	S X1351D・1層		497	1745
51	20区	S X1351D・1層		491	1746
52	20区	S X1351D・1層		492	1747
53	20区	S X1351D・1層		495	1748
54	20区	S X1351D・1層		490	1749
55	20区	S X1351D・1層			1750
56	20区	S X1351D・1層			1751
57	20区	S X1351D・1層			1755
58	20区	S X1351D・2層	カマ口		534
59	20区	S X1351D・2層			529
60	20区	S X1351D・2層			1848
61	20区	S X1351D・2層	平行汎線		527
62	20区	S X1351D・2層			1850
63	20区	S X1351D・2層	平行汎線		1851
64	20区	S X1351D・2層			1852
65	20区	S X1351D・2層			1853
66	20区	S X1351D・2層			1854
67	20区	S X1351D・2層			1855
68	20区	S X1351D・2層			1856
69	20区	S X1351D・2層			1857
70	20区	S X1351D・2層	カマ口		533
71	20区	S X1351D・2層			1858
72	20区	S X1351D・2層			1859
73	20区	S X1351D・2層			1861
74	20区	S X1351D・2層			1862
75	20区	S X1351D・3層			582
76	20区	S X1351D・3層			583
77	20区	S X1351D・3層			528
78	20区	P12・埋土	墨模		1984
79	20区	P52・埋土			1985
80	20区	S E1295・抜穴			2028
81	20区	不明			2029
82	20区	S X1351C・2層	焚口・重欠		447
83	20区	第Ⅱ層	2070,2071,2072と同一個体か		2069
84	20区	第Ⅲ層	2069,2071,2072と同一個体か		2070
85	20区	第Ⅳ層	2069,2070,2072と同一個体か		2071
86	20区	第Ⅴ層	2069,2070,2072と同一個体か		2072
87	20区	第Ⅵ層	タテキ→ロクロ(外因)		2124
88	20区	第Ⅶ層	カマ口		2125
89	20区	第Ⅷ層	手持らヘラケズリ		2126
90	20区	第Ⅸ層	手持もヘラケズリ		2127
91	20区	第Ⅹ層	タテキ		2128
92	20区	第Ⅺ層			2129
93	20区	第Ⅻ層	黄17		2165
94	20区	第Ⅼ層			2166
95	20区	第Ⅽ層	小片		2167
96	20区	第Ⅾ層	小片		2168
97	20区	S D1522・1層			2394
98	20区	第VIa層			2638
99	20区	第VIa層			2639
100	20区	S K1567			3000
101	20区	S E1549・鉄埋土			3047
102	20区	S E1552・覆り土			3071
103	20区	S E1562・鉄埋土			3072
104	20区	S E1565・鉄埋土			3087
105	20区	S E1565・鉄埋土			3088
106	20区	S X1547・1層			3181
107	20区	S X1547・1層			3182
108	20区	S X1547・1層			3183

表6 商形土器一覧表

(表中の番号は本表の通し番号であり、番号番号が実測図・遺物写真の番号を示す)

No.	区名	遺構・層位	備考	報告番号	登録番号	No.	区名	遺構・層位	備考	報告番号	登録番号
109	78区	S B1560 - P形抜穴		3257		153	115区	S X1610 - I層			4987
110	78区	第VIa層		3399		154	115区	S D1614c - I層			5000
111	78区	S D1502 - 砂層		3422		155	115区	S D1614e - I層			5001
112	78区	S D1502 - 砂層		3423		156	115区	S D1614e - I層			5003
113	78区	礫出面		3622		157	116区	第I層			5120
114	78区	礫出面		3623		158	116区	第I層			5121
115	78区	礫出面		3624		159	116区	第I層			5122
116	78区	礫出面		3625		179	116区	第VIb層			5123
117	78区	礫出面		3626		171	116区	S D1613 - 下層			5124
118	78区	礫出面		3627		172	116区	第I層			5125
119	78区	礫出面		3628		173	116区	整地層			5126
120	78区	礫出面		3629		174	116区	S D1618 - I層			5127
121	78区	礫出面		3630		175	116区	礫出面			5128
122	78区	礫出面		3631		176	116区	礫出面			5129
123	78区	礫出面		3632		177	116区	第II層			5130
124	78区	礫出面		3633		178	116区	第II層			5131
125	78区	礫出面		3634		179	116区	第II層			5132
126	78区	礫出面		3635		180	116区	S D1619 - I層			5133
127	78区	礫出面		3636		181	116区	第VIb層			5134
128	78区	礫出面		3637		182	116区	整地層			5135
129	78区	礫出面		3643							
130	78区	礫出面		3644							
131	78区	第I層		1350	3771						
132	78区	第I層			3772						
133	78区	第I層			3773						
134	78区	第I層			3774						
135	78区	第I層			3775						
136	78区	第I層			3776						
137	78区	複乱			3777						
138	78区	第I層			3778						
139	79区	S X1487 - I層			3825						
140	79区	S B1480 Ph173			3851						
141	79区	S B1480 - P1238C六			3852						
142	79区	西面整地層			3950						
143	79区	南面整地層			3951						
144	79区	西面整地層			3976						
145	79区	第I層			4026						
146	79区	第I層			4027						
147	20区	第II層			4173						
148	68区	第I層			4185						
149	68区	礫出面			4186						
150	69区	S D1411 - I層			4196						
151	69区	第I層		861	4206						
152	20区	S X1361D - 2層			4296						
153	20区	S X1361C - I層			4297						
154	20区	S 1128 - 滴溝			4298						
155	20区	S X1361C - 2層			4299						
156	20区	S X1361D - 2層			4300						
157	20区	S E1285 - 製り方			4301						
158	20区	S X1361D - 3層			4302						
159	20区	第I層			4466						
160	21区	第I層			4515						
161	115区	S D1631B - 2層			4983						
162	115区	S D1631B - 3層			4986						

表7 雕形土器・製塙土器一覧表

No.	区名	遺構・層位	備考	報告番号	登録番号	No.	区名	遺構・層位	備考	報告番号	登録番号
31	20区	不明		221	1973	53	115区	S D1614e - 1層			4988
32	20区	不明		222	1974	54	115区	S D1614c - 1層			4989
33	20区	P80・埋土			1986	55	115区	S X1610 - 横出面			4990
34	20区	第II層			2061	56	115区	S D1631B - 1層			4991
35	20区	第II層			2076	57	115区	S D1616e - 1層			4992
36	78区	S D1510 - 2層		1060	2719	58	115区	S D1631A - 1層			4993
37	78区	S D1558 - 1層			2933	59	115区	S D1631A - 2層			4994
38	78区	S D1558 - 1層			2934	60	115区	S X1610 - 2層			4995
39	78区	S D1545 - 備埋土			3046	61	115区	S D1631B - 1層			4996
40	78区	S D1565 - 備埋土			3091	62	115区	S D1631A - 1層			4997
41	78区	横出面			3646	63	115区	S D1631A - 1層			4998
42	78区	横出面			3647	64	115区	S D1631B - 3層			4999
43	78区	第I層		1437	4030	65	115区	S D1614e - 1層			5002
44	78区	南西整地上層			4031	66	115区	S D1614e - 1層			5004
45	78区	南西整地上層			4032	67	115区	S D1614e - 1層			5005
46	78区	南西整地上層			4033	68	115区	S D1631A - 1層			5006
47	78区	第I層		1436	4034	69	115区	S D1631A - 1層			5007
48	110区	S X1600 - 1層			4474	70	115区	S D1631A - 1層			5008
49	110区	S X1600 - 1層			4475	71	115区	S D1631B - 3層			5009
50	110区	S X1600 - 1層			4480	72	115区	第I層			5135
51	115区	第I層			4984	73	115区	整地層			5137
52	115区	S D1631B - 2層			4985	74	115区	S D1414 - 1層		1978	5659

表8 製塗土器一覧表

2 木製品

道路側溝、区画溝、井戸、河川から925点出土している。特に、20区、110区の河川跡、78区の区画溝跡からの出土量が多く、年代は8世紀後葉から9世紀前半頃のものが圧倒的に多い。

(1) 容器器

容器としたものには、曲物、挽物、指物などがある。井戸跡、河川跡、溝跡から多数出土している。

曲物：353点出土しており、今回の調査で出土した木製品では最も多い。円形曲物、長方形曲物、楕円形曲物、曲物に付帯したと考えられる把手が出土している。側板が外れた板のみのものが大部分であり、側板と板が結合したものは8点、側板のみで大きさがわかるものは3点である。板にひとまわり小さい側板をあてて棒皮紐で結合するもの（棒皮結合曲物）と板を側板の内側にはめこみ、側板の上から木釘で結合するもの（釘結合曲物）がある（註1）。棒皮結合曲物には縁に段をつけて結合するものと段をつくらずに結合するものがあり、前者が圧倒的に多く、後者は長方形曲物（1527）にしか見られない。

円形曲物の法量についてみると（第74図）、径が13cmから21cmに集中し、18cm前後にピークが認められる。

円形曲物板の中央に孔があけられているものを9点確認し、棒皮結合が2点、釘結合が7点である。孔の大きさは0.6～2.0cmであり、円形板の径は10.2～21.0cmである。

曲物把手としたものに1698、1699がある。腐食の進んでいない1698についてみると、上部に6.0×4.6cmの長方形の穴があり、その下にはV字状の溝を彫り、その底端部に16孔の穴をあけ、棒皮紐が通してある。さらにその下には幅3.0cmの段がつくりだされている。このようなものの類例としては、市川橋遺跡第4次調査で出土している（第73図）。この調査では方形曲物の側板と結合した状態で出土しており、用途を考え

註1 結合方法による曲物の分類は『木器集成図譜近畿古代編』（奈良国立文化財研究所 1985）にしたがった。

る上で良好な資料といえる。この調査で出土したものは今回調査したものとやや形状は違うものの、上部に方形の穴があけられていること、V字状の溝が彫られ、桿皮紐で結合していること、曲物を受ける段をつくりだしているという共通点がみられ、同様の用途として使われた可能性が考えられる。

挽物：225点出土しており、曲物について出土量が多い製品である。白木のものと漆器があり、白木のものが圧倒的に多い。白木の製品には皿（97点）、高台付皿（85点）、椀（14点）、蓋（3点）、合子（2点）、鉢（1点）がある。木取りについてみると218点が柾目（横木取り）、7点が板目（横木取り）であり、蓋2点が縦木取りである。

樹種については全てのものを樹種同定してはいないが、樹種同定をした25点のうち、24点がケヤキ、1点がトチノキであり、1点がエノキ属である。樹種と木取りの関係をみると、24点がケヤキの柾目取り、椀1点がエノキ属の柾目取り、皿1点がトチノキの板目取りである。

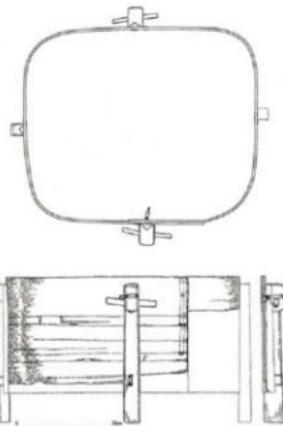
挽物皿・高台付皿の口径についてみると（第74図）、9～32cmまでの製品が出土した。15～24cmの製品が94%を占め、その中でも16～21cmにピークが認められる。

轆轤爪の痕跡についてみると、確認できたものは8点であり、形状がわかるものは3点のみである。轆轤爪の形状は（註2）、箱形が1点、菱形が1点、正十字が1点である。

刃物の痕跡についてみると、50点にその痕跡が確認できる。俎としての転用も考えられるが、箸を使用した際の痕跡の可能性も指摘されている（註3）。

漆器には皿、椀、合子、壺、不明品がある。1457・1458は本地の木目がわかるくらい薄い塗りのものである。1522は壺の頭部とみられるもので、漆の塗りは厚い。木取りは柾目取り。1777は不明品で当初は椀の高台部分とみたが、割れ口と考えられる部分にも漆が塗られているため不明品とした。破損後の転用品の可能性も考えられる。木取りは柾目取り。

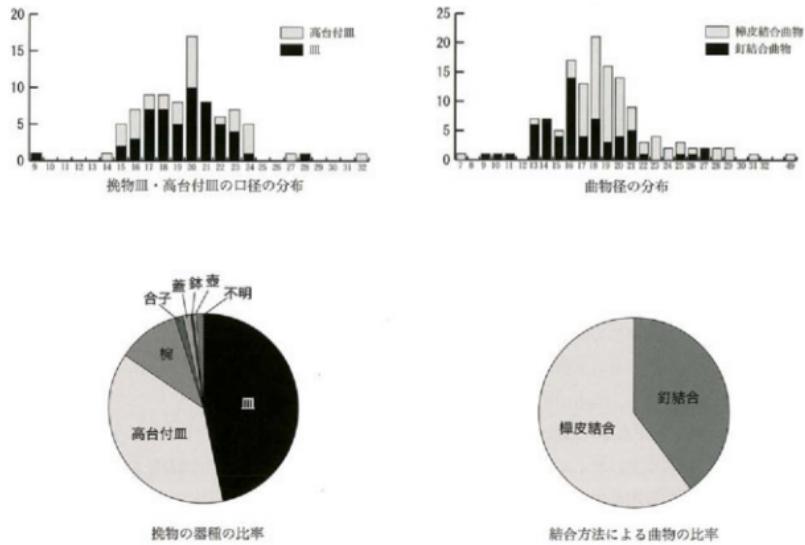
指物：箱の側板と考えられるものが11点出土している。すべて木釘によって結合していた痕跡を残すものである。そのうち1673は内外面とも漆塗りである。



第73図 市川橋遺跡第4次調査出土曲物

註2 轆轤爪の形状については金子裕之氏の法隆寺百萬塔の分類にしたがった。「百萬塔」『法隆寺の至宝—昭和資財帳』小学館 1991

註3 三浦純夫「古代の箸」『考古学ジャーナル』No.404 ニューサイエンス社 1996



第74図 挽物・曲物項目別グラフ

(2) 食膳具

食膳具としたものには箸状木製品がある。径0.8cmの棒状のもので、2点出土している。

(3) 発火具

火鑓白が3点出土している。1529は長さ28.5cm、幅2.3cm、厚さ1.6cmに加工された材を利用している。側面にV字状の切れ込みが3箇所、火鑓穴が2箇所確認できる。

(4) 服飾具

服飾具としたものには下駄、檜扇、櫛がある。

下駄：10点出土している。1549・1598・1628・1643・1676は台と歯を一本からつくる連歯下駄である。1549は平面形が長方形で、前壺を左によせ、後壺が後歯の前にある。1598は平面形が丸長方形で、前壺が台のほぼ中央にあり、後壺が後歯の前にあるものである。1643は一般的な下駄とは異なり、縦長の歯が台の四隅に4箇所にあるものである。1509は歯を持たないので、前壺が台の左によっている。樹種は1549がモクレン属、1598がクマシデ属イヌシデ節である。

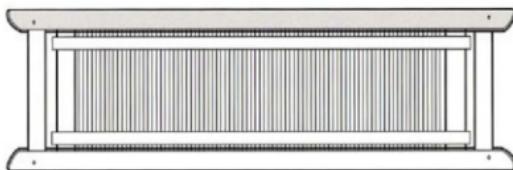
横櫛：8点出土している。いずれも断片であり、完形のものは出土していない。長方形のものと半円状のものがあり、長方形のものが7点、半円状のものが1点出土している。樹種同定をしたのは1点のみで樹種はイスノキである。

馬櫛：柄のつく豎櫛を馬櫛とした。2点出土している。1508は未製品で、完全に刃を挽き出していない。1677は製品で柄に円孔がある。

檜扇：4点出土している。完形のものは1698のみで、他は下端に円孔がある薄板のものである。

(5) 紡織具

箒の一部と見られるものが1点出土している。長さ61.0cm、幅2.6cm、厚さ1.6cmであり、短辺側の側面に長さ56.0cm、幅0.8~1.0cm、深さ1.4cmの溝が掘られている。この溝の両端には $1.8 \times 0.5\text{cm}$ と $2.3 \times 0.5\text{cm}$ のほぞ穴があり、片方にはほぞ木の一部が残存している。ほぞ穴の側面に木釘が残存することから、木釘によって固定されていたようである。このような製品は静岡県浜松市伊場遺跡から出土しており、経糸の擦痕が64.6cmにわたって確認されている(註4)。



第75図 簷復元模式図

(6) 農具

農具としたものには鍬と鎌がある。

鍬：着柄された状態の鍬が1点出土している(1690)。鍬身と柄の装着する部分には楔がうたれて固定している。身は長さ35.0cm、幅19.4cmで、断面は刃先向かって薄くなる。木取りは板目で全面に加工の痕跡が見える。鉄製の刃先をつけるための着装部は、段がつくりだされていない。柄は一部欠損しているため正確な長さは不明であるが、欠損部は僅かと考えられ、65cm前後と推定できる。握り部は $3.3 \times 2.8\text{cm}$ の楕円形であり、鍬身に装着する部分では断面が $5.4 \times 3.4\text{cm}$ の長方形である。

鎌：12点出土し、全て芯持ちの丸木材を利用している。材の中央部を細くして紐を結ぶくびれ部をつくっている。1604・1726・1727は、くびれ部が上端付近にある形態であり、鎌？としたが、立体人形や陽物の可能性も考えられる。1662は、軸轆で挽き出されたもので、形状から鎌としておく。

(7) 工具

工具としたものにはヘラ状木製品、柄がある。ヘラ状木製品の中には杓子としての用途も考えられるが、便宜上この項として説明する。

ヘラ状木製品は6点出土している。1610はヘラ部をつくりだしていないが、端部に漆が付着していることから漆塗り作業に使用したヘラ、もしくは刷毛の軸部と考えられる。1528は、杓子状になるものである。

柄には刀子柄、鎌柄がある。1697は刀子の柄であり、鉄製の刃と中茎が一部残存するものである。

鎌柄としたものには1501・1531がある。いずれも芯持ちの丸木材を加工している。1531は柄頭が三角形であり、1501は方形である。鎌との装着部は欠損している。

(8) 横笛(1687)

竹製の笛が1点出土している。1個の歌口と5個の指孔をもつ横笛である。土圧でつぶれた状態で出土し、材の状態も非常に脆かつたため、法量は保存処理が終了した時点での測定した。大きさについてみると、

註4 浜松市教育委員会『伊場遺跡 遺物編1』1978

長さ34.8cmであり、頭部端の太さは1.6cm、節の部分で1.6cm、尾端部分が1.6cmである。孔についてみると、歌口は長径1.65cm、短径1.0cmであり、指孔は長径0.8~1.0cm、短径0.5~0.6cmである。孔の間隔についてみると頭端から歌口までが3.7cm、歌口から第6指孔までが11.3cm、第6・第5指孔間が1.65cm、第5・第4指孔間が1.9cm、第4・第3指孔間が1.9cm、第3・第2指孔間が1.7cm、第2・第1指孔間が1.65m、第1指孔から尾端までが4.1cmである。

なお、古代の笛はこれまで東北地方では、宮城県名取市清水遺跡（宮城県教育委員会1981）、多賀城市市川橋遺跡（宮城県教育委員会2000）、福島県石川郡玉川村江平遺跡（福島県文化振興事業団2002）から出土し、清水遺跡と江平遺跡のものは指孔が6孔と推定され、市川橋遺跡のものは3孔である。特に今回出土したものは江平遺跡のものと長さ、孔の位置とも非常によく似ている。

(9) 花形漆塗製品

5枚の複弁を持つ花形の木製品である。中央には銅釘が刺されていることから装飾に使われたものと考えられる。表面は全面に漆がきれいに塗られ、裏面は漆が塗られていない場所がある。樹種はヒノキである。

(10) 不明品

用途不明な製品が110点出土している。以下主要なものについて説明する。

1455は幅3.7cm、厚さ1.0cmの細い板状の製品で木釘または木釘穴が2列に12箇所確認できる。木取りは柾目。

1600は長さ36.8cmであり、軸部とヘラ部からなる製品である。

1619は長さ23.5cm、幅2.1cm、厚さ0.8cmであり、両端の一端低くつくられた部分には木釘が残存する。

1678は長さ35.0cm、径3.3cmの芯持ち材を利用している。上端部に貫通しない孔があけられている。

1685はヘラ状の木製品で釘穴が中央部に1箇所、下端部に3箇所確認できる。下端部の幅狭の部分には削りが入れられ、墨痕が僅かに確認できる。

1688は民具でいう十能状の製品である。焦げた痕跡はない。

1689は長さ61.3cm、径3.8cmの芯持ち材の両端を厚さ2.1cmに削りだした製品である。

1736は幅2.4cmであり片面が5面に面取りされたものである。黒色漆が塗られている。

3 金属製品

金属製品には銅製のものと鉄製のものがある。33点出土した。特に東西大路東道路に架かる橋S X1630付近の遺構（東西大路東道路南・北側溝、SD1631溝跡）からの出土量が多い。

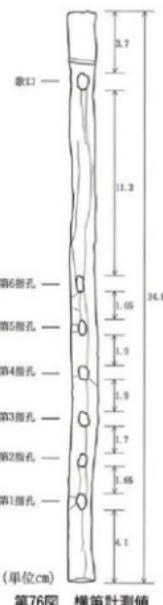
(1) 銅製品

帯金具：銅製の帯金具が2点出土している。いずれも丸薬であり表面には黒色漆が残存する。1789は裏金具が付着した状態で出土している。

(2) 鉄製品

刀：2点出土している。1808は茎の長さが11.4cmであり、目釘の痕跡はない。1800は幅2.5cmで断面が三角形を呈するものである。刀としては細身のものである。

刀子：6点出土した。木質の柄が残存するものも2点出土している。1795は木製の柄に樹皮が巻きつけ



られている。

鎌：3点出土している。1806は長さ21.6cmであり、内湾する形状のものである。1807は長さ15.9cmであり、背が直線的なものである。出土した3点とも柄を装着するための折り返しが認められる。折り返された面を上にすると、1806は刃先が右側に、1807・1809は刃先が左側になる。背に対する折り返しの角度についてみると、1806・1809は鈍角、1807はほぼ直角である。

獸脚：1点出土した。鋳造品であり、表面には赤い付着物が確認できる。山王遺跡多賀前地区の出土のものと大きさ形とも類似する。

手鎌：1点出土している。幅1.8cmであり、目釘穴が確認できる。

斧：1点出土した。袋状鉄斧で、袋部の断面形は長方形である。

轡：轡の引手である。引手壺は「く」の字状に屈曲している。

釘：5点出土している。いずれも小型の釘である。

鐵：2点出土している。1803は雁又鎌で先端部は欠損する。1786は鎌身が幅広で台形になるものである。茎と中茎の境はない。

筋锤車：1点出土した。軸部は残存せず、痕跡をのこすのみである。はずみ車の径は4.8cmである。

釣針：1点出土した。針先は欠損しているものの無鐵であると考えられる。

4 祭祀遺物

祭祀遺物としたものには人面墨書土器や絵馬・人形・馬形・刀形・舟形・鎌形・斎串・不明形代といった木製祭祀具がある。

人面墨書土器：道路側溝、河川跡、溝跡から出土しており、73点確認した。人面だけではなく、体や足まで描かれた人物墨書土器も3点（666・668・670）確認している。描かれた面数をみると、1面・2面・4面のものがあり、その中でも2面のものが多い。人面墨書土器には土師器甕と須恵器杯を利用したものがあり、須恵器杯を利用したものは1点のみである。出土地についてみると、東西大路東道路に架かる橋S X1630付近の遺構（東西大路東道路南・北側溝、S D1631溝跡）、河川跡（S X1351・1600）、S D1522溝跡から出土しており、いずれも水に関わる遺構から出土している。これらの遺構では、人面墨書土器だけではなく、斎串や形代といった木製祭祀具も出土している。特に斎串の出土点数が多い。

絵馬：絵馬は5点出土している。1653・1735は、墨が欠落し、痕跡だけが確認できる。1735は、上端部中央に釘穴があり、馬のほぼ全体が確認できる。1757は今回出土したものの中で最も墨の残りがよく、描かれた馬の状況もわかる資料である。上端部中央に釘穴がある。鞍、障泥、胸繫、尻繫、手綱が明瞭に描かれている。絵馬は今回の調査を含め城外で7点出土しており、そのうち5点がC地区からの出土である。

形代：人形、馬形、鎌形、刀形、不明形代出土している。人形は9点出土し、墨によって顔が描かれているもの（1674）が1点、円形曲物板を転用してつくられたもの（1652）が1点ある。馬形は目と鬚が墨で描かれている1点出土している。舟形は1点出土している。比較的大型のもので、表面を方形の溝を削り抜き、先端を尖らして舳先を表現している。樹種はコナラ属コナラ亜属クヌギ節である。鎌形は1点出土しており、鎌身がつくりだされている。樹種はクロベである。刀形は2点出土している。いずれも刃と柄をつくりだしているものである。樹種同定の結果、1616はマツ科モミ属である。出土地についてみると、人面墨書土器と同様に、東西大路東道路に架かる橋S X1630付近の遺構（東西大路東道路南・北側溝、S D1631溝跡）、河川跡（S X1351・1600）、S D1522溝跡から出土している。

斎串：斎串としたものには今回の調査で最も多く出土した祭祀遺物で92点出土した。樹種は全て針葉樹で、マツ科モミ属・ヒノキ科アスナロ属・スギがある。形態や切り掛け方法により大きく6種類に分類した。

A類：薄板の上端を圭頭状にしたもので切り掛けを行わないものである。2点確認した。

B類：薄板の上端付近に左右一対の切り掛けを行うものである。37点確認した。上端付近から切り掛けを行うものが多い。さらに上端から面と並行に切り込みを入れるものも5点確認した。

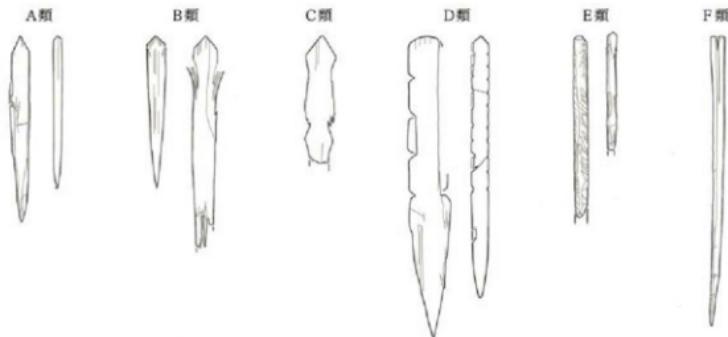
C類：薄板の側面に上方と下方から切り掛けを加えるものである。1点出土している。

D類：薄板の側面にV字状の切り欠きを施すものである。上端が圭頭状になるもの（7点）と丸くなるもの（4点）がある。また、縁を墨書きしたものもある。

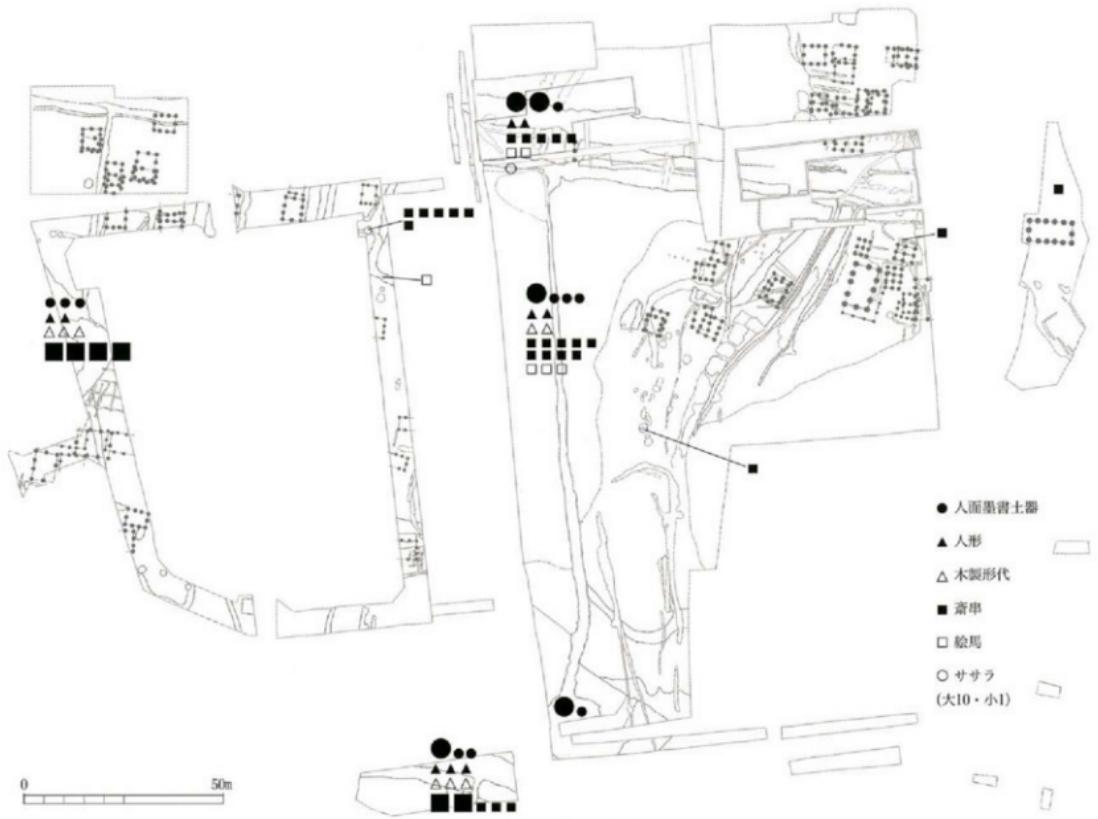
E類：角棒の稜に切り掛けを施すものである。2点出土している。

F類：棒状の製品に上端から垂直に切り込みを入れたものである。1点出土している。

出土地についてみると（第78図）、道路側溝、河川跡、溝跡などから出土し、人面墨書き土器や木製形代と同様の出土分布を示していることから、セットとして使われていたことが指摘できる。また、井戸跡からも出土し、全て側内の埋土からの出土であることから、井戸が開口しているときに使用されたか遺棄されたものと考えられる。



第77図 斎串の分類



第78図 祭祀遺物出土分布図

5 墨書・刻書土器

市川橋遺跡城南地区南東グロック（C区）において、墨書や刻書の確認できる土器が多数出土した。本節では、墨書・刻書・漆書のある土器について集成を行い、若干の傾向について述べる。検討の対象とした土器については本節末に「表10～28 墨書・刻書土器一覧表」として掲げ、器種・遺構・層位・文字内容・記載部位・記載方向などをまとめた。なお、平成九年度に実施した確認調査（第23次）出土資料もあわせて収録している。

はじめに一覧にかかる凡例を示しておく。

1、本表では、墨書・刻書・漆書の確認できた土器を対象としている。墨痕がわずかに確認できる程度のものについては割愛したものもあるが、判読不可なものも含め、文字ないし記号であることが推測できるものはできる限り収めることとした。

2、「文字」欄に使用した符号の凡例は以下のとおりである。

「□」…艶脱は困難だが、一文字記載されていることが確認できたもの。もしくは、字数は不明だが、明らかに墨書ないし刻書がされていることが確認できたもの。

「□□」…艶脱は困難だが文字数の確認できるもの。

「□」「□」…同一の部位に記されているが、熟語ではなく一字ずつで意味を持つと解釈したもの。

「□」「□」…異なる部位に記されている場合、その別を記す。

「□〔　〕」…文字を確定したいもの。

「□〔　〕」…墨書・刻書・漆書の別を記す。墨書に関しては必要な場合のみ記す。

「□〔　〕」…文字内容に関する注記。

「■」…抹消されていることを示す。

3、土器への主な文字記載方法のうち、刻む行為については、焼成前の土器へ刻むことをヘラ書き、焼成後の土器へ刻むことを線刻などと称し区別する場合もあるが、本報告では焼成の前後に問わらず一括して刻書と称する。

出土点数 C区から出土した土器のうち、墨書ないし刻書・漆書の確認できた土器は998点にのぼる。地区ごとに内訳をみてみると、出土点数の多い順に78区349点、20区219点、18区99点、115区92点、41区81点、110区49点、69区33点、116区28点、79区27点、22区9点、21区3点、23区3点、70区3点、19区2点、68区1点、となっている。

墨書・刻書土器の器種 土器の内訳は、須恵器が684点、土師器が307点であり、その他灰釉陶器4点、円面鏡1点、竈形土器1点、丸瓦1点が含まれる。器種別では杯が大部分を占め870点にのぼるが、そのほかに壺（含小型壺）が88点、高台付杯20点、瓶7点、双耳杯2点、長頸瓶2点、榠2点、皿1点、蓋1点、高台付皿1点、小型壺1点、などがある。

記載位置 墨書については、体部外面と底部外面に記載されている場合が多いが、体部内面に記載されているものが7点（808、936ほか）、底部内面に記されたものが4点（610、711、1145、1887）ある。体部外面に記載された文字の記載方向に関しては、不明なものが多かったが、正位で記載されたものが165点あったほか、倒位が43点、横位のものは43点を確認・推定できた。

刻書については、総点数174点のうち底部外面への刻書がもっとも多く153点、体部外面に刻書されたものが15点、底部内面に刻書されたものが4点、口縁部内外面に刻書されたものが1点である。

墨書内容 墨書の文字数は、一文字のもの、あるいは、一個体に二文字以上記されていてもそれぞれ一字ずつで意味を持つと思われるものが圧倒的に多いが、二文字であることが確認できたものが26点、三文字のものが3点、四文字以上の墨書を持つもの（705「大伴部廣」）が1点ある。また、文字・記号の種類も100種以上見られる。内容は、一文字のため意味を捉えることが困難なものが多いが、地名、人名、施設名、吉祥句、人面など多岐にわたる。

地名を記したものには、「名取」（1076、1244）「刈田」（75、615、1846）「柴田」（667）などがある。いずれも郡名と考えられる。また、一文字のため断定することはできないが、「北」の墨書（148）が出土している。方角を示したものだろうか。

人名と考えられる墨書も出土したが、記載方法は豊富である。「秦」（1853、1885ほか）、「山田連」（610）、「大伴」（1056、1246ほか）などウジ名を記したもの、「大伴部廣（以下欠損）」（705）と個人名を記したもの、「繩米」（1340）や「□（高）宗」（1188）のようにウジ名を省略し、所有者を記したもの、あるいは「尊丸器」（31）のように、人名+「器」と記されているものもある。また、「丈真」（1836）は「丈部真〇」という個人名を省略し、所有者を記したものであろう。41区出土の第20号木簡には「丈部真丈」「丈部（某）」の人名が見えるが（附章参照）、関連性が注目されよう。「丈」一文字の墨書土器（71）も出土しているが、「丈部」の意かもしれない。

施設名を記したものとして、20区から3点、78区から4点の計6点の「厨」墨書（1049、1129ほか）が出土している。「厨」墨書については、出土遺構が必ずしも厨施設の遺構であるとは見なせないという点に注意する必要があろう。6点の土器のうち、3点が底部外面に、残る3点のうち2点が体部外面・正位、1点が横位で記載されている。その他、「宅」3点（うち1点は刻書）、「家」3点、「舍」（1187）などが出土している。

吉祥句と思われる語句には「万」や「福」、「富」などがある。「万」は、一文字で記載されているものの他、「十万」（1128）、「千万」（481）あるいは「万福」（422）など熟語として記載されている例もある。

一文字の墨書は「#」や「山」「田」「川」「糸」「大」「千」など多岐にわたる文字が確認できた。

「#」は13点出土している。「#」の意味は、文字どおり井戸を示す「#」と捉えるほか、呪符等に用いられるドーマンと呼ばれる魔除け記号として考える場合がある。本調査区出土の13点の墨書土器の場合は、出土地区に際だった傾向は見られないことから、井戸を意味するのではなく、一種の記号と考えてよいと思われる。魔除け記号としては「#」の他、「ヰ」（五芒星）や横画5本と縦画4本で示す、いわゆる「九字」が知られており、共伴する場合も少なくないが、本調査区出土の土器にそれらの墨書は確認できなかつた。

もっとも多く出土した墨書は「山」字であり、「山」一文字で意味をなすと考えられるものが49点にのぼる。そのうち一カ所にのみ墨書しているものが41点、体部外面および底部外面の二カ所に「山」字を記しているもの（278、309ほか）が7点、また体部外面・底部外面・底部内面の三カ所に計4つの「山」字を記しているもの（606）が1点ある。「山」のみのものを観察すると、字が類似し同筆と判断されるものが多い。また、二カ所に「山」字を記しているものに関しては7点すべてが、体部外面（正位）および底部外面に記されるという記載部位・記載方向に共通性が見られる。

人面墨書土器は73点確認することができた。うち66点が甕への墨書である。破片であるため人面墨書であると判断できなかったものは点数に含んでいない。土器一点につき人面一面を描いたもののほか、複数

面描いたもの(44)もある。あるいは「人面」だけではなく、胴体・手足等を描いているもの(670ほか)も見られ、バラエティに富んでいることが指摘できよう。

刻書内容 刻書土器は総点数174点である。刻書内容は「×」が最も多く、他に「一」も多い。「×」は推定のものも含めて87点、全体の半数を占める。また、「一」の刻書は、完形の土器に「一」と記され軋脱したもののほか、土器が欠損しており「一」の部分のみが僅かにみえるものも多い。すなわち、土器の残存状況により「一」ないし「□〔一か〕」とせざるを得なかったものも多かったが、「一」の中には本来は「×」であったものも多かったのではないかと推測される。したがって、「×」と刻書された土器の点数は更に多かったものと考えて良いだろう。出土遺構別では78区の23点、20区からの21点がもっとも多い。

「#」(刻書)は5点出土している。本調査区出土の墨書き「#」は魔除け記号である可能性が高いと思われるが、刻書と墨書きは第一義的な意味を同様に捉えることはできず、魔除け記号以外の意味を持つ可能性も高い。刻書「#」は体部外面に見られるが、「#」以外で体部外面に刻書されているのは、「一」「二」「キ」などである。他に横三本縦二本の線が刻まれているもの(1)もある。複数点出土した「一」や「二」の刻みを見てみると、漢数字として刻んだというよりも一本ないし二本の線を刻んだと見る方がよい。すなわち、「一」や「二」は画数記号とみるのが妥当であると思われるが、そうすると刻書「#」も画数記号である可能性もあるかもしれない。

全体を通して、平川南『墨書き土器の研究』(吉川弘文館 2000年)、高島英之『古代出土文字資料の研究』(東京堂出版 2000年)を参考した。

合 計	丸 瓦	竈形 土器	円 面 鏡	灰釉陶器			土 師 器			須 恵 器						器種 出土区			
				皿	瓶	椀	高台 付皿	高台 付杯	杯	蓋	小型 壺	甕	瓶	長頸 瓶	双耳 杯	高台 付杯			
99							1	2	31				1			2	62	18区	
219		1	1			1		9	44				1	2	1	6	153	20区	
81	1				1					10		1	1	1		3	63	41区	
49								9		7			3				30	110区	
349				1			1	40	1	77	1		7	2		1	2	216	78区
27										2			1				24	79区	
33										2			1			1	29	69区	
92					1			15	1	50						2	23	115区	
28						1											27	116区	
2																	2	19区	
3																	3	21区	
9																	9	22区	
3										1							2	23区	
1								1										68区	
3										2							1	70区	
998	1	1	1	1	1	2	1	76	4	226	1	1	12	6	2	2	16	644	合計
					4			307							684				

表9 墨書き・刻書土器器種別集計表

18区出土

番号	種類	器種	遺構・層位	文 字	記載部位	方 向	備 考	登録
1	土師器	杯	S D782c・1層	「□(記号カ)」(刻書)	体部外面	正位	横三本継二 本の縦	399
2	須恵器	杯	S D782c・1層	「□」	体部外面			398
4	須恵器	杯	S D782c・1層	「×」(刻書)	底部外面			400
5	土師器	杯	S D782d・1層	「□」	体部外面			375
7	須恵器	杯	S D782d・1層	「□」、「□(大カ)」	体部外面	倒位		381
8	土師器	杯	S D782d・1層	「□(大カ丈カ)」	体部外面	倒位		378
9	須恵器	杯	S D782d・1層	「□(全カ鑿カ)」	体部外面	正位	則天文字 (地)	379
10	土師器	杯	S D782d・1層	「□」	体部外面			376
11	土師器	杯	S D782d・1層	「□」	体部外面			377
15	須恵器	瓶	S D782・1層	「×」(刻書)	底部外面			789
16	土師器	杯	S D1192・1層	「□」	体部外面			313
17	土師器	杯	S D1192・1層	「田」	体部外面	正位		312
18	須恵器	杯	S D782e・1層	「□」	底部外面			370
19	土師器	杯	S D782e・1層	「□」	体部外面			371
20	須恵器	杯	S D781b・1層	「□」	体部外面	正位カ		426
21	須恵器	杯	S D781b・1層	「□」	体部外面			427
31	須恵器	杯	S D781c・1層	「尊丸器」	体部外面から底部外面	正位		415
32	須恵器	杯	S D781c・1層	「□」	体部外面			416
33	須恵器	杯	S D781c・1層	「□」	体部外面	正位カ		418
35	土師器	杯	S D781e・1層	「□」	体部外面	正位		351
36	土師器	杯	S D781e・1層	「物」	体部外面	正位		352
37	土師器	杯	S D781e・1層	「太」	体部外面	正位		353
38	土師器	杯	S D781e・1層	「神」	体部外面	正位		369
40	土師器	高台付杯	S D781e・1層	「□」	体部外面			355
41	土師器	杯	S D781e・1層	「□(国カ)」	体部外面	倒位		356
51	須恵器	杯	S D1188・1層	「富」	底部外面			333
59	土師器	杯	S D1189・1層	「□」	底部外面			345
60	土師器	杯	S D1189・1層	「#」(刻書)	底部外面			347
64	土師器	杯	S E1174・量方底面	「□(記号カ)」	体部外面			278
65	須恵器	杯	S E1174・量方底面	「二」	体部外面	正位カ		279
95	土師器	杯	S D1184・2層	「□(人カ)」、「□(日カ)」	底部外面			288
105	土師器	杯	S D1184・1層	「#」(刻書)	底部外面			804
106	須恵器	杯	S D1184・1層	「×」(刻書)	底部外面			1107
121	須恵器	杯	S D1185・3層	「□(大カ)山」	底部外面			392
124	須恵器	杯	S D1300・1層	「安□(足カ)」	底部外面			430
125	須恵器	杯	S D1300・1層	「×」	底部外面			429
126	須恵器	杯	S D1300・2層	「□□(「禾」偏カ)」	底部外面			431
691	須恵器	杯	S K778・2層	「□」	底部外面			473
701	須恵器	杯	S K778・1層	「糸」、「承」	体部外面/底部外面	正位		434
702	須恵器	杯	S K778・2層	「糸」	底部外面			468
705	須恵器	杯	S K778・1層	「大伴御廣」	体部外面	横位		459
706	須恵器	杯	S K778・2層	「□」	体部外面			469
707	須恵器	杯	S K778・1層	「一」	体部外面			458
708	須恵器	杯	S K778・1層	「□」	体部外面			454
709	須恵器	杯	S K778・1層	「音」	体部外面			493
710	須恵器	杯	S K778・2層	「福」	体部外面	横位		471
711	須恵器	杯	S K778・1層	「□」、「□」	底部外面/底部内部			465
712	須恵器	杯	S K778・1層	「糸」	底部外面			451
721	須恵器	高台付杯	S K1177・1層	「申」	底部外面			478
723	須恵器	杯	S K1177・1層	「□(系カ)」	体部外面	正位		479
724	須恵器	杯	S K1177・1層	「×」(刻書)	底部外面			487
725	土師器	杯	S K1177・1層	「□(福カ)」	体部外面	横位		480
778	須恵器	杯	第I層	「×」(刻書)	底部外面			574

表10 墓書・刻書土器一覧表(1)

番号	種類	器種	遺構・層位	文 字	記載部位	方 向	備 考	登録
779	須恵器	杯	第Ⅰ層	「×」(刻書)	底部外面			575
780	須恵器	杯	第Ⅰ層	「×」(刻書)	底部外面			576
789	土師器	杯	第Ⅱ層	「×」(刻書)	底部外面			563
790	土師器	杯	第Ⅰ層	「□」	体部外面	正位		556
795	須恵器	杯	第Ⅰ層	「川」	体部外面	正位		557
796	須恵器	杯	第Ⅰ層	「糸」	底部外面			559
798	須恵器	杯	第Ⅰ層	「□(太カ)」	体部外面	側位カ		558
806	土師器	杯	候出面	「印」	底部外面			519
808	須恵器	杯	候出面	「吉」	底部外面			529
813	須恵器	杯	候出面	「□」	体部外面	横位カ		530
814	須恵器	杯	候出面	「□(福カ)」	体部外面	正位		531
815	土師器	杯	候出面	「□」	底部外面			528
816	須恵器	高台付杯	候出面	「田」(刻書)	体部外面			532
817	土師器	杯	候出面	「□」	底部外面			527
1835	須恵器	杯	S D781 e -1層	「□(太カ)」	体部外面	正位		354
	須恵器	杯	S D1198 -1層	「×」(刻書)	底部外面			305
	須恵器	杯	S D1198 -1層	「□」	体部外面	正位カ		306
	須恵器	杯	S X1191 -1層	「□」	底部外面			317
	須恵器	杯	S X1191 -1層	「□」	体部外面	正位カ		318
	須恵器	杯	S X1191 -1層	「□」	体部外面	正位カ		319
	土師器	杯	S D1188 -1層	「□」	体部外面			334
	須恵器	杯	S D1189 -1層	「□」	底部外面			343
	土師器	甕	S D781 e -1層	「×」(刻書)	底部外面			369
	土師器	杯	S D781 c -1層	「□」	体部外面			419
	須恵器	杯	S D781 c -1層	「□」	体部外面			420
	須恵器	杯	S D781 c -1層	「□□」	体部外面			421
	須恵器	杯	S K778 -1層	「□」	体部外面			453
	須恵器	杯	S K778 -1層	「□」	体部外面			456
	土師器	杯	S K778 -1層	「□」	体部外面			457
	土師器	杯	S K778 -1層	「□(工カ)」	底部外面			461
	須恵器	杯	S B1173 -P45埋土	「越」	体部外面	横位		499
	須恵器	杯	候出面	「□」	体部外面			520
	須恵器	杯	第Ⅰ層	「□」	体部外面			573
	土師器	高台付杯	第Ⅱ層	「×」(刻書)	底部外面			640
	須恵器	杯	第Ⅱ層	「×」(刻書)	底部外面			646
	須恵器	杯	第Ⅱ層	「—」(刻書)	底部外面			647
	土師器	杯	第Ⅱ層	「×」(刻書)	底部外面			648
	須恵器	杯	第Ⅱ層	「—」(刻書)	底部外面			649
	須恵器	杯	第Ⅱ層	「丁」	底部外面			651
	須恵器	杯	S D774	「□」	体部外面			653
	須恵器	杯	S K778 -1層	「□」	体部外面			654
	須恵器	杯	S D774	「□」	底部外面			671
	土師器	杯	S D776 -1層	「□」	底部外面			672
	須恵器	杯	S D1188 -1層	「—」(刻書)	底部外面			798
	須恵器	杯	S D781 c -1層	「□」	底部外面			1094
	土師器	杯	第Ⅱ層	「□」	体部外面			5687

20区出土

番号	種類	器種	遺構・層位	文 字	記載部位	方 向	備 考	登録
75	土師器	杯	S E1285	「□(鸡カ)田」	体部外面	側位		2011
78	須恵器	杯	S E1285 -瓶方	「古」	体部外面	正位		2008
85	須恵器	杯	S E1285 -側板内	「□□(鷹カ)」	底部外面			2010
86	須恵器	杯	S E1285 -旋穴	「□」	体部外面			2009
87	土師器	杯	S E1285 -1層	「太」	体部外面	正位		1954
88	土師器	杯	S E1285 -旋穴	「仲」	体部外面	正位		2016
161	須恵器	杯	S D1287 E -1層	「山□」(墨書)・「×」(刻書)	底部外面			1143

表11 墨書・刻書土器一覧表(2)

番号	種類	器種	遺傳・層位	文 字	記載部位	方 向	備 考	登録
162	須恵器	杯	S D1287 E・1層	「万」	底部外面			1145
163	土師器	杯	S D1287 E・1層	「山」	体部外面	正位		1144
181	須恵器	杯	S D1376・1層	「山」	体部外面	正位		1182
195	土師器	杯	S K1292・1層	「#(記号)」	体部外面			1952
211	須恵器	杯	S K1386・1層	「口(泰カ)」	底部外面			1951
212	土師器	杯	S K1385・2層	「口(威力)」	底部外面			1953
225	須恵器	杯	S X1351 A・1層	「×」(刻書)	底部外面			1571
231	須恵器	杯	S X1351 A・1層	「口」	体部外面			1559
232	須恵器	杯	S X1351 A・1層	「口」	底部外面			1558
233	須恵器	杯	S X1351 A・1層	「生」	底部外面			1557
234	須恵器	高台付杯	S X1351 A・1層	「内」	底部外面			1555
241	土師器	杯	S X1351 A・底面	「口」	体部外面			1566
248	須恵器	杯	S X1351 A・底面	「口(大力)」(刻書)	底部外面			1568
265	土師器	杯	S D1351 B・1層	「田」	底部外面			1539
275	須恵器	杯	S D1351 B・1層	「川」	体部外面			1533
276	須恵器	杯	S D1351 B・1層	「内」	体部外面	正位		1532
277	須恵器	杯	S D1351 B・1層	「口(大力丈カ)」(刻書)	底部外面		灯明皿	1535
278	須恵器	杯	S D1351 B・1層	「山」/「山」	体部外面/底部外面	正位		1530
279	須恵器	杯	S D1351 B・1層	「口(記号カ)」	底部外面			1529
280	須恵器	杯	S D1351 B・1層	「口」/「口」	体部外面/底部外面	側位力		1531
289	須恵器	杯	S X1351 C・1層	「一」(刻書)	底部外面			1305
301	須恵器	杯	S X1351 C・1層	「取」	底部外面			1300
304	土師器	杯	S X1351 C・1層	「威」	底部外面			1290
305	土師器	杯	S X1351 C・1層	「大神」	底部外面			1291
306	土師器	杯	S X1351 C・1層	「梶口」	底部外面			1292
307	須恵器	杯	S X1351 C・1層	「羽」	底部外面			1293
308	須恵器	杯	S X1351 C・1層	「口(村カ)」/「口(村カ)」	体部外面/底部外面	正位		1297
309	須恵器	杯	S X1351 C・1層	「山」/「山」	体部外面/底部外面	正位		1296
310	須恵器	杯	S X1351 C・1層	「福威」	底部外面			1299
311	須恵器	杯	S X1351 C・1層	「口(木カ)」	底部外面			1307
312	須恵器	杯	S X1351 C・1層	「公」/「公」	体部外面/底部外面	横位	灯明皿	1295
313	須恵器	杯	S X1351 C・1層	「口」	体部外面	正位力		1306
314	須恵器	杯	S X1351 C・1層	「角」	底部外面			1298
315	須恵器	杯	S X1351 C・1層	「吉」	体部外面	正位		1301
331	須恵器	杯	S X1351 C・2層	「—」(刻書)	底部外面			1381
368	須恵器	双耳杯	S X1351 C・2層	「十」(刻書)	底部外面			1385
383	土師器	甕	S X1351 C・2層	人面墨書き	体部外面	正位		1373
391	須恵器	長頸瓶	S X1351 C・2層	「加」、「口(水カ)」	底部外面			1519
400	土師器	杯	S X1351 C・2層	「口(威力)」	底部外面			1356
401	土師器	杯	S X1351 C・2層	「今」	底部外面			1377
402	土師器	杯	S X1351 C・2層	「山」	底部外面		灯明皿	1379
403	土師器	杯	S X1351 C・2層	「口」	底部外面			1421
404	土師器	杯	S X1351 C・2層	「山」	底部外面			1384
405	土師器	杯	S X1351 C・2層	「口」	体部外面			1378
406	須恵器	杯	S X1351 C・2層	「口」	体部外面			1324
407	須恵器	杯	S X1351 C・2層	「千」	体部外面	正位		1327
408	須恵器	杯	S X1351 C・2層	「内」	体部外面	正位		1319
409	須恵器	杯	S X1351 C・2層	「(記号)」	体部外面	正位		1328
410	須恵器	杯	S X1351 C・2層	「千」	体部外面	正位		1329
411	須恵器	杯	S X1351 C・2層	「長」	体部外面	正位	灯明皿	1336
412	須恵器	杯	S X1351 C・2層	「大」	体部外面	横位		1337
413	須恵器	杯	S X1351 C・2層	「千」	体部外面	正位		1341
414	須恵器	杯	S X1351 C・2層	「口(木カ)」	体部外面	正位		1335
415	須恵器	杯	S X1351 C・2層	「キ(記号カ)」	体部外面	正位力		1343
416	須恵器	杯	S X1351 C・2層	「#(記号)」	体部外面	倒位		1344
417	須恵器	杯	S X1351 C・2層	「升」	体部外面	倒位力	転用硯	1342

表12 墓書・刻書土器一覧表(3)

番号	種類	器種	遺構・層位	文 字	記載部位	方向	備考	登録
418	須恵器	杯	S X1351C・2層	「成」	体部外面	正位		1347
419	須恵器	杯	S X1351C・2層	「口」	体部外面		灯明皿	1457
420	須恵器	杯	S X1351C・2層	「成」	底部外面			1294
421	須恵器	杯	S X1351C・2層	「万」	底部外面			1322
422	須恵器	杯	S X1351C・2層	「万福」	底部外面			1320
423	須恵器	杯	S X1351C・2層	「山」	底部外面			1321
424	須恵器	杯	S X1351C・2層	「山」	底部外面			1332
425	須恵器	杯	S X1351C・2層	「山」	底部外面			1331
426	須恵器	杯	S X1351C・2層	「山」/「山」	体部外面/底部外面	正位		1333
427	須恵器	杯	S X1351C・2層	「口(詞カ割カ)口」	底部外面			1334
428	須恵器	杯	S X1351C・2層	「口」/「口」	体部外面/底部外面			1350
429	須恵器	杯	S X1351C・2層	「六」・「口」	体部外面	正位		1348
430	須恵器	杯	S X1351C・2層	「木」	底部外面			1330
431	須恵器	杯	S X1351C・2層	「一」・「口」	底部外面			1351
432	須恵器	杯	S X1351C・2層	「口」	底部外面			1345
433	須恵器	杯	S X1351C・2層	「毛」	底部外面			1339
434	須恵器	杯	S X1351C・2層	「ヰ(記号)」	底部外面			1340
435	須恵器	杯	S X1351C・2層	「ヰ」(墨書)	底部外面			1357
436	須恵器	杯	S X1351C・2層	「口(工カ)」	底部外面		灯明皿	1458
437	須恵器	杯	S X1351C・2層	「口」	底部外面			1346
438	須恵器	高台付杯	S X1351C・2層	「杀」	底部外面			1338
439	須恵器	高台付杯	S X1351C・2層	「政」(墨書)・「林」(刻書)	底部外面			1325
440	須恵器	高台付杯	S X1351C・2層	「罔」・「ヰ(記号)」	底部外面			1349
441	土師器	杯	S X1351C・2層	「毛」(刻書)	底部外面			1382
442	須恵器	杯	S X1351C・2層	「口(×カ)」(刻書)	底部外面			1405
443	須恵器	杯	S X1351C・2層	「十」(刻書)	底部外面		転用觀	1383
444	須恵器	杯	S X1351C・2層	人面墨書き	体部外面	正位		1323
445	土師器	甕	S X1351C・2層	人面墨書き	体部外面			1375
446	土師器	甕	S X1351C・2層	人面墨書き	体部外面			1374
447	土師器	杯	S X1351D・1層	「□□」	底部外面		二字か三字	1696
476	土師器	杯	S X1351D・1層	「罔」(墨書)・「×」(刻書)	底部外面			1695
477	須恵器	杯	S X1351D・1層	「代」・「口」・「□」/「□(恵カ)」	体部外面/底部外面	横位	觀力	1687
478	須恵器	杯	S X1351D・1層	「山」	底部外面			1693
479	須恵器	杯	S X1351D・1層	「大」	底部外面			1688
480	須恵器	杯	S X1351D・1層	「口」	体部外面			1685
481	須恵器	杯	S X1351D・1層	「千万」	体部外面	正位		1700
482	須恵器	杯	S X1351D・1層	「口」	体部外面			1699
483	須恵器	杯	S X1351D・1層	「一」	体部外面		側位カ	1701
484	須恵器	杯	S X1351D・1層	「口田」	底部外面			1689
485	土師器	杯	S X1351D・1層	「千万」(刻書)	底部外面			1697
486	須恵器	杯	S X1351D・1層	「□(田カ)」	底部外面			1690
487	須恵器	杯	S X1351D・1層	「口」	体部外面			1691
488	須恵器	杯	S X1351D・1層	「一」(刻書)	底部外面			1698
590	土師器	杯	S X1351D・3層	「川」	体部外面	正位		1213
591	土師器	杯	S X1351D・3層	「山」/「山」	体部外面/底部外面	正位		1202
592	土師器	杯	S X1351D・3層	「山」	底部外面			1203
593	土師器	杯	S X1351D・3層	「山」	体部外面	正位		1201
594	須恵器	杯	S X1351D・3層	「福」・「福」	体部外面	正位	内面に油煙付着	1208
595	須恵器	杯	S X1351D・3層	「膜」	底部外面			1205
596	須恵器	杯	S X1351D・3層	「口」/「大」	体部外面/底部外面			1217
597	須恵器	杯	S X1351D・3層	「福」・「□(福カ)」	体部外面	正位		1206
598	須恵器	杯	S X1351D・3層	「口」/「口」	体部外面/底部外面	正位カ		1210
599	須恵器	杯	S X1351D・3層	「口」・「口」・「口」	底部外面			1209
600	須恵器	杯	S X1351D・3層	「加」	底部外面			1216

表13 墨書・刻書土器一覧表(4)

番号	種類	器種	造構・層位	文 字	記載部位	方向	備考	登録
601	須恵器	杯	S XI351D・3層	「□」	底部外面			1231
602	須恵器	杯	S XI351D・3層	「山」	底部外面			1220
603	須恵器	杯	S XI351D・3層	「山」	体部外面	正位		1872
604	須恵器	杯	S XI351D・3層	「山」	体部外面	正位		1874
605	須恵器	杯	S XI351D・3層	「山」/「■酒」	体部外面/底部外面	正位		1871
606	須恵器	杯	S XI351D・3層	「山」/「山」/「山」/「山」	体部外面/底部外面/底部内面	正位		2227
607	須恵器	杯	S XI351D・3層	「山」	体部外面	正位		1215
608	土師器	杯	S XI351D・3層	「山」/「山」	体部外面/底部外面	正位		1879
609	須恵器	杯	S XI351D・3層	「山」	底部外面			1214
610	須恵器	杯	S XI351D・3層	「山田連」/「山田連」	底部外面/底部内面			1204
611	須恵器	杯	S XI351D・3層	「山」/「山」	体部外面/底部外面	正位		1219
612	須恵器	杯	S XI351D・3層	「山」(墨書)・「×」(刻書)・ 「×」(刻書)	底部外面			1222
613	須恵器	杯	S XI351D・3層	「角」	底部外面			1873
614	須恵器	杯	S XI351D・3層	「福」	体部外面	倒位		1221
615	須恵器	杯	S XI351D・3層	「丸田」	体部外面	正位		1875
616	須恵器	杯	S XI351D・3層	「口(木カ)」	体部外面	正位		1207
617	須恵器	杯	S XI351D・3層	「福」	体部外面	正位		1218
618	須恵器	長颈瓶	S XI351D・3層	「口」	体部外面	横位力		1889
619	須恵器	杯	S XI351D・3層	「口(記号カ)」	体部外面			1225
620	土師器	杯	S XI351D・3層	「大」	体部外面	正位		1880
621	須恵器	杯	S XI351D・3層	「口」	体部外面	正位		1881
622	土師器	杯	S XI351D・3層	「山」	底部外面			1228
623	土師器	壺	S XI351D・3層	「山」	体部外面	正位		1714
624	土師器	壺	S XI351D・3層	「山」	体部外面	正位		1200
760	須恵器	杯	S XI341・1層	「×」(刻書)	底部外面			1669
769	須恵器	瓶	S XI368	「×」(刻書)	底部外面			1681
831	須恵器	杯	第I層	「口(万カ)」	底部外面			2146
832	須恵器	杯	第I層	「口(十カ×カ)」	底部外面			2157
834	須恵器	杯	第I層	「×」(刻書)	底部外面			2116
837	土師器	甕	カクラン	「×」(刻書)	底部外面			2068
838	須恵器	杯	第I層	「—」(刻書)	底部外面			2163
839	須恵器	杯	第I層	「×」(刻書)	底部外面			2164
841	須恵器	杯	第I層	「×」(刻書)	底部外面			2117
1846	須恵器	杯	S D1317-1層	「口(四カ)田」	体部外面			1164
1847	須恵器	高台付杯	S XI351A・底面	「内」	底部外面			1556
1848	須恵器	杯	S XI351C・3層	「口(十カ)」(流書)	底部外面			1360
1849	須恵器	杯	S XI351D・2層	「口」	体部外面	倒位力		1757
1850	須恵器	高台付杯	S XI351D・2層	「山」	底部外面			1759
1851	須恵器	杯	S XI351D・2層	「山」	底部外面			1760
1852	須恵器	杯	S XI351D・2層	「山」	底部外面			1761
1853	土師器	杯	S XI351D・2層	「泰」	底部外面			1762
1854	土師器	杯	S XI351D・2層	「山」	体部外面	正位		1763
1855	土師器	杯	S XI351D・2層	「山」	体部外面	正位		1764
1856	須恵器	杯	S XI351D・2層	「又」	体部外面	倒位		1773
1857	須恵器	杯	S XI351D・2層	「大」	体部外面	倒位		1774
1858	須恵器	杯	S XI351D・2層	「山」	底部外面			1767
1859	須恵器	杯	S XI351D・2層	「山」/「山」	体部外面/底部外面	正位		1776
1860	土師器	杯	S XI351D・2層	「山」	底部外面			1781
1861	須恵器	杯	S XI351D・2層	「崩」	底部外面			1782
	須恵器	杯	S D1291・3層	「口」	体部外面			1155
	須恵器	杯	S D1291・3層	「口」	底部外面			1156
	須恵器	杯	S D1328・1層	「×」(刻書)	底部外面			1169
	須恵器	杯	S XI351D・3層	「口」	体部外面			1224
	須恵器	杯	S XI351D・3層	「口」	体部外面			1226

表14 墨書・刻書土器一覧表(5)

番号	種類	器種	遺構・層位	文 字	記載部位	方向	備考	登録
	須恵器	杯	S X1351D・3層	「□」	体部外面			1227
	土師器	杯	S X1351D・3層	「□」	体部外面			1229
	土師器	杯	S X1351D・3層	「□」	体部外面			1230
	須恵器	杯	S X1351D・3層	「□」	底部外面			1234
	須恵器	杯	S X1351D・3層	「□」	底部外面			1235
	須恵器	杯	S X1351C・2層	「×」(刻書)	底部外面		体部外面から底部墨付	1326
	須恵器	杯	S X1351C・2層	「一」(刻書)	底部外面			1352
	須恵器	杯	S X1351C・2層	「一」(刻書)	底部外面			1358
	須恵器	杯	S X1351C・2層	「一」(刻書)	底部外面			1368
	須恵器	杯	S X1351C・3層	「×」(刻書)	底部外面		灯明皿力	1380
	土師器	杯	S X1351C・2層	人面墨書	体部外面			1390
	須恵器	杯	S X1351A・底面	「一」(刻書)	底部外面			1570
	須恵器	杯	S X1351A・1層	「×」(刻書)	底部外面			1572
	須恵器	杯	S X1351A・底面	「×」(刻書)	底部外面			1610
	須恵器	杯	S X1351D・1層	「□」	底部外面			1692
	須恵器	杯	S X1351D・2層	「□(左カ)」	体部外面	正位		1758
	須恵器	杯	S X1351D・2層	「山」	体部外面	横位		1765
	須恵器	杯	S X1351D・2層	「□」	体部外面	正位力		1768
	須恵器	杯	S X1351D・2層	「□」	体部外面			1769
	須恵器	杯	S X1351D・2層	「十」	体部外面	正位力		1770
	須恵器	杯	S X1351D・2層	「山」	底部外面			1771
	須恵器	杯	S X1351D・2層	「山」	底部外面			1772
	須恵器	杯	S X1351D・2層	「□」	底部外面			1775
	須恵器	杯	S X1351D・2層	「□(大カ太カ)」	底部外面			1777
	土師器	杯	S X1351D・2層	「□」	体部外面			1778
	土師器	杯	S X1351D・2層	「□」	体部外面			1779
	土師器	甕	S X1351D・2層	「□」	体部外面			1780
	土師器	杯	S X1351D・2層	「×」(刻書)	底部外面			1783
	土師器	杯	S X1351D・2層	「×」(刻書)	底部外面			1784
	土師器	杯	S X1351D・2層	「×」(刻書)	底部外面			1785
	灰釉陶器	甕	S X1351D・2層	「□□□(家カ)」	底部外面			1796
	須恵器	杯	S X1351D・2層	「一」(刻書)	底部外面			1818
	土師器	甕	S X1351D・3層	「フ」(墨書)/「一」(刻書)	体部外面/底部外面			1884
	須恵器	杯	S K1386-1層	「#」(刻書)	底部内面			1920
	須恵器	杯	S K1290-3層	「×」(刻書)	底部内面			1942
	須恵器	杯	S E1285-1層	「□」	体部外面			1955
	電形土器		20区P12-埋土	人面墨書力	体部外面			1984
	須恵器	杯	S E1285-抜穴	「×」(刻書)	底部外面			2007
	円面鏡	杯	S E1285-抜穴	「×」(刻書)	底部外面			2013
	須恵器	杯	S E1285-抜穴	「□」	体部外面			2017
	須恵器	杯	S E1285-抜穴	「□」	体部外面			2018
	土師器	杯	S E1285-側内	「□」	体部外面			2019
	土師器	杯	S E1285-抜穴	「□」	体部外面			2020
	土師器	杯	S E1285-抜穴	「□」	体部外面			2021
	土師器	杯	S E1285-抜穴	「□」	体部外面	正位力		2023
	須恵器	杯	第1層	「一」	底部外面			2151
	土師器	甕	S X1351D・2層	「十」(刻書)	底部外面			4324
	須恵器	杯	S E1285-1層	「十」(刻書)	底部外面			4325

41区出土

番号	種類	器種	遺構・層位	文 字	記載部位	記載方向	備考	登録
71	須恵器	杯	S E1217-3層	「丈」	体部外面	倒位		120
72	須恵器	杯	S E1217-4層	「三國」	底部外面			118
132	須恵器	高台付杯	S D1219-1層	「邊口」	底部外面			66
141	須恵器	杯	S D1240-2層	「率」	底部外面			18

表15 墨書・刻畫土器一覧表(6)

番号	種類	器種	遺模・層位	文 字	記載部位	方 向	備 考	登録
142	須恵器	杯	S D1240-2層	「口」	底部外面			19
143	須恵器	杯	S D1240-1層	「田主」	底部外面			350
144	須恵器	高台付杯	S D1240-2層	「口〔家カ〕」	底部外面			20
145	土師器	杯	S D1239-1層	「村」	体溝外面	倒位		41
146	須恵器	杯	S D1239-1層	「口」	体溝外面			42
148	須恵器	杯	S D1239-1層	「北」	底溝外面			43
149	灰釉陶器	瓶	S D1239-1層	「×」(刻書)	底部外面			40
185	須恵器	杯	S K1213-1層	「伊」	体部外面	正位		140
186	須恵器	杯	S K1215-1層	「恩」	体溝外面	倒位		131
188	須恵器	杯	S K1215-1層	「口野」	底部外面			132
190	須恵器	杯	S K1223-1層	「口」	底部外面			152
191	須恵器	杯	S K1223-1層	「在」/「在」	体部外面/底部外面	倒位		153
192	須恵器	杯	S K1223-1層	「×」(刻書)	底部外面			156
735	須恵器	杯	S X1227-2層	「口」	底部外面			97
736	須恵器	杯	S X1227-1層	「工」、「丁」/「×」(刻書)	体溝外面/底部外面	正位		85
737	須恵器	杯	S X1227-2層	「内」・「口」	体溝外面	正位		104
738	須恵器	杯	S X1227-1層	「工」	底部外面			82
739	須恵器	杯	S X1227-3層	「成」	底部外面			103
740	須恵器	杯	S X1227-1層	「神木」	底部外面			83
741	須恵器	杯	S X1227-3層	「一」(刻書)	底部外面			111
742	須恵器	杯	S X1227-1層	「口」	底部外面			84
865	須恵器	杯	第Ⅰ層	「口」	底部外面			200
866	須恵器	杯	第Ⅰ層	「穴」	底部外面			198
867	須恵器	杯	第Ⅰ層	「口」	体溝外面			201
868	須恵器	杯	第Ⅰ層	「口〔川カ〕」	体部外面	倒位		199
871	須恵器	杯	第Ⅱ層	「口」	体部外面			259
872	須恵器	杯	第Ⅱ層	「口」	底部外面			258
873	須恵器	杯	第Ⅱ層	「一」(刻書)	底部外面			262
875	須恵器	杯	検出面	「太」	体部外面	正位		219
876	土師器	杯	検出面	「口〔淨カ〕」	体部外面	倒位		223
877	須恵器	杯	検出面	「#(記号カ)口」	体部外面	倒位力		221
878	須恵器	杯	検出面	「鞠」	底部外面			349
1836	須恵器	杯	S D1240-2層	「丈真」	体部外面	横位		348
1837	須恵器	杯	S D1240-1層	「口〔×カ〕」	底部外面			9
1844	須恵器	杯	S K1216-1層	「口」	体部外面			135
1845	須恵器	杯	S K1223-1層	「口〔十カ〕」	体部外面	正位力		154
1862	須恵器	杯	S X1227-検出面	「貞」	底部外面			102
1863	須恵器	杯	第Ⅰ層	「口」	体部外面			202
1864	土師器	杯	検出面	「口」	体部外面	倒位力		222
須恵器	杯		S D1240-1層	「口」	体部外面			6
須恵器	杯		S D1240-1層	「口」	底部外面			7
須恵器	杯		S D1240-1層	「口」	体部内面			10
須恵器	杯		S D1240-1層	「川」	体部外面	正位		11
須恵器	杯		S D1240-1層	「口」(墨書)・「×」(刻書)	底部外面			12
須恵器	杯		S D1240-1層	「口」(刻書)	底部外面			13
須恵器	杯		S D1240-2層	「口」	体部外面			21
土師器	杯		S D1239-1層	「木」(刻書)	底部外面			28
須恵器	杯		S D1239-1層	「口〔貞力真カ〕」	底部外面			32
須恵器	杯		S D1219-2層	「×」(刻書)	底部内面			50
須恵器	杯		S D1219-1層	「口」	底部外面	体部内面に 縫付着		60
土師器	杯		S D1219-1層	「口」	底部外面			65
須恵器	杯		S X1227-1層	「口〔×カ〕」(刻書)	底部外面			86
須恵器	杯		S X1227-2層	「一」(刻書)	底部外面			101
須恵器	杯		S E1217-3層	「口〔記号カ〕」	体部外面			117
須恵器	高台付杯		S K1223-1層	「口」	体部外面			151

表16 墨書・刻書土器一覧表(7)

番号	種類	器種	遺構・層位	文 字	記載部位	方向	備考	登録
須恵器	杯	S K1251-1層	「□」	体部外面	正位			161
須恵器	瓶	第Ⅰ層	「×」(刻書)	底部外面				181
須恵器	杯	第Ⅰ層	「—」(刻書)	底部外面				182
須恵器	甕	第Ⅰ層	「□」(刻書)	体部外面				190
須恵器	杯	第Ⅰ層	「□」	体部外面				203
土師器	杯	第Ⅰ層	「□」	体部外面				204
須恵器	小型壺	第Ⅰ層	「#」(刻書)	底部外面				205
須恵器	杯	檢出面	「□」	体部外面				220
土師器	杯	檢出面	「□」	底部外面				224
須恵器	杯	第Ⅱ層	「□」	底部外面				256
須恵器	杯	第Ⅱ層	「□」	底部外面				257
土師器	杯	第Ⅱ層	「×」(刻書)	底部外面				260
須恵器	杯	第Ⅱ層	「—」(刻書)	底部外面				261
須恵器	杯	第Ⅱ層	「—」(刻書)	底部外面				263
須恵器	杯	41区P-20-1層	「□」	底部外面				272
土師器	杯	41区P-19-1層	「□」	体部外面				273
須恵器	杯	表面採集	「□」	体部外面				5693
須恵器	杯	第Ⅰ層	「—」(刻書)	底部外面				5694
須恵器	杯	第Ⅰ層	「—」(刻書)	底部外面				5695
須恵器	杯	第Ⅰ層	「□〔カ〕」(刻書)	底部外面				5696
土師器	杯	第Ⅰ層	「—」(刻書)	底部外面				5697
丸瓦		第Ⅱ層	「□〔ニカ〕」(刻書)					5668

110区出土

番号	種類	器種	遺構・層位	文 字	記載部位	方向	備考	登録
634	土師器	杯	S X1600C-1層	「成」、「□」、「永」	体部外面/底部外面	正位		4077
635	土師器	杯	S X1600C-1層	「成」、「□〔御カ〕司」、「永」	体部外面/底部外面	横位・正位		4073
636	土師器	杯	S X1600C-1層	「永」、「成」、「□〔御カ〕司」	底部外面			4074
637	土師器	杯	S X1600C-1層	「十」	底部外面			4078
638	須恵器	杯	S X1600C-1層	「△」、「△」	体部外面	正位		4082
639	須恵器	杯	S X1600C-1層	「□」、「□」、「十」	体部外面/底部外面	正位		4083
640	須恵器	杯	S X1600C-1層	「本」、「本」	体部外面	横位		4094
641	須恵器	杯	S X1600C-1層	「升」、「升」	体部外面	正位		4090
642	須恵器	杯	S X1600C-1層	「□」	底部外面			4085
643	須恵器	杯	S X1600C-1層	「福」、「□」	体部外面	側位		4088
644	須恵器	杯	S X1600C-1層	「成」	底部外面			4092
645	須恵器	杯	S X1600C-1層	「□」	底部外面			4093
646	須恵器	杯	S X1600C-1層	「本」、「本」	体部外面	横位		4093
647	須恵器	杯	S X1600C-1層	「巻」	底部外面			4097
648	須恵器	杯	S X1600C-1層	「□」、「□」	体部外面			4087
649	須恵器	杯	S X1600C-1層	「□」、「□」	体部外面			4089
650	須恵器	杯	S X1600C-1層	「×」(漆書)	底部外面			4081
651	須恵器	杯	S X1600C-1層	「×」(刻書)	底部外面			4102
652	須恵器	杯	S X1600C-1層	「□」	体部外面			4080
654	須恵器	杯	S X1600C-1層	「□」	底部外面			転用能力 4111
655	須恵器	杯	S X1600C-1層	「廣」	体部外面	正位		4084
656	須恵器	杯	S X1600C-1層	「□」	体部外面			4095
657	土師器	杯	S X1600C-1層	「福」	体部外面	正位		4075
658	須恵器	杯	S X1600C-1層	「□」	体部外面			4110
659	須恵器	杯	S X1600C-1層	「川」	体部外面			4113
660	須恵器	杯	S X1600C-1層	「姐」	体部外面	正位		4112
661	須恵器	杯	S X1600C-1層	「千」	体部外面	横位		4086
663	須恵器	杯	S X1600C-1層	「×」(刻書)	底部外面			4101
664	土師器	甕	S X1600C-1層	人面墨書	体部外面			5651
665	土師器	甕	S X1600C-1層	人面墨書	体部外面			5650

表17 墨書・刻書土器一覧表(B)

番号	種類	器種	遺構・層位	文 字	記載部位	方 向	備 考	登録
666	須恵器	甕	S X1600 C・1層	人面墨書	体部外面			5646
667	須恵器	杯	S X1600 B・1層	「柴田」	底部外面			5652
668	土師器	甕	S X1600 B・1層	人面墨書	体部外面			5653
669	須恵器	甕	S X1600 C・1層	人面墨書	体部外面			5647
670	土師器	甕	S X1600 C・1層	人面墨書	体部外面			4136
671	土師器	甕	S X1600 C・1層	人面墨書	体部外面			5648
672	土師器	甕	S X1600 C・1層	人面墨書	体部外面			5649
673	土師器	甕	S X1600 C・1層	人面墨書	体部外面			4142
674	土師器	甕	S X1600 C・1層	人面墨書	体部外面			4143
675	須恵器	甕	S X1600 C・1層	人面墨書	体部外面			4144
1843	須恵器	杯	S D1601・1層	「升」	体部外面	横位力		4096
	土師器	杯	S X1600 C・1層	「口」	体部外面			4079
	須恵器	杯	S X1600 C・1層	「口」	体部外面			4091
	須恵器	杯	S D1602・1層	「一」(刻書)	底部外面			4106
	須恵器	杯	第I層	「×」(刻書)	底部外面			4107
	須恵器	杯	S X1600 C・1層	「口」	体部外面			4114
	土師器	杯	S X1600 C・1層	「口」	体部外面			4115
	土師器	甕	S X1600 C・1層	人面墨書	体部外面			4116
	須恵器	杯	S X1600 C・1層	「口」	体部外面			4117

78区出土

番号	種類	器種	遺構・層位	文 字	記載部位	方 向	備 考	登録
891	土師器	杯	S D1550	「口」	体部外面	倒位		2817
892	須恵器	杯	S D1542	人面墨書	体部外面			2906
894	土師器	杯	S D1550・黒粘土	「口」	体部外面			2816
895	須恵器	杯	S D1550・黒粘土	「藤」、「急」	底部外面			2815
896	土師器	小型甕	S D1542	人面墨書力	体部外面			2912
897	土師器	杯	S D1542・檢出面	「口」	体部外面			2894
898	土師器	小型甕	S D1542	人面墨書	体部外面			2911
900	土師器	小型甕	S D1542	人面墨書	体部外面			2910
901	土師器	杯	S D1542	人面墨書	体部外面			2908
902	土師器	甕	S D1542	人面墨書	体部外面			2909
911	須恵器	杯	第VI a 層	「此」	底部外面			2679
912	須恵器	杯	第VI a 層	「○(記号)」、「口」	体部外面	正位		2674
913	須恵器	杯	S D1505 c・2層	「口」家	底部外面			2683
914	須恵器	杯	S D1505 c・1層	「吉」	底部外面			2678
915	須恵器	杯	S D1505 c・1層	「口」	底部外面			2686
916	須恵器	杯	S D1505 b・1層	「一」	体部外面	横位		2675
922	須恵器	杯	S D1505 d	「#(記号)」	底部外面			2666
923	須恵器	杯	S D1505 d	「宅」	体部外面	正位		2668
924	須恵器	甕	S D1505 d	「口」	体部外面			2664
925	土師器	杯	S D1502・1層	「山」	体部外面	倒位		2593
934	須恵器	杯	S D1502・w砂層	「口」[川カ]	体部外面	正位力		3414
935	須恵器	杯	S D1502・1層	「口」	体部外面	正位		2584
936	須恵器	杯	S D1502・1層	「口」[丁カ]」「丁」	体部外面/体部内部	横位/横位		2607
937	須恵器	杯	S D1502・1層	「口」	体部外面			2588
938	須恵器	杯	S D1502・1層	「口」	体部外面			2587
939	須恵器	杯	S D1502・1層	「口」[田カ]	体部外面	正位		2590
940	須恵器	杯	S D1502・1層	「日下」	底部外面			2585
941	須恵器	杯	S D1502・1層	「田」	底部外面			2586
942	須恵器	杯	S D1502・w砂層	「斜刀自」	底部外面			3413
943	須恵器	杯	S D1608 b・埋土	「×」(刻書)	底部外面			2604
950	土師器	杯	S B1561・P113瓶方	「一」	底部外面			3226
955	須恵器	杯	S B1569 B・P139瓶方	「吉」	体部外面	正位		3225
956	須恵器	杯	S B1562・P103瓶方	「口」	底部外面			3224

表18 墨書・刻書土器一覧表(9)

番号	種類	器種	遺構・層位	文字	記載部位	方向	備考	登録
957	須恵器	杯	S B1539-P7埋土	「×」(刻書)	底部外面			3227
958	須恵器	杯	S B1560-P84抜穴	「十」	底部外面			4211
959	須恵器	杯	S B1560-P80	「□」	底部外面			4212
960	須恵器	杯	S B1561-P112掘方	「後」	体部外面	横位		4213
961	土師器	杯	S B1560-P86掘方	「□」	体部外面			3242
1000	土師器	杯	S E1552-埋土	「大吉」	体部外面	正位	又はあわせ 文字「大吉」 力	3058
1001	土師器	高台付皿	S E1552-埋土	「□(記号カ)」	体部外面		横四本縦二 本の線	3059
1002	須恵器	杯	S E1552-方形曲物内	「□」, 「□」	体部外面			3060
1005	須恵器	杯	S E1552-方形曲物内	「一」(刻書)	底部外面			3061
1011	土師器	杯	S E1535-5層	「□」	底部外面			3016
1013	須恵器	杯	S E1535-3層	「□」	体部外面			3023
1014	須恵器	杯	S E1535-1層	「□」	体部外面	横位		3024
1015	土師器	杯	S E1535-4層	「□(吉カ)」	体部外面	正位		3027
1016	土師器	杯	S E1535-5層	「□」	体部外面	正位		3026
1017	土師器	杯	S E1535-6層	「□」	体部外面			3028
1018	須恵器	杯	S E1535-裏込埋土	「田」	体部外面	正位		3094
1019	土師器	杯	S E1545-2層	「田」, 「田」	体部外面/底部外面	正位		3049
1020	須恵器	杯	S E1545-2層	「志」, 「志」	体部外面	横位		3050
1022	須恵器	杯	S E1545-抜穴	「□」	体部外面			3057
1024	土師器	杯	S E1549-井戸側内埋土	「一」(刻書)	底部外面			3043
1025	須恵器	杯	S E1549-井戸側埋土	「大」	体部外面	横位		3042
1026	須恵器	瓶	S E1549-抜穴	「□」	体部内面			4065
1034	土師器	杯	S E1559-井戸側内埋土	「□(田カ)」	体部外面	正位		3103
1036	土師器	杯	S E1559-抜穴	「□」	体部外面			3105
1049	須恵器	杯	S D1510	「大□(肩カ)」	体部外面	正位		2705
1050	須恵器	杯	S D1510-2層	「内」	体部外面	正位		2710
1051	須恵器	杯	S D1510-2層	「□」	体部外面			2703
1052	須恵器	杯	S D1510	「□(丁カ)」	体部外面	横位		2711
1053	須恵器	杯	S D1510-2層	「□」	体部外面			2704
1054	須恵器	双耳杯	S D1510-1層	「上」	底部外面			2702
1055	須恵器	杯	S D1510-1層	「□」	底部外面			3443
1056	須恵器	杯	S D1510-1層	「大伴」	体部外面	正位		2709
1057	須恵器	杯	S D1510-1層	「大」	体部外面	正位		2708
1064	須恵器	杯	S D1513-1層	「口子」	体部外面	横位		2579
1068	須恵器	杯	S D1523-1層	「田」	体部外面	正位		2795
1069	須恵器	杯	S D1523-1層	「□」, 「□」	体部外面			2789
1070	須恵器	杯	S D1523-2層	「□」	体部外面			2799
1072	須恵器	杯	S D1523-1層	「□(七カ)」	体部外面	正位		2796
1074	須恵器	杯	S D1515-1層	「□(丁カ)」	体部外面	横位		2771
1076	須恵器	杯	S D1515-1層	「名取」	体部外面	正位	転用視	2775
1116	土師器	杯	S D1522-1層	「向住」, 「□」	体部外面	倒位		2292
1117	土師器	杯	S D1522-1層	「□」	体部外面		「八」と「万」 のあわせ文 字カ	2293
1118	土師器	杯	S D1522-1層	「□」	体部外面			2296
1119	土師器	杯	S D1522-1層	「太」	体部外面	倒位		2313
1120	土師器	杯	S D1522-1層	「□」	体部外面			2297
1121	土師器	杯	S D1522-1層	「□」	体部外面			2298
1122	土師器	杯	S D1522-1層	「村」, 「村」	体部外面/底部外面	倒位		2328
1123	土師器	杯	S D1522-1層	「千」, 「千」	体部外面/底部外面	横位		2311
1124	土師器	杯	S D1522-1層	「□」	底部外面			2291
1125	土師器	杯	S D1522-1層	「山」	底部外面			2295
1126	土師器	高台付杯	S D1522-1層	「村」	底部外面			2290

表19 墓書・刻書土器一覧表

番号	種類	器種	遺構・層位	文 字	記載部位	方 向	備 考	登録
1127	須恵器	杯	S D1522-1層	「口」、「口」	体部外面	正位		2299
1128	須恵器	杯	S D1522-1層	「十万」	体部外面	正位		2304
1129	須恵器	杯	S D1522-1層	「崩」	体部外面	横位		2302
1130	須恵器	杯	S D1522-1層	「山」	体部外面	正位		2309
1131	須恵器	杯	S D1522-1層	「和足」	体部外面	倒位		2306
1132	須恵器	杯	S D1522-1層	「(記号)」	体部外面			2312
1133	須恵器	杯	S D1522-1層	「口(丸カ)」	底部外面			2301
1134	須恵器	杯	S D1522-1層	「火」	底部外面			2314
1135	須恵器	杯	S D1522-1層	「八十」	底部外面		軸用硯	2307
1136	須恵器	杯	S D1522-1層	「廷」「廷」	体部外面/底部外面	正位		2308
1137	須恵器	杯	S D1522-1層	「口」、「口」、「口」、「口」	体部外面		体部外面から底部墨付	2357
1138	須恵器	杯	S D1522-1層	「口」、「一」	体部外面/底部外面	正位力		2303
1139	須恵器	杯	S D1522-1層	「安」	底部外面			2305
1140	須恵器	杯	S D1522-1層	「吉」、「吉」	体部外面	正位		2300
1141	須恵器	高台付杯	S D1522-1層	「口」	底部外面			2315
1142	須恵器	杯	S D1522-1層	「口」	体部外面			2334
1143	土師器	杯	S D1522-1層	「太」	体部外面	倒位		2318
1144	土師器	杯	S D1522-1層	「田」	体部外面	正位力		2317
1145	須恵器	杯	S D1522-1層	「口(田カ)」	底部内面			2321
1146	須恵器	杯	S D1522-1層	「口」	体部外面			2316
1147	土師器	杯	S D1522-1層	「口」	体部外面	正位		2319
1148	土師器	甕	S D1522-1層	人面墨書	体部外面	正位		2257
1149	土師器	甕	S D1522-1層	人面墨書	体部外面			2259
1150	土師器	甕	S D1522-1層	人面墨書	体部外面			2264
1151	土師器	小型甕	S D1522-1層	人面墨書	体部外面	正位		2272
1152	土師器	小型甕	S D1522-1層	人面墨書	体部外面	正位		2267
1153	土師器	小型甕	S D1522-1層	人面墨書	体部外面	正位		2268
1154	土師器	小型甕	S D1522-1層	人面墨書	体部外面	正位		2273
1155	土師器	甕	S D1522-1層	人面墨書	体部外面			2287
1156	須恵器	杯	S D1522-1層	「×」(刻書)	底部内面			2333
1158	須恵器	杯	S D1522-1層	「×」(刻書)	底部外面			2420
1185	土師器	杯	S D1522-2層	「口」、「口」	体部外面/底部外面			2329
1186	土師器	杯	S D1522-2層	「千」、「千」	体部外面/底部外面	倒位		2326
1187	土師器	杯	S D1522-2層	「食」	底部外面			2428
1188	土師器	杯	S D1522-2層	「口(高カ)宗」	底部外面			2337
1189	土師器	杯	S D1522-2層	「万」	底部外面			2336
1190	土師器	杯	S D1522-2層	「村」	体部外面	倒位		2327
1191	須恵器	甕	S D1522-2層	「(記号)」、「(記号)」	体部外面	正位	底部外面墨付	2322
1192	須恵器	甕	S D1522-2層	「造」	底部外面			2323
1193	須恵器	甕	S D1522-2層	「(記号カ)」	底部外面			2324
1194	須恵器	杯	S D1522-2層	「福」	底部外面			2331
1195	須恵器	杯	S D1522-2層	「中」	底部外面			2332
1196	須恵器	杯	S D1522-2層	「莫刀」	体部外面		横位	4061
1197	須恵器	高台付杯	S D1522-2層	「口」	底部外面			2330
1198	須恵器	甕	S D1522-3層	「安」	つまみ部			2443
1199	土師器	杯	S D1522-2層	「田」	体部外面	倒位		2338
1200	須恵器	杯	S D1522-2層	「口(右カ)」	体部外面	横位		2335
1201	須恵器	杯	S D1502-1層	「口(廣カ)」	体部外面	横位		2589
1202	土師器	甕	S D1522-2層	人面墨書	体部外面	正位		2285
1203	須恵器	杯	S D1522-2層	人面墨書	体部外面	正位		2266
1204	須恵器	甕	S D1522-2層	人面墨書、「十」、「十」	体部外面/底部外面	正位		2325
1205	土師器	甕	S D1522-2層	人面墨書	体部外面	正位		2288
1207	土師器	甕	S D1522-2層	人面墨書	体部外面	正位		2286
1210	須恵器	杯	S D1522-2層	「×」(刻書)	底部外面			2421

表20 墓書・刻書土器一覧表01

番号	種類	器種	遺構・層位	文 字	記載部位	方 向	備 考	登録
1213	須恵器	杯	S D1507-1層	「舟」/「申」(墨書)・ 「×」(刻書)	体部外面/底部外面	正位		2682
1214	須恵器	杯	S D1509-1層	「田」	底部外面			2694
1218	須恵器	杯	S D1558-1層	「×」(墨書)・「×」(刻書)	底部外面			2924
1221	須恵器	杯	S D1558-1層	「山」	底部外面			2922
1225	須恵器	杯	S D1570-1層	「×」(刻書)	底部外面			2937
1236	須恵器	杯	S D1501-1層	「大」・「大」	体部外面		正位	2561
1238	須恵器	杯	S D1501-1層	「夷口」	底部外面			2563
1242	土師器	杯	S K1518-2層	「□□」	体部外面		正位	2966
1243	土師器	杯	S K1518-1層	「□」	底部外面			2956
1244	土師器	杯	S K1518-2層	「名取」	底部外面			2962
1245	土師器	杯	S K1518-2層	「高」	底部外面			2967
1246	須恵器	杯	S K1518-1層	「大伴」	体部外面		正位	2972
1251	須恵器	杯	S K1518-1層	「□(脚力)」(墨書)・ 「什」(刻書)	体部外面		正位	2989
1252	須恵器	杯	S K1518-1層	「ヰ(記号)」	底部外面			2948
1253	須恵器	杯	S K1518-1層	「大□(伴力)」	体部外面		正位	2979
1258	須恵器	杯	S K1551-1層	「角」/「十」・「□」	体部外面/底部外面	横位		2986
1261	須恵器	杯	S K1557-埋土	「大伴」	体部外面		正位	2985
1294	須恵器	瓶	S X1519-1層	「大□」	底部外面			3155
1295	土師器	瓶	S X1519-1層	「□」	体部外面		横位力	3277
1304	須恵器	杯	S X1521-1層	「□」	底部外面			3166
1305	須恵器	杯	S X1521-1層	「□」	底部外面			3172
1307	土師器	杯	S X1543-1層	「□(カ)」(刻書)	底部外面			2529
1315	土師器	杯	S X1543-1層	「□万」	体部外面		正位	2533
1316	土師器	杯	S X1543-1層	「□」	底部外面			2534
1317	土師器	杯	S X1547-1層	「□(大カ)□」・「□」	体部外面		横位カ	3153
1319	土師器	杯	S X1547-1層	「ヰ(記号)」	底部外面			3168
1326	須恵器	杯	S X1524-2層	「升」	体部外面		正位	2546
1327	土師器	杯	S X1524-1層	「上」	体部外面		正位	2556
1330	須恵器	杯	S X1524-1層	「田」	体部外面		正位	2558
1331	土師器	甕	S X1524-1層	人面墨書	体部外面			2285
1332	土師器	甕	S X1524-1層	人面墨書	体部外面			2289
1333	土師器	甕	S X1524-1層	人面墨書	体部外面		正位	同一個体か 2270
1334	土師器	甕	S X1524-1層	人面墨書	体部外面		正位	2271
1335	土師器	甕	S X1524-1層	人面墨書	体部外面			2282
1336	土師器	甕	S X1524-1層	人面墨書	体部外面		正位	2283
1337	土師器	甕	S X1524-1層	人面墨書	体部外面			2275
1338	土師器	甕	S X1524-1層	「□(人カ)」	体部外面		正位	2557
1339	土師器	甕	S X1524-1層	人面墨書	体部外面		正位	2256
1340	灰釉陶器	皿	S X1524-1層	「飴米」	底部外面			2556
1343	土師器	杯	第I層	「夷」	底部外面			3680
1348	須恵器	杯	堆積層(a)	「□」	底部外面			3298
1355	須恵器	杯	検出面	「山」	体部外面	倒位		3430
1356	須恵器	杯	検出面	「□」	体部外面			3431
1357	須恵器	杯	検出面	「□」	体部外面			3432
1358	須恵器	杯	検出面	「□(淨カ)」	体部外面	横位		3438
1359	須恵器	杯	検出面	「□」	体部外面	正位		3475
1360	須恵器	杯	検出面	「大」/「大」	体部外面/底部外面	正位		3429
1361	須恵器	杯	検出面	「□(思カ)」/「□(思カ)」	体部内面/底部外面	正位		3428
1362	須恵器	杯	検出面	「工」	底部外面			3433
1363	須恵器	杯	検出面	「山」	底部外面			3437
1364	須恵器	杯	検出面	「蠍」	体部外面	横位		3454
1365	須恵器	杯	検出面	「六川」	底部外面			3434
1366	須恵器	杯	検出面	「□」	底部外面			3435
1367	須恵器	杯	検出面	「万」	底部外面			3441

表21 墨書・刻書土器一覧表22

番号	種類	器種	遺構・層位	文 字	記載部位	方 向	備 考	登録
1368	須恵器	杯	検出面	「□」	体部外面			3479
1369	須恵器	杯	検出面	「□」	底部外面			3451
1370	土師器	杯	検出面	「□」	底部外面		「月」偏カ	3462
1371	須恵器	杯	検出面	「□」	底部外面			3436
1372	須恵器	杯	検出面	「大」	底部外面			3448
1373	須恵器	杯	検出面	「□」	底部外面			3445
1374	須恵器	杯	検出面	「刑」	底部外面			3440
1375	須恵器	杯	検出面	「安」	底部外面			3447
1376	須恵器	杯	検出面	「□」	底部外面			3444
1377	須恵器	杯	検出面	「□」	底部外面			3452
1378	須恵器	杯	検出面	「□」	底部外面			3439
1379	須恵器	杯	検出面	「□」	体部外面	正位カ		3457
1380	須恵器	杯	検出面	「上」(墨書)・「十」(漆書)	底部外面			3453
1381	須恵器	杯	検出面	「□」	体部外面	倒位カ		3442
1382	須恵器	杯	検出面	「木」	体部外面	横位		3450
1383	土師器	甕	検出面	「□」	体部外面			3465
1401	須恵器	杯	第VI a層	「□[大カ]」	体部外面	正位		2659
1402	須恵器	杯	第VI a層	「大口」	底部外面			3392
1404	須恵器	杯	第VI a層	「全」	体部外面	正位		2653
1405	須恵器	杯	第VI a層	「□」	底部外面			2656
1406	須恵器	杯	第VI a層	「□」	底部外面		横三本縦二本の線	2660
1407	須恵器	杯	第VI a層	「#(記号)」	底部外面			2655
1408	須恵器	杯	第VI a層	「-」(刻畫)	底部外面			2652
1409	須恵器	杯	第VI a層	「□」	底部外面			2657
1410	須恵器	杯	第VI a層	「右」	体部外面	横位		2658
1890	須恵器	杯	S E1565・側埋土	「#(記号)」	底部外面			3073
1891	須恵器	杯	堆積層(a)	「キ」(刻畫)	体部内面	正位		3300
1892	土師器	杯	泥地b層	「政」	底部外面			3315
1893	土師器	杯	泥地b層	「万」	底部外面			3316
1894	須恵器	杯	泥地b層	「#(記号)」	底部外面			3317
1895	須恵器	杯	第II層	「□□(目カ)」	底部外面			3652
1896	須恵器	杯	第II層	「□(木カ)」/「木」	体部外面/体部内面	正位/ 正位		3653
1898	須恵器	杯	第II層	「□」	底部外面			3654
1901	土師器	杯	第I層	「□」	体部外面			3681
1902	須恵器	杯	第I層	「□[山カ]」	体部外面	倒位		3710
1903	須恵器	杯	第I層	「□」	体部外面	正位カ		3711
1904	須恵器	杯	第I層	「十」	底部外面			3712
1905	須恵器	杯	第I層	「日下」	底部外面			3713
1906	須恵器	杯	第I層	「十」	底部外面			3716
1907	須恵器	杯	第I層	「□(尾カ)」	体部外面	倒位		3717
1908	須恵器	杯	第I層	「□(記号カ)」	体部外面			3721
1910	土師器	杯	第I層	「大伴」	体部外面	正位		3726
1913	須恵器	杯	S D1502・1層	「□」	体部外面	横位		4066
土師器	甕	S X1524・1層	人面墨書	体部外面				2274
土師器	甕	S X1524・1層	人面墨書	体部外面				2276
土師器	甕	S D1522・1層	人面墨書	体部外面				2277
土師器	甕	S X1543・1層	人面墨書	体部外面				2278
土師器	甕	S X1543・1層	人面墨書	体部外面				2279
土師器	甕	S X1524・1層	人面墨書	体部外面				2280
土師器	甕	S D1522・1層	人面墨書	体部外面				2281
土師器	甕	S X1543・1層	人面墨書	体部外面				2282
土師器	甕	S D1522・2層	人面墨書	体部外面				2283
土師器	甕	S D1543・1層	人面墨書	体部外面				2284
土師器	甕	S D1522・1層	人面墨書	体部外面				2289

表22 墓書・刻畫土器一覧表(3)

番号	種類	器種	遺構・層位	文 字	記載部位	方 向	備 考	登録
須恵器	杯	S D1522-1層	「口」	底部外面				2320
土師器	杯	S D1522-1層	「二」(刻書)	体部外面		横位力		2383
土師器	杯	S D1522-1層	「×」(刻書)	底部外面				2386
須恵器	杯	S X1543-1層	「一」(刻書)	底部外面				2526
土師器	杯	S X1543-1層	「×」(刻書)	底部外面				2527
須恵器	杯	第VIa層	「一」(刻書)	底部外面				2633
須恵器	杯	第VIa層	「口」	底部外面				2654
須恵器	杯	S D1510-2層	「一」(刻書)	底部外面				2706
須恵器	杯	S D1510-1層	「口」(カ)	体部外面		正位力		2707
須恵器	杯	S D1515-1層	「十」(刻書)	底部外面				2774
須恵器	杯	S D1536-1層	「口」	底部外面				2831
須恵器	杯	S D1536-1層	「×」(刻書)	底部外面				2834
土師器	杯	S D1542-1層	「口」	体部外面				2845
土師器	甌	S D1542	「升」	体部外面				2846
土師器	杯	S D1542-検出面	「口」	体部外面				2895
土師器	杯	S D1542	「口」	体部外面				2907
土師器	杯	S D1542-1層	「口」	体部外面				2913
須恵器	杯	S D1542	「口」	体部外面				2916
須恵器	杯	S D1558-1層	「口」	体部外面				2927
須恵器	杯	S D1558-1層	「口」	底部外面				2928
須恵器	杯	S K1518-1層	「口」	体部外面		正位力		2952
須恵器	杯	S K1518-1層	「口」(記号カ) / 「口」(記号カ)	体部外面/底部外面				2953
須恵器	杯	S K1518-1層	「口」	体部外面				2954
須恵器	杯	S K1518-1層	「口」	底部外面				2981
須恵器	甌	S K1551-1層	「伊」(刻書)	体部外面				2983
須恵器	杯	S K1557-埋土	「口」	体部外面				2995
土師器	杯	S E1535-6層	「口」	体部外面				3029
土師器	杯	S E1535-5層	「口」	体部外面				3030
須恵器	杯	S E1552-圓方埋土	「口」	体部外面				3064
土師器	杯	S E1552-抜き穴	「口」	体部外面				3065
須恵器	杯	S E1565-圓方埋土	「#(記号)」	底部外面		転用觀		3074
須恵器	杯	S E1565-圓方埋土	「口」	体部外面				3085
須恵器	杯	S X1521-1層	「×」(刻書)	底部外面				3160
須恵器	杯	S X1519	「一」(刻書)	底部外面				3161
土師器	杯	S X1519	「一」(刻書)	底部外面				3162
須恵器	杯	S X1521-1層	「口」	底部外面				3167
須恵器	杯	S X1521-1層	「口」	体部外面				3170
須恵器	杯	S X1521-1層	「口」	底部外面				3171
須恵器	杯	S X1519	「口」	体部外面				3174
土師器	杯	S X1547-1層	「口」	体部外面				3175
須恵器	杯	S B1541-抜き穴	「×」(刻書)	底部外面				3228
土師器	杯	S X1519-1層	「一」(刻書)	底部外面				3271
須恵器	杯	S X1519-1層	「一」(刻書)	底部外面				3272
須恵器	杯	S X1519-1層	「口」	体部外面				3275
須恵器	杯	溝地 b 層	「×」(刻書)	底部外面				3309
須恵器	杯	溝地 b 層	「口」	底部外面				3311
須恵器	甌	第VIa層	「×」(刻書)	底部外面				3396
須恵器	杯	第VIa層	「一」(刻書)	底部外面				3405
須恵器	杯	第VIa層	「一」(刻書)	底部外面				3406
須恵器	杯	S D1502-砂層	「口」	体部外面				3415
須恵器	甌	S D1502-砂層	「口」	体部外面				3416
土師器	杯	S D1502-砂層	「口」	体部外面				3417
須恵器	杯	検出面	「口」	底部外面				3449
須恵器	杯	検出面	「口」	体部外面				3455
須恵器	杯	検出面	「口」	底部外面				3456
須恵器	杯	検出面	「口」	体部外面				3458

表23 墓書・刻書土器一覧表④

番号	種類	器種	遺構・層位	文 字	記載部位	方 向	備 考	登録
	須恵器	杯	検出面	「□」	底部外面			3459
	須恵器	杯	検出面	「□」	底部外面			3460
	須恵器	杯	検出面	「□」	底部外面			3461
	土師器	杯	検出面	「□」	体部外面			3463
	須恵器	杯	検出面	「□」	底部外面			3466
	須恵器	杯	検出面	「□」	底部外面			3467
	須恵器	杯	検出面	「□」	体部外面			3470
	須恵器	杯	検出面	「□」	体部外面			3473
	須恵器	杯	検出面	「□」	体部外面			3476
	須恵器	杯	検出面	「□」	体部外面			3477
	須恵器	杯	検出面	「□」	体部外面			3478
	須恵器	杯	検出面	「□」	体部外面			3480
	須恵器	杯	検出面	「□」	体部外面			3481
	須恵器	杯	検出面	「□」	体部外面			3481
	須恵器	杯	検出面	「×」(刻書)	底部外面			3551
	土師器	杯	検出面	「—」(刻書)	底部外面			3555
	須恵器	杯	検出面	「×」(刻書)	底部外面			3579
	須恵器	杯	検出面	「×」(刻書)	底部外面			3580
	須恵器	杯	第II層	「□」	底部外面			3655
	土師器	杯	第II層	「□(ニカ)」	体部外面	正位		3656
	須恵器	杯	カクラン	「□」	体部外面			3661
	須恵器	杯	カクラン	「安」	底部外面			3662
	須恵器	杯	カクラン	「—」(刻書)	底部外面			3663
	須恵器	杯	第I層	「□」	底部外面			3714
	須恵器	杯	第I層	「□」	底部外面			3715
	須恵器	杯	第I層	「□(舍カ)」	体部外面	正位		3718
	須恵器	杯	第I層	「□」	底部外面			3719
	須恵器	杯	第I層	「□」	底部外面			3720
	須恵器	杯	第I層	「—」(刻書)	底部外面			3722
	須恵器	杯	第I層	「×」(刻書)	底部外面			3723
	須恵器	杯	第I層	「×」(刻書)	底部外面			3724
	須恵器	杯	第I層	「×」(刻書)	底部外面			3725
	土師器	杯	第I層	「□」	体部外面			3727
	土師器	甕	第I層	人面墨書	体部外面			3728
	土師器	杯	第I層	「□」	体部外面			3729
	土師器	杯	第I層	「□」	体部外面/底部外面	正位	「禾」偏力	3730
	土師器	杯	第I層	「□」(墨書)/「—」(刻書)	体部外面/底部外面			3731
	土師器	杯	第I層	「—」(刻書)	底部外面			3732
	土師器	杯	第I層	「×」(刻書)	底部外面			3733
	土師器	甕	第I層	「□」	底部外面			3734
	土師器	甕	第I層	「□」	体部外面			3736
	須恵器	杯	S D1522-2層	「□」	体部外面			3819
	須恵器	杯	S D1502	「□」	体部外面			4067
	須恵器	杯	S D1502-1層	「□」	体部外面			4068
	須恵器	杯	S D1502-1層	「□」	体部外面			4069
	須恵器	杯	S D1502-1層	「□」	体部外面			4070
	須恵器	杯	S D1502-1層	「□」	体部外面			4071
	土師器	甕	S D1510-1層	人面墨書	体部外面			4072

79区出土

番号	種類	器種	遺構・層位	文 字	記載部位	方 向	備 考	登録
963	須恵器	杯	S B1466-P3	「勢」	底部外面			3826
964	須恵器	杯	S B1475-P121埋土	「山」	底部外面			3827
965	須恵器	杯	S B1475-P3	「□」	体部外面	正位力		3848
966	須恵器	瓶	S B1477-P105抜穴	「□□(曹カ)」	体部外面	正位		4217
967	須恵器	杯	S B1467-P31抜穴	「□」	体部外面	正位		3850
981	須恵器	杯	S I 1488-1層	「中」	体部外面	正位		3784

表24 墨書・刻畫土器一覧表05

番号	種類	器種	遺構・層位	文 字	記載部位	方向	備考	登録
990	須恵器	杯	S I1488・床直上	「×」(刻書)	底部外面			3786
1280	土師器	杯	S K1482・I層	「舌」	底部外面			3807
1282	須恵器	杯	S K1482・I層	「—」(刻書)	底部外面			3806
1427	須恵器	杯	第I層	「□」	体部外面	正位		3989
1428	須恵器	杯	第I層	「□」(記号カ)	体部外面			3991
1429	須恵器	杯	第I層	「□」	底部外面			3987
1430	須恵器	杯	第I層	「□」	底部外面			3978
1431	須恵器	杯	第I層	「山」	底部外面			3990
1432	須恵器	杯	第I層	「□」	底部外面		「八」と「太」のあわせ文字カ	3988
1433	須恵器	杯	第I層	「□」	底部外面			3992
1434	須恵器	杯	第I層	「□」	体部外面			3993
1435	須恵器	杯	第I層	「木」(刻書)	底部外面			4023
1912	須恵器	杯	S X1481	「□」(生カ)	底部外面			3817
須恵器	杯	79区 P83・塗方	「□」	底部外面				3847
須恵器	杯	79区 P101・塗方	「大」	体部外面	正位			3849
須恵器	杯	S B1480・P123抜穴	「—」(刻書)	底部外面				3860
須恵器	杯	S K1482・I層	「×」(刻書)	底部外面				3861
須恵器	杯	79区 P106・塗り方	「—」(刻書)	底部外面				3862
土師器	杯	第I層	「□」	体部外面				3994
須恵器	杯	第I層	「×」(刻書)	底部外面				4017
須恵器	杯	第I層	「—」(刻書)	底部外面				4024

69区出土

番号	種類	器種	遺構・層位	文 字	記載部位	方向	備考	登録
1836	須恵器	杯	S D1141・I層	「山」	底部外面			719
1839	須恵器	杯	S D1141・I層	「升」	体部外面			721
1840	須恵器	杯	S D1141・I層	「承」	体部外面	正位		722
1841	須恵器	杯	S D1141・I層	「□」(墨書)・「×」(刻書)	底部外面			724
1842	須恵器	杯	S D1141・I層	「承」	底部外面			726
1865	須恵器	杯	第I層	「□」	底部外面			990
須恵器	杯	S D1141・I層	「□」	底部外面				720
須恵器	杯	S D1141・I層	「□」	体部外面				723
須恵器	杯	S D1141・I層	「□」	底部外面				725
須恵器	杯	S D1141・I層	「□」	体部外面				728
須恵器	杯	S D1141・I層	「□」	体部外面				728
須恵器	杯	S D1141・I層	「□」	底部外面				729
須恵器	高台付杯	S D1141・I層	「□」	底部外面				730
須恵器	杯	S D1141・I層	「×」(刻書)	底部外面				731
須恵器	杯	S D1141・I層	「×」(刻書)	底部外面				732
須恵器	杯	S D1141・I層	「□」(記号カ)(刻書)	底部外面				740
須恵器	杯	S D1141・I層	「×」(刻書)	底部外面				744
須恵器	杯	S D1460B・I層	「—」(刻書)	底部外面				817
須恵器	杯	S D1460B・I層	「×」(刻書)	底部外面				824
須恵器	杯	S D1460B・I層	「×」(刻書)	底部外面				836
須恵器	杯	S D1460B・I層	「○」(刻書)	底部外面				842
須恵器	杯	S D1412・I層	「□」(刻書)	底部外面				859
須恵器	甕	S D1412・I層	「×」(刻書) / 「×」(刻書)	口縁部内面/外側				863
須恵器	杯	S B1466・P62	「×」(刻書)	底部外面				883
須恵器	杯	S B1467・P67	「—」(刻書)	体部外面	横位			884
須恵器	杯	S K1413・I層	「×」(刻書)	底部外面				906
須恵器	杯	模出面	「×」(刻書)	底部外面				971
須恵器	杯	模出面	「×」(刻書)	底部外面				972
土師器	杯	模出面	「×」(刻書)	底部外面				973
須恵器	杯	第I層	「□」	底部外面				991

表25 墨書・刻書土器一覧表

番号	種類	器種	遺構・層位	文 字	記載部位	方 向	備 考	登録
1869	須恵器	杯	第Ⅰ層	「□」	底部外面			992
1870	土師器	杯	第Ⅰ層	「甲」	底部外面			997
1871	須恵器	杯	第Ⅰ層	「人」	底部外面			1003

115区出土

番号	種類	器種	遺構・層位	文 字	記載部位	方 向	備 考	登録
1872	須恵器	杯	S X1610-1層	「□」	底部外面			4780
1873	土師器	杯	S X1610-1層	「甲」	体部外面	横位		4788
1874	土師器	杯	S D1614c-1層	「人」	体部外面	正位		4807
1875	須恵器	杯	S D1614c-1層	「木」(墨書) / 「二」(刻書)	底部外面/体部外面	倒位力		4814
1876	須恵器	杯	S D1614d-1層	「□」	底部外面			4852
1877	須恵器	杯	S D1614d-1層	「#(記号)」	底部外面			4808
1878	須恵器	杯	S D1614e-1層	「大」	底部外面			4854
1879	須恵器	杯	S D1614e-1層	「大」	底部外面			4856
1880	須恵器	杯	S D1614e-1層	「□(曹カ)」	底部外面			4859
1881	須恵器	杯	S D1614e-1層	「□」・「□」	体部外面	倒位力		4799
1882	須恵器	杯	S X1630-1層	「木」(刻書)	底部外面			4778
1883	土師器	杯	S X1630-1層	「山」	体部外面	正位		4793
1884	土師器	杯	S X1630-3層	「□(神カ)」	体部外面	正位		4794
1885	須恵器	杯	S D1614c-1層	「木」(墨書) / 「二」(刻書)	底部外面/体部外面	倒位力		4806
1886	土師器	杯	S X1630-1層	「夫」	底部外面			4809
1887	須恵器	杯	S X1630-5層	「田」	底部外面			4858
1888	須恵器	杯	S D1614e-1層	「大」	体部外面	正位		4861
1889	灰釉陶器	甌	S X1610-検出面	「□」	体部外面			4885
1890	土師器	杯	第Ⅰ層	「□(釋カ)」	体部外面	正位		4890
1891	土師器	杯	第Ⅰ層	「大」	体部外面	正位		4892
1892	須恵器	杯	S X1630-1層	「□」	底部外面			4898
1893	土師器	杯	S X1630-1層	「□」	底部外面			4899
1894	須恵器	杯	S X1610-1層	「□」	底部外面			4900
1895	須恵器	高台付杯	S X1630-2層	「能」	体部外面			4901
1896	土師器	杯	S X1630-2層	「□」	体部外面	正位		4901
1897	須恵器	杯	S X1630-1層	「□」	底部外面			4902
1898	土師器	杯	S X1630-2層	「□(神カ)」	体部外面	横位		4905
1899	土師器	甌	S X1630-1層	「□」	体部外面			4918
1900	土師器	甌	第Ⅰ層	人面墨書	体部外面			4893
1901	土師器	杯	S X1630-2層	「□」	体部外面			4769
1902	土師器	杯	S X1630-1層	「□」	体部外面	正位		4770
1903	土師器	杯	S X1630-3層	「□」	体部外面			4771
1904	土師器	杯	S X1630-3層	「□」	底部外面			4772
1905	土師器	杯	S X1630-1層	「□」	体部外面			4773
1906	土師器	杯	S X1630-2層	「□」	底部外面			4774
1907	土師器	杯	S X1630-1層	「□」	体部外面			4776
1908	土師器	甌	S X1630-1層	「□」	体部外面			4777
1909	土師器	杯	S X1630-1層	「□」	体部外面			4779
1910	土師器	杯	S X1630-1層	「□」	体部外面			4781
1911	土師器	杯	S D1614e-1層	「□」	体部外面			4782
1912	土師器	杯	S X1630-2層	「□」	体部外面			4783
1913	土師器	杯	S X1630-2層	「□」	体部外面			4784
1914	土師器	杯	S X1630-3層	「□」	体部外面			4785
1915	土師器	杯	S X1610-1層	「□」	体部外面	正位力		4786
1916	土師器	杯	S X1630-1層	「□」	体部外面	倒位力		4787
1917	土師器	杯	S X1610-1層	「□」	体部外面			4789
1918	土師器	杯	S X1610-1層	「□」	体部外面			4790
1919	土師器	杯	S D1614e-1層	「□」	体部外面			4791
1920	土師器	杯	S X1630-1層	「□」	体部外面			4792
1921	土師器	杯	S X1630-1層	「□」	体部外面			4795

表26 墨書・刻書土器一覧表(7)

番号	種類	器種	遺構・層位	文 字	記載部位	方向	備考	登録
	土師器	杯	S D1615 c・1層	「□」	体部外面	側位力		4796
	須恵器	杯	S X1630・3層	「□」	体部外面			4797
	須恵器	杯	S D1614 e・1層	「□」	体部外面			4798
	須恵器	高台付杯	第1層	「□」	底部外面			4800
	須恵器	杯	S X1630・1層	「□」	体部外面			4802
	土師器	甕	S X1630・2層	人面墨書	体部外面			4805
	土師器	杯	S D1614 e・1層	「□」	底部外面			4810
	土師器	杯	S X1610・1層	「□」	体部外面			4811
	土師器	杯	S D1614 e・1層	「□」	底部外面			4813
	須恵器	杯	S X1630・2層	「□」	体部外面			4815
	土師器	杯	S D1614 e・1層	「□」	体部外面			4816
	土師器	甕	S X1630・2層	人面墨書	体部外面			4825
	須恵器	杯	S D1614 c・1層	「□」	底部外面			4849
	土師器	杯	S D1614 d	「□」	体部外面			4851
	須恵器	杯	S D1614 c・1層	「□」	体部外面			4853
	須恵器	杯	S D1614 e・1層	「□」	体部外面			4855
	須恵器	杯	第1層	「□」	底部外面			4891
	土師器	杯	第1層	「□」	体部外面			4894
	土師器	杯	第1層	「□」	底部外面			4895
	土師器	甕	第1層	人面墨書	体部外面			4896
	土師器	杯	S X1630・3層	「□」	体部外面			4897
	土師器	杯	S X1630・1層	「□」	体部外面			4903
	土師器	杯	S X1630・2層	「□」	体部外面			4904
	土師器	杯	S D1614 e・1層	「□」	体部外面			4906
	土師器	甕	S X1630・1層	人面墨書	体部外面			4907
	土師器	甕	S X1630・1層	人面墨書	体部外面			4908
	土師器	甕	S X1630・1層	人面墨書	体部外面			4909
	土師器	甕	S X1630・1層	人面墨書	体部外面			4910
	土師器	甕	S X1630・1層	人面墨書	体部外面			4911
	土師器	甕	S X1630・1層	人面墨書	体部外面			4912
	土師器	甕	S X1610・1層	人面墨書	体部外面			4913
	土師器	杯	S X1630・2層	人面墨書	体部外面			4916
	土師器	杯	S X1610・1層	「□」	体部外面			4917
	土師器	杯	S X1610・1層	「□」	体部外面			4919
	土師器	杯	S X1610・1層	「□」	体部外面			4920
	土師器	杯	S D1614 e・1層	「□」	体部外面			4921
	土師器	甕	S X1630・1層	人面墨書	体部外面			4922
	土師器	甕	S X1630・3層	人面墨書	体部外面			4923
	土師器	甕	S X1630・1層	人面墨書	体部外面			4924
	土師器	甕	S X1630・1層	人面墨書	体部外面			4925
	土師器	杯	S X1630・1層	「×」(刻書)	底部外面			4926
	土師器	杯	S D1614 d	「×」(刻書)	底部外面			4928

116区出土

番号	種類	器種	遺構・層位	文 字	記載部位	方向	備考	登録
1882	須恵器	杯	第1層	「□」	底部外面			5048
1883	須恵器	杯	検出面	「上」	底部外面			5052
1884	須恵器	杯	S X1621・1層	「川」	体部外面	側位		5055
1885	須恵器	杯	整地層	「泰」	体部外面	正位		5063
1886	須恵器	杯	S X1621・1層	「廣」	体部外面	横位		5064
1887	須恵器	杯	第1層	「十」・「□」/「一」	体部外面/底部内面	正位		5068
1889	須恵器	杯	第1層	「田」	体部外面	正位		5078
	須恵器	杯	カクラン	「□」	体部外面	正位力		5034
	須恵器	杯	第1層	「□」	底部外面			5047
	須恵器	杯	検出面	「□」	体部外面			5049
	須恵器	杯	整地層	「□」	底部外面			5050

表27 墨書・刻書土器一覧表回

番号	種類	器種	遺構・層位	文 字	記載部位	方 向	備 考	登録
須恵器	杯		第Ⅰ層	「口」	底部外面			5051
須恵器	杯		S D1616d	「口」	底部外面			5053
須恵器	杯		第Ⅰ層	「七」	底部外面			5058
須恵器	杯		第Ⅱ層	「口」	底部外面			5059
須恵器	杯		第Ⅰ層	「口」	体部外面			5060
須恵器	杯		第Ⅰ層	「—」(刻書)	底部外面			5061
須恵器	杯		盤地層	「口」	底部外面			5062
須恵器	杯		S X1621・2層	「口」	底部外面			5067
須恵器	杯		第Ⅰ層	「口」	底部外面			5068
須恵器	杯		第Ⅰ層	「口」	底部外面			5071
須恵器	杯		第Ⅱ層	「口」	底部外面			5072
須恵器	杯		第Ⅰ層	「口」	体部外面			5073
須恵器	杯		第Ⅰ層	「—」	底部外面			5074
須恵器	杯		第Ⅰ層	「口」	底部外面			5075
土師器	甕		第Ⅱ層	「口」	体部外面			5076
須恵器	杯		第Ⅲ層	「口」	体部外面			5077
須恵器	杯		第Ⅱ層	「口」	体部外面	倒位力		5067

19区出土

番号	種類	器種	遺構・層位	文 字	記載部位	方 向	備 考	登録
須恵器	杯		第Ⅲ層	「口」	体部外面			4050
須恵器	杯		第Ⅲ層	「口」	体部外面			5689

21区出土

番号	種類	器種	遺構・層位	文 字	記載部位	方 向	備 考	登録
須恵器	杯		第Ⅱ層	「口」	体部外面			4517
須恵器	杯		第Ⅰ層	「上」	底部外面			4518
須恵器	杯		第Ⅰ層	「田」	体部外面	正位		4519

22区出土

番号	種類	器種	遺構・層位	文 字	記載部位	方 向	備 考	登録
須恵器	杯		S D805・1層	「口」	体部外面			4520
須恵器	杯		S D807・1層	「口田」	体部外面	倒位		4521
須恵器	杯		S D807・2層	「口」	体部外面			4522
須恵器	杯		S D807・2層	「口」	体部外面	正位力		4523
須恵器	杯		S D807・1層	「口」	体部外面	倒位		4524
須恵器	杯		S D805・1層	「口」	体部外面	正位力		4525
須恵器	杯		S D807・2層	「—」(刻書)	底部外面			4533
須恵器	杯		S D807・1層	「—」(刻書)	底部外面			4534
須恵器	杯	表面採集		「口」	底部外面			5692

23区出土

番号	種類	器種	遺構・層位	文 字	記載部位	方 向	備 考	登録
須恵器	杯		第Ⅰ層	「口」	底部外面			1022
須恵器	杯		第Ⅱ層	「—」(刻書)	底部外面			1058
土師器	甕		S D1275・1層	「口」	体部外面			1070

68区出土

番号	種類	器種	遺構・層位	文 字	記載部位	方 向	備 考	登録
土師器	甕		S K1348・1層	「×」(刻書)	底部外面			4180

70区出土

番号	種類	器種	遺構・層位	文 字	記載部位	方 向	備 考	登録
須恵器	杯		S D1494・1層	「口(田カ)」	体部外面	正位力		4207
土師器	甕		第VI層	「×」(刻書)	底部外面			4209
土師器	甕		第I層	「口」(刻書)	体部外面			4210

表28 墨書・刻書土器一覧表

VIII 遺構の年代と変遷

1 遺構の年代

前章では、土師器杯A・B類や土師器甕A・B類が共伴する土器群について検討し、年代的な位置づけを行った。それに後続する9世紀代の土器変遷については多賀城跡大畠地区の調査の中で整理されており(註1)、それらをまとめるとおおよそ下記のとおりである。

以下、それらにもとづいてC区で発見した遺構の年代を考えて行きたい。

I A期：8世紀後葉の古い段階（土師器は杯A類と甕A類のみで構成）

I B期：8世紀後葉の新しい段階（土師器は杯A類とB類、甕A類とB類で構成）

II A期：9世紀前半（多賀城跡S I 2160・S E2101 B III層）

II B期：9世紀中葉（多賀城跡S K2167）

II C期：9世紀後半（多賀城跡鴻の池10層）

III 期：10世紀前葉（須恵系土器を含む）

〔西半部〕

① 道路跡

S X780には5時期の変遷を確認した。最終段階のE期側溝の2層に灰白色火山灰が自然堆積している。降下時には半ばまで埋没しており、その後改修されずに廃絶した。

② 堀立柱建物跡

主軸方向がおおよそ真北方向(a群)を向くものと、東側に偏するもの(b群)、西側に偏するもの(c群)に分類できる。a～c群の新旧関係を示すものはS B1466とS B1467の重複関係のみであるが、b群→c群の関係がわかる。北側の宮城県教育委員会調査地区(水入遺跡)においても8棟の建物跡が発見されており、4・5号建物跡の新旧関係はa群→b群である(註2)。これらのことから、a群→b群→c群の変遷が想定できる。年代を特定できる建物跡はほとんどないが、a群のS B1469とb群の宮城県教育委員会調査地区第4号建物は8世紀後葉頃のS D1460 Bより新しいことが判明している。b群のS B1395は抜取り穴に灰白色火山灰を含んでおり、10世紀前葉以前に廃絶していることがわかる。

③ 穫穴住居跡

S I 1281は、上層から土師器杯B III・土師器甕B・須恵器杯III、下層から土師器甕B・須恵器II・III・Vが出土している。下層から出土した須恵器の割合はIIが8%、IIIが77%、Vが15%であり、多賀城跡S I 2160やS E2101 B III層に近いことからII A期と考えられる。

④ 溝 跡

S D1424は、土師器杯A類と甕A類のみ出土していることからI A期に属する。小片が多く図示できなかつたが、杯A I aは含まれておらず、8世紀中葉までさかのぼる可能性は低いと考えられる。S D1460 A a 2から土師器甕Aと須恵器杯III、S D1460 A bから土師器甕A、S D1460 Bから土師器杯B I・II、

(註1) 宮城県多賀城跡調査研究所『宮城県多賀城跡調査研究年報1962』1993

(註2) 7・8号も重複しているが、報告書の記載によると7号建物跡は2度、8号建物跡は6度の振れとなっており、b群→a群となるが、7号建物跡は東側柱列・北妻でみると5度の振れと見られるのでa群には含めない(宮城県教育委員会『水入遺跡発掘調査報告書』1982)。

土師器壺A・B、須恵器杯II・III・Vが出土している。S D1460A a 2とS D1460A bの新旧関係は不明であるがいすれもI A期であり、S D1460BはI B期である。畿内系土師器はS D1460Bにのみ含まれ、同じくI B期のS X1351A・B・Cとの共通性が窺われる。S D1350からは土師器杯A・B、土師器壺A・B、須恵器杯IIIが出土しており、I B期である。重複しているものの中では最も古い。S D1240は土師器杯B II、須恵器杯II・III・Vが出土しており、須恵器杯の割合はIIが9%、IIIが74%、Vが17%である。土師器杯がすべて再調整されたものであることや、須恵器杯の割合からII A期と考えられる。

⑤ 井戸跡

S E1174は掘り方から土師器杯B II・B V、須恵器杯V、側内埋土から土師器杯B II・B V、須恵器杯V、須恵系土器が出土している。側内埋土に須恵系土器が含まれることから、構築年代は10世紀前葉以前である。土師器杯B III・須恵器杯IIIが全く含まれず、土師器杯B Vと須恵器杯Vによって占められる構成は9世紀後半の多賀城跡鴻の池10層から見られる特徴であることから、II C期と考えられる。S E1217は掘り方から土師器杯B II、土師器壺B、須恵器杯III・V、側内埋土からは土師器杯B I・II、土師器壺B、須恵器杯IIIが出土している。掘り方の須恵器杯はIIIが97%、Vが3%であり、土師器杯もすべて再調整されている点は多賀城跡S I 2160に近く、II A期と考えられよう。S E1285は掘り方から土師器杯B V・B II・B I、土師器壺B、須恵器杯III・Vが出土している。須恵器杯の割合はIIIが40%、Vが60%とVが多い。井戸側設置時にその隙間に詰め込まれた土器片も土師器杯B Vや須恵器杯Vが主体となっていることから、本井戸跡はII C期と考えられる。側内埋土から須恵系土器が多数出土しており、10世紀前葉頃には半ば埋没していたことが窺われる。

⑥ 河川跡

S X1351は、年代が明らかな木簡の共伴によって、S D1351A・Bが延暦9年(790)以前の8世紀後葉、S X1351Cが延暦9年(790)以降延暦24年(805)以前、S X1351Dが延暦24年(805)以降9世紀中葉であるが、10世紀前葉頃まで埋まりきらずに残っていたようである。S X1351A・B・CはI B期、S X1351DはII期である。S X1600BはS X1351Cに、S X1600CはS X1351Dにそれぞれ対応する。

〔東半部〕

① 道路跡

S X1610Dからは「延暦」の年号が記された木簡が出土しており、年代の一端が延暦年間(782~805)にあることが知られる。合流するS D1522は延暦24年(805)の木簡が出土したS X1351Dと土器の様相が類似しており矛盾しない。S X1610Cは延暦年間(782~805)以前に求められる。S X1610A・B期については出土遺物が少ないため詳細は不明であるが、8世紀代にさかのぼるものであろう。E期は側溝の最上層に灰白色火山灰が自然堆積していることから10世紀前葉以前であり、F期は10世紀前葉以降である。S X1607は、S X1607AがS X1610Bに、S X1607BがS X1610Cに、S X1607CがS X1610Dにそれぞれ対応する。

② 挖立柱建物

主軸方向が北で1~4度東に偏するもの(v群)、北で5~9度東に偏するもの(w群)、北で10~18度東に偏するもの(x群)、北で26~31度東に偏するもの(y群)、北で西に偏するもの(z群)の5群に分類できる。w群のS B1480はv群の1477より新しく、z群のS B1473はw群のS B1474より新しいことから、w群→v群、w群→z群の新旧関係が想定できる。年代については、(i) S B1532→S E1535(9世紀

中葉～後半)、(2) S B 1546→S B 1531→S D 1501 (9世紀前半)、(3) S D 1536・1558 (9世紀前半)→S B 1560・1561の関係により、x群のS B 1546・1531は9世紀前半以前、同じくx群のS B 1560・1561は9世紀前半以降、S B 1532は9世紀中葉～後半以前となるが、詳細な年代は不明である。また、検出面についてはほとんどが地山面であるのに対し、v群のS B 1564のみ湿地上面の整地層上となっているが、年代についても同様に不明である。

③ 壓穴住居

S I 1488は焼失住居であり、床面・カマド内出土資料は住居廃絶時の遺物である。土師杯A・B、須恵器杯IIIが出土しており、I B期に含まれる。土師器杯Bは、器高が低く底径が大きいもので、S X1351 A～Cに見られるものと同様である。S I 1479は遺物がほとんど出土していないため、年代は不明である。

④ 溝 跡

S D 1522は延暦年間(782～805)の木簡が出土したS X1610Dから分岐するものであり、土器の特徴は延暦24年(805)の木簡が出土したS X1531Dと類似することから、延暦24年(805)を上限として9世紀中葉の年代が考えられ、II B期に位置づけられる。S D 1501からは土師器杯B V、土師器甕B、須恵器杯I・II・III・Vが出土している。土師器杯は小破片で点数も少ないため、須恵器杯でみるとIIIが73%、Vが27%となっており、その割合はしいて言えば多賀城跡S E 2101Bに近く、II A期としておきたい。S D 1517からは土師器杯B、土師器甕B、須恵器杯III・Vが出土している。いずれも小破片であり、点数も少ないとみたが詳細は不明であるが、重複するものでは最も古いため、II期の中でも古い段階として、II A期と考えておきたい。S D 1510からは土師器杯B I・B II・B V、土師器甕A・B、須恵器杯II・III・Vが出土している。土師器杯の割合はB Iが6%、B IIが35%、B Vが59%、須恵器杯の割合はIが1%、IIが9%、IIIが55%、Vが35%である。土師器杯B Vが半数以上を占め、須恵器杯で再調製がないものが90%に達する状況は、多賀城跡鴻の池10層より新しい様相が窺われる。しかし、須恵系土器が全く出土していない状況を考え併せれば、9世紀末から10世紀初頭頃の年代が想定され、II C期からIII期にかけての遺構と考えられる。S D 1526からは土師器杯B IIの小破片が1点出土しているのみであるが、S D 1522より古いことから9世紀初頭以前であり、II A期あるいはI B期以前にさかのぼるものであろう。S D 1536・1558からは土師器杯I・II・V、土師器甕B、須恵器II・III・Vが出土している。須恵器杯はIIが20%、IIIが69%、Vが11%であり、その割合は多賀城跡S E 2101Bに近い。S E 2101Bには土師器杯B Vが少数含まれており、およそ9世紀前半頃の年代が考えられることからII A期としておきたい。

⑤ 井戸跡

S E 1535は掘り方から土師器杯B II・B V、土師器甕B、須恵器杯III・Vが出土している。側内埋土からも同様な組み合わせで出土しており、灰白色火山灰が上層に堆積していることから、10世紀前葉を下限とするものである。土師器杯B IIとB Vの割合は等しく、須恵器杯IIIとVはVが64%、IIIが36%である。須恵器杯はS K 2167より新しい様相を呈しているが、土師器杯のありかたは多賀城跡鴻の池10層と共通している。両者の中間頃として9世紀中葉から9世紀後半頃の年代を想定し、II B期からII C期にかけての遺構と考えておきたい。S E 1545は掘り方から土師器杯B I、土師器甕A・B、須恵器杯IIIが、側内埋土からは土師器杯B I・B V、土師器甕B、須恵器杯III・Vが出土している。掘り方に土師器甕Aが数点含まれているが、側内埋土には1点も含まれていないので、II期の遺構と考えてよいであろう。須恵器杯III・Vの割合がほぼ等しく、土師器杯にB I・B Vがあるという構成は9世紀中葉頃の多賀城跡S K 2167に近

く、II B期と考えられる。S E1549は掘り方から土師器甕B、須恵器杯III、側内埋土から須恵器杯III・Vが出土している。抜取り穴からは土師器杯B II Vと須恵器杯III・Vが出土している。掘り方と側内埋土からの出土資料は少ないが、抜取り穴からは比較的多く出土している。須恵器杯III・Vの割合がほぼ等しく、土師器杯にはB IIとB Vがあるという組み合わせから、多賀城跡S K2167から鴻の池10層にかけての時期と考えられ、9世紀中葉から9世紀後半頃の年代を想定し、II B期からII C期にかけての年代を考えておきたい。S E1552は掘り方から土師器杯B I、土師器甕A・B、須恵器杯II・III・Vが出土している。側内埋土最下層から土師器杯B V、須恵器杯III・V、その上層から土師器杯I・II・V、須恵器杯III・Vが出土している。掘り方に土師器杯Aと甕Aが数点含まれているが、側内埋土には小片がI点含まれているのみであるからC期と考えてよいであろう。掘り方における須恵器杯のあり方は多賀城跡S E2101B III層に近いので9世紀中葉を上限年代と考える。S E1559は側内埋土から土師器杯I・II、土師器甕B、須恵器杯III・Vが出土している。土師器杯は切り離し方法が明らかなもの6点中5点がII類であり、しかも残存状況が良好なものが多い。須恵器杯は3点中Vが2点、IIIが1点である。土師器杯は再調整があるもので占められるという状況は多賀城跡S I 2153・2160の特徴である。また須恵器杯Vが含まれるのは多賀城跡S E2101B以降の特徴であるが、Vの出現はそれ以前に遡る可能性が高いことは前章で述べたところであるので(註3)、ここではS E1559の年代をS E2101Bに近いと見て9世紀前葉頃と考え、II A期としておきたい。S E1565は掘り方から、土師器杯B II・III・V、土師器甕A・B、須恵器杯I・II・III・V、側内埋土から土師器甕A・B、須恵器杯II・III・Vが出土している。土師器甕Aはいずれも小片であることから混入と考えられる。また、確認面から出土している須恵系土器は、本井戸跡がほぼ埋没した段階の遺物と見られることから10世紀前葉頃が下限と考えられる。掘り方出土資料については、土師器杯は小破片が多いので須恵器杯を参考にすると、その組み合わせは9世紀中葉頃の多賀城跡S K2167に近く、II B期と考えられる。

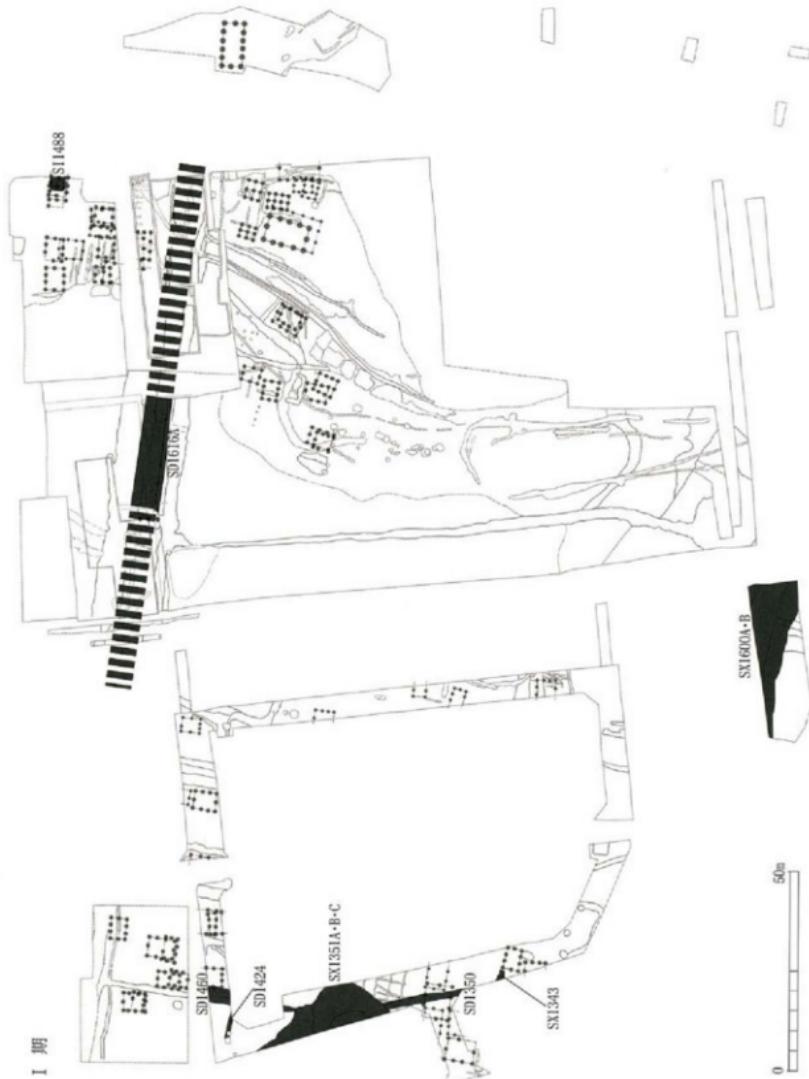
2 遺構の変遷

I A期(8世紀後葉頃)：I A期には西半部の北西隅で南北溝S D1460Aa2・Abと東西溝S D1424を発見した。これらはC区における最も古い遺構であるが、8世紀中葉以前には遡らないと考えられる。I B期には西半部の西端部でS X1351A・B・C、南端部でS X1600Bを発見した。これらは蛇行する一連の河川である。S X1351A・B・Cの周辺には、I A期のS D1460Aa2・Bと同位置で重複しているS D1460B、S D1350、S X1343などがある。S D1460BとS X1351A・B・Cの関係は明確にできなかつたが、畿内系土器を含むという共通点からいざれかに合流していた可能性がある。東半部にはS X1610東西大路東道路が建設され、創建が延暦年間以前にさかのぼる可能性が大きいことが判明した。その北側ではS I 1488竪穴住居を発見した。

II期(9世紀)：最も多くの遺構が見られる段階である。II A期(9世紀前半)には、S X780東2道路、S X1607東3道路が建設され、それぞれII C期まで存続している。S X1351Dは、土砂の堆積が進行し、浅くなりながらも残存している。S X1610東西大路東道路Dから南側に延びるS D1522が掘削され、S X1351Dと同時期のS X1600Cに合流していたと見られる。S X1600Cの北側にはS I 1281、S D1240、S E1217などがあり、S X1607東3道路の東側にはS E1559がある。この時期の建物を特定することはできないが、S X1607東3道路とS D1501の中間にあり、それらと重複しないS B1537・1538などS X1351D

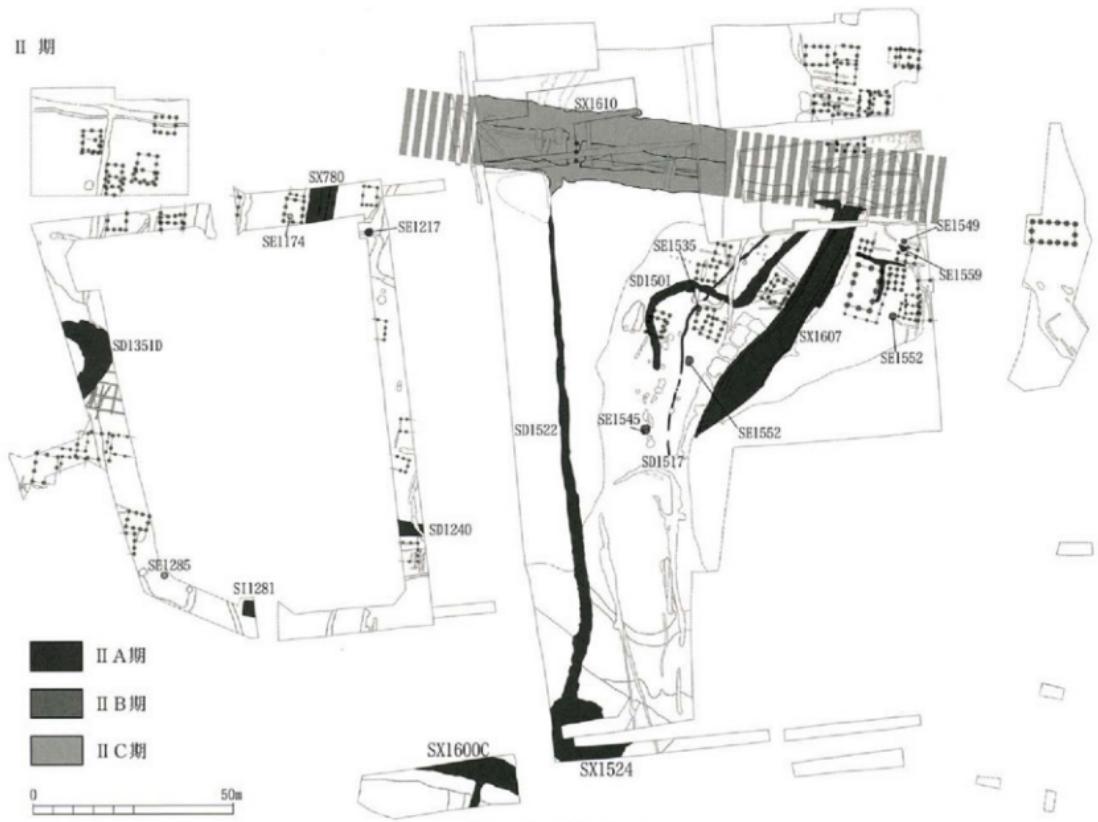
(註3) S X1351Cに少數含まれていることをもって、須恵器杯Vの出現が8世紀後葉頃まで遡ると考えた。

1期



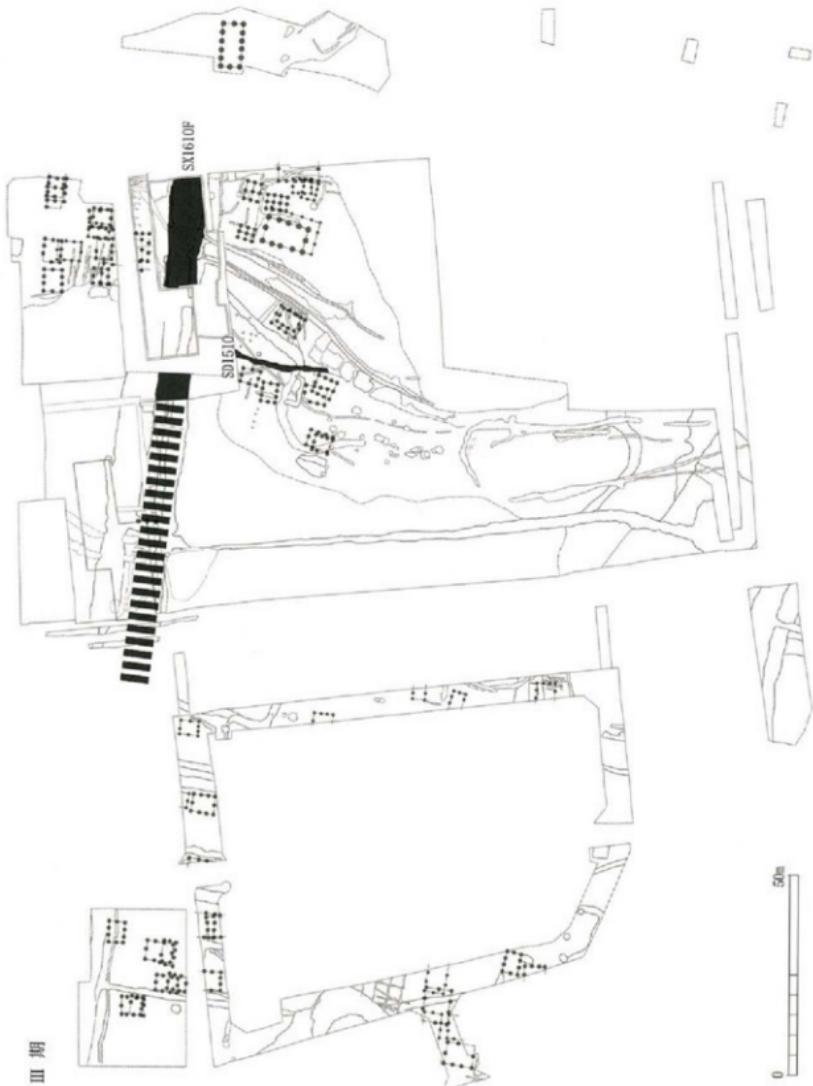
第79图 遗構変遷模式図(1)

II 期



第80図 遺構変遷模式図(2)

第81图 道桥互通模式图(3)



III期

は同時期の可能性がある。II B期の遺構としてはS E 1545・1552・1565・1535・1549などの井戸跡がある。S E 1535・1549についてはII C期の可能性もある。II C期の遺構としては、西半部でS E 1174・1285を発見した。

III期(10世紀)：この時期の遺構はきわめて少なく、S X 1610東西大路東道路とその南側溝に連結するS D 1510があるにすぎない。S D 1510は10世紀初頭頃のものである。S X 1610は10世紀前葉以降も1回改修されおり、C区の遺構としては最も新しい段階まで機能していることが知られる。それと同時期の遺構は、西半部のS X 1351Dの南側で小溝群が確認されているのみである。

3 多賀城南東地区における方格地割の形成とその変遷

① 方格地割形成の時期

C区すなわち多賀城南東地区においてS X 1610東西大路東道路・S X 780東2道路・S X 1607東3道路を検出した。これらは城外の方格地割を構成するものであり、その年代は多賀城南東地区が居住域として整備されていった年代を示すものと考えられる。

S X 1610は4時期目の側溝より延暦年間(782~805)の木簡が出土していることから、創建はそれ以前にさかのぼることが明らかである。上限年代を示す資料はないが、C区では8世紀中葉にさかのぼる遺構が見出せないことや、延長線上にある東西大路のA期の年代が8世紀中葉以降という山王遺跡多賀前地区的成果^(註4)から、8世紀後葉を大きくさかのぼらない可能性が高い。C区の古い遺構であるS X 1351A・Bについては、延暦9年(790)を下限として8世紀後葉頃に位置づけているが、クロロ技術を導入した新しいタイプの土師器の出現から8世紀後葉頃に大きな変化が認められる。畿内系土師器など非在地系土器の出土は、内陸方面から人の動きを示している可能性がある。方格地割の基準線の一つである南北大路の創建年代が、780年よりやや遅れて政府第III期の本格的な改修の時期と連動するという見解^(註6)をも考え併せれば、道路や方格地割の建設など城外における大きな画期を8世紀後葉に求めることができよう。S K 1343からは「宝龜3年」(772)の年記を記した漆紙文書が出土している。遺物の性格上、記載された年記が出土遺構の年代を直接示すとは限らないがその上限年代は明確であり^(註5)、城外におけるC区の整備が8世紀中葉にさかのぼらないという先の考え方と矛盾しない。

S X 1610では6時期、S X 780では5時期、S X 1607では3時期の変遷を確認し、それらの対応関係については表29に示したとおりである。S X 1607はS X 1610B段階から確認され、S X 1610D段階まで存続しているが、S X 1610E段階に以前には側溝が半ば埋没しており、S X 1610E造成時には完全に廃絶してい

東2道路 S X 780	東西大路東道路 S X 1610	東3道路 S X 1607
A~D	A	
	B	A
	C	B
	D	延暦年間 (782~805)
整地		C
E	E	
	灰白色火山灰降下 (10世紀前葉)	
F		

表29 S X 1610・780・1607の変遷と相互の関係

(註4) 宮城県教育委員会建設省東北地方建設局「山王遺跡IV—多賀前地区考古編一」宮城県文化財調査報告書第171集 1996

(註5) この文書はわずかに一行分の残りにすぎないが、年号が記されていることに注目すれば一次文書の可能性が高いと考えられる。したがって、その作成・保存・廃棄から紙背の再利用、さらに康工人の手に渡るまでの時間幅などを考慮せねばならない(平川南「地方官衙における文書の作成・保存・廃棄」『漆紙文書の研究』1989)。なお、この漆紙文書については『市川横道跡—城南土地区画整理事業に伴う発掘調査報告2—』(2000)に写真を掲載しているが、報告書は現在作成中である。

(註6) 多賀城市教育委員会「市川横道跡—第11次調査報告書一」多賀城市文化財調査報告書第50集 1998

S X1610東西大路東道路						
時期	側溝心々距離 (路面幅)	北 側 溝		南 側 溝		方 向
		上幅 (m)	深さ (cm)	上幅 (m)	深さ (cm)	
A	(6.0以上)			1.2	45	東で南へ8度偏する
B	(3.8以上)			1.7	70	
C	(3.5以上)			2.0~3.2	50~80	
D	11.8 (7.6)	4.7	52	2.0	85	
E	115区 : 10.5 (4.5~6.0)	8.7	65	2.0	75	
	116区 : 11.5 (9.5)	1.2	40	0.6以上	48	
F	116区 : 6.7 (5.2)	0.4~1.3	25	1.3~2.3	20	
S X780東2道路						
時期	側溝心々距離 (路面幅)	西 側 溝		東 側 溝		方 向
		上幅 (m)	深さ (cm)	上幅 (m)	深さ (cm)	
A	4.14.3	0.3以上	20~30	0.9	10~32	6
B	4.6	0.6~0.8	14~28	0.5~1.0	11~37	7
C	4.85.1	1.6以上	28~34	1.2~1.7	28~34	9
D		0.5以上	5~10	0.4~0.7	12~28	9
E	4.2	0.5~0.9	20~28	0.4~0.7	14~34	11
S X1607東3道路						
時期	側溝心々距離 (路面幅)	西 側 溝		東 側 溝		方 向
		上幅 (m)	深さ (cm)	上幅 (m)	深さ (cm)	
A		0.8以上	46			
B	4.9	0.3~0.8	40			北で東へ30度偏す
C	5.7	1.0~1.1	32	0.4~1.5	40	

表30 S X1610・780・1607の規様・方向一覧表

る。S X780については、S X780が灰白色火山灰によって覆われるという共通点からS X1610Eと時期的に対応すると考えられるが、S X780AからS X780Dまでの各段階がS X1610とそれぞれ対応するか否かは確認できなかった。廃絶の時期については、S X1607はS X1610E以前に廃絶し、S X780もS X1610F以前に終末を迎えていることが確認されている。S X1610E段階以降、この周辺における方格地割は東側から衰退が始まり、S X1610F段階にはS X1610のみが存在している。ほかの遺構についても9世紀後半以降の遺構は少なく、10世紀前葉以降の遺構はほとんど見出せない状況と一致している。

以上のことから、東西大路東道路の南に面した東1道路より東の地域は、8世紀後葉頃に整備が始まり、遅くとも延暦年間(782~805)には方格地割が形成され、10世紀前葉以降一样に衰退するという経緯をたどったと見ることができる。

② 東西大路東道路の建設とその構造

東西大路は多賀城南辺築地に平行してその5町南側に建設されたものであり、東西大路東道路はその東側延長線上に建設されたものである。東西大路はこれまで山王遺跡東町浦地区、同多賀前地区、市川橋遺跡鴻の池地区、同水入地区でそれぞれ検出されている。そのうち、最も西側に位置する山王遺跡東町浦地区(第4次調査区)の最新段階の路心($X = -189,026.072$ $Y = 12,619.397$)と山王遺跡多賀前地区的路心($X = -189,170.000$ $Y = 13,597.500$)を結び、東側に延長すると、S X1610の南側溝上に至る(註7)。

(註7) 座標値については註5文献による。

S X1610の路心が約6m北側にずれていることになるが、山王遺跡東町浦地区とS X1610Eの路心(X=-189, 244.900 Y=14, 150.000)を結んだ直線は東で8度08分51秒南に偏しており、7~8度の振れとされる多賀城南辺築地の方向に近似している。側点間の距離が約1.5kmであることや、その間のデータが不足していることを考慮するならば、東西大路と東西大路東道路は多賀城南辺築地を基準にして、かなり正確な測量技術を用いて建設されたと見ることができよう。

次に、東西大路東道路の構造について触れておきたい。S X1610は側溝溝心間距離では東西大路と同様な規模を持つが、路面幅は狭く、小路程度の規模となっている。これは北側溝を著しく大規模に造成することによって路面の規模を縮小した結果と見られ、大規模な北側溝はS X1610北側からの排水処理を目的としたものと考えられる。本調査区の北側には低湿地が広く分布しており、その北側と東側に丘陵部、西側と南側には微高地が形成されて四方を遮られた状況を呈している。南側の微高地に位置する第7次調査区東半部ではほとんど遺構が検出されず(註8)、その東側の多賀城跡調査研究所第22次調査地区(高平遺跡)の調査(註9)でもその西側は低湿地と理解されている。したがって、その間は地形的に低かった可能性が高い。今回調査したS X1610はちょうどその南側にあたり、低湿地からの水が集まる地点に位置していることから、城外の道路ではほかに例を見ない大規模な側溝が必要とされたものであろう。

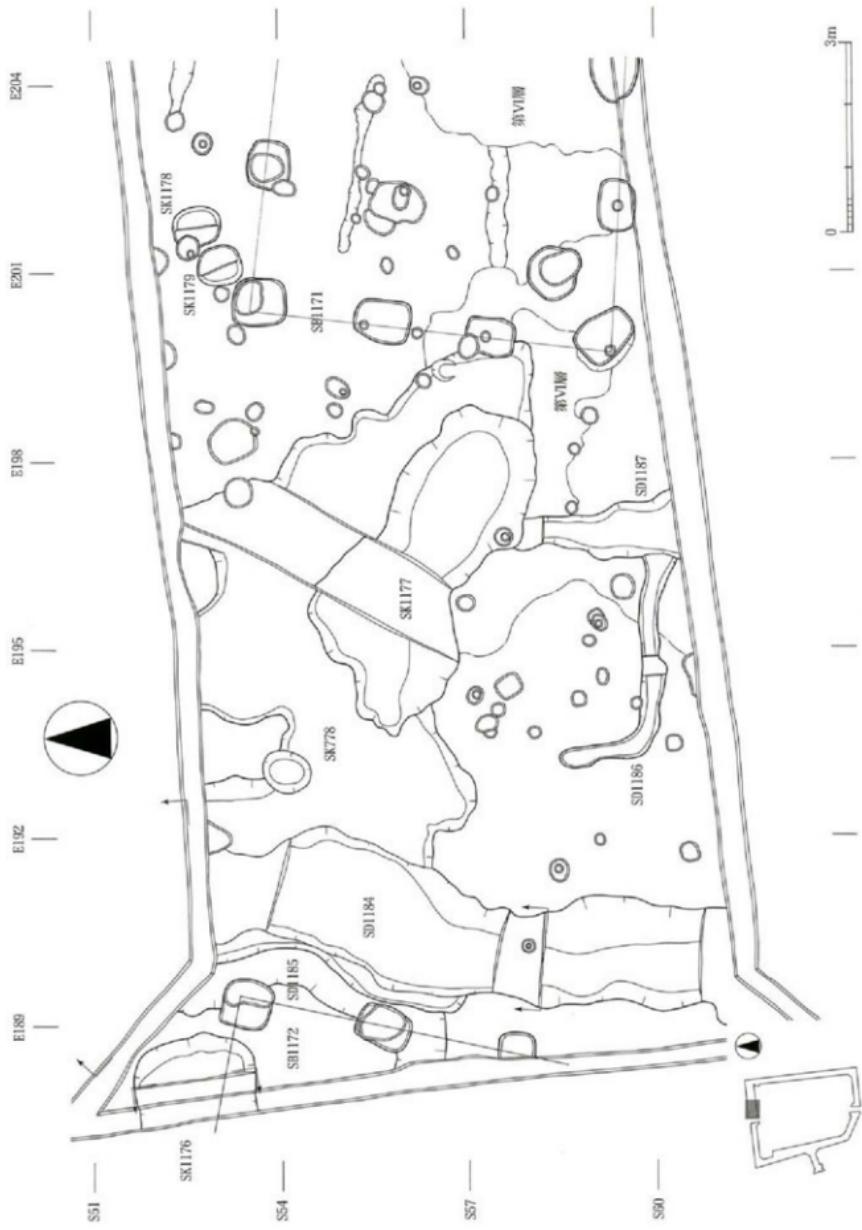
次に、S X1610の最終段階の様相についてみておきたい。S X1610Fは115区から116区にかけて検出したものである。地形的に高い116区では著しく削平を受けながら側溝を確認することができた。しかし、地形的に低い115区では路面の整地層は検出できたが側溝は全く確認することができなかった。多賀城外の道路は生活面より路面を高く造成したものがほとんどであるが、115区東端部付近におけるS X1610Eの路面は南側溝南壁検出面より約10cm高い。側溝が削平された可能性については、道路の路面のみが残ったという無理な状況を想定しなければならない。地形的に低いS X1610の西半部では、城外の道路としては例外的に路面を高く造成していたと見られ、S X1610Fにいたっては側溝を伴わない土手状の高まりとして機能した可能性がある。

IX ま と め

- 1 多賀城外に建設された方格地割の中で、南I東西道路と、東2・3南北道路に面した区画を調査した。
- 2 これらの地区の北側で、東西大路の延長線上にある東西大路東道路を発見した。この道路は4時期目が延暦年間(782~805)頃であり、1~3時期目はそれ以前に遡ることが判明した。この道路の年代観は、城外の整備が始まった時期を具体的に示すものと考えられる。
- 3 これらの地区では8世紀後葉頃から活動が始まり、9世紀前半に最盛期を迎えるが、9世紀中葉以降衰退し、10世紀前葉頃には東西大路東道路以外の存在は確認できなかった。
- 4 東西大路東道路は丘陵端部まで延びていることが確認され、多賀城と付属寺院を結ぶ道路を考える上で大きな手がかりを得た。
- 5 ロクロを使用した土師器は、多賀城南面地域では延暦9年(790)以前に出現したことが判明した。

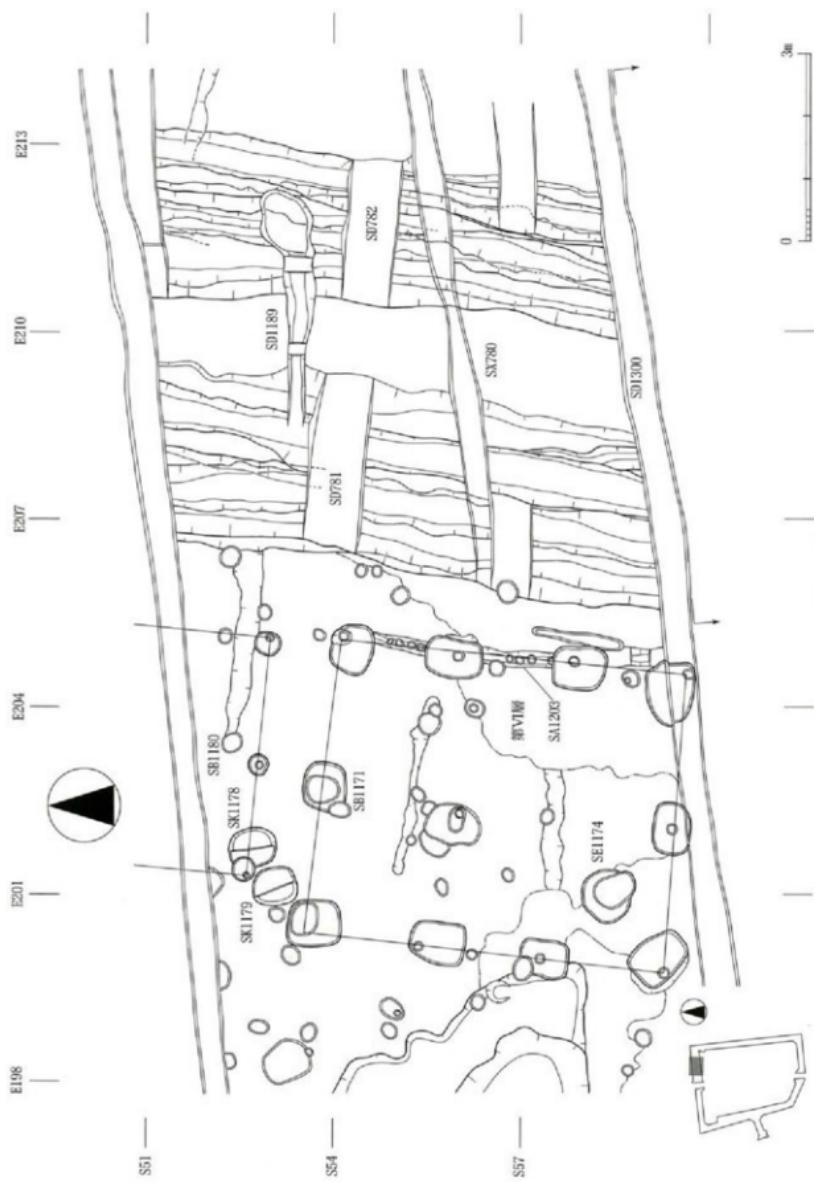
(註8) 多賀城市教育委員会『市川橋遺跡一平成元年度発掘調査報告書』多賀城市文化財調査報告書第21集1990

(註9) 宮城県教育委員会宮城県多賀城跡調査研究所『宮城県多賀城跡調査研究所年報1973~昭和48年度発掘調査概報』1974

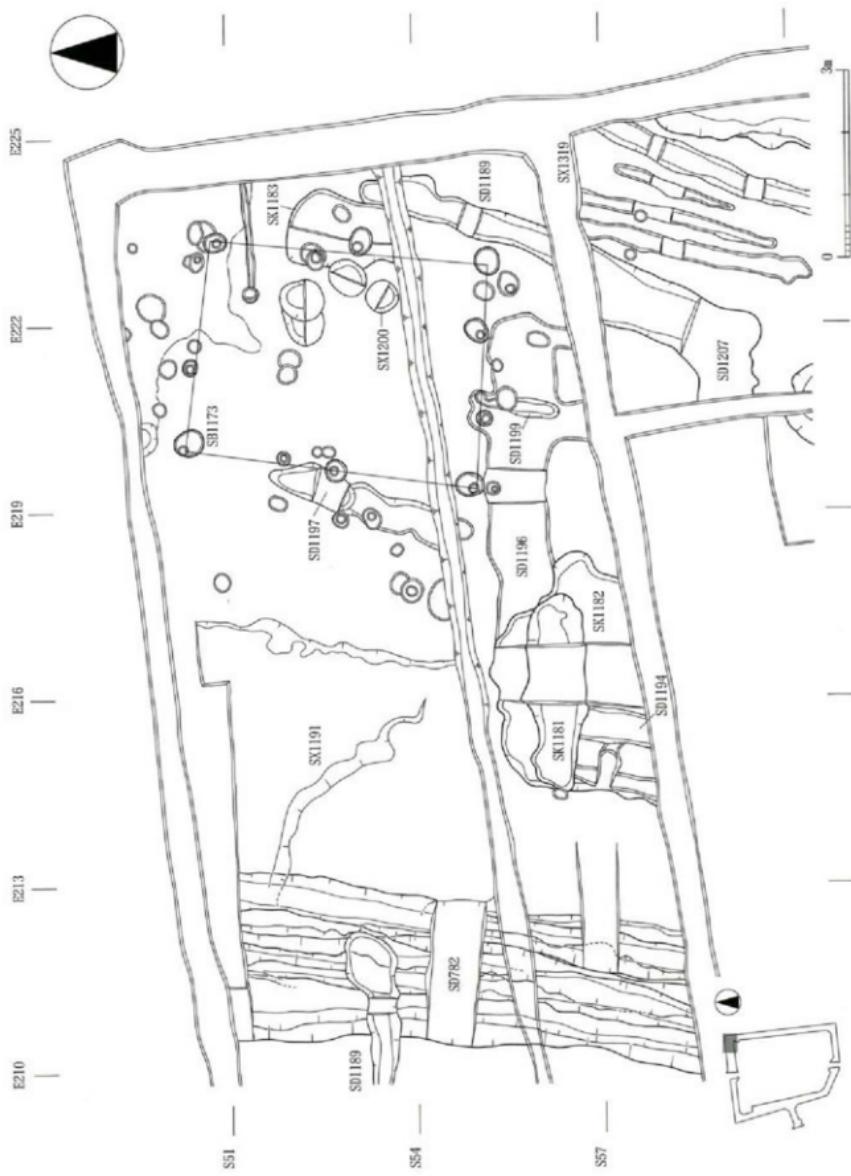


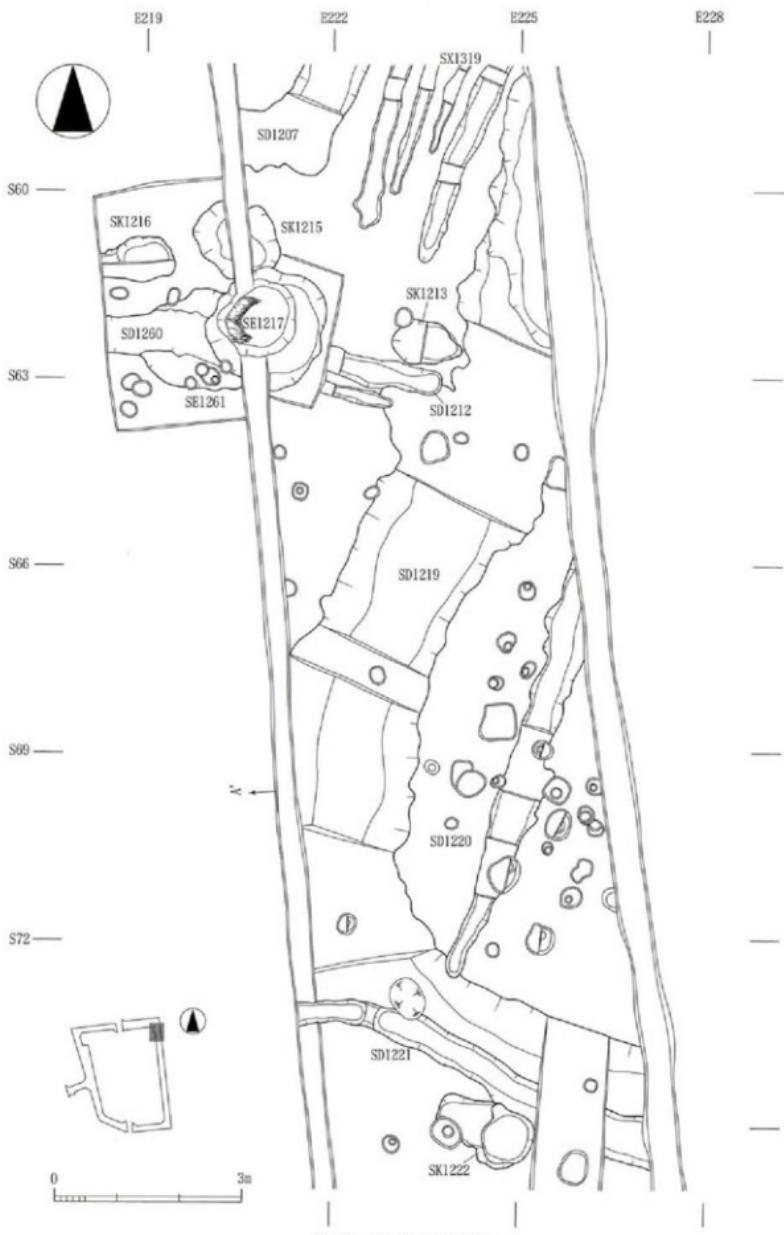
第82回 18区遺構実測図(1)

第63图 18区勘探实测图(2)

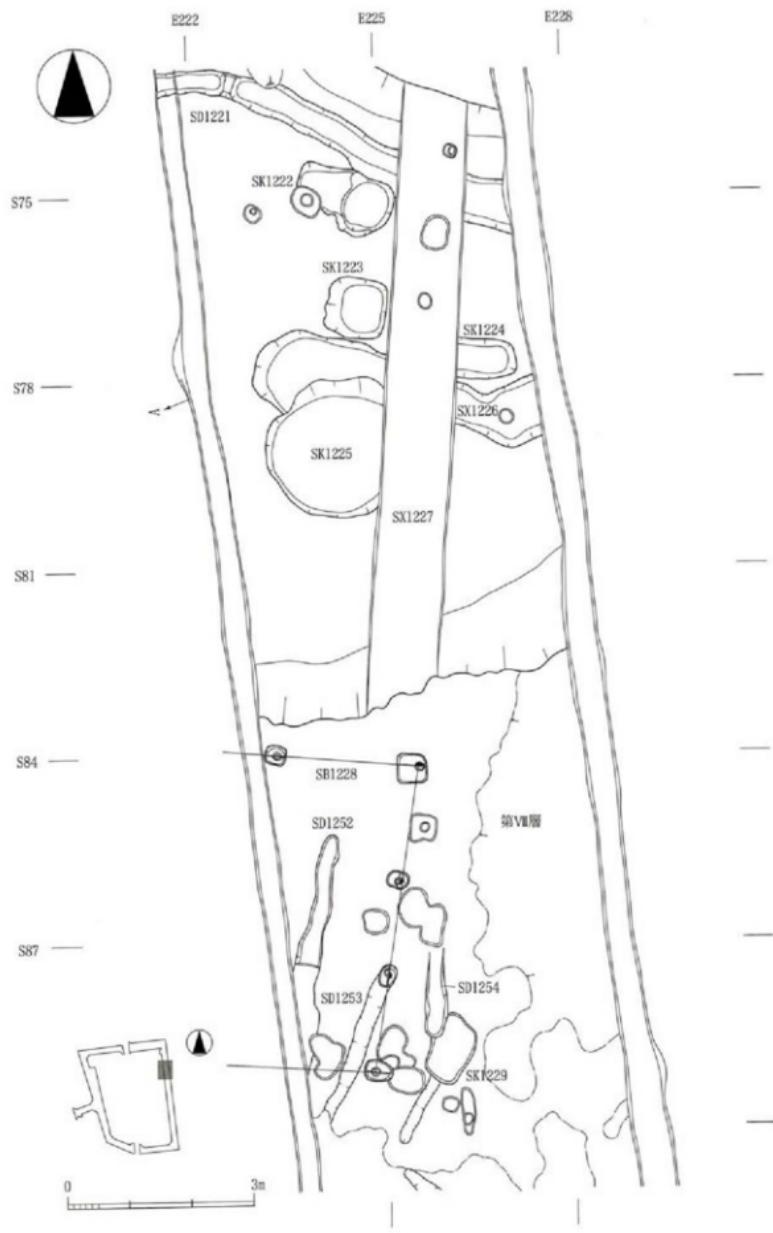


第34图 18区植物实测图(3)

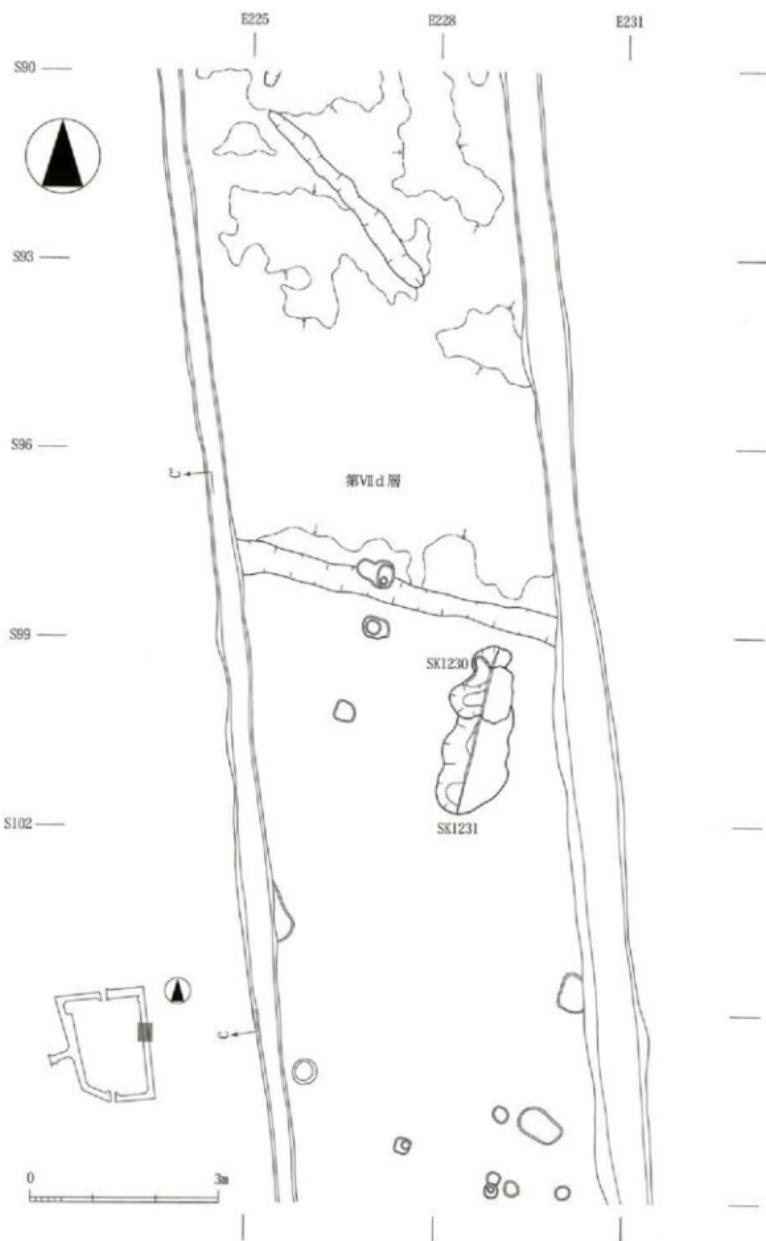




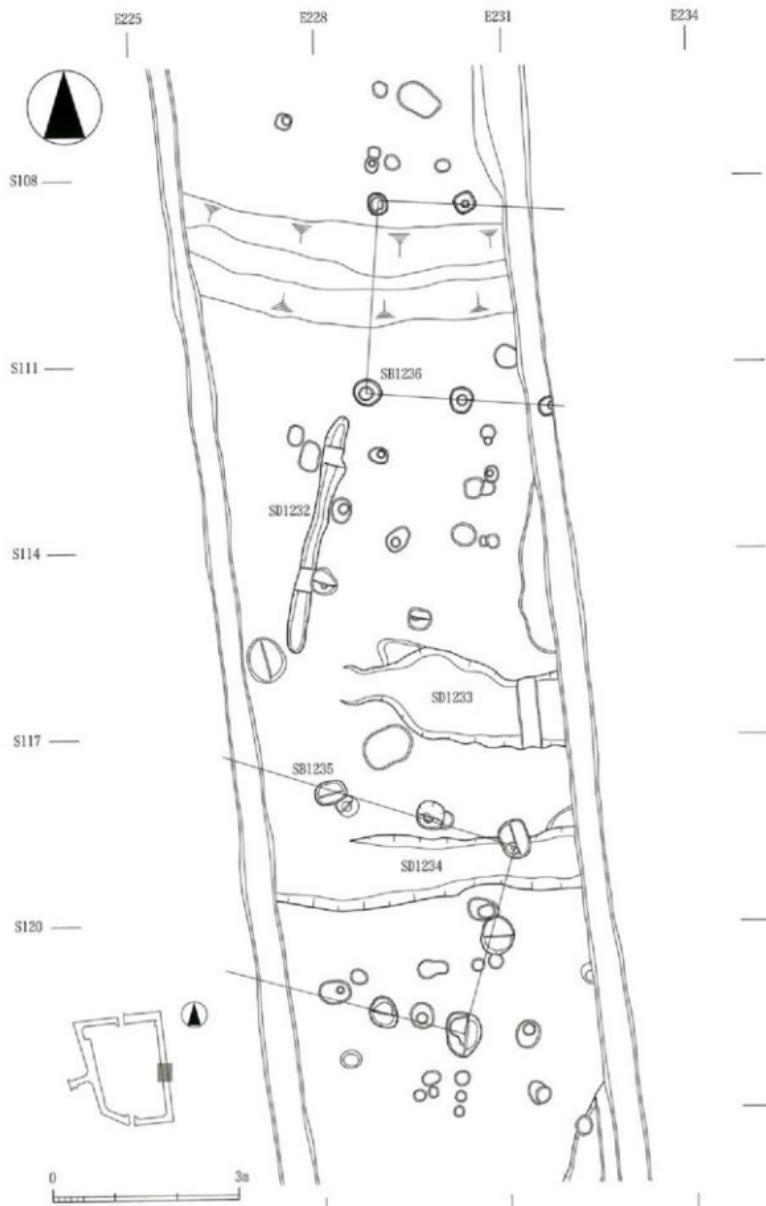
第85図 41区遺構実測図(1)



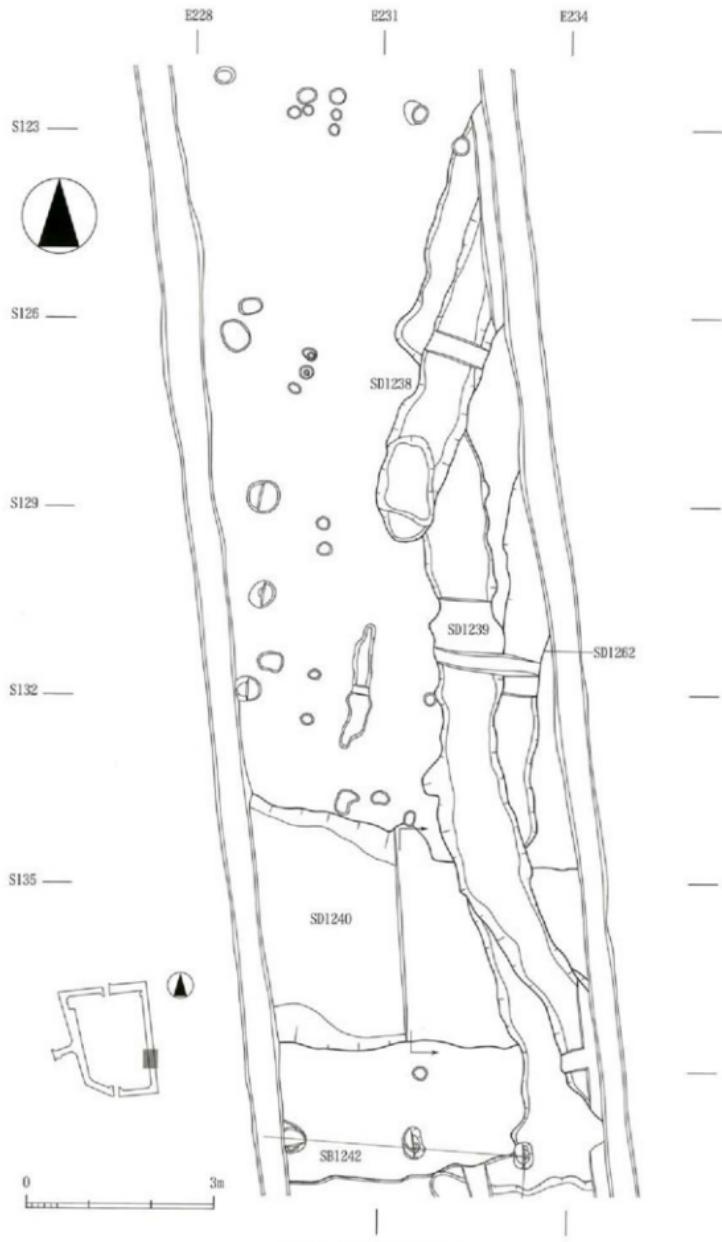
第86図 41区遺構実測図(2)



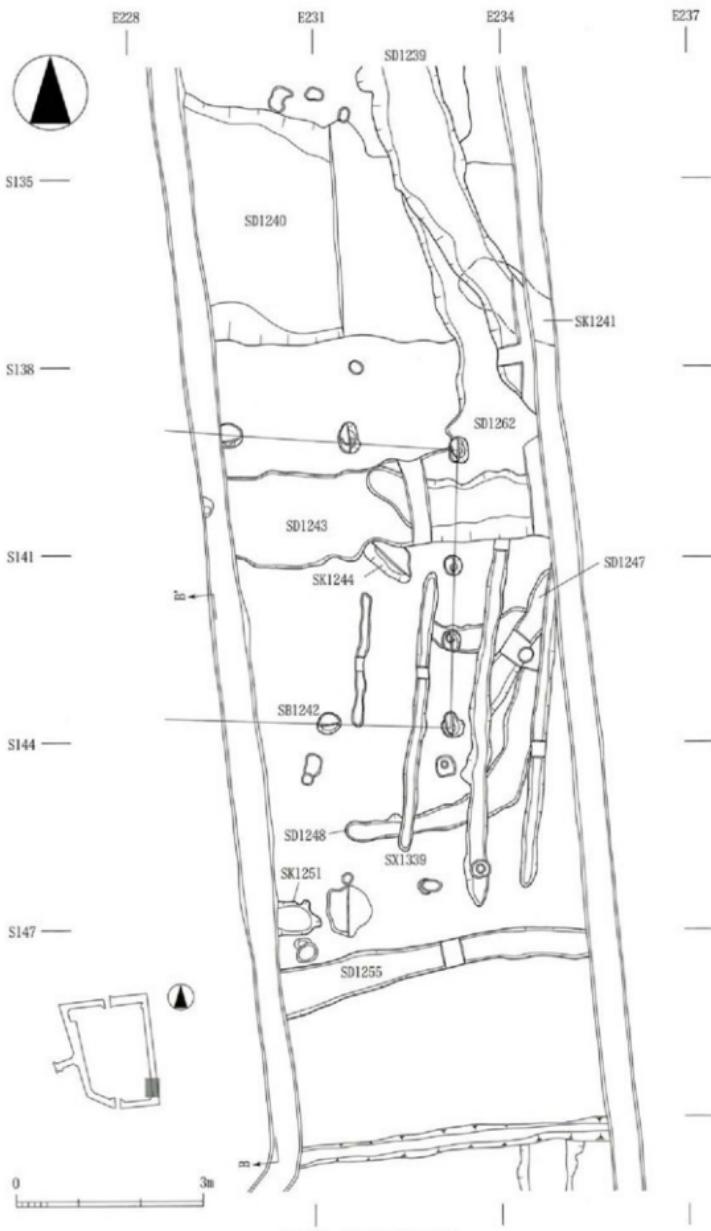
第87図 41区遺構実測図(3)



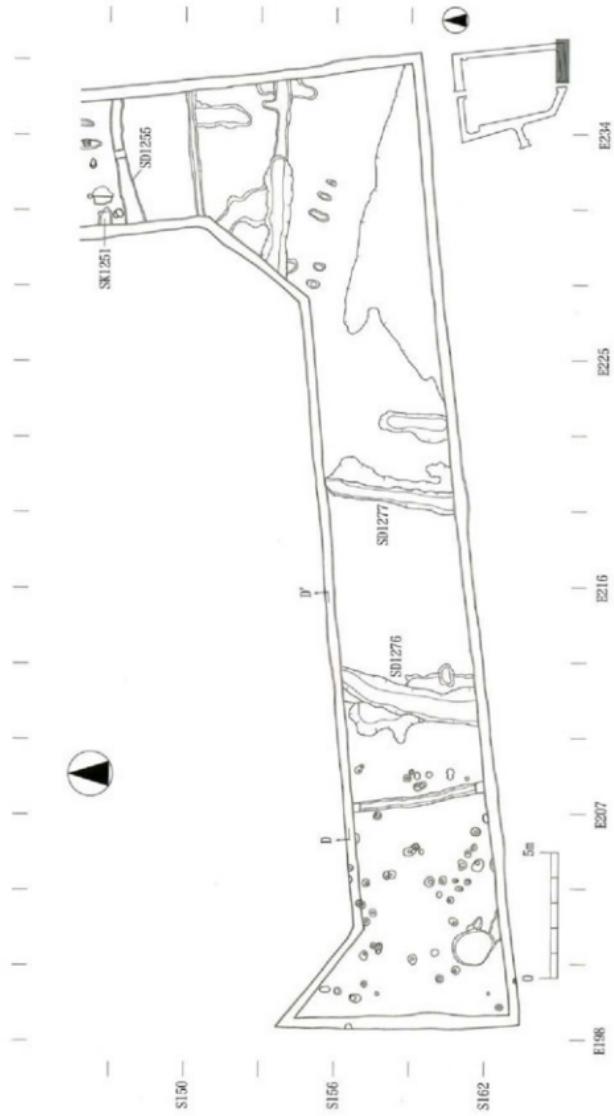
第88図 41区遺構実測図(4)



第89図 41区遺構実測図(5)

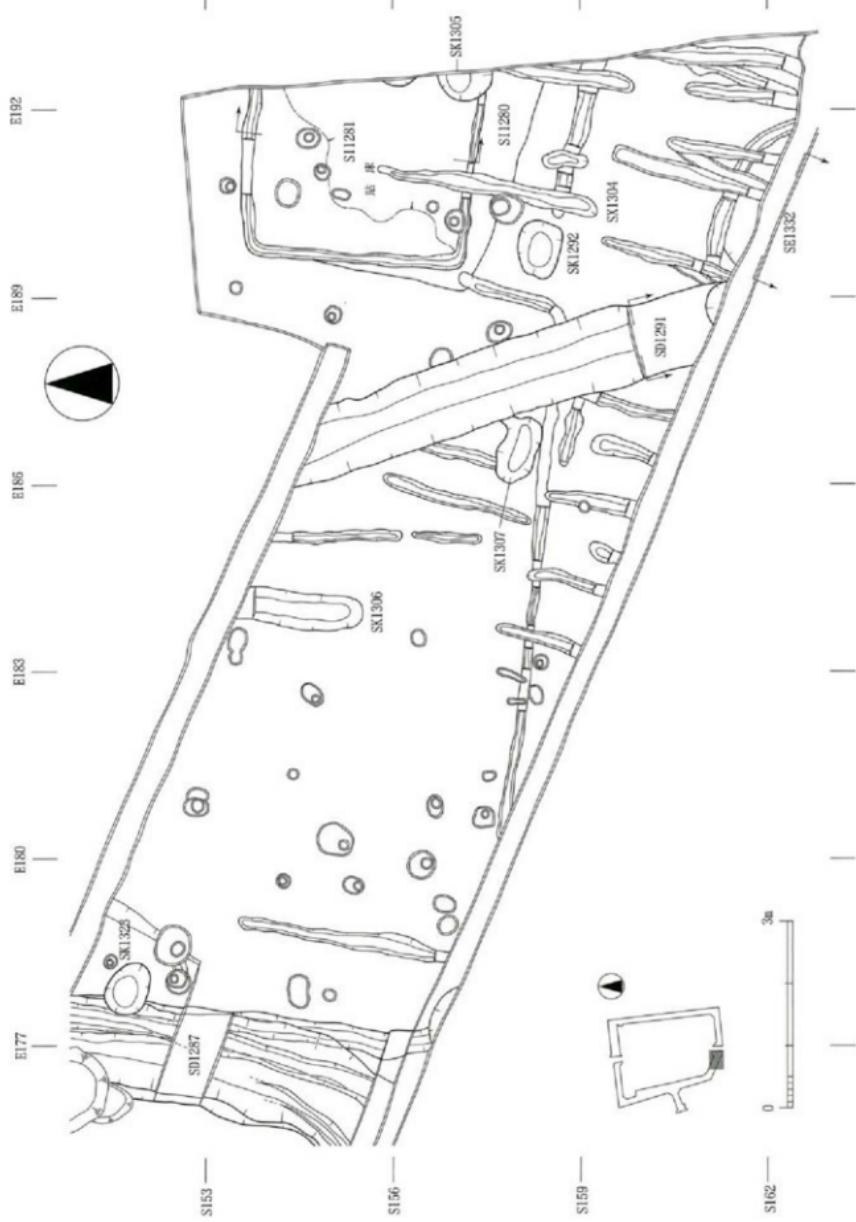


第90図 41区遺構実測図(6)

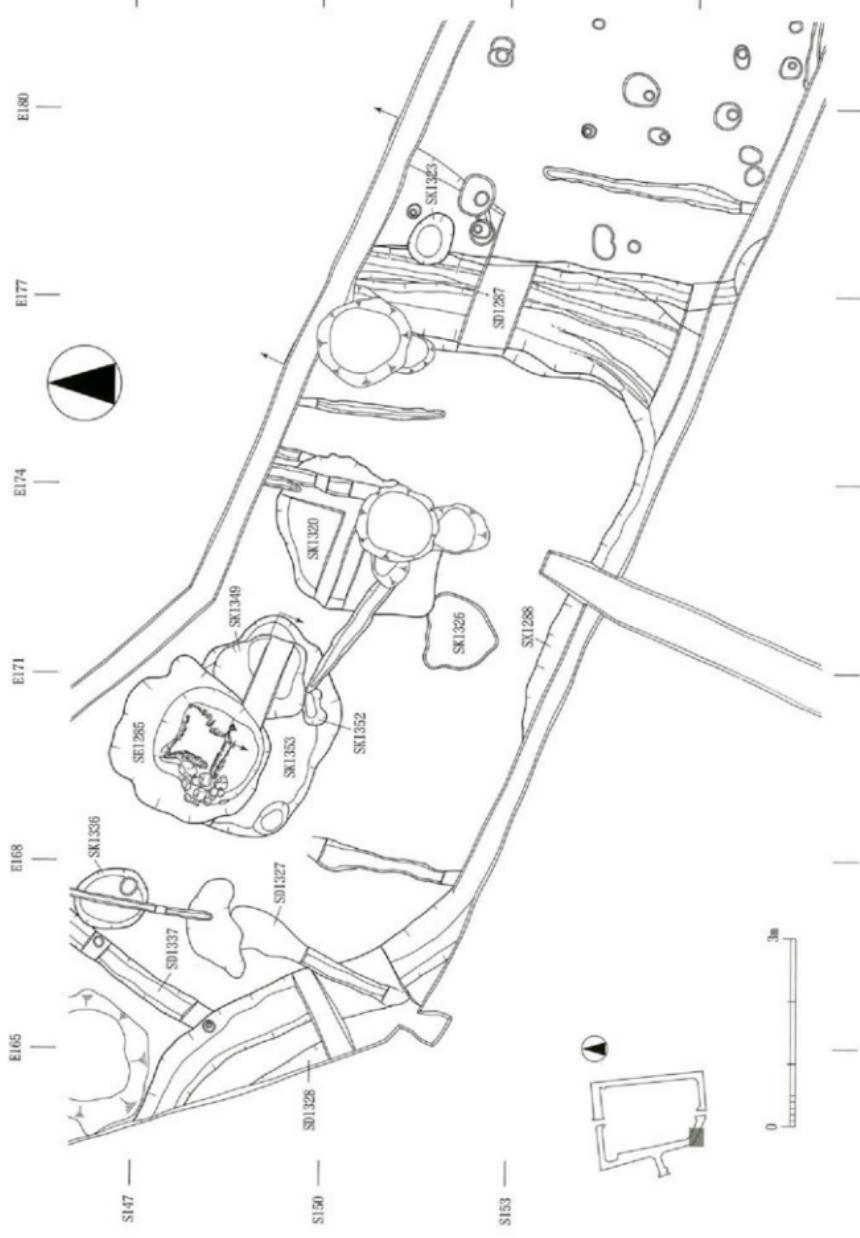


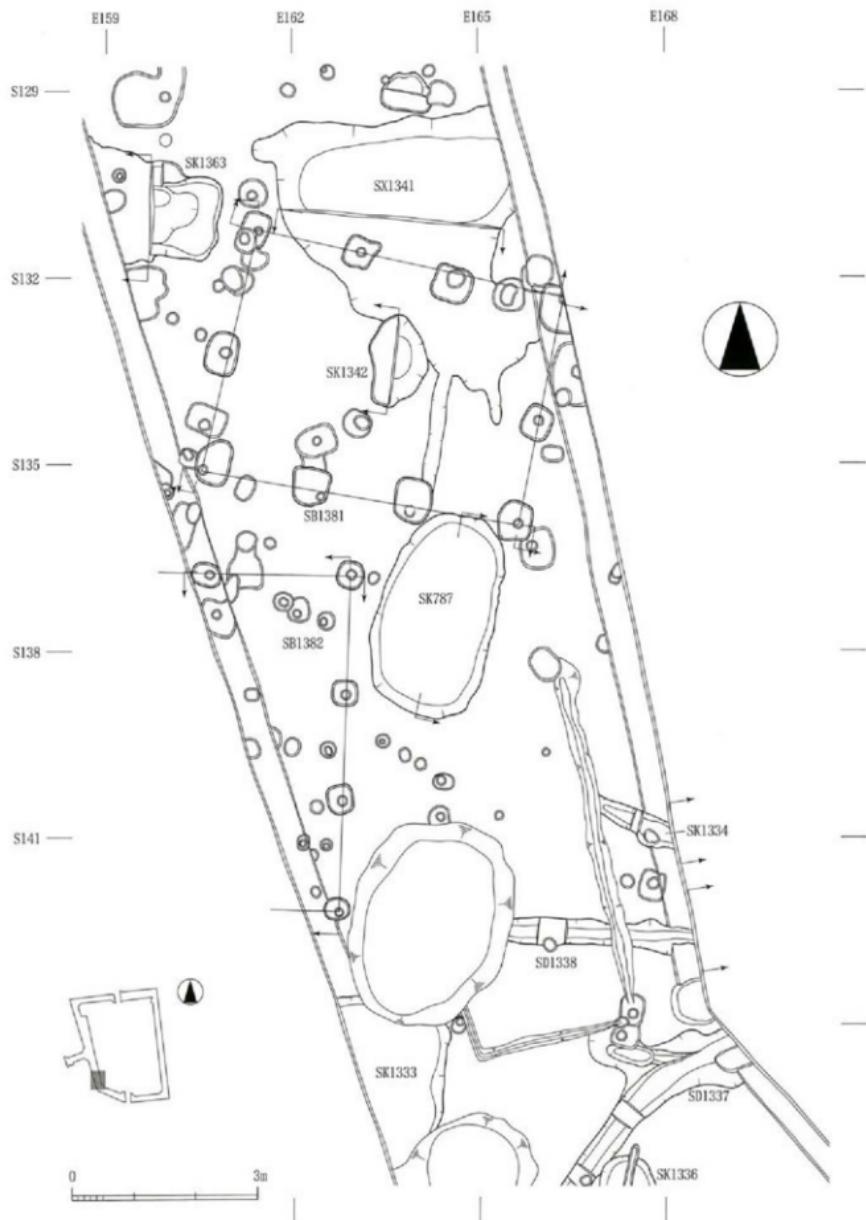
第91圖 23區遺傳測定區

第92圖 20區遺構實測圖(1)

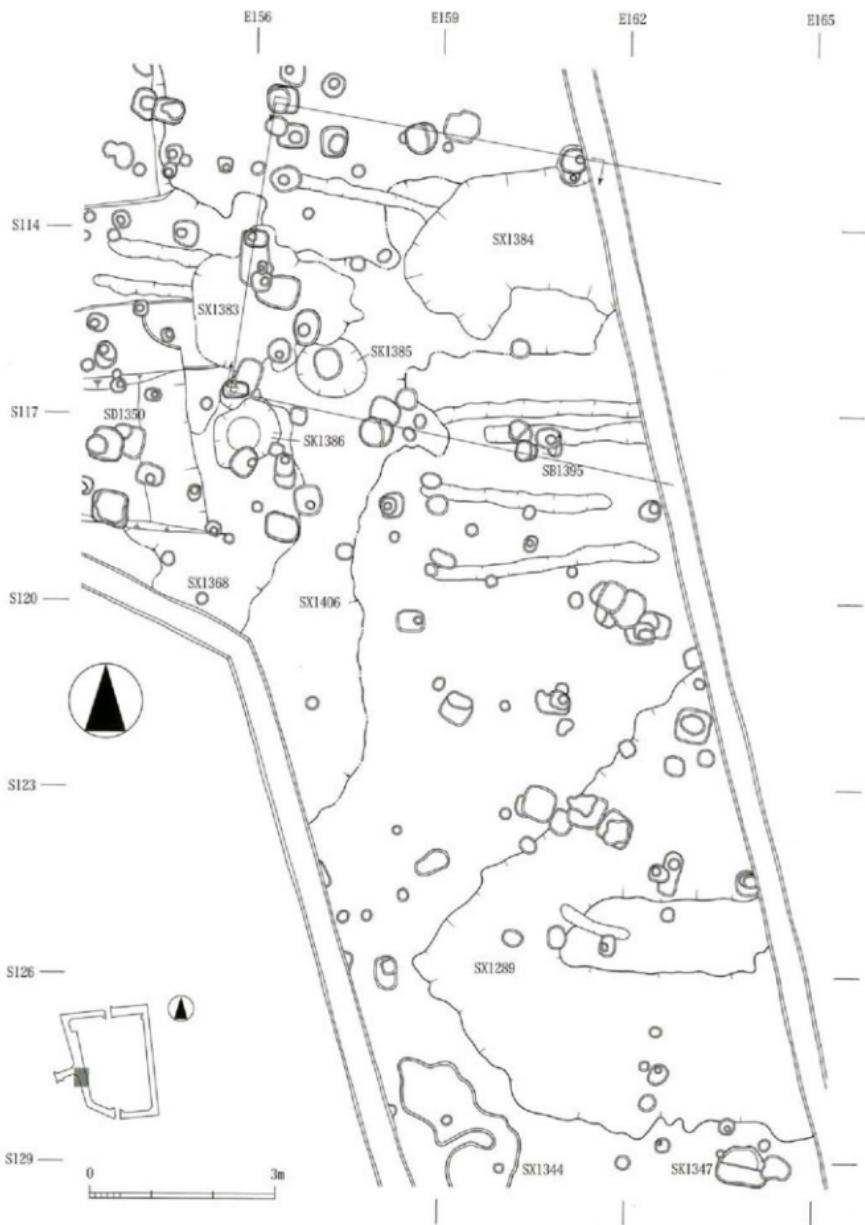


第93図 20区遺跡実測図(2)

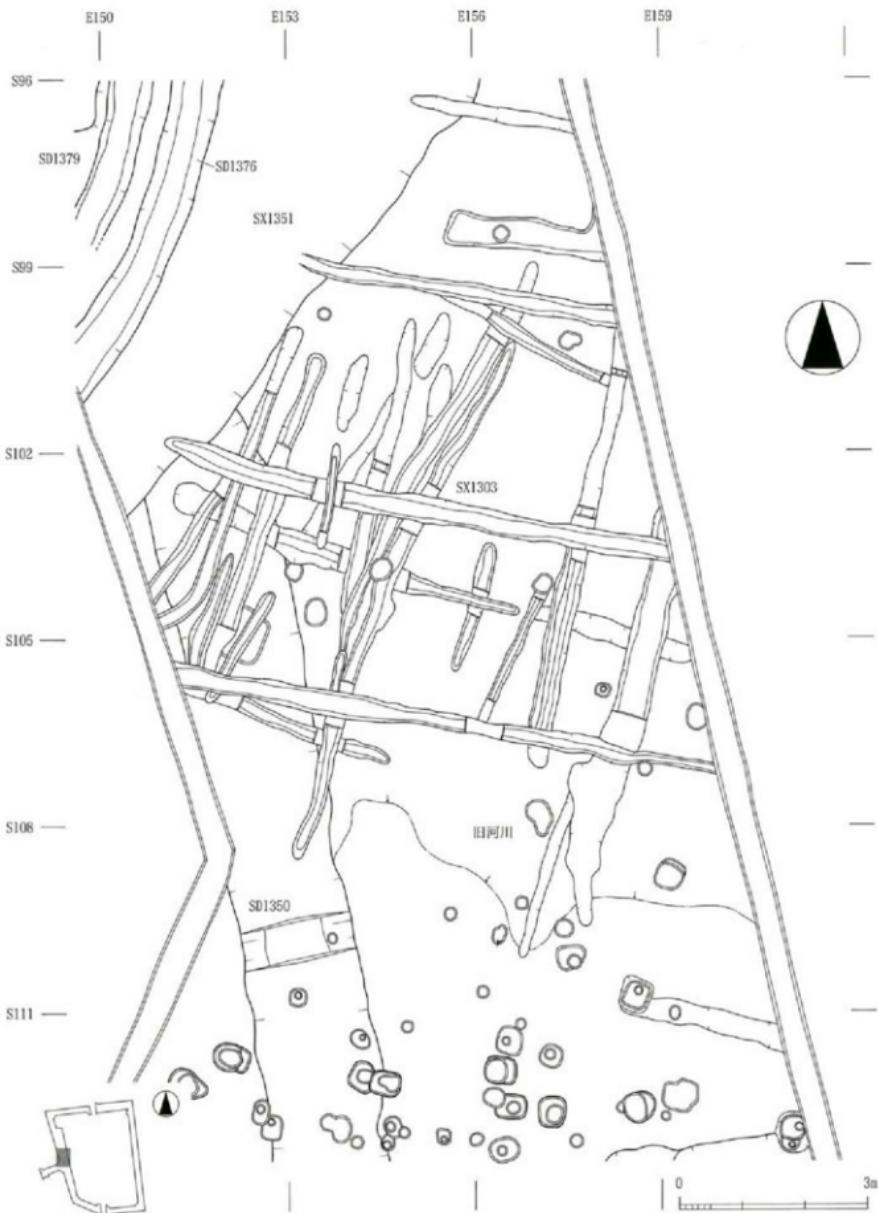




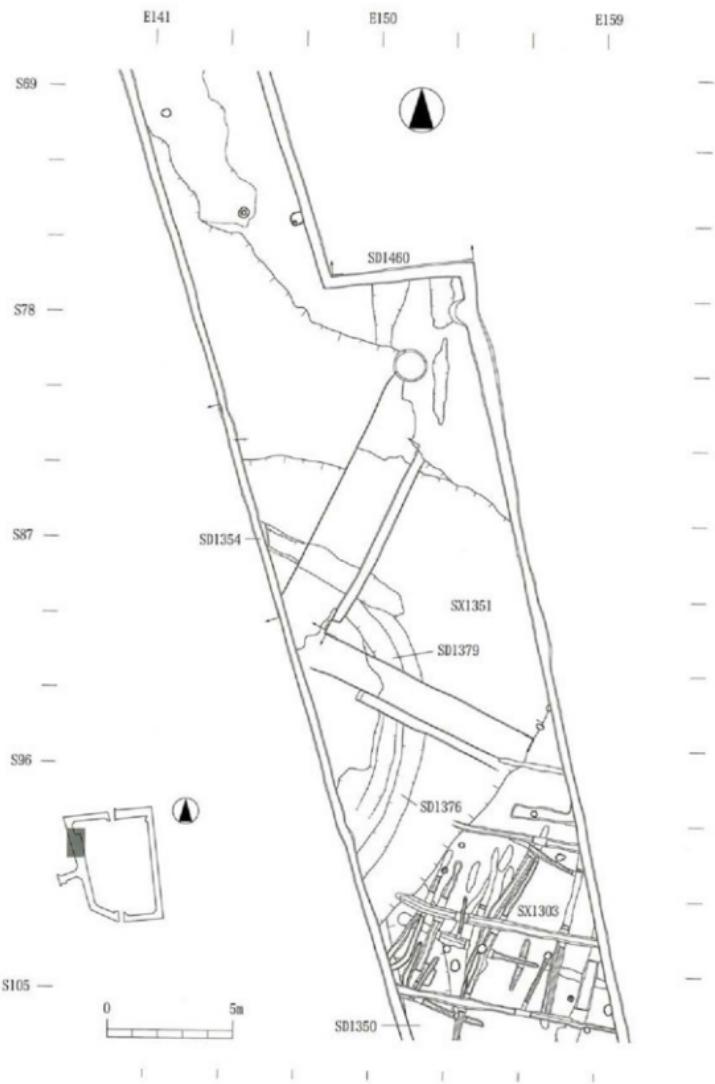
第94図 20区遺構実測図(3)



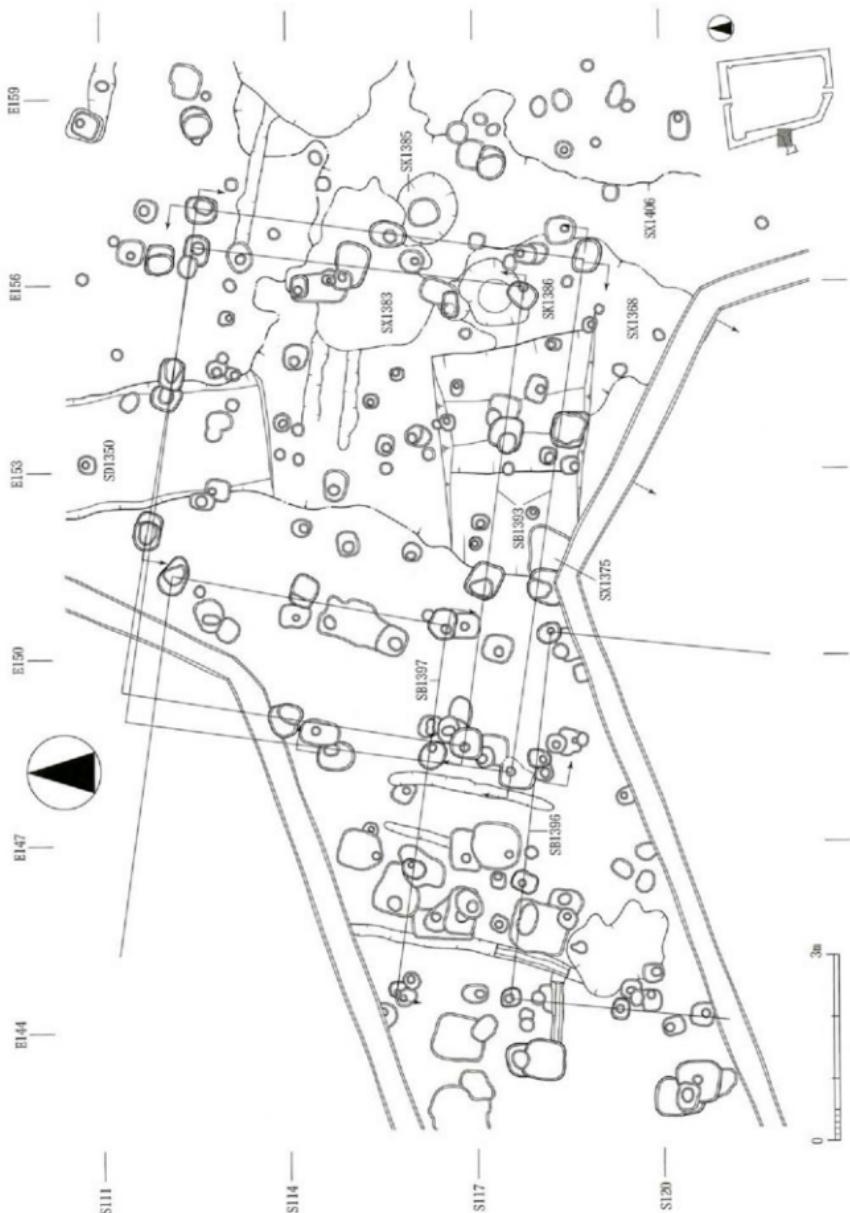
第95図 20区遺構実測図(4)



第96図 20区地質実測図(5)

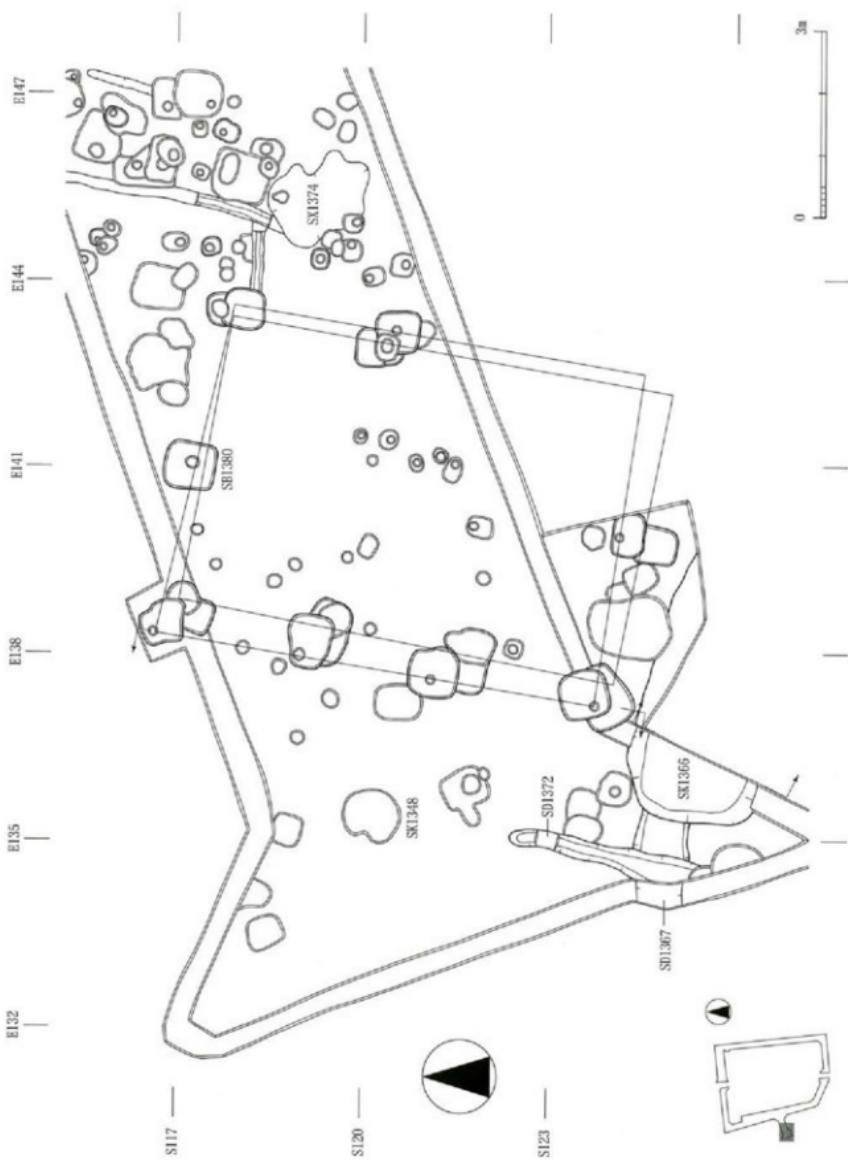


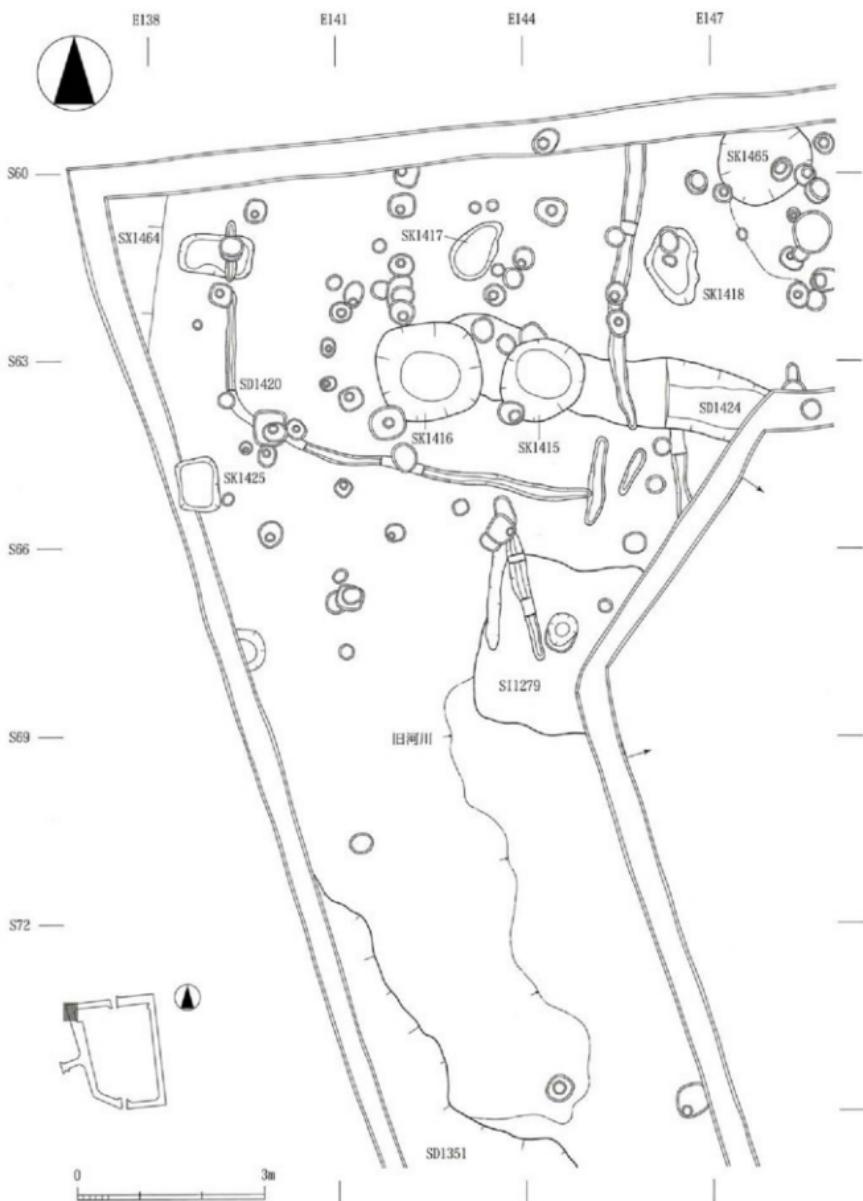
第97図 20区遺構実測図(6)



第38图 68区浦东某街坊(1)

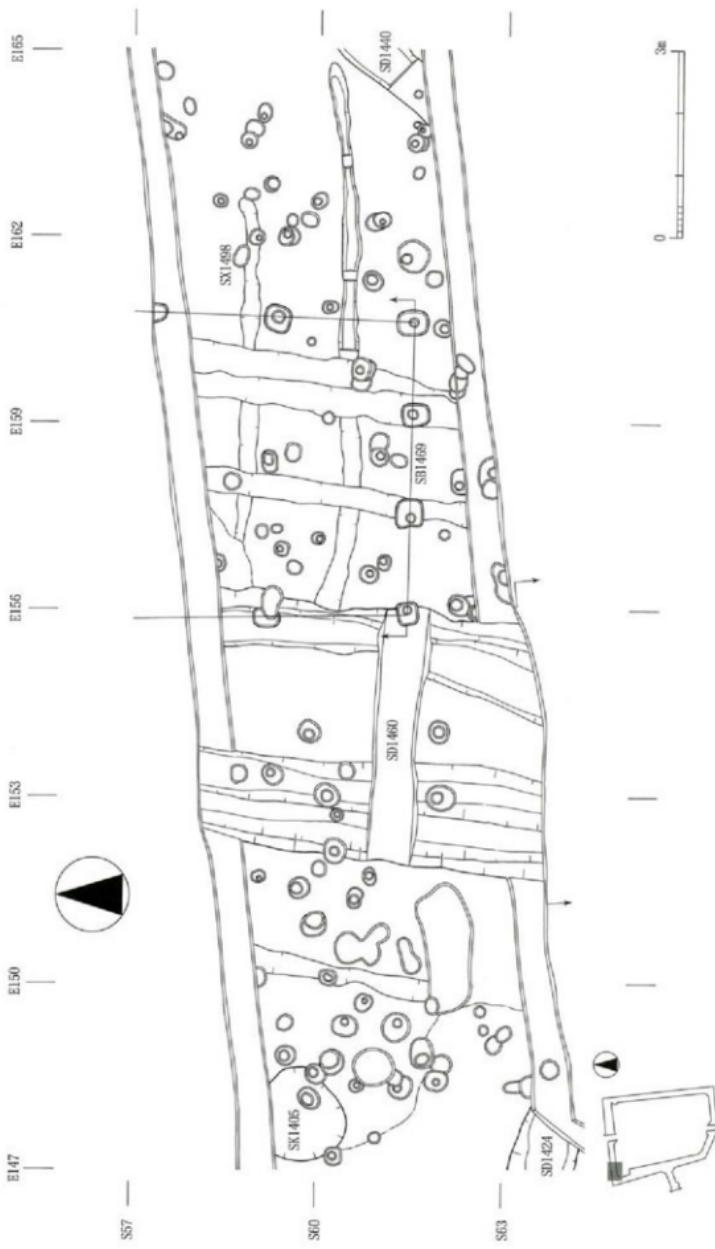
第99圖 68區遺構素測圖(2)

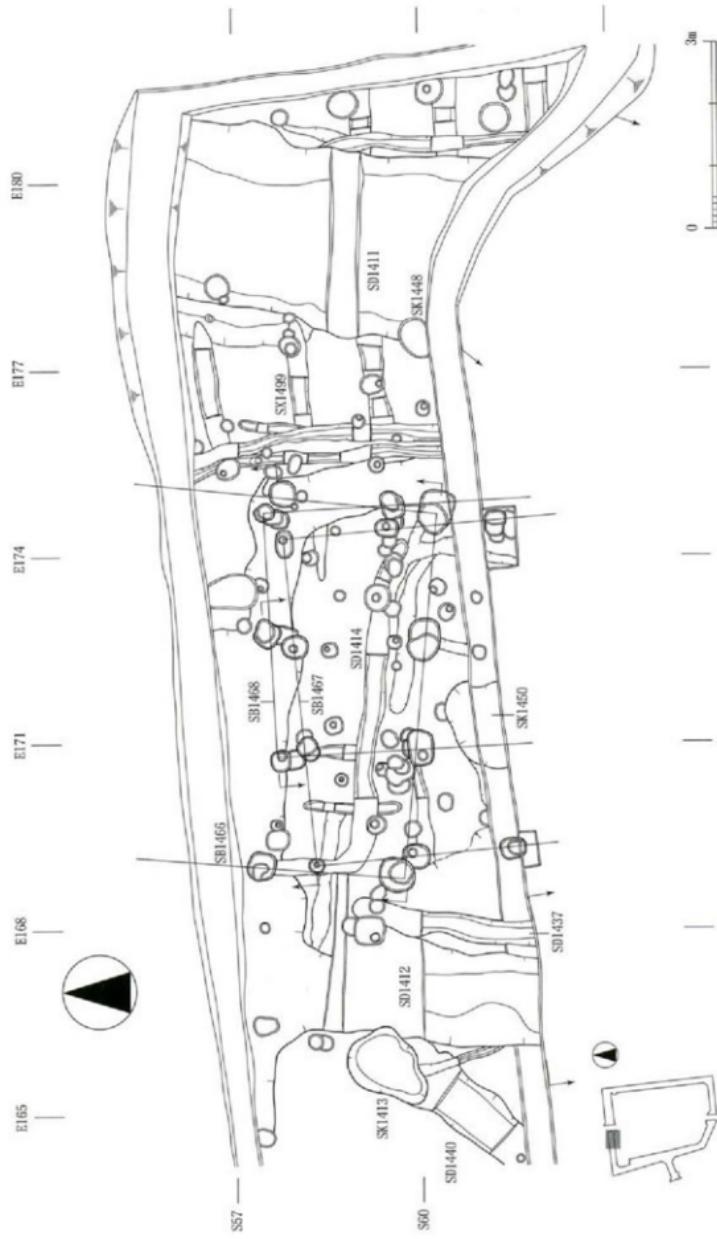




第100図 69区遺構実測図(1)

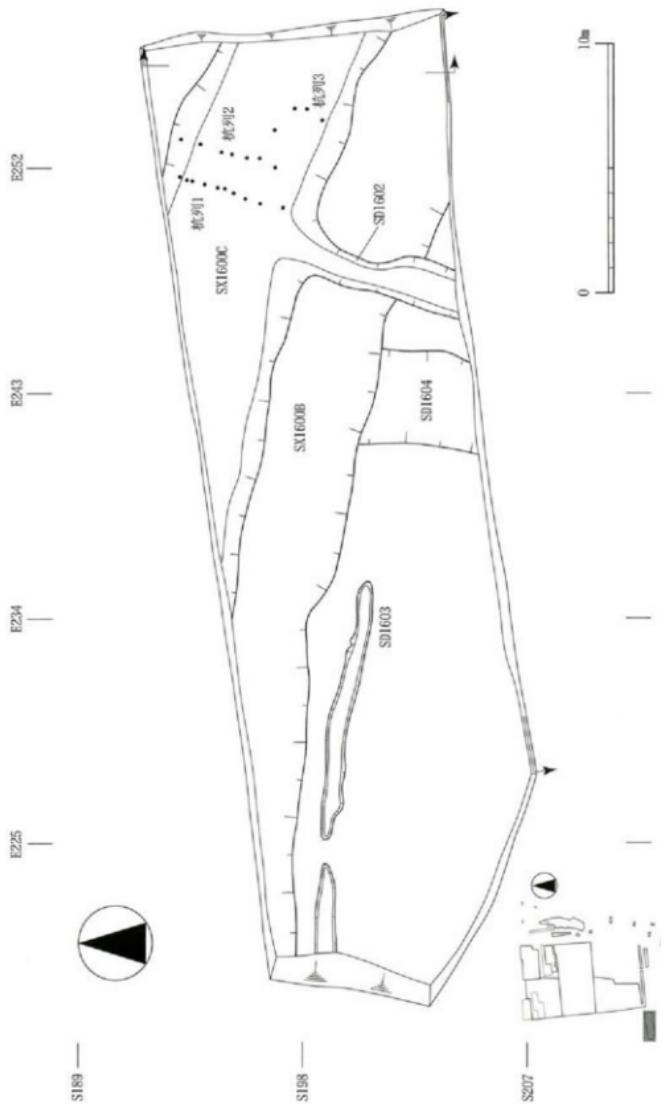
第101圖 69區遺傳變測圖(2)

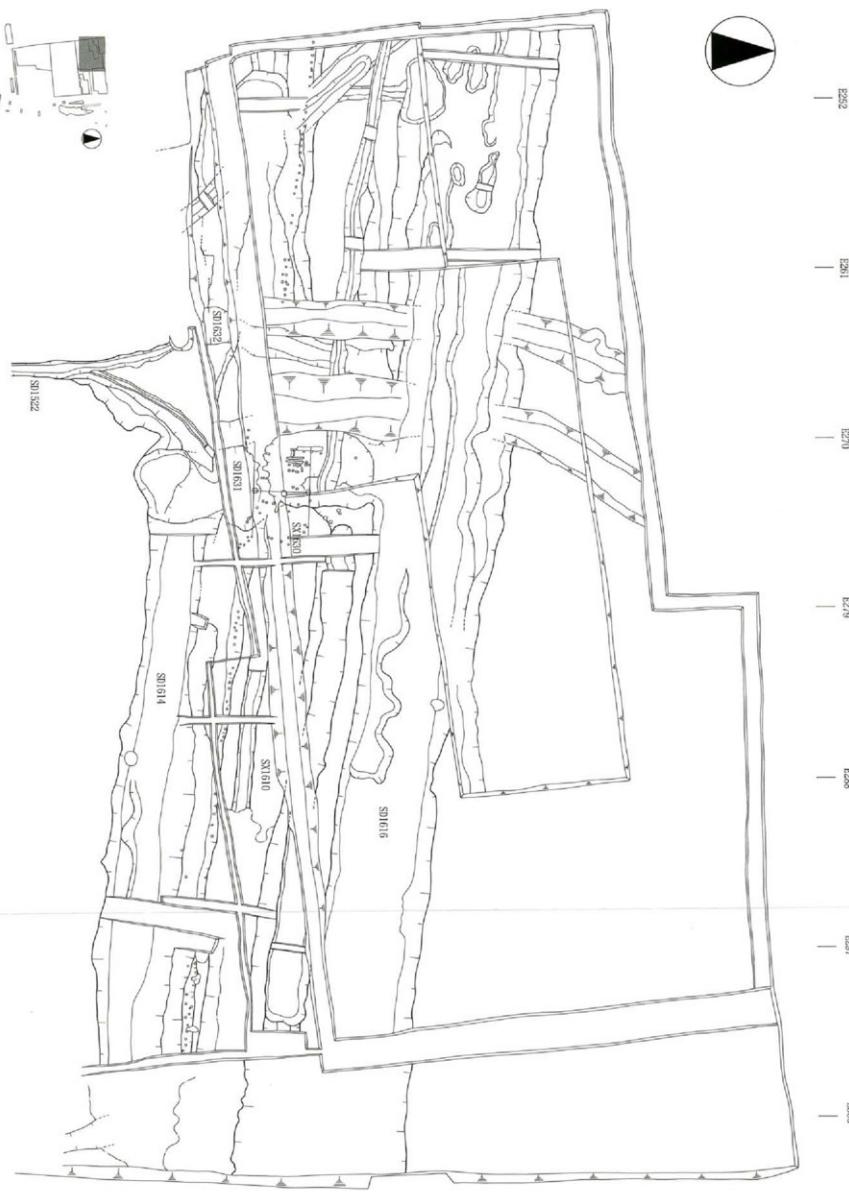




第102圖 69區地質素描圖(3)

第103圖 110區道路測量圖

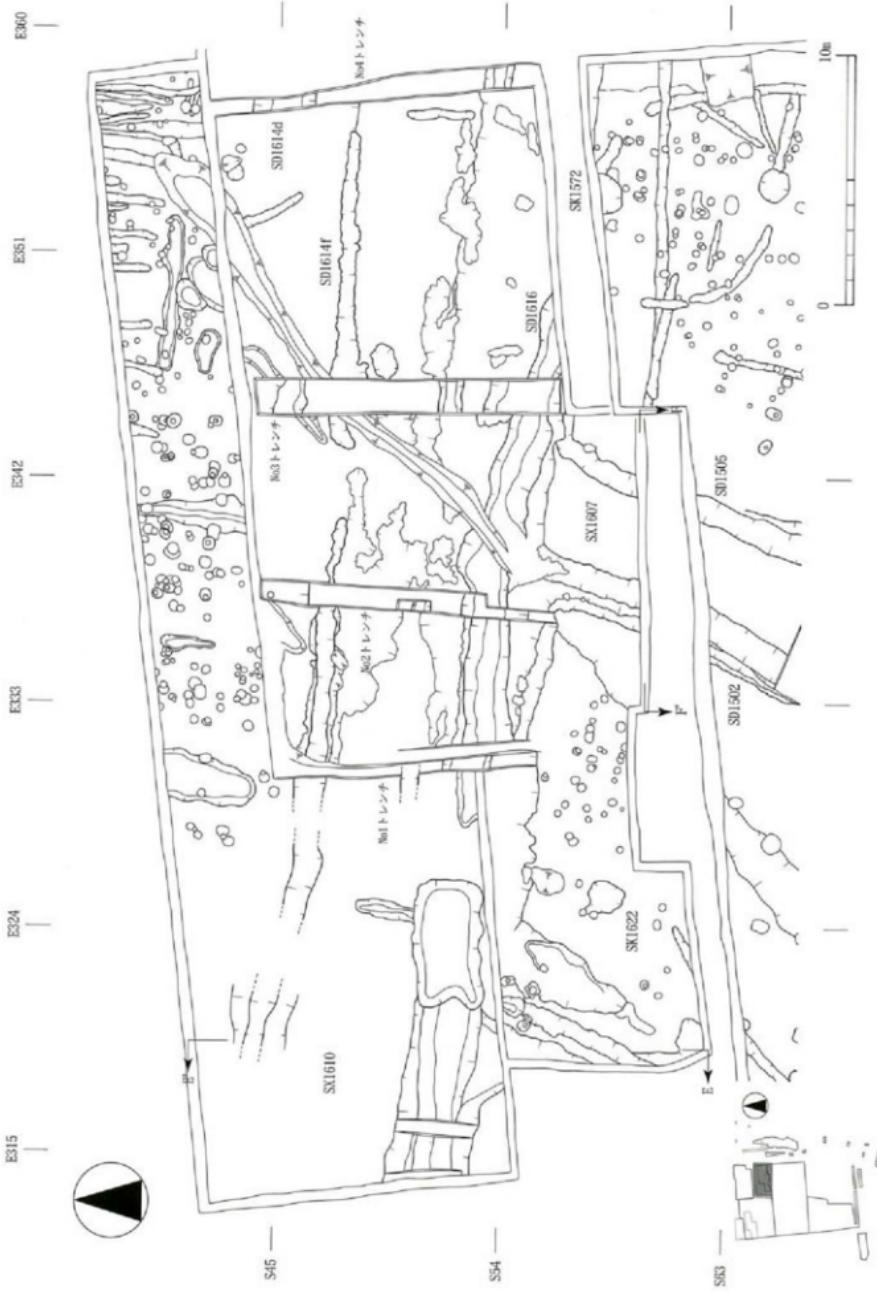






第105図 115区 S X 1630橋跡実測図

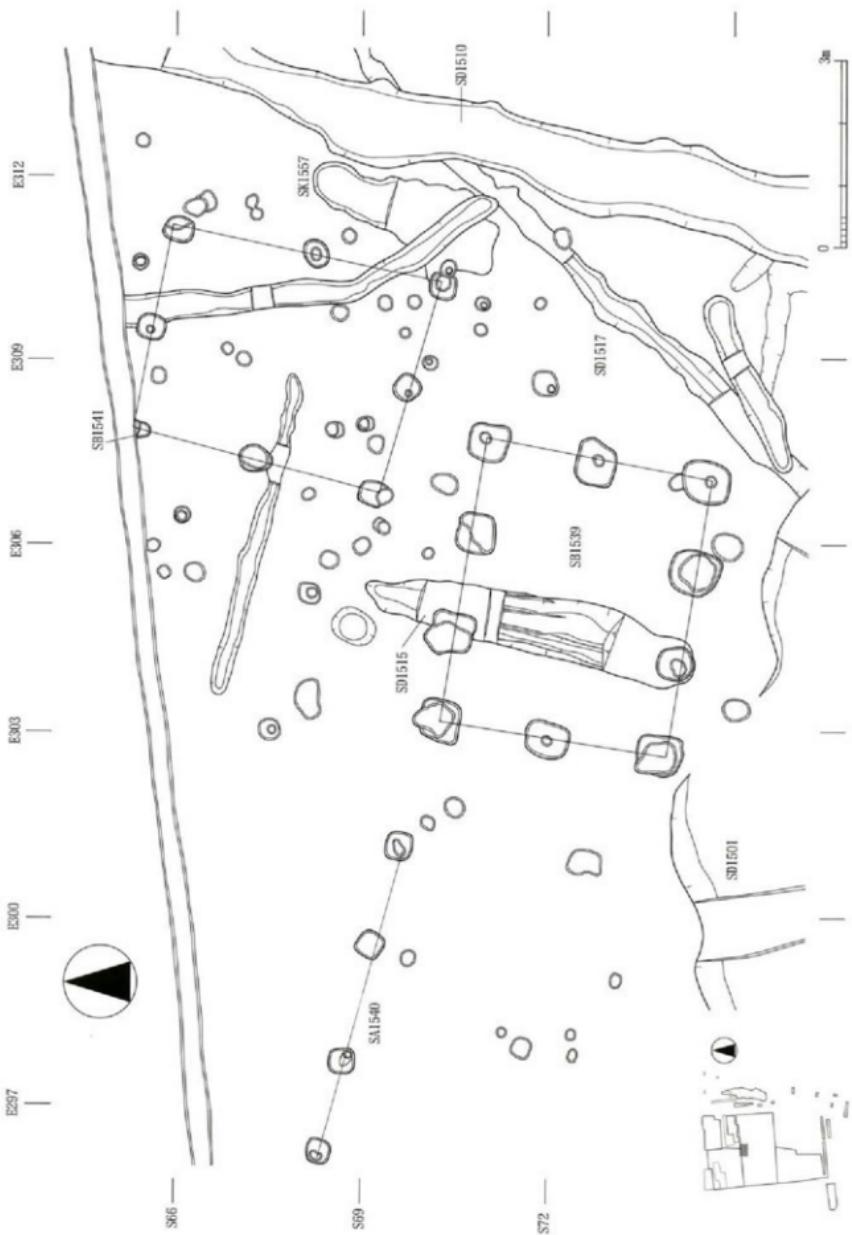
第106図 116区道構築測図

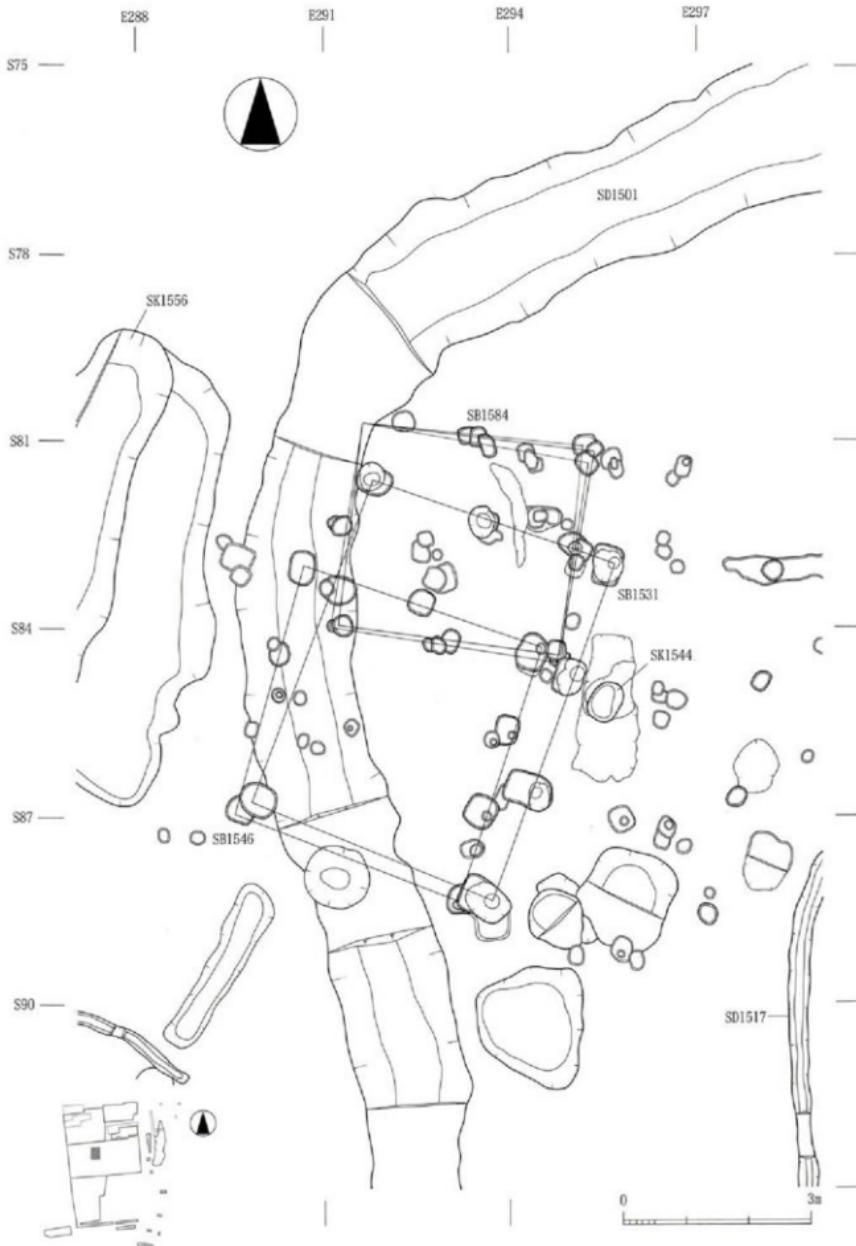




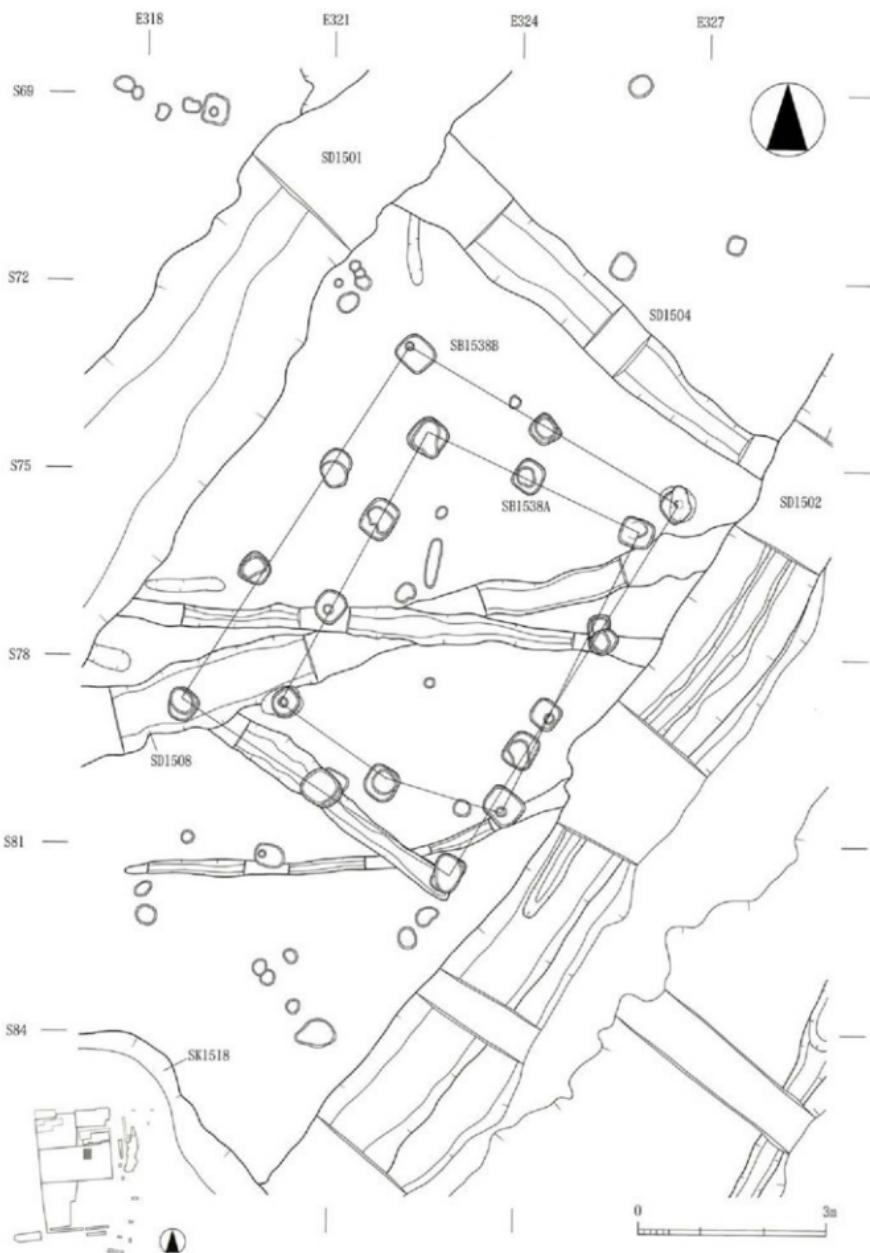
第107図 78区遺構実測図(1)

第106图 78区土壤剖面图(2)



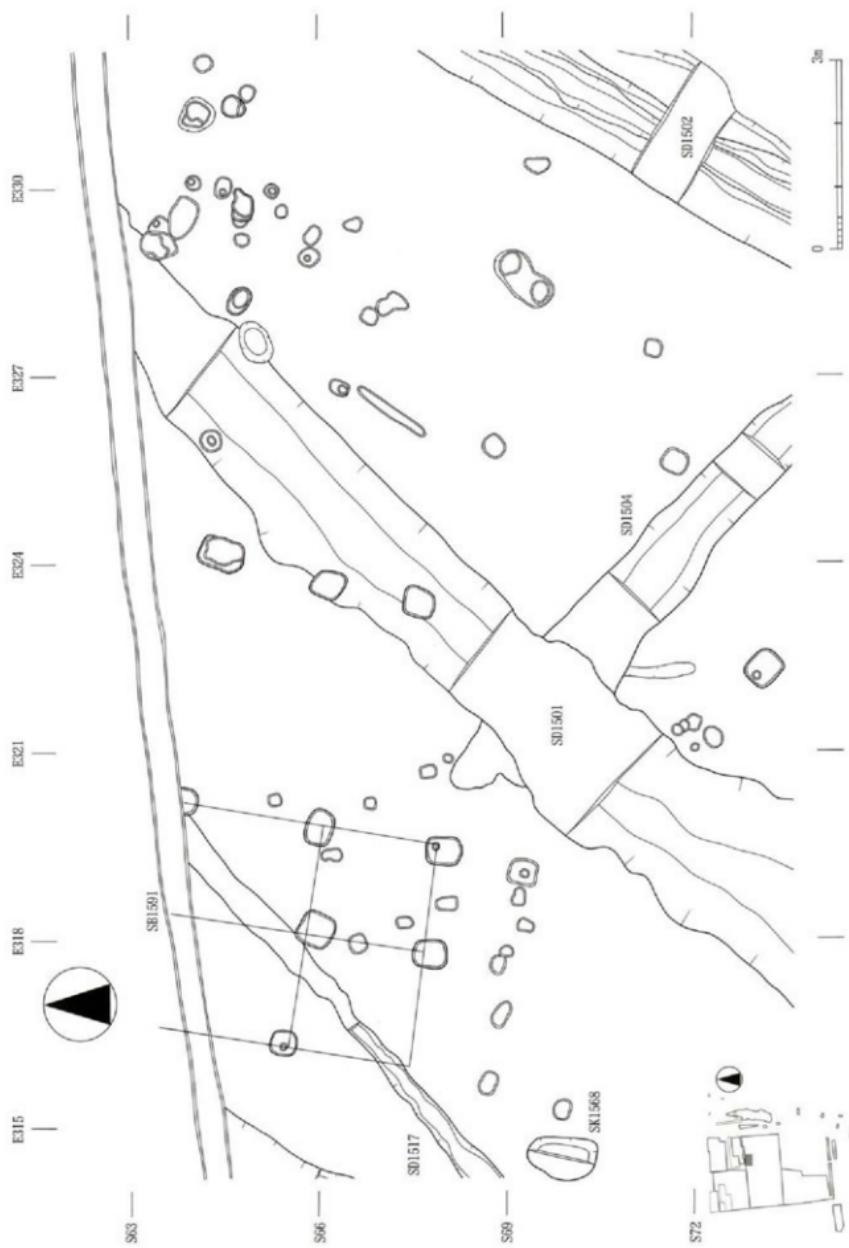


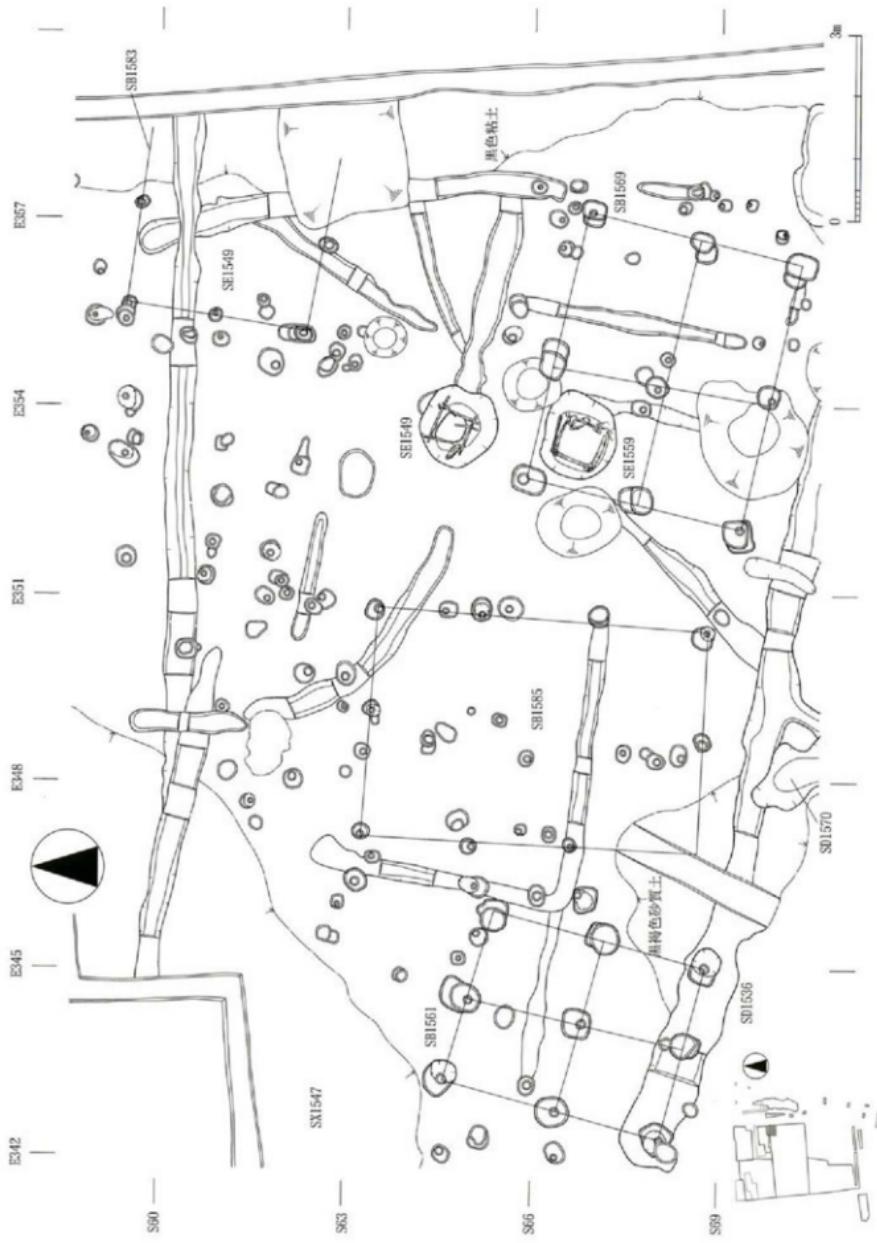
第109図 78区構造実測図(3)



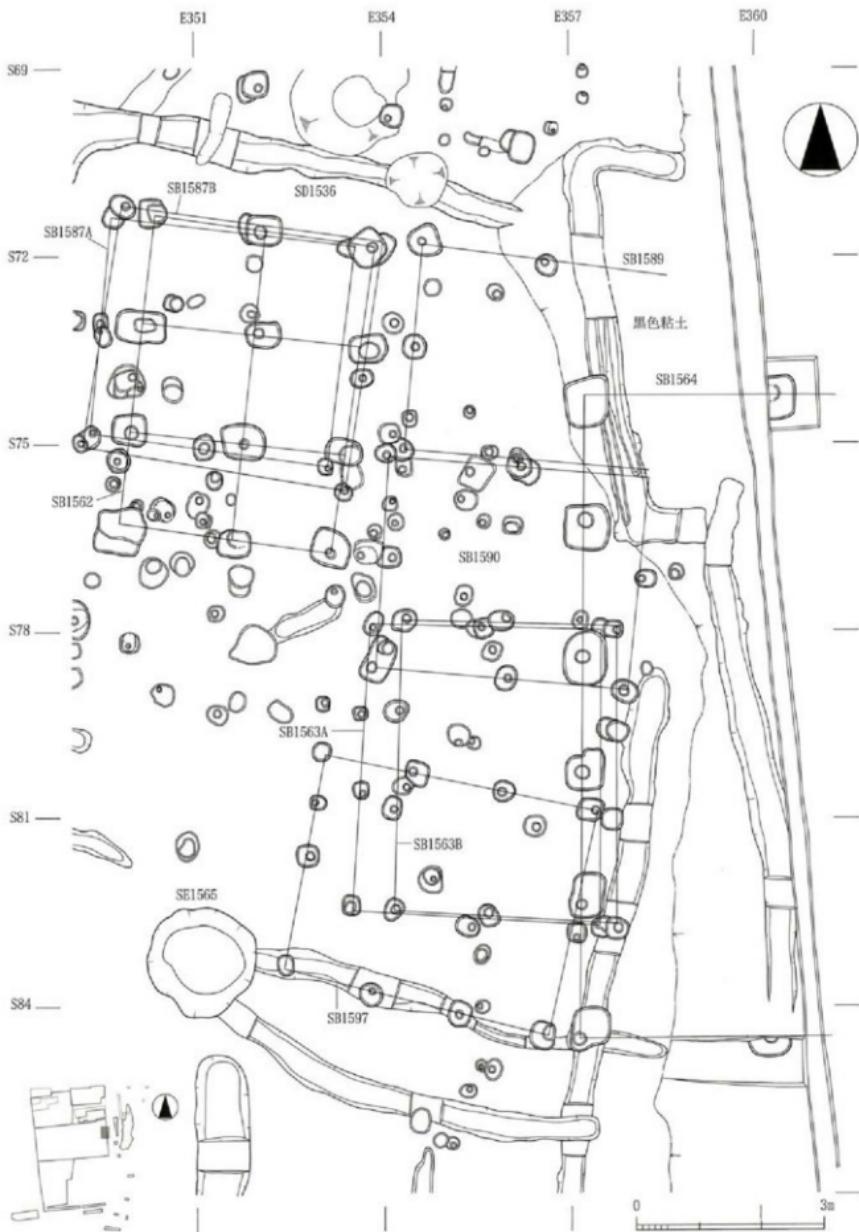
第110図 78区遺構実測図(4)

第111图 78区珊瑚实测图(5)

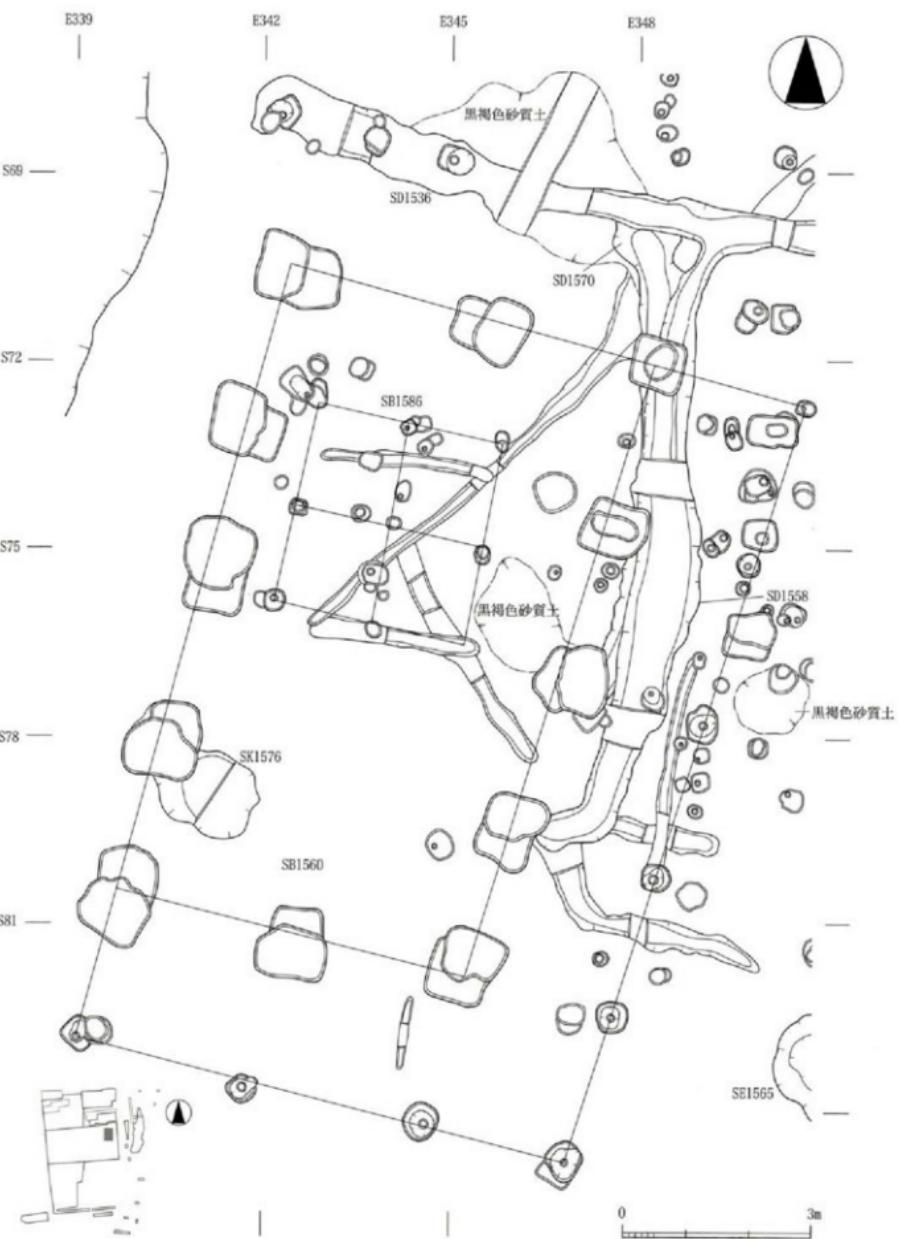




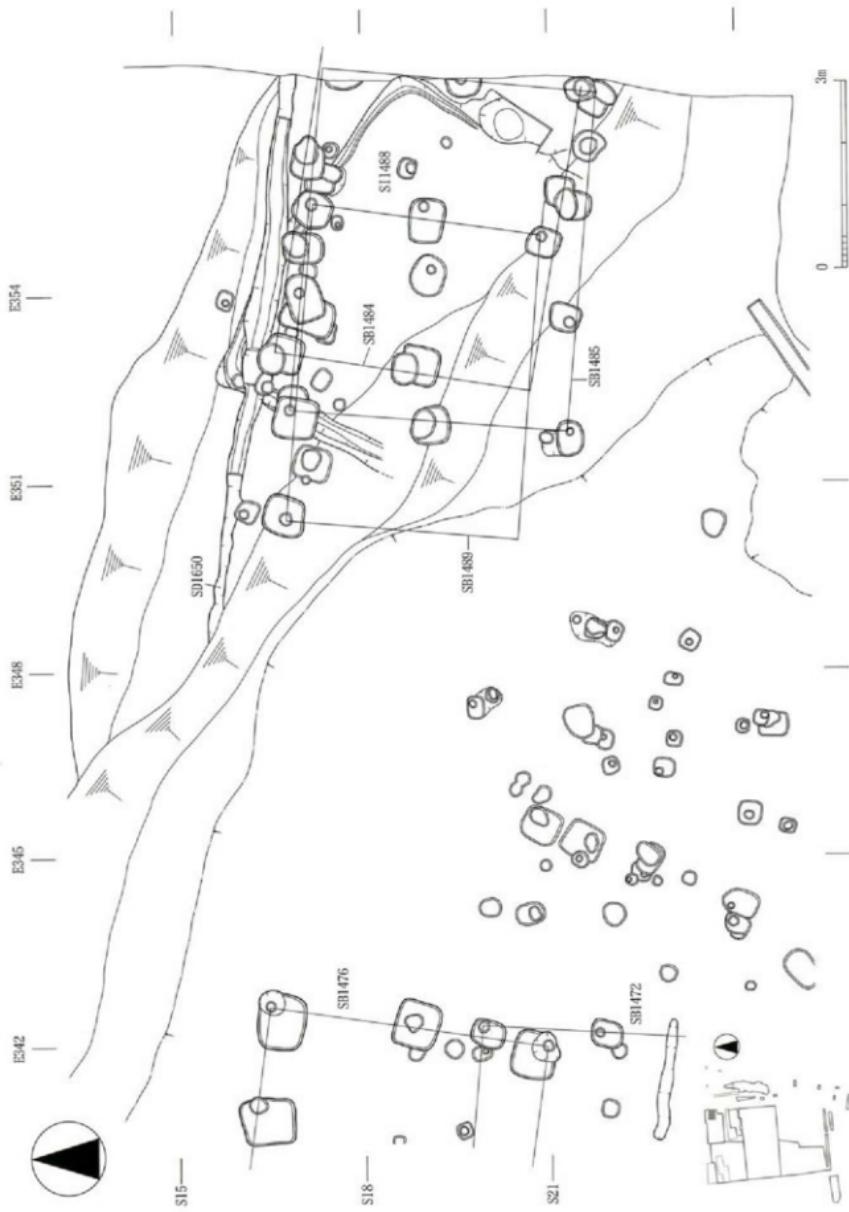
第112圖 78區遺構測圖(6)



第113図 78区遺構実測図(7)



第114図 78区遺構実測図(8)



第115图 79区勘探实测图(1)

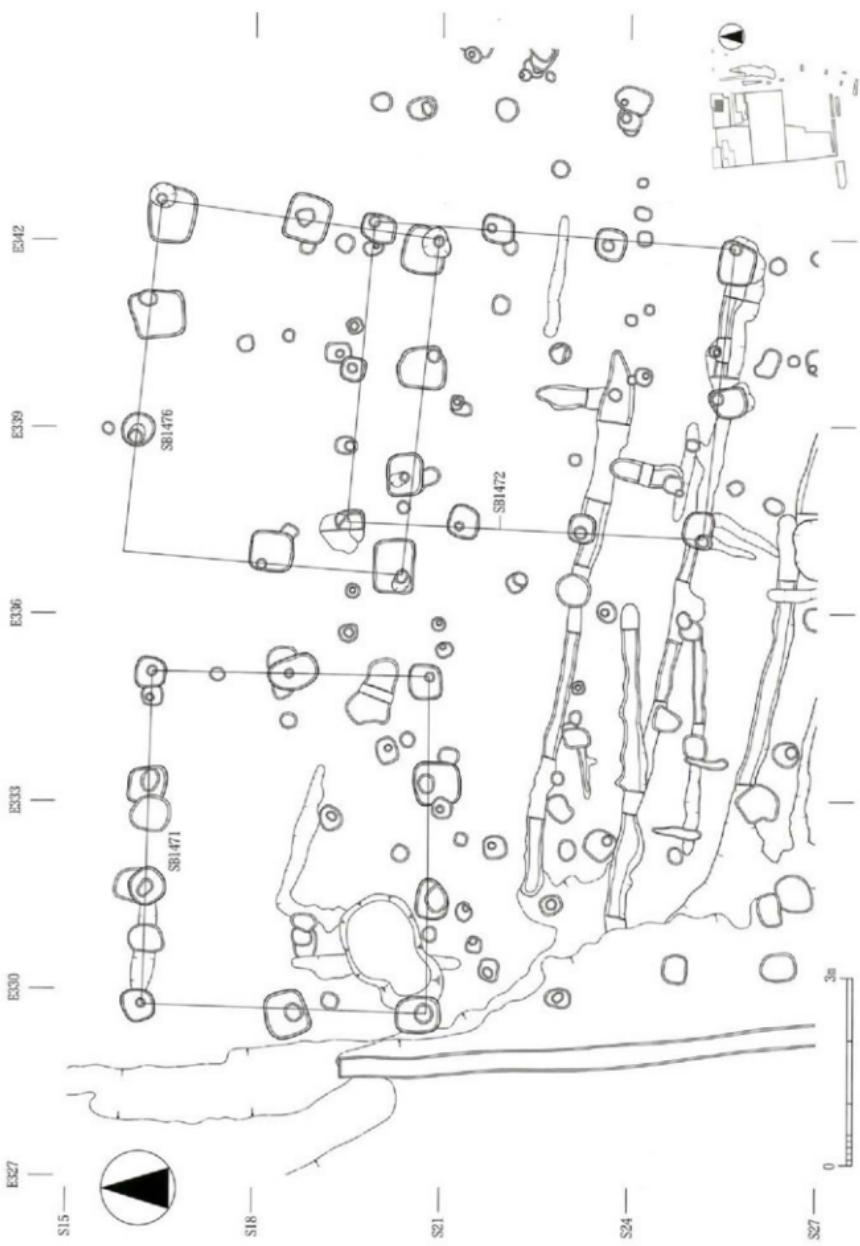
第116图 79区遗物实测图(2)

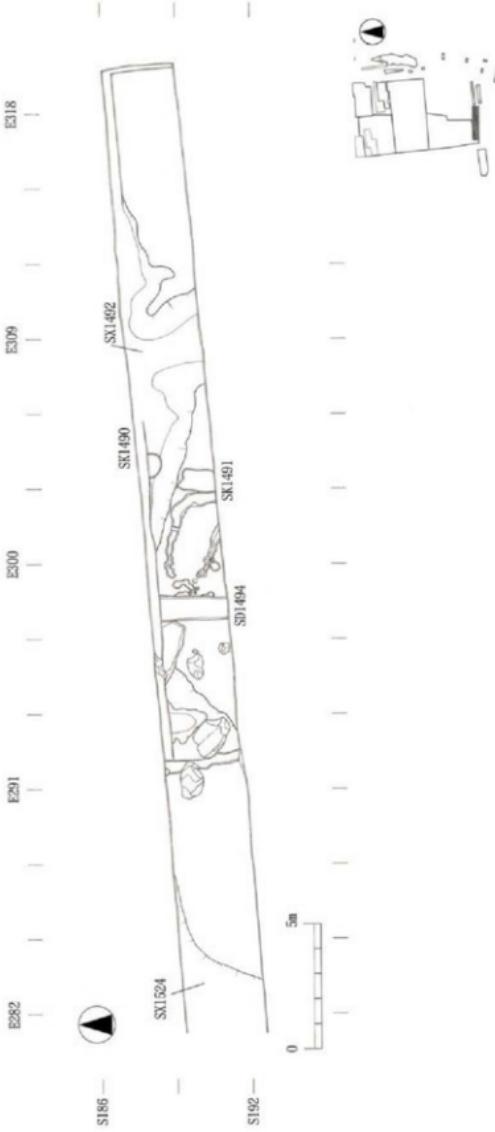


第117圖 79區遺構實測圖(3)

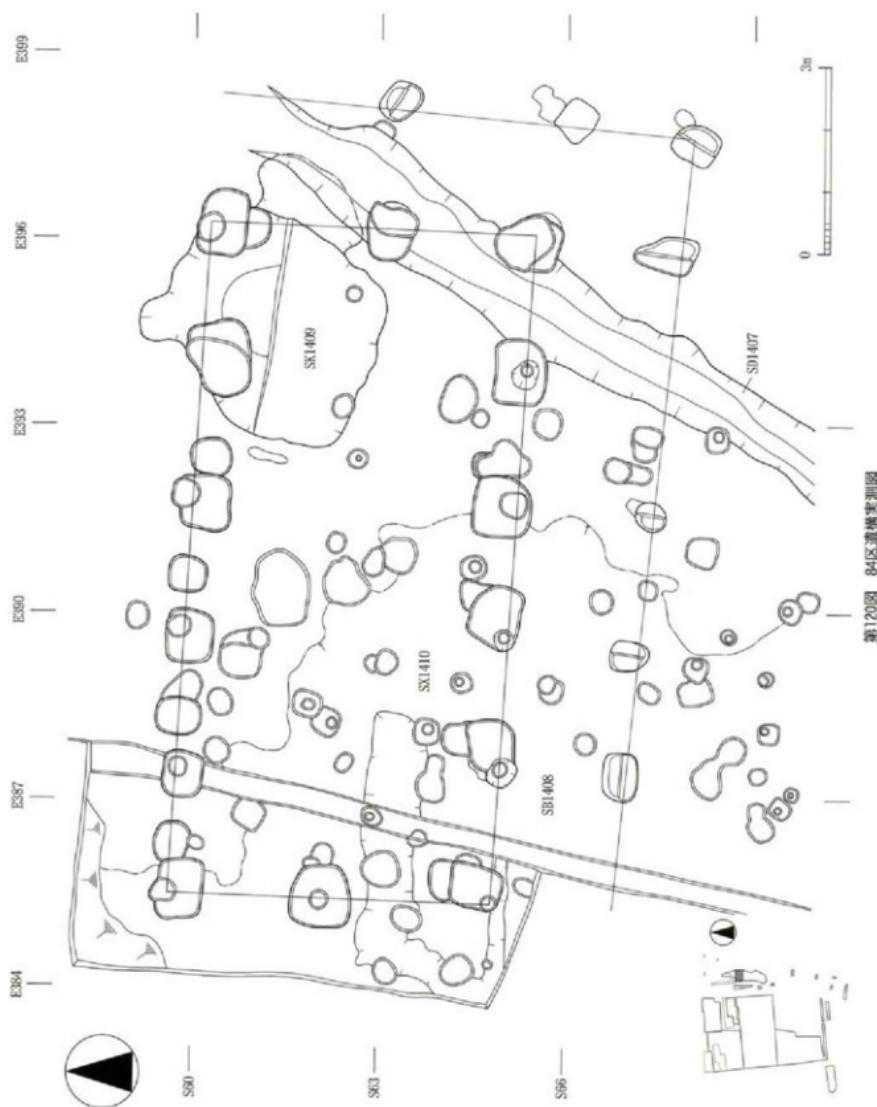


第118图 79区测深声测图(4)





第119図 70区測線測定図



第120图 84区煤层实测图

第121図 112区測量測量図

E378

E369

E360

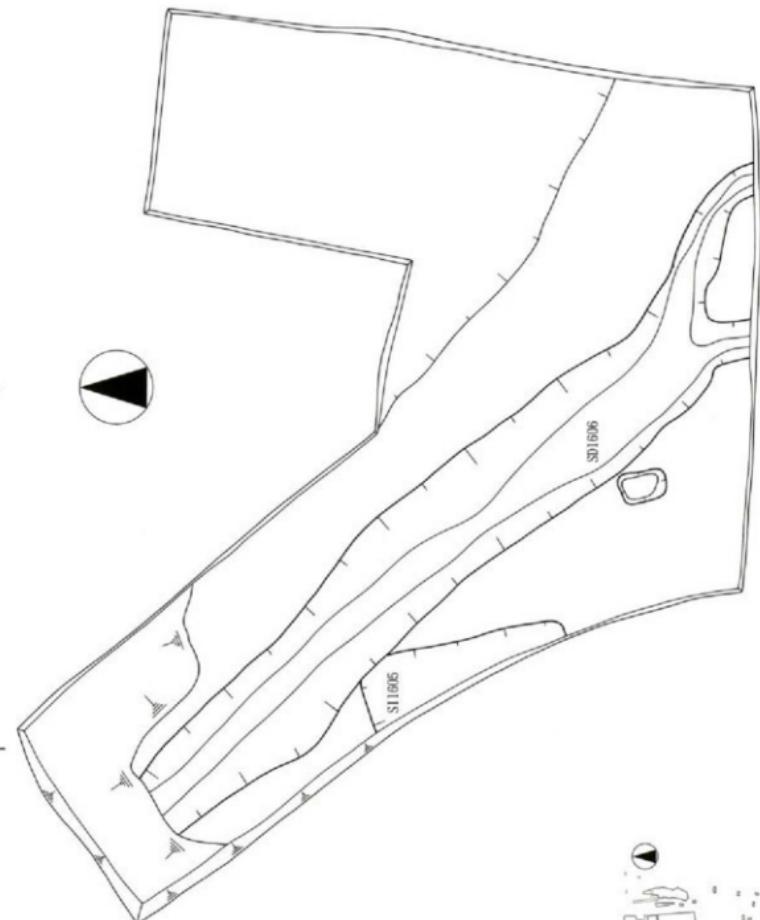
S279 —

S268 —

S21605

S11606

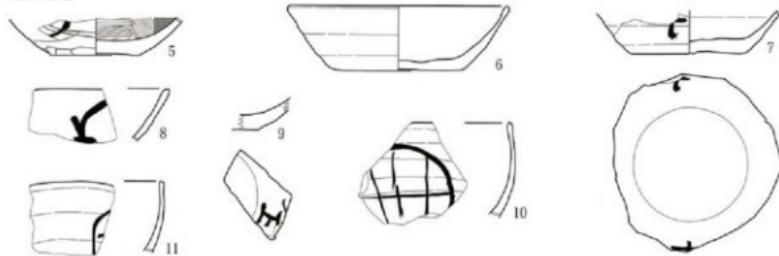
1:500
0



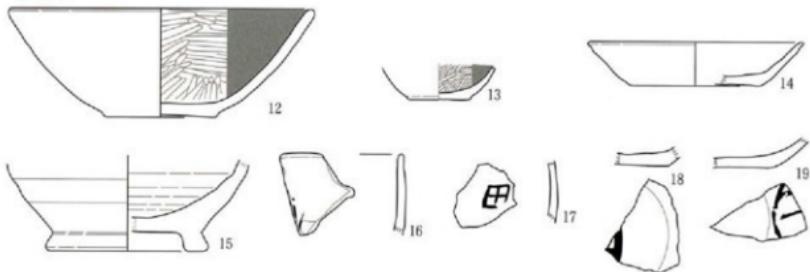
SD782c



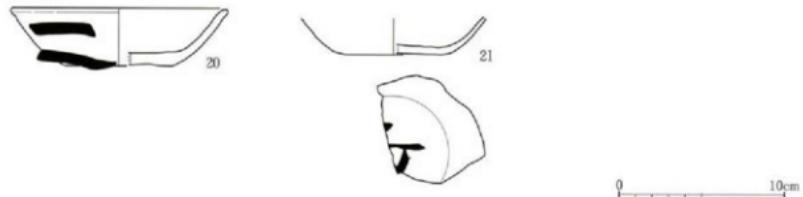
SD782 d



SD782e



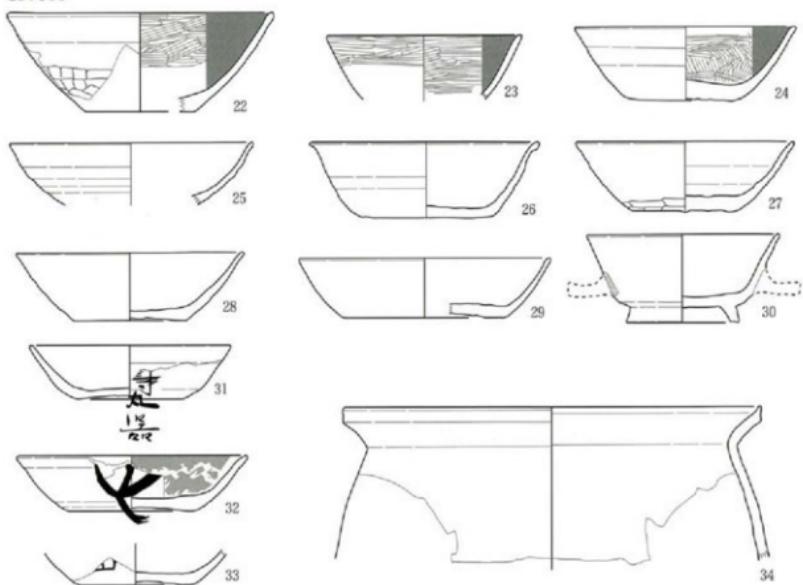
SD781b



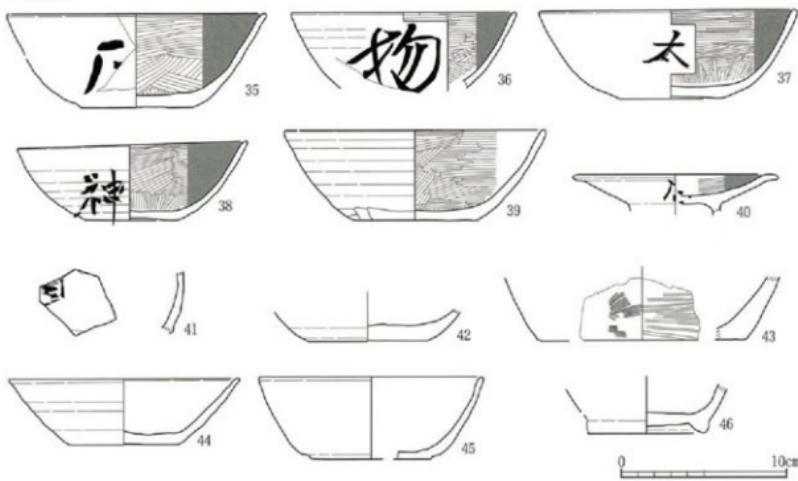
0 10cm

第122図 出土遺物実測図（土器1）

SD781c

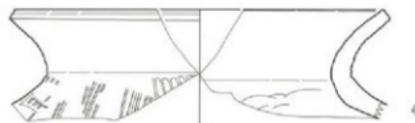


SD781e

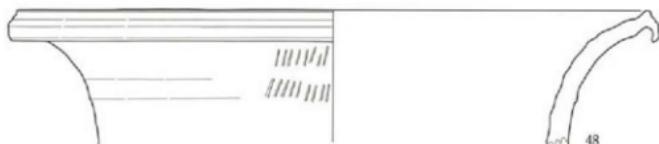


第123図 出土遺物実測図（土器 2）

SD781e



47

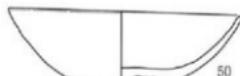


48

SD1188



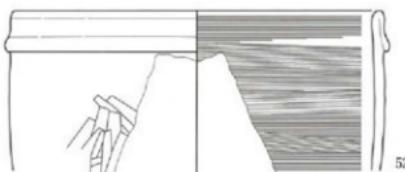
49



50



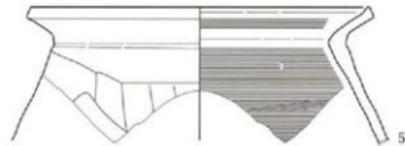
51



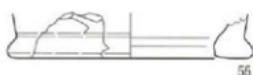
52



53



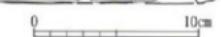
54



55



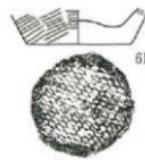
第124図 出土遺物実測図（土器 3）



SD1191



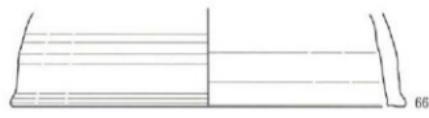
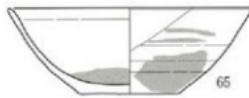
SD1189



SI1281

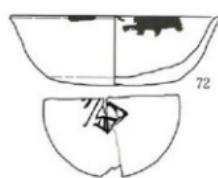
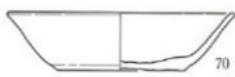
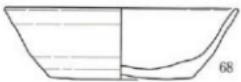
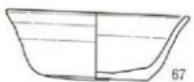


SE1174

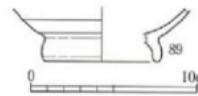
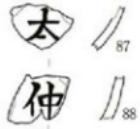
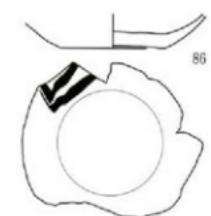
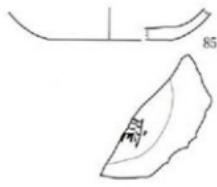
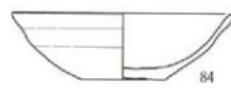
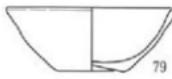
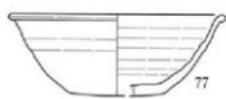


第125図 出土遺物実測図（土器 4）

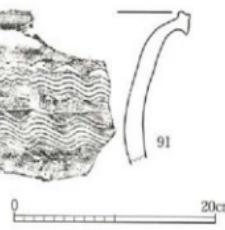
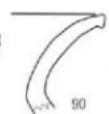
SE1217



SE1285



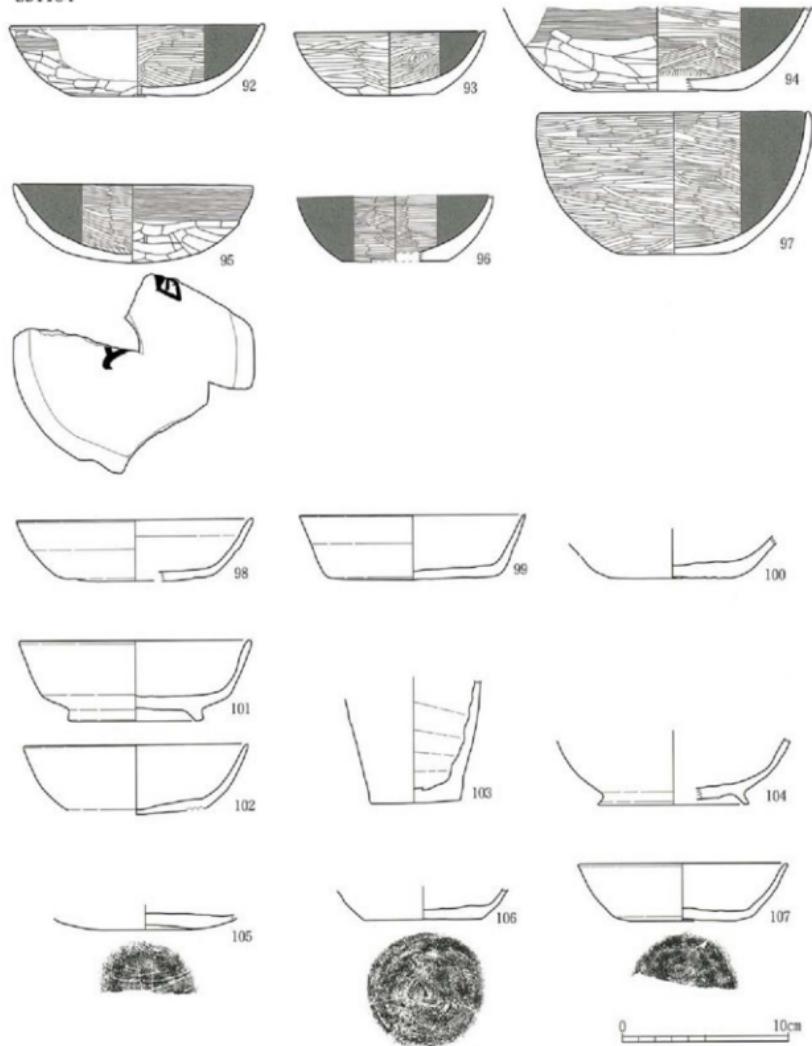
0 10cm



0 20cm

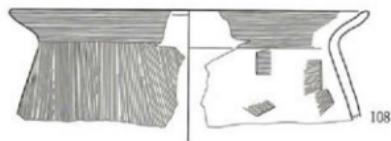
第126図 出土遺物実測図（土器 5）

SD1184

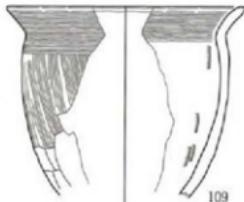


第127図 出土遺物実測図（土器 6）

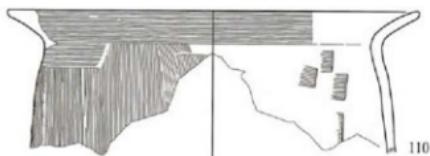
SD1184



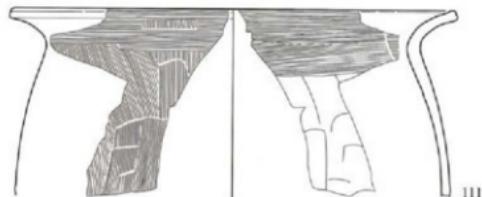
108



109



110



111

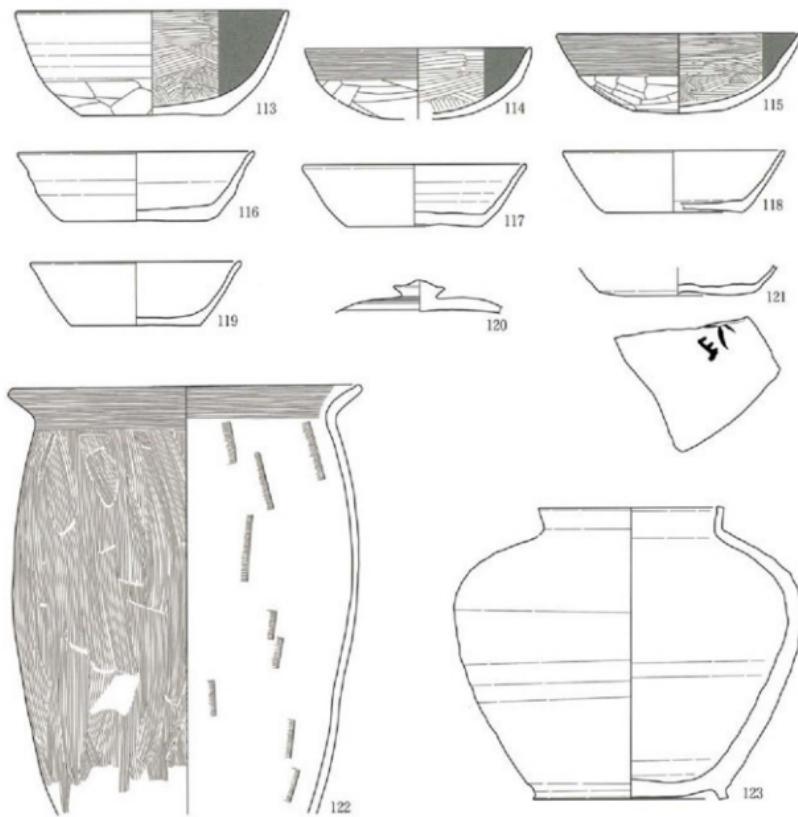


112

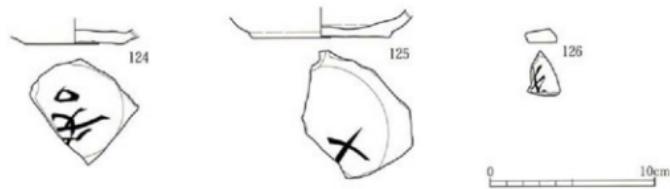


第128図 出土遺物実測図（土器 7）

SD1185

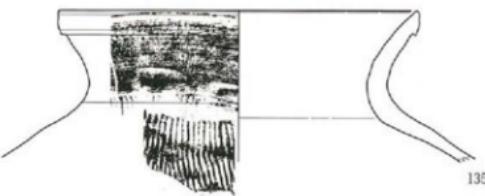
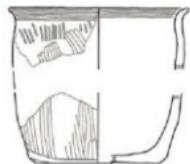
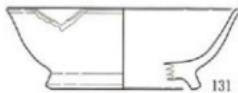
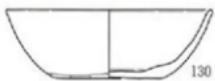
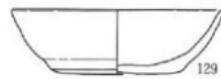
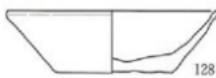
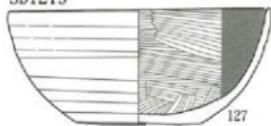


SD1300

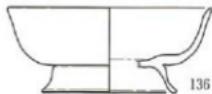


第129図 出土遺物実測図（土器 8）

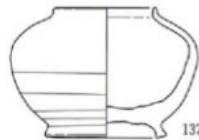
SD1219



SD1233



SD1238



第130図 出土遺物実測図（土器 9）

SD1240



141



142



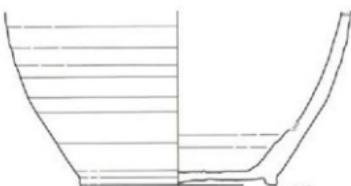
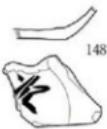
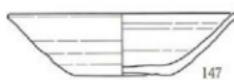
143



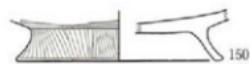
144



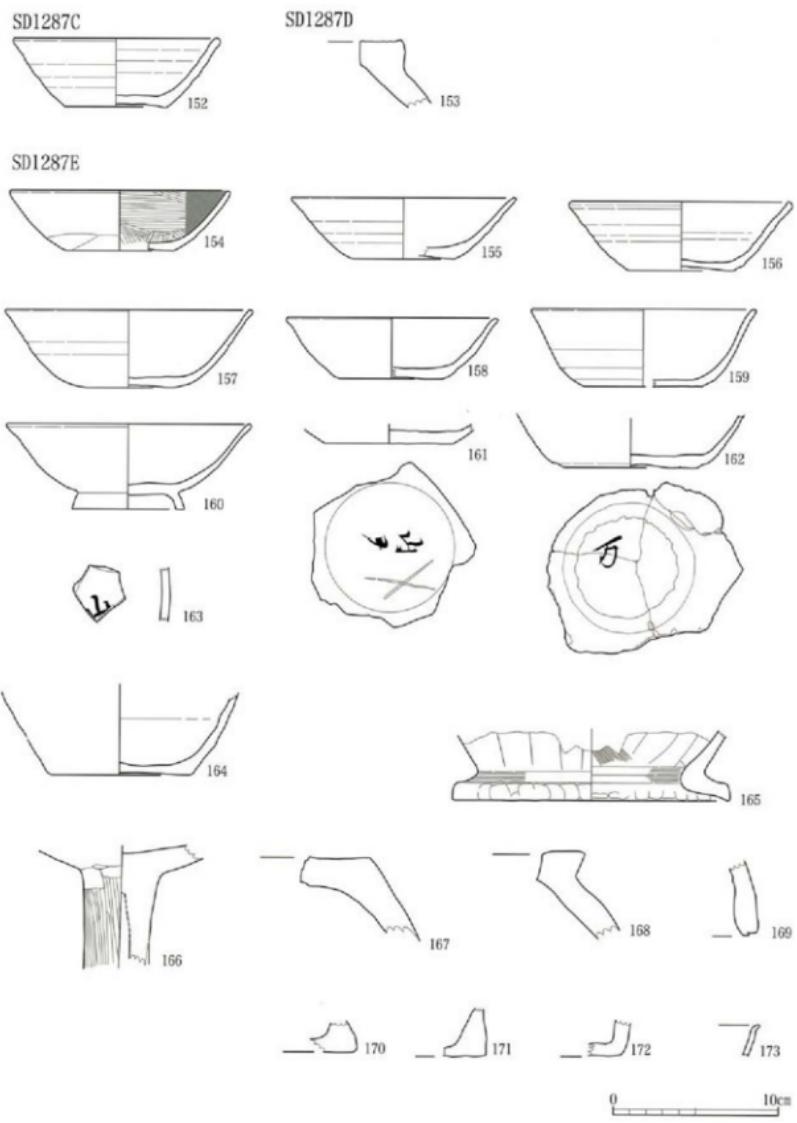
SD1239



SD1207

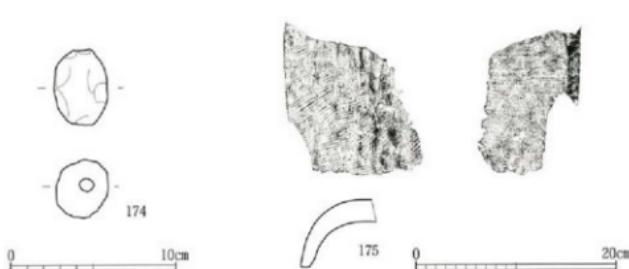


第131図 出土遺物実測図（土器10）

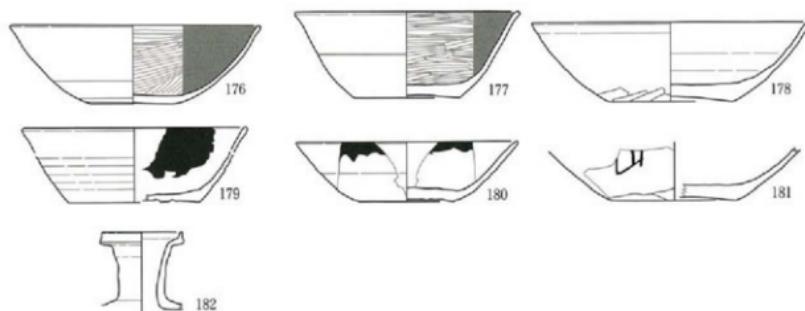


第132図 出土遺物実測図（土器11）

SD1379



SD1376

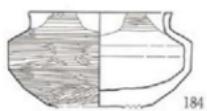


SD1411



第133図 出土遺物実測図（土器12）

SK1176



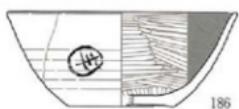
184

SK1213



185

SK1215



186



187



188

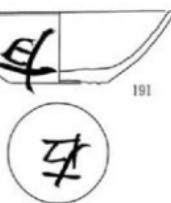
SK1223



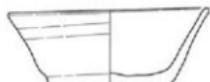
189



190



191



192



193



第134図 出土遺物実測図（土器13）

SK1292



194

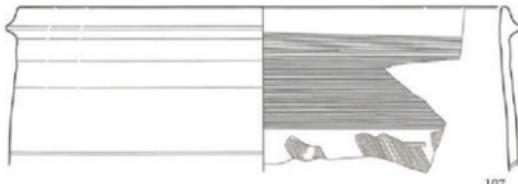


195

SK1307



196



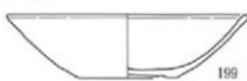
197

SK1306



198

SK1323



199

SK787



200



201

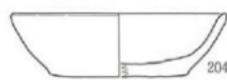


202

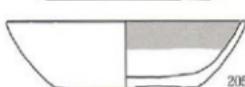
SK1342



203



204



205



206

0 10cm



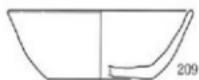
207



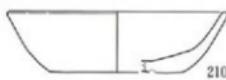
208

第135図 出土遺物実測図（土器14）

SK1334



209



210

SK1386



211



212



213



214



215



216



217



218



219



220



221



222

SK1405

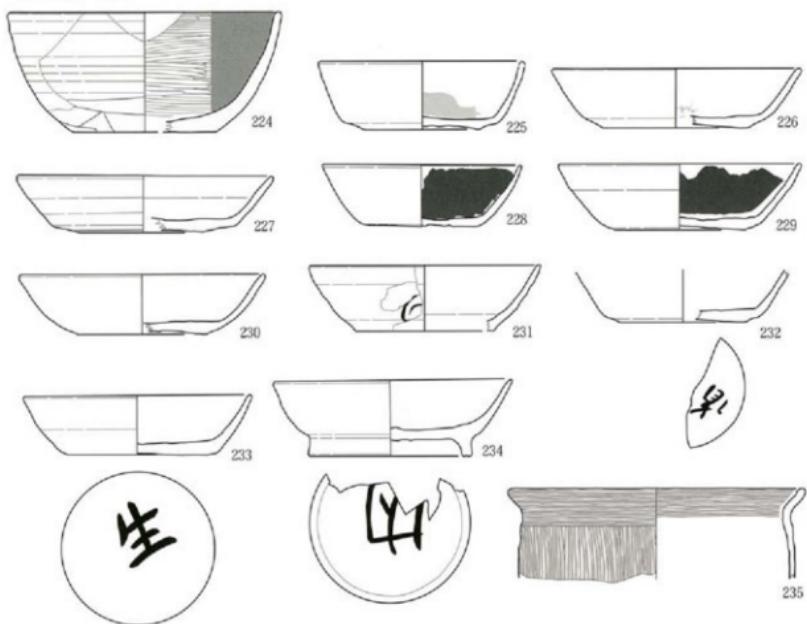


223

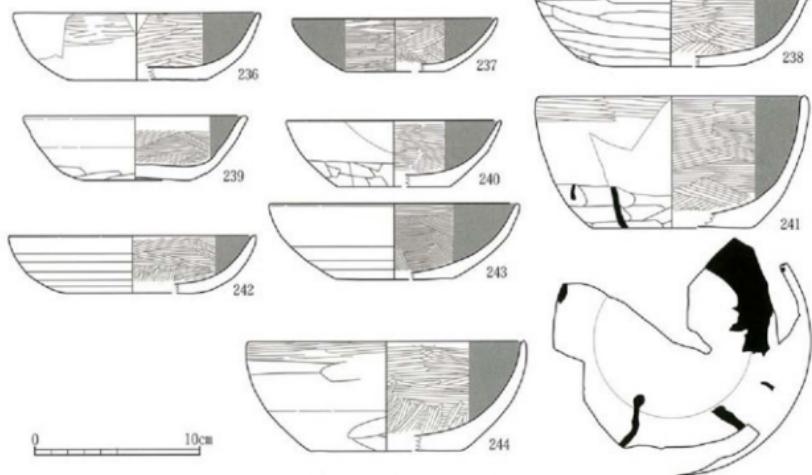


第136図 出土遺物実測図（土器15）

SX1351A・1層

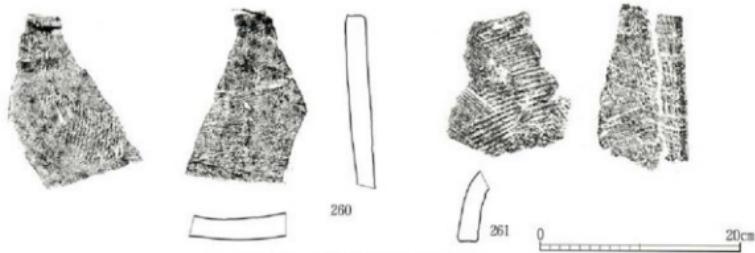
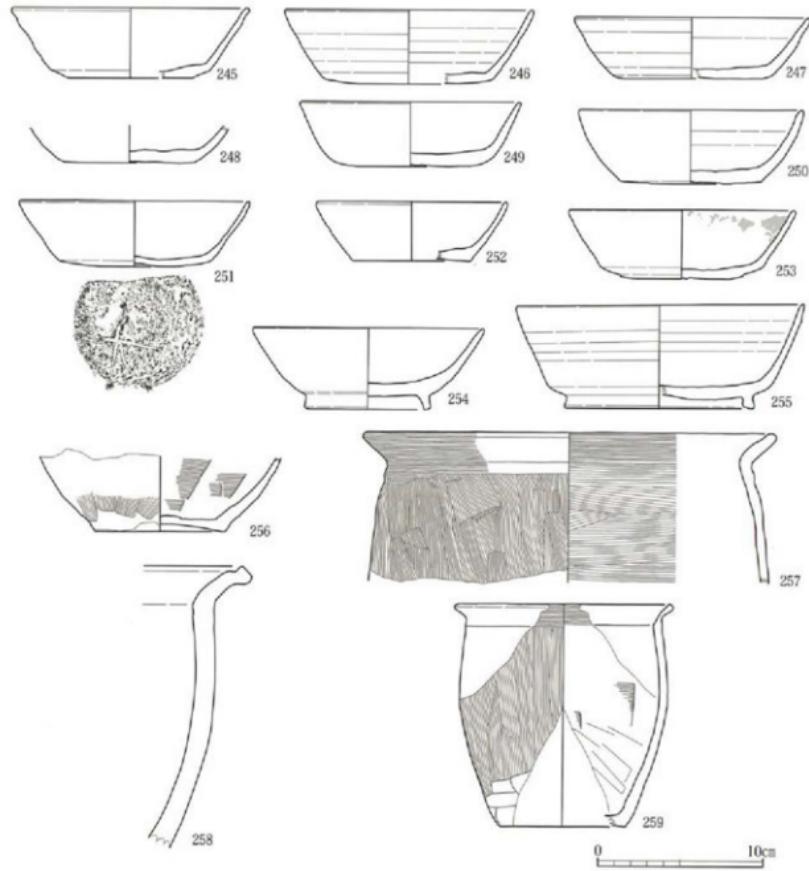


SX1351A・底面



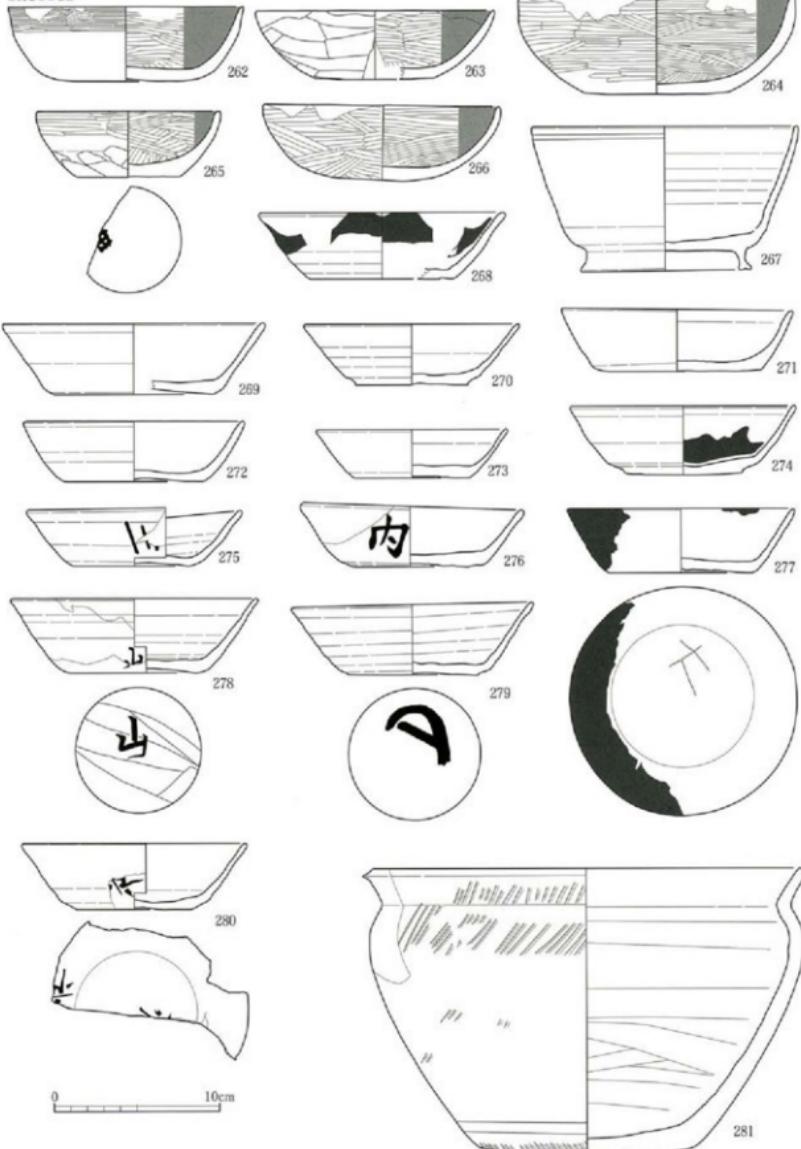
第137図 出土遺物実測図（土器16）

SD1351A底面



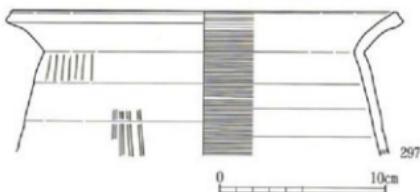
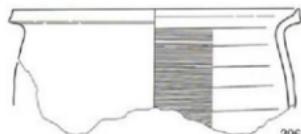
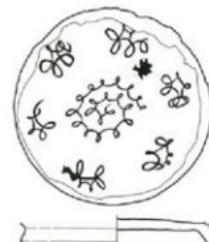
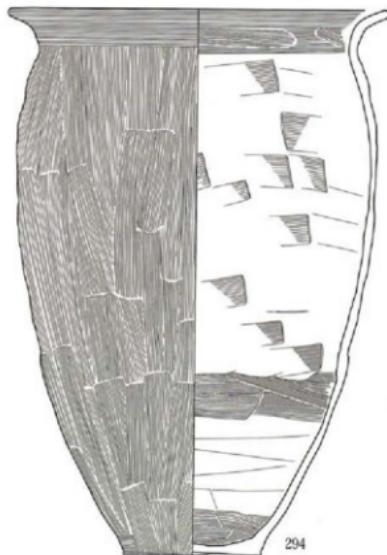
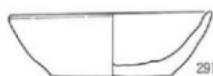
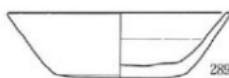
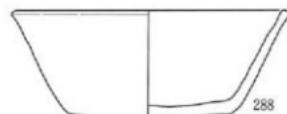
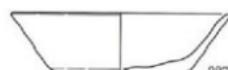
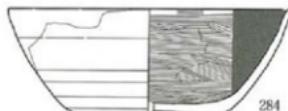
第138図 出土遺物実測図（土器17）

SX1351B



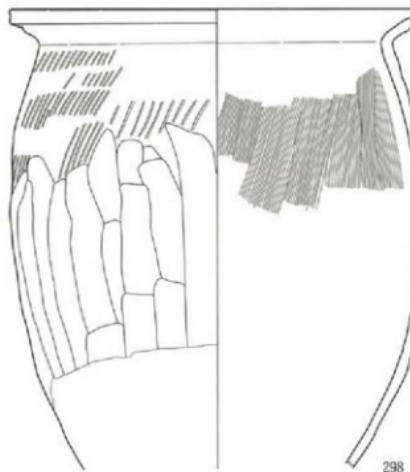
第139図 出土遺物実測図（土器18）

SX1351C・1層

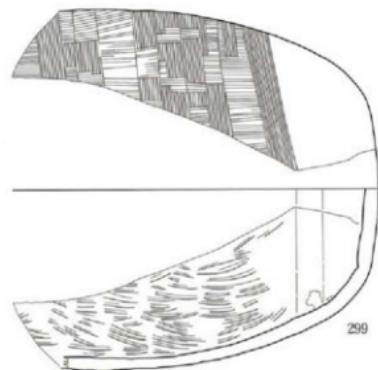


第140図 出土遺物実測図（土器19）

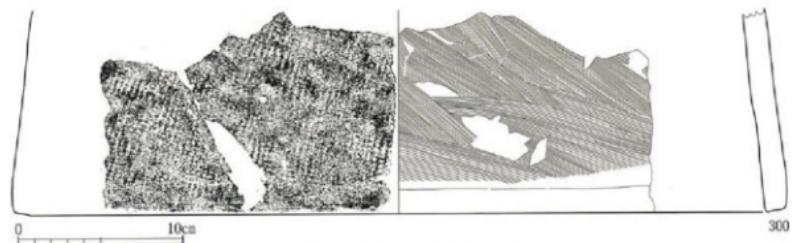
SX1351C・1層



298

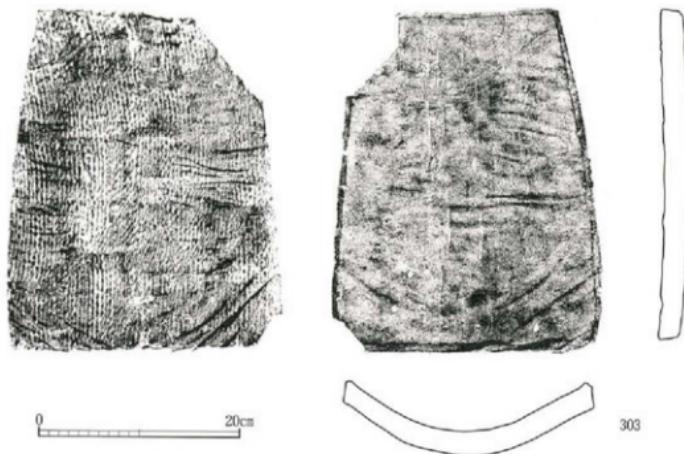
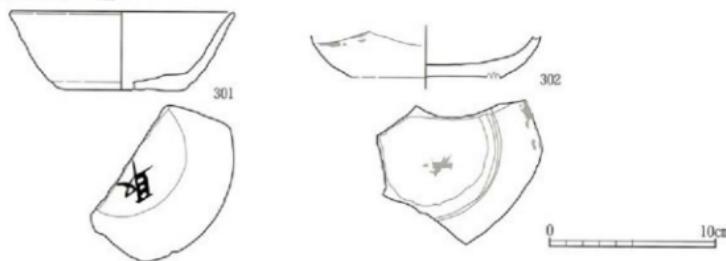


299



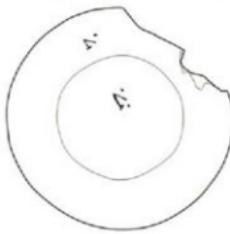
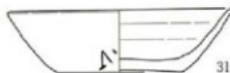
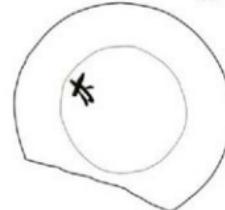
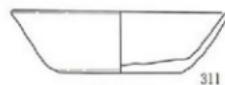
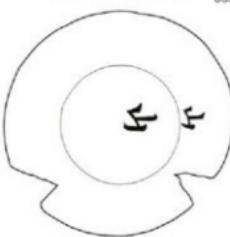
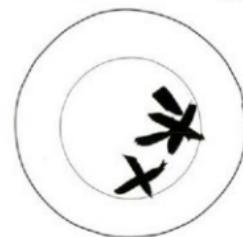
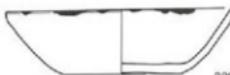
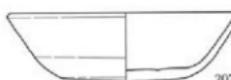
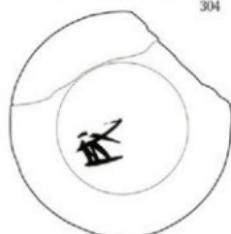
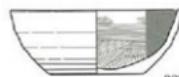
第141図 出土遺物実測図（土器20）

SX1351C・1層



第142図 出土遺物実測図（土器21）

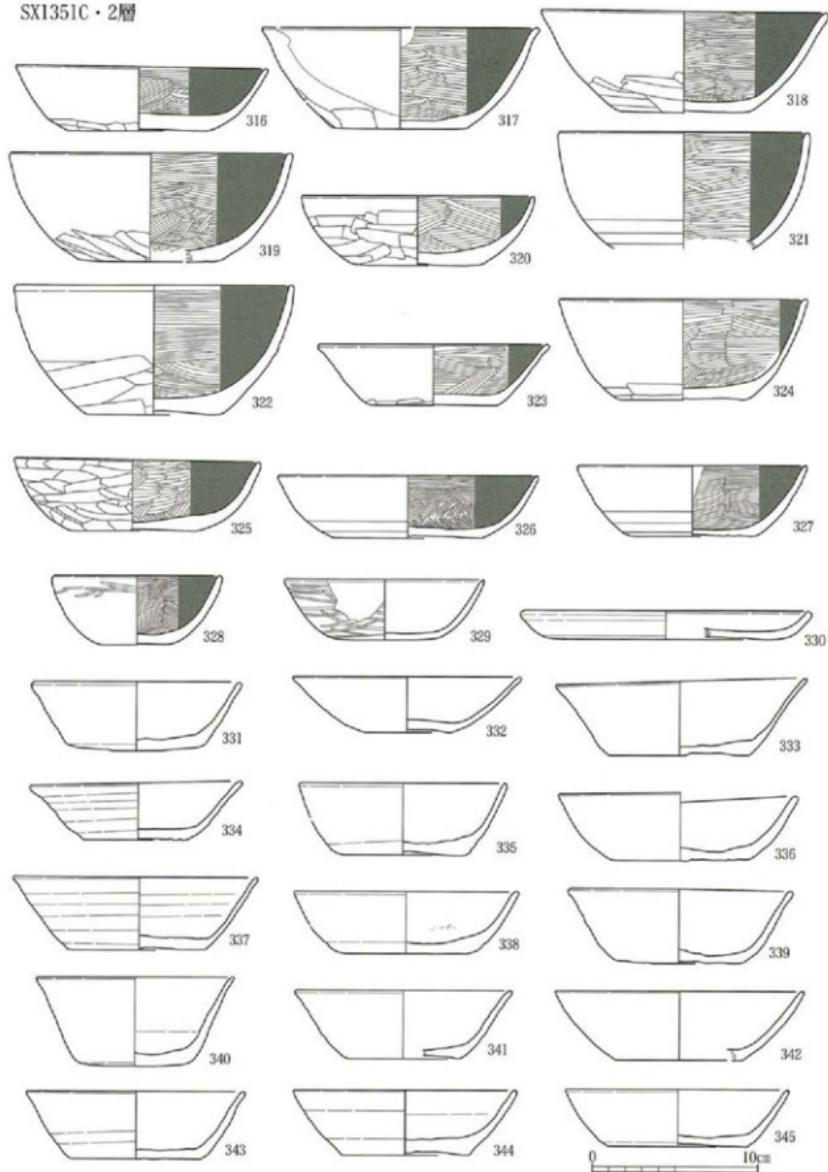
SX1351C・1層



0 10cm

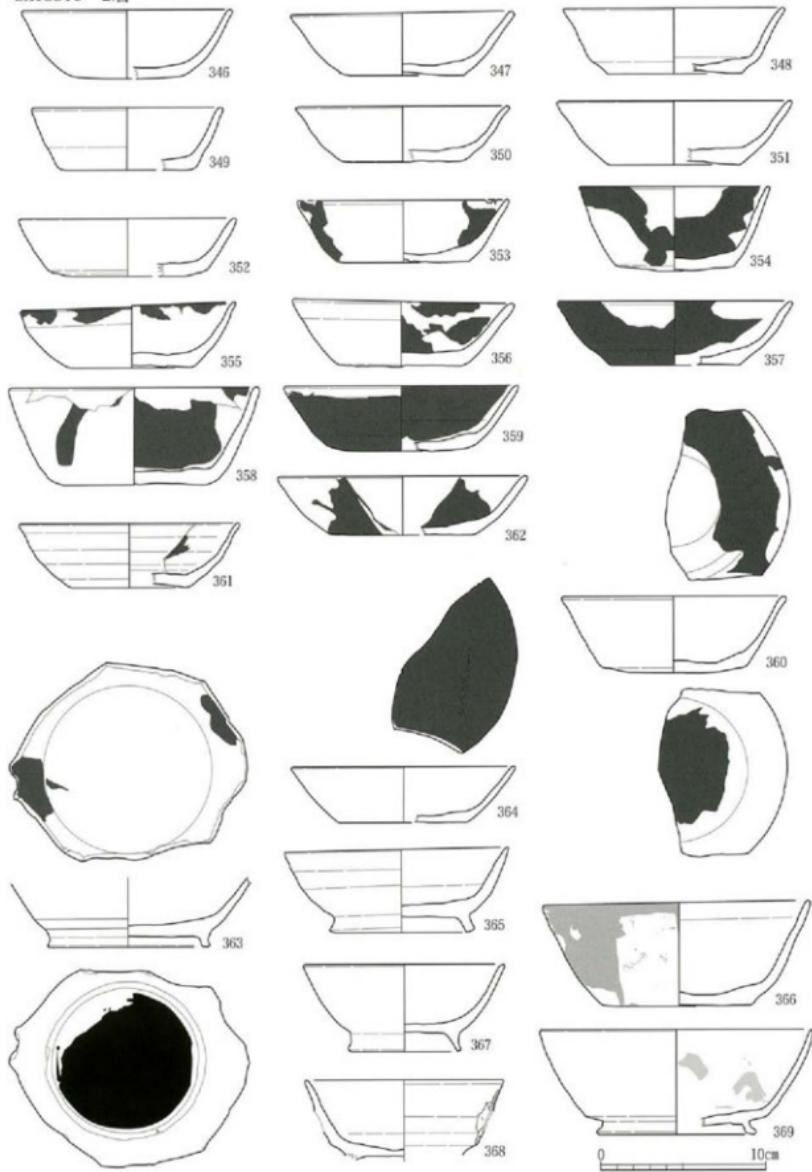
第143図 出土遺物実測図（土器22）

SX1351C・2層



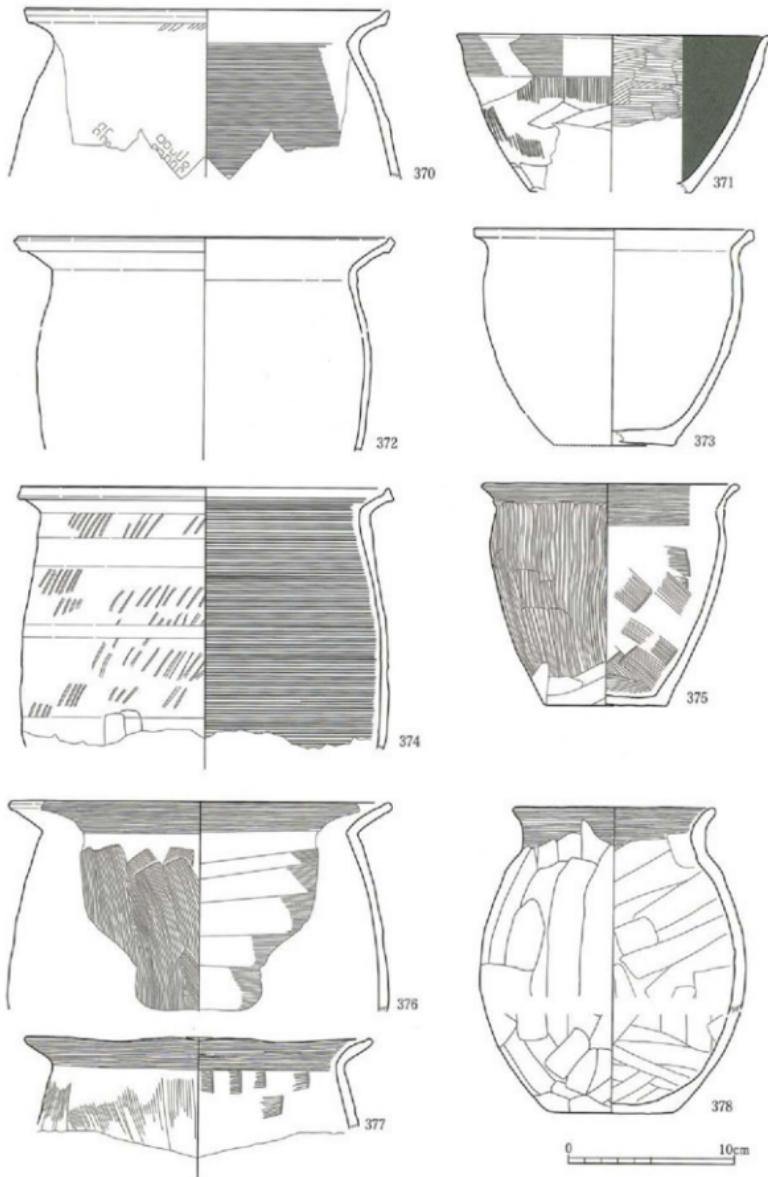
第144図 出土遺物実測図（土器23）

SX1351C・2層



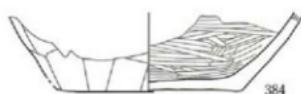
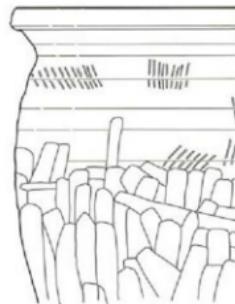
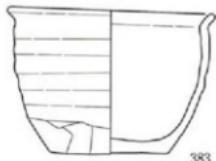
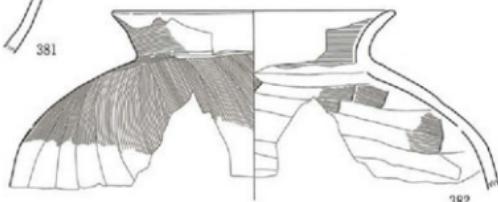
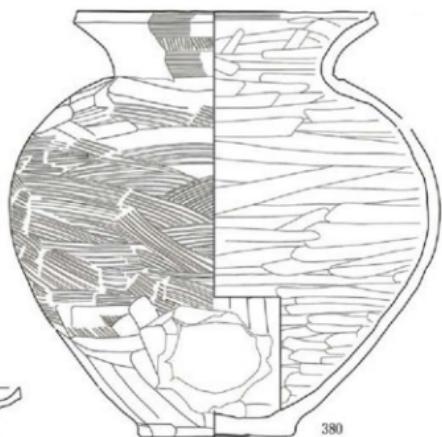
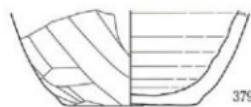
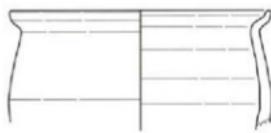
第145図 出土遺物実測図（土器24）

SX1351C・2層



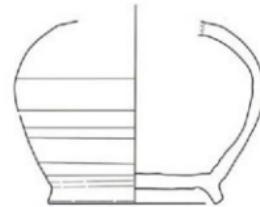
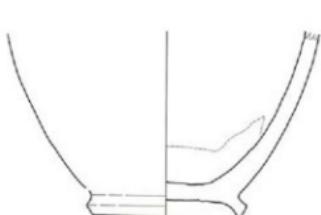
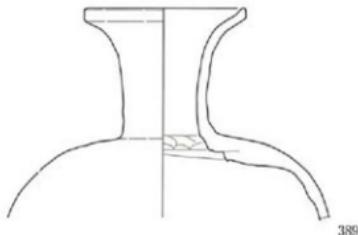
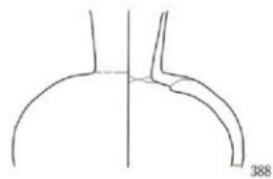
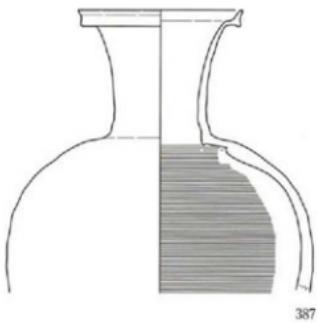
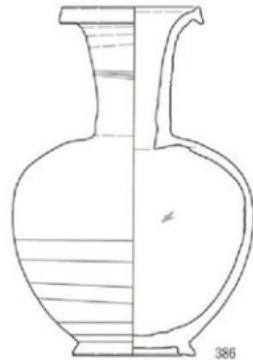
第146図 出土遺物実測図（土器25）

SX1351C・2層



0 10cm

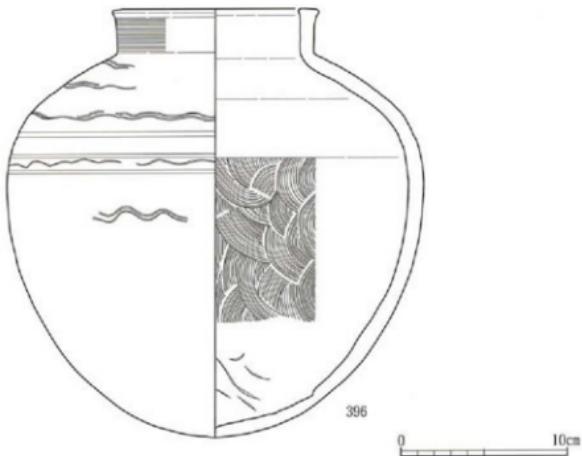
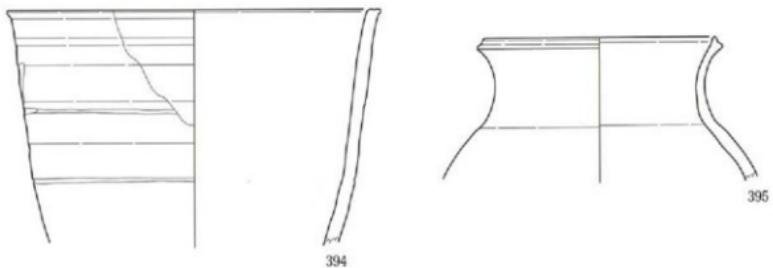
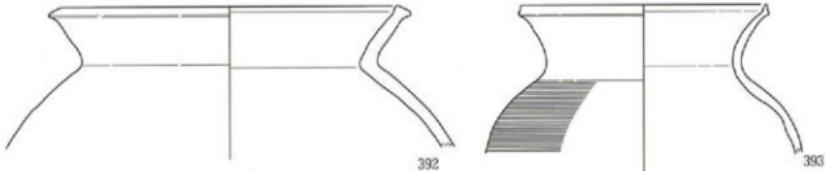
第147図 出土遺物実測図（土器26）



0 10cm

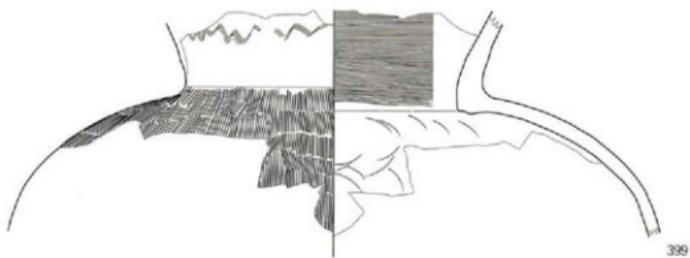
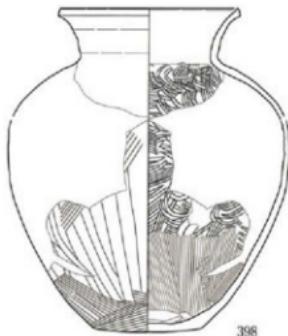
第148図 出土遺物実測図（土器27）

SX1351C・2層



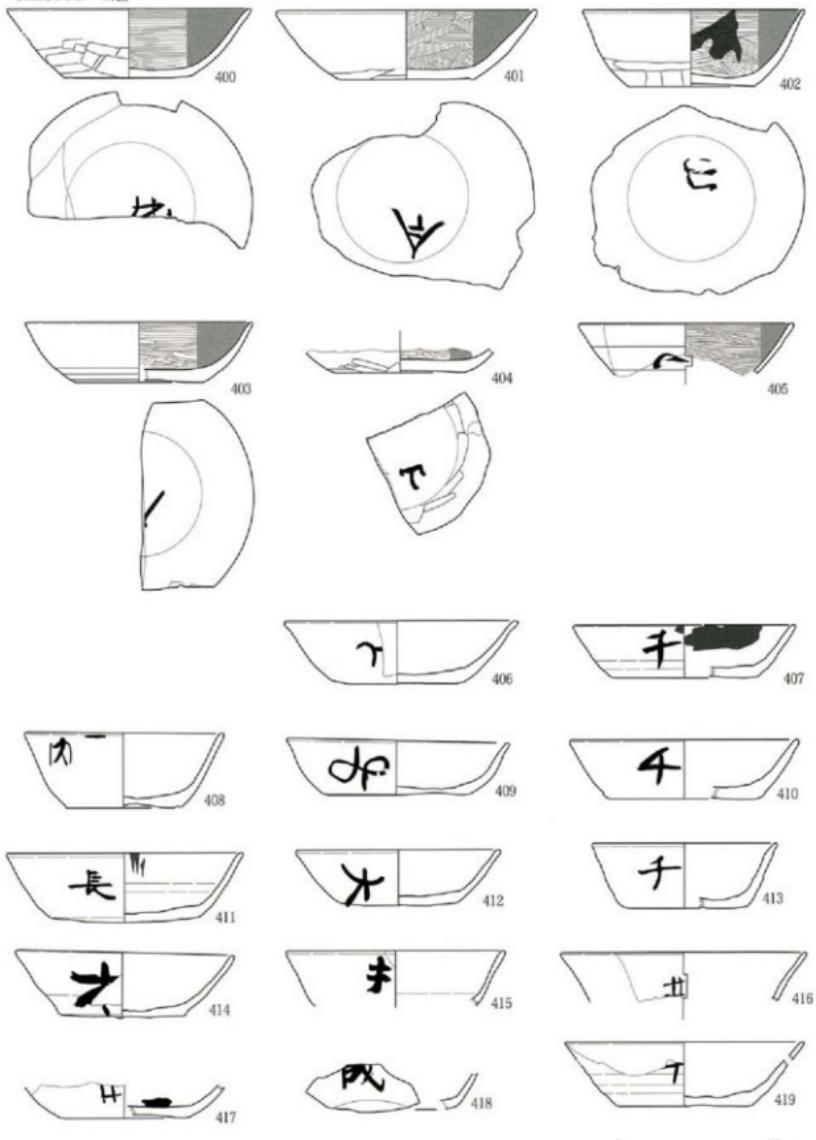
第149図 出土遺物実測図（土器28）

SX1351C・2層



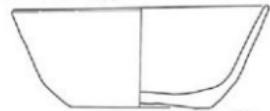
第150図 出土遺物実測図（土器29）

SX1351C・2層



第151図 出土遺物実測図（土器30）

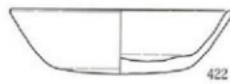
SX1351C・2層



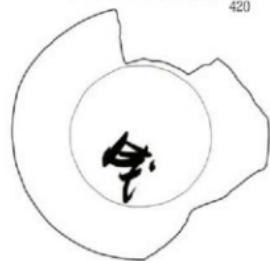
420



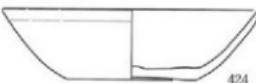
421



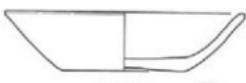
422



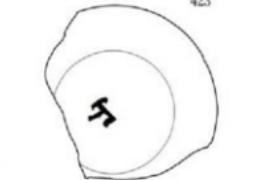
423



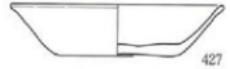
424



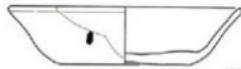
425



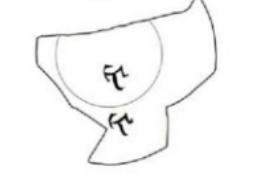
426



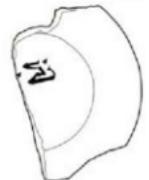
427



428



429



430

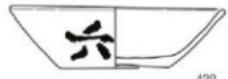


431

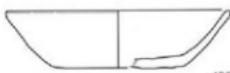
0 10cm

第152図 出土遺物実測図（土器31）

SX1351C・2層



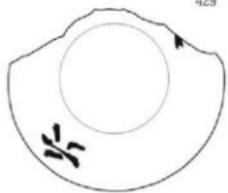
429



430



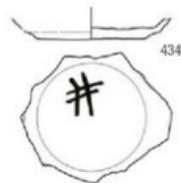
431



432



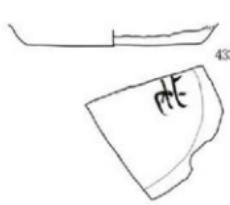
433



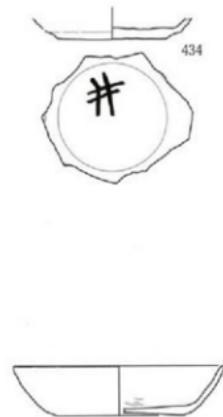
434



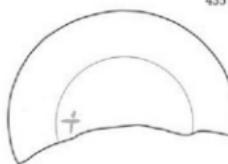
435



436

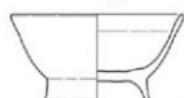


437



第153図 出土遺物実測図（土器32）

SXI351C・2層



438



439



440



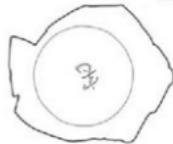
441



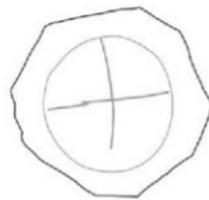
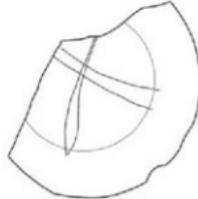
442



443

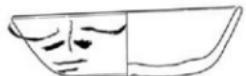


444

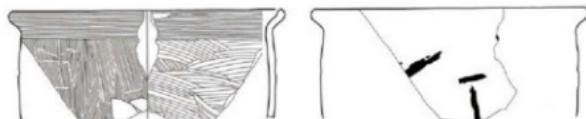
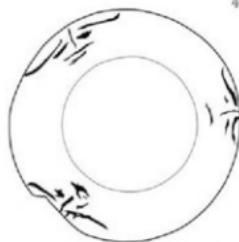


第154図 出土遺物実測図（土器33）

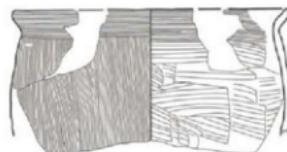
SX1351C・2層



444



445



446

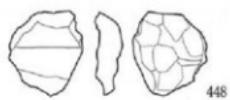
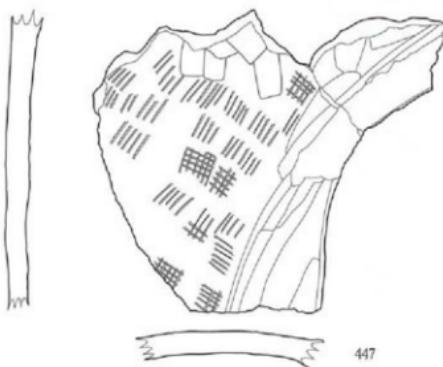


0

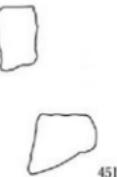
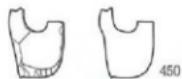
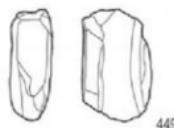
10cm

第155図 出土遺物実測図（土器34）

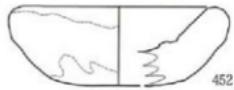
SX1351C・2層



447

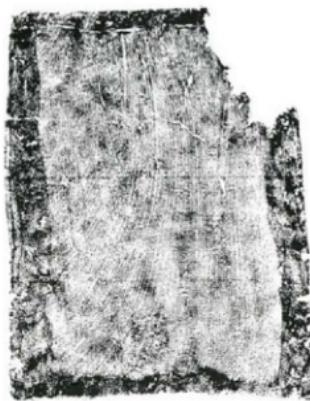


451



第156図 出土遺物実測図（土器35）

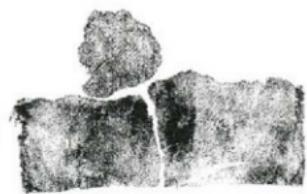
SX135IC・2層



454



455

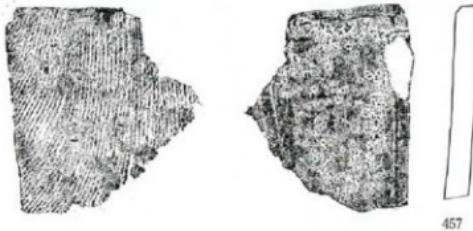


456

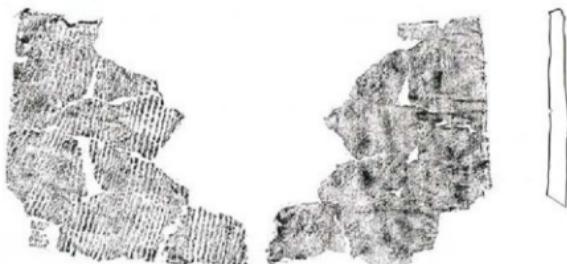


第157図 出土遺物実測図（土器36）

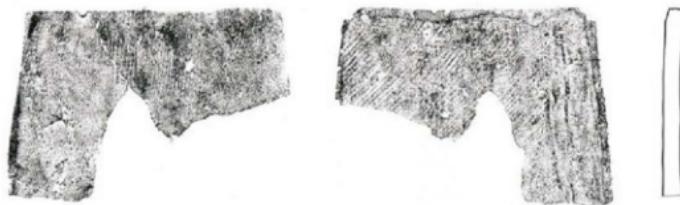
SXI351C・2層



457



458

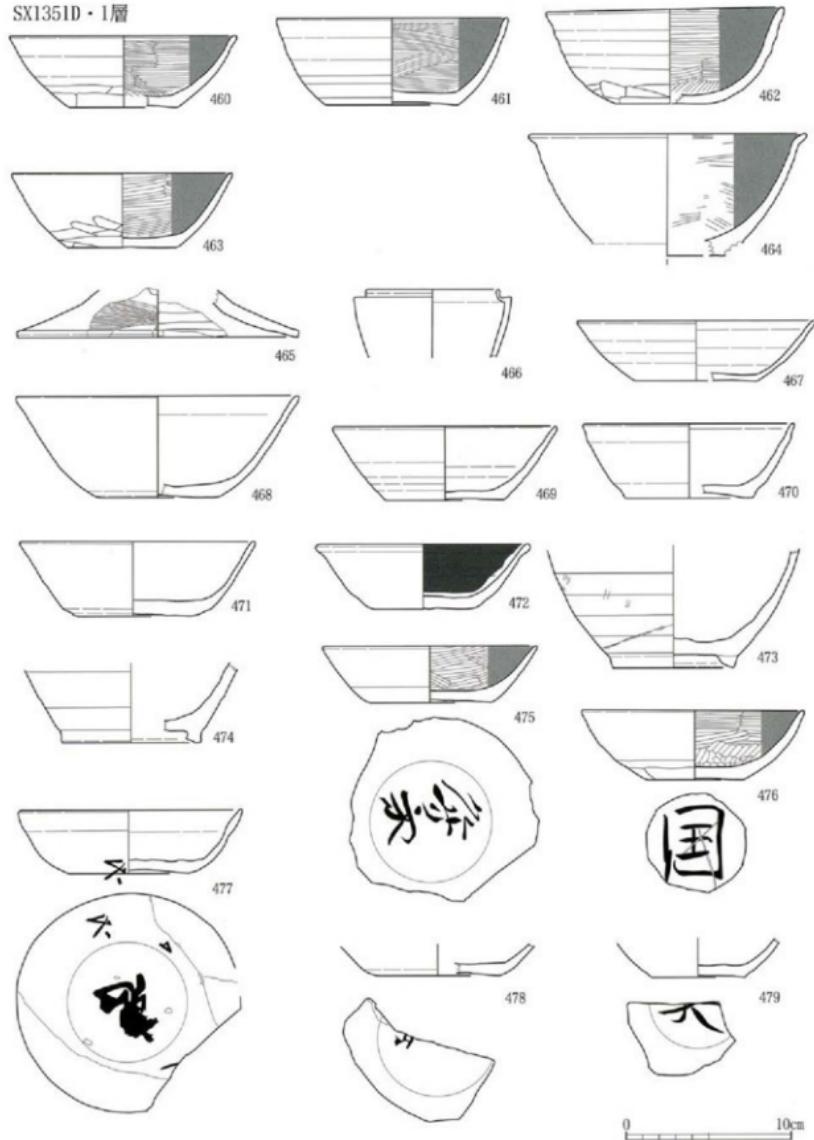


459



第158図 出土遺物実測図（土器37）

SX1351D・1層



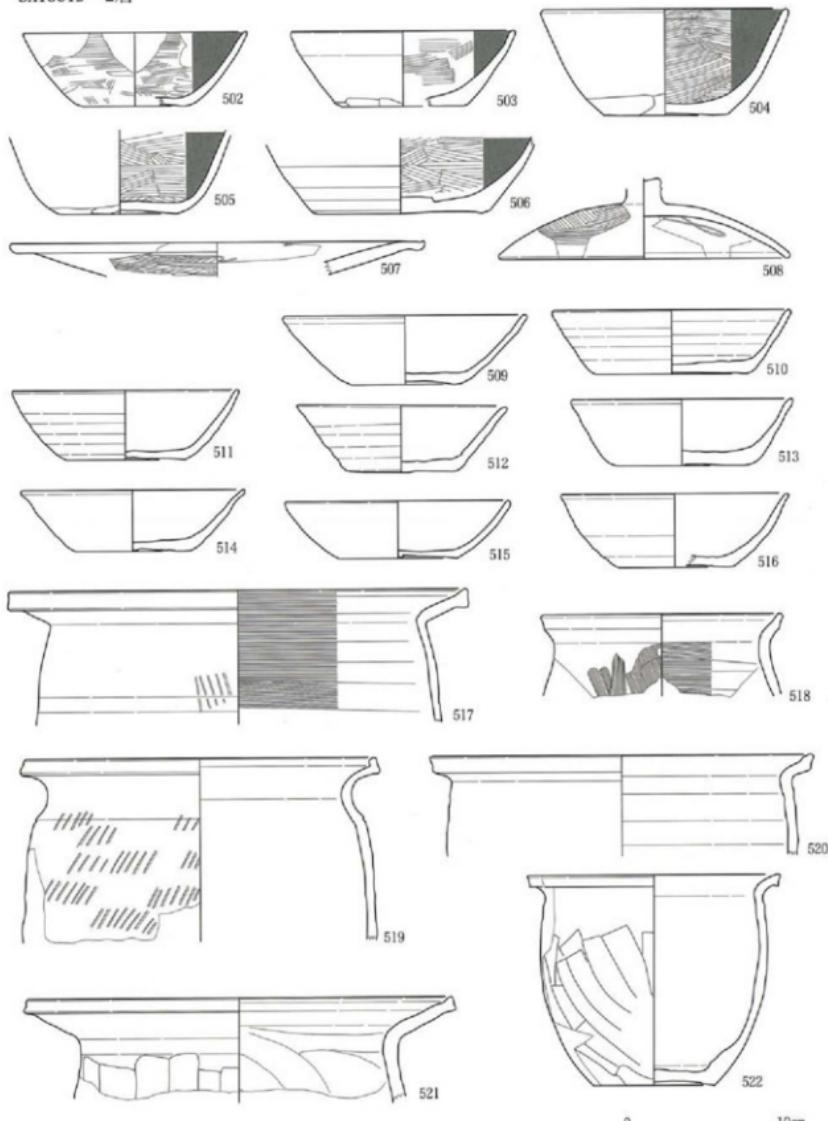
第159図 出土遺物実測図（土器38）

SX1351D・1層



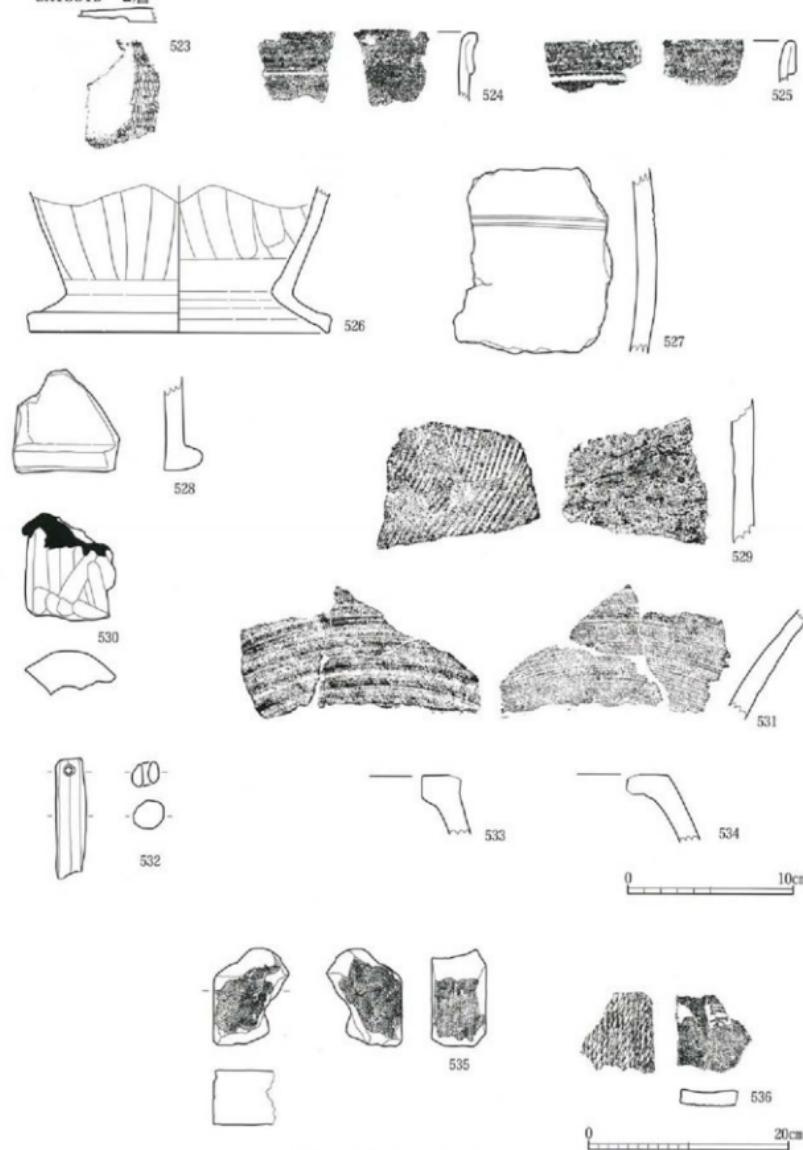
第160図 出土遺物実測図（土器39）

SX1351D・2層



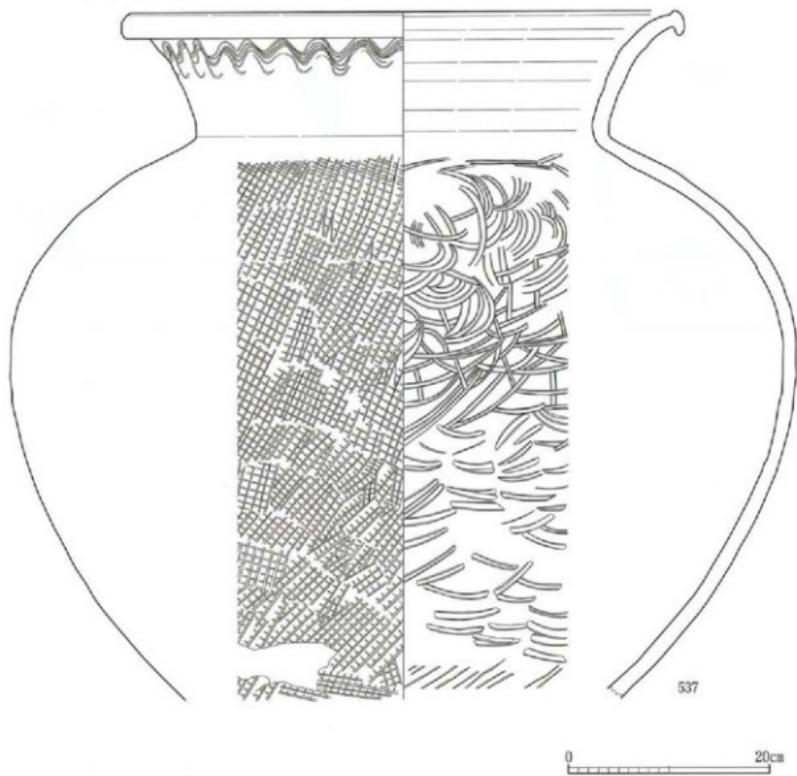
第161図 出土遺物実測図（土器40）

SX1351D・2層



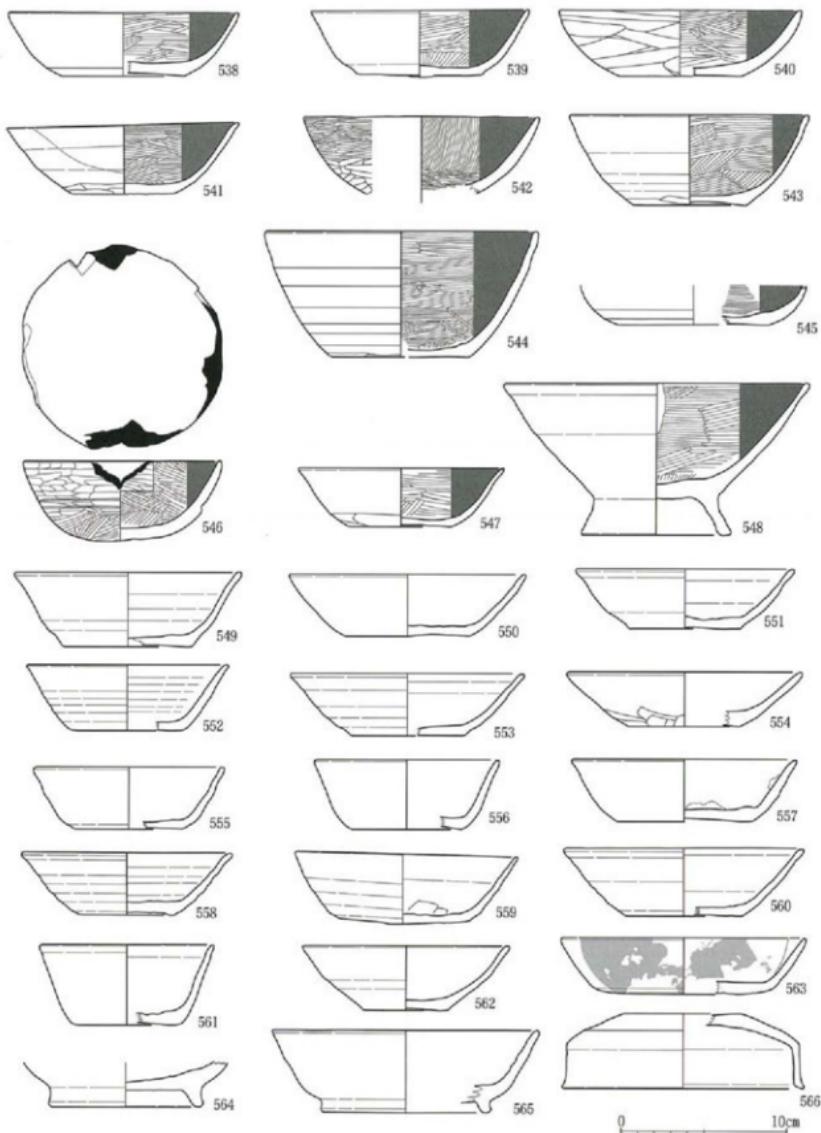
第162図 出土遺物実測図（土器41）

SX1351D・2層



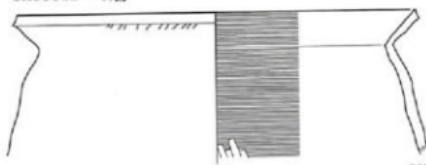
第163図 出土遺物実測図（土器42）

SX1351D・3層

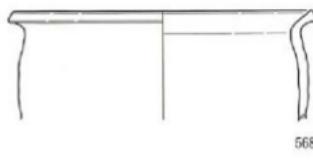


第164図 出土遺物実測図（土器43）

SX1351D・3層



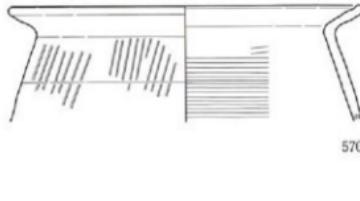
567



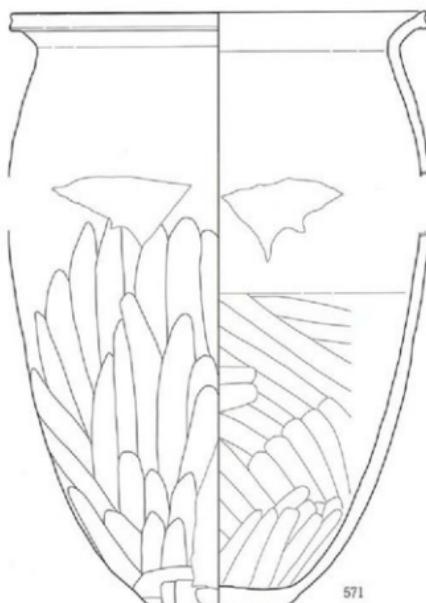
568



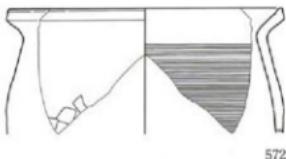
569



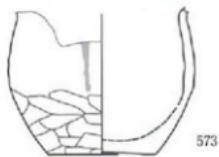
570



571



572

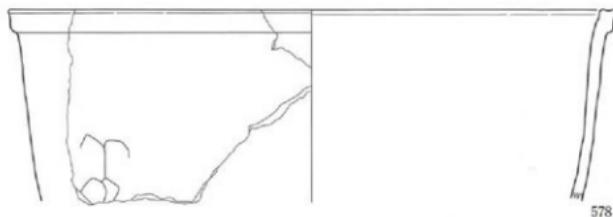
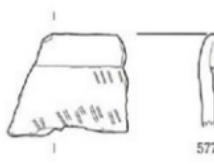
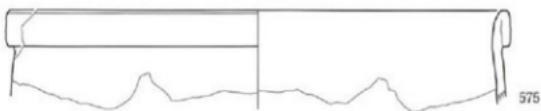
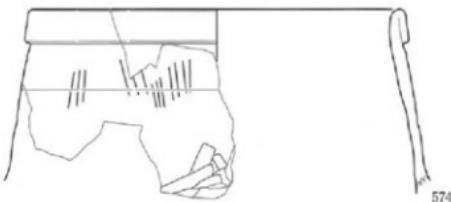


573

0 10cm

第165図 出土遺物実測図（土器44）

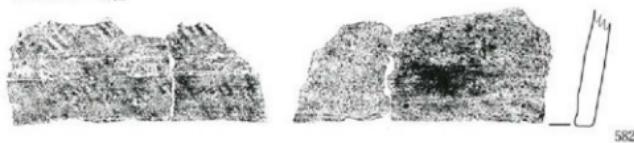
SX1351D・3層



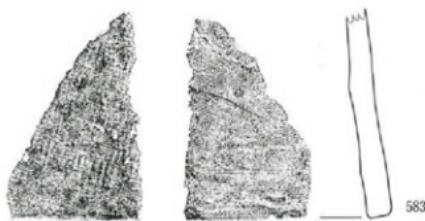
0 10cm

第166図 出土遺物実測図（土器45）

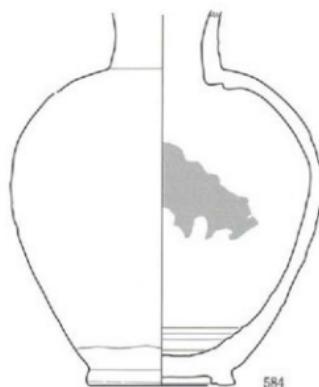
SXI351D・3層



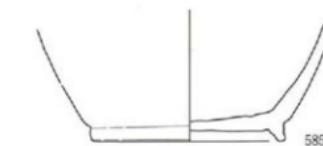
582



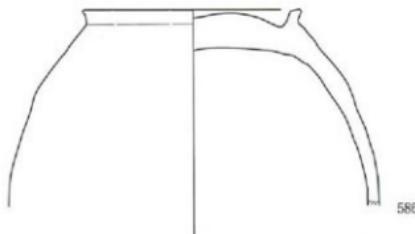
583



584



585

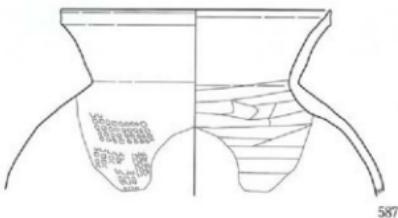


586

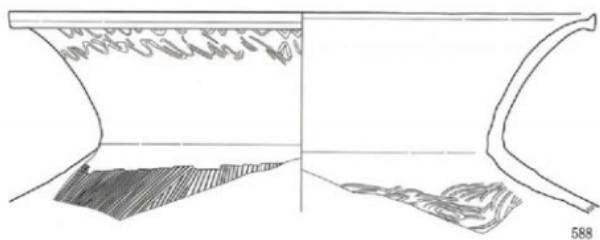


第167図 出土遺物実測図（土器46）

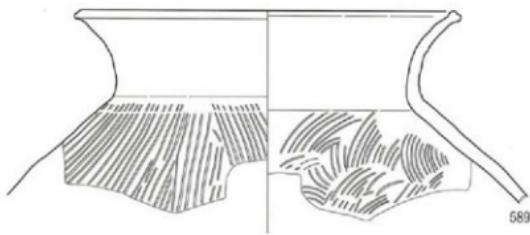
SX1351D・3層



587



588

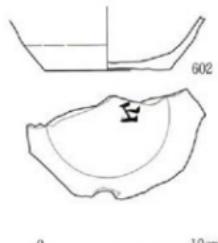
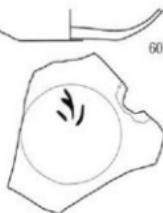
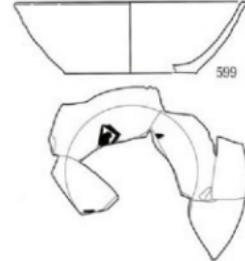
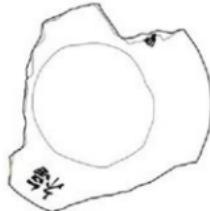
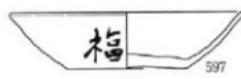
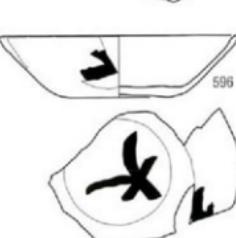
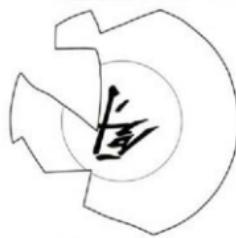
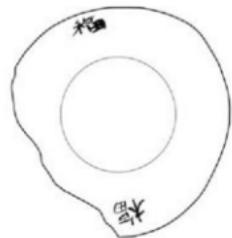
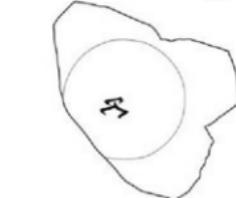
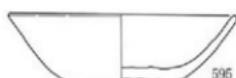
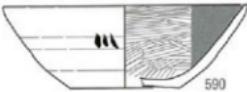


589



第168図 出土遺物実測図（土器47）

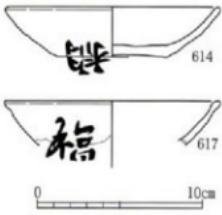
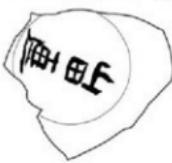
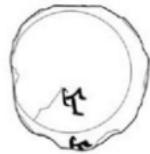
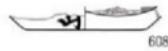
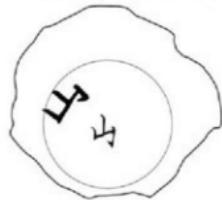
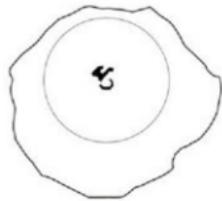
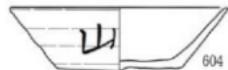
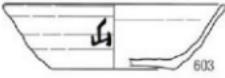
SX1351D・3層



0 10cm

第169図 出土遺物実測図（土器48）

SX1351D・3層



第170図 出土遺物実測図（土器49）

SX1351D・3層



618



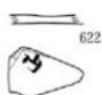
619



620



621



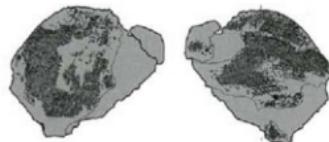
622



623



624



625



626



627



628

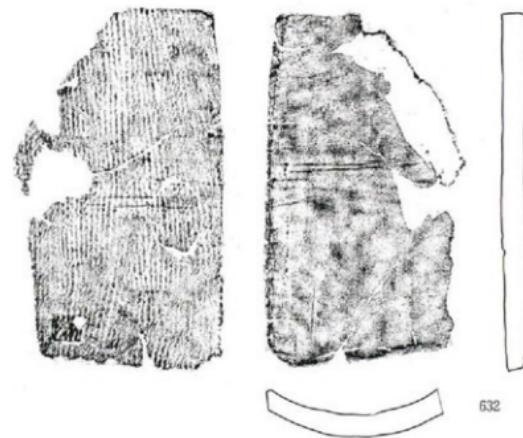
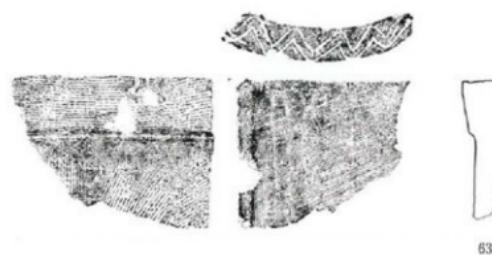
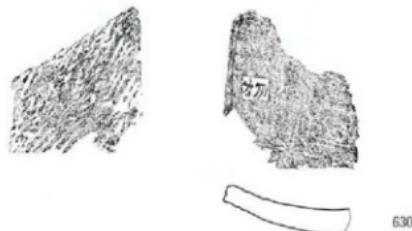


629



第171図 出土遺物実測図（土器50）

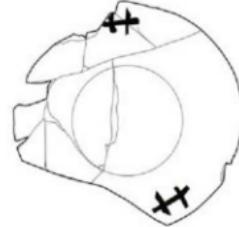
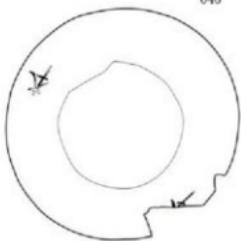
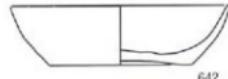
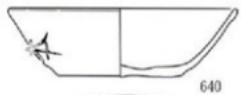
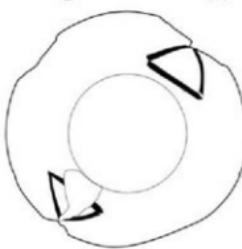
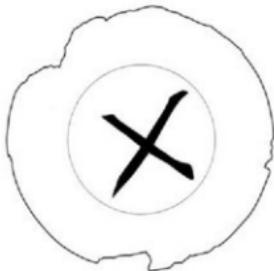
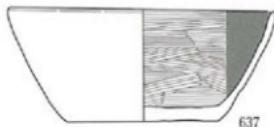
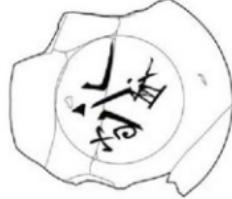
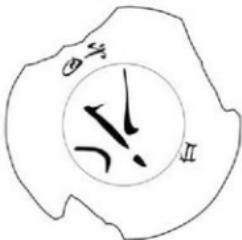
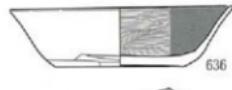
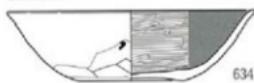
SX1351D・3層



0 20cm

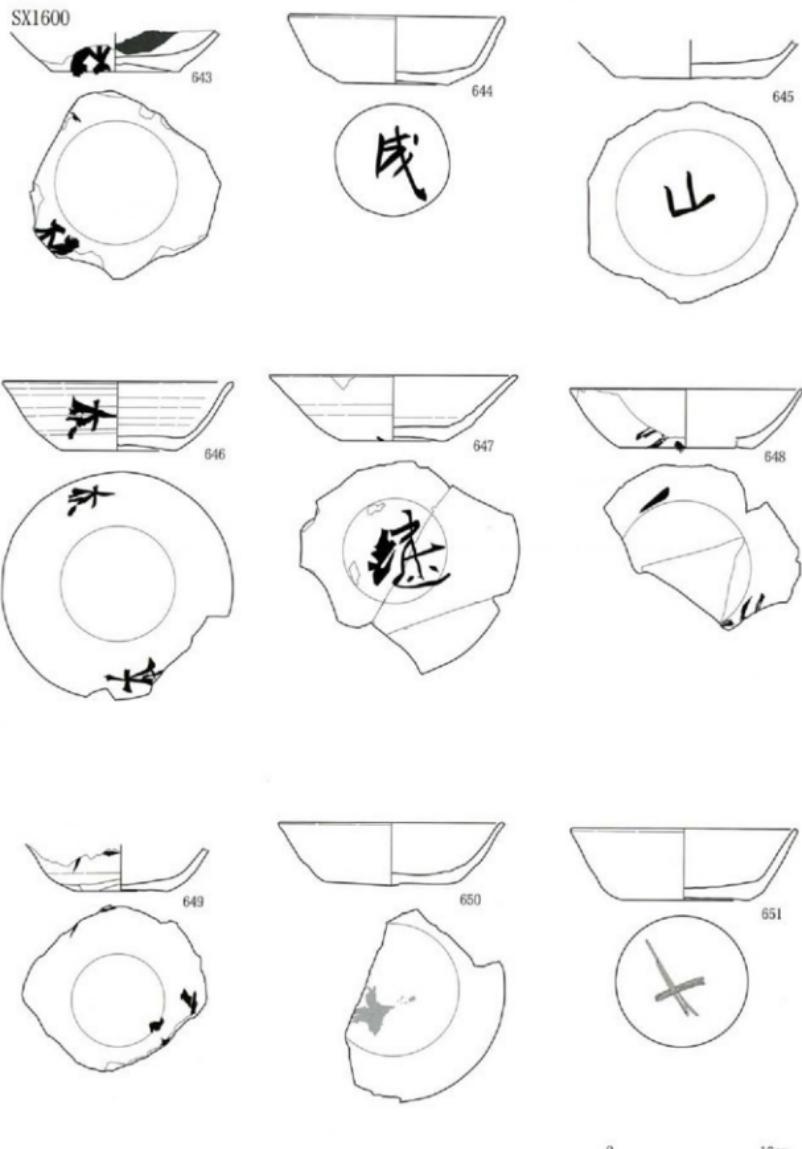
第172図 出土遺物実測図（土器51）

SX1600



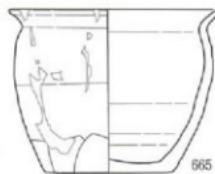
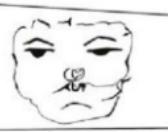
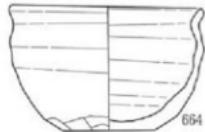
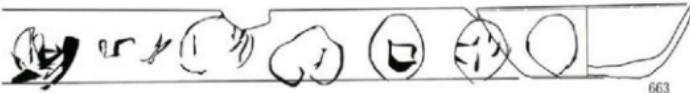
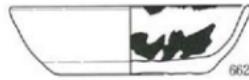
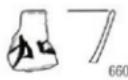
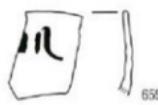
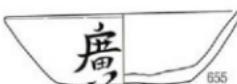
0 10cm

第173図 出土遺物実測図（土器52）



第174図 出土遺物実測図（土器53）

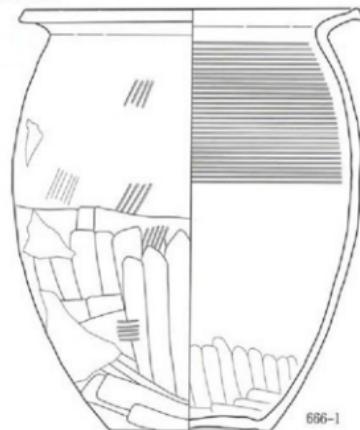
SX1600



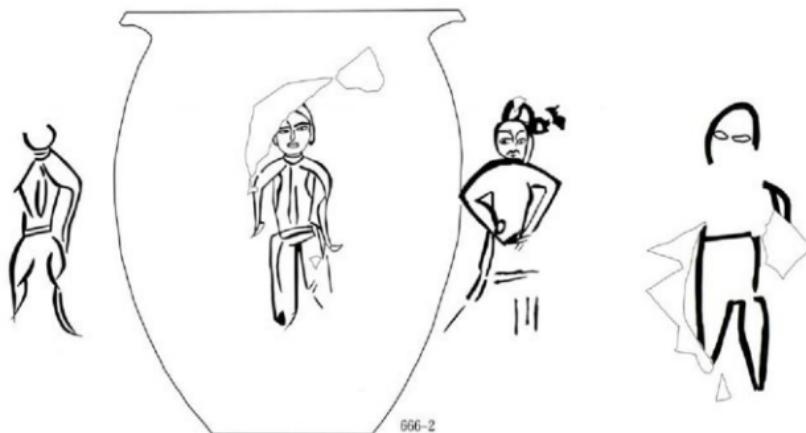
0 10cm

第175図 出土遺物実測図（土器54）

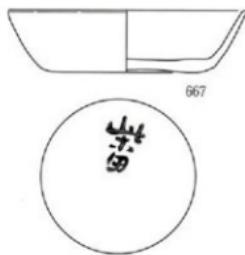
SX1600



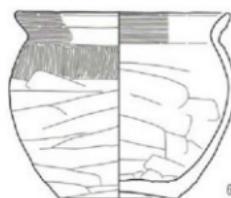
666-1



666-2



667



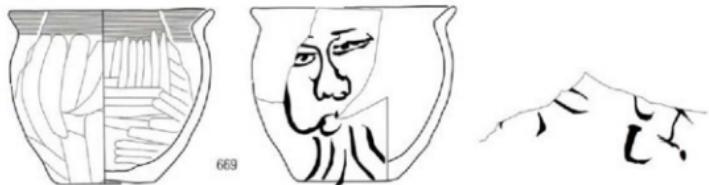
668



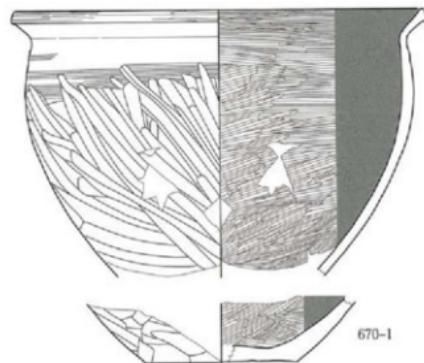
0 10cm

第176図 出土遺物実測図（土器55）

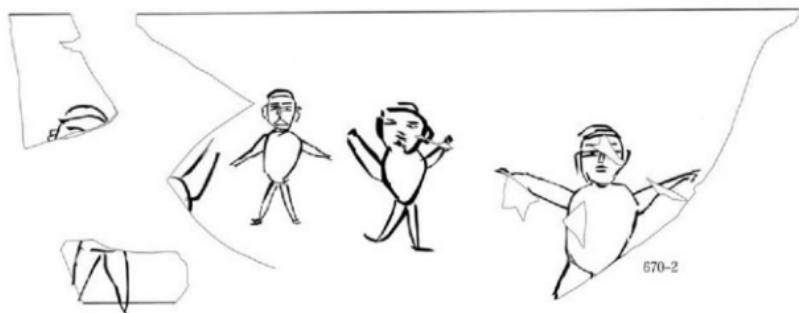
SX1600



669



670-1

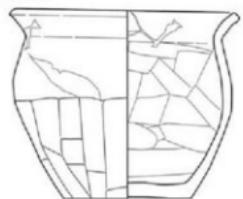


670-2

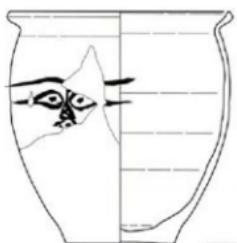
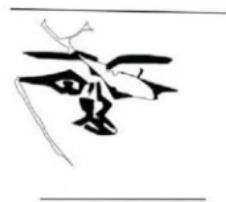


第177図 出土遺物実測図（土器56）

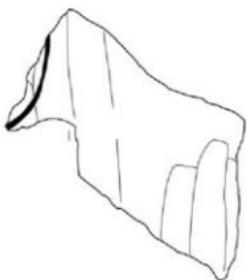
SX1600



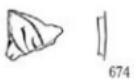
671



672



673



674

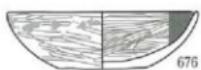


675

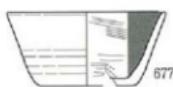


第178図 出土遺物実測図（土器57）

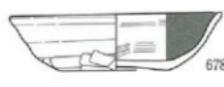
SX778



676



677



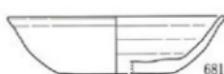
678



679



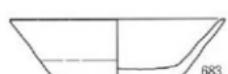
680



681



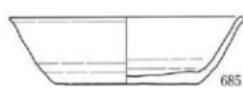
682



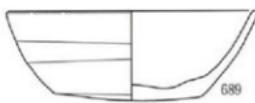
683



684



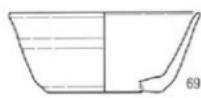
685



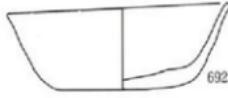
688



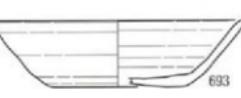
689



691



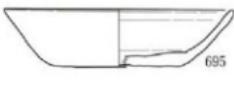
692



690



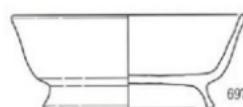
694



695



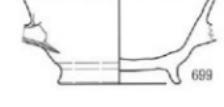
696



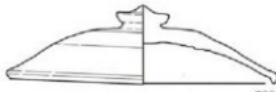
697



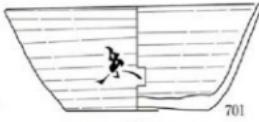
698



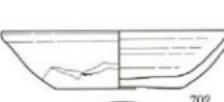
699



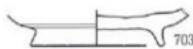
700



701



702



703



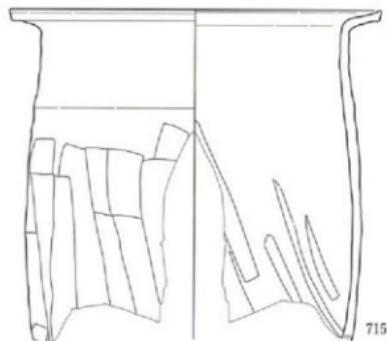
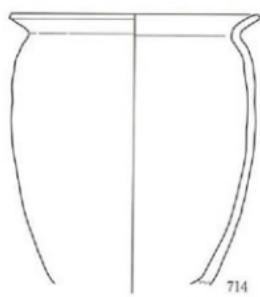
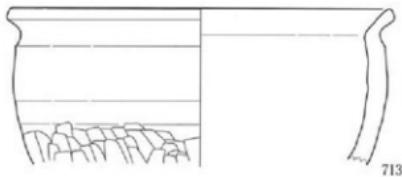
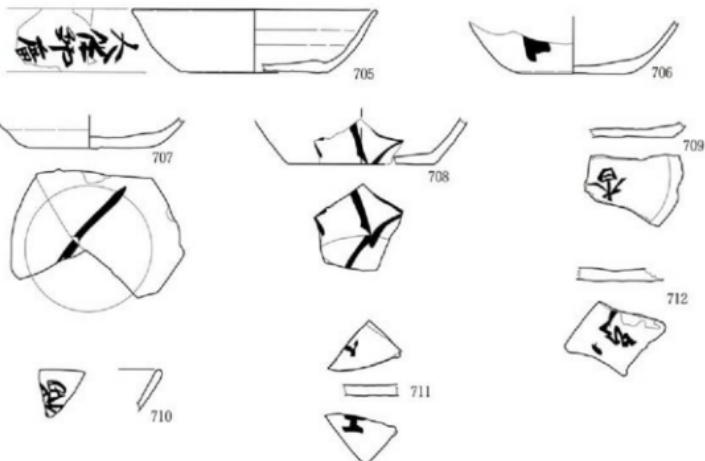
704



第179図 出土遺物実測図（土器58）

0 10cm

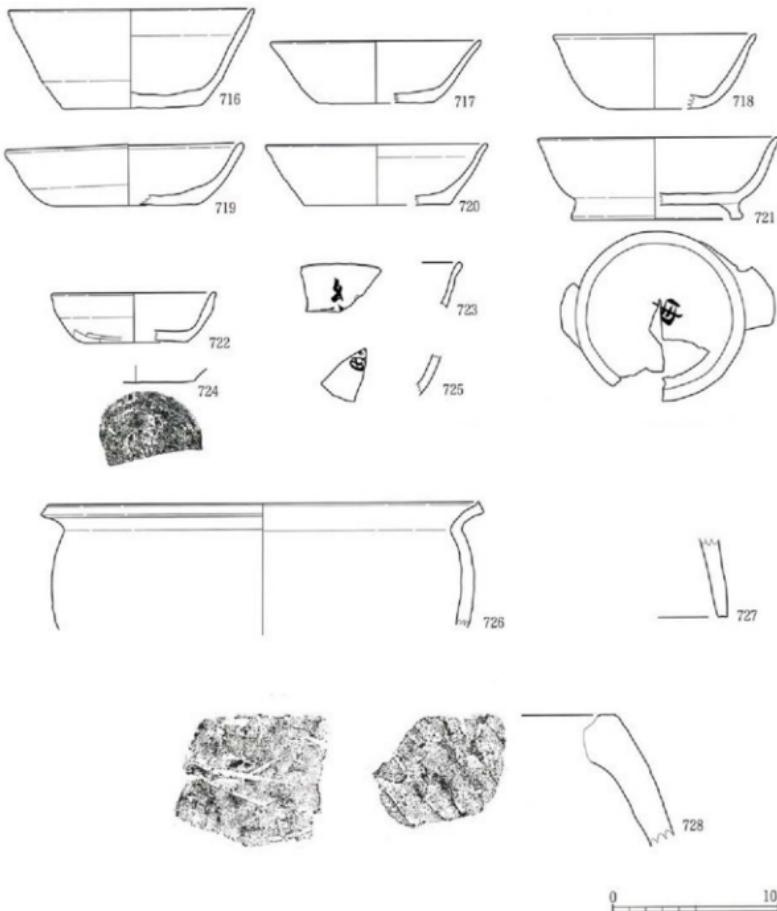
SX778



0 10cm

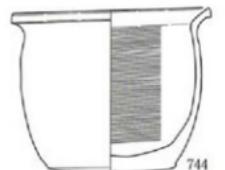
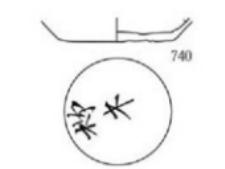
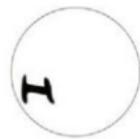
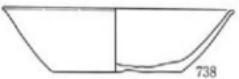
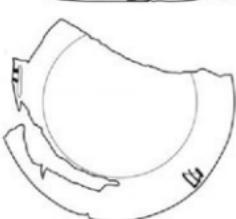
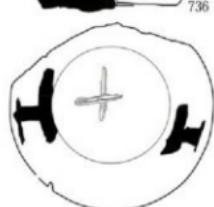
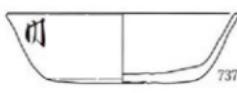
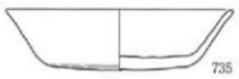
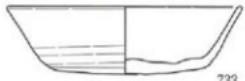
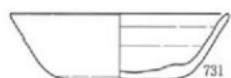
第180図 出土遺物実測図（土器59）

SX1177



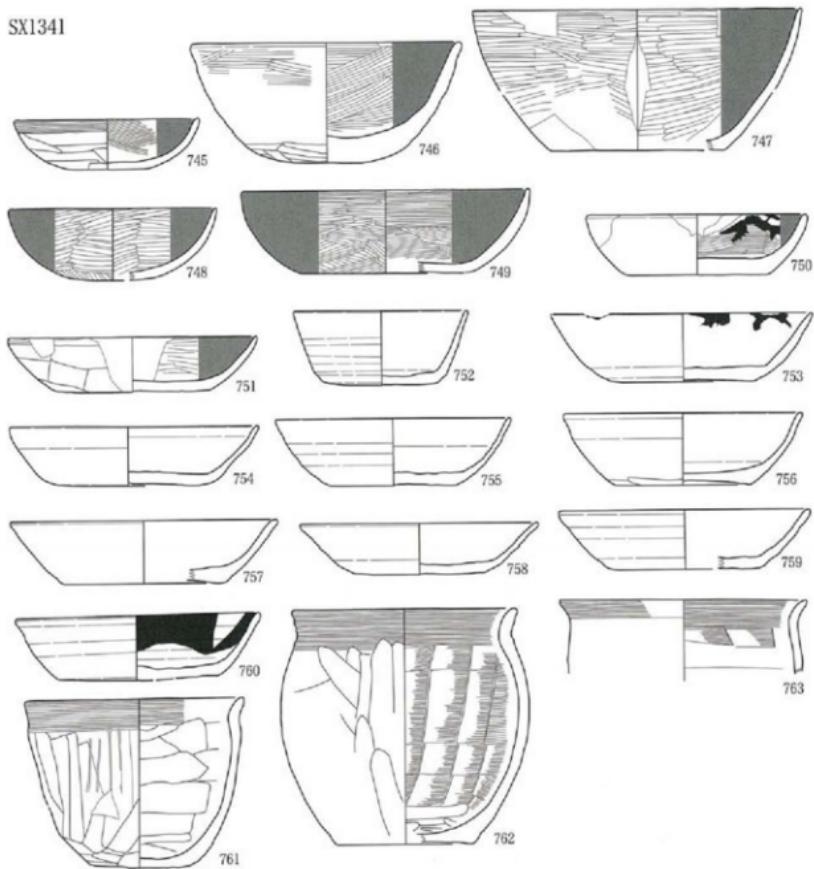
第181図 出土遺物実測図（土器60）

SXI227

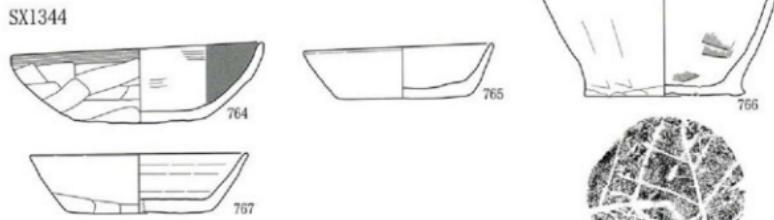


第182図 出土遺物実測図（土器61）

SX1341

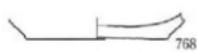


SX1344



第183図 出土遺物実測図（土器62）

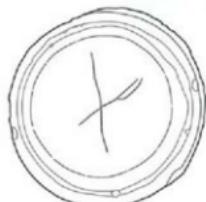
SX1344



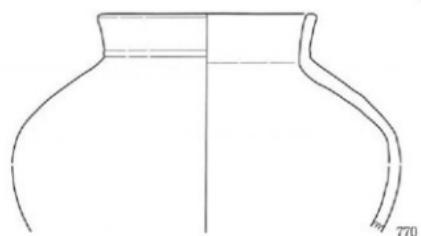
768



769



SX1383



770

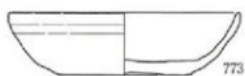


771

SX1384



772

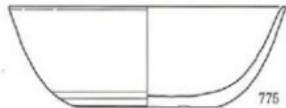


773



774

SX1368

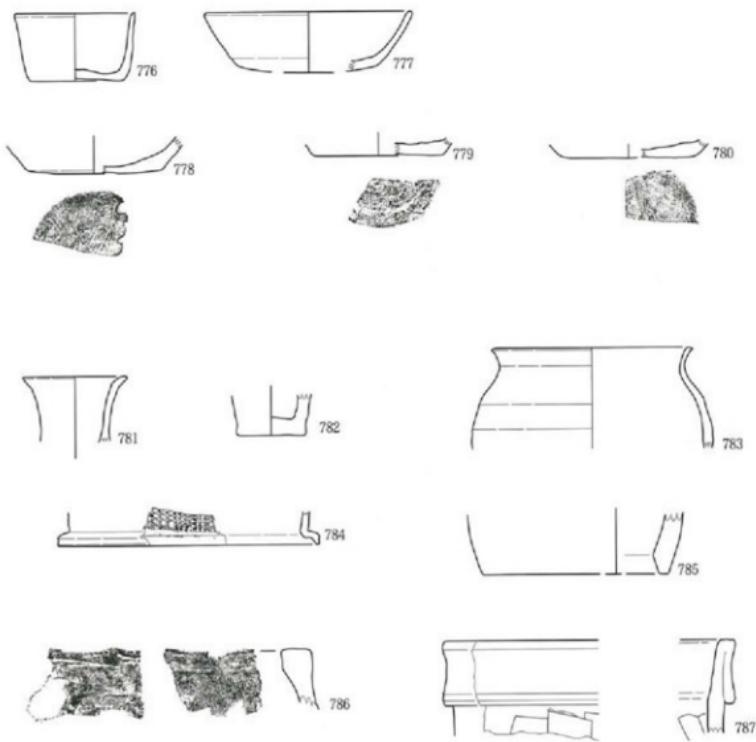


775

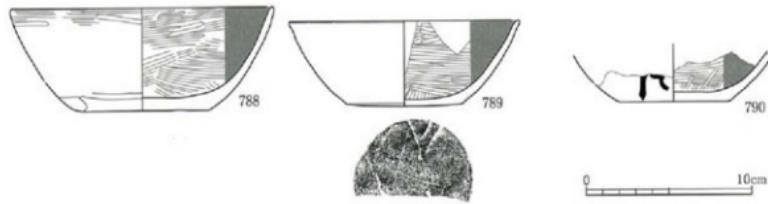


第184図 出土遺物実測図（土器63）

18区・第I層

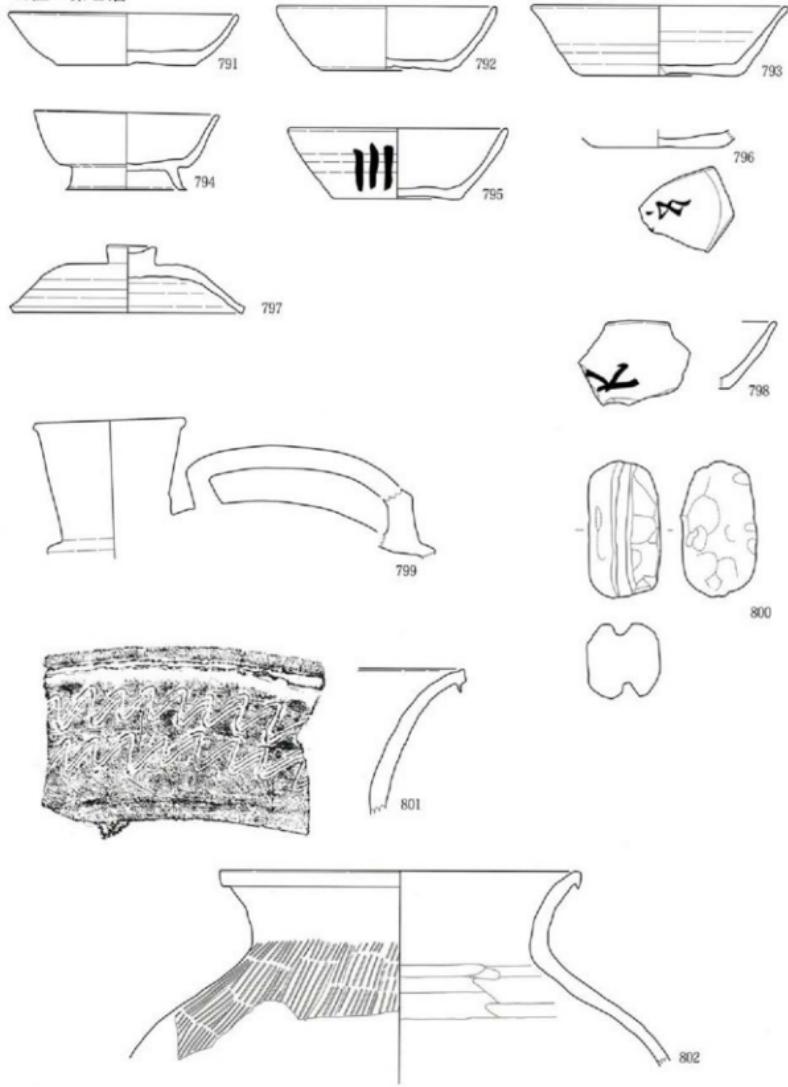


18区・第II層



第185図 出土遺物実測図（土器64）

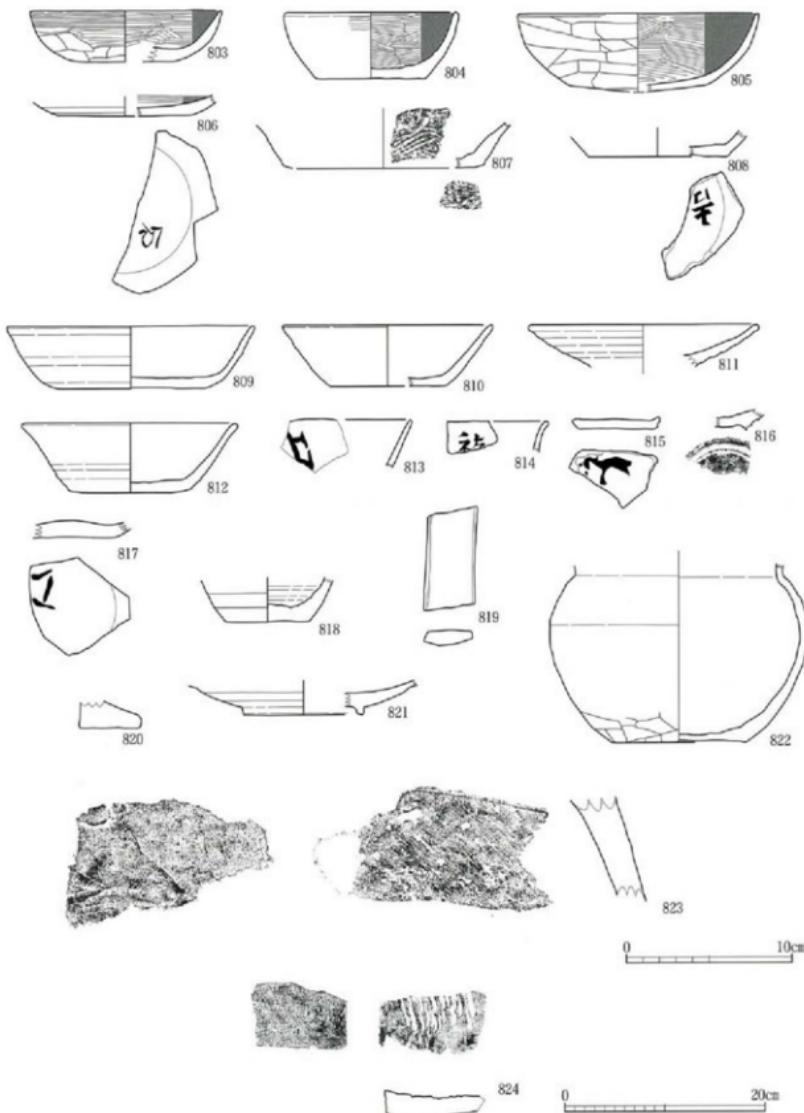
18区・第II層



第186図 出土遺物実測図（土器65）

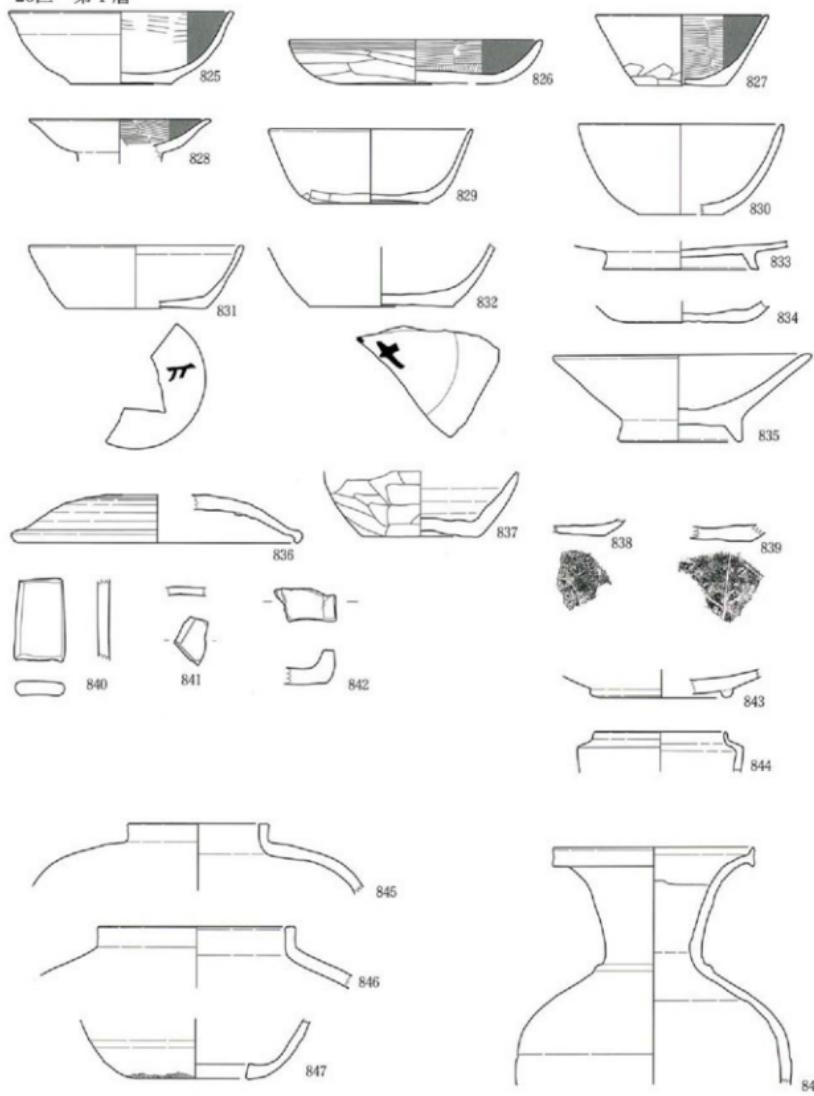
0 10cm

18区検出面



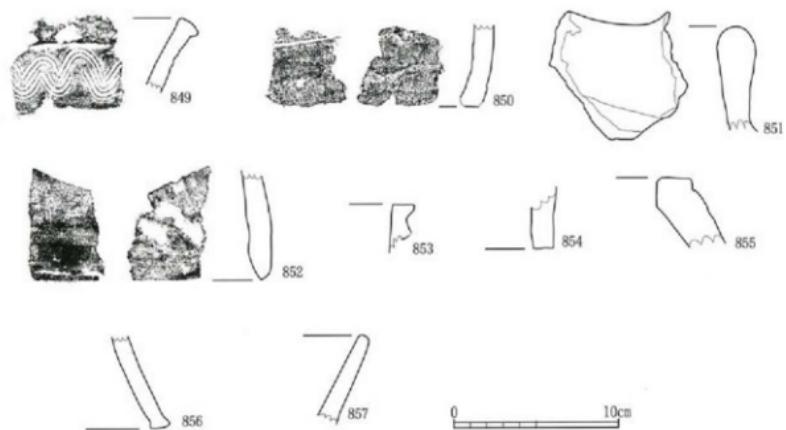
第187図 出土遺物実測図（土器66）

20区・第I層

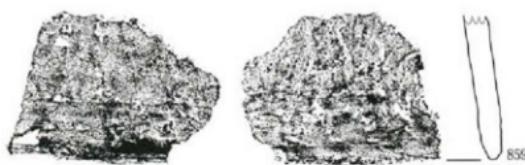


第188図 出土遺物実測図（土器67）

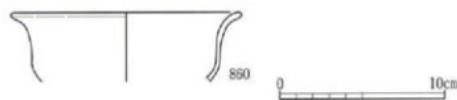
20区第I層



20区・第II層

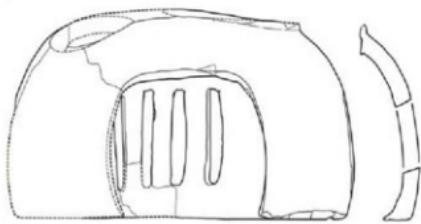
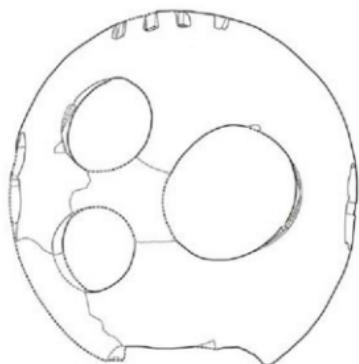


20区検出面

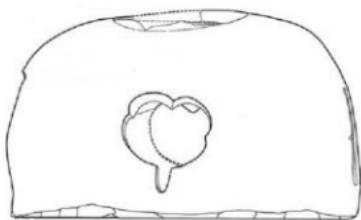
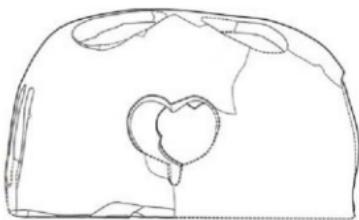
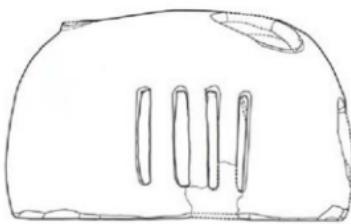


第189図 出土遺物実測図（土器68）

69区第I層



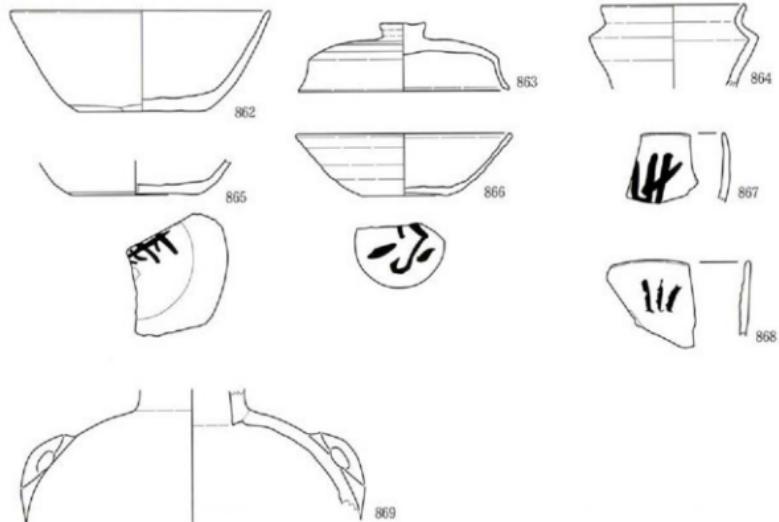
861



0 20cm

第190図 出土遺物実測図（土器69）

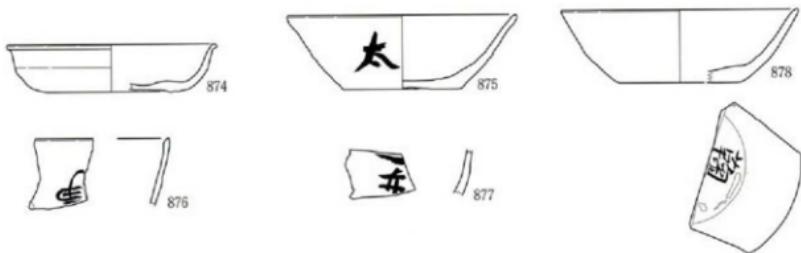
41区第Ⅰ層



41区第Ⅱ層



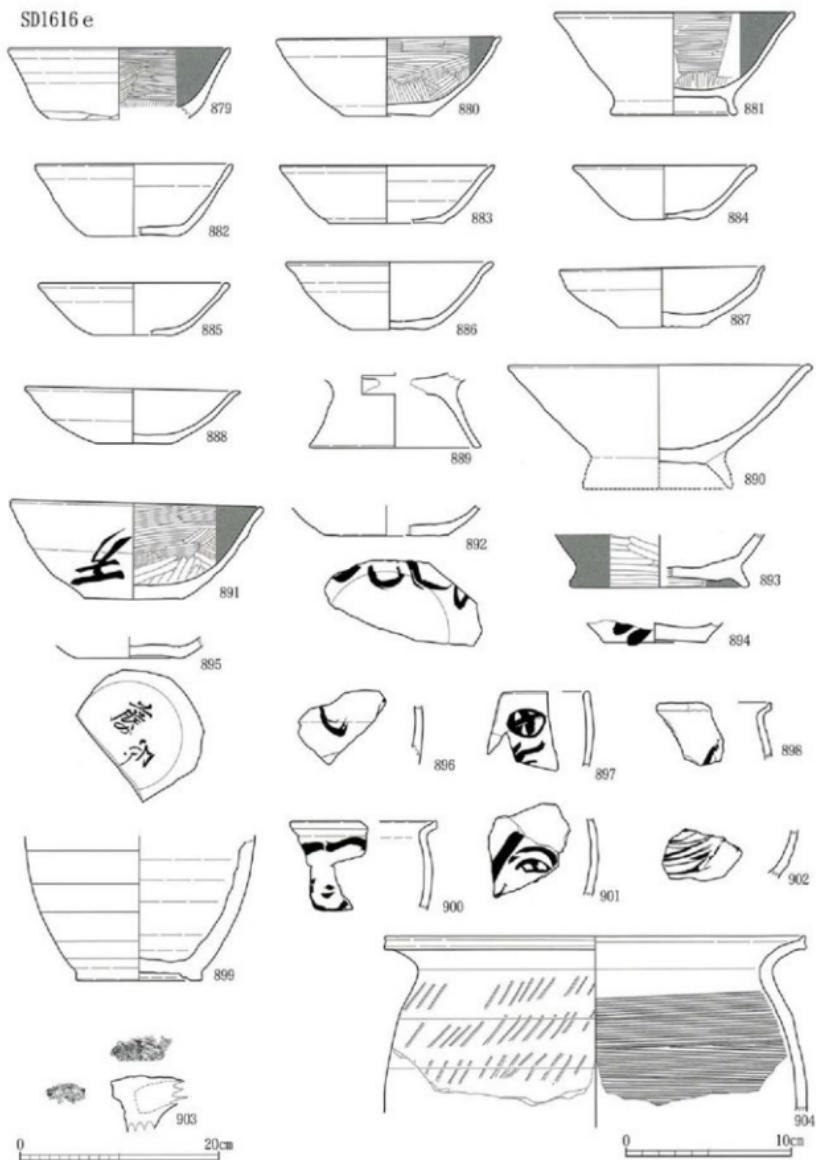
41区検出面



0 10cm

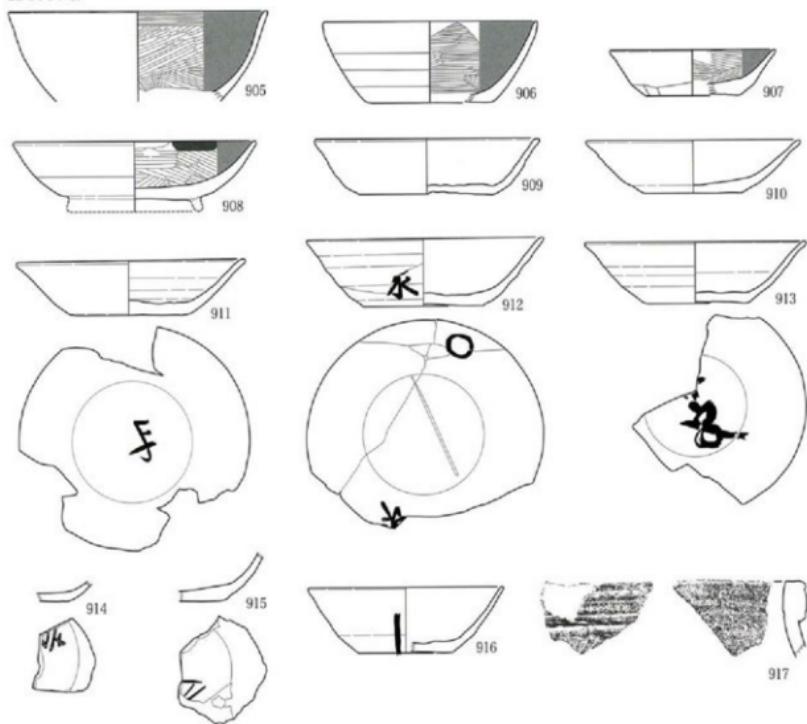
第191図 出土遺物実測図（土器70）

SD1616 e

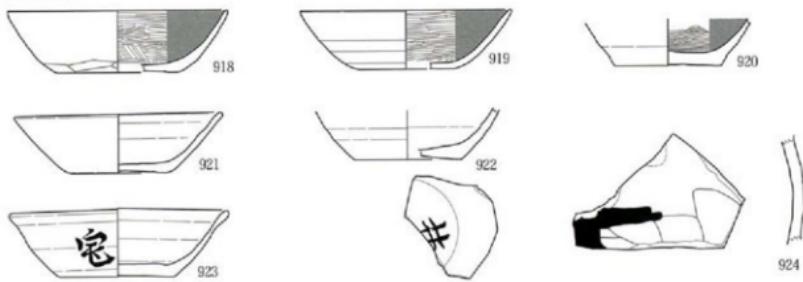


第192図 出土遺物実測図（土器71）

SD1505 a

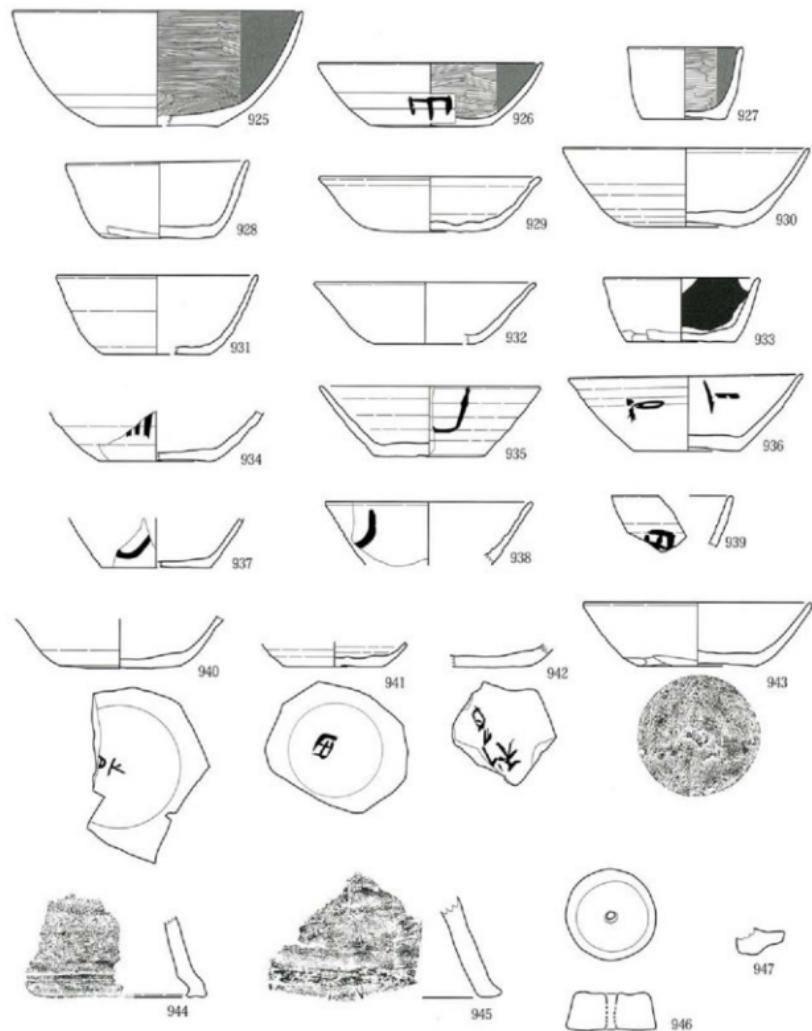


SD1505 b



第193図 出土遺物実測図（土器72）

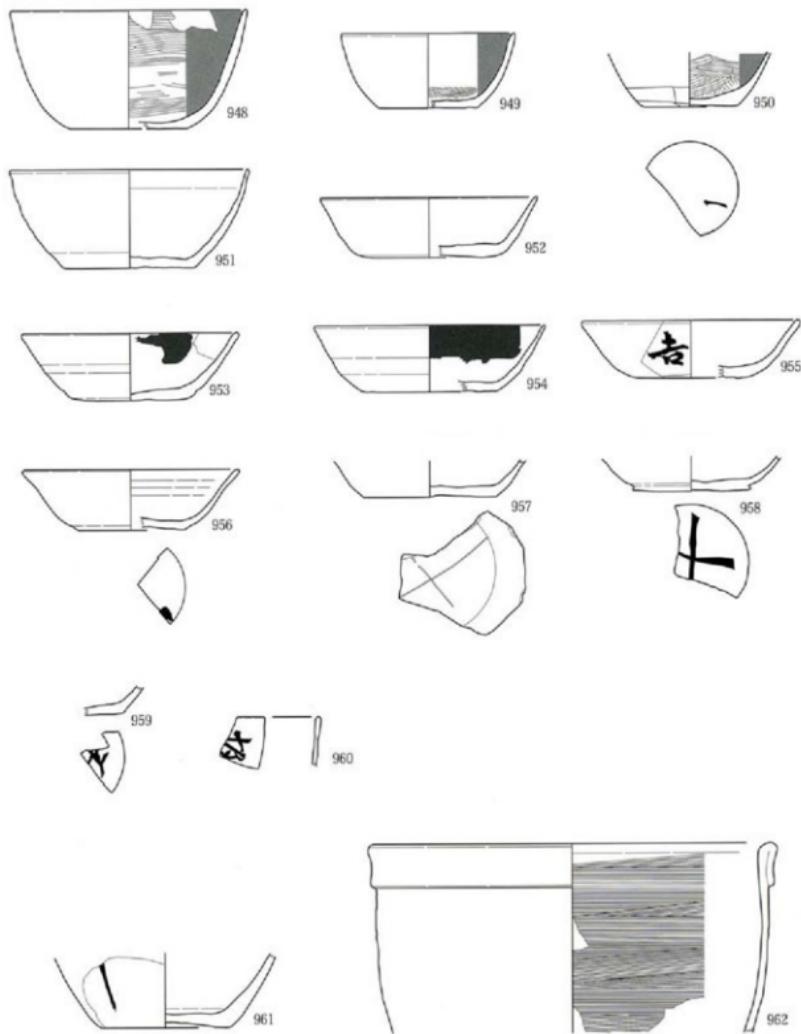
SD1502 c



0 10cm

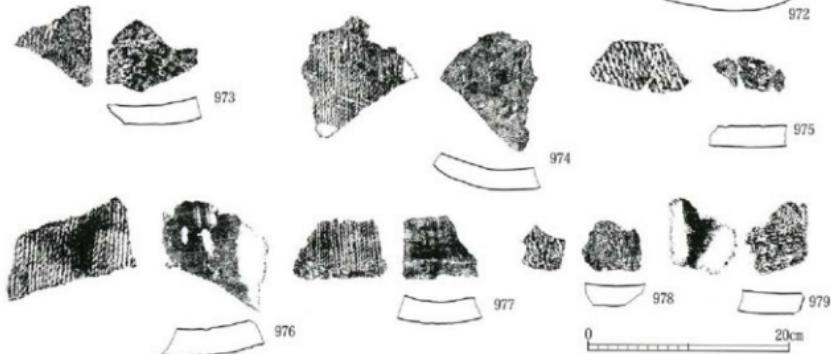
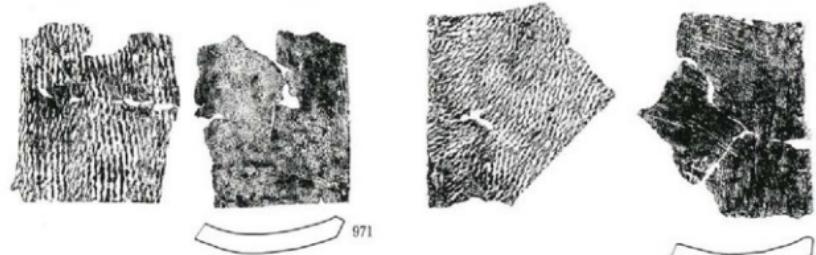
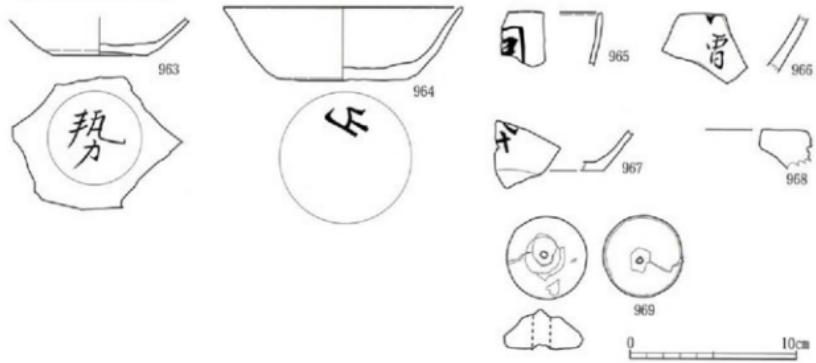
第194図 出土遺物実測図（土器73）

78区掘立柱建物跡他



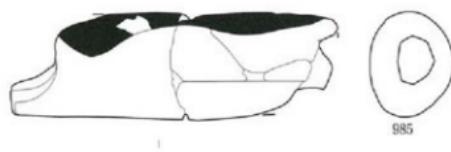
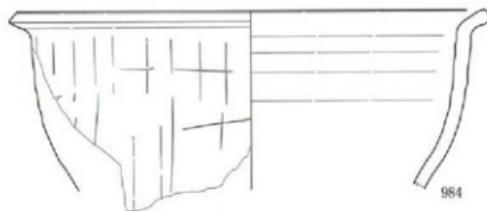
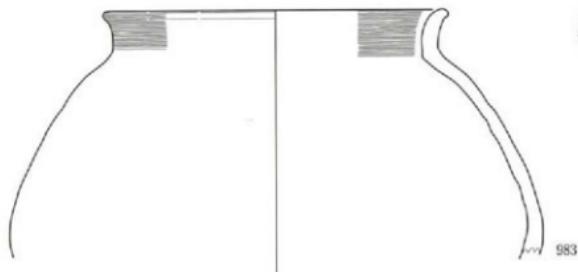
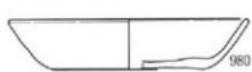
第195図 出土遺物実測図（土器74）

79区掘立柱建物跡



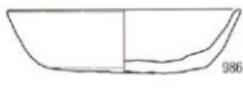
第196図 出土遺物実測図（土器75）

SI1488・1層

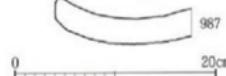


0 10cm

カマド下周溝



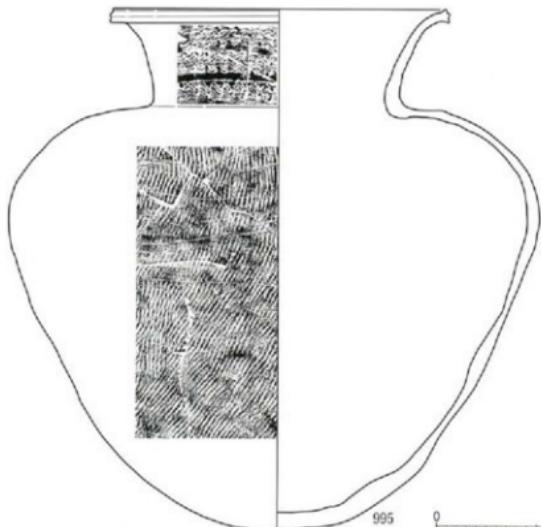
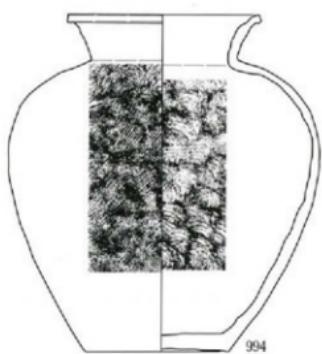
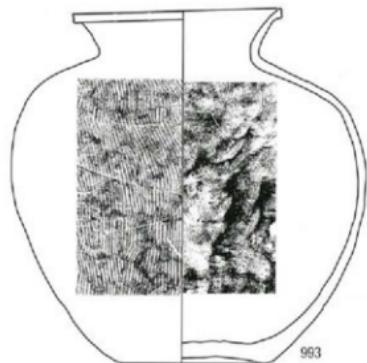
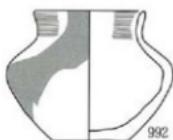
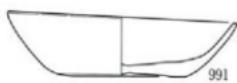
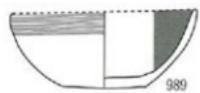
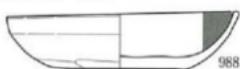
0 10cm



0 20cm

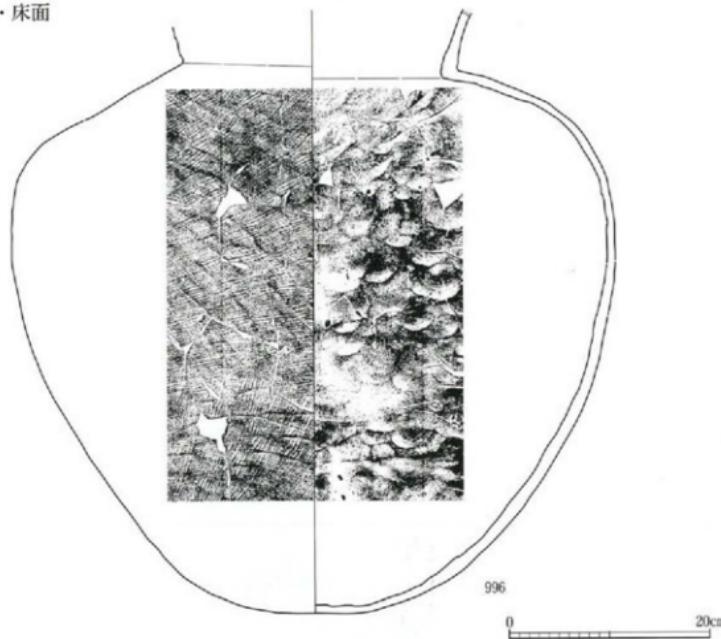
第197図 出土遺物実測図（土器76）

SI1488・床面

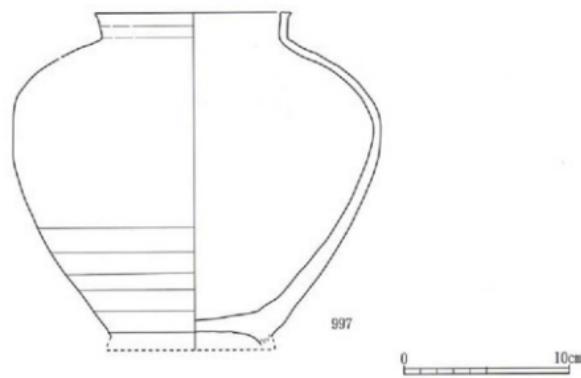


第196図 出土遺物実測図（土器77）

SI1488・床面

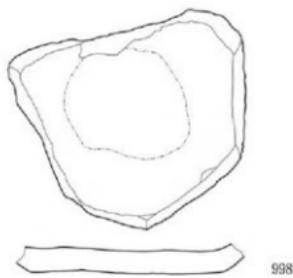


SI1488・炭化物層



第199圖 出土遺物実測図（土器78）

SI1479



998

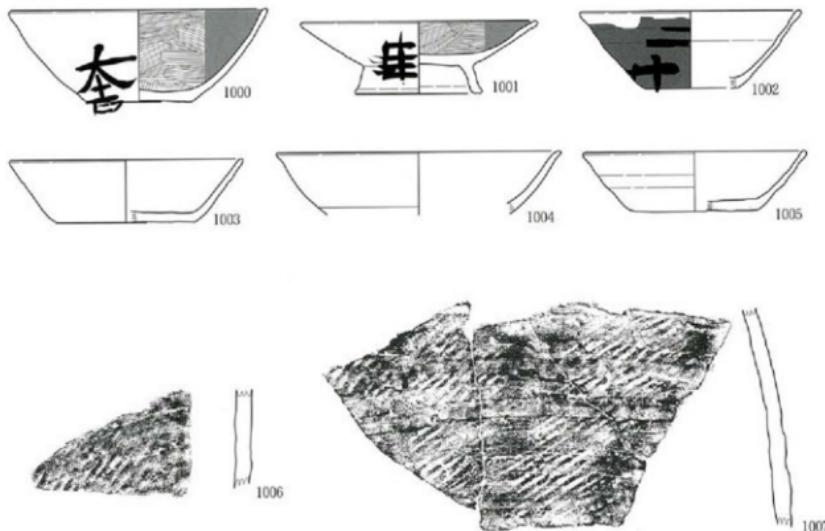


999

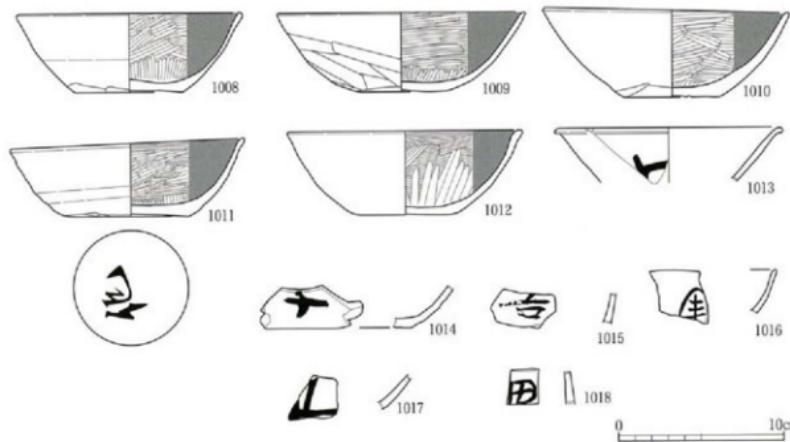


第200図 出土遺物実測図（土器79）

SE1552

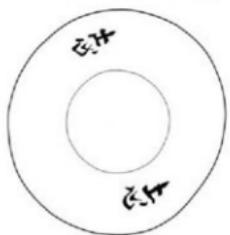
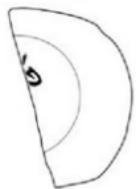
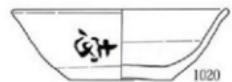


SE1535

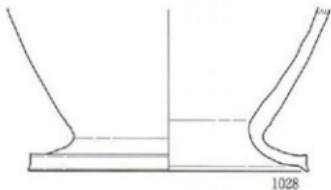
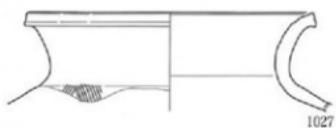
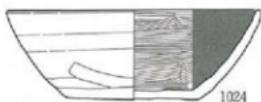


第201図 出土遺物実測図（土器80）

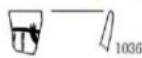
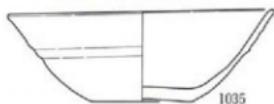
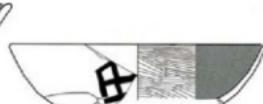
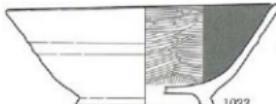
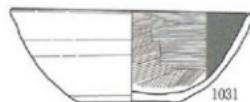
SE1545



SE1549

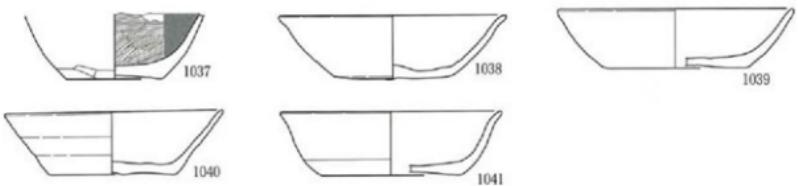


SE1559

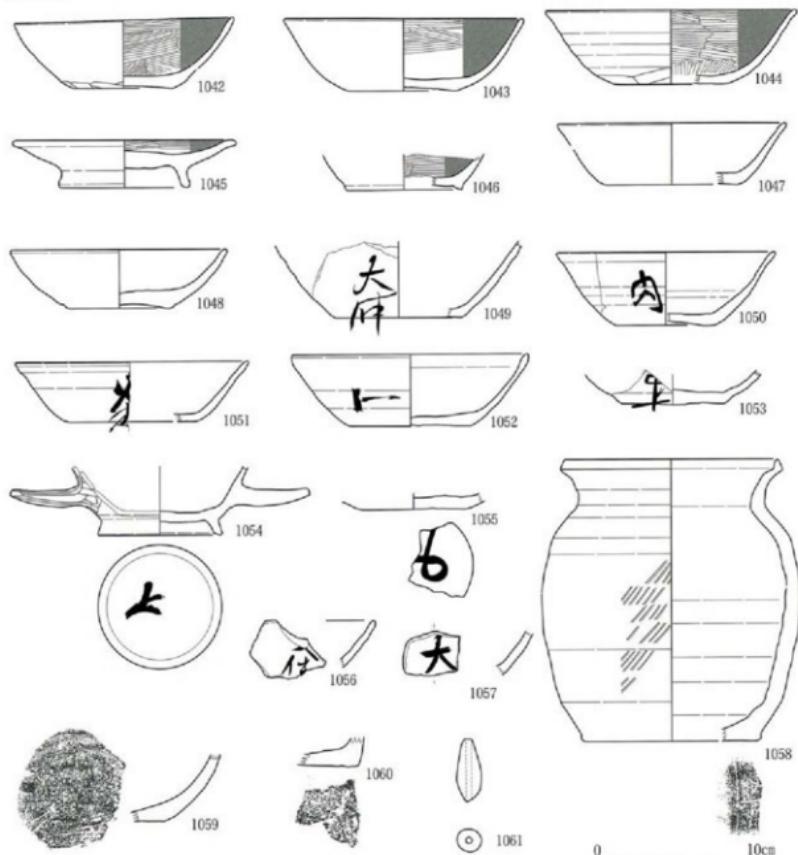


第202図 出土遺物実測図（土器81）

SE1565

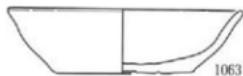
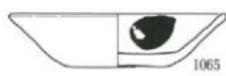
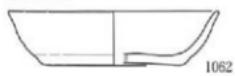


SD1510

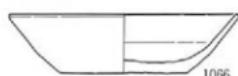


第203図 出土遺物実測図（土器82）

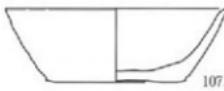
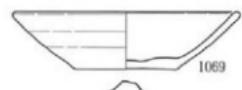
SD1513



SD1523



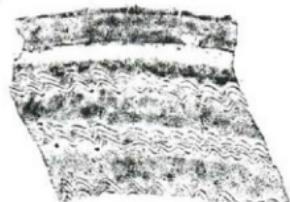
田



SD1520



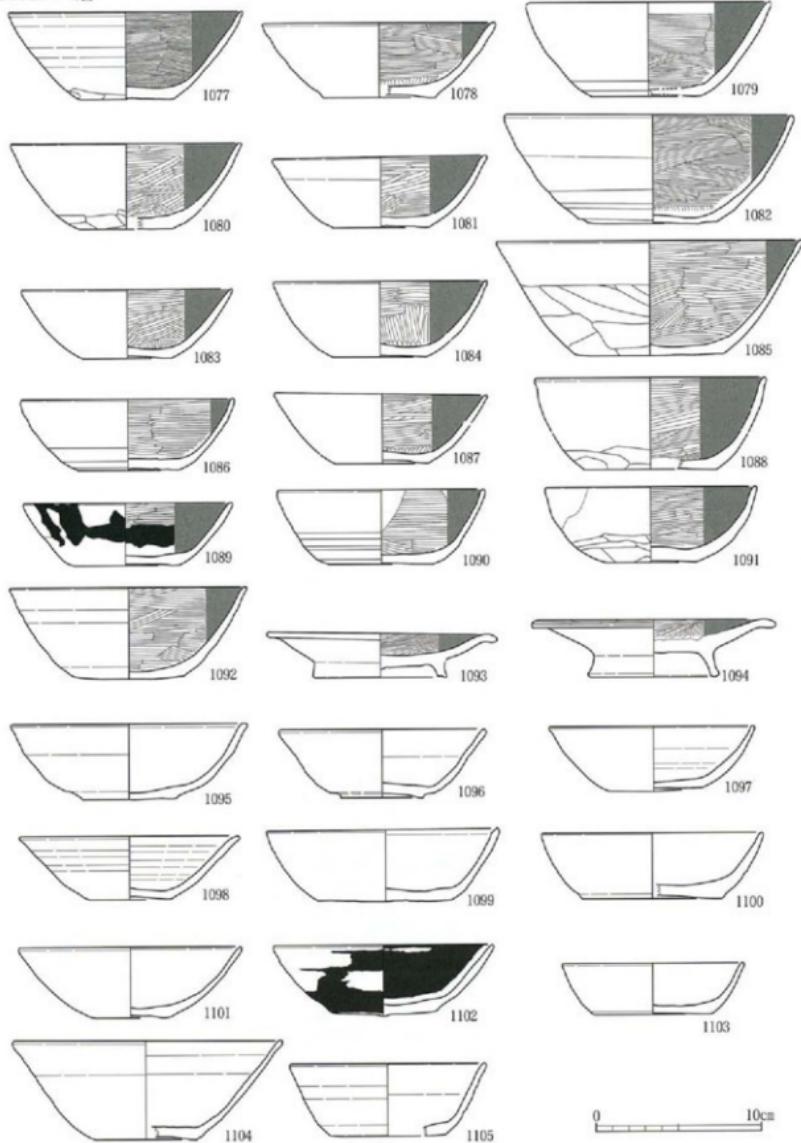
SD1515



0 10cm

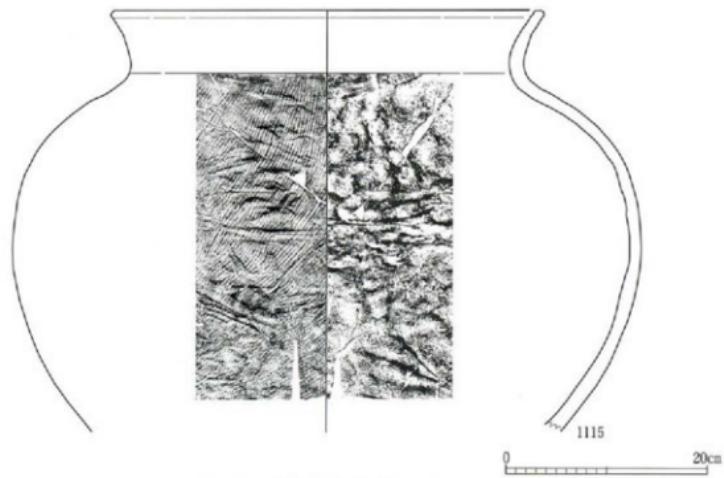
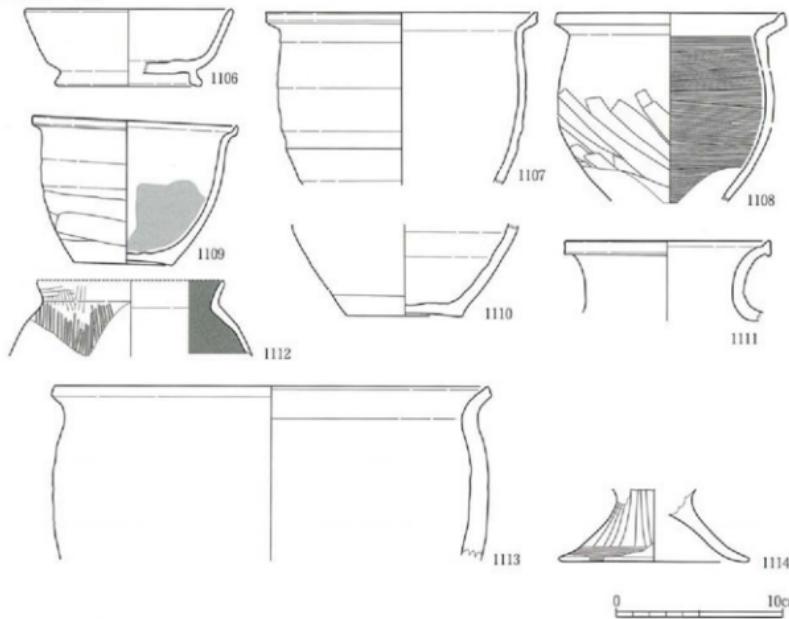
第204図 出土遺物実測図（土器83）

SD1522・1層



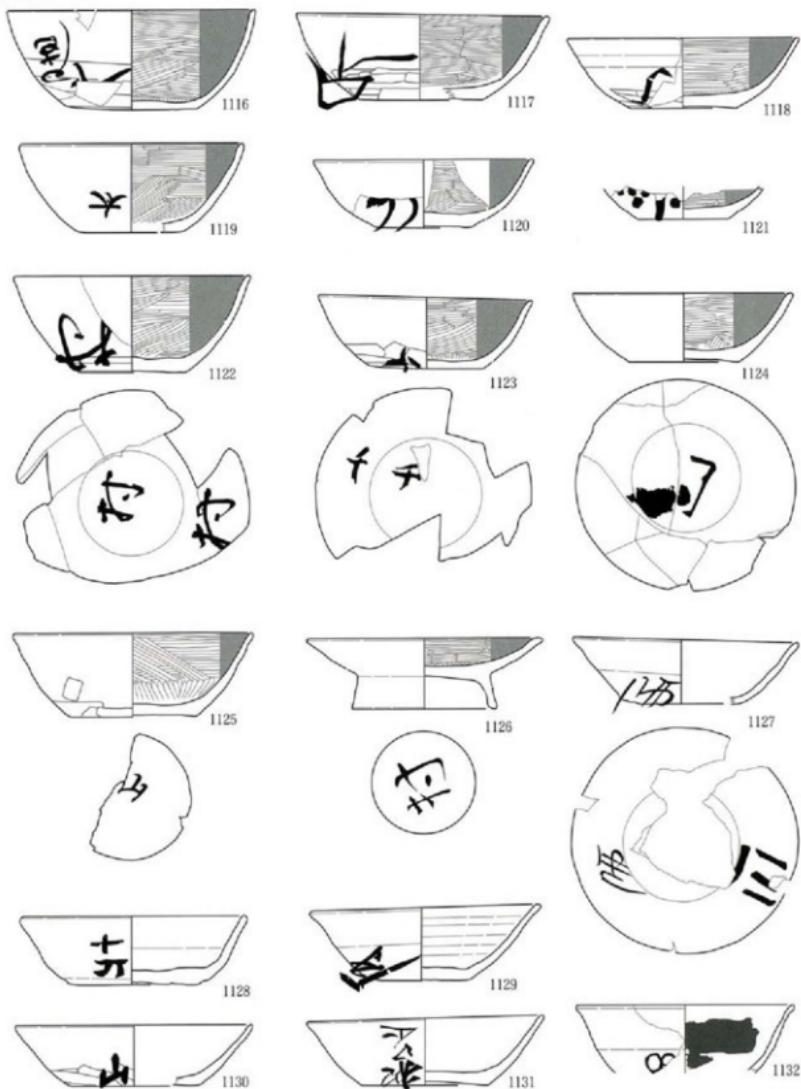
第205図 出土遺物実測図（土器84）

SD1522・1層



第206図 出土遺物実測図（土器85）

SD1522・1層

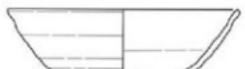


第207図 出土遺物実測図（土器86）

SD1522・1層



1133



1134

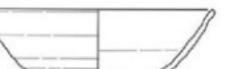


1135



速

1136



口

1137



長

1138



速

速

1139



吉

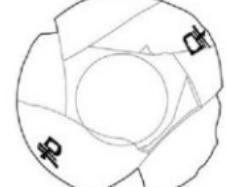
1140



1141



1142



1143



1144



1145



1146

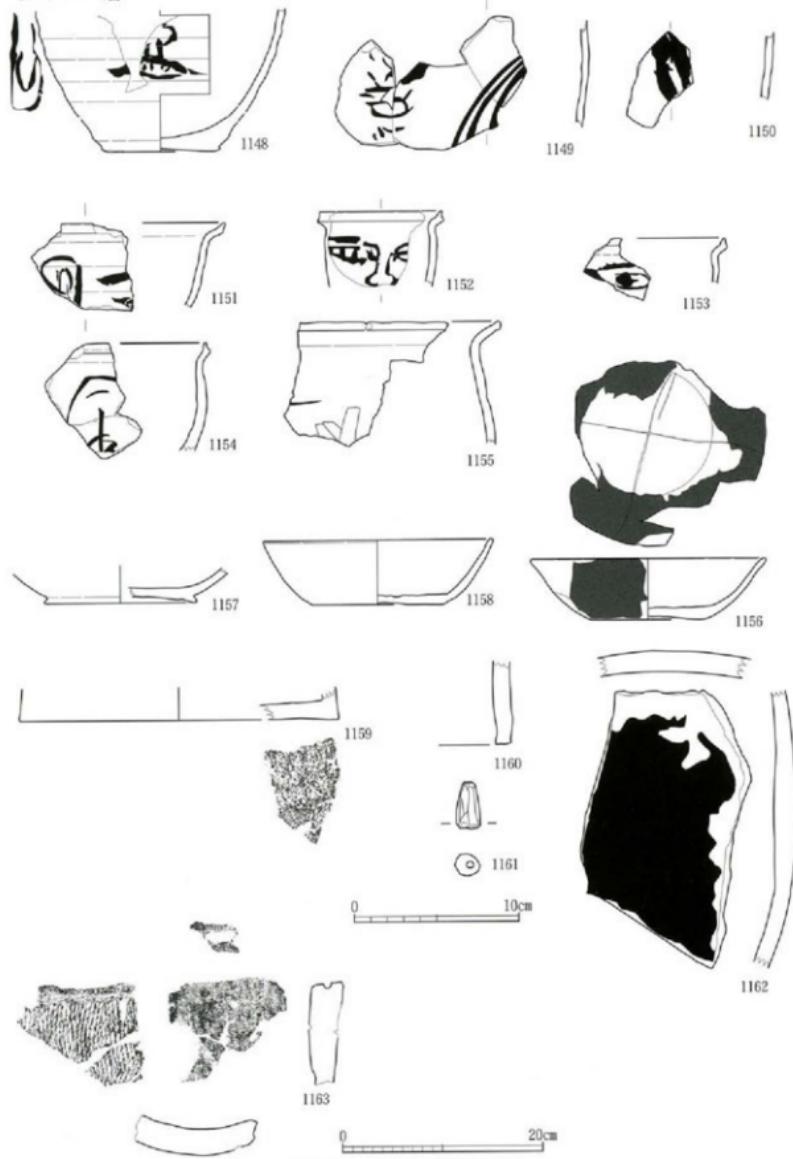


1147



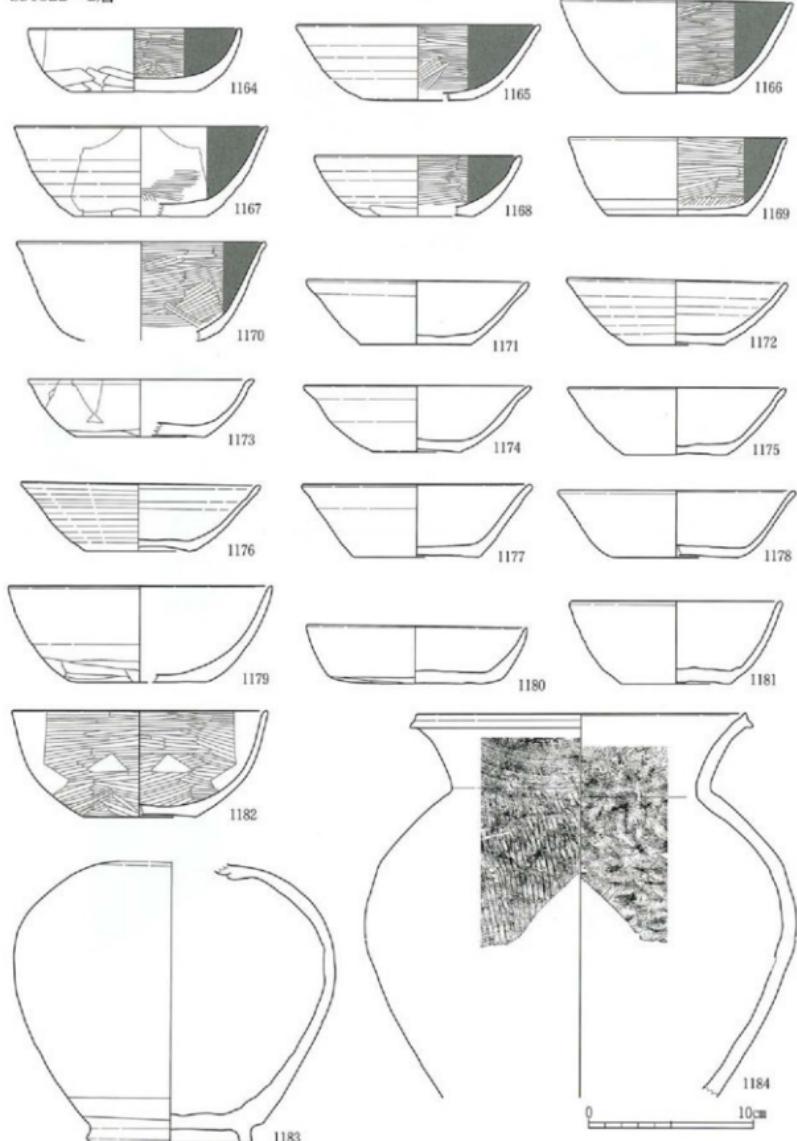
第208図 出土遺物実測図（土器87）

SD1522・1層

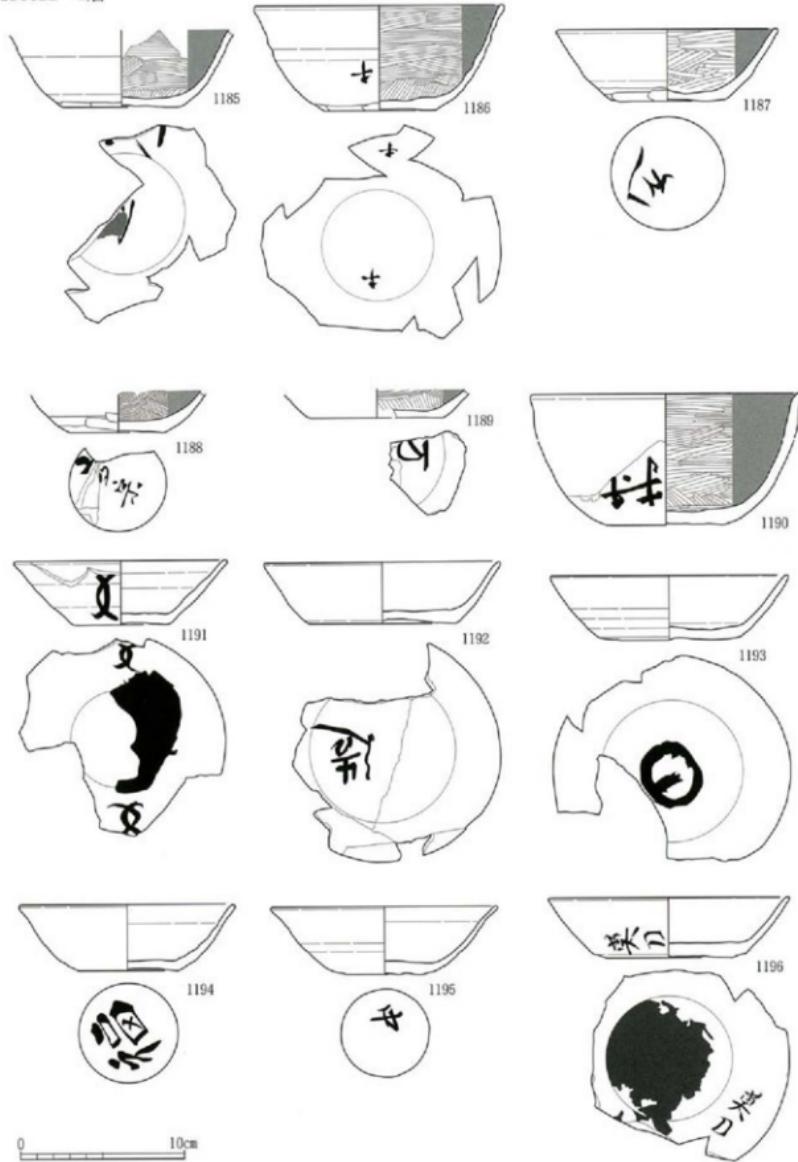


第209図 出土遺物実測図（土器88）

SD1522・2層

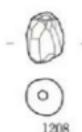
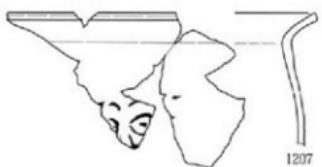
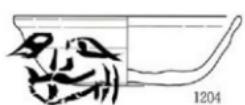
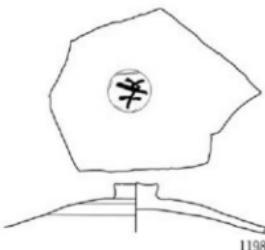
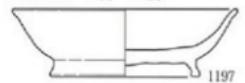


第210図 出土遺物実測図（土器89）



第211図 出土遺物実測図（土器90）

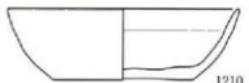
SD1522・2層・3層



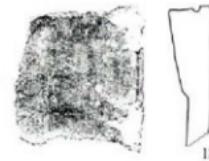
1206



1209



1210

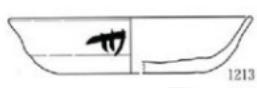
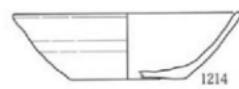


第212図 出土遺物実測図（土器91）

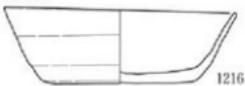
SD1507



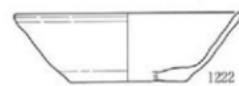
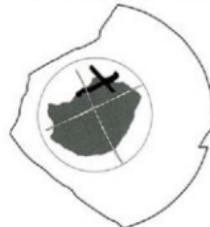
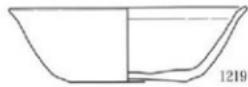
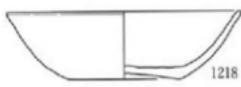
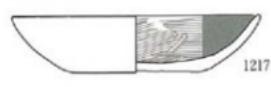
SD1509



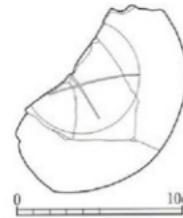
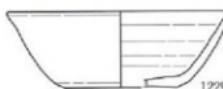
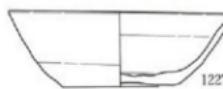
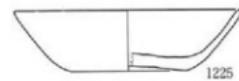
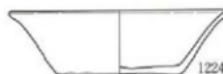
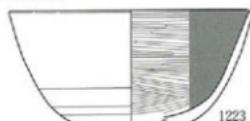
SD1508



SD1558

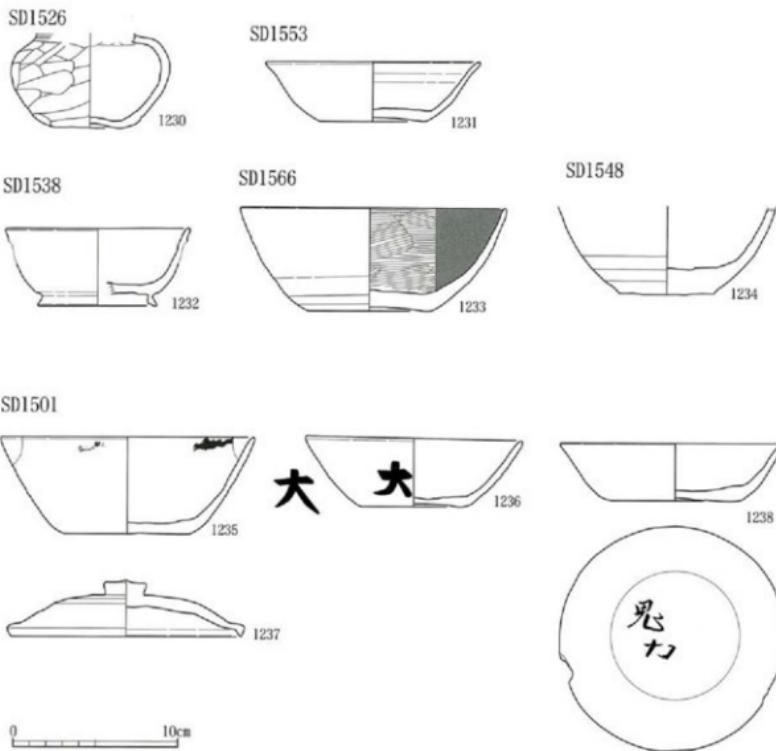


SD1570



0 10cm

第213図 出土遺物実測図（土器92）



第214図 出土遺物実測図（土器93）

SK1518



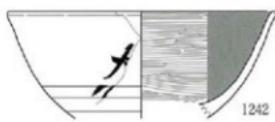
1239



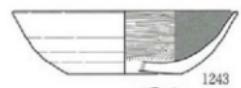
1240



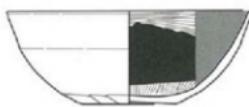
1241



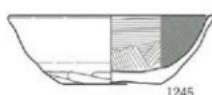
1242



1243



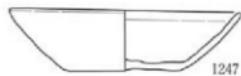
1244



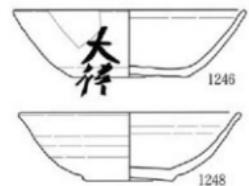
1245



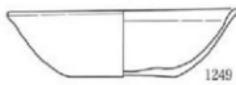
1246



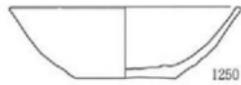
1247



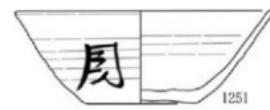
1248



1249



1250



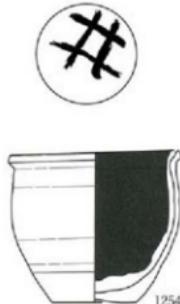
1251



1252



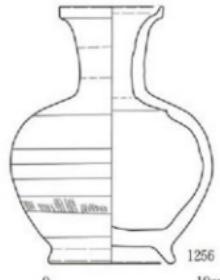
1253



1254



1255



1256

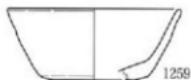
0 10cm

第215図 出土遺物実測図（土器94）

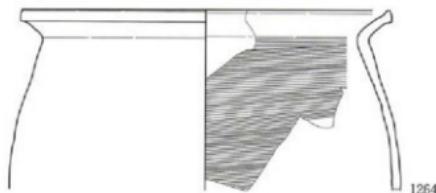
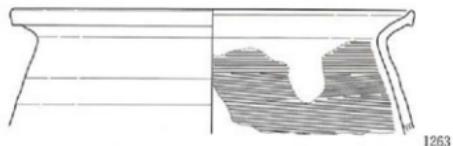
SK1551



SK1557



SK1544



第216図 出土遺物実測図（土器95）

SK1556

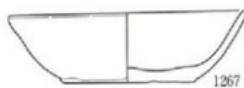


1265



1266

SK1567



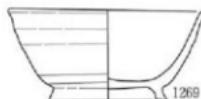
1267

SK1568

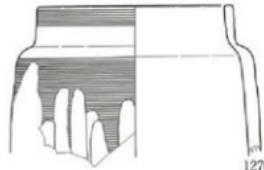


1268

SK1576

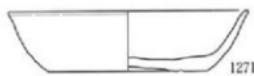


1269



1270

SK1574



1271

SK1555



1272

SK1572

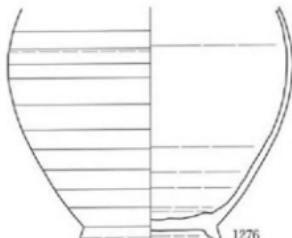


1273

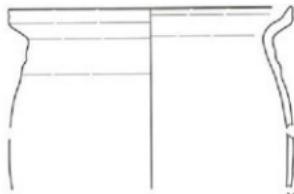
SK1571



1274



1276



1275

SK1611

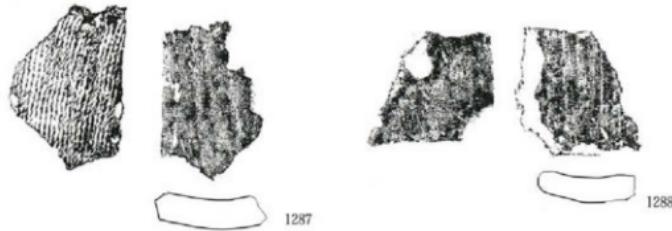
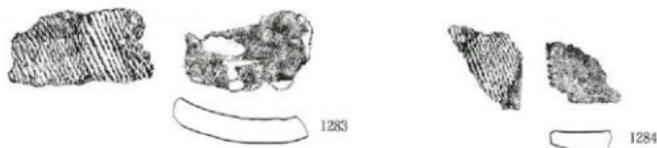
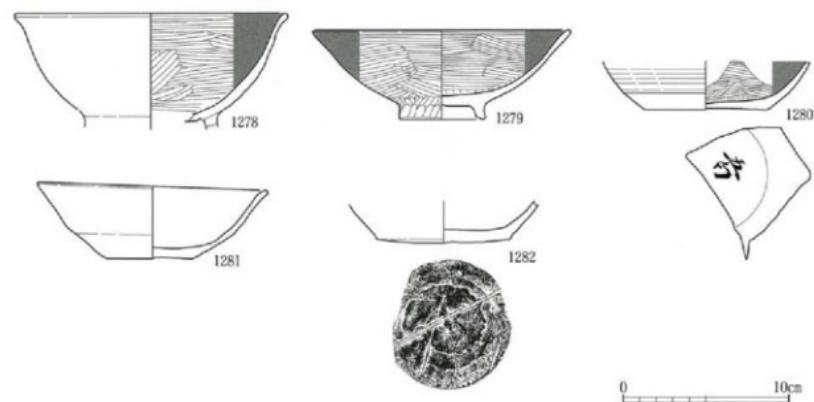


1277

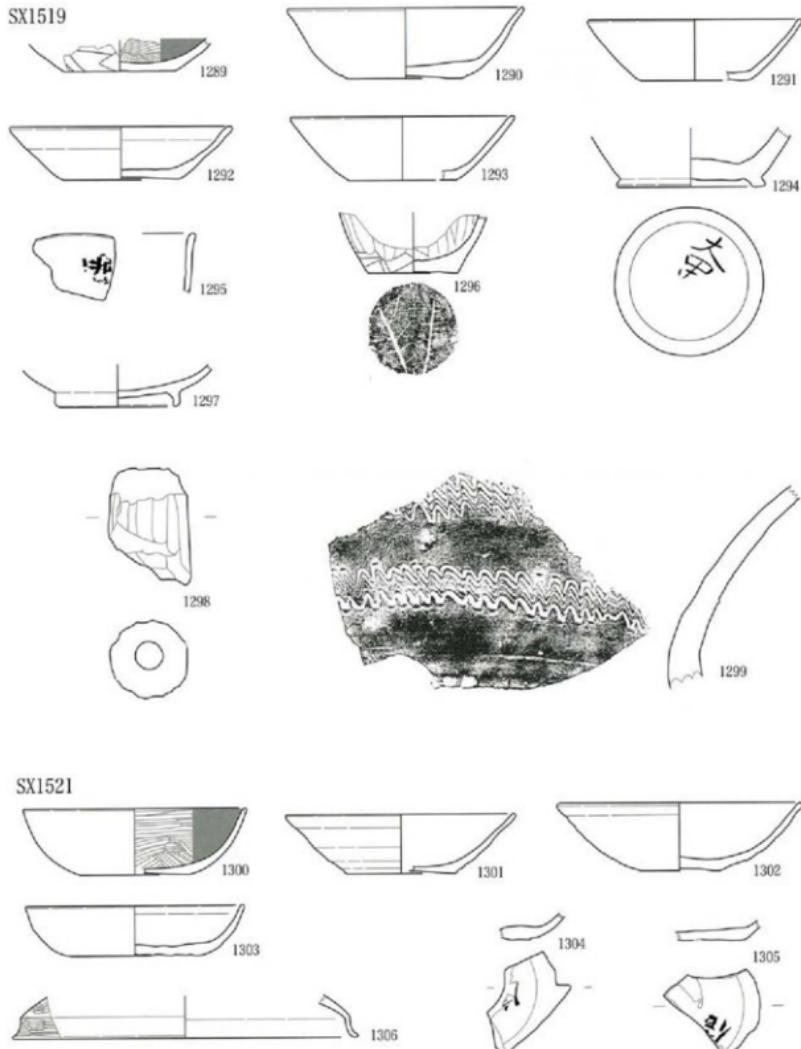
0 10cm

第217図 出土遺物実測図（土器96）

SK1482

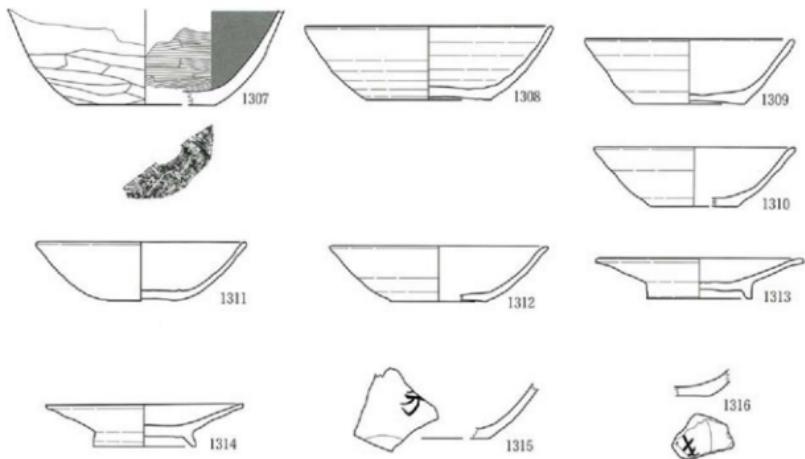


第218圖 出土遺物實測圖（土器97）

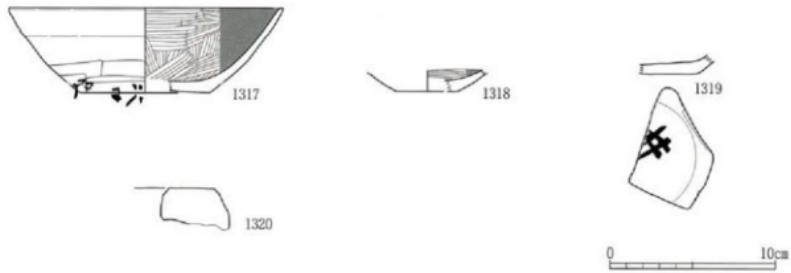


第219図 出土遺物実測図（土器96）

SX1543

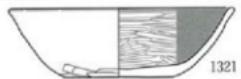


SX1447



第220図 出土遺物実測図（土器99）

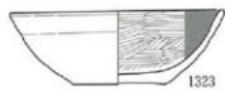
SX1524



1321



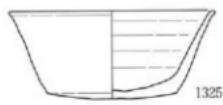
1322



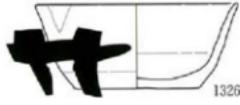
1323



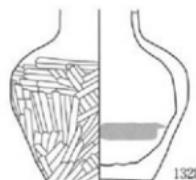
1324



1325



1326



1328



1329



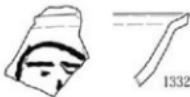
1327



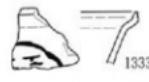
1330



1331



1332



1333



1334



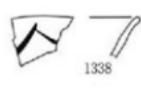
1335



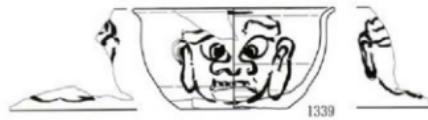
1336



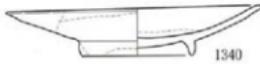
1337



1338



1339



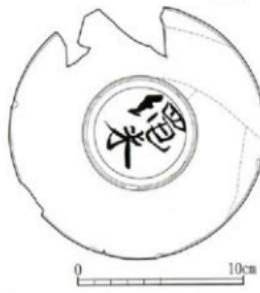
1340



1341



1342



0 10cm

第221図 出土遺物実測図（土器100）

78区第I層



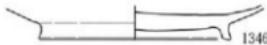
1343



1344



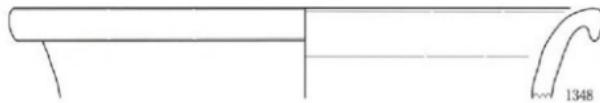
1345



1346



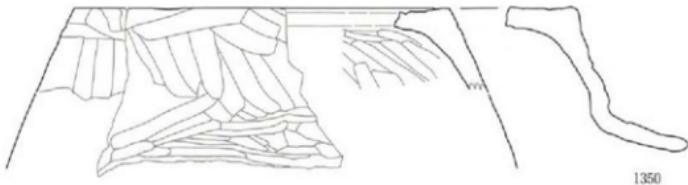
1347



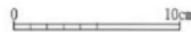
1348



1349

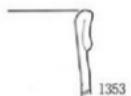
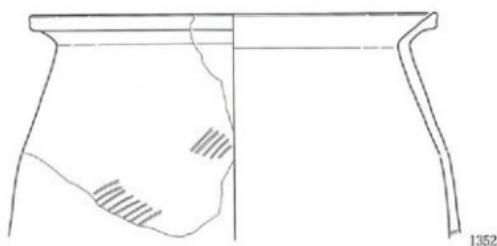
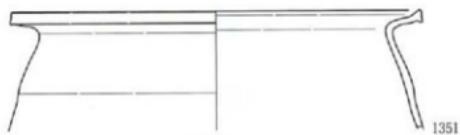


1350



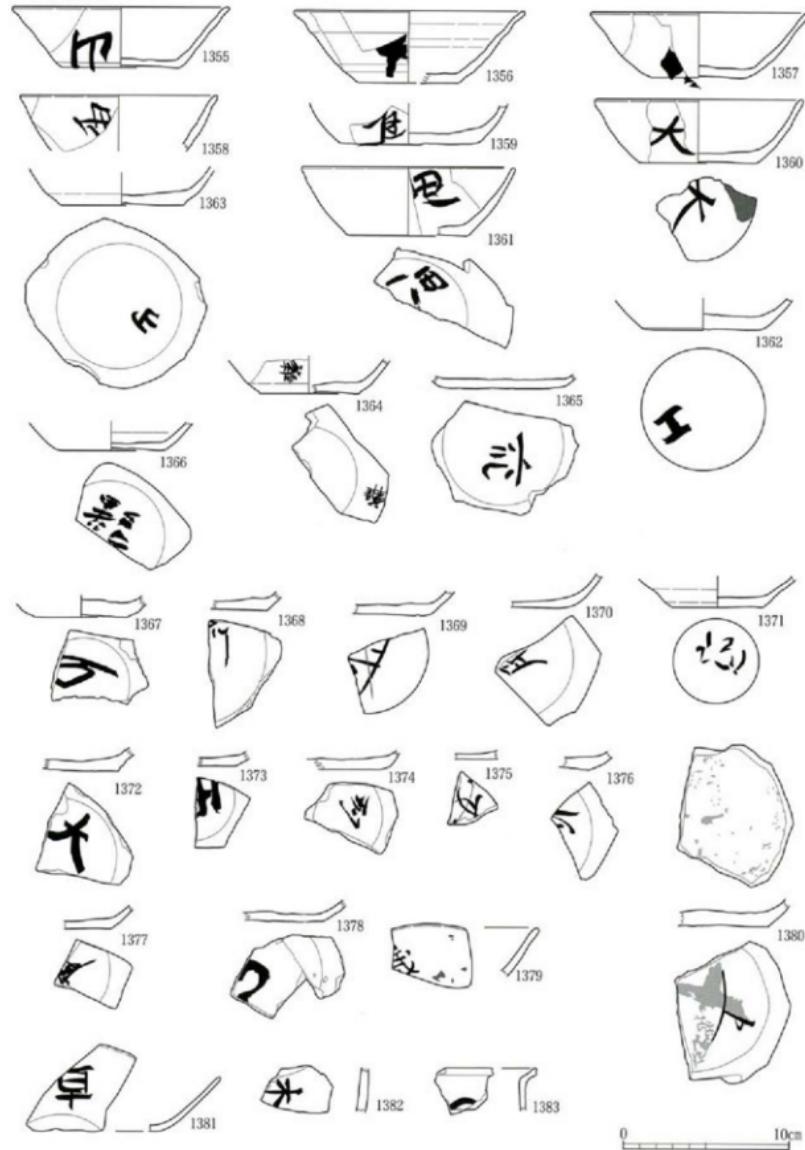
第222圖 出土遺物實測圖（土器101）

78区第1層



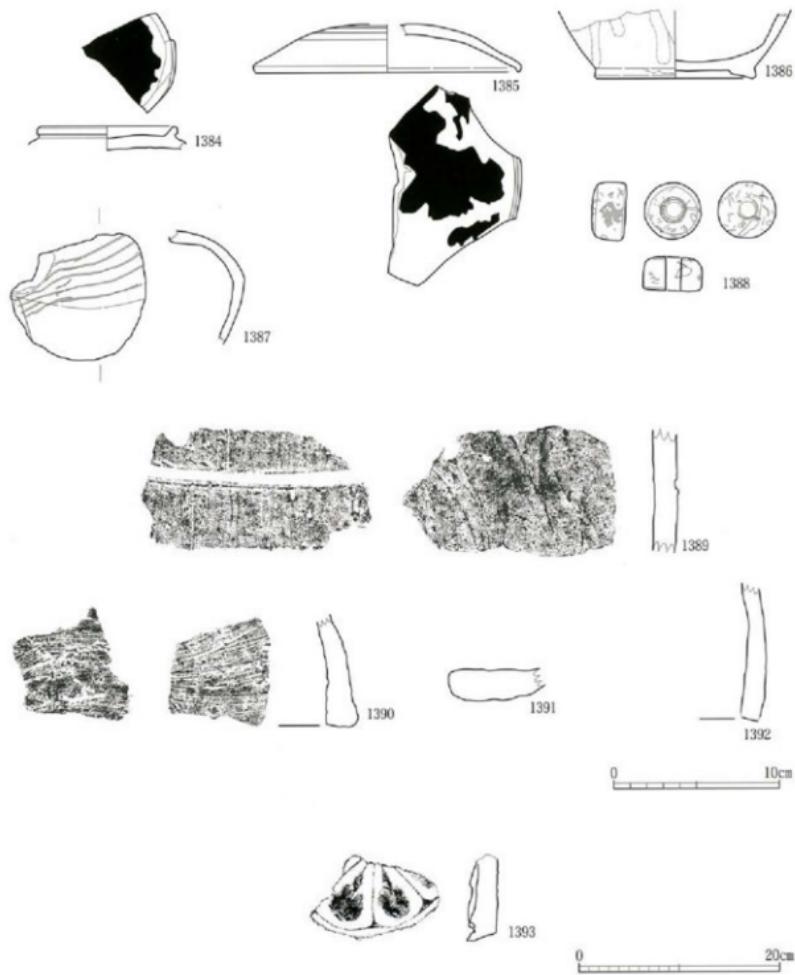
第223図 出土遺物実測図（土器102）

78区検出面



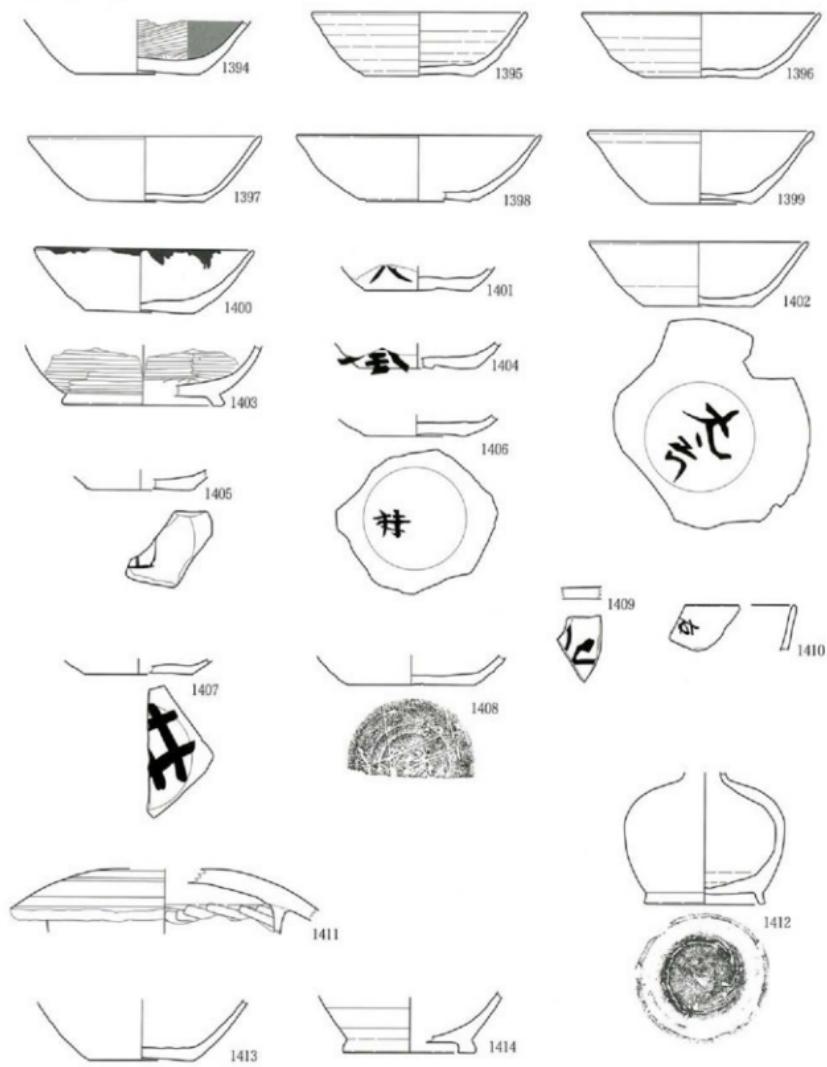
第224図 出土遺物実測図（土器103）

78区検出面



第225図 出土遺物実測図（土器104）

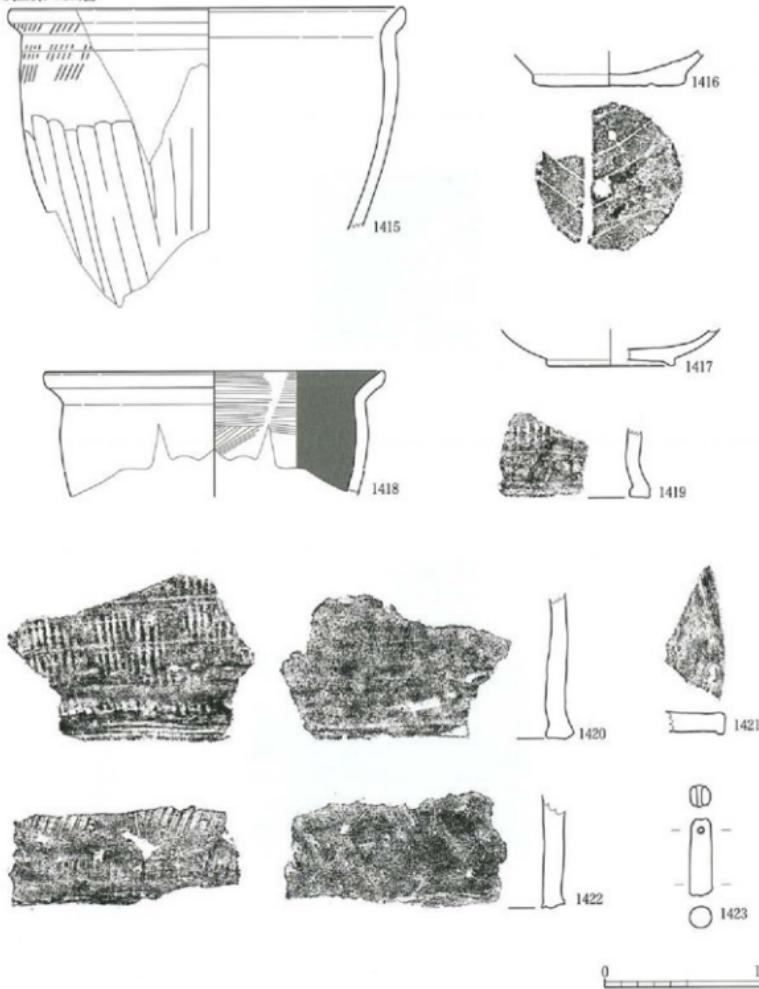
78区第VIa層



第226図 出土遺物実測図（土器105）

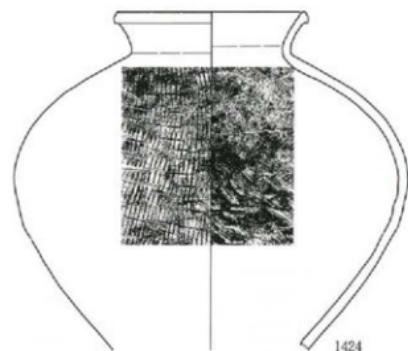
0 10cm

78区第VIa層

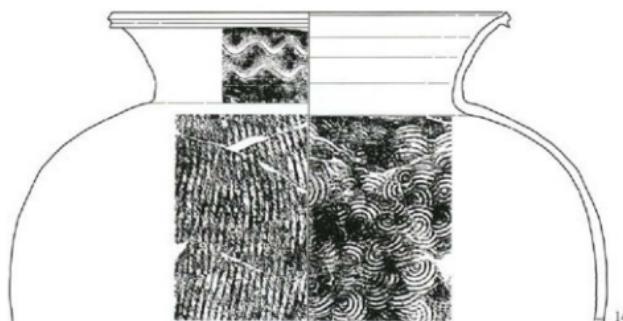


第227図 出土遺物実測図（土器106）

78区第VIa層



1424

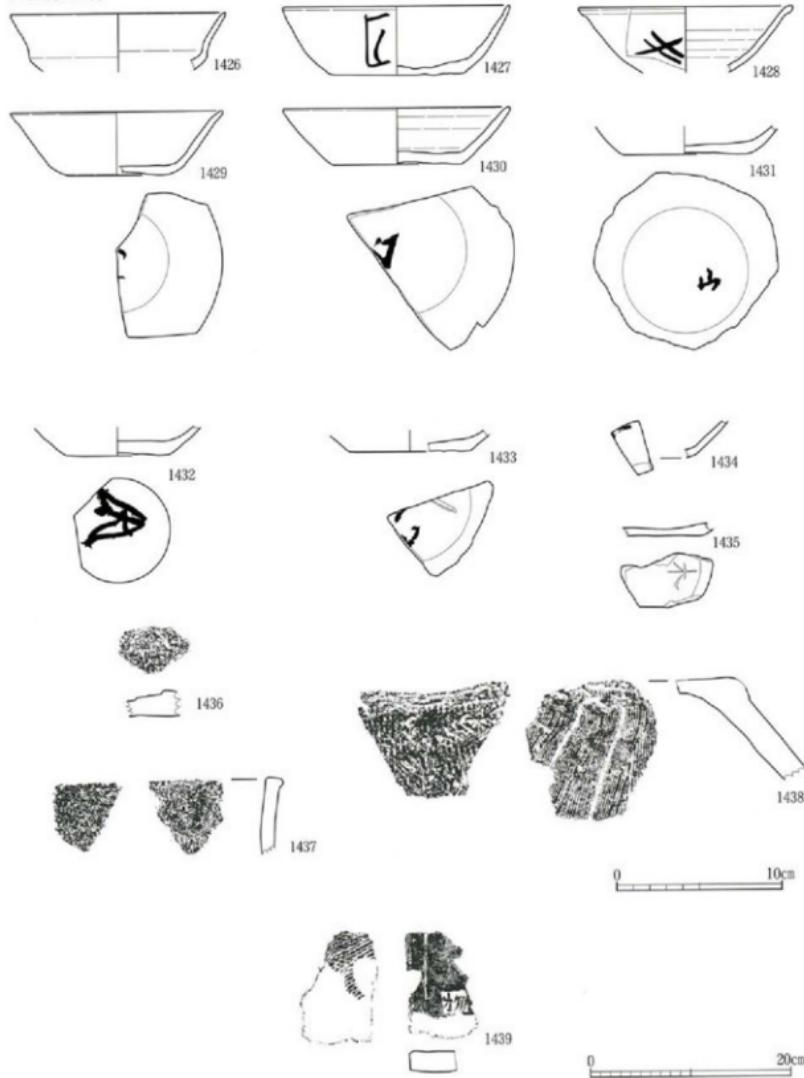


1425

0 20cm

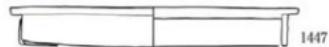
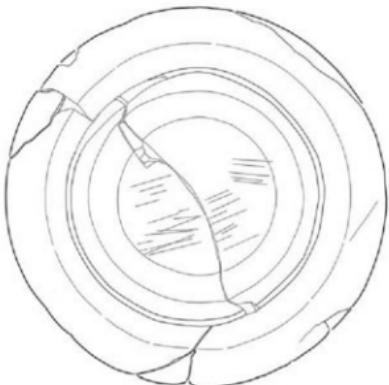
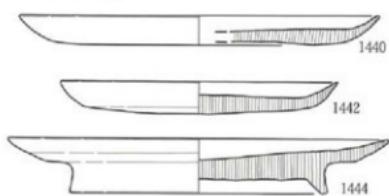
第228図 出土遺物実測図（土器107）

79区第1層

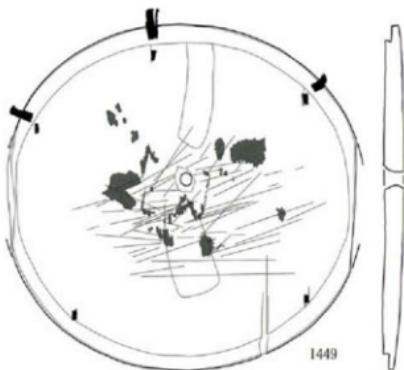
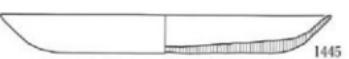


第229図 出土遺物実測図（土器106）

SX1351C・1層

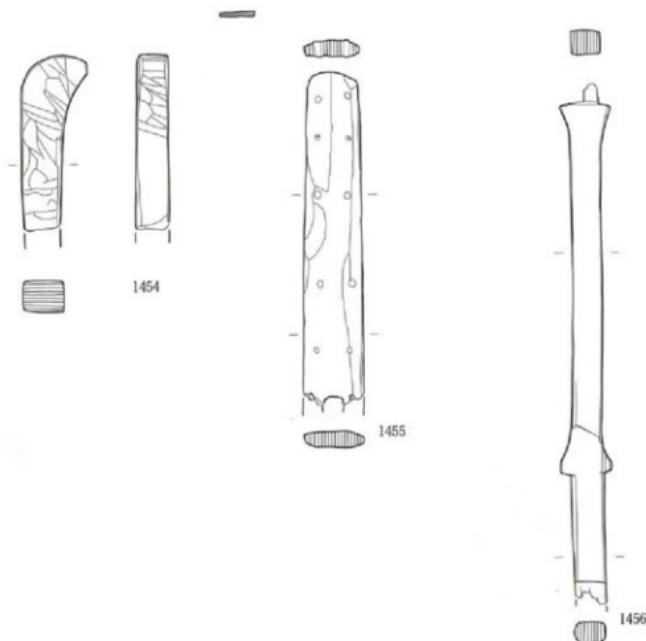
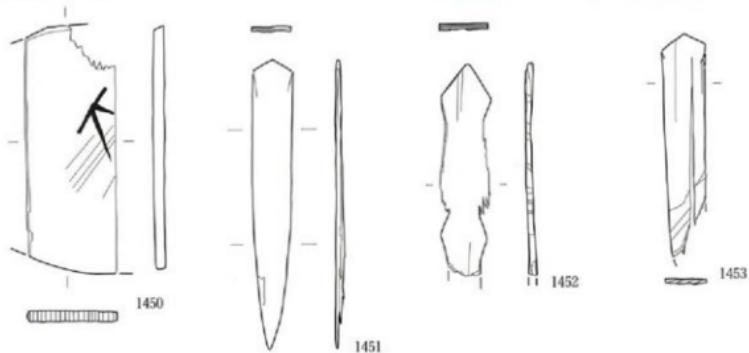


0 10cm



第230図 出土遺物実測図（木製品1）

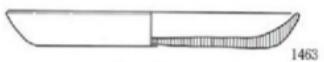
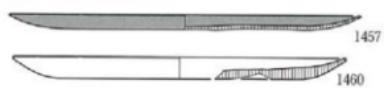
SX1351C・1層



0 10cm

第231図 出土遺物実測図（木製品2）

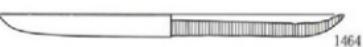
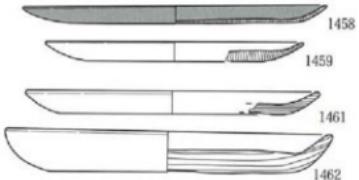
SX1351C・2層



1460



1463



0 10cm

第232図 出土遺物実測図(木製品3)

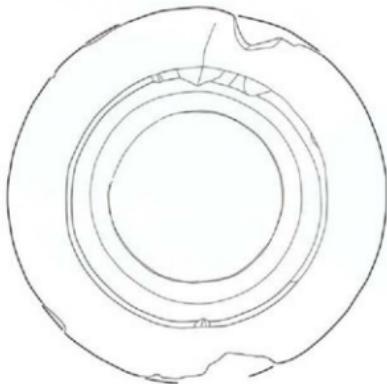
SX1351C・2層



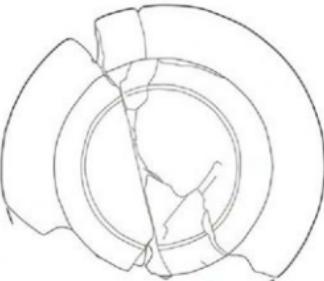
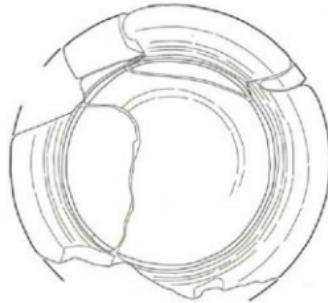
1466



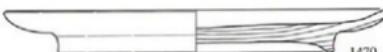
1467



1468



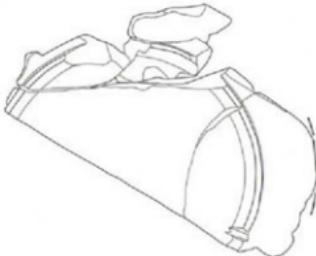
1469



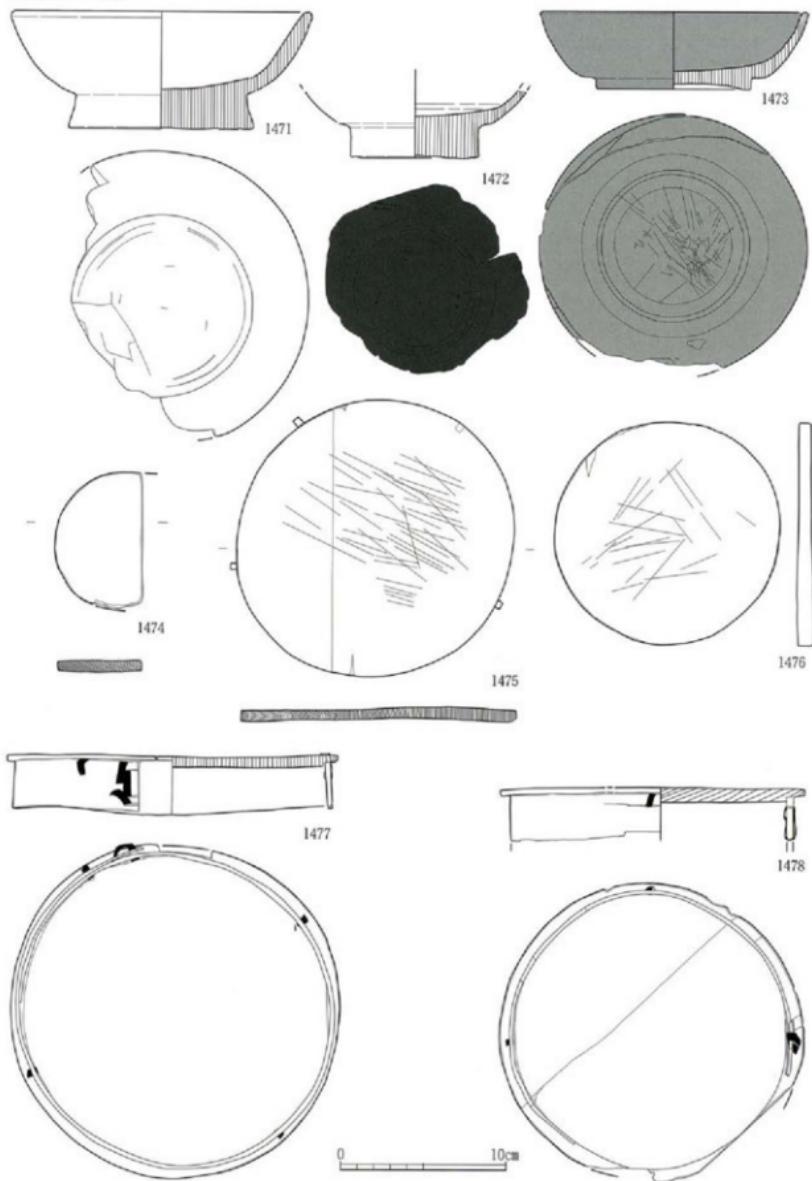
1470



第233図 出土遺物実測図（木製品4）

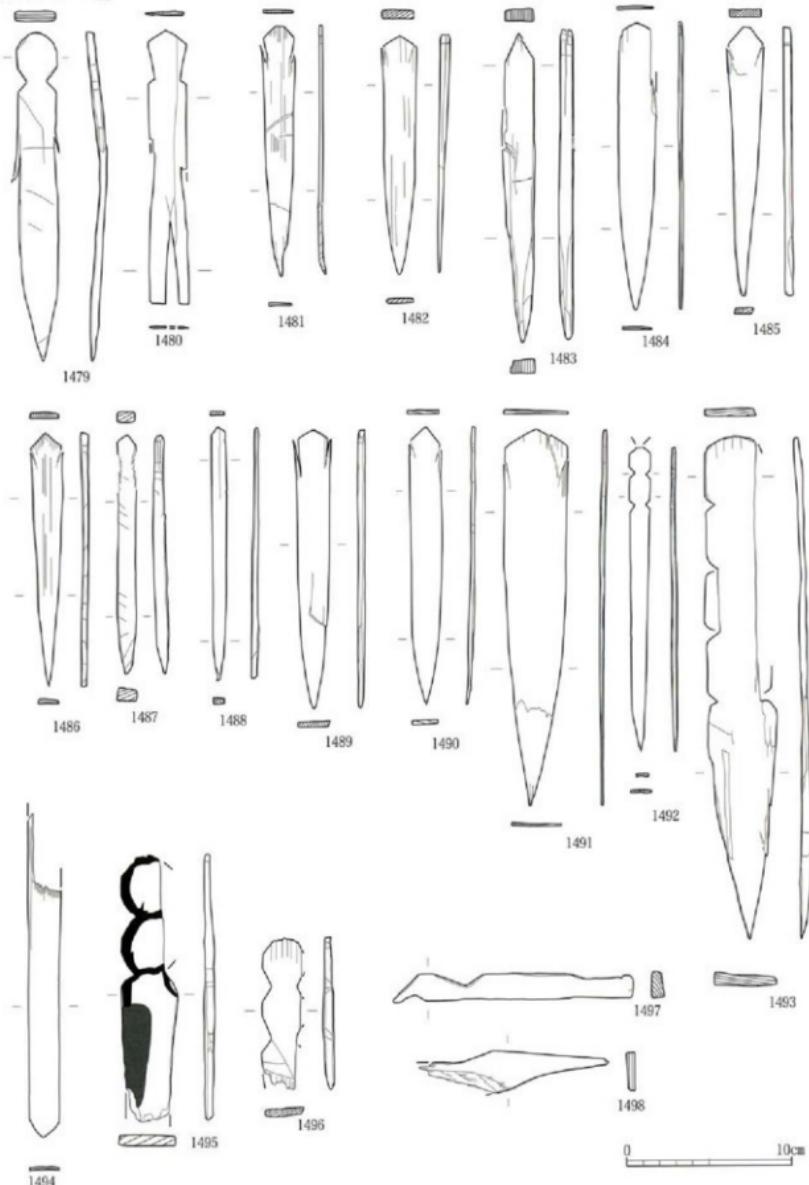


SX1351C・2層



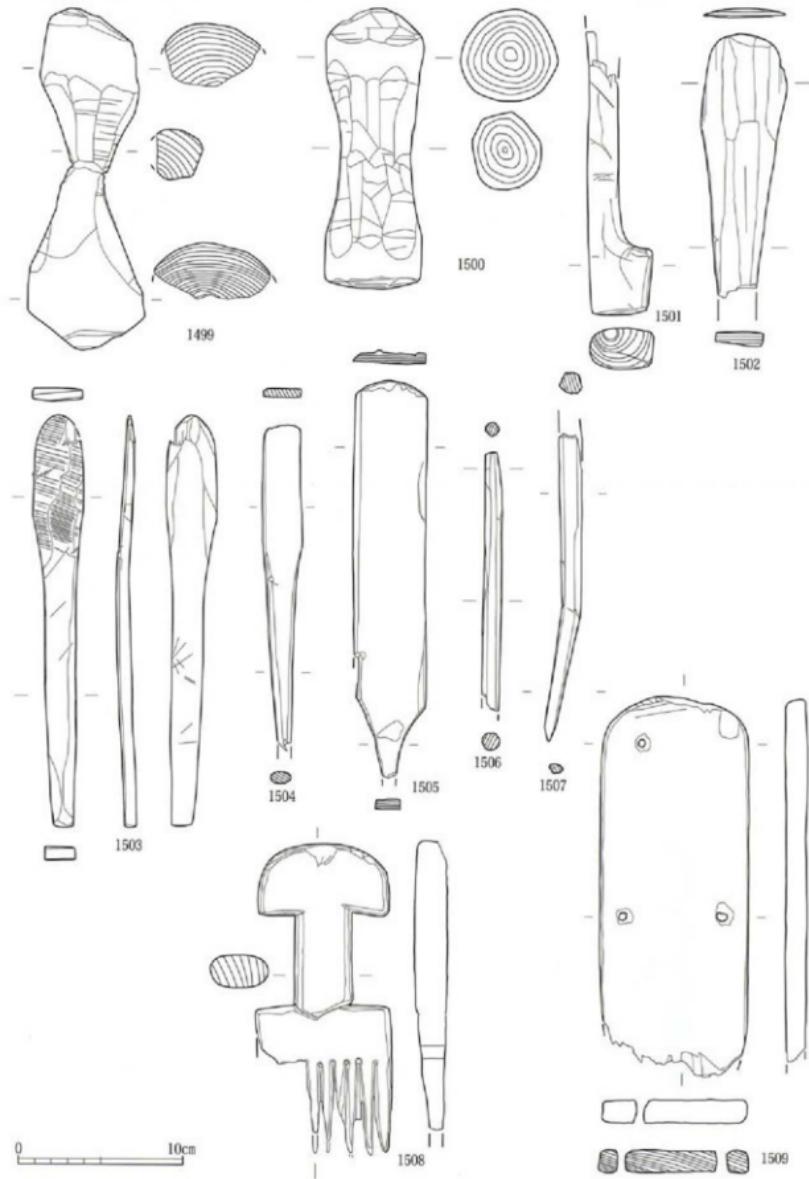
第234図 出土遺物実測図（木製品 5）

SX1351C・2層



第235図 出土遺物実測図（木製品 6）

SX1351C・2層

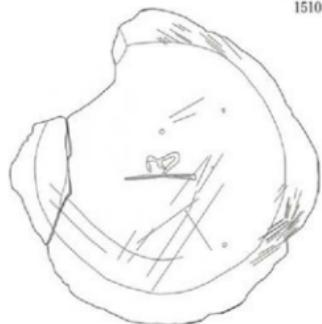


第236図 出土遺物実測図(木製品7)

SX1351D



1510



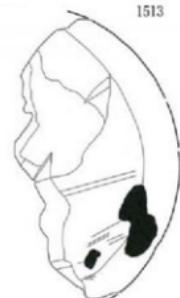
1511



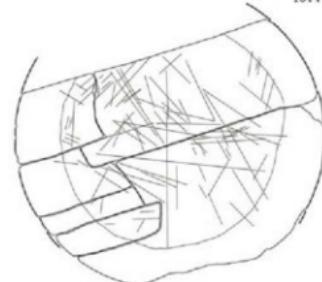
1512



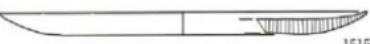
1513



1514



1515



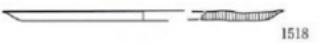
1516



1517

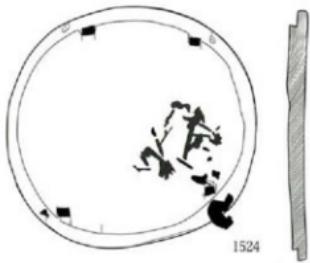
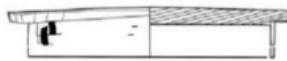
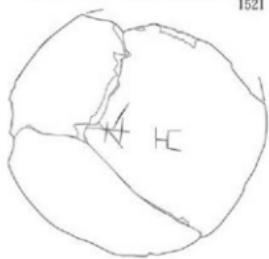
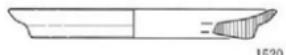
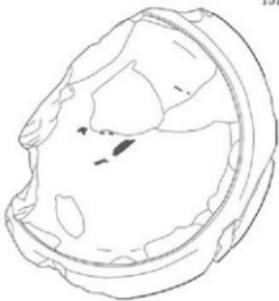
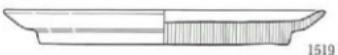


1518



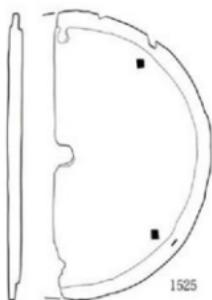
第237図 出土遺物実測図（木製品 8）

SX1351D



第238図 出土遺物実測図（木製品 9）

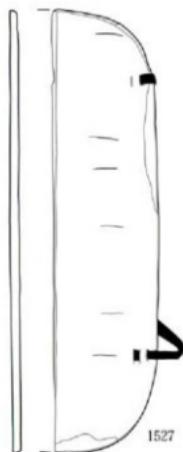
SX1351D



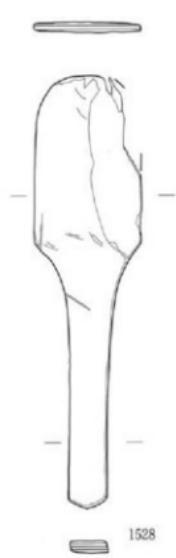
1525



1526



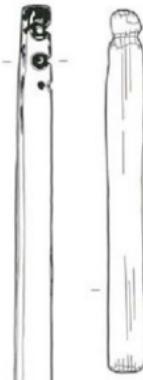
1527



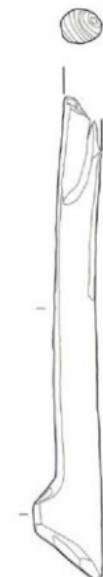
1528



1529



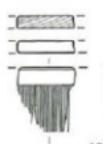
1530



1531



1532

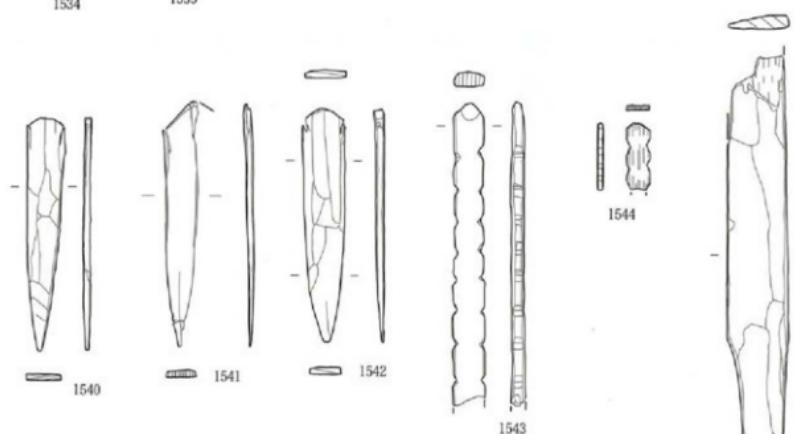
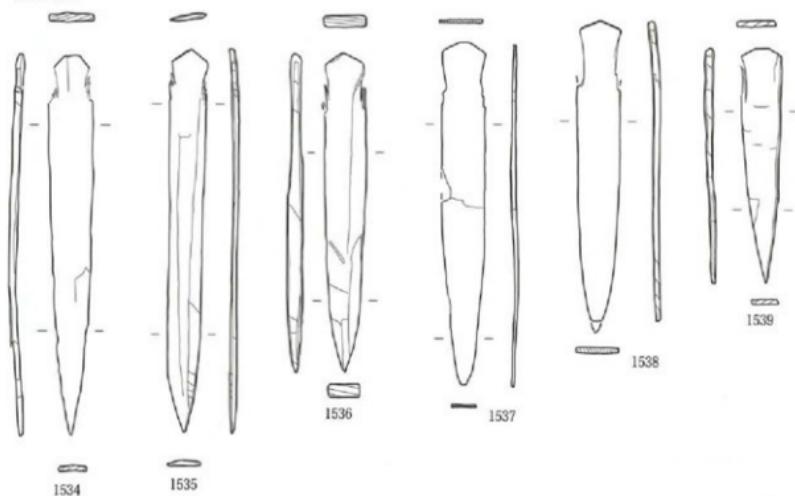


1533



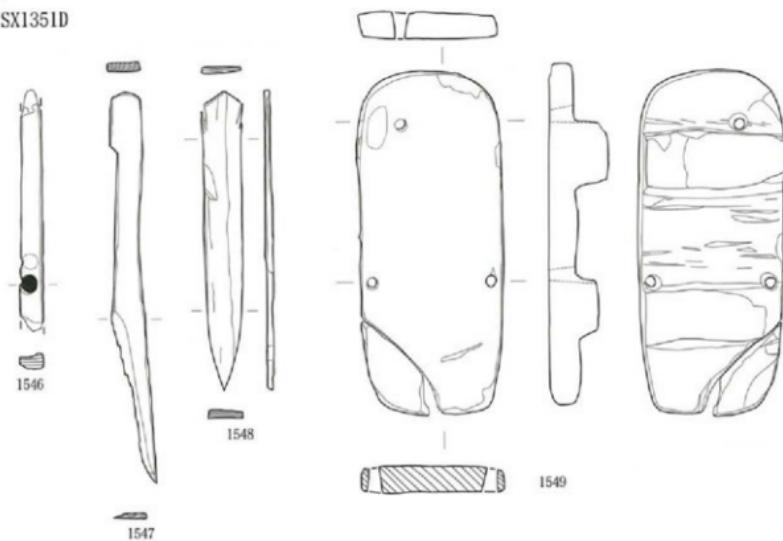
第239図 出土遺物実測図（木製品10）

SX1351D



第240図 出土遺物実測図（木製品11）

SX1351D



SX1351A

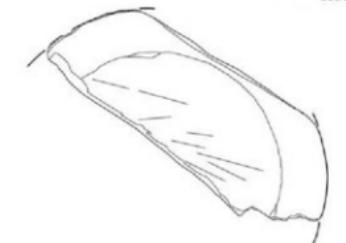
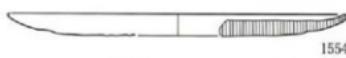
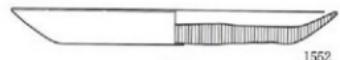


SX1351B



第241図 出土遺物実測図（木製品12）

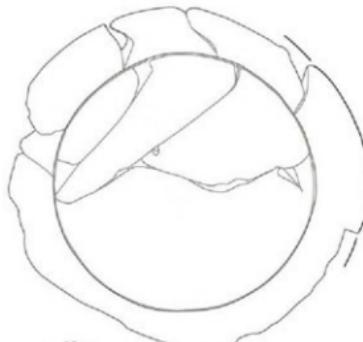
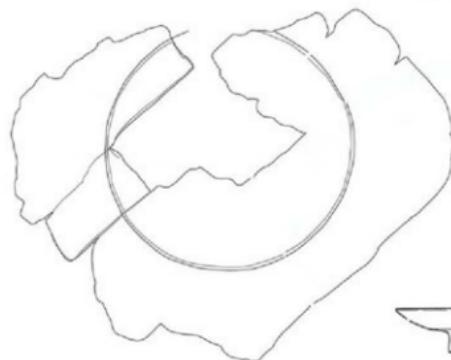
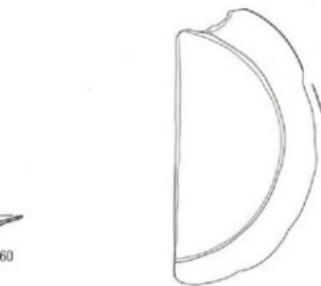
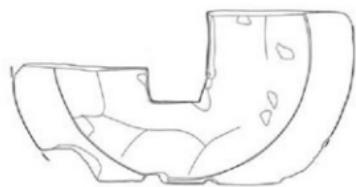
SX1600C



0 10cm

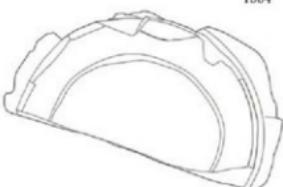
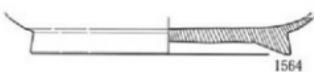
第242図 出土遺物実測図（木製品13）

SX1600C

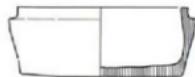


第243図 出土遺物実測図（木製品14）

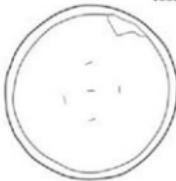
SX1600C



1566

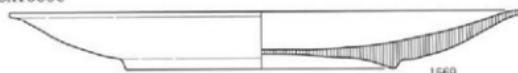


1568

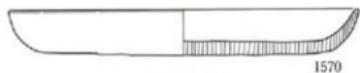
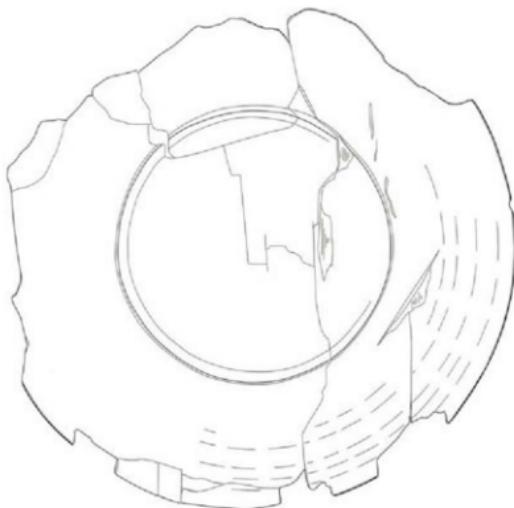


第244図 出土遺物実測図（木製品15）

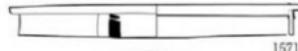
SX1600C



1569



1570

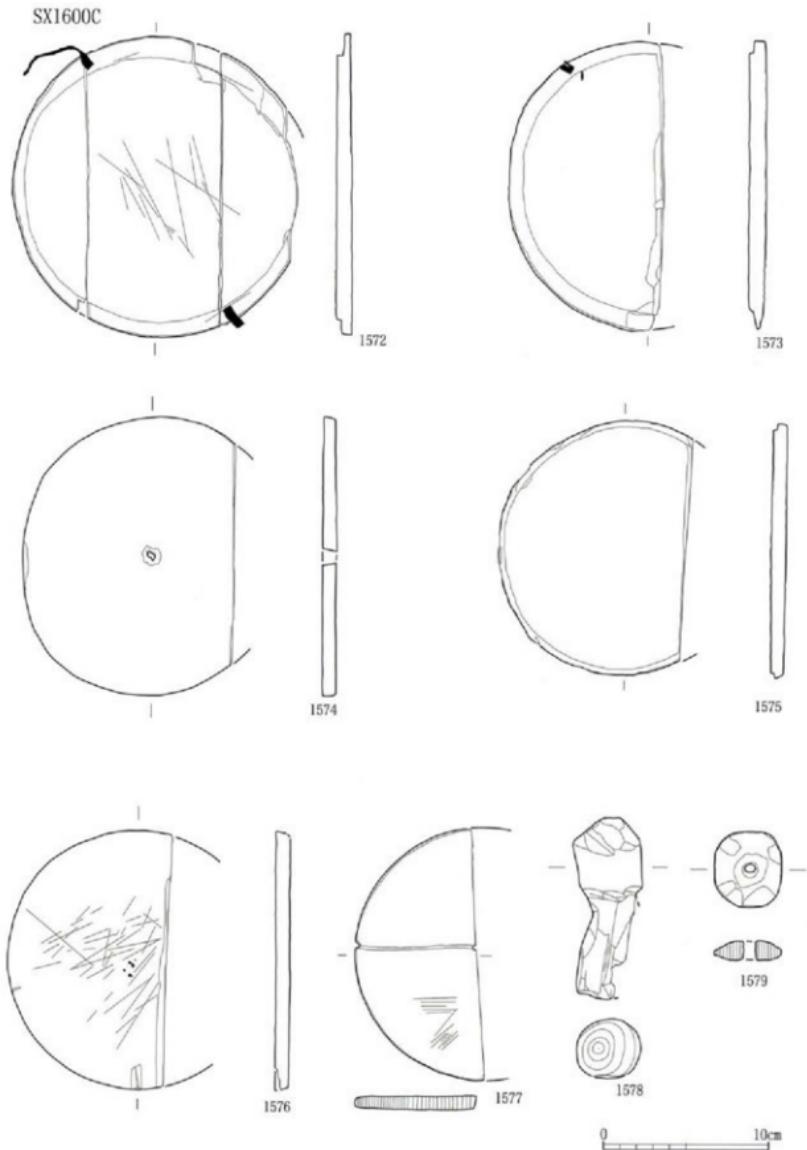


1571



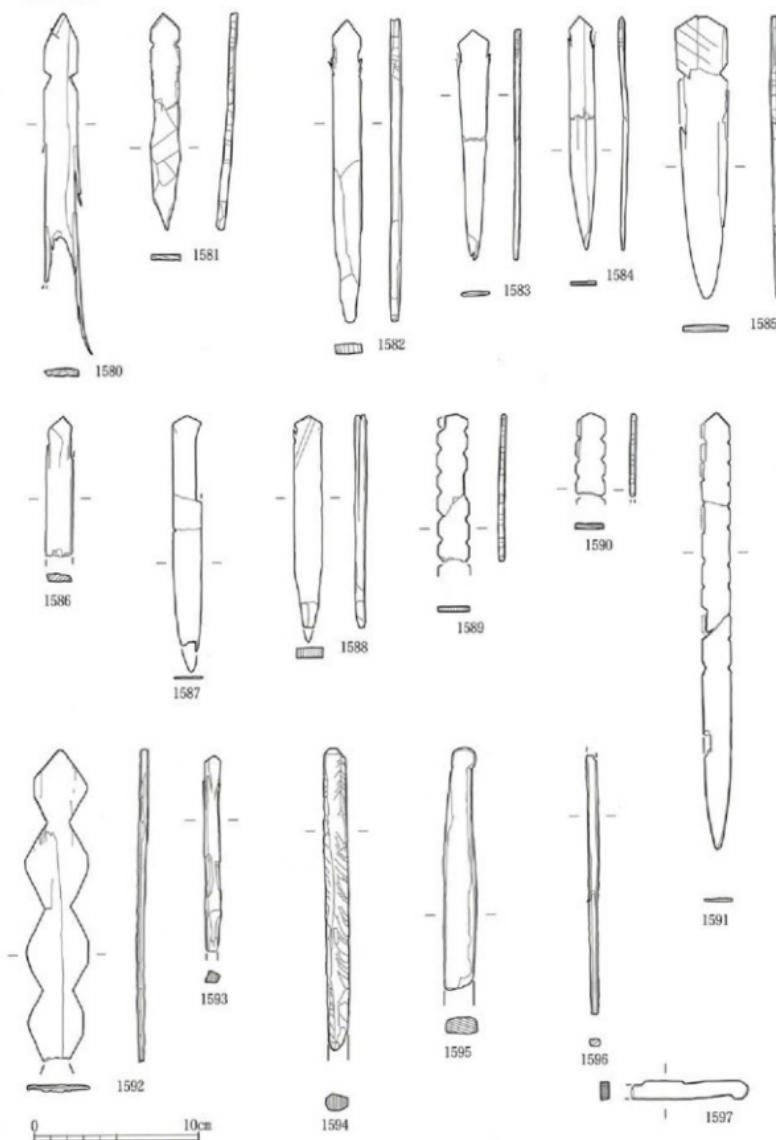
0 10cm

第245図 出土遺物実測図（木製品16）



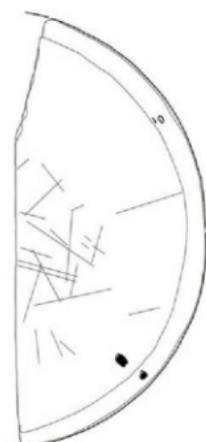
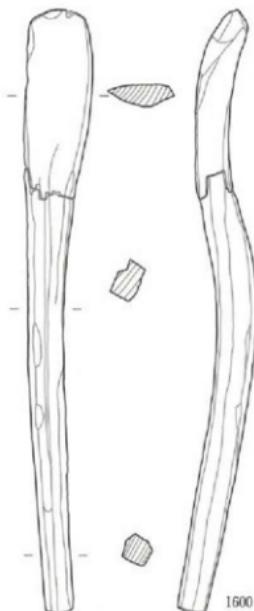
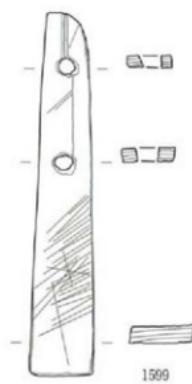
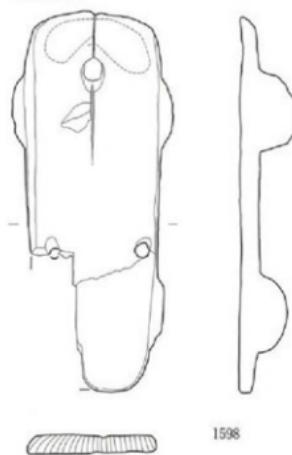
第246図 出土遺物実測図（木製品17）

SX1600C



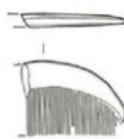
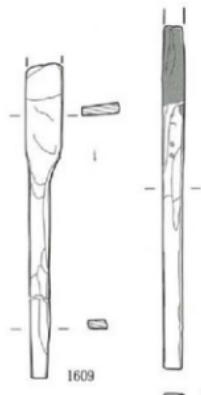
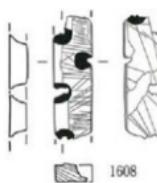
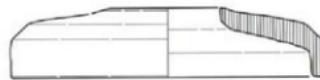
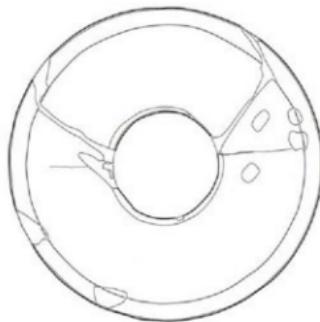
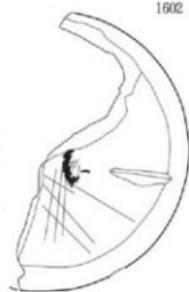
第247図 出土遺物実測図（木製品18）

SX1600C



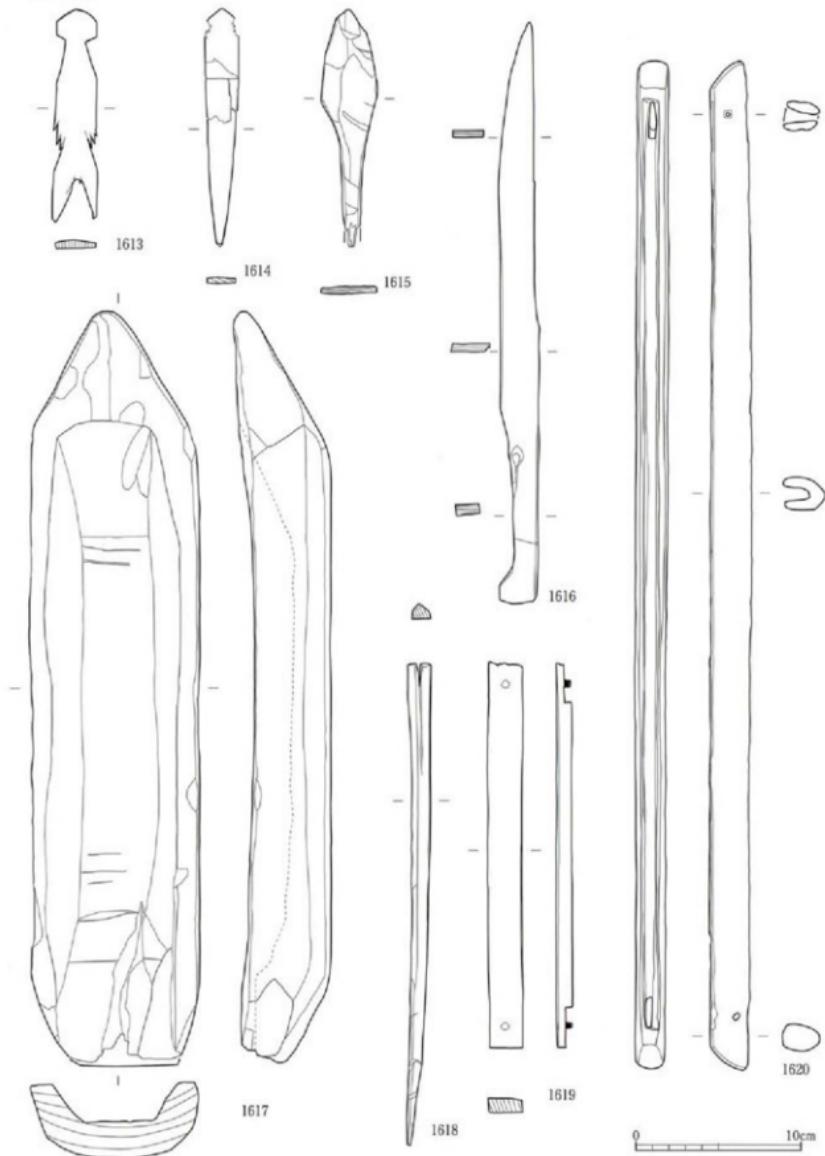
第248図 出土遺物実測図（木製品19）

SX1600C

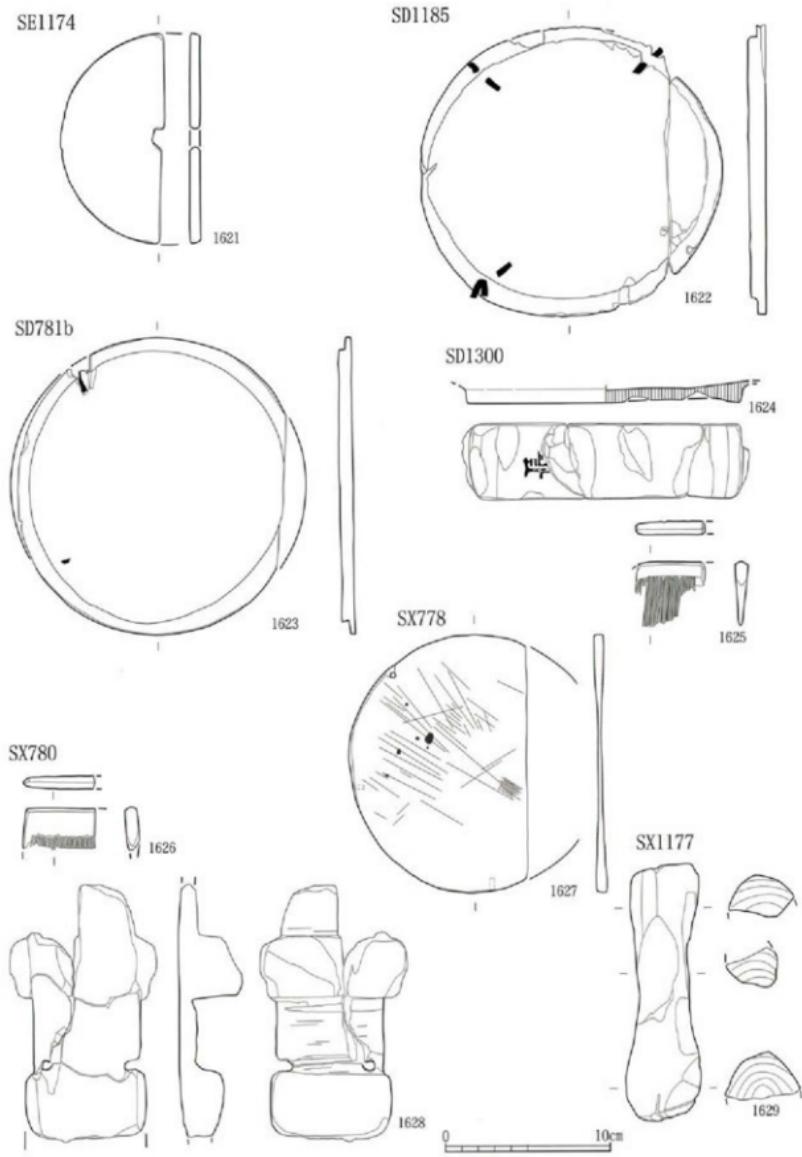


第249図 出土遺物実測図（木製品20）

SX1600B

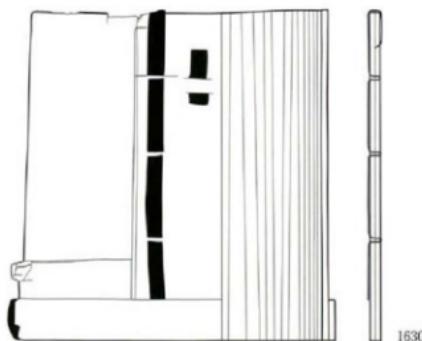


第250図 出土遺物実測図（木製品21）



第251図 出土遺物実測図（木製品22）

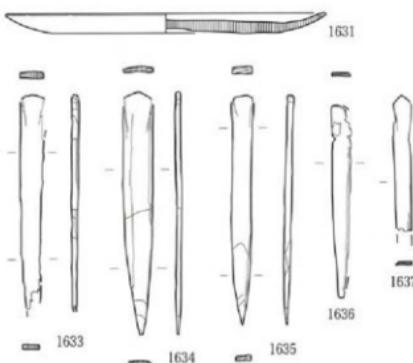
SX1200



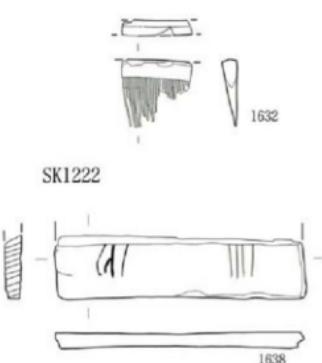
0 10cm

第252図 出土遺物実測図（木製品23）

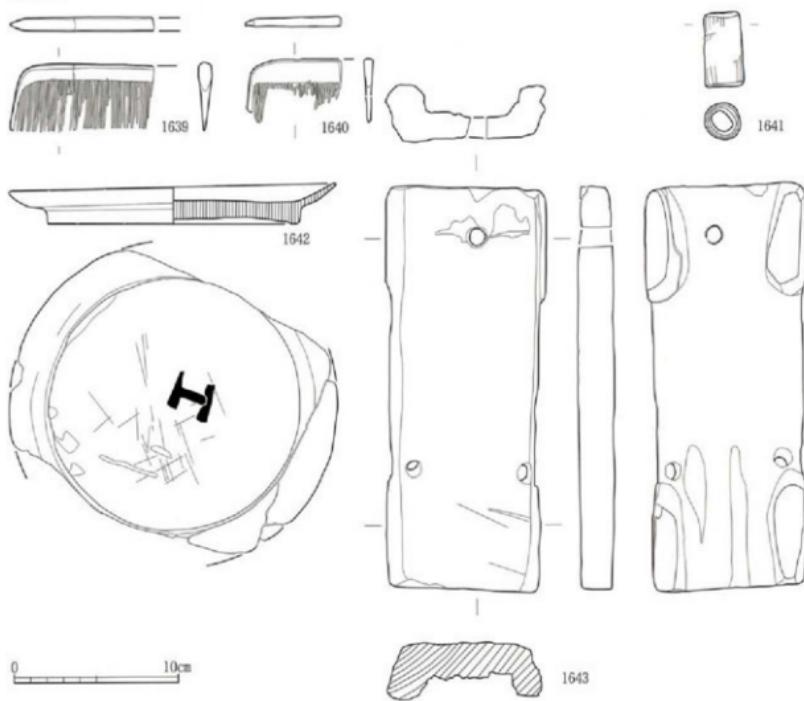
SE1217



SD1239

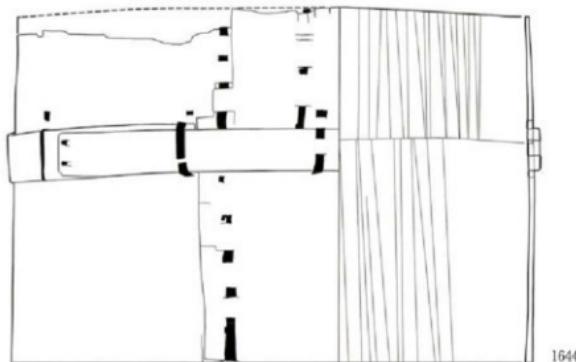


SX1227



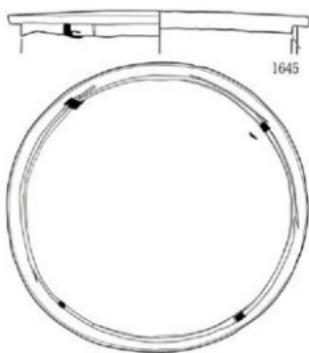
第253図 出土遺物実測図（木製品24）

SE1217



0 20cm

SD1411



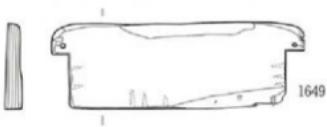
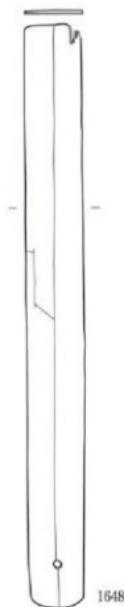
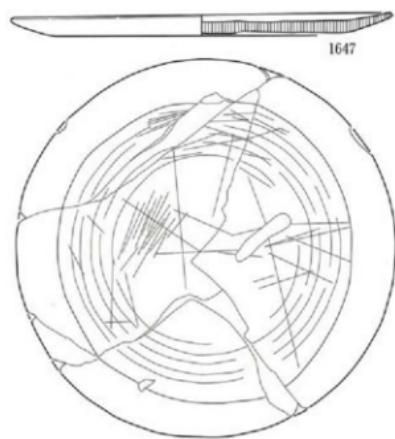
SD1414



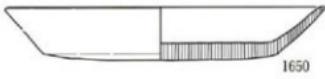
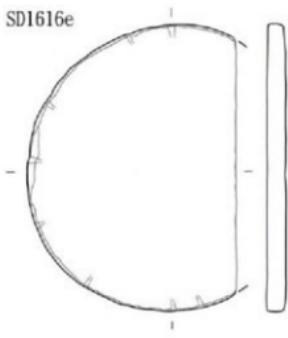
0 10cm

第254図 出土遺物実測図（木製品25）

SD1616d

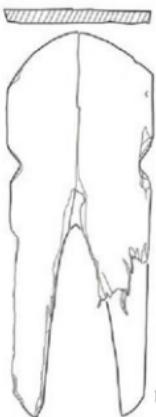


SD1616e

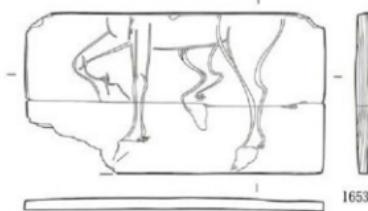


第255図 出土遺物実測図（木製品26）

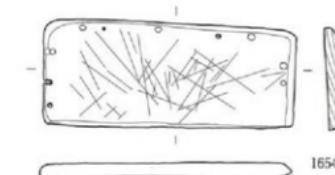
SD1616e



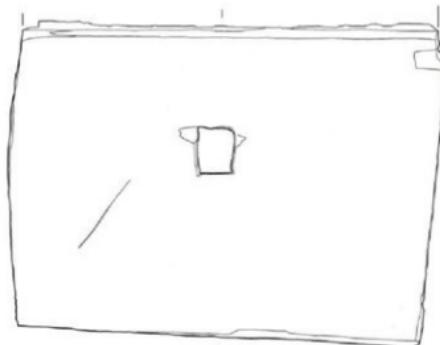
1652



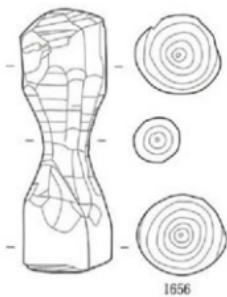
1653



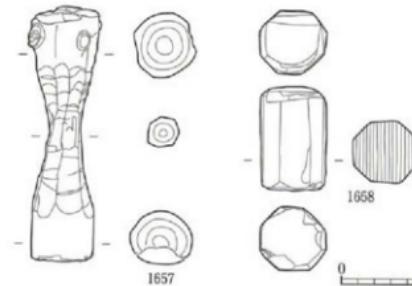
1654



1655



1656



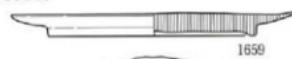
1657

1658

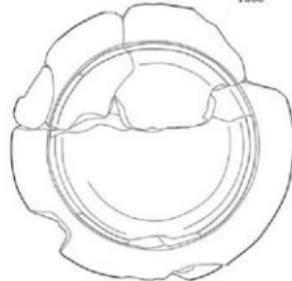
0 10cm

第256図 出土遺物実測図（木製品27）

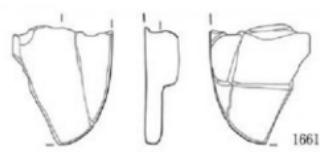
SD1614c



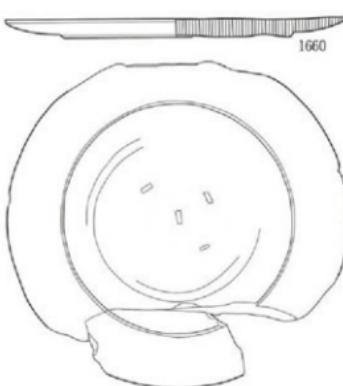
1659



1660

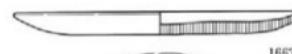


1661

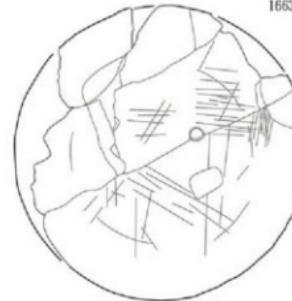


1662

SD1614d



1663



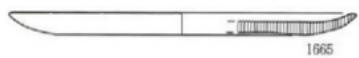
匁



1664

第257図 出土遺物実測図（木製品28）

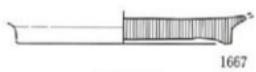
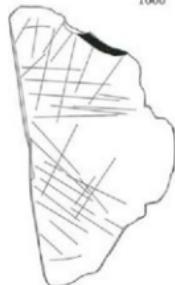
SD1614d



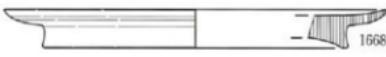
1665



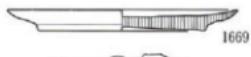
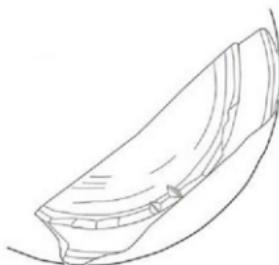
1666



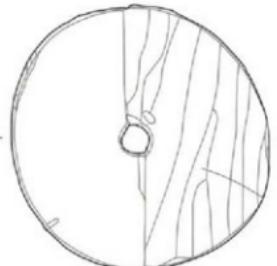
1667



1668



1669

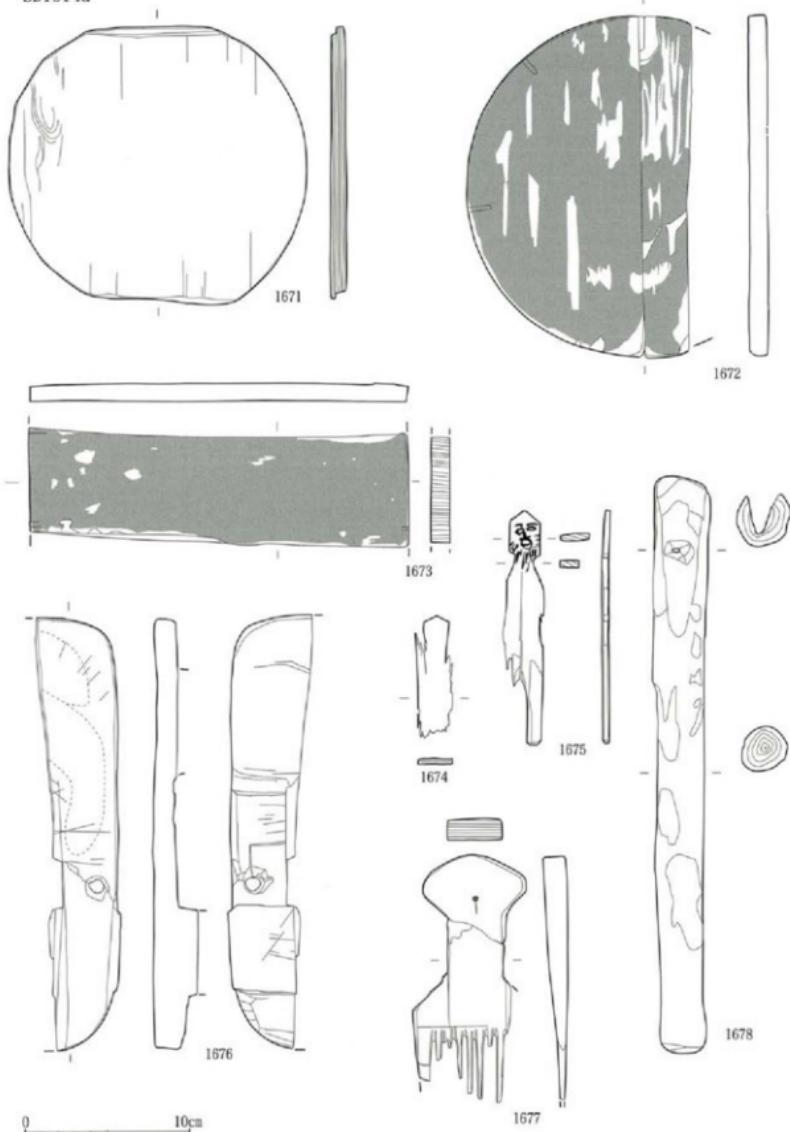


1670



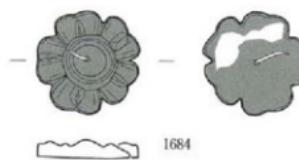
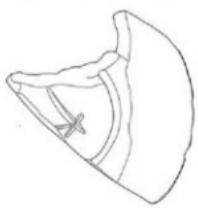
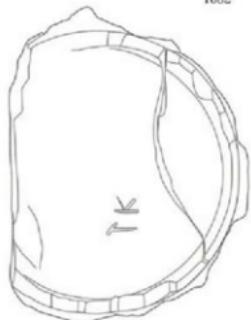
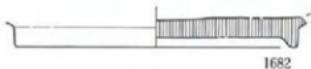
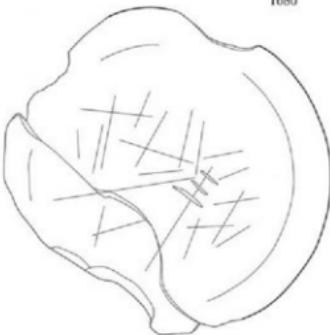
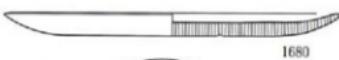
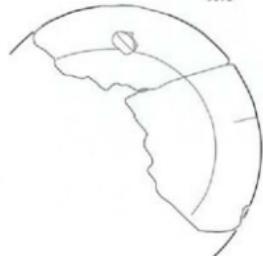
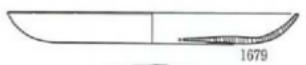
第258図 出土遺物実測図（木製品29）

SD1614d



第259図 出土遺物実測図（木製品30）

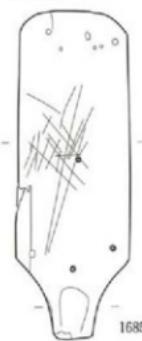
SD1614e



0 10cm

第260図 出土遺物実測図（木製品31）

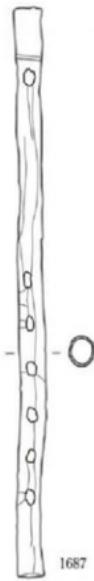
SD1614e



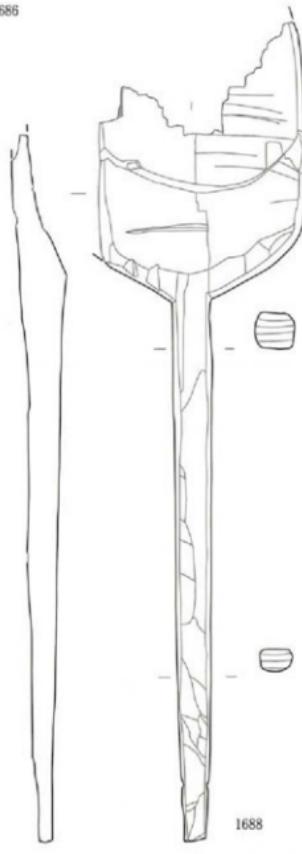
1685



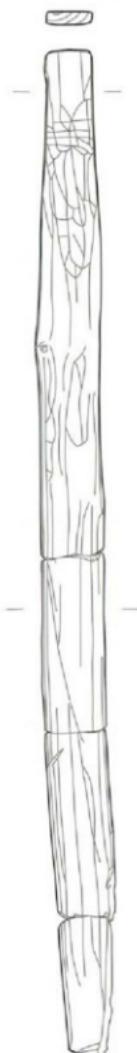
1686



1687



1688



1689

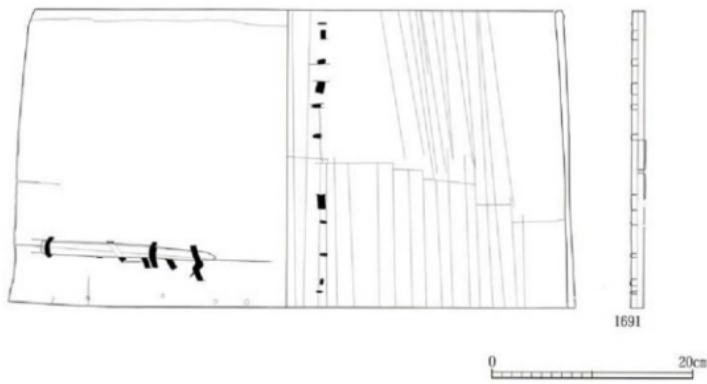


第261図 出土遺物実測図（木製品32）

SE1552

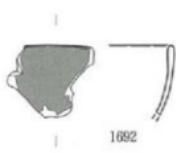


1690

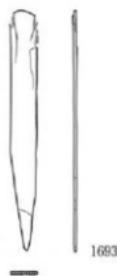


第262図 出土遺物実測図（木製品33）

SE1552

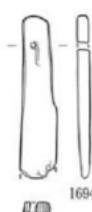


1692



1693

SE1535



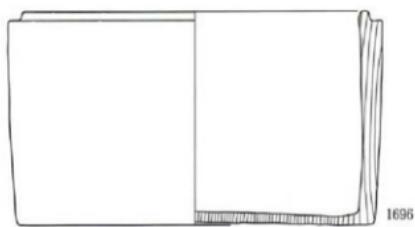
1694

SE1549

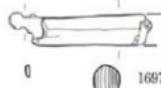


1695

SE1559



1696

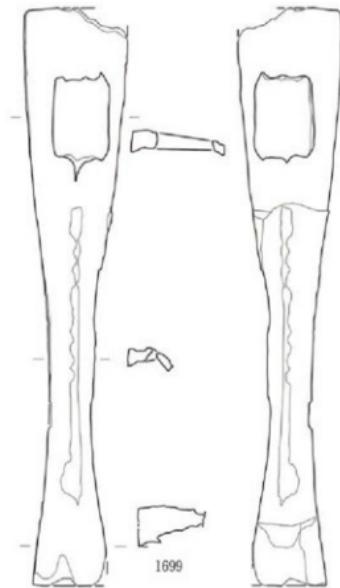
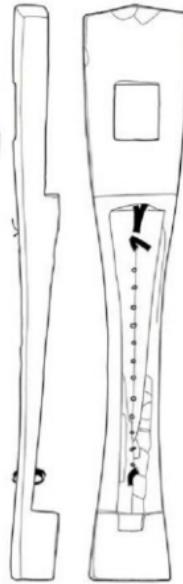
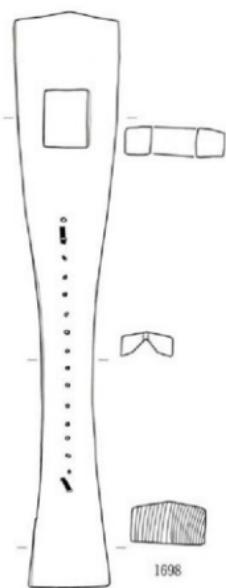


0

10cm

第263図 出土遺物実測図（木製品34）

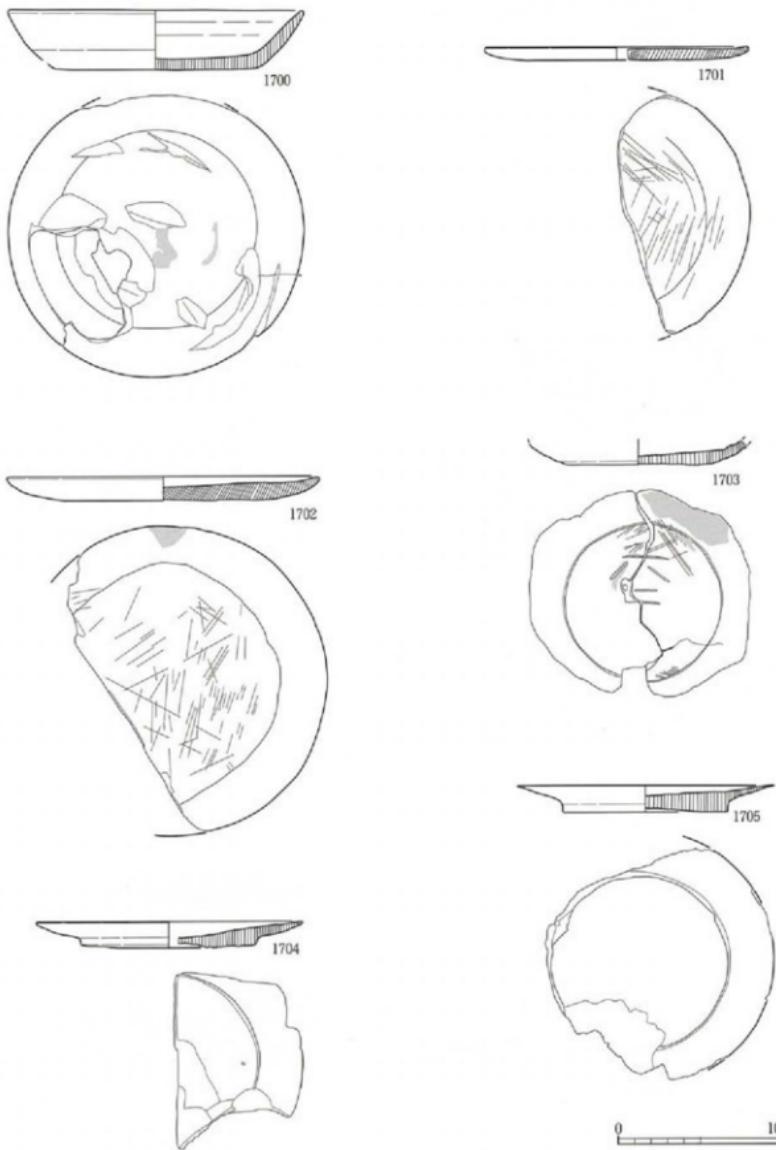
SE1565



0 20cm

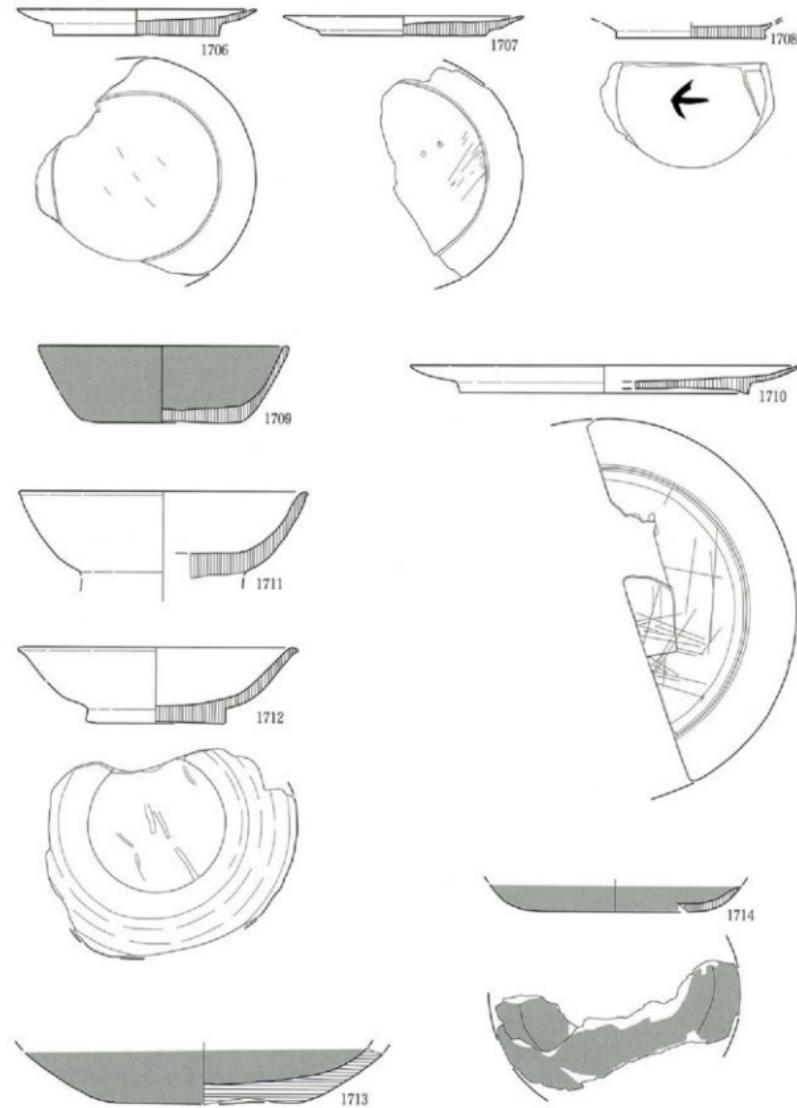
第264図 出土遺物実測図（木製品35）

SD1522・1層



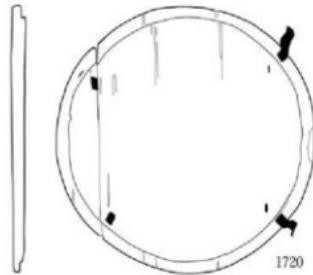
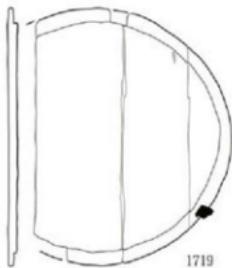
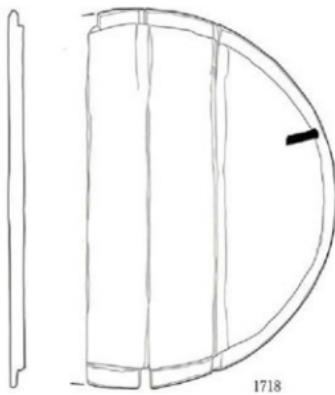
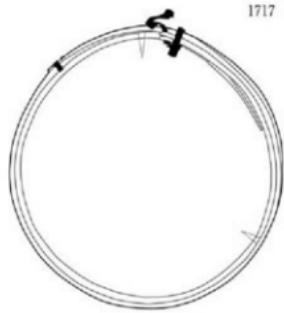
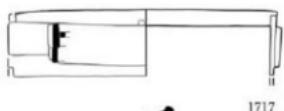
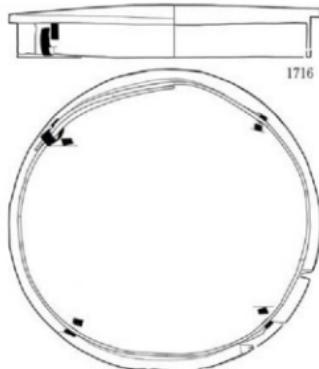
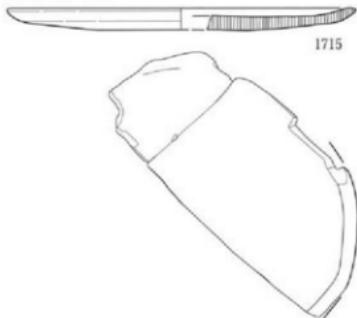
第265図 出土遺物実測図（木製品36）

SDI522・1層



第266図 出土遺物実測図（木製品37）

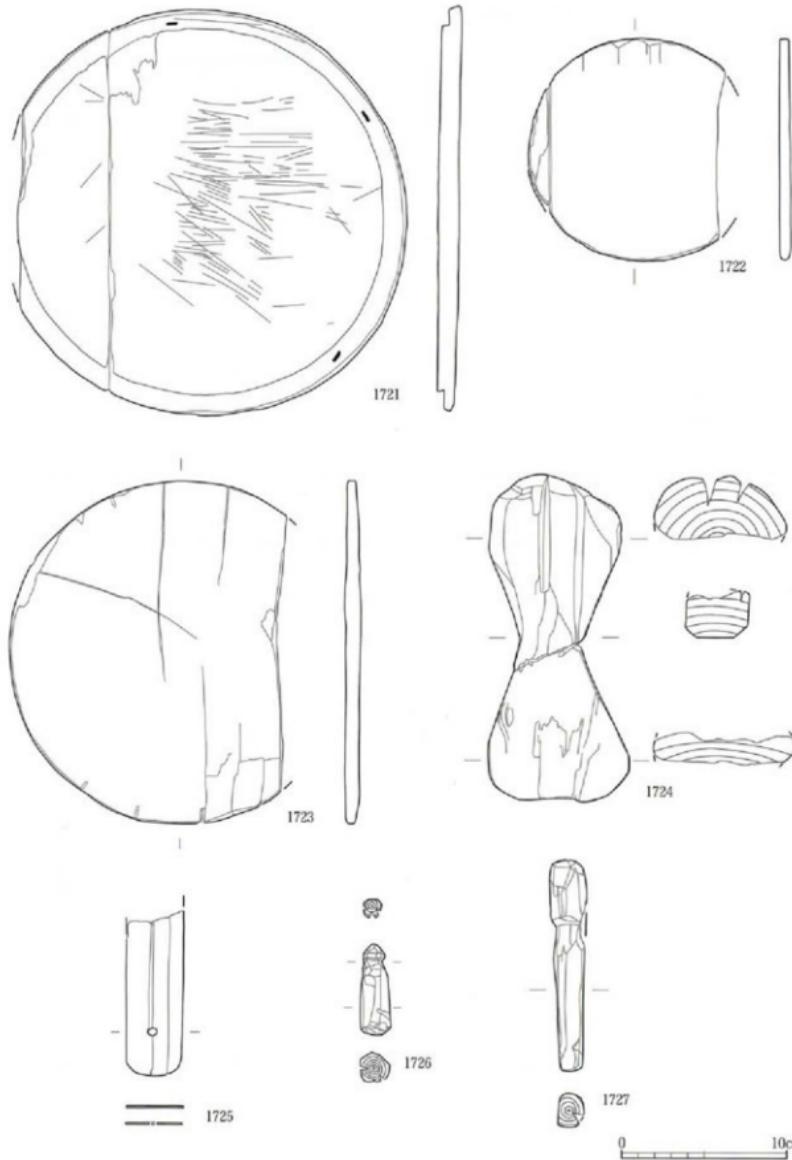
SD1522・1層



0 10cm

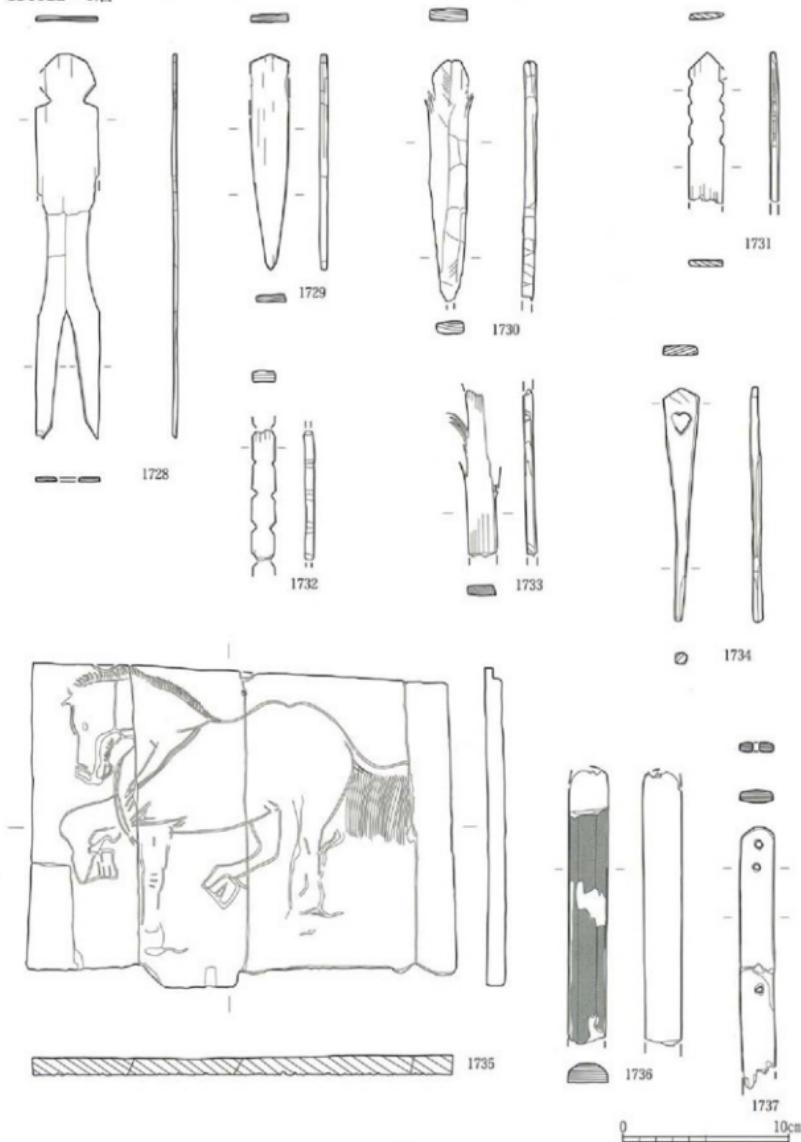
第267図 出土遺物実測図（木製品38）

SD1522・1層



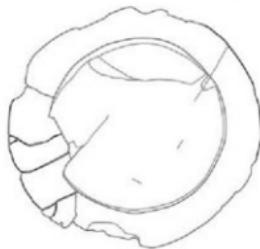
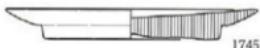
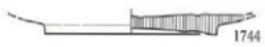
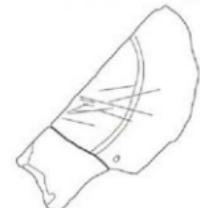
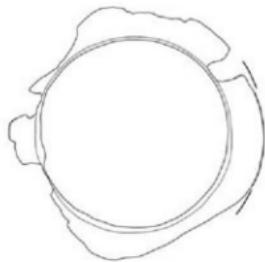
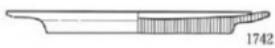
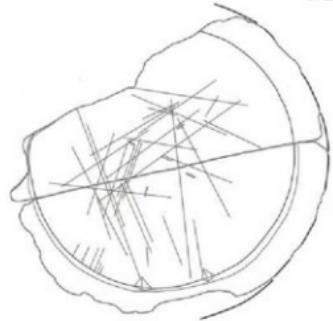
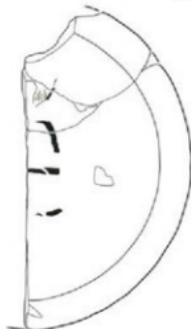
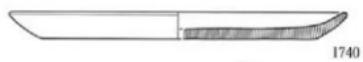
第268図 出土遺物実測図（木製品39）

SD1522・1層



第269図 出土遺物実測図（木製品40）

SD1522・2層



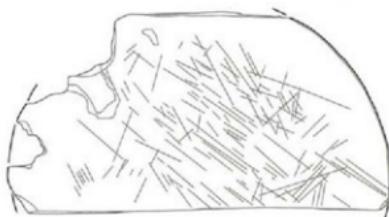
第270図 出土遺物実測図（木製品41）



SD1522・2層



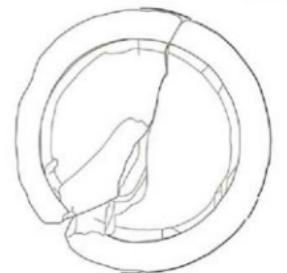
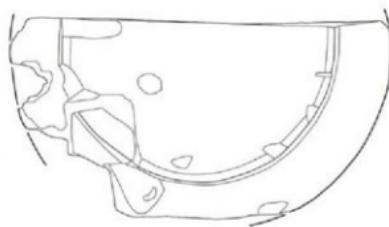
1746



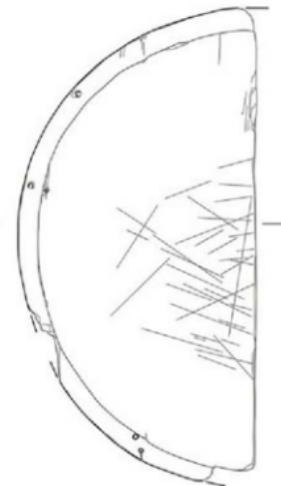
1747



1748



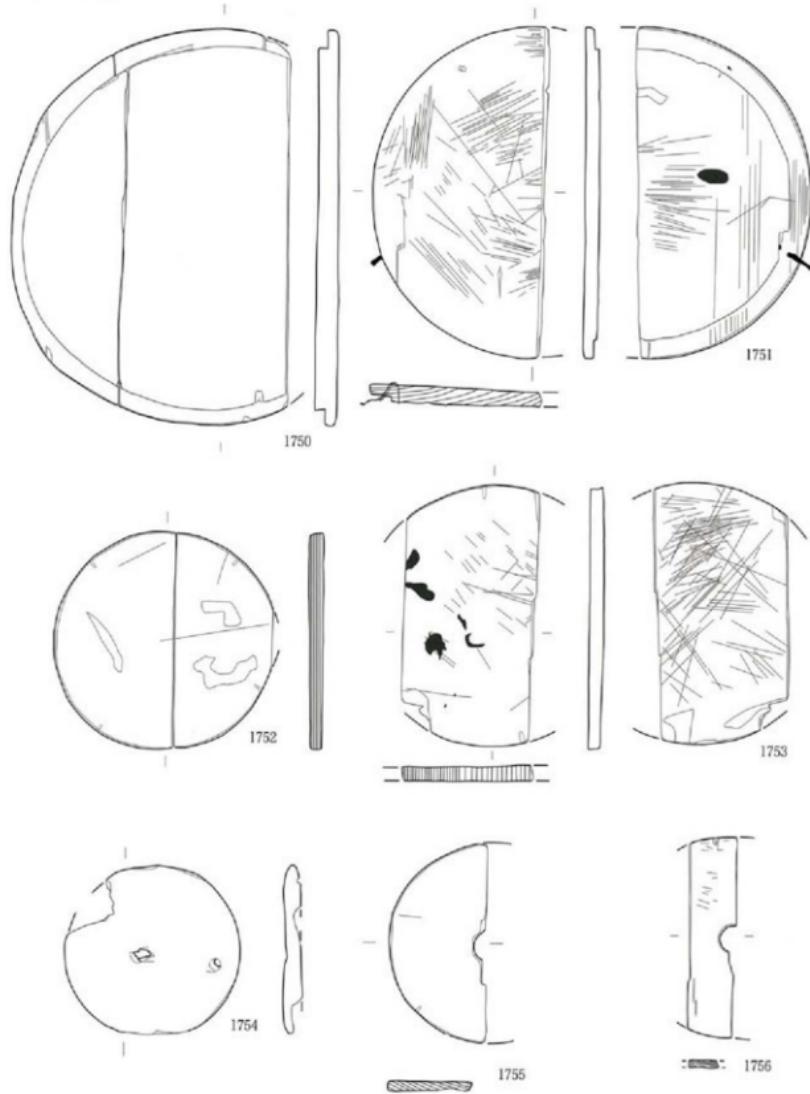
0 10cm



1749

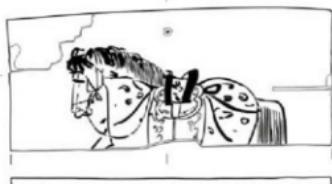
第271図 出土遺物実測図（木製品42）

SD1522・2層



第272図 出土遺物実測図（木製品43）

SD1522・2層



1757



1758



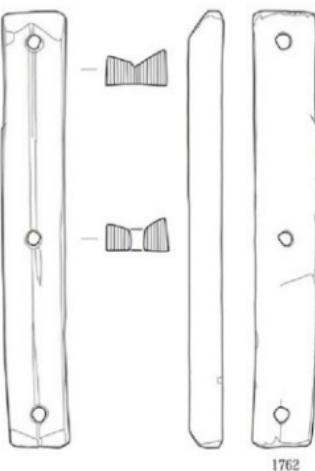
1759



1760



1761

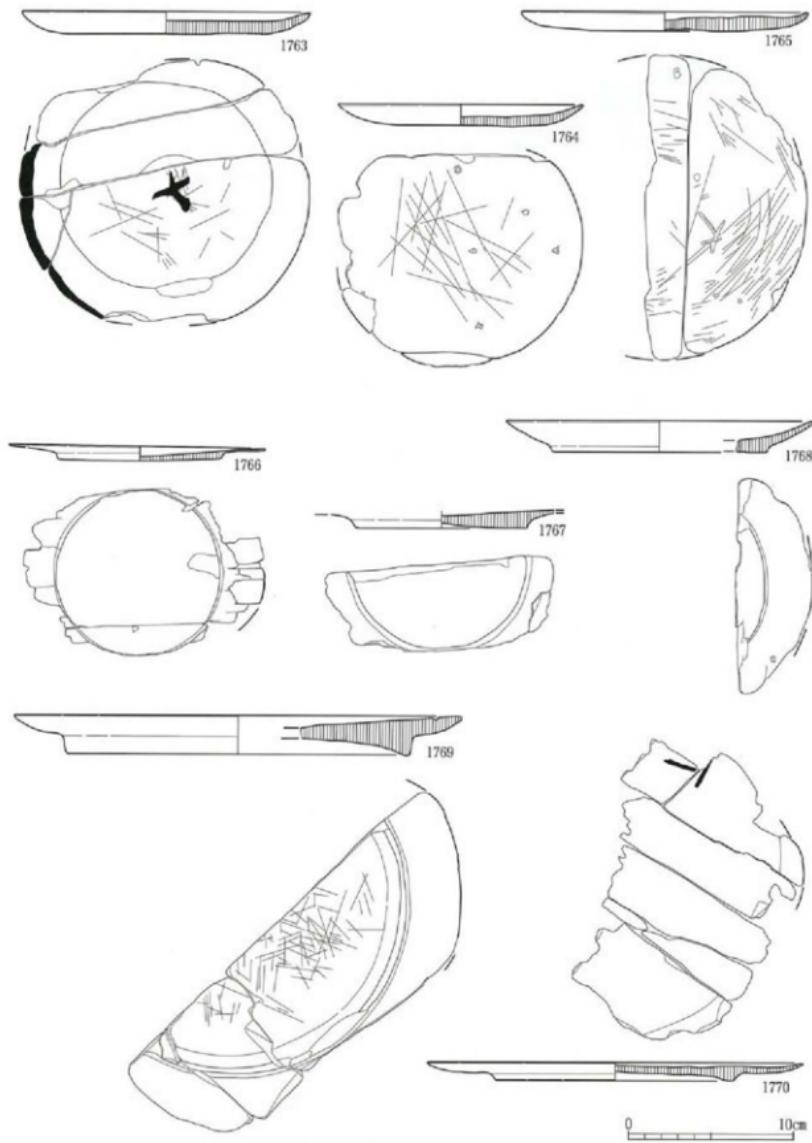


1762



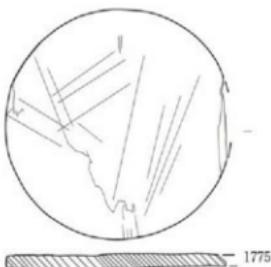
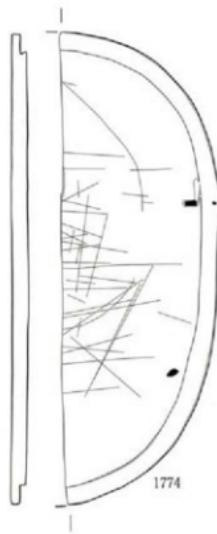
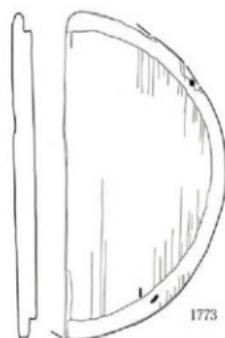
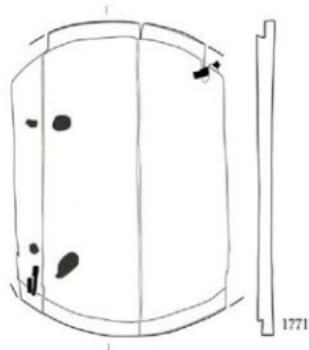
第273図 出土遺物実測図（木製品44）

SX1524



第274図 出土遺物実測図（木製品45）

SX1524

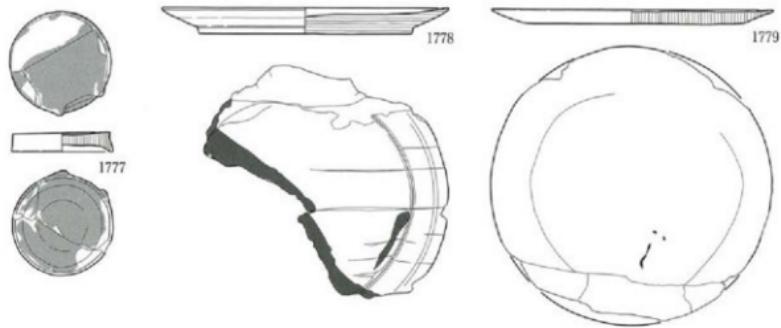


SX1543

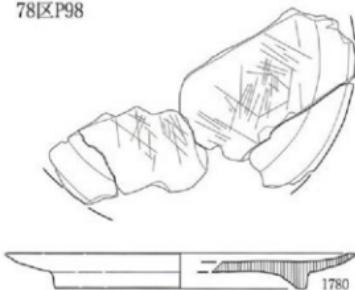


第275図 出土遺物実測図（木製品46）

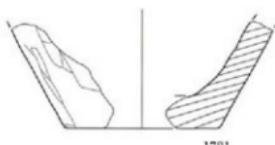
SD1631



78区P98



78区P25



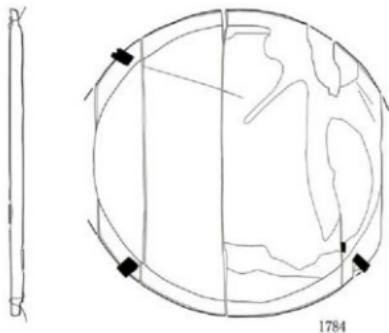
78区第VIa層



SK1409

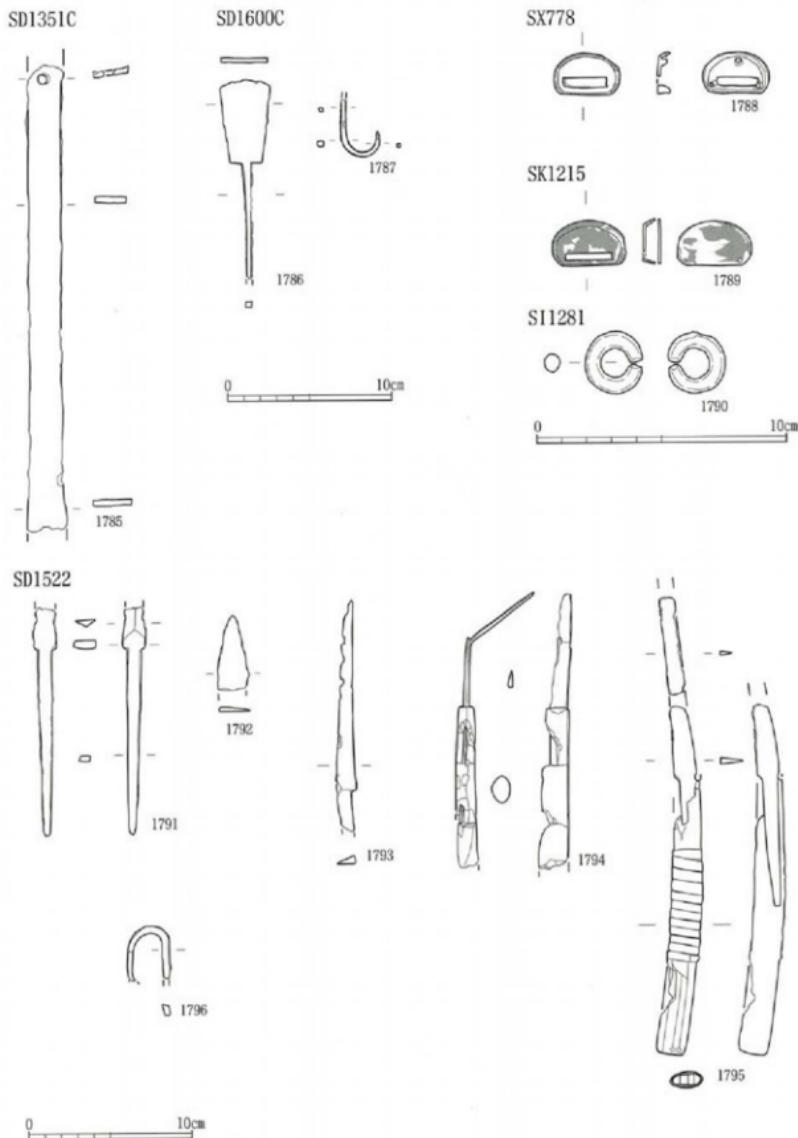


79区P88



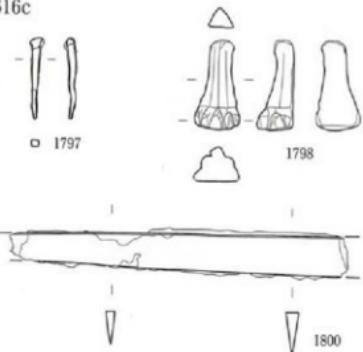
0 10cm

第276図 出土遺物実測図（木製品47）

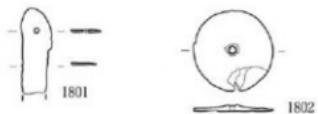


第277図 出土遺物実測図（金属製品1）

SD1616c



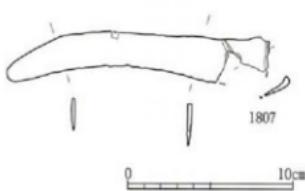
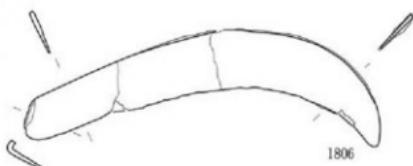
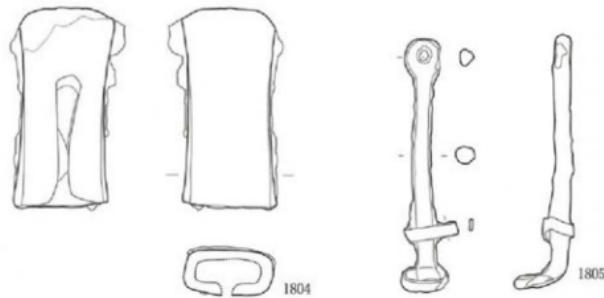
SD1616e



SD1614e

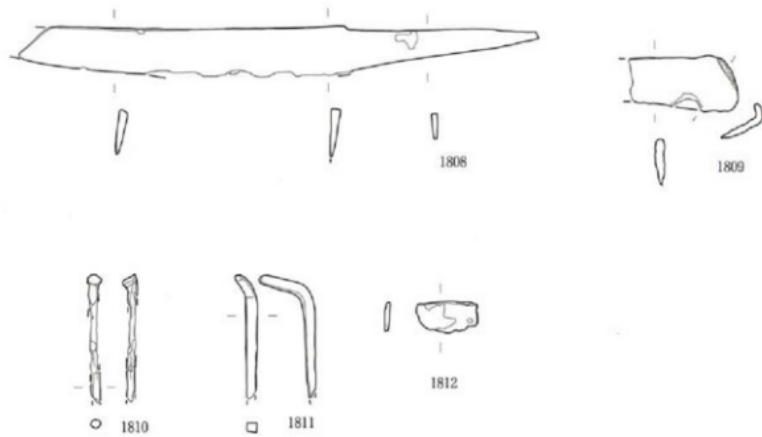


SX1610

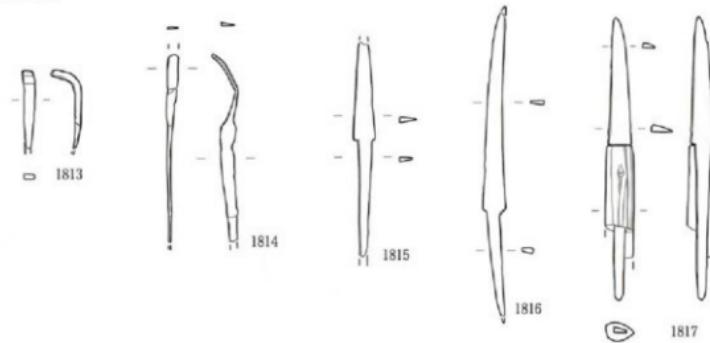


第278図 出土遺物実測図（金属製品2）

SD1631A



SD1631B



0 10cm

第279図 出土遺物実測図（金属製品3）

土器・土製品

番号	種類	器種	遺物・部位	特徴	口径・残存率	底径・残存率	器高	登錄番号	備考
1	土師器	杯(直口)	S D782-c・1層	(外縁)底部・手持ちヘラケズリ	(12.0) /24	(7.1) /24		399	
2	須恵器	杯(直口)	S D782-c・1層	[外縁]底部・手持ちヘラケズリ	(7.1) /24			398	
3	灰陶器	甌	S D782-c・1層	[外縁]回転ヘラケズリ 武部・回転ヘラケズリ [内縁]施釉	(8.2) 10/24			397	
4	須恵器	杯(直口)	S D782-c・1層	[外縁]底部・手持ちヘラケズリ				400	
5	土師器	杯(直口)	S D782-c・1層	[外縁]底部・手持ちヘラケズリ 施釉・回転系切引	(5.4) 24/24			375	
6	須恵器	杯	S D782-c・1層	[外縁]底部・手持ちヘラケズリ	(13.4) 11/24	(7.8) 12/24	3.95	380	
7	須恵器	杯(直口)	S D782-c・1層	[外縁]底部・手持ちヘラケズリ	(6.9) 24/24			381	
8	土師器	杯(直口)	S D782-c・1層					378	
9	土師器	杯(直口)	S D782-c・1層		6.2	/24		379	
10	土師器	杯(直口)	S D782-c・1層					376	
11	土師器	杯(直口)	S D782-c・1層					377	
12	土師器	杯	S D1192-1層	[外縁]底部・回転系切引	(18.0) 3.5/24	6.7	24/24	6.6	310
13	土師器	杯	S D1192-1層	[外縁]底部・回転系切引	(3.8) 24/24	2.9		311	
14	須恵器	杯	S D782-c・1層	[外縁]底部・手持ちヘラケズリ	(13.0) 6/24	(7.6) 9/24	2.65	373	
15	須恵器	甌(ヘラガキ)	S D782-1層	[外縁]底部・回転ヘラケズリ 施釉・系切引	(9.2) 12/24			789	
16	土師器	杯(直口)	S D1192-1層					313	
17	土師器	杯(直口)	S D1192-1層					312	
18	須恵器	杯(直口)	S D782-c・1層		(6.6) /24			370	
19	土師器	杯(直口)	S D782-c・1層					371	
20	須恵器	杯(直口)	S D781-b・1層	[外縁]底部・回転系切引	(13.2) 4/24	(6.6) 11/24	3.5	426	
21	須恵器	杯(直口)	S D781-b・1層	[外縁]底部・手持ちヘラケズリ	(7.6) 9/24			427	
22	土師器	杯	S D781-c・1層	[外縁]底部・手持ちヘラケズリ	(16.2) 12/24	(6.5) 2/24	6.0	417	
23	土師器	杯	S D781-c・1層	同形ミガキ	(11.8) 10/24			1105	
24	土師器	杯	S D781-c・1層	[外縁]底部・回転系切引	(13.3) 9.5/24	6.1	24/24	4.5	407
25	須恵器	杯	S D781-c・1層		(14.8) 4.6/24			1104	
26	須恵器	杯	S D781-c・1層	[外縁]底部・手持ちヘラケズリ	(13.9) 10.5/24	8.8	24/24	4.6	408
27	須恵器	杯	S D781-c・1層	[外縁]底部・手持ちヘラケズリ	(13.2) /24	6.4	24/24	4.3	409
28	須恵器	杯	S D781-c・1層	[外縁]底部・手持ちヘラケズリ	(13.8) 1/24	(6.8) 12/24	4.1	411	
29	須恵器	杯	S D781-c・1層	[外縁]底部・手持ちヘラケズリ	(15.2) 0.3/24			412	
30	須恵器	豆耳杯	S D781-c・1層	[外縁]底部・手持ちヘラケズリ	(11.65) 12/24	(6.8) 24/24	5.35	410	
31	須恵器	豆耳杯	S D781-c・1層	[外縁]底部・手持ちヘラケズリ	(12.2) 5/24	6.5	15/24	3.25	415
32	須恵器	杯(直口)	S D781-c・1層	[外縁]底部・手持ちヘラケズリ	(14.6) 9.7/24	(7.7) 24/24	3.35	416	
33	須恵器	杯(直口)	S D781-c・1層	[外縁]底部・手持ちヘラケズリ	(7.0) /24			418	
34	土師器	要	S D781-c・1層		(25.0) 4/24			406	
35	土師器	杯(直口)	S D781-c・1層	[外縁]底部・系切引	(15.8) 5/24	6.6	24/24	5.7	391
36	土師器	杯(直口)	S D781-c・1層		(13.6) 11/24			392	
37	土師器	杯(直口)	S D781-c・1層	[外縁]底部・回転系切引	(15.6) 11/24	6.2	24/24	5.4	393
38	土師器	杯(直口)	S D781-c・1層	[外縁]底部・回転系切引	(14.6) 19/24	5.7	24/24	4.6	669
39	須恵器	甌	S D781-c・1層	[外縁]手持ちヘラケズリ 高原:	(15.8) /24	7.2	/24	5.5	359
40	土師器	高台付杯(直口)	S D781-c・1層	[外縁]底部・手持ちヘラケズリ	(12.4) 1/24			385	
41	土師器	杯(直口)	S D781-c・1層					356	
42	土師器	杯	S D781-c・1層	[外縁]底部・系切引				357	
43	土師器	要	S D781-c・1層	[外縁]底部・手持ちヘラケズリ 高原:シロ骨	(12.6) 3/24			358	
44	須恵器	杯	S D781-c・1層	[外縁]底部・手持ちヘラケズリ	(14.0) 1/24	(6.6) 13/24	4.0	360	
45	須恵器	杯	S D781-c・1層	[外縁]底部・手持ちヘラケズリ	(13.6) 6/24	3.5	4/24	5.0	368
46	須恵器	甌	S D781-c・1層		(7.0) 8/24			368	
47	須恵器	甌	S D781-c・1層	[外縁]平行タクティックロナダ [内縁]底部・直底	(22.3) 4/24			365	
48	須恵器	要	S D781-c・1層	[外縁]平行タクティックロナダ	(19.2) 9/24			364	
49	上師器	杯(ヘラガキ)	S D1188-1層	[外縁]底部・回転系切引	(14.2) 4/24			330	
50	須恵器	杯	S D1188-1層	[外縁]底部・手持ちヘラケズリ	(14.25) 16/24	6.9	24/24	4.2	322
51	須恵器	杯(直口)	S D1188-1層	[外縁]底部・回転系切引	(5.4) 9/24			333	
52	土師器	甌	S D1188-1層	[外縁]手持ちヘラケズリ	(22.4) 4/24			323	複合口縁
53	須恵器	甌(ナメ)	S D1188-1層	[外縁]体下半円盤ヘラケズリ	(5.6) /24			326	
54	土師器	甌	S D1188-1層		(20.6) 5/24			326	
55	土師器	甌	S D1188	[外縁]手持ちヘラケズリ [内縁]:ナメ	(14.5) 2/24			331	
56	須恵器	甌	S D1188		(49.2) /24			337	
57	須恵器	甌	S D1191-1層	[外縁]タクティックロナダ [PHM]ナメ	(10.09) 5/24			321	
58	須恵器	手付甌	S D1191-1層	ロクロ網脚	(9.8) 4/24			320	
59	土師器	杯(直口)	S D1199-1層	[外縁]底部・回転系切引	(7.0) /24			346	
60	土師器	杯(ヘラガキ)	S D1199-1層	[外縁]底部・手持ちヘラケズリ				347	底部外縁にヘラガキ有り
61	土師器	甌	S D1189-1層	[外縁]底部・シロ骨	(6.2) /24			344	
62	須恵器	杯	S 1198-1層	[外縁]底部・手持ちヘラケズリ	(14.0) 5/24	(6.2) 11.4/24	3.45	1918	
63	須恵器	杯	S 1198-1層	[外縁]底部・手持ちヘラケズリ	(12.2) 1/24	(7.0) 6/24	4.4	1919	
64	土師器	杯(直口)	S E1174-直口方面	[外縁]底部・回転系切引	(14.8) 20/24	6.4	24/24	4.65	278
65	須恵器	杯(直口)	S E1174-直口方面	[外縁]底部・回転系切引	(14.75) 8.5/24	6.0	24/24	5.2	279
66	須恵器	甌	S E1174-直口方面	[外縁]底部・ロクロナダ	(23.7) 4/24			303	
67	須恵器	杯	S E1217-4層	[外縁]底部・手持ちヘラケズリ	(11.1) 24/24	6.3	24/24	4.1	127
68	須恵器	杯	S E1217-3層	[外縁]底部・手持ちヘラケズリ	(14.2) 9/24	(8.6) 16.5/24	4.35	124	
69	須恵器	杯	S E1217-4層	[外縁]底部・手持ちヘラケズリ	(13.85) 4.5/24	(7.8) 12/24	3.8	129	

表31 出土遺物観察表(1)

番号	種類	断面	測定・部位	特徴	口径・残存率	底径・残存率	高さ	登錄番号	備考
70	酒器	杯	S E1217-1層	【外削】底部:ヘラ切り	(13.8)	5/24	7.5	11/24	3.5
71	酒器	杯(茎部)	S E1217-2層	【外削】底部:ヘラ切り	(13.3)	3/24	(7.9)	6/24	4.5
72	酒器	杯(茎部)	S E1217-4層	【外削】底部:ヘラ切り	(12.6)	4/24	(8.2)	14/24	4.2
73	土器	杯	S E1295-瓶底内埋		(12.45)	4/24	(5.0)	5/24	4.8
74	土器	杯	S E1285	【外削】底部:ホタツリ	(14.25)	15/24	(6.4)	24/24	4.7
75	土器	杯(茎部)	S E1265		(14.0)	4/24			2011
76	土器	杯	S E1285-1層		(16.5)	10/24			2015
77	酒器	杯	S E1285-舟戸横内埋						
78	酒器	杯(茎部)	S E1285-1層	【外削】底部:回転底切り	(13.6)	/24	(6.8)	6/24	5.5
79	酒器	土器	S E1285-1層	【外削】底部:回転底切り			(4.4)	24/24	3.85
80	酒器	土器	S E1285-1層	【外削】底部:回転底切り			5.2	20/24	1.92
81	酒器	杯	S E1285-瓶底	【外削】底部:回転底切り			(5.85)	14/24	1.99
82	酒器	土器	S E1285-瓶底内埋	【外削】底部:回転底切り	(11.5)	2.8/24	(4.8)	12/24	3.1
83	酒器	土器	S E1285-瓶底内埋	【外削】底部:回転底切り	(12.9)	1.4/24	(4.8)	13.5/24	3.65
84	酒器	土器	S E1285-舟戸横内埋	【外削】底部:回転底切り	(13.3)	15/24	5.0	24/24	4.0
85	酒器	杯(茎部)	S E1285-瓶底内埋	【外削】底部:ヘラ切り			(7.4)	8/24	2010
86	酒器	杯(茎部)	S E1285-瓶底内埋	【外削】底部:回転底切り			6.4	24/24	2009
87	土器	杯	S E1285-1層						1954
88	土器	杯(茎部)	S E1285-1層						2015
89	灰陶陶器	碗	S E1285-瓶底内埋	【外削】体下平:回転ヘタケツリ			(6.8)	2/24	2030
90	酒器	鍵	S E1285-瓶底	【外削】口縁:抜枝文					2027
91	酒器	鍵	S E1285-瓶底	【外削】口縁:波状文					2028
92	土器	杯	S D1184-1層	舟 ^ト クロ	(15.4)	2/24	(6.6)	12/24	4.3
93	土器	杯	S D1184-2層	舟 ^ト クロ【外削】手持ちヘタケツリ→ヘラ ^ト カキ	(11.0)	5/24	(5.4)	19/24	3.9
94	土器	杯	S D1184-1層				(5.8)	9.5/24	292
95	土器	杯(茎部)	S D1184-2層	舟 ^ト クロ【口縁】ヨコナデ【外削】手持ちヘタケツリ	(14.5)	8/24			288
96	土器	杯	S D1184-1層	舟 ^ト クロ			(6.4)	/24	285
97	土器	杯	S D1184-1層	舟 ^ト クロ	(16.2)	13/24	7		291
98	酒器	杯	S D1184-1層		(12.4)	/24	(5.4)	/24	295
99	酒器	杯	S D1184-1層		(13.65)	7/24	10.0	24/24	3.9
100	酒器	杯	S D1184-1層				7.6	24/24	300
101	酒器	高台付杯(私埋藏)	S D1184-2層	【外削】底部:ヘラ切り	(14.0)	9/24	8.2	24/24	4.9
102	酒器	高台付杯	S D1184-1層		(13.55)	1/24			281 錫假有り
103	酒器	高台付杯	S D1184-1層				5.4	/24	299
104	酒器	瓶(瓶G)	S D1184-1層				(5.0)	/24	296
105	酒器	高台付杯	S D1184-1層				(5.7)	12/24	804
106	酒器	杯(ヘタガキ)	S D1184-1層	【外削】底部:静止底切り			7.0	24/24	1107
107	酒器	杯	S D1184-1層						
108	土器	鍵	S D1184-2層	舟 ^ト クロ 口縁:ヨコナデ【外削】ハケツリ	(21.8)	9/24			290
109	土器	鍵	S D1184-1層	舟 ^ト クロ	(12.4)	6/24			301
110	土器	鍵	S D1184-1層	口縁:ヨコナデ【外削】ハケツリ	(25.0)	4/24			302
111	土器	鍵	S D1184-2層	舟 ^ト クロ 口縁:ハケツリヨコナデ【外削】ハケツリ	(27.3)	2.5/24			289
112	酒器	鍵	S D1184-2層	口縁:抜枝文					284
113	土器	杯	S D1185	舟 ^ト クロ 口縁:ヨコナデ【外削】手持ち一底部:手持ちヘタケツリ	(16.0)	11/24	(8.65)	24/24	6.35
114	土器	杯	S D1185-3層				13.7	12/24	385
115	土器	杯	S D1185-1層	舟 ^ト クロ 口縁:ヨコナデ【外削】手持ち一底部:手持ちヘタケツリ	(14.8)	9.5/24	5.4	24/24	4.9
116	酒器	杯	S D1185-2層	舟 ^ト クロ 口縁:ヨコナデ【外削】手持ち一底部:ヘラ切り	(14.0)	3/24	8.7	24/24	4.2
117	酒器	杯	S D1185-3層	舟 ^ト クロ 口縁:ヘラ切り	(13.0)	9/24	8.9	24/24	3.8
118	酒器	杯	S D1185-3層	舟 ^ト クロ 口縁:ヘラ切り	(13.4)	1/24	(8.3)	19.5/24	3.75
119	酒器	杯	S D1185-3層	舟 ^ト クロ 口縁:ヘラ切り	(12.8)	8/24	(7.9)	13/24	3.9
120	酒器	鍵	S D1185-3層					3.1(マミ仕)	391
121	酒器	杯(茎部)	S D1185-3層	【外削】底部:ヘラ切り					392
122	土器	鍵	S D1185-3層	舟 ^ト クロ 口縁:ヨコナデ【外削】ハケツリ	21.5	24/24			393
123	酒器	鍵	S D1185-3層	【外削】体下平:ヘラケツリ 縦縫 不正方向のナギ糊網	(11.2)	13/24	11.8	24/24	17.7
124	酒器	杯(茎部)	S D1300-1層	【外削】底部:回転底切り	(6.0)	8/24			430
125	酒器	杯(茎部)	S D1300-1層	【外削】底部:ヘラ切り	(8.2)	18/24			429
126	酒器	杯(茎部)	S D1300-2層						431
127	土器	杯	S D1219-1層	【外削】体下平:回転ヘタケツリ 縦縫回転底切り	15.95	12/24	7.4	24/24	7.0
128	酒器	杯	S D1219-1層	【外削】底部:ヘラ切り	12.8	17/24	7.2	24/24	59
129	酒器	杯	S D1219-1層	【外削】底部:ヘラ切り	(12.0)	9/24	(8.0)	12/24	3.95
130	酒器	杯	S D1219-2層	【外削】底部:手持ちヘタケツリ	(12.0)	5/24	(5.9)	12/24	4.2
131	酒器	高台付杯	S D1219-2層	【外削】底部:手持ちヘタケツリ	(14.2)	4.5/24	(9.0)	2/24	4.9

表32 出土遺物観察表(2)

番号	種類	器種	遺物・部位	特徴	口径・残存率	底径・残存率	高さ	登錄番号	備考
132	須恵器	高台杯形(基盤)	S D1219-1層	【外縁】底部下端～基盤:回転ヘラケズリ	/24	9.55/24	66		
133	土師器	甕	S D1219-1層	【外縁】コロコロ【内縁】へタナデ	/24 (8.0)	18/24	58		
134	土師器	甕	S D1219-1層	【外縁】コロコロ【内縁】へタナデ	(11.0) 3/24	(7.4) 10/24	67		
135	須恵器	甕	S D1219-2層	【外縁】底部:平行切欠き 【内縁】当部:其底へタナデ	(21.7) 4/24	/24	45		
136	須恵器	高台杯形	S D1231-1層		(12.4) 5/24	(8.2) 9.7/24	5.15	70	
137	須恵器	短頸直	S D1238-1層	【外縁】底部下平:回転ヘラケズリ 底部:切り落し不明	5.0 17/24	7.25 15/24	7.9	69	
138	土師器	杯	S D1240-2層	【外縁】底部:ヘラ切欠き→手持ちヘラケズリ	(16.8) 7/24	(8.2) 12/24	6.1	17	
139	須恵器	杯	S D1240-1層	【外縁】底部:ヘラ切欠き	(14.0) 14/24		4.0	1	
140	須恵器	杯(基盤)	S D1240-1層	【外縁】底部:回転系切欠き	/24 (6.3)	24/24	2		
141	須恵器	杯(基盤)	S D1240-2層	【外縁】底部:ヘラ切欠き	/24 (8.6) 11/24		18		
142	須恵器	杯(基盤)	S D1240-2層	【外縁】底部:ヘラ切欠き	/24 (7.0) 14/24		19		
143	須恵器	杯(基盤)	S D1240-1層	【外縁】底部:ヘラ切欠き	/24 5.9	24/24	350		
144	須恵器	高台杯形(基盤)	S D1240-2層	【外縁】底部:切り離し不明	/24 6.6	9.5/24	20		
145	土師器	杯(基盤)	S D1239-1層	【外縁】底部下平～底部:手持ちヘラケズリ	(13.4) 4/24	(5.8) 12/24	3.8	41	
146	須恵器	杯(基盤)	S D1239-1層		/24	/24		42	
147	須恵器	杯	S D1239-1層	【外縁】底部:回転系切欠き	(14.0) 9/24	(5.9) 9/24	3.8	29	
148	須恵器	杯(基盤)	S D1239-1層	【外縁】底部:手持り	/24	5/24		43	
149	灰陶陶器	瓶(ヘラギ型)	S D1239-1層	【外縁】底部下平:回転ヘラケズリ	/24 12.0	16.5/24	40		
150	須恵器	鏡	S D1207-2層	【外縁】底部下端～高台:ヘラミガキ 中内縁:ヘラミガキ	/24 (12.6)	5/24		157	画面ミガキ
151	須恵器	杯	S D1207-2層	【外縁】底部:ヘラ切欠き	(14.0) 7/24	(7.5) 10/24	4.15	158	
152	須恵器	杯	S D1287C-1層	【外縁】底部:回転系切欠き	(12.6) 3/24	6.2	18/24	4.2	1139
153	龍形土器		S D1287D-1層					1127	
154	土師器	杯	S D1287-1層	【外縁】底部下平～底部:手持ちヘラケズリ	(13.4) 5/24	(6.5) 8/24	3.7	1130	
155	須恵器	杯	S D1287-1層	【外縁】底部:回転系切欠き	(13.6) 3.5/24	(6.2) 6.5/24	3.75	1140	
156	須恵器	杯	S D1287E-1層	【外縁】底部:回転系切欠き	13.5 17/24	6.4 18/24	4.2	1135	
157	須恵器	杯	S D1287E-1層	【外縁】底部:回転系切欠き	(15.0) 10/24	(6.0) 12.5/24	4.75	1136	
158	須恵器	杯	S D1287E-1層	【外縁】底部:回転系切欠き	(12.8) 7/24	(6.2) 9/24	3.7	1141	
159	土師器	杯	S D1287E-1層	【外縁】底部下平～底部:回転ヘラケズリ	(13.0) 1/24	(7.0) 5/24	4.7	1149	
160	須恵器上部	高台杯形	S D1287換出面	【外縁】底部:切欠き	(13) 6/24	(6.9) 24/24	5.2	1121	
161	須恵器	杯(基盤)	S D1287E-1層	【外縁】底部:不明→手持ちヘラケズリ		7.8	24/24	1143	
162	須恵器	杯(基盤)	S D1287E-1層	【外縁】底部:ヘラ切欠き		8.0	24/24	1145	
163	土師器	杯(基盤)	S D1287E-1層					1144	
164	土師器	甕(ヘラギ型)	S D1287E-1層	【外縁】底部:系切り→手持ちヘラケズリ		8.8	24/24	1122	
165	土師器	甕	S D1287E-1層	【外縁】底部:手持ちヘラケズリ ヨコナメ 掌面粗粒 【内縁】ナメ		(16.8) 22/24		1123	
166	土師器	高杯	S D1287E-1層	【外縁】ヘラケズリ ヘラミガキ 【内縁】削れあわ				2184	鏡内系
167	龍形土器		S D1287E-1層	【外縁】ヘラケズリ(ヨコ)【内縁】ヘラケズリ(ヨコ) ナメケ				1124	
168	龍形土器		S D1287換出面	【外縁】ヘラケズリ 【内縁】ナメ				1126	
169	龍形土器		S D1287-1層	【外縁】ナメ 【内縁】ナメケ				1125	
170	圓錐土器		S D1287換出面					1129	
171	圓錐土器		S D1287E-1層	【外縁】				1158	
172	圓錐土器		S D1287E-1層	【外縁】				1130	
173	灰陶陶器	瓶	S D1287E-1層	【外縁】底部:回転ヘラケズリ 内 外面部				1133	
174	土師器		S D1287-1層	オサエニナメ				1115	
175	丸瓦		S D1279-1層					1118	段字分類:丸瓦1 A類
176	土師器	杯	S D1276-1層	【外縁】底部:不明 体下半:回転ヘラケズリ	15.3 12/24	5.1 24/24	4.8	1177	
177	土師器	杯	S D1276-1層	【外縁】底部:回転系切欠き 比較有り	(13.6) 6/24	(6.4) 24/24	5.2	1178	
178	須恵器	杯	S D1276-1層	【外縁】底部:回転系切欠き 体下半: 手持ちヘラケズリ	(16.8) 10/24	(3.8) 15/24	4.8	1179	
179	須恵器	杯	S D1276-1層	【外縁】底部:ヘラ切欠き 【内縁】口 縁～体部:油付青苔	(13.6) /24	(6.0) /24	4.5	1180	
180	須恵器	杯	S D1276-1層	【外縁】底部:回転系切欠き 【内縁】 口縁～体部:油付青苔	(13.4) 1.5/24	(5.8) 24/24	3.6	1181	
181	須恵器	杯(基盤)	S D1276-1層	【外縁】底部:回転系切欠き 体下半: 手持ちヘラケズリ		(7.6) 7/24		1182	
182	須恵器	小型瓶	S D1276-1層		(4.9) 7/24			1183	
183	須恵器	杯	S D1411-1層	【外縁】底部:ヘラ切欠き				699	
184	須恵器	短頸瓶	S K1217-1層	【外縁】底部:コロナメヘラミガキ 底部:ヘラギヨコナメナメ	(8.7) 0.5/24			496	
185	須恵器	杯(基盤)	S K1213-1層	【外縁】底部:ヘラ切欠き	(14.4) 8/24	(8.8) 24/24	8.45	140	
186	土師器	杯(基盤)	S K1215-1層	【外縁】底部:手持ちヘラケズリ	(14.0) 5/24	(6.4) 11/24	5.7	131	
187	須恵器	杯	S K1215-1層	【外縁】底部:ヘラ切欠き→手持ちヘラ ケズリ	(13.2) 6.5/24	(7.9) 6/24	3.7	130	
188	須恵器	杯(基盤)	S K1215-1層	【外縁】底部:ヘラ切欠き		/24		132	

表33 出土遺物観察表(3)

番号	種類	器種	遺構・部位	特徴	口径・残存率	底径・残存率	器高	登錄番号	備考
189	直底器	杯	S K1223-1層	【外縁】底部へラözり	(15.4) 4/24 (10.4)	11/24 6.9	149		底部内外面に修理付着
190	直底器	杯(墨書き)	S K1223-1層	【外縁】底部へラözり		/24 7.2	20/24	152	
191	直底器	杯(墨書き)	S K1223-1層	【外縁】底部・側面切	14.6	16/24 5.95	24/24 4.3	153	
192	直底器	杯(ヘラガキ)	S K1223-1層	【外縁】底部・側面切	12.9	7/24 7.2	24/24 4.9	156	
193	土師器	盤台	S K1223下-砂崩中	【外縁】ヘラミガキ ハケメ・内面 ヘラケズリ・ハケメ・ヨコナギ ヘラミガキ	(7.4) 3/24 (13.2)	15/24 8.7	155		
194	土師器	杯	S K1292-1層	【外縁】底部・側面切	16.0	23.5/24 5.5	24/24 6.25	1916	
195	土師器	杯(墨書き)	S K1292-1層					1952	
196	直底器	杯	S K1307-1層	【外縁】底部・ヘラözり	(13.1) 5/24 (6.0)	12.5/24 4.4	1939		
197	土師器	羽輪	S K1307-1層	【内縁】ヘラナヂ	(25.4) 3.2/24			1941	
198	土師器	杯	S K1306-1層	【外縁】小明	(13.0) 7/24 (6.2)	/24 4.4	1159		
199	直底器系土器	杯	S K1322-1層	【外縁】側面切	(14.6) 7.5/24 (6.0)	19/24 3.95	1926		
200	土師器	杯	S K1787-2層	【外縁】底部・側面切	(13.4) 11/24 (5.6)	13/24 4.25	1943		
201	土師器	杯	S K1787-1層	【外縁】ヘラミガキ・黑色焼	(14.2) 3/24			2228	
202	土師器	高台付杯	S K1787-1層	【外縁】底部・ヘラミガキ・黑色燒 底部・側面切		6.95	24/24	1945	
203	直底器	杯	S K1342-1層	【外縁】底部・圓輪・ヘラケズリ 底部・ヘラケズリ	(18.0) 7.5/24 (8.9)	6/24 8.3	1933		
204	直底器	杯	S K1342-2層	【外縁】底部・ヘラözり	(13.0) 9/24 (8.3)	12/24 3.95	1931		
205	直底器	杯	S K1342-1層	【外縁】底部・ヘラözり	(14.6) 9/24 (8.8)	10/24 4.1	1932		体部内面に付着物あり
206	直底器	杯	S K1342-1層	【外縁】底部・ヘラözり	(14.6) 14.5 (9.0)	10/24 3.8	1975		
207	土器		S K1342-1層		員 4.6	幅 5.1	厚 5.0	1966	
208	土師器	甕(附着土器)	S K1342-1層	赤ロクロ 【外縁】工具によるナヂ 【内縁】全体ナヂ ヘラナヂ	15.0	5/24 9.6	6/24 10.5	1937	
209	直底器	杯	S K1334-1層	【外縁】底部・ヘラözり	(11.2) 0.5/24 (6.5)	11/24 4.2	1173		
210	直底器	杯	S K1334-1層	【外縁】底部・ヘラözり	(13.4) 6/24 (8.4)	8/24 7.4	1174		
211	直底器	杯(墨書き)	S K1386-1層	【外縁】底部・回転系切り 【内縁】 底部・ほぼ全面にスッペ着	(13.0) 5/24 (6.7)	9/24 5.1	1951		
212	土師器	杯(墨書き)	S K1386-2層	【外縁】作下端～底部・回転ヘラöz ヌリ		6.2	11/24	1953	
213	鋸出し器	杯	S K1386-2層					1962	
214	鋸出し器	杯	S K1386-1層					1964	
215	鋸出し器	杯	S K1386-1層					1963	
216	鋸出し器	杯	S K1386-1層					1965	
217	鋸出し器	杯	S K1386-1層					1969	
218	鋸出し器	杯	S K1386-1層					1970	
219	鋸出し器	杯	S K1386-1層					1971	
220	鋸出し器	杯	S K1386-1層					1972	
221	鋸出し器	杯	S K1386-1層					1973	
222	鋸出し器	杯	S K1386-1層					1974	
223	土師器	甕	S K1403-1層	赤ロクロ 【内縁】ヘラミガキ	21.6	13.5/24 10.6	18/24 11	1938	
224	土師器	杯	S K1351A-1層	【外縁】全体ナヂ・手持ちヘラケズリ 底部・ヘラ切り・手持ちヘラケズリ	(16.6) 0.5/24 (8.6)	9/24 7.3	1584		
225	直底器	杯(ヘラガキ 通付)	S K1351A-1層	【内縁】底部・ヘラözり	12.5	11/24 7.1	24/24 4.19	1871	
226	直底器	杯	S K1351A-1層	【内縁】底部・ヘラözり	(15.0) 6/24 (8.8)	11/24 3.6	1573		体部内面に付着物有り
227	直底器	杯	S K1351A-1層	【内縁】底部・切り離し不明・回転 ヘラケズリ	15.6	16.5/24 7.8	18/24 3.45	1897	
228	直底器	杯	S K1351A-1層	【内縁】底部・ヘラözり 【内縁】底部着	12.1	22/24 7.1	24/24 3.75	1998	体部内面に修理付着
229	直底器	杯	S K1351A-1層	【内縁】底部・ヘラözり	(14.6) 11/24 (7.8)	24/24 4.0	1608	スヌス付着	
230	直底器	杯	S K1351A-1層	【内縁】底部・ヘラözり	(14.95) 6/24 (7.8)	12/24 3.65	1607		
231	直底器	杯(墨書き)	S K1351A-1層	【内縁】底部・ヘラözり	(14.0) 5/24 (8.4)	3.5/24 4.0	1608		
232	直底器	杯(墨書き)	S K1351A-1層	【内縁】底部・ヘラözり	(7.4)	9/24		1558	
233	直底器	杯	S K1351A-1層	【外縁】底部・不明・手持ちヘラケズリ	13.9	15/24 9.2	24/24 3.85	1557	
234	直底器	高台付杯(墨書き)	S K1351A-1層	【外縁】底部・ヘラözり	14.5	15/24 9.95	15/24 4.6	1555	
235	土師器	甕	S K1351A-1層	赤ロクロ 口縁・ヨコナヂ 【内縁】ナヂ	(18.0) 6/24			1619	
236	土師器	杯	S K1351A-1層	【内縁】全体ナヂ	(15.0) 1.5/24	(8.4) 13.5/24 4.1	1589	両面ミガキ	
237	土師器	杯	S K1351A-1層	赤ロクロ	(12.0) 7/24 (6.0)	12/24 3.2	1590	両面ミガキ	
238	土師器	杯	S K1351A-1層	手持ち・底部・点打ち・手持ちヘラケズリ	(16.0) 6/24 (8.4)	6/24 4.5	1582		
239	土師器	杯	S K1351A-1層	【外縁】底部・手持ち・ヘラケズリ 底部・点打ち・手持ちヘラケズリ	(13.6) 5/24 (6.5)	24/24 3.9	1576		
240	土師器	杯	S K1351A-1層	【外縁】全体・手持ち・ヘラケズリ 底部・手持ち・ヘラケズリ	(13.0) 5/24 (7.8)	5/24 4.0	1581		
241	土師器	杯(墨書き)	S K1351A-1層	【外縁】全体・半～底部・手持ち・ヘ ラケズリ	(16.0) 8/24 (9.6)	19/24 8.0	1566		
242	土師器	杯	S K1351A-1層	【外縁】全体・回転・ヘラケズリ 底部・点打ち	(15.0) 7/24 (6.0)	6/24 3.5	1578		
243	土師器	杯	S K1351A-1層	【外縁】底部・ヘラözり	(15.2) 6/24 (7.1)	20/24 4.6	1575		
244	土師器	杯	S K1351A-1層	【内縁】底部・手持ち・ヘラケズリ	(17.0) 3.5/24 (9.1)	7/24 6.7	1577		
245	直底器	杯	S K1351A-1層	【外縁】底部・ヘラözり	(14.0) 7/24 (7.6)	9.5 4.3	1569		
246	直底器	杯	S K1351A-1層	【外縁】底部・ヘラözり	(15.1) 4/24 (8.4)	9/24 4.5	1562		

表34 土出土遺物観察表(4)

番号	種類	器種	遺構・部位	特徴	口径・残存率	底径・残存率	器高	登録番号	備考	
247	須恵器	杯	S X1351A・底面	(外)底部へラギキ	(14.2) 3/24 (6.0)	10/24 3.7	1565	内外面にスス付着		
248	須恵器	杯(ヘラギキ)	S X1351A・底面	【外】底部へラギキ		(7.9) 16/24		1568		
249	須恵器	杯	S X1351A・底面	【外】底部へラギキ	(13.4) 7.5/24 7.2	24/24 3.9	1595			
250	須恵器	杯	S X1351A・底面	【外】底部へラギキ	(13.6) 10/24 8.6	24/24 4.5	1596			
251	須恵器	杯	S X1351A・底面	【外】底部へラギキ	(14.0) 9/24 9.2	16/24 4.0	1599			
252	須恵器	杯	S X1351A・底面	【外】底部へラギキ	(11.6) 5/24 (7.0)	7/24 3.6	1604			
253	須恵器	杯	S X1351A・底面	【外】底部へラギキ	(13.7) 10/24 (7.4)	12/24 4.2	1605	体部内面に付着物(植物の解消したもの?)付り		
254	須恵器	高台付杯	S X1351A・底面	【外】底部へラギキ	(14.0) /24 (7.05)	/24 4.95	1612			
255	須恵器	高台付杯	S X1351A・底面	【外】底部・側輪系切り→側輪へラギキ	17.4 10/24 11.4	16.5/24 6.25	1611			
256	土師器	甕	S X1351A・底面	ヨロクロ【外】体部へケメ底部・木葉模【内】ナラナ		7.8 24/24		1618		
257	土師器	甕	S X1351A・底面	ヨロクロ 口縁ヨコヨメ【外】体部へケメ	25.0 8/24			1620		
258	須恵器	甕	S X1351A・底面	【外】口輪・側部ヨロコナナ手持ちへラギキ【内】ヨコメ				1567		
259	土師器	小甕	S X1351A・底面	ヨロクロ 口縁ヨコナナ【外】体部へケメ手持ちへラギキ底部・木葉模	(13.3) 1.8/24 (7.7)	5.5/24 13.6	1616			
260	平瓦		S X1351A・底面					1624	平瓦 I A 種	
261	丸瓦		S X1351A・底面					1623		
262	土師器	杯	S D1351B・1層	ヨロクロ【外】底部へラギキヘラギキヨコナナ	(14.2) 1/24		4.5	1552	両面ミガキ	
263	土師器	杯	S D1351B・1層	ヨロクロ【外】体・底部・手持ちへラギキ	(14.5) 0.5/24 (7.2)	10/24 4.15	1561			
264	土師器	杯	S D1351B・1層	ヨロクロ	(16.2) 2/24 (8.6)	/24 6.0	1558	両面ミガキ		
265	土師器	杯(茎部)	S D1351B・1層	【外】底部下端・手持ちへラギキ底部へラギキ	(11.2) 10/24 (6.4)	15/24 4.0	1539			
266	土師器	杯	S D1351B・1層	ヨロクロ【外】口縁ヨコナナ底部へラギキヨコナナミガキ	14.25 4/24		4.6	1553		
267	須恵器	円筒瓶	S D1351B・1層	【外】底部・側輪系切り	16.2 24/24 7.1	8/24 8.7	1534			
268	須恵器	杯(灯明柄)	S D1351B・1層	【外】底部・側輪系切り	(14.5) 2/24 (8.6)	12/24 4.0	1546			
269	須恵器	杯	S D1351B・1層	【外】底部・側輪系切り	(15.8) 1/24 (9.6)	11/24 4.3	1547			
270	須恵器	杯	S D1351B・1層	【外】底部・側輪系切り	(13.0) 8.5/24 (6.6)	24/24 3.7	1543			
271	須恵器	杯	S D1351B・1層	【外】底部・側輪系切り	13.9 21/24 10.2	24/24 3.81	1545			
272	須恵器	杯	S D1351B・1層	【外】底部・側輪系切り	13.4 12/24 8.5	19/24 3.65	1536			
273	須恵器	杯	S D1351B・1層	【外】底部切端不規正不規正ヘラギキ	(11.0) 10/24 (6.8)	24/24 2.95	1546			
274	須恵器	杯	S D1351B・1層	【外】底部・側輪系切り	(13.6) 10/24 (7.1)	24/24 4.2	1542	スス付着		
275	須恵器	杯(茎部)	S D1351B・1層	【外】底部・側輪系切り	13.0 16/24 7.35	24/24 3.8	1533			
276	須恵器	杯(茎部)	S D1351B・1層	【外】底部・側輪系切り	13.5 12/24 7.4	24/24 3.65	1532			
277	須恵器	杯(ヘラギキ 灯明柄)	S D1351B・1層	【外】底部・側輪系切り	13.7 24/24 8.6	24/24 4.0	1535			
278	須恵器	杯(茎部)	S D1351B・1層	【外】底部切端不規正不規正ヘラギキ	(15.0) 3/24 (7.6)	24/24 4.5	1530			
279	須恵器	杯(茎部)	S D1351B・1層	【外】底部ヘラギキ	14.6 19/24 8.1	24/24 4.25	1529			
280	須恵器	杯(茎部)	S D1351B・1層	【外】底部ヘラギキ	(15.0) 1/24 7.2	13/24 4.6	1531			
281	須恵器	甕	S D1351B・1層	【外】底部ヘラギキ→平行タスキ底部・平行タスキヨコロクロナ	(25.8) 5/24 (12.8)	13/24 17.3	1908			
282	土師器	杯	S X1351C・1層	【外】口縁・側輪系・手持ちヘラギキ	8.6 12/24 5.6	24/24 3.3	1314			
283	土師器	杯	S X1351C・1層	【外】底部・側輪系・手持ちヘラギキ	(16.9) /24 5.4	34/24 4.45	1313			
284	土師器	杯	S X1351C・1層	【外】底・側輪系・手持ちヘラギキ	(17.0) 4/24 (8.6)	9/24 6.4	1315			
285	土師器	杯	S X1351C・1層	【外】底・側輪系・手持ちヘラギキ	(15.8) 5/24 (8.7)	17/24 3.9	1257			
286	土師器	杯	S X1351C・1層	【外】底・側輪系・手持ちヘラギキ	(15.7) 1.7/24 (8.0)	4/24 7.8	1316			
287	須恵器	杯	S X1351C・1層	【外】底・側輪系・手持ちヘラギキ	(12.2) 7/24 (7.0)	8/24 3.8	1304			
288	須恵器	杯	S X1351C・1層	【外】底・側輪系・手持ちヘラギキ	16.8 21/24 9.7	24/24 6.45	1308			
289	須恵器	杯(ヘラギキ)	S X1351C・1層	【外】底・側輪系・手持ちヘラギキ	13.4 12/24 7.6	24/24 4.0	1305			
290	須恵器	杯	S X1351C・1層	【外】底・側輪系・手持ちヘラギキ	13.1 12/24 5.95	24/24 4.2	1310			
291	須恵器	杯	S X1351C・1層	【外】底・側輪系・手持ちヘラギキ	12.3 15/24 7.1	24/24 3.85	1312			
292	須恵器	杯(油煙付)	S X1351C・1層	【外】底・側輪系・手持ちヘラギキ	13.0 16/24 6.8	24/24 3.85	1300	口縁へ落着、内外面に油煙付着物有り		
293	須恵器	杯(灯明皿)	S X1351C・1層	【外】底・側輪系・手持ちヘラギキ	14.2 20/24 8.3	24/24 4.3	1311	スス付着		
294	土師器	甕	S X1351C・1層	【外】底・側輪系・手持ちヘラギキ	(23.0) 7/24 8.3	24/24 33.1	1907			
295	土師器	高台付杯	S X1351C・1層	【外】底・側輪系・手持ちヘラギキヨコロナダ		11.75 14/24		1303	底面内面にミガキによる研磨有り 墓内系 平底	
296	土師器	甕	S X1351C・1層	【外】底・側輪系・手持ちヘラギキ	17.25 17/24			1317		
297	土師器	甕	S X1351C・1層	【外】底・側輪系・手持ちヘラギキ	(23.2) 6/24			1318	内外面にスス付着	
298	土師器	甕	S X1351C・1層	【外】底・側輪系・手持ちヘラギキヨコロナダ	25.0 21/24			1906		
299	須恵器	楕瓶	S X1351C・1層	【外】底・側輪系・手持ちヘラギキヨコロナダ				1484	大戸裏	

表35 出土遺物観察表(5)

番号	種類	種	遺骸・部位	特徴	口径・残存率	口径・残存率	縦	横	骨盤番号	備考
300	電車土器		S X1351C-1型	【外面】格子タスキナデ 【内面】ヘナダ	(46.8) 3/24				1487	
301	頭部器	杯(黒漆)	S X1351C-1型	【外面】底部へハタ切り	(13.6) 6/24	(7.8) 11/24	4.75	1300		
302	頭部器	高台付杯(津村君)	S X1351C-1型	【外面】底部へハタ切り→回転ヘタケズリ					1302	
303	平瓦		S X1351C-1型						4508	
304	土師器	杯(黒漆)	S X1351C-1型	【外面】体下平～底部:手持ちヘタケズリ	13.4 19/24	8.0 24/24	4.0	1290		
305	土師器	杯(黒漆)	S X1351C-1型	【外面】体下平～回転ヘタケズリ 底部:内側へ凹字	(10.4) 10/24	(5.6) 24/24	3.9	1291		
306	土師器	杯(黒漆)	S X1351C-1型	【外面】底部:回転赤切り→縁部の み手持ちへカケズリ		(7.4) 20/24			1292	
307	頭部器	杯(黒漆)	S X1351C-1型	【外面】底部へ9字り	14.5 20/24	7.8 24/24	4.3	1293		
308	頭部器	杯(黒漆)	S X1351C-1型	【外面】底部へハタ切り	14.0 24/24	8.35 24/24	3.6	1297		
309	頭部器	杯(黒漆)	S X1351C-1型	【外面】底部へカッタリ一部ヘタ ケズリ	13.8 21/24	6.95 24/24	3.5	1298		
310	頭部器	杯(黒漆)	S X1351C-1型	【外面】底部へハタ切り		(6.8) 12/24			1299	
311	頭部器	杯(黒漆)	S X1351C-1型	【外面】回転へハタ切り	13.25 18/24	7.6 24/24	3.85	1307		
312	頭部器	杯(黒漆) (光明鏡)	S X1351C-1型	【外面】底部:内側赤切り	13.6 19/24	7.6 24/24	3.85	1295		
313	頭部器	杯(黒漆)	S X1351C-1型	【外面】体下平～切り	(12.0) 9/24	(7.5) 24/24	4.5	1306		
314	頭部器	杯(黒漆)	S X1351C-1型	【外面】底部へハタ切り		6.2 24/24			1298	
315	頭部器	杯(黒漆)	S X1351C-1型	【外面】底部へカッタリ	(14.0) 6/24	(6.5) 6/24	4.05	1301		
316	土師器	杯	S X1351C-2型	【外面】体下平～底部:手持ちヘタ ケズリ	15.3 19/24	8.5 24/24	4.0	1414		
317	土師器	杯	S X1351C-2型	【外面】体下平:手持ちヘタケズリ	(16.8) 2/24	8.2 24/24	6.15	1417		
318	土師器	杯	S X1351C-2型	【外面】体下平～底部:手持ちヘ ケズリ	17.3 16/24	8.1 24/24	6.15	1422		
319	土師器	杯	S X1351C-2型	【外面】体下平～底部:手持ちヘタ ケズリ	(17.2) 7/24	(5.8) 8/24	6.6	1428		
320	土師器	杯	S X1351C-2型	【外面】体下平:手持ちヘタケズリ 底部:高切り～手持ちヘタケズリ	(14.2) 9/24	7.6～8.8 24/24	4.25	1420		
321	土師器	杯	S X1351C-2型	【外面】体下平～回転ヘタケズリ	(15.2) 20/24			1415		
322	土師器	杯	S X1351C-2型	【外面】体下平～底部:手持ちヘ ケズリ	(17.0) 3/24	8.0 24/24	7.85	1425		
323	土師器	杯	S X1351C-2型	【外面】体下平～底部:手持ちヘタ ケズリ	(14.0) 4/24	(7.6) 24/24	3.7	1418		
324	土師器	杯	S X1351C-2型	【外面】体下平:手持ちヘタケズリ	(14.8) 7/24	(7.9) 10/24	6.1	1416		
325	土師器	杯	S X1351C-2型	【外面】体下平:手持ちヘタケズリ	14.5 13/24	7.6 19/24	4.45	1427		
326	土師器	杯(光明鏡?)	S X1351C-2型	【外面】体下平～底部:手持ちヘタ ケズリ	(15.8) 6/24	(5.1) 21/24	4.8	1419	外面部縁部にスス付 内面底状の付着物有り	
327	土師器	杯	S X1351C-2型	【外面】体下平:回転ヘタケズリ 底部:高切り～回転ヘタケズリ	(13.8) 3/24	(7.6) 11/24	4.3	1423		
328	土師器	杯	S X1351C-2型	【外面】体下平:カギ	10.4 14/24	4.0 24/24	4.2	1424		
329	土師器	杯(瓶A)	S X1351C-2型	【外面】口部ヨコナデ [内面]ヨコナデ ヨコサザエ ヨコマツリ～ラミガキ	12.1 11/24	6.0 24/24	3.7	2180	瓶A系	
330	土師器	瓶	S X1351C-2型	【外面】口部～体下部:ヨコナデ 邪魔 ヨコサザエ [内面]ヨコナデ 植株	(17.6) 3/24	(12.6) 2.2/24	1.75	2182	瓶A系	
331	頭部器	杯(ヘタガキ)	S X1351C-2型	【外面】底部へハタ切り	(12.8) 2/24	(8.4) 15/24	4.2	1381		
332	頭部器	杯	S X1351C-2型	【外面】底部:回転赤切り	(13.9) 3/24	5.45 24/24	3.4	1399		
333	頭部器	杯	S X1351C-2型	【外面】底部へハタ切り	15.2 11/24	8.4 24/24	4.7	1404		
334	頭部器	杯	S X1351C-2型	【外面】底部へハタ切り	12.9 10/24	6.3 24/24	4.0	1401		
335	頭部器	杯	S X1351C-2型	【外面】底部へハタ切り	(12.6) 9/24	7.8 24/24	4.35	1407		
336	頭部器	杯	S X1351C-2型	【外面】底部へハタ切り	14.5 17/24	8.3 24/24	4.1	1403		
337	頭部器	杯	S X1351C-2型	【外面】底部へハタ切り	14.9 14/24	8.4 24/24	4.4	1394		
338	頭部器	杯	S X1351C-2型	【外面】底部へハタ切り	(13.6) 11/24	8.4 16/24	3.8	1387		
339	頭部器	杯	S X1351C-2型	【外面】底部へハタ切り	13.55 16/24	7.9 24/24	4.5	1395		
340	頭部器	杯	S X1351C-2型	【外面】底部へハタ切り	(12.0) 10/24	(8.6) 12/24	5.45	1401		
341	頭部器	杯	S X1351C-2型	【外面】底部へカギ	(13.2) 7/24	(5.6) 7/24	4.15	1403		
342	頭部器	杯	S X1351C-2型	【外面】底部へカギ	(15.0) 6/24	(7.6) 2/24	4.2	1404		
343	頭部器	杯	S X1351C-2型	【外面】底部へハタ切り	13.3 24/24	7.9 24/24	4.1	1410		
344	頭部器	杯	S X1351C-2型	【外面】底部へハタ切り	(13.6) 7/24	(7.6) 15/24	3.95	1411		
345	頭部器	杯	S X1351C-2型	【外面】底部へハタ切り	13.5 16/24	8.4 24/24	3.5	1406		
346	頭部器	杯	S X1351C-2型	【外面】底部へハタ切り	(12.8) 5/24	(6.6) 6/24	4.2	1408		
347	頭部器	杯	S X1351C-2型	【外面】底部へハタ切り	13.6 16/24	7.9 24/24	3.8	1407		
348	頭部器	杯	S X1351C-2型	【外面】底部へハタ切り	(13.4) 7/24	(8.2) 17/24	4.0	1413		
349	頭部器	杯	S X1351C-2型	【外面】底部へハタ切り	(11.6) 6/24	(8.2) 6/24	3.8	1449		
350	頭部器	杯	S X1351C-2型	【外面】底部へハタ切り	(13.0) 13/24	(7.3) 12/24	3.0	1460		
351	頭部器	杯	S X1351C-2型	【外面】底部へハタ切り	(14.2) 7/24	(7.8) 9/24	3.9	1461		
352	頭部器	杯	S X1351C-2型	【外面】底部へハタ切り	(13.6) 7/24	(7.6) 15/24	3.95	1411		
353	頭部器	杯	S X1351C-2型	【外面】底部へハタ切り	(13.2) 6/24	(5.6) 5/24	3.5	2039		
354	頭部器	杯(光明鏡)	S X1351C-2型	【外面】底部へハタ切り	(12.6) 12/24	8.0 12/24	3.8	1390		
355	頭部器	杯(光明鏡)	S X1351C-2型	【外面】底部へハタ切り	(11.5) 9.5/24	(7.2) 13.5/24	5.0	1408		
356	頭部器	杯(光明鏡)	S X1351C-2型	【外面】底部へハタ切り	13.1 23/24	7.6 24/24	3.8	1409	久付着	
357	頭部器	杯(光明鏡)	S X1351C-2型	【外面】底部へハタ切り	13.5 16/24	7.5 24/24	4.0	1412		
358	頭部器	杯(光明鏡?)	S X1351C-2型	【外面】底部へハタ切り	(14.2) 9.5/24	(8.2) 8.5/24	3.5	1436		
359	頭部器	杯(地付着)	S X1351C-2型	【外面】底部へハタ切り	(14.2) 8/24	(9.0) 15/24	3.95	2040		
360	頭部器	杯(光明鏡)	S X1351C-2型	【外面】底部へハタ切り	(13.6) 6/24	(5.0) 11/24	4.65	1362		
361	頭部器	杯	S X1351C-2型	【外面】底部へハタ切り	(13.4) 10/24	(7.2) 12/24	3.9	1361		
362	頭部器	杯(光明鏡)	S X1351C-2型	【外面】底部へハタ切り	(15.2) 5/24	(5.1) 9/24	3.6	1363		

表36 出土遺物観察表(6)

番号	種類	名稱	遺構・部位	特徴	口径・残存率	底面・残存率	器高	登錄番号	備考	
363	須恵器	高台付杯(鉢用刷)	S X1351 C -2層	【外縁】底下平～底部:回転ヘタケズリ	(9.85)	24/24		1365		
364	須恵器	杯(治療付唇)	S X1351 C -2層	【外縁】底部:ヘラ切り	(13.6)	7/24 (7.8)	11/24	3.4	1435	
365	須恵器	高台付杯(鉢用刷)	S X1351 C -2層	【外縁】底部:ヘラ切り	(13.6)	14/24	8.8	24/24	5.15	1396
366	須恵器	杯(事付唇)	S X1351 C -2層	【外縁】底部:ヘラ切り	(16.22)	3.5/24	9.324	/24	6.3	2035
367	須恵器	高台付杯	S X1351 C -2層	【外縁】底部:ヘラ切り	(12.2)	5/24	(3.4)	24/24	5.3	1400
368	須恵器	双耳杯(へうガキ)	S X1351 C -2層	【外縁】底下平～底部:手持ちヘタケズリ	(12.0)	6/24			1385	
369	須恵器	高台付杯	S X1351 C -2層	【外縁】底部:ヘラ切り	(16.6)	4/24	(9.6)	10.5/24	6.4	1398 内面に付着物有り
370	土師器	甕	S X1351 C -2層	【外縁】底部:タキ 【内縁】回転 ハケメ	(22.0)	/24			1376	
371	土師器	杯	S X1351 C -2層	【外縁】口縁:ヨコナデ 体部:ハケメ 通常:手持ちヘタケズリ	(18.8)	6/24	(9.8)	2/24	9.5	1428
372	土師器	甕	S X1351 C -2層		(22.4)	8/24			1499	
373	土師器	甕	S X1351 C -2層	【外縁】底部:軸系切り	(16.8)	18/24	(7.7)	11/24	13.1	1498
374	土師器	甕	S X1351 C -2層	【外縁】ロコナデ 平行タキ 【内縁】回転ハケメ	(22.1)	19/24			1501	
375	土師器	甕	S X1351 C -2層	舟ロクロ 【外縁】口縁:ヨコナデ 体部:ハケメ 【内縁】ヘナナデ	(15.5)	10/24	7.3	24/24	13.4	1502
376	土師器	甕	S X1351 C -2層	舟ロクロ 【外縁】口縁:ヨコナデ 体部:ハケメ 【内縁】ヘナナデ	(22.8)	4/24			1505	
377	土師器	甕	S X1351 C -2層	舟ロクロ 【外縁】口縁:ヨコナデ 体部:ハケメ 【内縁】ヘナナデ	(21.0)	/24			1504	
378	土師器	甕	S X1351 C -2層	舟ロクロ 【外縁】口縁:ヨコナデ 体部:手持ちヘタケズリ 【内縁】ナデ	(12.2)	/24	(7.4)	/24	18.5	1511
379	土師器	甕	S X1351 C -2層	【外縁】体下平:手持ちヘタケズリ 底部:不明	(15.8)	8/24	(8.2)	20/24		1507
380	土師器	甕	S X1351 C -2層	【外縁】口縁:ヨコナデ 体部:ハケメ 手持ちヘタケズリ 通常:本輪底	(17.9)	10/24	9.4	24/24	25.9	1497 体部下平に穿孔有り
381	土師器	甕	S X1351 C -2層		(23.2)	/24			1508	
382	土師器	甕	S X1351 C -2層	【外縁】口縁:ヨコナデ 体部:ハケメ 【内縁】ヘナナデ	(17.0)	2/24			1518	
383	土師器	甕(入函面書?)	S X1351 C -2層	【外縁】底下平～底部:手持ちヘタケズリ	(12.6)	18/24	7.1	24/24	8.7	1373
384	土師器	甕	S X1351 C -2層	舟ロクロ? 【外縁】手持ちヘタケズリ		11.2	/24		1513	
385	土師器	甕	S X1351 C -2層	【外縁】タキ ロコナデ 手持 ハタケズリ	(29.8)	4/24			1517	
386	須恵器	眞形瓶	S X1351 C -2層	【外縁】口縁:ヨコナデ 体部:下平～回転 ハタケズリ 瓶底:らせん状点列	(8.4)	24/24	7.4	24/24	21.2	1488 体部内面に付着物有り
387	須恵器	眞形瓶	S X1351 C -2層	【内縁】カメ	(10.0)	9.5/24			1490 付着物有り	
388	須恵器	眞形瓶	S X1351 C -2層	【内縁】瓶底:眞形瓶底 体部:ハタケズリ					1491 付着物有り	
389	須恵器	眞形瓶	S X1351 C -2層	【内縁】瓶底:眞形瓶底	(6.6)	/24			1492 付着物有り	
390	須恵器	甕	S X1351 C -2層	【外縁】体部:回転ヘタケズリ		9.7	24/24		1521 体部内面に紙滓状の付着物有り 瓶底外間に付着物有り	
391	須恵器	眞形瓶(墨書き)	S X1351 C -2層	【外縁】体下平:回転ヘタケズリ 【内縁】ナデ		10.6	24/24		1519	
392	須恵器	甕	S X1351 C -2層		(21.8)	3/24			1492	
393	須恵器	甕	S X1351 C -2層	【外縁】体部:カキメ	(14.8)	2/24			1515	
394	須恵器	甕	S X1351 C -2層		(22.5)	8/24			1508 平底竹管のようなもので底をつけた底有り	
395	須恵器	甕	S X1351 C -2層	【外縁】口縁:カキメ 体部:旅狹文	(14.0)	1/24			1494 体部外間に茎津状の付着物有り	
396	須恵器	短颈甕	S X1351 C -2層	【外縁】口縁:カキメ 体部:旅狹文 【内縁】中心円文	(12.4)	13/24			1495 体部外間に茎津状の付着物有り	
397	須恵器	甕	S X1351 C -2層	【外縁】平行タキ 【内縁】同心円文 工程によるナデ					1500	
398	須恵器	甕	S X1351 C -2層	【外縁】平行タキ 【内縁】当具痕	(18.1)	/24	(10.8)	/24	32.85	1496
399	須恵器	甕	S X1351 C -2層	【外縁】底状:平行タキ 【内縁】当具痕 ハケメ					1528	
400	土師器	杯(墨書き)	S X1351 C -2層	【外縁】底下平～底部:手持ちヘタケズリ	(14.9)	9/24	7.9	12/24	4.2	1356
401	土師器	杯(墨書き)	S X1351 C -2層	【外縁】底下平～底部:手持ちヘタケズリ 底部:不明 手持ちヘタケズリ	(15.8)	4/24	(7.9)	21/24	4.2	1377
402	土師器	杯(墨書き 红明顯)	S X1351 C -2層	【外縁】底下平～底部:手持ちヘタケズリ 体部:赤切り 手持ちヘタケズリ	(13.4)	6/24	7.6	24/24	4.65	1379
403	土師器	杯(墨書き)	S X1351 C -2層	【外縁】体下端～底部:回転ヘタケズリ	(13.8)	8/24	(7.6)	12/24	3.65	1421
404	土師器	杯(墨書き)	S X1351 C -2層	【外縁】体下端～底部:手持ちヘタケズリ 額部:回転系切り		(7.8)	8/24		1384	
405	土師器	杯(墨書き)	S X1351 C -2層	【外縁】体下端～底部:ヘタケズリ	(13.0)	4/24			1378	
406	須恵器	杯(墨書き)	S X1351 C -2層	【外縁】体下端～底部:ヘタ切り	(14.1)	17.5/24	9.05	24/24	3.8	1334
407	須恵器	杯(墨書き 红明顯)	S X1351 C -2層	【外縁】体下端～底部:ヘタ切り	(13.3)	8/24	6.8	10/24	3.2	1337
408	須恵器	杯(墨書き)	S X1351 C -2層	【外縁】体下端～底部:ヘタ切り	(12.1)	16/24	6.9	24/24	4.55	1319
409	須恵器	杯(墨書き)	S X1351 C -2層	【外縁】体下端～底部:ヘタ切り	(13.5)	12/24	8.95	13.5/24	3.3	1338
410	須恵器	杯(墨書き)	S X1351 C -2層	【外縁】体下端～底部:ヘタ切り	(13.8)	7/24	8.6	9/24	3.0	1329
411	須恵器	杯(墨書き CT(明細))	S X1351 C -2層	【外縁】体下端～底部:ヘタ切り	(14.4)	12/24	(9.0)	20.5/24	4.2	1336
412	須恵器	杯(墨書き)	S X1351 C -2層	【外縁】体下端～底部:ヘタ切り	(13.2)	11/24	(7.6)	24/24	3.6	1337

表37 出土遺物観察表(7)

番号	種類	器種	遺構・部位	特徴	口径・残存率	底径・残存率	高さ	登錄番号	備考
413	須恵器	杯(直筒)	S X1351 C・2層	【外面】底部:ヘラ切り	(11.1) 8/24	(7.7) 16/24	3.95	1341	
414	須恵器	杯(直筒)	S X1351 C・2層	【外面】底部:ヘラ切り	(14.1) 9/24	8.0 24/24	4.3	1355	
415	須恵器	杯(直筒)	S X1351 C・2層		(13.3) 4/24			1343	
416	須恵器	杯(直筒)	S X1351 C・2層		(15.8) 8/24			1344	
417	須恵器	杯(直筒 有刷)	S X1351 C・2層	【外面】底部:ヘラ切り 【内面】体下部:手持ちハラケズリ 底部:ヘラ切り		(8.2) 12/24		1342	
418	須恵器	杯(直筒)	S X1351 C・2層	【外面】体下部:手持ちハラケズリ 底部:ヘラ切り				1347	
419	須恵器	杯(直筒 灰明模)	S X1351 C・2層	【外面】底部:ヘラ切り	(14.4) 3.5/24	(8.2) 16/24	3.9	1407	
420	須恵器	杯(直筒)	S X1351 C・2層	【外面】底部:ヘラ切り	(15.5) 13/24	8.55 24/24	6.0	1254	
421	須恵器	杯(直筒)	S X1351 C・2層	【外面】底部:ヘラ切り	(16.0) 24/24	8.05 24/24	4.35	1322	
422	須恵器	杯(直筒)	S X1351 C・2層	【外面】底部:ヘラ切り	(13.4) 5/24	7.0 24/24	3.9	1300	
423	須恵器	杯(直筒)	S X1351 C・2層	【外面】底部:ヘラ切り	(12.6) 9/24	7.4 19/24	3.95	1321	
424	須恵器	杯(直筒)	S X1351 C・2層	【外面】底部:ヘラ切り	(15.6) 7/24	7.8 8/24	4.2	1332	
425	須恵器	杯(直筒)	S X1351 C・2層	【外面】底部:ヘラ切り	(14.4) 13.5/24	7.4 24/24	3.55	1331	
426	須恵器	杯(直筒)	S X1351 C・2層	【外面】底部:ヘラ切り	(13.0) 5.5/24	(8.2) 17/24	3.15	1333	
427	須恵器	杯(直筒)	S X1351 C・2層	【外面】底部:ヘラ切り	(12.9) 5/24	7.0 12/24	3.1	1304	
428	須恵器	杯(直筒)	S X1351 C・2層	【外面】底部:ヘラ切り	(14.0) 7/24	(7.7) 14/24	3.5	1350	
429	須恵器	杯(直筒)	S X1351 C・2層	【外面】底部:ヘラ切り	(14.0) 13.5/24	7.15 24/24	3.9	1348	
430	須恵器	杯(直筒)	S X1351 C・2層	【外面】底部:ヘラ切り	(13.6) 5/24	(8.0) 7/24	3.5	1330	
431	須恵器	杯(直筒)	S X1351 C・2層	【外面】底部:ヘラ切り	(12.9) 11.5/24	(7.3) 11.5/24	3.9	1361	
432	須恵器	杯(直筒)	S X1351 C・2層	【外面】体下部:手持ちハラケズリ 底部:ヘラ切り		(7.6) 16/24		1345	
433	須恵器	杯(直筒)	S X1351 C・2層	【外面】底部:ヘラ切り		(10.4) 6/24		1359	
434	須恵器	杯(直筒)	S X1351 C・2層	【外面】底部:ヘラ切り		7.1 24/24		1340	
435	須恵器	杯(直筒 手土附)	S X1351 C・2層	【外面】底部:ヘラ切り	(13.9) 13.5/24	8.0 14/24	3.95	1357	
436	須恵器	杯(直筒 灰明模)	S X1351 C・2層	【外面】底部:ヘラ切り	(13.5) 5.5/24	(7.2) 21/24	3.8	1458	
437	須恵器	杯(直筒)	S X1351 C・2層	【外面】底部:ヘラ切り	(13.6) 1.5/24	(8.0) 7/24	3.2	1346	
438	須恵器	高台付杯(直筒)	S X1351 C・2層	【外面】底部:ヘラ切り	(11.2) 5/24	(6.8) 22/24	5.6	1338	
439	須恵器	高台付杯(直筒 鎏金)	S X1351 C・2層	【外面】底部:ヘラ切り	(17.0) 1/24	(10.0) 23/24	6.2	1325 剣山48	
440	須恵器	高台付杯(直筒)	S X1351 C・2層	【外面】底部:ヘラ切り		(9.1) 18/24		1349	
441	土師器	杯(ヘラガキ)	S X1351 C・2層	【外面】底部:手持ちハラケズリ 底部:側軸赤切り		5.9 24/24		1382	
442	須恵器	杯(ヘラガキ)	S X1351 C・2層	【外面】底部:ヘラ切り 通割有り?	(14.2) 8/24	(6.6) 14/24	4.1	1405	
443	須恵器	杯(直筒 有刷 ヘラガキ)	S X1351 C・2層	【外面】底部:ヘラ切り		(7.8) 24/24		1383	
444	須恵器	杯(人面直筒)	S X1351 C・2層	【外面】底部:ヘラ切り	(14.9) 22/24	8.1 24/24	4.0	1322	
445	土師器	甕(直筒)	S X1351 C・2層	【外面】口縁:ヨコナギ 体縁:ハケ メ 内面:ハケメ	(16.8) 4/24			1375	
446	土師器	甕(人面直筒)	S X1351 C・2層	【外面】口縁:ヨコナギ 体縁:ヘラ ナメ 内面:ハケメ	(16.9) 6/24			1374	
447	電形土器		S X1351 C・2層	【外面】平行タケヌキ 手跡もヘラ ケズリ 【内面】ハケメ	17.6 16.6	1.8	2041		
448	土師器		S X1351 C・2層					2044	
449	土師器		S X1351 C・2層					2045	
450	須恵器	把手	S X1351 C・2層	【外面】:ヘラケズリ				2046	
451	土師器	箱	S X1351 C・2層					2047	
452	須恵器		S X1351 C・2層		13.4 19/24		4.8	1527	【外面】口沿のある鉄分付着 【外】ガラス質の漆解物付着 光沢のない漆解物付着
453	羽口		S X1351 C・2層		6.55	7.3	2.35	1526	
454	平瓦		S X1351 C・2層					4502	I C型
455	平瓦		S X1351 C・2層					4503	II B a 2頭
456	平瓦		S X1351 C・2層					4505	II B a 3頭
457	平瓦		S X1351 C・2層					4512	II B a 1頭
458	平瓦		S X1351 C・2層					4511	II B a 2頭
459	平瓦		S X1351 C・2層					4510	I A a 頭
460	土師器	杯	S X1351 D・1層	【外面】体下部:手跡もハラケズリ 底部:側軸赤切り	(13.8) 8/24	(6.6) 23/24	4.3	1726	
461	土師器	杯	S X1351 D・1層	【外面】体下部~底部:回転ヘラ ケズリ	(13.8) 4/24	(8.0) 12/24	5.3	1725	
462	土師器	杯(漆付着土器)	S X1351 D・1層	【外面】体下部~底部:手跡もヘ ラケズリ	14.4 14/24	6.5 21/24	5.7	1722	
463	土師器	杯	S X1351 D・1層	【外面】体下部~底部:手跡もヘ ラケズリ 瓶底:ヘラ切り?	(13.4) 4/24	(6.7) 17/24	4.5	1723	
464	土師器	高台付杯	S X1351 D・1層		(16.8) 4/24			1727	
465	土師器	高杯	S X1351 D・1層	【外面】ヨコナギ 手跡もハラケズ リ ヘラミガキ [内面]ヨコナギ 手跡もハラケズリ	—	17.15 3.5/24	—	2189 肌内系 脚部のみ残存	
466	土師器	甕	S X1351 D・1層	【外面】ヘラケズリ [内面]口縁~ 底部:ヨコナギ	(7.9) 2.5/24	—	—	2215 肌内系 平塗分離焼E	
467	須恵器	杯	S X1351 D・1層	【外面】底部:ヘラ切り	(14.4) 5/24	(7.2) 13/24	3.65	1729	
468	須恵器	杯	S X1351 D・1層	【外面】底部:ヘラ切り	(17.3) 4.5/24	(7.8) 11/24	6.2	1718	
469	須恵器	杯	S X1351 D・1層	【外面】底部:ヘラ切り	(13.6) 5/24	(7.2) 12/24	4.45	1715	
470	須恵器	杯	S X1351 D・1層	【外面】底部:回転ヘラ切り	(12.9) 3/24	(7.6) 11/24	4.5	1719	
471	須恵器	杯	S X1351 D・1層	【外面】底部:回転ヘラ切り	(14.35) 13/24	7.3 24/24	4.5	1686	
472	須恵器	杯(打刃用等?)	S X1351 D・1層	【外面】底部:ヘラ切り	(13.0) 8/24	(6.6) 24/24	3.95	1717	
473	須恵器	甕	S X1351 D・1層	【外面】底部:平行タケヌキ 瓶底下: 回転ヘラケズリ 瓶底:ヘラ切り		7.3 24/24		1721	
474	須恵器	甕	S X1351 D・1層	【外面】回転ヘラケズリ	(8.6) 3/24			1728	

表38 出土遺物観察表(B)

番号	種類	器種	遺構・部位	特徴	口径・残存率	底径・残存率	器高	登錄番号	備考
475	土師器	杯(晶石)	S X1351D・1脚	【外面】底部・側面斜め切り	(13.0) 4.5/24	7.4 24/24	3.45	1696	
476	土師器	杯(晶石 ハラガキ)	S X1351D・1脚	【外面】体部下端～底部:手跡もへラケツリ	13.4 17/24	6.1 24/24	4.2	1695	
477	須恵器	杯(晶石 観?)	S X1351D・1脚	【外面】底部:手跡もへラケツリ	13.6 19/24	7.3 24/24	3.9	1687	
478	須恵器	杯(晶石)	S X1351D・1脚	【外面】底部:へら切り	(7.5) 10/24			1693	
479	須恵器	杯(晶石)	S X1351D・1脚	【外面】底部:斜め切り	(5.0) 8.5/24			1688	
480	須恵器	杯(晶石)	S X1351D・1脚	【外面】底部:斜め切り	(14.2) 11/24	(6.2) 14/24	4.6	1685	
481	須恵器	杯(晶石)	S X1351D・1脚	【外面】底部:へら切り	(13.8) 3/24	(6.8) 10/24	4.6	1700	
482	須恵器	杯(晶石)	S X1351D・1脚	【外面】底部:手跡もへラケツリ	(15.0) 2/24	(6.2) 8/24	4.55	1699	
483	須恵器	杯(晶石)	S X1351D・1脚	【外面】底部:へら切り	(13.6) 6/24	(8.0) 11/24	3.5	1701	
484	須恵器	杯(晶石)	S X1351D・1脚	【外面】底部:へら切り	(6.2) 9/24			1689	
485	土師器	杯(封付)	S X1351D・1脚	【外面】体部・底部:斜め切り	(7.7) 6/24			1697	
486	須恵器	杯(晶石)	S X1351D・1脚	【外面】底部:へら切り				1690	
487	須恵器	杯(晶石)	S X1351D・1脚					1691	
488	須恵器	杯(ヘラガキ)	S X1351D・1脚	【外面】底部:へら切り	(7.7) 6/24			1698	
489	土師器	瓶	S X1351D・1脚	【外面】斜面:ハラケツリ				1195	複合口縫
490	電気土器	盤	S X1351D・1脚	【外面】ナダメ 【内面】ナダ				1749	
491	電気土器	盤	S X1351D・1脚	【外面】ナダメ 【内面】ハケメ				1746	
492	電気土器	盤	S X1351D・1脚	【外面】平行ハタキ・斜面ハラケツリ・ロクロナダメ 【内面】ナダ				1747	
493	風字銘		S X1351D・1脚	【外面】海の部分に手跡りの瓶あり	径:8.7	幅:7.3	厚:1.5	1732	瓶の外面に星がついていた跡有り
494	須恵器上器	盤	S X1351D・1脚	【内面】斜面:ハケメ				1752	
495	電気土器	盤	S X1351D・1脚	【外面】ヨコナダメ 【内面】ナダ				1748	
496	馬蹄型		S X1351D・1脚	【外面】底部:手跡もへラケツリ				1733	
497	電気土器	盤	S X1351D・1脚	【外面】内面外縁:丁寧なナダ				1745	
498	鉢		S X1351D・1脚					1744	
499	土盤		S X1351D・1脚	径:7.1	幅:2.0	厚:1.5	1736	重さ:26.5g 身乳厚:0.6cm	
500	土盤		S X1351D・1脚	径:4.1	幅:1.3	厚:0.5	1737	重さ:10.2g 身乳厚:0.4cm	
501	土盤		S X1351D・1脚	径:5.7	幅:2.1		1738	身乳厚:0.4cm	
502	土師器	杯	S X1351D・2脚	【外面】体部:ハラミガキ 底部:ハラケツリ→ハラミガキ 【内面】へラミガキ	(13.0) 1/24	(6.0) 13/24	4.5	1817	両面ミガキ
503	土師器	杯	S X1351D・2脚	【外面】体下端～底部:手持ちヘルケツリ	(13.0) 2/24	(6.0) 24/24	4.55	1816	
504	土師器	杯	S X1351D・2脚	【外面】体下端～底部:手持ちヘルケツリ	(15.0) 2.5/24	(7.0) 18.5/24	6.45	1814	
505	土師器	杯	S X1351D・2脚	【外面】体下端:手持ちヘルケツリ 瓶底:斜面有り	(6.0) 13/24			1815	
506	土師器	甕	S X1351D・2脚	【外面】体下端:斜面ハラケツリ	(6.0) 11/24			1828	
507	土師器	高杯	S X1351D・2脚	【外面】手持ちヘルケツリ→ハラミガキ 【内面】暗闇文有り				2188	籠内系 瓶のみ
508	土師器	甕	S X1351D・2脚	【外面】ナダメ ヨコナダメ ハラミガキ 【内面】ミコナダ 暗闇文有り				2202	籠内系
509	須恵器	杯	S X1351D・2脚	【外面】底部:斜面斜め切り	(14.8) 3/24	6.7 24/24	4.2	1766	
510	須恵器	杯	S X1351D・2脚	【外面】底部:手跡もへらケツリ	(14.4) 8/24	(5.0) 12/24	3.9	1800	
511	須恵器	杯	S X1351D・2脚	【外面】底部:へら切り	(15.8) 11.5/24	7.2 24/24	4.2	1805	
512	須恵器	杯	S X1351D・2脚	【外面】底部:斜面斜め切り	12.7 10/24	6.65 24/24	4.1	1807	
513	須恵器	杯	S X1351D・2脚	【外面】底部:へら切り	(14.0) 3/24	8.4 19/24	4.05	1799	
514	須恵器	杯	S X1351D・2脚	【外面】底部:へら切り	(12.6) 11/24	7.0 22/24	3.7	1804	
515	須恵器	杯	S X1351D・2脚	【外面】手持ちヘルケツリ→ハラミガキ	(15.0) 10/24	(7.2) 12/24	3.5	1800	
516	須恵器	杯	S X1351D・2脚	【外面】底部:斜面斜め切り	(12.8) 2/24	7.0 13/24	4.45	1808	
517	土師器	甕	S X1351D・2脚	【外面】体下端:平行ハタキ 【内面】口縁～体下端:斜面ハケメ	(27.0) 4/24			1824	
518	土師器	甕	S X1351D・2脚	【外面】体下端:ハラケツリ 【内面】(手跡:ナダ)	(4.6) 4/24			1827	
519	土師器	甕	S X1351D・2脚	【外面】体下端:平行ハタキ	(21.1) 8/24			1826	
520	須恵器	甕	S X1351D・2脚	【外面】底部:手跡もへラケツリ	(25.2) 2/24			1821	
521	土師器	甕	S X1351D・2脚	【外面】底部:斜面斜め切り	(25.8) 5/24			1820	
522	土師器	甕	S X1351D・2脚	【外面】底部:手跡もへラケツリ	(15.2) 5/24	7.3 17/24	12.8	1822	
523	土師器	甕	S X1351D・2脚	【外面】底部:ナダメ	(25.2) 2/24			1766	底部外縁にムシロ痕有り
524	土師器	甕	S X1351D・2脚	【外面】斜面ハラケメ				1196	複合口縫
525	土師器	甕	S X1354D・2脚					1194	複合口縫
526	土師器	甕?	S X1355D・2脚	【外面】体下端:手持ちヘルケツリ 【内面】体下端:ナダ	(18.0) 7/24			1830	
527	電気土器	盤	S X1351D・2脚	【外面】平行ハタキ 斜面2本あり 【内面】ナダ				1849	
528	電気土器	盤	S X1351D・2脚	【外面】平行ハタキ→ハケメ ナダヘルケツリ 【内面】ナダ				1905	
529	電気土器	盤	S X1351D・2脚	【外面】平行ハタキ 【内面】ナダ	長:7.6 幅:9.8	厚:1.3		1847	
530	羽口		S X1354D・2脚	長:7.6 幅:5.5 厚:2.1				1840	鉄津付着
531	土師器	甕	S X1354D・2脚	【内面】体下端:斜面ハケメ				1863	
532	土師器	甕	S X1354D・2脚					1844	
533	電気土器	盤	S X1351D・2脚	【外面】側口部:ハラケツリ 【内面】側口部:ナダ	長:7.2 幅:1.8 厚:1.7			1858	
534	電気土器	盤	S X1351D・2脚	【外面】側口部:ハラケツリ 【内面】側口部:ナダ				1846	

表39 出土遺物観察表(9)

番号	種類	器種	遺物・部位	特徴	口径・残存率	底径・残存率	高さ	登録番号	備考		
535	坤	S X1351D-2層		真口	φ9.3	7.3	厚±5.5	1843			
536	平瓦	刻印瓦	S X1351D-2層	【如ても】面目直底 ヘラケヅリ 【表面】横タキ目	長:8.15	幅:7.3	厚±2.0	1869	「物」の刻印有り		
537	須恵器	度	S X1351D-2層	【外面部】口縁:直底文 体部:平行タタキ 【内面部】手下端:工具痕	(33.09	14.5/24			2048		
538	土師器	杯	S X1351D-3層	【外面部】底部:へたり切り 体下半:圓軸:ヘラケヅリ	(14.08	4/24	(7.5)	12/24	3.85	1258	
539	土師器	杯	S X1351D-3層	【外面部】底部:へたり切り	(13.25	12/24	(7.6)	19/24	4.0	1262	
540	土師器	杯	S X1351D-3層	【外面部】口縁:クロコ 【内面部】手下端:ヘラケヅリ	(14.63	4/24	(7.2)	4.5/24	4.0	1261	
541	土師器	杯	S X1351D-3層	【外面部】体下端:底部:手持もヘラケヅリ	(14.1	13/24	6.2	24/24	4.35	1899	
542	土師器	杯	S X1351D-3層	【外面部】体上:凹輪面:へたり切り 【内面部】体下半:ヘラケヅリ	(14.33	9/24				1256	
543	土師器	杯	S X1351D-3層	【外面部】体下端:手持もヘラケヅリ 【内面部】底部:工具痕	(14.43	2/24	0.80	24/24	5.5	1898	
544	土師器	杯	S X1351D-3層	【外面部】体部:凹輪面:へたりケヅリ 体下端:手持もヘラケヅリ 深部:へたり切り	(16.63	4/24	(8.2)	9/24	7.6	1259	
545	土師器	杯	S X1351D-3層	【外面部】体下端:底部:凹輪面:へたりケヅリ	(8.1)	4/24				1829	
546	土師器	杯(光明周)	S X1351D-3層	【外面部】口縁:ヨコナデ ヘラミガキ 【内面部】ヘラミガキ→張出修理	(12.1)	15/24		4.85	1263	口縁装飾的に穴いており スス付着	
547	土師器	杯	S X1351D-3層	【外面部】体下端:底部:手持もヘラケヅリ	(12.4)	2/24	0.62	13/24	3.55	1260	
548	土師器	高台付杯	S X1351D-3層	【外面部】底部:ヘラ切り	(18.4)	2/24	(5.0)	9/24	9.2	1900	
549	須恵器	杯	S X1351D-3層	【外面部】底部:ヘラ切り	(13.38	3	5.2/4	0.80	11/24	4.5	1239
550	須恵器	杯	S X1351D-3層	【外面部】底部:へたり切り	(14.4)	5/24	(7.6)	22/24	3.75	1243	
551	須恵器	杯	S X1351D-3層	【外面部】底部:へたり切り	(13.08	8/24	6.6	24/24	3.6	1238	
552	須恵器	杯	S X1351D-3層	【外面部】底部:へたり切り	(12.5)	9/24	(7.0)	4/24	4.0	1240	
553	須恵器	杯	S X1351D-3層	【外面部】底部:へたり切り	(14.33	6.5/24	(7.0)	10/24	3.75	1248	
554	須恵器	杯	S X1351D-3層	【外面部】底部:静止系切り 体下端: 手持もヘラケヅリ	(14.2)	5.6/24	(6.0)	7/24	3.3	1250	
555	須恵器	杯	S X1351D-3層	【外面部】底部:へたり切り	(11.6)	4/24	(7.0)	9/24	3.65	1249	
556	須恵器	杯	S X1351D-3層	【外面部】底部:へたり切り	(11.23	6.5/24	(6.0)	7/24	4.2	1252	
557	須恵器	杯(漆付蓋)	S X1351D-3層	【外面部】底部:へたり切り 【内面部】漆 付蓋	(13.6)	2/24	(8.2)	8/24	3.75	1266 内面に漆付着	
558	須恵器	杯	S X1351D-3層	【外面部】底部:凹輪面切り	(12.89	6/24	(5.8)	24/24	3.8	1262	
559	須恵器	杯	S X1351D-3層	【外面部】底部:へたり切り 【内面部】底 部:ヨコナデ ヘラナデ	(13.5)	8/24	7.7	24/24	4.4	1263	
560	須恵器	杯	S X1351D-3層	【外面部】底部:凹輪面切り	(14.4)	6/24	(7.2)	13/24	4.1	1265	
561	須恵器	杯	S X1351D-3層	【外面部】底部:へたり切り	(10.6)	6.5/24	(6.2)	16/24	4.9	1261	
562	須恵器	土器	S X1351D-3層	【外面部】底部:凹輪面切り	(12.6)	4/24	5.2	24/24	3.9	1202	
563	須恵器	杯(付蓋物)	S X1351D-3層	【外面部】底部:凹輪面:へたりケヅリ	(14.8)	4/24	8.8	12/24	4.0	1262 内外面に付着物有り	
564	須恵器	高台付杯(漆付蓋)	S X1351D-3層	【外面部】底部:へたり切り→瓶状の 仕様 【内面部】漆付蓋	(15.4)	17/24				1258	
565	須恵器	高台付杯(船川腹)	S X1351D-3層	【外面部】底部:凹輪面	(16.3)	0.1/24	(10.4)	7/24	5.0	1266	
566	須恵器	蓋	S X1351D-3層	【外面部】上半:凹輪面:へたりケヅリ	(14.0)	0.7/24				1256	
567	土師器	度	S X1351D-3層	【外面部】縁部:平行タタキ→ヨコナ デ 【内面部】口→底部:凹輪面:へたりケ ヅリ	(24.3)	5/24				1185	
568	土師器	度	S X1351D-3層	【外面部】手持もヘラケヅリ	(17.2)	8/24				1833 体部内面にスス付着	
569	土師器	度	S X1351D-3層	【外面部】手持もヘラケヅリ	(22.4)	4.5/24				1185	
570	土師器	度	S X1351D-3層	【外面部】平行タタキ 【内面部】 体部:凹輪面:へたりケヅリ	(21.4)	4.5/24				1832 体部外間にスス付着	
571	土師器	度	S X1351D-3層	【外面部】底部:手持もヘラケヅリ 【内面部】底部:ナデ	(25.3)	5/24	(9.6)	10/24	36.1	1831	
572	土師器	度	S X1351D-3層	【外面部】底部:へたりケヅリ 【内面部】底部:凹輪面:へたりケヅリ	(16.4)	/24				1836 体部内面に付着物有り	
573	土師器	度(漆付蓋)	S X1351D-3層	【外面部】手持もヘラケヅリ 底部: へたり切り→手持もヘラケヅリ	(6.4)	/24				1212	
574	土師器	瓶	S X1351D-3層	【外面部】平行タタキ→ロブロナ デ 手持もヘラケヅリ	(22.7)	2/24				1192 置台口縁	
575	土師器	瓶	S X1351D-3層	【外面部】底部:手持もヘラケヅリ	(30.2)	4/24				1191 複合口縁	
576	土師器	瓶	S X1351D-3層	【外面部】体部:手持もヘラケヅリ	(18.0)	12/24				1189	
577	土師器	瓶	S X1351D-3層	【外面部】平行タタキ						1190 複合口縁	
578	土師器	瓶?	S X1351D-3層	【外面部】手下:手持もヘラケヅリ	(36.8)	2/24				1208	
579	織田土器		S X1351D-3層	【外面部】口縁:ヘラケヅリ 底部:平 行タタキ 【内面部】ハナメ						1466 内面にスス付着	
580	織田土器		S X1351D-3層	【内外面部】口縁:ヨコナデ 【外面部】 ヘラケヅリ 【内面部】ハナメ						1468	
581	織田土器		S X1351D-3層	【外面部】体部:平行タタキ 【内面部】 ハナメ						1467	
582	織田土器		S X1351D-3層	【外面部】平行タタキ ナデ 【内面部】 ハナメ						1403	
583	織田土器		S X1351D-3層	【外面部】平行タタキ ナデ 【内面部】 ハナメ						1404	
584	須恵器	貝無瓶	S X1351D-3層	【外面部】底部:へたり切り 体下半:回 転軸:ヘラケヅリ→ロブロナデ						1267 体部内面に黒色の付着物 有り(漆?) 斜状付着物有	
585	須恵器	瓶	S X1351D-3層	【外面部】底部:へたり切り 体下半:回 転軸:ヘラケヅリ→ロブロナデ						1269	

表40 出土遺物観察表(0)

番号	種類	目 標	遺物・部位	特徴	口径・残存率	底径・残存率	器 高	登録番号	備 考
587	須恵器 壺(輪田模)	S X1351D・3層			(13.2) /24			1278	
588	須恵器 壺	S X1351D・3層	【外面】部付:梯子タキ 【内面】ナゲ	(16.4) 19/24				1285	
589	須恵器 壺	S X1351D・3層	【外面】口縁:波状文 体部:平行タキ 【内面】当貝紋	(33.0) 4/24				1283	
590	須恵器 壺	S X1351D・3層	【外面】口縁:波状文 体部:平行タキ 【内面】当貝紋	(22.8) /24				1284	
591	土師器 杯(墨書き)	S X1351D・3層	【外面】底部:手持ちヘラケズリ	(14.8) 2/24 (6.0) 5/24 5.0	1213				
592	土師器 杯(墨書き)	S X1351D・3層	【外面】底下部~底部:手持ちヘラケズリ	(8.0) 7/24				1202	
593	土師器 杯(墨書き)	S X1351D・3層	【外面】底下部:手持ちヘラケズリ 底部:切削痕	(13.6) 2/24 (7.0) 20/24 4.9	1203				
594	須恵器 杯(墨書き)	S X1351D・3層	【外面】底部:へり切り	(13.4) 16/24 6.9	24/24 3.9			1208	ヌス付蓋
595	須恵器 杯(墨書き)	S X1351D・3層	【外面】底部:へり切り	(13.8) 14/24 (7.2) 20/24 4.05	1205				
596	須恵器 杯(墨書き)	S X1351D・3層	【外面】底部:波状文 切り	(14.45) 3/24 (6.0) 18.5/24 3.75	1217				
597	須恵器 杯(墨書き)	S X1351D・3層	【外面】底部:へり切り	(14.2) 6/24 7.22	4/24 3.35			1206	
598	須恵器 杯(墨書き)	S X1351D・3層	【外面】底部:波状文 切り	(12.6) 9/24 (6.2) 24/24 4.3	1210				
599	須恵器 杯(墨書き)	S X1351D・3層	【外面】底部:へり切り	(14.0) 4/24 (8.0) 15/24 4.3	1209				
600	須恵器 杯(墨書き)	S X1351D・3層	【外面】底部:へり切り	(6.7) 19/24				1216	
601	須恵器 杯(墨書き)	S X1351D・3層	【外面】底部:へり切り	(6.0) /24				1231	
602	須恵器 杯(墨書き)	S X1351D・3層	【外面】底部:へり切り	(7.0) /24				1220	
603	須恵器 杯(墨書き)	S X1351D・3層	【外面】底部:不明~手持ちヘラケズリ	(13.4) 6/24 (7.4) 10/24 3.95	1872				
604	須恵器 杯(墨書き)	S X1351D・3層	【外面】底部:へり切り	(13.2) 6/24 (7.2) 9/24 4.0	1874				
605	須恵器 杯(墨書き)	S X1351D・3層	【外面】底部:へり切り	(14.2) 5/24 7.5	24/24 4.0			1871	
606	須恵器 杯(墨書き)	S X1351D・3層	【外面】底部:不明~手持ちヘラケズリ 底部:ヘラケズリ	(13.8) 1/24 7.7	24/24 3.9			2227	
607	須恵器 杯(墨書き)	S X1351D・3層	【外面】底部:へり切り	(8.0) /24				1215	
608	土師器 杯(墨書き)	S X1351D・3層	【外面】底部:手持ちヘラケズリ	(7.4) 20/24				1879	
609	須恵器 杯(墨書き)	S X1351D・3層	【外面】底部:波状文 切り	(7.2) 24/24				1214	
610	須恵器 杯(墨書き)	S X1351D・3層	【外面】底部:波状文 切り	(12.2) /24 (7.0) /24 4.2	1204				
611	須恵器 杯(墨書き)	S X1351D・3層	【外面】底部:へり切り	(7.0) 9/24				1219	
612	須恵器 杯(墨書きへうがき)	S X1351D・3層	【外面】底部:へうがき~底部:手持ちヘラケズリ	(6.2) /24				1222	
613	須恵器 杯(墨書き)	S X1351D・3層	【外面】底部:へり切り	(6.0) 24/24				1873	
614	須恵器 杯(墨書き)	S X1351D・3層	【外面】底部:へり切り	(12.9) 4/24 (6.7) 11/24 3.15	1221				
615	須恵器 杯(墨書き)	S X1351D・3層	【外面】底部:波状文 切り	(12.6) 9/24 (6.8) 13/24 4.3	1875				
616	須恵器 杯(墨書き)	S X1351D・3層	【外面】底部:波状文 切り	(7.4) /24				1207	
617	須恵器 杯(墨書き)	S X1351D・3層		(13.1) 6/24				1218	
618	須恵器 杯(墨書き)	S X1351D・3層						1889	
619	須恵器 杯(墨書き)	S X1351D・3層						1225	
620	土師器 杯(墨書き)	S X1351D・3層						1880	
621	須恵器 杯(墨書き)	S X1351D・3層						1881	
622	土師器 杯(墨書き)	S X1351D・3層						1228	
623	土師器 杯(墨書き)	S X1351D・3層	【外面】底部:手持ちヘラケズリ					1714	
624	土師器 杯(墨書き)	S X1351D・3層	【外面】底部:手持ちヘラケズリ					1500	
625	漆器 帷(墨書き)	S X1351D・3層						1272	重さ:144.5g
626	土 壁	S X1351D・3層		重さ:9.4	幅:8.1	厚:3.8			
627	埴	S X1351D・3層						1480	
628	埴	S X1351D・3層						1273	
629	平瓦	S X1351D・3層						4504	II B b型
630	平瓦 破片瓦	S X1351D・3層	【外面】則印有り物					1275	
631	軒平瓦	S X1351D・3層	【瓦当】則印文(墨) 頂面タキ					1276	平瓦は1枚作り(II B b)
632	平瓦	S X1351D・3層						4509	II B a2型
633	丸瓦 破片瓦	S X1351D・3層	【外面】則印有り物【内面】部付	長:6.3	幅:6.5	厚:2.3		1870	
634	土師器 杯(墨書き)	S X1600C・1層	【外面】手持ちヘラケズリ 底部:波状文 切り	(16.0) 4/24 6.4	24/24 4.25			4077	
635	土師器 杯(墨書き)	S X1600C・1層	【外面】手持ちヘラケズリ 底部:手持ちヘラケズリ	(4.1) 14/24 7.3	24/24 4.05			4073	
636	土師器 杯(墨書き)	S X1600C・1層	【外面】底部:波状文 切り	(13.4) 12/24 7.7	24/24 3.7			4074	
637	土師器 杯(墨書き)	S X1600C・1層	【外面】底部:へり切り 磨し 不明~手持 ちヘラケズリ	(6.2) 20/24 9.2	24/24 6.8			4078	
638	須恵器 杯(墨書き)	S X1600C・1層	【外面】底部:波状文 切り	(4.5) 18/24 7.0	24/24 4.3			4082	
639	須恵器 杯(墨書き)	S X1600C・1層	【外面】底部:へり切り 磨し 不明~手持 ちヘラケズリ	(12.7) 16/24 8.25	24/24 3.25			4083	
640	須恵器 杯(墨書き)	S X1600C・1層	【外面】底部:へり切り	(13.9) 23/24 7.75	21/24 4.15			4094	
641	須恵器 杯(墨書き)	S X1600C・1層	【外面】底部:波状文 切り	(13.8) 12/24 6.7	24/24 3.9			4090	
642	須恵器 杯(墨書き)	S X1600C・1層	【外面】底部:へり切り	(13.2) 4/24 8.6	17/24 3.6			4095	
643	須恵器 杯(墨書き)	S X1600C・1層	【外面】底部:へり切り	(7.5) 24/24				4088	ヌス付蓋
644	須恵器 杯(墨書き)	S X1600C・1層	【外面】底部:波状文 切り	(13.1) 24/24 6.9	24/24 4.15			4092	
645	須恵器 杯(墨書き)	S X1600C・1層	【外面】底部:へり切り	(8.9) 24/24				4099	
646	須恵器 杯(墨書き)	S X1600C・1層	【外面】底部:へり切り	(14.0) 19/24 7.0	24/24 4.2			4093	
647	須恵器 杯(墨書き)	S X1600C・1層	【外面】底部:波状文 切り	(15.0) 7/24 6.3	24/24 4.0			4097	
648	須恵器 杯(墨書き)	S X1600C・1層	【外面】底部:へり切り	(14.0) 0.5/24 6.1	15/24 3.6			4087	
649	須恵器 杯(墨書き)	S X1600C・1層	【外面】底部:手持ちヘラケズリ	(5.65) 24/24				4089	

表41 出土遺物観察表(1)

番号	種類	器種	遺物・部位	特徴	口径・残存率	底径・残存率	器高	登錄番号	備考
650	須恵器	杯(施墨)	S X1600C-1脚	【外因】底部:へラ切り	(15.6)	7/24 (8.4)	15/24	3.85	409
651	須恵器	杯(ヘタガキ)	S X1600C-1脚	【外因】底部:手縫い回転ヘタケツリ	(15.65)	8/24 8.25	24/24	4.3	4102
652	須恵器	杯(施墨)	S X1600C-1脚	【外因】底部:回転ヘタ切り	(14.0)	1.5/24 9.3	24/24	4.0	4086
653	土師器	杯(施墨付器)	S X1600C-1脚	【外因】体下端～底部:手持ちもヘラケツリ	(13.2)	10/24 7.8	24/24	3.69	4100
654	須恵器	杯(施墨 施用綬?)	S X1600C-1脚	【外因】底部:へラ切り		(6.7)	/24		4111
655	須恵器	杯(施墨)	S X1600C-1脚	【外因】底部:切口繕し不規～手持	14.4	22/24 8.0	24/24	4.3	4084
656	須恵器	杯(施墨)	S X1600C-1脚	【外因】底部:切口繕し不規～手持	14.3	15/24 8.3	17/24	4.15	4095
657	土師器	杯(施墨)	S X1600C-1脚	【外因】底部:切口繕し不規～手持		(7.9)	20/24		4075
658	須恵器	杯(施墨)	S X1600C-1脚						4110
659	須恵器	杯(施墨)	S X1600C-1脚						4112
660	須恵器	杯(施墨)	S X1600C-1脚						4112
661	須恵器	杯(施墨)	S X1600C-1脚	【外因】底部:回転ヘタ切り	(14.2)	3/24 (8.2)	9/24	4.2	4086
662	須恵器	杯	S X1600C-1脚	【外因】底部:へラ切り	(14.0)	9/24 9.3	24/24	4.15	4098 斯付着
663	須恵器	杯(施墨 ヘタガキ)	S X1600C-1脚	【外因】底部:へラ切り	13.2	22/24 7.4	24/24	4.3	4101
664	土師器	甌(人面墨書き)	S X1600C-1脚	【外因】体下端～手持ちもヘラケツリ 底部:手縫い	11.6	24/24 5.5	24/24	7.65	5651
665	土師器	甌(人面墨書き)	S X1600C-1脚	【外因】体下端～底部:手持ちもヘラケツリ	12.8	/24 7.7	24/24	10.0	5650
666	須恵器	甌(人面墨書き)	S X1600C-1脚	【外因】タタキ～クロナナギ 手持 ちもヘタケツリ 【内因】回転ハケメ	20.3	23/24 9.85	24/24	25.7	5646
667	須恵器	杯(施墨)	S X1600B-1脚	【外因】底部:へラ切り	14.5	12/24 9.45	24/24	3.8	5652
668	土師器	甌(人物墨書き)	S X1600B-1脚	【外因】口縁:ヨコナナギ 体部:ハケ メナデ 【内因】【内因】ナデ	13.1	12/24 7.2	24/24	11.3	5653
669	須恵器	甌(人面墨書き)	S X1600C-1脚	非クロ 【外因】口縁:ヨコナナギ ナデ	(12.0)	2.5/24 5.85	24/24	10.5	5647
670	土師器	甌(人物墨書き)	S X1600C-1脚	【外因】川内ハケメ～手持ちもヘラケ ツリ 【内因】ヘタガキ～黑色處理	(24.6)	12/24			4136
671	土師器	甌(人面墨書き)	S X1600C-1脚	【外因】体下端～手持ちもヘタケツリ 底部:手縫い	13.85	21/24 7.7	24/24	11.5	5648
672	土師器	甌(人面墨書き)	S X1600C-1脚	【外因】底部:静止ハタ切り	(13.7)	8/24 6.5	24/24	14.1	5649
673	土師器	甌(人面墨書き)	S X1600C-1脚	【外因】体下端～手持ちもヘタケツリ	13.0	/10.5	幅:14.3	厚:0.75	4142
674	土師器	甌(人面墨書き)	S X1600C-1脚	【外因】体下端～手持ちもヘタケツリ	13.5	/6.5			4143
675	須恵器	杯(人面墨書き)	S X1600C-1脚	【外因】体部:手持ちもヘタケツリ	13.5	/6.5			4144
676	土師器	杯	S K778-1脚	ヨロクロ	(11.6)	6.3/24 (5.25)	13.25/24	3.5	1106 サビ付着
677	土師器	杯	S K778-1脚	【外因】底部:手持ちヘタケツリ	(9.6)	9/24 (5.8)	12/24	4.5	437
678	土師器	杯	S K778-1脚	【外因】体下端～手持ちもヘタケツリ 底部:手縫い～手持ちもヘタケツリ	12.8	15/24 8.4	14/24	3.44	449
679	須恵器	杯	S K778-1脚	【外因】底部:へラ切り	(15.0)	10.5/24 (9.0)	11.5/24	3.85	435
680	須恵器	杯	S K778-1脚	【外因】底部:へラ切り	(13.35)	5.5/24 (7.95)	7/24	3.8	436
681	須恵器	杯	S K778-1脚	【外因】底部:へラ切り	(13.10)	5.5/24 (5.95)	6/24	3.5	440
682	須恵器	杯	S K778-1脚	【外因】底部:へラ切り	(13.6)	/24			439
683	須恵器	杯	S K778-1脚	【外因】底部:へラ切り	(13.0)	6.5/24 (7.0)	6/24	3.7	441
684	須恵器	杯	S K778-1脚	【外因】底部:へラ切り	(13.4)	10/24 (7.8)	12/24	3.65	443
685	須恵器	杯	S K778-1脚	【外因】底部:へラ切り	14.2	13/24 8.5	12/24	4.1	445
686	須恵器	杯	S K778-1脚	【外因】底部:へラ切り	(13.3)	9/24 7.5	24/24	3.6	444
687	須恵器	杯	S K778-1脚	【外因】底部:へラ切り	(13.0)	6.3/24 (5.8)	5.3/24	3.5	442
688	須恵器	杯	S K778-1脚	【外因】底部:へラ切り	(13.2)	4/24 (7.2)	12/24	3.6	446
689	須恵器	杯	S K778-1脚	【外因】体下端～手持ちもヘタケツリ 底部:手縫い～手持ちもヘタケツリ	15.2	12/24 8.9	24/24	5.4	447
690	須恵器	杯	S K778-1脚	【外因】底部:へラ切り	(13.4)	3/24 (7.4)	7/24	4.3	472
691	須恵器	杯(黒墨)	S K778-2脚	【外因】底部:へラ切り	(11.6)	3/24 (7.0)	5/24	4.8	473
692	須恵器	杯	S K778-2脚	【外因】底部:へラ切り	(15.5)	12/24 (7.6)	24/24	5.25	477
693	須恵器	杯	S K778-2脚	【外因】底部:へラ切り	(15.4)	90.5/24 (8.4)	4/24	4.6	476
694	須恵器	杯	S K778-2脚	【外因】底部:へラ切り	(11.0)	6/24 (7.2)	12/24	4.65	474
695	須恵器	杯	S K778-2脚	【外因】底部:へラ切り	(13.95)	17/24 (7.9)	24/24	3.5	475
696	須恵器	杯	S K778-1脚	【外因】底部:へラ切り		(8.4)	14.5/24		452
697	須恵器	高台付杯	S K778-1脚	【外因】体下端～手持ちもヘタケツリ 底部:手縫い～手持ちもヘタケツリ	(14.2)	1/24 (10.4)	7.5/24	5.7	438
698	須恵器	高台付杯	S K778-1脚	【外因】体下端～手持ちもヘタケツリ 底部:手縫い	(14.1)	11/24 (8.8)	21.4/24	4.55	448
699	須恵器	取耳杯	S K778-2脚	【外因】底部:へラ切り	(11.7)	1/24 (7.4)	12/24	5.6	470
700	須恵器	甌	S K778-1脚	【外因】ヨコナナギ～回転ヘタケツリ	(3.1)	ツマミ縫	24/24	4.8	460
701	須恵器	杯(施墨)	S K778-1脚	【外因】底部:へラ切り	15.6	10/24 8.5	24/24	6.3	434
702	須恵器	杯(施墨)	S K778-2脚	【外因】底部:へラ切り	(14.3)	4/24 7.7	24/24	3.5	468
703	須恵器	高台付杯	S K778-1脚	【外因】体下端～手持ちもヘタケツリ 底部:手縫い	(3.15)	24/24			463
704	須恵器	高台付杯	S K778-1脚	【外因】底部:へラ切り	(8.1)	24/24			464
705	須恵器	杯(施墨)	S K778-1脚	【外因】底部:へラ切り	(14.8)	3.5/24 (8.8)	11/24	3.85	459
706	須恵器	杯	S K778-2脚	撒手土師	(7.2)	14/24			461 雜載有り
707	須恵器	杯(施墨)	S K778-1脚	撒手土師	(7.7)	12/24			458
708	須恵器	杯(施墨)	S K778-1脚	【外因】底部:へラ切り	(8.8)	2/24			454
709	須恵器	杯(施墨)	S K778-1脚	【外因】底部:へラ切り	(4.1)	4/24			493
710	須恵器	杯(施墨)	S K778-2脚	【外因】底部:へラ切り					471
711	須恵器	杯(施墨)	S K778-1脚	【外因】底部:へラ切り					455
712	須恵器	杯(施墨)	S K778-1脚	【外因】底部:へラ切り					451

表42 出土遺物観察表②

番号	種類	器種	遺構・部位	特徴	口径・残存率	底径・残存率	器高	登録番号	備考
713	須恵器	甕	S K1778-1層	【外面】体部:ロクロナデ→手持ちヘラケズリ	(23.4) 9/24			466	
714	土師器	甕	S K1778-1層	【外面】体部:ロクロナデ	(15.2) 17/24			467	
715	土師器	甕	S K178-1層	【外面】体部:ロクロナデ→手持ちヘラケズリ	(22.4) /24			465	
716	須恵器	杯	S K1177-1層	【外面】底部:ヘラ切り	(14.9) 1, 8/24 (8.4)	24/24 6.0		492	
717	須恵器	杯	S K1177-1層	【外面】底部:ヘラ切り	(12.6) 7/24 (6.9)	14/24 3.8		491	
718	須恵器	杯	S K1177-1層	【外面】底部:ヘラ切り	(12.2) 12/24 (7.0)	6.5/24 4.5		492	
719	須恵器	杯	S K1177-1層	【外面】底部:ヘラ切り	(14.5) 10/24 (8.8)	17/24 3.7		496	
720	須恵器	杯	S K1177-1層	【外面】底部:ヘラ切り	(13.4) 6/24 (8.0)	12/24 3.7		495	
721	須恵器	高台付杯(墨書き)	S K1177-1層	【外面】底部:ヘラ切り	(14.6) 2, 5/24 (10.35)	21.5/24 5.0		478	
722	須恵器	杯	S K1177-1層	【外側】底部:凹→手持ちヘラケズリ	(10.0) 9/24 (6.2)	5/24 3.0		484	
723	須恵器	杯(墨書き)	S K1177-1層					479	
724	須恵器	杯(ヘラガキ)	S K1177-1層	【外面】底部:ヘラ切り				487	
725	土師器	杯(墨書き)	S K1177-1層	【外側】底部:凹→手持ちヘラケズリ				480	
726	須恵器	甕	S K1177-1層	【内外】ロクロナデ	(26.0) 17/24			490	
727	土師器	甕	S K1177-1層	【内外】ロクロナデ				488	
728	龜形土罐		S K1177-1層	【外面】手持ちヘラケズリ 【内側】ナダツク				489	
729	土師器	杯	S X1227-1層	【外面】底部:凹→手持ちヘラケズリ	(14.3) 9/24 (7.8)	13/24 4.2		79	
730	須恵器	杯	S X1227-2層	【外面】底部:ヘラ切り	(13.0) 9/24 (6.8)	18/24 3.8		96	
731	須恵器	杯	S X1227-2層	【外面】底部:ヘラ切り	(13.1) 11/24 (7.9)	24/24 4.0		94	
732	須恵器	杯	S X1227-2層	【外面】底部:ヘラ切り	(13.4) 5/24 (8.5)	24/24 3.7		92	
733	須恵器	杯	S X1227-2層	【外面】底部:ヘラ切り	(14.3) 10/24 (9.5)	24/24 4.1		91	内外面油刷付
734	須恵器	杯	S X1227-3層	【外面】底部:ヘラ切り	(13.8) 6, 5/24 (8.7)	9/24 4.4		113	口縁内外面油刷付
735	須恵器	杯(墨書き)	S X1227-2層	【外面】底部:凹→手持ちヘラ切り	(13.6) 10/24 (6.5)	24/24 3.7		97	
736	須恵器	杯(墨書き ヘラガキ)	S X1227-1層	【外面】底部:凹→手持ちヘラ切り	(12.4) 15/24 (7.2)	24/24 4.6		85	
737	須恵器	杯(墨書き)	S X1227-2層	【外面】底部:凹→手持ちヘラ切り	(14.0) 12/24 (9.3)	4.2B		104	
738	須恵器	杯(墨書き)	S X1227-1層	【外面】底部:凹→手持ちヘラ切り	(14.1) 16/24 (8.0)	24/24 3.85		82	
739	須恵器	杯(墨書き)	S X1227-3層	【外面】底部:凹→手持ちヘラ切り		/24 (9.1)		103	
740	須恵器	杯(墨書き)	S X1227-1層	【外面】底部:凹→手持ちヘラ切り		7/4 (8.8)		83	
741	須恵器	杯(ヘラガキ)	S X1227-1層	【外面】底部:凹→手持ちヘラ切り	(13.3) 3/24 (6.2)	12/24 3.5		111	
742	須恵器	杯(墨書き)	S X1227-1層	【外面】底部:凹→手持ちヘラケズリ	(12.6) 3/24 (6.6)	10/24 3.4		84	
743	須恵器	高台付杯	S X1227-1層	【外面】底部:凹→手持ちヘラケズリ		/24 (10.6)		112	
744	土師器	甕	S X1227-1層	【外面】底部:凹→手持ちヘラケズリ [内側] 体部:凹→手持ちヘラケズリ	(22.0) 23/24 7.7	24/24 9.8		81	
745	土師器	杯	S X1341-1層	脚クロ [外側] 体→底部:手持ちヘラケズリ	(11.2) 9/24 (5.8)	13/24 3.0		1636	
746	土師器	杯	S X1341-1層	【外面】口縁→体部:ヘラミガキ	(15.4) 2/24		7.2	1638	
747	土師器	杯	S X1341-1層	【外面】口縁→体部:ヘラミガキ	(19.8) 4/24 (10.4)	1, 5/24 8.5		1639	
748	土師器	杯	S X1341-1層	脚クロ [外側] ヘラミガキ→黒色陶器	(12.6) 4/24 (5.3)	8/24 4.35		1635	両面ミガキ 内面に墨絞り
749	土師器	杯	S X1341-1層	脚クロ [外側] 口縁:ヨコナデ 体部:ヘラミガキ	(17.4) 6/24		5.0	1641	両面ミガキ
750	土師器	杯	S X1341-1層	【外面】底部:凹→手持ちヘラケズリ	(13.3) 1, 5/24 (8.6)	13/24 3.65		1640	内外面ほぼ全面にスヌ付着
751	土師器	杯	S X1341-1層	脚クロ [外側] 底部:手持ちヘラケズリ	(15.15) 3/24 (9.4)	6.5/24 3.3		1637	
752	須恵器	杯	S X1341-1層	【外面】底部:ヘラ切り	10.55 16/24 6.8	24/24 4.5		1656	
753	須恵器	杯	S X1341-1層	【外面】底部:ヘラ切り	15.8 9/24 9.15	16/24 4.1		1657	口縁にスヌ付着(紅石の模) 底部にはぼ全面にスヌ付着
754	須恵器	杯	S X1341-1層	【外面】底部:ヘラ切り→手持ちヘラケズリ	15.1 10, 5/24 8.65	24/24 3.6		1658	
755	須恵器	杯	S X1341-1層	【外面】底部:ヘラ切り	(14.2) 8/24 7.7	24/24 4.05		1659	
756	須恵器	杯	S X1341-1層	【外面】牛頭部:手持ちヘラケズリ 足部:凹輪状切り	(14.4) 2/24 8.6	24/24 4.35		1660	
757	須恵器	杯	S X1341-1層	【外面】底部:ヘラ切り	(15.2) 4/24 (10.6)	7/24 3.8		1661	
758	須恵器	杯	S X1341-1層	【外面】底部:ヘラ切り	(14.4) 0, 5/24 8.6	24/24 3.1		1662	
759	須恵器	杯	S X1341-1層	【外面】底部:ヘラ切り	(15.2) 3/24 (8.6)	7/24 3.6		1663	
760	須恵器	杯(ヘラガキ 灯明図)	S X1341-1層	【外面】底部:ヘラ切り	14.9 14/24 9.8	24/24 3.9		1669	内外面に沿標付着 底部外にヘラガキ有り†
761	土師器	甕	S X1341-1層	脚クロ [外側] 口縁:ヨコナデ 体部:ヘラケズリ [外側] ナデ	(13.3) 15/24 6.1	18.5/24 10.2		1670	底部木裏痕
762	土師器	甕	S X1341-1層	脚クロ [外側] 口縁:ヨコナデ 体部:手持ちヘラケズリ [外側] ナデ	(13.6) 9/24 (8.4)	21/24 14.2		1671	
763	土師器	甕	S X1341-1層	脚クロ [外側] 口縁:ヨコナデ 体部:手持ちヘラケズリ [外側] ナデ	14.8 18/24			1675	
764	土師器	杯	S K1343-1層	脚クロ [外側] 口縁:ヨコナデ 体部:手持ちヘラケズリ	15.3 13/24 7.8	24/24 4.5		1914	
765	須恵器	杯	S K1343-1層	【外面】底部:ヘラ切り	(11.5) 21/24 8.1	24/24 3.3		1913	
766	土師器	甕	S X1344-1層	脚クロ [外側] 口縁:ヨコナデ		9.7		1912	底部木裏痕有り
767	須恵器	杯	S X1344-1層	【外面】体部:手持ちヘラケズリ 底部:静止切り	(13.2) 9/24 8.8	12/24 3.65		1909	
768	須恵器	杯	S X1368	【外側】底部:静止系切り	(4.5) 7/24			1679	
769	須恵器	瓶(ヘラガキ)	S X1368	【外側】底下部:ヘラケズリ 底部:不明 [外側] ナデ		10.6 23/24		1681	
770	須恵器	短颈壺	S X1383-1層	【外側】口縁~体部:ロクロナデ	(13.3) 5/24			1683	
771	須恵器	杯	S X1383-1層	【外側】底部:ヘラ切り	(14.0) 3, 5/24 (8.4)	9/24 3.9		1711	

表43 出土遺物観察表(3)

番号	種類	器種	遺構・層位	特徴	口径・残存率	底径・残存率	高さ	登錄番号	備考
772	須恵器	杯	S-X1384-1層	【外函】底部:不明	(13.6) 3/24	(7.6) 7/24	4.0	1684	
773	須恵器	杯	S-X1384-1層	【外函】底部:へラ切り	(14.0) 10/24	8.1 24/24	3.8	1712	
774	製陶土器		S-X1384-1層					1713	
775	須恵器	杯	S-X1368	【外函】底下端:回転ハテケズリ 底部:へラ切り	(16.0) 6/24	(8.2) 11/24	6.1	1680	
776	須恵器	杯	第Ⅰ層	【外函】底部:回転ハテケズリ	(7.35) 7/24	7.4 /24	4.1	577	
777	須恵器	杯	第Ⅰ層	【外函】底部:へラ切り	(12.6) 1/24	8.4 24/24	5.6	580	
778	須恵器	杯(ヘラガキ)	第Ⅰ層	【外函】底部:へラ切り	(8.2) 2/24	7.4	5.74		
779	須恵器	杯(ヘラガキ)	第Ⅰ層	【外函】底部:へラ切り	(7.8) 6/24	7.5	575		
780	須恵器	杯(ヘラガキ)	第Ⅰ層	【外函】底部:へラ切り	(8.0) 3.5/24	7.5	576		
781	須恵器	眞珠瓶(透G)	第Ⅰ層	【外函】ロクロナデ	(6.4) 7/24	7.4 /24	11.0		
782	須恵器	眞珠瓶(透G)	第Ⅰ層	【外函】ロクロナデ	(4.0) 4/24	4.0 /24	11.0		
783	須恵器	小形壺	第Ⅰ層	【外函】ロクロナデ	(12.1) 4/24	11.0 24/24	11.0		
784	円錐形		第Ⅰ層	【外函】ロクロナデ 縫合有り	(15.6) 24/24	11.0 24/24	11.0		
785	土師器	瓶	第Ⅰ層	【外函】ロクロナデ	(15.0) 24/24	11.0 24/24	11.0		
786	電形土器		第Ⅰ層	【外函】ハタケズリ 【外函】ヘラナデ 【内函】ハタケズリ→ハラナデ				584	
787	土師器	瓶	直探	【外函】ヨコナデ ロクロナデ 【外函】手持ち:へラケズリ				585	複合口縁
788	土師器	瓶	第Ⅱ層	【外函】体下端:手持ち:へラケズリ 底部:手持ち:ハタケズリ	(16.0) 8/24	(8.0) 23/24	6.25	562	
789	土師器	杯(ヘラガキ)	第Ⅲ層	【外函】底部:手持ち:へラケズリ	(14.0) 9.4/24	(7.1) 15/24	5.2	563	
790	土師器	杯(基盤)	第Ⅰ層	【外函】底部:回転ハテケズリ	(8.6) 24/24	6.6	556		
791	須恵器	杯	第Ⅲ層	【外函】底部:へラ切り	(14.0) 23/24	(8.5) 24/24	3.15	555	
792	須恵器	杯	第Ⅲ層	【外函】底部:へラ切り	(13.4) 12/24	(7.6) 18/24	3.95	553	
793	須恵器	杯	第Ⅲ層	【外函】底部:へラ切り	(15.0) 9/24	(9.0) 10/24	4.25	567	
794	須恵器	高台付杯	第Ⅲ層	【外函】底部:へラ切り	(11.25) 17/24	7.25 23/24	4.8	554	
795	須恵器	杯(基盤)	第Ⅰ層	【外函】底部:回転ハテケズリ	(13.4) 7/24	(7.8) /24	4.3	587	
796	須恵器	杯(基盤)	第Ⅰ層	【外函】底部:へラ切り	(7.6) 5/24	5/24	5.6		
797	須恵器	杯	第Ⅲ層	【外函】ロクロナデ→回転ハテケズリ 【内函】ロクロナデ	(2.9) フマミ /24	(14.0) /24	4.1	552	
798	須恵器	杯(基盤)	第Ⅰ層				3.5	558	
799	灰地陶器	平瓶	第Ⅲ層		(23.0) /24			549	
800	土器		第Ⅲ層					548	
801	須恵器	甕	第Ⅲ層	【内函】ロクロナデ 波状文				1667	
802	須恵器	甕	第Ⅲ層	【外函】体部:平タタキ	(22.0) 11/24			561	
803	土師器	杯	横取出	赤ロクロ 【外函】ヨコナデ 【外函】手持ち:ハタケズリ ヘラミガキ	(11.0) 3/24		3.1	1086	
804	土師器	杯	横取出	【外函】底部:不明	(10.0) 13/24	(6.4) 14/24	4.0	533	
805	土師器	杯	横取出	赤ロクロ 【外函】ヨコナデ 【外函】手持ち:ハタケズリ	(14.5) /24	(8.3) 24/24	4.8	541	
806	土師器	杯(基盤)	横取出	【外函】体部:回転ハテケズリ 底部:系切→ハタケズリ	(8.2) 10/24			519	
807	土師器	甕	横取出	【外函】底部:ヒンロ低あり 【外函】ハタケズリ				1096	
808	須恵器	杯(基盤)	横取出	【外函】底部:へラ切り	(8.4) 4/24			529	
809	須恵器	杯	横取出	【外函】底部:へラ切り	(15.0) 4/24	(8.8) 13/24	3.8	537	
810	須恵器	杯	横取出	【外函】底部:へラ切り	(12.0) 9/24	7.0 7/24	3.7	518	
811	灰地陶器	甕	横取出	【外函】体部:ロクロナデ 【内函】持物	(14.0) 2/24			521	
812	須恵器	杯	横取出	【外函】底部:へラ切り	(13.1) 15/24	7.4 24/24	4.25	539	
813	須恵器	杯(基盤)	横取出	【外函】底部:へラ切り				520	
814	須恵器	杯(基盤)	横取出					531	
815	土師器	杯(基盤)	横取出	【外函】底部:不規→手持ち:ハタケズリ				528	
816	須恵器	高台付杯(ヘラガキ)	横取出	【外函】ロクロナデ				532	
817	土師器	杯(基盤)	横取出	【外函】体部:へラケズリ 底部:回転ハテケズリ→ハタケズリ				527	
818	須恵器	小瓶	横取出	【外函】底部:回転ハテケズリ 体部:回転ハテケズリ	(5.1)			536	
819	灰地陶器	平瓶	横取出	【外函】ヨコナデ				526	
820	電形土器		横取出	【外函】底部:回転ハテケズリ 【内函】持物:ハケ足	(7.35) 3.5/24			1087 電部分	
821	灰地陶器	甕	横取出	【外函】体部:回転ハテケズリ 【内函】持物:ハケ足				522	
822	須恵器	小型要観照瓶	横取出	【外函】体部:ロクロナデ 手持ち:ヘタケズリ 底部:手持ち:ハタケズリ	(8.0)			540	
823	電形土器		横取出	【外函】ハタケズリ 【内函】ナデ				1098	
824	平瓦		横取出	【外函】布目 【内函】持物:ナデ				1099	
825	土師器	杯	第Ⅰ層	【外函】底部:静止系切り 手持ち:ハタケズリ	(13.0) 5.5/24	(6.2) 24/24	4.4	2155	
826	土師器	杯	第Ⅰ層	赤ロクロ 【外函】ロヨコナデ 体→底部:手持ち:ハタケズリ	(15.0) 10/24	9.4 24/24	2.7	2152	
827	土師器	杯	第Ⅰ層	【外函】体下端:底部:手持ち:ヘタケズリ				2098	
828	土師器	高台付皿	第Ⅰ層		(11.0) 3/24			2075	
829	須恵器	杯	第Ⅰ層	【外函】体下端:手持ち:ヘタケズリ 底部:静止系切り	(12.4) 1/24	(7.0) 12/24	4.5	2139	
830	須恵器	杯(ヘラガキ)	第Ⅰ層	【外函】底部:漏切り	(12.0) 2/24	5.0 4/24	5.5	2060	

表44 出土遺物観察表④

番号	種類	種類	遺物・部位	特徴	口径・残存率	底径・残存率	縦高	登録番号	備考
831	須恵器	杯(墨書き)	第1層	【外面】底部:ヘラ切り・手持ちヘラケズリ	(13.0) 4/24	(8.4) 11/24	3.8	2145	
832	須恵器	杯(墨書き)	第1層	【外面】底部:ヘラ切り				2157	
833	須恵器	蓋	第1層	【外面】底部:回転ヘラケズリ				2094	
834	須恵器	杯(ヘラギザ)	第1層	【外面】底部:ヘラ切り				2116	
835	須恵器上罐	高台付杯	第1層		15.6 12/24	7.5 24/24	5.3	2063	側面内面に擦れきによる痕跡有り 大口深脚扁平型
836	須恵器	蓋	第1層	【外面】体上半:回転ヘラケズリ				2112	
837	土器類	壺(ヘラギザ)	カクラン	ヨロコヨ 【外面】体上半:手持ちヘラケズリ 【内面】底部:ヨコナヂ	(6.9) 23/24			2068	
838	須恵器	杯(ヘラギザ)	第1層	【外面】底部:ヘラ切り	(7.2) /24			2163	
839	須恵器	杯(ヘラギザ)	第1層	【外面】底部:ヘラ切り	(7.8) 6/24			2164	
840	土器類	把手?	第1層					2134	
841	須恵器	杯(ヘラギザ)	第1層	【外面】底部:ヘラ切り				2117	
842	風字盤	盤	第1層	【外面】底部:ヘラケズリ				2109	
843	灰釉陶器	碗・皿	第1層		(8.4) 6/24			2170	
844	須恵器	鏡A	第1層					2118	
845	須恵器	短筒瓶	第1層					2114	
846	須恵器	短筒瓶	第1層					2115	
847	須恵器	甌	第1層	【外面】体下端:ナデ 【内面】側口:手持ちヘラケズリ				2119	
848	須恵器	長頸瓶	第1層					2092	側部外面にリング状凹凸有り 体部外面に浅い沈線有り
849	須恵器	壺	第1層	【外面】口縁:波状文				2162	
850	電灯土器	第1層		【外面】手持ちヘラケズリ				2127	
851	電灯土器	第1層		【内面】ナデ ヨコナヂ				2165	
852	電灯土器	第1層		【外面】ナデ 【内面】ナデ				2070	
853	土器類	不明	第1層	【外面】ヨコナヂ ナデ				2137	
854	電灯土器	第1層		【外面】平行タキヘラケズリ 【内面】ヨコナヂ				2128	
855	電灯土器	第1層		【外面】ナデ 【内面】ヘラケズリ ナデ				2125	
856	電灯土器	第1層		【外面】タキヘ ナデ				2124	
857	土器類	高台付杯	第1層					2130	
858	瓦	瓦	第1層					2114	傾斜[RE]
859	電灯土器	第1層		【外面】ヘナナデ 【内面】ナデ				2069	
860	須恵器	縹吻	横川面					2053	
861	電灯土器	第1層		【外面】ナデ ヘラケズリ 【内面】ナデ	筒(1):10.5~17.2 筒(2):13.8 B9.4 C8.3	34.9	21.0	4206	3ヵ所に通かし有り
862	須恵器	杯	第1層	【外面】底部:ヘラ切り 体部下端~底部:手持ちヘラケズリ	15.7 15/24	7.8 24/24	6.2	165	
863	須恵器	蓋	第1層	【外面】ヨロコナヂ+中輪ヘラケズリ	(12.8) 4/24	2.8 24/24	4.15	166	
864	須恵器	瓶	第1層		(6.6) 5/24			194	
865	須恵器	杯(墨書き)	第1層	【外面】底部:回転ヘラケズリ		/24 (7.6)	8/24	200	
866	須恵器	杯(墨書き)	第1層	【外面】底部:回転系切り	(13.2) 2/24	5.4 14/24	3.75	198	
867	須恵器	杯(墨書き)	第1層			/24		201	
868	須恵器	杯(墨書き)	第1層			/24		199	
869	須恵器	耳耳机	第1層			/24		193	
870	土器類	杯(湯付音)	第1層	【外面】底部下半~底部:回転ヘラケズリ	14.5 23/24	8.65 24/24	3.5	246	
871	須恵器	杯(墨書き)	第1層		(13.6) 2/24			259	
872	須恵器	杯(墨書き)	第1層	【外面】底部:ヘラ切り		/24		258	
873	須恵器	杯(ヘラギザ)	第1層	【外面】底部:ヨコナヂ系切り		/24 (5.8)	6/24	262	
874	須恵器	杯	横川面	【外面】底部:ヘラ切り+ロクロナヂ	(12.8) 2/24	9.2 6/24	2.9	218	
875	須恵器	杯(墨書き)	横川面	【外面】底部:回転系切り+ナデ	(14.0) 6/24	(7.2) 15/24	4.5	219	
876	土器類	杯(墨書き)	横川面			/24		223	
877	須恵器	杯(墨書き)	横川面			/24		221	
878	須恵器	杯(墨書き)	横川面	【外面】底部:ヘラ切り	(14.3) 4/24	(7.6) 10/24	4.45	349	
879	土器類	杯(墨書き)	S D1542	【外面】体下部:手持ちヘラケズリ	13.5 5/24			2842	
880	土器類	杯	S D1542	【外面】底部:回転系切り	(13.6) 12/24	(5.5) 24/24	4.75	2893	
881	土器類	高台付杯	S D1542	【外面】底部:回転系切り	(14.6) 2/24	7.65 21/24	6.3	2892	
882	須恵器	杯	S D1542	【外面】底部:止系切り	(12.0) 4/24	(6.6) 5/24	4.4	2848	
883	須恵器	杯	S D1542	【外面】底部:回転系切り	(13.0) 5/24	7.04 7/24	3.5	2847	
884	須恵器	杯	S D1542	【外面】底部:回転系切り	(11.2) 8/24	(4.4) 12/24	3.3	2896	
885	須恵器	杯	S D1542	【外面】底部:回転系切り 【内面】底部:其込ナマナヂツカ	(11.6) 5.5/24	(4.8) /24	3.2	2897	
886	須恵器	杯	S D1542	【外面】底部:回転系切り	12.95 16/24	4.5 24/24	4.1	2901	
887	須恵器	杯	S D1542	【外面】底部:回転系切り	12.4 24/24	5.5 24/24	3.6	2902	
888	須恵器	土器	S D1542	【外面】底部:回転系切り	13.1 16/24	4.6 24/24	3.5	2903	
889	須恵器	高台付杯	S D1542			10.4 18.5/24		2838	
890	須恵器	高台付杯	S D1542	【外面】底部:回転系切り	18.35 24/24	(9.1) /24	6.5	2904	
891	土器類	杯(墨書き)	S D1550	【外面】底部:回転系切り	15.4 10/24	6.1 15/24	5.85	2817	
892	須恵器	杯(人面墨書き)	S D1542	【外面】底部:手持ちヘラケズリ		(7.6) 11/24		2906	
893	土器類	蓋	S D1542	【外面】底部:ヘラギザ+墨色鉢輪		(10.8) 7/24		2841	
894	土器類	杯(墨書き)	S D1550-黒脚土	【外面】底部:回転系切り		6.0 34/24		2816	
895	須恵器	杯(墨書き)	S D1550-黒脚土	【外面】底部:回転系切り		(6.5) 18/24		2815	
896	土器類	小型壺(人面墨書き)	S D1542	【外面】底部:手持ちヘラケズリ				2912	

表45 出土遺物観察表05

番号	種類	器種	直横・縦位	持 信	口徑・残存率	底径・残存率	器 高	登錄番号	備 考	
887	土師器	杯(基層)	S D1542-焼出面					2864		
888	土師器	小型壺(人面彫刻)	S D1542					2911		
889	須志器	瓶	S D1542	【外面】体下半:回転ヘラケズリ 底部:切り離し不明	(7.7)	15/24	2859			
900	土師器	小型壺(人面彫刻)	S D1542					2910		
901	土師器	杯(人面彫刻)	S D1542					2908		
902	土師器	甕(人面彫刻)	S D1542					2909		
903	射九瓦	S D1542-1層	【外面】陶タク→手持ちヘラケズリ 底部:通帯文	直径: (18.4)	最大の長: 7.3			2863	310B	
904	土師器	甕	S D1542	【外面】体:タクタク→クロナナデ 【外面】回転ハナメ	(25.4)	3/24		2858		
905	土師器	杯	S D1505 a-2層		(15.8)	8/24		2689		
906	土師器	杯	S D1505 a-1層	【外面】体下下→底部:回転ヘラケズリ	(13.00)	1.2/24 (7.7)	18.5/24	4.95	2690	
907	土師器	杯	S D1505 a-1層	【外面】体下端~底部:手持ちヘラケズリ	(10.00)	3/24 (6.8)	10/24	2.8	2677	
908	土師器	高台口杯	S D1505 a-1層	【外面】体下端:回転ヘラケズリ 底部:切り離し不明	(14.8)	3/24		2688	体部内面に油膜付着	
909	須志器	杯	S D1505 a-1層	【外面】底部:ハラカリ	(13.6)	8/24 (6.1)	12.5/24	3.4	2673	
910	須志器	杯	S D1505 a-1層	【外面】底部:回転糸切り	(13.0)	6/24 (6.1)	13.5/24	3.2	2681	
911	須志器	杯(基層)	S D1505 a-1層	【外面】底部:ハラカリ	(14.0)	13.5/24 (7.4)	24/24	3.35	2679	
912	須志器	杯(輪郭 ヘラガキ)	S D1505 a-1層	【外面】底部:ハラカリ	(14.35)	13/24 (7.3)	24/24	4.15	2674	
913	須志器	杯(輪郭)	S D1505 a-1層	【外面】底部:ハラカリ	(13.4)	8/24 (6.2)	17/24	3.75	2683	
914	須志器	杯(輪郭)	S D1505 a-1層	【外面】底部:ハラカリ				2678		
915	須志器	杯(輪郭)	S D1505 a-1層	【外面】底部:ハラカリ				2696		
916	須志器	杯(輪郭)	S D1505 a-1層	【外面】底部:ハラカリ	(11.8)	9/24 (5.8)	11.5/24	4.0	2675	
917	土師器	甕	S D1505 a-1層	【外面】コクロナデ【内面】回転ヘケメ				4228	複合口縁	
918	土師器	杯	S D1505 b-1層	【外面】体下端:手持ちヘラケズリ 底部:ハラカリ	(13.4)	9/24 6.4	11/24	3.75	2660	体部外間に付着物有り
919	土師器	杯	S D1505 b-1層	【外面】体下半~底部:回転ヘケズリ	(12.8)	7/24 7.8	6/24	3.55	2671	
920	土師器	杯	S D1505 b-1層	【外面】底部:回転糸切り				2670		
921	須志器	杯	S D1505 b-1層	【外面】底部:ハラカリ	(12.7)	15/24 6.25	24/24	3.6	2667	
922	須志器	杯(基層)	S D1505 b-1層	【外面】底部:糸切り				2666		
923	須志器	杯(基層)	S D1505 b-1層	【外面】底部:回転糸切り	(13.1)	24/24 6.85	24/24	3.925	2658	
924	須志器	甕(基層)	S D1505 b-1層	【外面】手持ちヘラケズリ				2664		
925	土師器	杯	S D1502 c-1層	【外面】体下端:回転ヘラケズリ 底部:切り離し不明	(17.6)	2.5/24 (7.3)	10/24	7.0	2614	
926	土師器	杯(基層)	S D1502 c-1層	【外面】体下半:回転ヘラケズリ 底部:へたり→ヘラケズリ	(13.6)	5/24 (7.4)	13/24	3.9	2593	
927	土師器	杯	S D1502 c-1層	【外面】底部:糸切り	(6.9)	3/24 5.1	24/24	4.4	2613	
928	須志器	杯	S D1502 c-1層	【外面】底部:ハラカリ	(11.1)	8/24 6.75	24/24	4.6	2606	
929	須志器	杯	S D1502 c-1層	【外面】底部:ハラカリ	(13.4)	10/24 (7.4)	12/24	3.3	2608	
930	須志器	杯	S D1502 c-2w 砂鉢	【外面】底部:静止糸切り	(14.9)	3/24 6.4	24/24	4.8	3411	
931	須志器	杯	S D1502 c-2w 砂鉢	【外面】底部:ハラカリ	(12.2)	9/24 (6.8)	11/24	4.8	2605	
932	須志器	杯	S D1502 c-2w 砂鉢	【外面】底部:糸切り	(13.4)	3/24 (6.5)	10/24	3.75	3410	
933	須志器	杯(印明顯)	S D1502 c-1層	【外面】底部:手持ちヘラケズリ	(8.4)	7/24 (6.6)	13/24	3.9	2611	
934	須志器	杯(基層)	S D1502 c-2w 砂鉢	【外面】底部:糸切り				3414		
935	須志器	杯(基層)	S D1502 c-2w 砂鉢	【外面】底部:回転糸切り	(13.4)	5/24 (6.7)	14/24	4.3	2584	
936	須志器	杯(基層)	S D1502 c-2w 砂鉢	【外面】底部:ハラカリ	(14.1)	21/24 6.3	24/24	4.6	2607	
937	須志器	杯(基層)	S D1502 c-1層	【外面】底部:回転糸切り				2588		
938	須志器	杯(基層)	S D1502 c-1層		(12.6)	3.5/24		2587		
939	須志器	杯(基層)	S D1502 c-1層					2590		
940	須志器	杯(基層)	S D1502 c-1層	【外面】底部:ハラカリ				2585		
941	須志器	杯(基層)	S D1502 c-1層	【外面】底部:ハラカリ				2586		
942	須志器	杯(基層)	S D1502 c-w 砂鉢	【外面】底部:ハラカリ				3413		
943	須志器	杯(ヘラガキ)	S D1502 c-b 壤上	【外面】体下端:手持ちヘラケズリ 底部:ハラカリ	(13.8)	4.5/24 7.1	24/24	4.9	2604	
944	電燈土器	杯	S D1502 c-1層	【外面】テナ				2594		
945	電燈土器	杯	S D1502 c-w 砂鉢	【外面】ナデ				3417		
946	須志器	車	S D1502 c-w 砂鉢	【外面】底部:糸切り	(5.45)	5/24 2.35	5/24	4.24	3411	
947	電燈土器	杯	S D1502 c-w 砂鉢	【外面】ハラケズリ【内面】ヨコナデ				3422	右翼	
948	土師器	杯	S B1502-P 103瓶	【外面】体下半~底部:手持ちヘラ	(14.4)	2/24 (7.0)	8/24	7.2	3237	
949	土師器	杯	S K1544	【外面】底部:切り離し不明	(10.5)	10/24 (6.6)	12/24	4.55	3236	
950	土師器	杯(基層)	S B1541-P 113瓶	【外面】体下端:手持ちヘラケズリ 底部:切り離し不明		(5.85)	14/24		3236	
951	須志器	杯	S K1544	【外面】底部:ハラカリ	(14.6)	7/24 (7.8)	11/24	6.0	3223	
952	須志器	杯	S B1501-P 112瓶	【外面】底部:ハラカリ	(13.2)	8/24 (6.5)	11/24	3.65	3235	
953	須志器	杯(印明顯)	S B1508 B-P 61壤上	【外面】底部:ハラカリ	(13.2)	9/24 (7.2)	13/24	4.1	3230	
954	須志器	杯	S B1502-P 125瓶	【外面】底部:切り離し不明→手持 ちヘラケズリ	(14.0)	4/24 (8.1)	9/24	4.05	3231	
955	須志器	杯(基層)	S B1509-B-P 130瓶	【外面】底部:手持ちヘラケズリ	(13.0)	5/24 (7.6)	6/24	3.5	3225	
956	須志器	杯(基層)	S B1502-P 103瓶	【外面】底部:ハラカリ	(13.2)	5.5/24 (6.6)	6/24	3.7	3224	
957	須志器	杯(ヘラガキ)	S B1539-P 71壤土	【外面】底部:ハラカリ		(6.0)	7/24		3227	
958	須志器	杯(基層)	S B1500-P 84瓶	【外面】底部:ハラカリ		(7.1)	9/24		3411	
959	須志器	杯(基層)	S B1500-P 80	【外面】底部:糸切り		(6.8)	4.5/24		3421	
960	須志器	杯(基層)	S B1501-P 112瓶					4213		

表46 出土遺物観察表46

番号	種類	器種	遺物・部位	特徴	口径・堆存率	底径・残存率	縦高	登録番号	備考	
961	土師器	甕(黒面)	S B1560-P 86瓶方	【外面部】ボロクロナデ→ヘラケズリ 底部-瓶身切	(7.3) 4.5/24	11/24	3242			
962	土師器	甕	S B1560-P 85瓶穴	【内面部】底部-回転ハケメ	(24.8) 4.5/24		3247	複合口縁		
963	須恵器	杯(黒面)	S B1465-P	【外面部】底部-瓶身切	(24.5) 5.7/24	24/24	3826			
964	須恵器	杯(黒面)	S B1470-P 121埋土	【外面部】底部-瓶身切	(14.6) 2/24	8.0	24/24	4.5	3827	
965	須恵器	杯(黒面)	S B1475-P 53		/24		24/24		3848	
966	須恵器	瓶(黒面)	S B1477-P 105瓶穴	【外面部】底部-ロコナデ		/24		24/24	4217	
967	須恵器	杯(黒面)	S B1477-P 31瓶穴	【外面部】底部-ヘラ切り		/24		24/24	3850	
968	電気上塗		S B1480-P 173	【内面部】底部-ヘケグリナデ		/24		24/24	3851	
969	筋縫革		S B1484-P 180瓶方		長:5.1	幅:5.0	厚:2.4	3842	重:153.4g	
970	須恵器	甕	S B1474-P 45瓶穴	【外面部】ロコナデ	57.6	7/24		24/24	外面部縁間に波状文 内面に同心円文有り	
971	平瓦		S B1478-P 59-瓶穴	【内面部】布目ナデ → ヘラケズリ 【内面部】瓶身切				24/24	3884 II B-n 2	
972	平瓦		S B1471-P 112瓶穴	【内面部】糸切→布目 ヘラケズリ 【内面部】瓶身切				24/24	3887 II B-a タイプ1	
973	平瓦		S B1472-P 13瓶方	【内面部】糸切不明 ヘラケズリ				24/24	3890 II B-b タイプ1	
974	平瓦		S B1473-P 48瓶穴	【内面部】布目ナデ	【内面部】瓶身切タキ 【内面部】布目ナデ			24/24	3883 II B	
975	平瓦		S B1485-P 170瓶穴	【内面部】瓶身切タキ				24/24	3893 II B	
976	平瓦		S B1486-P 170瓶穴	【内面部】布目ナデ → 【内面部】瓶身切タキ				24/24	3886 II B	
977	平瓦		S B1475-P 127埋土	【内面部】布目ナデ → 【内面部】瓶身切タキ				24/24	3888 II B	
978	平瓦		S B1485-P 179瓶穴	【内面部】照査在の本目压痕→ナデ 【内面部】瓶身切タキ				24/24	3885 II B	
979	平瓦		S B1478-P 55	【内面部】布目ナデ → ヘラケズリ 【内面部】瓶身切				24/24	3884 II B-a タイプ1	
980	須恵器	杯	S I 1488-1埋	【外面部】底部-ヘラ切り	(14.6) 8.5/24	(9.7) 16.5/24	3.05	3783		
981	須恵器	杯(黒面)	S I 1488-1埋	【外面部】底部-瓶身切	(13.7) 15/24	6.2	24/24	4.1	3784	
982	土師器	甕	S I 1488-1埋	青ロクロ【外面部】糸切→底部-ナデ		24/24		24/24	3793 瓶底木葉瓶	
983	土師器	甕	S I 1488-1埋	青ロクロ【外面部】糸切・瓶身切	(21.0) 4/24		24/24		3796	
984	須恵器	甕(ヘラガキ)	S I 1488-1埋	【外面部】口縁-底部下平-ロコナデ	(28.4) 5/24		24/24		3803	
985	甕		S I 1488-1埋	【内面部】タキ	長:19.8	幅:5.45	厚:5.05	24/24	3795	
986	須恵器	杯	S I 1488-カマド内側 鉢土	【内面部】底部-ヘラ切り	14.2	21/24	9.9	24/24	3.7	3785
987	平瓦		S I 1488-カマド側削	【内面部】布目ナデ 【内面部】糊切き目		/24		24/24	3801 II B-a タイプ1	
988	土師器	杯	S I 1488-東直上	【外面部】底部下端-底部-手持ちヘラケズリ	14.0	19/24	8.1	24/24	3.5	3789
989	土師器	杯	S I 1488-東直上	青ロクロ【外面部】底部下端-底部-手持ちヘラケズリ	11.3	24/24	5.0	24/24	4.65	3788
990	須恵器	杯(ヘラガキ)	S I 1488-東直上	【外面部】底部-ヘラ切り		7.4	24/24		3786 瓶底外間にヘラガキ有り [X]	
991	須恵器	杯	S I 1488-東直上	【外面部】底部-ヘラ切り	13.9	24/24	7.95	24/24	3.6	3787
992	土師器	甕	S I 1488-東直上	青ロクロ【外面部】底部-切り離し 不明	6.8	18/24	4.7	24/24	7.95	3790 口縁-底部内外面に漆付
993	須恵器	甕	S I 1488-東直上	【外面部】タキ	【内面部】当て具痕 20.0	21/24	14.5	24/24	35.7	4482
994	須恵器	甕	S I 1488-東直上	【外面部】底部下端-底部-当て具痕 19.1	19/24	14.5	24/24	34.2	4218 内面に当て具痕有り	
995	須恵器	甕	S I 1488-東直上	【外面部】タキ 【内面部】当て具痕 33.6	23/24		52.7	4484 外面部縁間に波状文 内面に当て具痕有り		
996	須恵器	甕	S I 1488-東直上					24/24	4484 外面部縁間に波状文 内面に当て具痕有り	
997	須恵器	短幅壺	S I 1488-共心形壺	【外面部】底部下端-回転ヘラケズリ	11.35	10/24	(10.1)	/24	20.5	4219
998	須恵器	甕(平鉢)	S I 1479-床直上	【外面部】手持ち-ヘラケズリ 【内面部】工具によるナデ					3794	
999	須恵器	甕	S I 1479-1埋	【外面部】底部下端-手持ちヘラケズリ 【内面部】手ナデ					3797	
1000	土師器	杯(黒面)	S E 1552-P 墓	【外面部】底部-瓶身切	15.7	22/24	6.3	24/24	5.55	3028
1001	土師器	瓶(付付)(黒面)	S E 1552-P 墓	【外面部】底部-瓶身切	(14.4) 10/24	(7.8)	12/24	4.4	3059	
1002	須恵器	杯(黒面)	S E 1552-P 方形曲輪内	【外面部】手持ち-瓶身切	(13.4) 6.5/24	(5.6)	4/24	4.7	3060	
1003	須恵器	杯	S E 1552-P 瓶方埋上	【外面部】底部-ヘラ切り	(14.2) 2/24	(6.4)	12/24	3.8	3062	
1004	灰陶器	壺	S E 1552-P 瓶方埋	【外面部】底部-ヘラケズリ	(17.2) 3.5/24					K-14号樂式
1005	須恵器	杯(ヘラガキ)	S E 1552-P 方形曲輪内	【外面部】底部-ヘラ切り	(13.5) 8/24	(7.8)	10/24	3.65	3061	
1006	須恵器	甕	S E 1552-P 墓	【外面部】タキ → ナデ 【内面部】ナデ 長:5.9		幅:11.1			3072 内面全面にスス付器	
1007	須恵器	甕	S E 1552-P 瓶方埋上	【外面部】タキ → ナデ 【内面部】ナデ 長:13.4		幅:23.3			3071 内面全面にスス付器	
1008	土師器	杯	S E 1552-P 墓	【外面部】底部-手持ちヘラケズリ	(12.75) 8/24	6.6	24/24	4.8	3047	
1009	土師器	杯	S E 1535-1埋	【外面部】底部下端-底部-手持ちヘラケズリ	(15.0) 11/24	(5.6)	16/24	4.8	3018	
1010	土師器	杯	S E 1535-3埋	【外面部】底部下端-底部-手持ちヘラケズリ	14.9	10/24	5.8	24/24	5.3	3015
1011	土師器	杯(黒面)	S E 1535-5埋	【外面部】底部下端-底部-手持ちヘラケズリ	14.25	18/24	7.0	24/24	4.7	3016
1012	土師器	杯	S E 1535-1埋	【外面部】底部-回転系切	(14.0) 7/24	(6.2)	24/24	5.0	3049	
1013	須恵器	杯(黒面)	S E 1535-3埋		(13.8) 7/24				3023	
1014	須恵器	杯(黒面)	S E 1535-5埋	【外面部】底部-回転系切					3024	
1015	土師器	杯(黒面)	S E 1535-4埋						3027	
1016	土師器	杯(黒面)	S E 1535-5埋						3026	
1017	土師器	杯(黒面)	S E 1535-6埋						3028	

表47 出土遺物観察表(3)

番号	種類	器種	遺物・層位	特徴	口径・残存率	底径・残存率	器高	登録番号	備考
1018	酒呑器	杯(直筒)	S E1520-露地土	[外面]体下半～底部:回転ヘラケズリ	(13.8) 3/24 (7.4)	10.5/24 6.25	3.95	3094	
1019	土瓶器	杯(直筒)	S E1545-2層	[外面]底部:回転条切り	13.2	24/24	4.3	3090	
1020	酒呑器	杯(直筒)	S E1545-2層	[外面]底部:回転条切り	(13.7) 7.5/24 7.0	24/24	3.95	3053	
1021	酒呑器	杯	S E1545-井戸側内	[外面]底部:回転条切り	(13.7) 7.5/24 7.0	24/24	3.95	3053	
1022	酒呑器	杯(直筒)	S E1545-瓶穴				3.95	3087	
1023	酒呑器	鳥形瓶	S E1545-井戸側内-1層	[外面]体下半:ヘラケズリ				5616	
1024	土瓶器	杯(ヘラガキ)	S E1545-井戸側内埋土	[外面]体下半:手持ちヘラケズリ 瓶底:手持ちヘラケズリ	15.3 22/24 6.15	24/24	5.45	3043	
1025	酒呑器	杯(直筒)	S E1545-井戸側埋土		(12.2) 14/24 (6.1)	12/24	4.05	3042	
1026	酒呑器	瓶	S E1545-瓶穴	底:4.0		4.0	厚:0.75	4005	
1027	酒呑器	瓶	S E1545-瓶穴	[外面]タクナ	(17.0) 12/24			3101	
1028	土瓶器	瓶	S E1545-井戸瓶穴	[外面]回転条切り	(17.0) 3/24			4064	
1029	土瓶器	杯	S E1550-井戸側内埋土	[外面]回転条切り→手持ちヘラケズリ	14.0 21.5/24 7.05	24/24	4.0	3095	
1030	土瓶器	杯	S E1550-井戸側内埋土	[外面]静止条切り→回転ヘラケズリ	14.1 15.5/24 6.3	18/24	4.7	3099	
1031	土瓶器	杯	S E1550-井戸側内埋土	[外面]体下端:手持ちヘラケズリ 瓶底:手持ちヘラケズリ	14.8 22/24 6.15	24/24	5.6	3097	
1032	土瓶器	杯	S E1550-井戸側内埋土	[外面]体下半～底部:手持ちヘラケズリ	14.6 24/24 6.45	24/24	6.3	3098	
1033	土瓶器	高台付杯	S E1560-井戸側内埋土	[外面]切り離し不明	(16.7) 17/24 0.04	16/24	6.3	3096	高台の部分が伝統的問題と似ている
1034	土瓶器	杯	S E1560-井戸側埋土上	[外面]体下端:手持ちヘラケズリ	(15.0) 3/24			3103	
1035	酒呑器	杯	S E1560-井戸側内埋土	[外面]底部:回転条切り	16.3 23/24 6.2	24/24	5.5	3100	
1036	土瓶器	杯(直筒)	S E1560-瓶穴					3105	
1037	土瓶器	杯	S E1565-瓶埋土	[外面]体下端:手持ちヘラケズリ 瓶底:手持ちヘラケズリ		5.7	24/24	3096	
1038	酒呑器	杯	S X1521-1層	[外面]底部:ヘラ切り	(13.8) 16/24 7.1	24/24	3.85	3075	
1039	酒呑器	杯	S E1565-瓶埋土	[外面]底部:ヘラ切り	(14.3) 8/24 (8.7)	19/24	3.6	3082	
1040	酒呑器	杯	S E1565-瓶埋土	[外面]底部:ヘラ切り	13.3 10/24 7.5	24/24	3.8	3076	
1041	酒呑器	杯	S E1565-瓶埋土	[外面]底部:回転ヘラケズリ	(13.0) 5/24 (8.4)	9.5/24	3.9	3081	
1042	土瓶器	杯	S D1510-1層	[外面]体下端:手持ちヘラケズリ 瓶底:手持ちヘラケズリ	13.5 14/24 6.0	23/24	4.3	2723	
1043	土瓶器	杯	S D1510-1層	[外面]回転条切り	14.6 12/24 6.6	24/24	4.4	2722	
1044	土瓶器	杯	S D1510-1層	[外面]体下端～底部:手持ちヘラケズリ	(15.3) 6.5/24 (7.0)	8/24	4.5	2697	
1045	土瓶器	高台付瓶	S D1510-1層	[外面]底部:切り離し不明	(13.6) 2/24 8.0	20/24	2.9	2724	
1046	土瓶器	高台付杯	S D1510-1層	[外面]底部:不明	7.0	5/24		2698	
1047	酒呑器	杯	S D1510-1層	[外面]底部:ヘラ切り	(13.8) 4/24 8.0	11/24	3.75	2727	
1048	酒呑器	杯	S D1510-1層	[外面]底部:回転条切り→手持ちヘラケズリ	(13.3) 8.5/24 (8.0)	11/24	3.55	2728	
1049	酒呑器	杯(直筒)	S D1510	[外面]底部:ヘラ切り		(7.8)	6/24	2705	
1050	酒呑器	杯(直筒)	S D1510-2層	[外面]底部:回転条切り	(13.2) 7/24 (6.0)	12/24	4.45	2710	
1051	酒呑器	杯(直筒)	S D1510-2層	[外面]底部:ヘラ切り	(14.2) 9/24 (7.5)	4/24	3.65	2703	
1052	酒呑器	杯(直筒)	S D1510-2層	[外面]底部:ヘラ切り	(14.0) 3.5/24 (7.0)	11/24	4.30	2711	
1053	酒呑器	杯(直筒)	S D1510-2層	[外面]底部:ヘラ切り	(6.2)	17/24		2704	
1054	酒呑器	双耳杯(直筒)	S D1510-1層	[外面]底部:手持ちヘラケズリ 瓶底:ヘラケズリ		7.6	24/24	2702	
1055	酒呑器	杯(直筒)	S D1510-1層	[外面]底部:回転条切り		(8.7)	6/24	3443	
1056	酒呑器	杯(直筒)	S D1510-1層					2709	
1057	酒呑器	杯(直筒)	S D1510-1層					2708	
1058	酒呑器	瓶	S D1510-2層	[外面]底部:ヘラガキ 平行タカラ 手持ちヘラケズリ	(12.8) 1.5/24 (10.7)	15/24	17.15	2700	
1059	土瓶器	杯(直筒)	S D1510-2層	[外面]底部:切り離し不明				2716	体部及び底部外に削痕有り
1060	製塩土瓶		S D1510-2層					2719	
1061	土瓶器	S D1510		底:13.9	瓶:1.5		厚:1.4	2715	
1062	酒呑器	杯(直筒瓶)	S D1511-1層	[外面]底部:ヘラ切り	(12.8) 9/24 8.5	11/24	3.3	2772	底部内面に摩耗痕有り
1063	酒呑器	杯	S D1511-1層	[外面]底部:ヘラ切り	14.3 21/24 8.5	24/24	3.9	2580	
1064	酒呑器	杯(直筒)	S D1511-1層	[外面]底部:ヘラ切り	13.2 18/24 7.5	24/24	3.8	2579	底部外面に擦耗痕有り
1065	酒呑器	杯(印伝目)	S D1511-1層	[外面]底部:ヘラ切り	(13.2) 7.5/24 6.5	24/24	3.25	2581	体部内面に擦耗付着
1066	酒呑器	杯	S D1520-2層	[外面]底部:ヘラ切り	(14.0) 11/24 (7.8)	13.5/24	3.6	2797	
1067	酒呑器	杯	S D1520-2層	[外面]底部:回転条切り	13.5 15/24 7.4	24/24	4.18	2790	口縁に油煙付着
1068	酒呑器	杯(直筒)	S D1520-1層		(13.4) 4/24			2795	
1069	酒呑器	杯(直筒)	S D1520-1層	[外面]底部:手持ちヘラケズリ	(13.8) 3.5/24 (5.3)	20.5/24	3.5	2789	
1070	酒呑器	杯(直筒)	S D1520-2層	[外面]底部:手持ちヘラケズリ				2775	内面は瓦全城に墨斑有り
1071	酒呑器	杯	S D1520-2層	[外面]底部:ヘラ切り	(13.4) 8/24 (8.5)	13/24	4.45	2798	
1072	酒呑器	杯(直筒)	S D1520-2層	[外面]底部:ヘラ切り	(12.4) 11/24 (5.8)	10/24	3.55	2796	
1073	酒呑器	杯(ヘラガキ)	S D1520-2層	[外面]底部:ヘラ切り	(14.0) 12/24 (5.6)	12/24	3.95	2791	
1074	酒呑器	杯(直筒)	S D1511-1層	[外面]底部:ヘラ切り	13.7 18/24 7.2	24/24	3.9	2771	
1075	酒呑器	瓶	S D1511-1層	[外面]口縁:波状文				2770	
1076	酒呑器	杯(瓶用)	S D1515-1層	[外面]底部:回転条切り	13.7 24/24 7.2	24/24	3.5	2775	
1077	土瓶器	杯	S D1522-1層	[外面]底部:手持ちヘラケズリ 瓶底:瓶底あ切り	(14.2) 9/24 5.8	24/24	5.35	2294	
1078	土瓶器	杯	S D1522-1層	[外面]底部:回転条切り	(14.2) 13/24 (5.8)	11/24	4.55	2342	

表48 出土遺物観察表⑧

番号	種類	器種	遺物・部位	特徴	口径・残存率	底座・残存率	器高	登錄番号	備考	
1079	土師器	杯	S D1522-1層	【外因】底下層・回転ヘラケズリ 底部・回転ヘラケズリ	6.7	22/24		2339		
1080	土師器	杯	S D1522-1層	【外因】底下層・手持ちヘラケズリ 底部・手持ちヘラケズリ	(14.0)	8/24 (5.5)	12/24	5.2	2344	
1081	土師器	杯	S D1522-1層	【外因】底部・手袖あ切り	13.1	12/24 5.8	24/24	4.35	2341	
1082	土師器	杯	S D1522-1層	【外因】底下層・手袖あ切り	17.5	18/24 7.85	19/24	6.65	2340	
1083	土師器	杯	S D1522-1層	【外因】底部・手袖あ切り	(12.8)	2.5/24 5.4	24/24	4.2	2347	
1084	土師器	杯	S D1522-1層	【外因】底部・手袖あ切り	(13.0)	9/24 (5.6)	22/24	3.6	2345	
1085	土師器	杯	S D1522-1層	【外因】底下層・手持ちモーラケズリ 底部・手持ちモーラケズリ	(18.6)	4/24 (7.0)	16/24	7.0	2343	
1086	土師器	杯	S D1522-1層	【外因】底下層・手袖あ切り	(13.0)	12/24 6.1	24/24	4.35	2346	
1087	土師器	杯	S D1522-1層	【外因】底部・手袖あ切り	13.0	9/24 5.7	23/24	4.35	2350	
1088	土師器	杯	S D1522-1層	【外因】底部・手袖あ切り	(14.0)	4/24 (8.0)	15/24	5.55	2351	
1089	土師器	杯(灯明皿)	S D1522-1層	【外因】底部・不明→手持ちヘラケズリ	12.7	9.5/24 6.55	24/24	3.8	2364	
1090	土師器	杯	S D1522-1層	【外因】底下層・手袖あ切り	(12.6)	3/24 (5.3)	24/24	4.5	2377	
1091	土師器	杯	S D1522-1層	【外因】底下層・手持ちモーラケズリ 底部・手持ちモーラケズリ	(12.8)	7/24 (5.4)	16/24	4.6	2380	
1092	土師器	杯	S D1522-1層	【外因】手持ちモーラケズリ	(14.4)	10/24 (6.8)	24/24	5.6	2426	
1093	土師器	高台付杯	S D1522-1層	【外因】底部・ヘラ切り→回転ヘラケズリ	14.0	8/24 8.1	24/24	2.8	2353	
1094	土師器	高台付杯	S D1522-1層	【外因】底下層・手袖あ切り	14.5	12/24 7.6	22/24	3.5	2352	
1095	須恵器	杯	S D1522-1層	【外因】底部・回転ヘラケズリ	(14.4)	11/24 (5.7)	24/24	4.6	2319	
1096	須恵器	杯	S D1522-1層	【外因】底部・回転ヘラケズリ	(12.6)	5/24 (5.0)	17/24	4.15	2305	
1097	須恵器	杯	S D1522-1層	【外因】底部・回転ヘラケズリ	12.5	14/24 5.7	24/24	4.0	2356	
1098	須恵器	杯	S D1522-1層	【外因】底部・回転ヘラケズリ	(13.4)	10/24 (5.2)	13/24	3.85	2358	
1099	須恵器	杯	S D1522-1層	【外因】ナックル→手持ちヘラケズリ	14.0	15/24 8.1	24/24	4.35	2359	
1100	須恵器	杯	S D1522-1層	【外因】底部・ナックル	(13.4)	5/24 (8.4)	12/24	4.0	2361	
1101	須恵器	杯	S D1522-1層	【外因】底部・回転ヘラケズリ	(13.6)	5.3/24 5.0	24/24	4.3	2360	
1102	須恵器	杯	S D1522-1層	【外因】底部・ナックル	(13.4)	8/24 6.4	16/24	4.3	2364 内外面にスリット有	
1103	須恵器	杯	S D1522-1層	【外因】底下層→底部・回転ヘラケズリ	(11.0)	4/24 (7.1)	15/24	3.15	2367	
1104	須恵器	杯	S D1522-1層	【外因】底部・回転ヘラケズリ	16.4	10/24 6.45	17/24	6.05	4506	
1105	須恵器	杯	S D1522-1層	【外因】底部・ナックル	(12.0)	7/24 (7.0)	7/24	4.45	2302	
1106	須恵器	高台付杯	S D1522-1層	【外因】底部・ナックル	(12.6)	6/24 (8.7)	11/24	4.7	2363	
1107	土師器	甕	S D1522-1層	【外因】底下層・手袖あ切り	16.4	8/24			2258	
1108	土師器	甕	S D1522-1層	【外因】底部・回転ヘラケズリ	15.1	23/24			2409	
1109	土師器	小型甕	S D1522-1層	【外因】底下層・手持ちモーラケズリ 底部・回転ヘラケズリ	12.4	10/24 6.0	21/24	8.8	2410 黒色の付着物有り	
1110	土師器	甕	S D1522-1層	【外因】底下層・回転ヘラケズリ 底部・回転ヘラケズリ		7.0	24/24		2261	
1111	須恵器	甕	S D1522-1層		12.4	17/24			2408	
1112	土師器	小型甕	S D1522-1層	【外因】口縁: 1ガキ 伸部: ハメテ (11.1)	/24				2365	
1113	須恵器	甕	S D1522-1層		(36.2)	4/24			2403	
1114	土師器	甕?	S D1522-1層	【外因】ヘラケズリ ヨコナデ		(11.0)	6.5/24		2384	
1115	須恵器	甕	S D1522-1層	【外因】底下層・手持ちモーラケズリ 内面ナデ	(34.0)	2.5/24			2407	
1116	土師器	甕(墨書き)	S D1522-1層	【外因】底下層→底部・回転ヘラケズリ		15.1	20/24 7.9	24/24	6.1	2292
1117	土師器	甕(墨書き)	S D1522-1層	【外因】底部・ナックル→手持ちヘラケズリ	15.4	23/24 7.65	23/24	5.2	2293	
1118	土師器	甕(墨書き)	S D1522-1層	【外因】底下層・手持ちモーラケズリ 底部・回転ヘラケズリ	(14.0)	7.5/24 6.4	24/24	4.3	2296	
1119	土師器	甕(墨書き)	S D1522-1層	【外因】底部: 不明→手持ちヘラケズリ	(13.6)	3/24 (5.4)	6/24	5.45	2313	
1120	土師器	甕(墨書き)	S D1522-1層	【外因】底部・回転ヘラケズリ	(13.4)	1/24 (6.0)	12/24	4.15	2299	
1121	土師器	甕(墨書き)	S D1522-1層	【外因】底部・回転ヘラケズリ		5.4	23.5/24		2296	
1122	土師器	甕(墨書き)	S D1522-1層	【外因】底下層→底部・回転ヘラケズリ	(14.4)	8/24 6.4	24/24	5.85	2328	
1123	土師器	甕(墨書き)	S D1522-1層	【外因】底部: 静止系切り→手持ち ヘラケズリ	13.0	10/24 6.8	20/24	4.5	2311	
1124	土師器	甕(墨書き)	S D1522-1層	【外因】底部・回転ヘラケズリ	13.2	20/24 6.6	24/24	4.2	2294	
1125	土師器	甕(墨書き)	S D1522-1層	【外因】底下層・手持ちモーラケズリ 底部・ナックル	(14.6)	4/24 (7.5)	13.5/24	5.1	2295	
1126	土師器	高台付杯(墨書き)	S D1522-1層	【外因】底部・回転ヘラケズリ	(14.3)	3/24 (8.8)	7/24	4.3	2290	
1127	須恵器	甕(墨書き)	S D1522-1層	【外因】底部・ナックル	13.7	18/24 7.0	17/24	3.9	2299	
1128	須恵器	甕(墨書き)	S D1522-1層	【外因】底部・ナックル	13.8	21.5/24 7.6	24/24	4.2	2304	
1129	須恵器	甕(墨書き)	S D1522-1層	【外因】底部・回転ヘラケズリ	(14.0)	24/24 5.85	24/24	4.45	2302	
1130	須恵器	甕(墨書き)	S D1522-1層	【外因】底下層→底部・手持ちヘラ ケズリ	(14.4)	9/24 (8.2)	24/24	3.7	2300	
1131	須恵器	甕(墨書き)	S D1522-1層	【外因】底部・回転ヘラケズリ	14.4	20/24 7.6	24/24	4.25	2306	
1132	須恵器	甕(墨書き)	S D1522-1層		(13.1)	6.5/24			2312 久付岩	
1133	須恵器	甕(墨書き)	S D1522-1層	【外因】底部・ヘラ切り	(14.2)	8/24 (8.4)	12/24	3.45	2303	
1134	須恵器	甕(墨書き)	S D1522-1層	【外因】底部・回転ヘラケズリ		(5.6)	24/24	4.6	2314	

表49 出土遺物観察表(9)

番号	種類	器種	通横・層位	特徴	口径・残存率	底径・残存率	高	登録番号	備考
1135	須恵器	杯(直腹 車用脚)	S D1522-1層	[外面]底部:へたり切り	(13.0) 2/24 9.0	24/24 4.1	2307		
1136	須恵器	杯(直腹)	S D1522-1層	[外面]底部:へたり切り	14.3 18/24 7.4	24/24 3.95	2308		
1137	須恵器	杯(直腹)	S D1522-1層	[外面]底部:へたり切り	13.5 23/24 7.3	24/24 3.9	2307		
1138	須恵器	杯(直腹)	S D1522-1層	[外面]底部:円転あ切り	(14.2) 6/24 7.4	24/24 4.3	2303		
1139	須恵器	杯(直腹)	S D1522-1層	[外面]底部:へたり切り→手持ちへたりケズリ	(14.8) 6/24 9.15	21/24 4.9	2308		
1140	須恵器	杯(直腹)	S D1522-1層	[外面]底部:円転あ切り		5.5 24/24	2300		
1141	須恵器	高台付杯(直腹)	S D1522-1層	[外面]底部:へたり切り	(9.0) 10/24		2315		
1142	須恵器	杯(直腹)	S D1522-1層		(12.4) 3.5/24			2334	
1143	土師器	杯(直腹)	S D1522-1層					2318	
1144	土師器	杯(直腹)	S D1522-1層					2317	
1145	須恵器	杯(直腹)	S D1522-1層	[外面]底部:へたり切り				2321	
1146	須恵器	杯(直腹)	S D1522-1層					2316	
1147	土師器	杯(直腹)	S D1522-1層					2319	
1148	土師器	便(人面微彫)	S D1522-1層	[外面]底部:円転あ切り		7.2 24/24	2257		
1149	土師器	便(人面微彫)	S D1522-1層					2259	
1150	土師器	便(人面微彫)	S D1522-1層					2264	
1151	土師器	少々便(人面微彫)	S D1522-1層					2272	
1152	土師器	少々便(人面微彫)	S D1522-1層	[外面]口沿:ヨコナデ	(7.4) 7/24			2267	
1153	土師器	少々便(人面微彫)	S D1522-1層					2268	
1154	土師器	少々便(人面微彫)	S D1522-1層		(12.6) /24			2273	
1155	土師器	便(人面微彫)	S D1522-1層	[外面]体下部:手持ちもへたりケズリ	(20.2) /24			2287	
1156	須恵器	杯(ヘタガキ)	S D1522-1層	[外面]底部:円転あ切り	(14.2) 5/24 7.2	24/24 3.7	2333	地盤付着	
1157	鍍錫陶器	碗	S D1522-1層	[外面]体下部:ロコロナデ→回転へたりケズリ 底部:円転へたりケズリ	(9.2) 5/24			2388	
1158	須恵器	杯(ヘタガキ)	S D1522-1層	[外面]底部:へたり切り	13.9 20/24 7.85	24/24 3.9	2400		
1159	須恵器	高台土器	S D1522-1層	[外面]底部:へたり切り		19.4 1/24		2392	
1160	鏡形土器	土器	S D1522-1層	[内外面]ナデ				2361	内面にスリ行置
1161	土越	S D1522-1層		肩高:2.8 幅:1.5			穿孔跡: 0.4	2390	重さ:4.3 g
1162	須恵器	便(転用脚)	S D1522-1層	[外面]平行タケキ [内面]當て具痕				2393	
1163	新平瓦	S D1522-1層						2468	640aタイプ 単極文
1164	土師器	杯	S D1522-2層	[外面]体下部:手持ちもへたりケズリ 底部:手持ちもへたりケズリ	(13.0) 3/24 (7.6)	13/24 3.85	2425		
1165	土師器	杯	S D1522-2層	[外面]底部:手持ちもへたりケズリ	(14.9) 13/24 6.8	20/24 4.6	2427		
1166	土師器	杯	S D1522-2層	[外面]底部:手持ちもへたりケズリ	14.0 19/24 6.7	24/24 5.65	2429		
1167	土師器	杯	S D1522-2層	[外面]体下部:手持ちもへたりケズリ 底部:手持ちもへたりケズリ	(15.4) 2/24 8.0	11/24 5.5	2430		
1168	土師器	杯	S D1522-2層	[外面]体下部:手底部:手持ちもへたりケズリ	(12.6) 3/24 (8.8)	4/24 3.7	2432		
1169	土師器	杯	S D1522-2層	[外面]体下部:回転へたりケズリ 底部:手持ち→回転へたりケズリ	(13.2) 3/24 (8.4)	7.5/24 4.75	2431		
1170	土師器	杯	S D1522-2層		(15.2) 5/24			2433	
1171	須恵器	杯	S D1522-2層	[外面]底部:へたり切り	13.55 20/24 6.5	24/24 3.9	2413		
1172	須恵器	杯	S D1522-2層	[外面]底部:円転あ切り	13.4 18/24 6.0	24/24 3.95	2414		
1173	須恵器	杯	S D1522-2層	[外面]体下部:底部:手持ちへたりケズリ	(18.8) 5/24 (7.8)	15/24 3.5	2435		
1174	須恵器	杯	S D1522-2層	[外面]底部:回転あ切り	(13.8) 9/24 5.5	24/24 4.05	2437		
1175	須恵器	杯	S D1522-2層	[外面]底部:へたり切り	(12.2) 6/24 (5.3)	12/24 4.1	2438		
1176	須恵器	杯	S D1522-2層	[外面]底部:円転あ切り	14.1 14/24 6.5	23/24 4.2	2417		
1177	須恵器	杯	S D1522-2層	[外面]底部:円転あ切り	(14.0) 5.5/24 7.8	24/24 4.4	2416		
1178	須恵器	杯	S D1522-2層	[外面]底部:へたり切り	(14.4) 11/24 (7.7)	20/24 4.1	2419		
1179	須恵器	杯	S D1522-2層	[外面]体下部:底部:手持ちへたりケズリ	16.1 7/24 8.4	15/24 5.85	2422		
1180	須恵器	杯	S D1522-2層	[外面]手持ちもへたりケズリ 底部:へたり→手持ちもへたりケズリ	13.4 14/24 10.0	24/24 3.5	2418		
1181	須恵器	杯	S D1522-2層	[外面]底部:へたり切り	(12.9) 6/24 (8.8)	24/24 5.0	2423		
1182	須恵器	杯	S D1522-2層	[外面]底部:手持ちもへたりケズリ	(15.6) 3/24 (7.0)	11/24 6.5	2434	画面ミガキ	
1183	須恵器	圓筒瓶	S D1522-2層	[外面]体下部:回転へたりケズリ		10.05 24/24		2402	
1184	須恵器	甕	S D1522-2層	[外面]体上部:平行タケキ [内面]底部:当て具痕	(20.0) 14/24			2446	
1185	土師器	杯(直腹)	S D1522-2層	[外面]体下部:手持ちへたりケズリ 底部:手持ちへたりケズリ	(7.3) 16/24			2329	
1186	土師器	杯(直腹)	S D1522-2層	[外面]体下部:手持ちもへたりケズリ 底部:手持ちもへたりケズリ	(15.2) 4/24 8.8	24/24 5.4	2326		
1187	土師器	杯(直腹)	S D1522-2層	[外面]体下部:手持ちもへたりケズリ 底部:手持ちもへたりケズリ	(13.4) 2/24 (8.9)	21/24 4.4	2428		
1188	土師器	杯(直腹)	S D1522-2層	[外面]体下部:手持ちもへたりケズリ 底部:手持ちもへたりケズリ	(5.8) 15/24			2337	
1189	土師器	杯(直腹)	S D1522-2層	[外面]底部:不明→手持ちもへたりケズリ	(8.2) 4.5/24			2336	
1190	土師器	杯(直腹)	S D1522-2層	[外面]体下部:回転へたりケズリ 底部:手持ち→回転へたりケズリ	(16.4) 6/24 (7.2)	19/24 5.0	2327		
1191	須恵器	杯(直腹)	S D1522-2層	[外面]底部:円転あ切り	(13.0) 7/24 (5.9)	21/24 3.9	2322		
1192	須恵器	杯(直腹)	S D1522-2層	[外面]底部:へたり切り	(14.4) 17/24 8.9	24/24 3.75	2323		
1193	須恵器	杯(直腹)	S D1522-2層	[外面]底部:へたり切り	(14.4) 11.5/24 (8.4)	17/24 3.9	2324		
1194	須恵器	杯(直腹)	S D1522-2層	[外面]底部:円転あ切り	(12.2) 6/24 6.9	24/24 4.0	2331		
1195	須恵器	杯(直腹)	S D1522-2層	[外面]底部:円転あ切り	(13.8) 6.5/24 5.2	24/24 4.15	2322		
1196	須恵器	杯(直腹)	S D1522-2層	[外面]底部:へたり切り	(14.6) 5/24 7.5	24/24 3.65	4061		

表50 出土遺物観察表20

番号	種類	器種	遺物・部位	特徴	口径・残存率	底径・残存率	器高	登録番号	備考	
1197	須恵器	高台付杯(墨書)	S D1522-2層	【外】底部:へたり切り 【外】底部:ロクロナメ→回転ヘラケズリ	(13.6) 4/24 12/24	(8.9) 22/24	4.1	2330		
1198	須恵器	蓋(墨書)	S D1522-3層	【外】底部:ロクロナメ→回転ヘラケズリ				2443		
1199	土師器	杯(墨書)	S D1522-2層	【外】底部:不明→手持もヘラケズリ				2338		
1200	須恵器	杯(墨書)	S D1522-2層					2335		
1201	須恵器	杯(墨書)	S D1502-1層					2589		
1202	土師器	蓋(人面彌善)	S D1522-2層	【内】全体:ナメ				2295		
1203	須恵器	杯(人面彌善)	S D1522-2層		(14.0) 5/24			2296		
1204	須恵器	杯(人面彌善 墨書)	S D1522-2層	【外】底部:へたり切り 【外】底部:ナメ	(13.8) 12.5/24 (7.7)	17/24	4.2	2325		
1205	土師器	蓋(人面彌善)	S D1522-2層	【内】全体:ナメ				2298		
1206	須恵器	杯	S D1522-2層	【外】底部:回転系切り	(14.0) 17/24	(5.8) 14/24	4.3	2415	付蓋物有り	
1207	土師器	蓋(人面彌善)	S D1522-2層	【内】全体:ナメ				2296		
1208	土師器	杯	S D1522-2層	【外】ナメ オサエ	長:2.5	幅:2.2		2454	中心に孔有り	
1209	須恵器	杯	S D1522-2層			(8.4)	3/24	2451		
1210	須恵器	杯(ヘラガキ)	S D1522-2層	【外】底部:へたり切り	(14.0) 1/24	8.4	24/24	4.3	2421	
1211	軒瓦		S D1522-3層					2467	日Ⅷ 案文	
1212	須恵器	杯	S D1507-1層	【外】底部:へたり切り	13.5	13/24	7.6	24/24	4.4	
1213	須恵器	杯(墨書 ヘラガキ)	S D1507-1層	【外】底部:へたり切り	(14.0) 6/24	(9.8) 12/24	3.4	2682		
1214	須恵器	杯(墨書)	S D1509-1層	【外】底部:へたり切り	(13.8) 8/24	(7.2) 11/24	4.0	2694		
1215	土師器	小型瓶	S D1509-1層					2694		
1216	須恵器	杯	S D1509-1層	【外】底部:へたり切り	14.0	21/24	9.2	24/24	4.7	
1217	土師器	杯	S D1509-1層	【外】底部:え切り	(15.0) 4/24	(8.4) 5.5/24	3.45	2951		
1218	須恵器	杯(墨書 ヘラガキ)	S D1558-1層	【外】底部:回転系切り→手持ち ヘラケズリ	(14.2) 10/24	6.8	24/24	4.1	2924	
1219	須恵器	杯	S D1558-1層	【外】底部:手持ちヘラケズリ	(14.4) 5/24	7.0	14/24	4.5	2948	
1220	須恵器	杯	S D1558-1層	【外】底部:え→切り	(12.2) 11/24	(7.0) 14/24		2923		
1221	須恵器	杯(墨書)	S D1558-1層	【外】底部:へたり切り		(8.6)	13/24		2922	
1222	須恵器	杯	S D1558-1層	【外】底部:へたり切り	(13.8) 7/24	(6.9) 8/24	4.2	2921		
1223	土師器	杯	S D1570-1層	【外】全体:底部:回転ヘラケズリ	(14.8) 8/24	7.0	7/24	5.85	2942	
1224	須恵器	杯	S D1570-1層	【外】底部:手持ちヘラケズリ	(13.4) 10.5/24	7.0	24/24	3.9	2938	
1225	須恵器	杯(ヘラガキ)	S D1570-1層	【外】底部:回転系切り	(13.7) 9/24	7.0	16/24	3.7	2937	
1226	須恵器	杯	S D1570-1層	【外】底部:え→切り→手持ちヘラ ケズリ	(11.6) 6/24	6.8	11/24	4.15	2935	
1227	須恵器	杯	S D1570-1層	【外】底部:へたり切り	13.7	14.5/24	7.0	24/24	4.55	2940
1228	土師器	壺	S D1570-1層	赤ロクロ 【外】全体:ナメ	(8.4)			2941	底部木製底	
1229	須恵器	杯	S D1570-1層	【外】底部:手持ちヘラケズリ	(13.8) 8/24	6.8	9/24	4.65	2936	
1230	土師器	小型壺	S D1536-1層	【外】全体:底部:手持ちヘラケズリ		4.15	24/24		2813 体内部に指紋江戸有り	
1231	須恵器	杯	S D1553-1層	【外】底部:回転系切り	(13.0) 3/24	6.3	22/24	3.65	2920	
1232	須恵器	杯(耳杯)	S D1558-1層	【外】底部:え→切り	(11.6) 5/24	(7.2) 7/24	4.7	2919		
1233	土師器	杯	S D1566-1層	【外】全体:底部:回転ヘラケズリ 底部:回転系切り	16.2	19/24	7.8	/24	5.3	2803 内面全墨玉虫
1234	須恵器	瓶(ヘラガキ)	S D1548-1層	【外】全体:底部:回転ヘラケズリ 底部:回転系切り		(5.7)	14/24		2836	
1235	須恵器	杯(光明鏡)	S D1519-1層	【外】底部:手持ちヘラケズリ	(16.4) 5/24	(7.6) 15/24	5.9	2562		
1236	須恵器	杯(墨書)	S D1519-1層	【外】底部:手持ちヘラケズリ	(13.2) 14/24	(6.4) 24/24	4.15	2561		
1237	須恵器	蓋	S D1501-1層	【外】全体上半:底部:回転ヘラケズリ	14.0	20/24	ツマミ径2.55	3.4	2560	
1238	須恵器	杯(墨書)	S D1510-1層	【外】底部:へたり切り	13.6	23/24	7.8	24/24	3.6	2563
1239	土師器	杯	S K1518-1層	【外】全体:底部:手持ちヘラケズリ 底部:手持ちヘラケズリ	(13.6) 10/24	(6.6) 9/24	3.65	2955		
1240	土師器	杯	S K1518-2層	【外】全体:底部:回転ヘラケズリ 底部:回転系切り	(14.2) 7/24	(6.6) 13.5/24	3.7	2969		
1241	土師器	杯	S K1518-2層	【外】全体:底部:手持ちヘラケズリ 底部:手持ちヘラケズリ	(16.2) 13/24	(7.0) 13/24	5.6	2965		
1242	土師器	杯(墨書)	S K1518-2層	【外】全体:底部:手持ちヘラケズリ	(16.2) 7/24			2966		
1243	土師器	杯(墨書)	S K1518-1層	【外】底部:回転系切り	(13.6) 10/24	6.8	11/24	3.8	2966	
1244	土師器	杯(墨書)	S K1518-2層	【外】全体:手持ちヘラケズリ 裏部: 赤切り→手持ちヘラケズリ 裏部: 赤切り→手持ちヘラケズリ	(14.8) 9/24	5.7	24/24	5.65	2962	
1245	土師器	杯(墨書)	S K1518-2層	【外】全体:底部:手持ちヘラケズリ 底部:回転系切り	(12.4) 8/24	(6.2) 24/24	4.15	2967		
1246	須恵器	杯(墨書)	S K1518-1層	【外】全体:底部:手持ちヘラケズリ 底部:え→切り	(14.0) 8.5/24	(6.9) 12/24	4.05	2972		
1247	須恵器	杯(墨書)	S K1518-1層	【外】全体:底部:へたり切り	14.0	20/24	5.6	24/24	3.7	2949
1248	須恵器	杯(墨書)	S K1518-1層	【外】全体:底部:回転系切り	(13.4) 4/24	5.2	24/24	4.1	2960	
1249	須恵器	杯	S K1518-2層	【外】全体:底部:持ち離し不明→手持 ちヘラケズリ	13.9	21.5/24	5.05	24/24	4.0	2960
1250	須恵器	杯	S K1518-1層	【外】全体:底部:え切り	(14.0) 8/24	5.0	11/24	4.3	2951	
1251	須恵器	杯(墨書)	S K1518-1層	【外】全体:底部:え→切り	15.5	8/24	5.05	24/24	5.6	2959
1252	須恵器	杯(墨書)	S K1518-1層	【外】全体:底部:回転系切り	(14.0) 10/24	5.6	24/24	4.6	2948	
1253	須恵器	杯(墨書)	S K1518-1層	【外】全体:底部:手持ちヘラケズリ 底部:手持ちヘラケズリ				2979		
1254	土師器	壺	S K1518-2層		10.5	12/24	5.1	24/24	9.1	2975 スス付着
1255	土師器	壺	S K1518-2層	【外】全体:底部:回転系切り	(15.2)	12/24	(6.0)	24/24	15.7	2958 スス付着
1256	須恵器	黄斑瓶	S K1518-1層	【外】全体:底部:タクナメ→回転ヘラケズ リ 裏部:静か切り	(25.25)	2/24	(7.7)	2/24	15.6	2957
1257	須恵器	杯(墨書)	S K1551-1層	【外】全体:底部:へたり切り	14.1	13/24	7.8	24/24	4.45	2988 スス付着
1258	須恵器	杯(墨書)	S K1551-1層	【外】全体:底部:へたり切り		(8.4)	11/24		2986	
1259	須恵器	杯	S K1552-1層	【外】全体:底部:へたり切り	(10.5)	5/24	(6.6)	7/24	4.3	2991

表51 出土遺物観察表20

番号	種類	器種	遺構・部位	特徴	口径・残存率	底径・残存率	高さ	登録番号	備考
1260	須恵器	杯	S K1567-1層	【外面】底部:ヘラ切り 【内面】底部:ヘラ切り	(14.0) 8.5/24 (14.4) 9.5/24	(7.6) 6/24 (7.6) 7/24	3.9 3.65	2994 2985	
1261	須恵器	杯(墨書き)	S K1567-埋土	【外面】底部:ヘラ切り					3000
1262	電財土器		S K1567-埋土	【外面】ヨコナデ【内面】ヨコナデ →工具によるナデ					
1263	土師器	壺	S K1518-2層	【外面】底部:回転ルーメン	(12.0) 4/24				3255
1264	土師器	甕	S K1518-2層	【外面】底部:タスキ→クロロナデ 【内面】底部:回転ルーメン	(22.2) 7/24				3256
1265	須恵器	杯	S K1566-1層	【外面】底部:ヘラ切り	(11.0) 8/24	6.7	24/24	4.7	2967
1266	須恵器	高台付杯(瓶用鋤)	S K1566-1層	【外面】底部:回転ルーメン					2990 范部外面に墨色、厚紙有り
1267	須恵器	杯	S K1567-1層	【外面】底部:ヘラ切り	14.4	15/24	7.8	24/24	4.25
1268	須恵器	杯(ヘラガキ)	S K1568-1層	【外面】底部:ヘラ切り	14.6	24/24	8.45	24/24	4.1
1269	須恵器	高台付杯	S K1569-1層	【外面】底下端:回転ルーメン 底部:ヘラ切り	11.9	25/24	7.1	9/24	5.65
1270	土師器	甕	S K1576-1層	【外面】口縁:体部-回転ルーメン 手持ち:ヘラカズリ	(11.5) 10/24				3014
1271	須恵器	杯	S K1574-1層	【外面】底部:ヘラ切り	(14.6) 12/24	9.6	15/24	4.65	3003
1272	土師器	杯	S K1555-1層	舟ヨロコ ヨコナデ 手持ちルーメン カズリ→ヘラガキ 罐部:手持ち カズリ→カズリ	(14.7) 3.5/24	(7.9)	14/24	4.4	2999 周面ミガキ
1273	土師器	耳皿	S K1572-1層	【外面】底部:ヘラ切り→手持ちルーメン カズリ	(4.5) 7/24	(5.2)	10/24	2.1	3011 周面ミガキ
1274	土師器	杯	S K1571-1層	【外面】底部:切り離し不明	(13.0) 7/24	(6.1)	9/24	4.5	3006
1275	土師器	甕	S K1571-1層	【外面】底部:ヘラカズリ【内面】 ヨコナデ	(17.2) 4.5/24				3008 体部外面にススキ着
1276	灰陶陶器	甕	S K1571-1層	【外面】底部:回転ルーメン 底部:舟切り→回転ルーメン			8.5	24/24	3001
1277	須恵器	杯	S K1622-1層	【外面】底部:ヘラ切り	(15.8) 20/24	8.8	24/24	6.1	5045
1278	土師器	高台付杯	S K1482-2層	【外面】底部:舟切り	(15.6) 3/24				3806
1279	土師器	高台付杯	S K1482-2層	【外面】底部:舟切り	(15.6) 4/24	(5.3)	24/24	5.4	3810 周面ミガキ
1280	土師器	杯(墨書き)	S K1482-1層	【外面】体部下端:底盤周縁:回転 ルーメン 底部:舟切り→舟切ルーメン	(7.4)				3807
1281	須恵器	杯	S K1482-2層	【外面】底部:舟切り舟切	14.9	16/24	5.55	24/24	4.4
1282	須恵器	杯(ヘラガキ)	S K1482-1層	【外面】底部:ヘラ切り			(9.2)	17/24	3806
1283	平瓦		S X1482-2層	【外面】舟目 ナデ ヘラカズリ 【内面】舟呑き目			/24		3903 II B
1284	平瓦		S X1482-1層	【外面】舟目 【舟呑】舟呑き目			/24		3906 II C ?
1285	平瓦		S X1482-1層	【外面】舟目 ナデ ヘラカズリ 【内面】舟呑き目			/24		3905 II B → bのI
1286	平瓦		S X1482-2層	【外面】舟目 【舟呑】舟呑き目			/24		3914 II C
1287	平瓦		S X1482-2層	【外面】舟目 ナデ ヘラカズリ 【内面】舟呑き目			/24		3904 II B a タイア?
1288	平瓦		S X1482-2層	【外面】舟目 ナデ 本皿舟皿 【内面】舟呑き目 ナデ			/24		3915 I A a タイア
1289	土師器	杯	S X1519-1層	【外面】舟下端:ヘラカズリ 【内面】舟ヘラカズリ	(8.7)		9/24		3288 ハシマロガ 濁の可能性有り
1290	須恵器	杯	S X1519-1層	【外面】底部舟カズリ	(14.0) 9.5/24 (13.0) 9.5/24	(7.4) 4/24 (6.7) 4/24	4.3	3294	
1291	須恵器	杯	S X1519-1層	【外面】底部:舟カズリ	(13.0) 9.5/24	(6.7)	8/24	3.7	3274
1292	須恵器	杯	S X1519-1層	【外面】底部:ヘラ切り	(13.6) 3/24	(7.4) 4/24	3.25	3150	
1293	須恵器	杯	S X1519-1層	【外面】底部:舟カズリ	(13.6) 4/24	(8.4)	1/24	3.9	3280
1294	須恵器	杯(墨書き)	S X1519-1層	【外面】底部:舟切り舟切			(9.0)	24/24	3155
1295	土師器	杯(墨書き)	S X1519-1層	【外面】舟下端:舟カズリ					3277
1296	土師器	甕	S X1519	舟ヨロコ 【外面】体部:ナデ 体下端: 舟:舟カズリヘラカズリ 【内面】舟ナデ		5.4	24/24		3145 底部本底底
1297	灰陶陶器	甕	S X1519-1層	【外面】底部舟カズリ		(7.6)	8/24		3288 内面まだら状の自然釉
1298	羽口		S X1519		舟:5.8	40.4.9	舟:4.6	3293	
1299	須恵器	甕	S X1519-1層	【外面】舟:波状					3273
1300	土師器	杯	S X1521	【外面】底部:舟切り舟切不明					3164
1301	須恵器	杯	S X1521-1層	【外面】底部:舟切	(14.0) 3/24	(8.0)	12/24	3.6	3156
1302	須恵器	杯	S X1521-1層	【外面】底部:舟切舟切	14.9	19/24	5.15	24/24	4.15
1303	須恵器	杯	S X1521-1層	【外面】底部:舟カズリ	(13.3)	2/24	(8.3)	12/24	3.05
1304	須恵器	杯(墨書き)	S X1521-1層	【外面】底部:舟カズリ					3166
1305	須恵器	杯(墨書き)	S X1521-1層	【外面】底部:舟カズリ					3172
1306	須恵器	蓋	S X1521-1層	【外面】舟:ナデガキ 【内面】工具に よるナデ		(21.1)	2/24		3176
1307	土師器	杯(ヘラガキ)	S X1543-1層	【外面】舟下端:舟持ちヘラカズリ 底部:舟持ちヘラカズリ		(8.4)	10/24		2529
1308	須恵器	杯(刃削用)	S X1543-1層	【外面】底部:舟切舟切	(15.0) 8.5/24 (12.0) 8/24	(7.5) 12/24	4.5	2532	
1309	須恵器	杯	S X1543-1層	【外面】底部:舟カズリ	(12.0) 8/24	6.7	24/24	3.95	3152
1310	須恵器	杯	S X1543-1層	【外面】底部:舟カズリ	(12.0) 1.5/24	(5.0)	9/24	3.6	2524
1311	須恵器	杯	S X1543-1層	【外面】底部:舟切舟切	(12.8)	10/24	(5.0)	24/24	3.55
1312	須恵器	杯	S X1543-1層	【外面】底部:舟舟切舟切	(13.0)	5/24	(5.0)	8/24	3.35
1313	須恵器	高台付杯	S X1543-1層	【外面】底部:舟舟切	(12.0)	6/24	6.3	4/24	2.45
1314	須恵器	高台付杯	S X1543-1層	【外面】底部:舟舟切	(12.0)	10/24	6.2	24/24	2.5
1315	土師器	杯(墨書き)	S X1543-1層	【外面】底部:舟持ちヘラカズリ		(7.1)	2.5/24		2533
1316	土師器	杯(墨書き)	S X1543-1層	【外面】底部:舟舟切					2534
1317	土師器	杯(墨書き)	S X1547-1層	【外面】体下端:舟持ちヘラカズリ 底部:舟持ちヘラカズリ	(16.0)	8.5/24	(7.9)	10.5/24	5.15
1318	土師器	耳皿	S X1547-1層	【外面】底部:舟舟切		(3.8)	2/24		3178

表52 出土遺物観察表22

番号	種類	器種	遺物・層位	特徴	口径・残存率	底径・残存率	器高	登録番号	備考
1310	土師器	杯(墨留)	S X1547-1層	【外因】底部下端～底部・刮削へラグメリ	(7.0)	8/24		3108	
1320	竈形土器		S X1547-1層					3181	
1321	土師器	杯	S X1524-1層	【外因】底部：手持ちへラグメリ	13.7	23/24	6.5	30/24	4.2
1322	土師器	杯	S X1524-1層	【外因】全体下半～底部・刮削へラグメリ	(14.4)	19/24	(7.9)	7/24	3.4
1323	土師器	杯	S X1524-1層	【外因】底部赤切 9	12.9	16/24	5.45	34/24	4.45
1324	土師器	杯	S X1524-1層	【外因】底部：底切	(15.0)	7/24	(8.0)	6.5/24	5.35
1325	須恵器	杯	S X1524-1層	【外因】底部：ヘラ切り	(12.4)	2.5/24	(7.8)	12/24	5.35
1326	須恵器	杯(墨留)	S X1524-2層	【外因】底部：ヘラ切り	(12.2)	7/24	7.5	30/24	8.15
1327	土師器	杯	S X1524-1層					2556	
1328	須恵器	瓦頭瓶(游行者)	S X1524-1層	【外因】全体下半：手持ちへラグメリ 瓦頭部：手持ち	5.4	24/24		3550	
1329	土師器	甕	S X1524-1層	【外因】底部：刮削・斜面切	7.5	30/24		2260	
1330	須恵器	杯(墨留)	S X1524-1層					2558	
1331	土師器	甕(人面形飾)	S X1524-1層					2265	
1332	土師器	甕(人面形飾)	S X1524-1層					2289	
1333	土師器	甕(人面形飾)	S X1524-1層					2270	
1334	土師器	甕(人面形飾)	S X1524-1層					2271	
1335	土師器	甕(人面形飾)	S X1524-1層					2282	
1336	土師器	甕(人面形飾)	S X1524-1層	【外因】全体ナギ				2283	
1337	土師器	甕(人面形飾)	S X1524-1層	【外因】全体ナギ				2225	
1338	土師器	杯(墨留)	S X1524-1層		(14.2)	2/24		3557	
1339	土師器	甕(人面形飾)	S X1524-1層	【外因】全体：手持ちへラグメリ	(12.2)	5/24	(6.5)	17/24	6.1
1340	灰陶陶器	甕(墨留)	S X1524-1層	【外因】底部：刮削へラグメリ	15.5	20/24	5.7	23/24	3.0
1341	須恵器	甕	S X1524-2層					4063	
1342	土師器		S X1524-2層	身:3.7 蓋:1.5 厚:1.3				2559	
1343	土師器	杯(墨留)	第1層	【外因】底部・刮削・斜面切	16.1	11/24	6.5	34/24	5.5
1344	須恵器	鉢	第1層	【外因】底部：ロクロナヂ	(22.6)	9/24		3259	
1345	灰陶陶器	甕	第1層	【外因】底部：ヘラ切り	(9.0)	10/24		3754	
1346	須恵器	高台付杯(私用田)	第1層	【外因】底部：切口蓋し不明	(11.0)	11/24		3745	
1347	須恵器	甕(G)	第1層					3756	
1348	須恵器	甕	第1層					3398	
1349	竈形土器		第1層					3778	
1350	竈形土器		第1層	【外因】手持ちへラグメリ ナゲ 【内因】ナゲ				3771	
1351	土師器	甕	第1層	【外因】平行クタキ→ロクロナヂ	(24.8)	5/24		3254	
1352	土師器	甕	第1層	【外因】平行クタキ→ロクロナヂ	(24.7)	8/24		3250	
1353	土師器	甕	S B1560-P56前方	【内因】底部：刮削ナギ				3249	複合口縁
1354	土師器	甕	S B1560-P56前方	【外因】底部・刮削ナギ				3249	複合口縁
1355	須恵器	杯(墨留)	検出面	【外因】全体：底部・刮削へラグメリ 底部：不明・刮削へラグメリ	(13.2)	8/24	(7.0)	12/24	3.7
1356	須恵器	杯(墨留)	検出面	【外因】底部：刮削へラグメリ	(14.0)	2/24	(6.0)	10/24	4.4
1357	須恵器	杯(墨留)	検出面	【外因】底部：刮削へラグメリ	(13.0)	0.5/24	(6.0)	17/24	4.0
1358	須恵器	杯(墨留)	検出面		(12.0)	2/24		3438	
1359	須恵器	杯(墨留)	検出面					3475	
1360	須恵器	杯(墨留)	検出面	【外因】底部：ヘラ切り	(9.1)	6/24			
1361	須恵器	杯(墨留)	検出面	【外因】底部：刮削へラグメリ	(12.6)	1/24	(7.2)	7/24	3.9
1362	須恵器	杯(墨留)	検出面	【外因】底部：ヘラ切り	(13.0)	1.5/24	(7.1)	7.5/24	4.15
1363	須恵器	杯(墨留)	検出面	【外因】底部：ヘラ切り	7.4	2/24		3433	
1364	須恵器	杯(墨留)	検出面	【外因】底部：ヘラ切り	7.6	2/24		3437	
1365	須恵器	杯(墨留)	検出面	【外因】底部：刮削へラグメリ	(6.0)	9/24		3454	
1366	須恵器	杯(墨留)	検出面	【外因】底部：ヘラ切り	7.3	13/24		3434	
1367	須恵器	杯(墨留)	検出面	【外因】底部：刮削へラグメリ	(6.7)	10/24		3435	
1368	須恵器	杯(墨留)	検出面	【外因】底部：刮削へラグメリ	(5.6)	9/24		3441	
1369	須恵器	杯(墨留)	検出面	【外因】底部：ヘラ切り	(7.6)	7.5/24		3479	
1370	土師器	甕	検出面	【外因】底部：底部・刮削へラグメリ				3402	
1371	須恵器	杯(墨留)	検出面	【外因】底部・刮削へラグメリ	(5.2)	24/24		3436	
1372	須恵器	杯(墨留)	検出面	【外因】底部：ヘラ切り				3448	
1373	須恵器	杯(墨留)	検出面	【外因】底部：底切				3445	
1374	須恵器	杯(墨留)	検出面	【外因】底部：ヘラ切り				3440	
1375	須恵器	杯(墨留)	検出面	【外因】底部：ヘラ切り				3447	
1376	須恵器	杯(墨留)	検出面	【外因】底部：ヘラ切り	(8.1)	5/24		3444	
1377	須恵器	杯(墨留)	検出面	【外因】底部：底切				3452	
1378	須恵器	杯(墨留)	検出面	【外因】底部：ヘラ切り				3430	
1379	須恵器	杯(墨留)	検出面					3457	
1380	須恵器	杯(墨留)	検出面	【外因】底部：ヘラ切り	(8.2)	10.5/24		3453	
1381	須恵器	杯(墨留)	検出面	【外因】底部：ヘラ切り				3442	
1382	須恵器	杯(墨留)	検出面					3450	
1383	土師器	甕(墨留)	検出面					3465	
1384	須恵器	高台付杯(私用田)	検出面		(8.4)	6.5/24		3276	
1385	須恵器	甕(範用田)	検出面	【外因】底部へラグメリ	(15.0)	17/24		3572	
1386	灰陶陶器	甕	検出面					3467	
1387	須恵器	鳥形瓶	検出面	【外因】底部下半：手持ちへラグメリ				6623	
1388	不明石器類		検出面					3598	
1389	竈形土器		検出面	【外因】ナギ				3622	
1390	竈形土器		検出面	【内因】ナギ				3624	
1391	竈形土器		検出面	【外因】ナギ				3603	底部

表53 出土遺物観察表23

番号	種類	器種	遺構・層位	特徴	口径・残存率	底径・残存率	器高	登錄番号	備考
1392	電形土器	横口瓶	被出面	【外】ナード→平行タキ 【内】ナデ				3625	
1393	新丸瓦		被出面					3606	
1394	土師器	杯	第VIa層	【外】底部:回転止め切り	7.4	24/24		2649	
1395	土師器	杯	第VIa層	【外】底部:回転止め切り	(13.6)	5/24 6.9	24/24	3.85	2631
1396	土師器	杯	第VIa層	【外】底部:へり切り	(14.4)	7/24 (7.3)	13/24	3.9	2632
1397	土師器	杯	第VIa層	【外】底部:へり切り	14.1	11/24 5.85	18/24	3.95	2627
1398	土師器	杯	第VIa層	【外】底部:へり切り	(14.8)	4/24 (7.2)	8/24	4.0	3394
1399	土師器	杯	第VIa層	【外】底部:回転止め切り	(13.6)	5/24 (5.3)	12/24	4.4	3412
1400	土師器	杯(灯明皿)	第VIa層	【外】底部:へり切り	13.25	11/24 6.8	22/24	3.9	2629
1401	土師器	杯(灯明皿)	第VIa層	【外】底部:へり切り		5.3	24/24	2659	口縁に拍子付有
1402	土師器	杯(瓶)	第VIa層	【外】底部:へり切り	(13.2)	7/24 5.5	24/24	3.9	3392
1403	土師器	高台杯	第VIa層	【外】全体:ロクロナード→ヘラミ ガキ 底部:回転止めヘラミ	(9.8)	7/24		2628	
1404	土師器	杯(瓶)	第VIa層	【外】底部:へり切り		7.0	8/24	2653	
1405	土師器	杯(瓶)	第VIa層	【外】底部:ホモ切り		(6.6)	2.5/24	2656	
1406	土師器	杯(瓶)	第VIa層	【外】底部:へり切り		6.1	24/24	2660	
1407	土師器	杯(瓶)	第VIa層	【外】底部:へり切り		(5.4)	10.5/24	2655	
1408	土師器	杯(へりガキ)	第VIa層	【外】底部:へり切り		(7.5)	24/24	2652	
1409	土師器	杯(瓶)	第VIa層	【外】底部:ホモ切り				2657	
1410	土師器	杯(瓶)	第VIa層					2658	
1411	土師器	蓋	第VIa層	【外】底部:回転止めヘラケズリ 【内】手持もヘラケズリ				2621	
1412	土師器	小瓶	第VIa層	【外】底部:へり切り	7.3	24/24		2622	底部外面難燃状点列
1413	土師器	杯	第VIa層	【外】底部:回転止め切り		6.6	24/24	2651	
1414	土師器	瓶	第VIa層	【外】全体:下半:回転止めヘラケズリ 底部:あらき		(7.8)	11/24	2635	
1415	土師器	甕	第VIa層	【外】口縁:平行タキ→ロクロ ナード 体部:手持もヘラケズリ	23.7	8/24		2619	
1416	土師器	甕	第VIa層	ロクロ		(9.2)	20/24	2644	底部外面木炭痕有り
1417	火照陶器	椀	第VIa層			(7.8)	5/24	2640	
1418	土師器	甕	第VIa層	【内】へらミガキ→黒色焼附	(20.6)	6/24		2623	
1419	電形土器	甕	第VIa層	【外】平行タキ				2638	
1420	電形土器	甕	第VIa層	【外】平行タキ→ヨコナード 【内】ナード				2639	
1421	電形土器	甕	第VIa層	【外】ナード				3405	
1422	電形土器	甕	第VIa層	【外】ナード→タキキ 【内】ナード				3399	
1423	土師器	甕	第VIa層	【外】全体:平行タキキ【内】全体 部:ロクロナード→具紐→ナード		長:4.7	幅:1.3	2626	
1424	土師器	甕	第VIa層	【外】底部:平行タキキ【内】全体 部:ロクロナード→具紐→ナード	(18.6)	/24		2617	
1425	土師器	甕	第VIa層	【外】口縁:波状文 体部:平行タ キキ【内】全体:同心円文		(39.8)	7/24	2618	
1426	土師器	杯	第I層	【外】底部:へり切り	(13.1)	4.5/24		4000	
1427	土師器	杯(瓶)	第I層	【外】底部:へり切り	(13.8)	9/24 (8.5)	12/24	4.2	3999
1428	土師器	杯(瓶)	第I層	【外】底部:回転止め切り	(13.6)	4/24		3991	
1429	土師器	杯(瓶)	第I層	【外】底部:回転止め切り	(13.6)	5/24 (6.4)	11/24	3.85	3982
1430	土師器	杯(瓶)	第I層	【外】底部:へり切り	(13.8)	4/24 (7.9)	9/24	3.45	3978
1431	土師器	杯(瓶)	第I層	【外】底部:へり切り		7.5	24/24	3990	
1432	土師器	杯(瓶)	第I層	【外】底部:回転止め切り		(8.3)	15/24	3988	
1433	土師器	杯(瓶)・ヘラガキ	第I層	【外】底部:ホモ切り		(7.4)	12/24	3992	
1434	土師器	杯(瓶)	第I層					3993	
1435	土師器	杯(瓶)	第I層	【外】底部:へり切り				4035	
1436	剥磁土器	甕	第I層	【内】指ナード				4034	
1437	剥磁土器	甕	第I層	【外】ヨコナード 【内】ヨコナード				4030	
1438	電形土器	甕	第I層	【外】へらミガキ 平行タキキ→ ナード【内】ヘラケズリ ハケメ				4027	
1439	平瓦	刻印文字瓦	第I層	【内】ヘラケズリ 右目→ナード 刻印物 【内】瓶タキキ				4029	II B a I
1818	土師器	高台杯	第I層	非クロロ【外】ヨコナード 体~ 底:手持もヘラケズリ 【内】ヨコナード	(16.4)	2/24 (10.4)	10/24	(5.5)	2177
1819	土師器	甕	S D:361 D+1層	【外】ハケメ 非クロロ 【内】ハケメ (非)				4295	瓶内系

表54 出土遺物観察表20

木製品

番号	遺物・位置	器種	法寸	残存率	備考	木取り	特徴	登錄番号
1440	S/X351C-1類	動物骨	口徑(21.0) 高(14.0) 高1.8	12/24	ヶヤキ	柱目	内面魚痕	418
1441	S/X351C-1類	動物骨	口徑(19.5) 高(13.0) 高1.8	18/24	ヶヤキ	柱目	外外面万物痕 内面魚痕	419
1442	S/X351C-1類	動物骨	口徑(16.8) 高(13.7) 高1.0	10/24		柱目		467
1443	S/X351C-1類	動物骨多量	口徑一 高(12.0) 高一			柱目	外外面万物痕	432
1444	S/X351C-1類	動物骨台付瓶	口(23.2) 高(15.7) 高3.3	19/24	ヶヤキ	柱目	外外面万物痕	460
1445	S/X351C-1類	動物骨	口(20.0) 高(14.2) 高2.4	3/24	ヶヤキ	柱目	外外面万物痕 着形線刻木	437
1446	S/X351C-1類	動物骨	口(17.9) 高(10.2) 高1.2	24/24		柱目		565
1447	S/X351C-1類	円形骨物	径(18.0) 厚(1.4)			アスナロ	内面万物痕	533
1448	S/X351C-1類	圓形骨物	径(18.0) 厚(1.8) 高(6.0) 高6.9	6/24	ヶヤキ	柱目	内面万物痕	431
1449	S/X351C-1類	圓形骨物	径(18.0) 厚(1.2)				内外面万物痕 中央部に彫刻あり	594
1450	S/X351C-1類	圓形骨物	径(15.4) 厚(1.7)				内外面万物痕 径印六	539
1451	S/X351C-1類	骨棒	長(17.5) 幅(2.4) 厚(0.3)		ヒノキ科アスナロ属	板目		266
1452	S/X351C-1類	骨棒	長(12.0) 幅(2.0) 厚(0.4)			板目		488
1453	S/X351C-1類	骨棒	長(13.5) 幅(2.5) 厚(0.3)			板目		661
1454	S/X351C-1類	骨棒	長(10.7) 幅(3.7) 厚(0.7)			板目		479
1455	S/X351C-1類	骨棒	長(20.2) 幅(3.7) 厚(1.0)			板目	本町12號地あり	647
1456	S/X351C-1類	骨棒	長(31.7) 幅(1.9) 厚(1.5)			板目		571
1457	S/X351C-1類	骨棒	長(12.0) 幅(2.0) 厚(0.4)			板目	外表面大部分削落	466
1458	S/X351C-2類	動物骨多量	口(21.4) 高(16.0) 高(6.0) 高6.9	2/24		柱目		471
1459	S/X351C-2類	動物骨	口(18.4) 高(13.7) 高1.2	8/24		柱目	内外面万物痕	419
1460	S/X351C-2類	動物骨	口(15.6) 高(11.0) 高1.2	4/24		柱目	内外面万物痕	411
1461	S/X351C-2類	動物骨	口(20.2) 高(14.8) 高1.3	3/24		柱目	内外面万物痕	438
1462	S/X351C-2類	動物骨	口(17.0) 高(13.0) 高1.4	5/24		柱目	内外面万物痕	498
1463	S/X351C-2類	動物骨	口(19.5) 高(14.5) 高1.4	13/24	トチノキ	板目	外外面万物痕 外部黒墨	461
1464	S/X351C-2類	動物骨	口(17.8) 高(13.8) 高1.1	15/24	ヶヤキ	柱目	内外面万物痕	433
1465	S/X351C-2類	動物骨	口(20.8) 高(12.0) 高1.3	17/24	ヶヤキ	柱目	内外面万物痕 著外部黒墨	413
1466	S/X351C-2類	動物骨	口(22.0) 高(17.0) 高1.9	7/24		柱目	内外面万物痕 著外部黒墨	468
1467	S/X351C-2類	動物骨台付瓶	口(23.0) 高(16.8) 高1.7	18/24	ヶヤキ	柱目	内外面万物痕	459
1468	S/X351C-2類	動物骨台付瓶	口(19.2) 高(12.4) 高2.2	5/24		柱目	内外面万物痕	438
1469	S/X351C-2類	動物骨台付瓶	口(18.9) 高(13.0) 高2.1	16/24	ヶヤキ	柱目	内外面万物痕	428
1470	S/X351C-2類	動物骨台付瓶	口(19.6) 高(13.2) 高2.0	16/24	ヶヤキ	柱目		412
1470	S/X351C-2類	動物骨台付瓶	口(20.2) 高(16.2) 高2.6	1/24		板目		648
1471	S/X351C-2類	動物骨	口(18.2) 高(11.2) 高1.1	12/24	エノキ	柱目	ロクロ系木の使用	440
1472	S/X351C-2類	動物骨	口(15.1) 高(7.8) 高1	19/24	ヶヤキ	柱目	内外面万物 置外黒墨対「千万」	436
1473	S/X351C-2類	動物骨	口(15.2) 高(13.2) 高2.4	19/24	ヶヤキ	柱目	内外面万物痕 置外黒墨対「千万」	424
1474	S/X351C-2類	動物骨	径(4.8) 厚(0.5)			板目		348
1475	S/D351C-2類	圓形骨物	径(1.8) 厚(0.8)			板目		426
1476	S/X351C-2類	圓形骨物	径(1.6) 厚(1.0)			板目		476
1477	S/X351C-2類	圓形骨物	径(18.4) 厚(2.7)		底板(アスナロ属)			253
1478	S/X351C-2類	圓形骨物	径(16.3) 厚(2.7)					351
1479	S/X351C-2類	人骨	頭(20.0) 頸(6.0) 頸(5.0) 頸(0.5)		スピ	板目		261
1480	S/X351C-2類	人骨	頭(16.7) 頸(6.2) 頸(0.3)		ヒノキ科アスナロ属	柱目		279
1481	S/X351C-2類	人骨	頭(15.2) 頸(6.0) 頸(0.3)		ヒノキ科アスナロ属	柱目		254
1482	S/X351C-2類	人骨	頭(15.5) 頸(6.0) 頸(0.5)		ヒノキ科アスナロ属	板目		249
1483	S/X351C-2類	人骨	頭(15.8) 頸(6.0) 頸(0.5)		ヒノキ科アスナロ属	柱目		247
1484	S/X351C-2類	人骨	頭(15.7) 頸(6.2) 頸(0.3)		ヒノキ科アスナロ属	板目		245
1485	S/X351C-2類	人骨	頭(15.3) 頸(6.1) 頸(0.5)		ヒノキ科アスナロ属	板目		255
1486	S/X351C-2類	人骨	頭(15.5) 頸(6.1) 頸(0.4)		スピ	柱目		256
1487	S/X351C-2類	人骨	頭(14.8) 頸(6.1) 頸(0.8)		マツ科モミ属	板目		258
1488	S/X351C-2類	人骨	頭(15.4) 頸(6.0) 頸(0.4)		ヒノキ科ヒノキ属	板目		248
1489	S/X351C-2類	人骨	頭(17.0) 頸(6.0) 頸(0.3)		板目			475
1490	S/X351C-2類	人骨	頭(16.9) 頸(6.1) 頸(0.3)		ヒノキ科アスナロ属	板目		275
1491	S/X351C-2類	人骨	頭(22.8) 頸(6.8) 頸(0.3)		ヒノキ科アスナロ属	板目		269
1492	S/X351C-2類	人骨	頭(18.5) 頸(6.1) 頸(0.2)		ヒノキ科アスナロ属	柱目		649
1493	S/X351C-2類	人骨	頭(30.5) 頸(6.4) 頸(0.8)		ヒノキ科アスナロ属	板目		277
1494	S/X351C-2類	人骨	頭(19.8) 頸(1.9) 頸(0.2)		ヒノキ科アスナロ属	板目		257
1495	S/X351C-2類	人骨	頭(16.5) 頸(3.4) 頸(0.7)		ヒノキ科ヒノキ属	板目	悪魔・焦痕あり	281
1496	S/X351C-2類	人骨	頭(19.1) 頸(2.4) 頸(0.5)		ヒノキ科アスナロ属	板目		279
1497	S/X351C-2類	人骨	頭(14.3) 頸(1.6) 頸(0.7)		ヒノキ科アスナロ属	板目		278
1498	S/X351C-2類	人骨	頭(11.5) 頸(2.6) 頸(0.5)		ヒノキ科アスナロ属	板目		280
1499	S/X351C-2類	人骨	頭(20.7) 頸(6.7)			芯打ち		667
1500	S/X351C-2類	人骨	頭(17.9) 頸(6.9)		コナラ園コナラ園コナラ脚	芯打ち		669
1501	S/X351C-2類	人骨	頭(17.2) 頸(6.9) 厚(2.5)			芯打ち		380
1502	S/X351C-2類	人骨	頭(15.5) 頸(6.4) 厚(2.0)			板目		500
1503	S/X351C-2類	人骨	頭(16.0) 頸(6.1) 厚(2.0)			板目		501
1504	S/X351C-2類	人骨	頭(18.0) 頸(2.4) 厚(1.7)			板目		662
1505	S/X351C-2類	人骨	頭(19.1) 頸(4.4) 厚(0.6)			板目		663
1506	S/X351C-2類	人骨	頭(15.7) 頸(2.7) 厚(1.0)			板目		650
1507	S/X351C-2類	人骨	頭(18.6) 厚(1.4)					574
1508	S/X351C-2類	人骨	頭(17.5) 頸(6.7) 厚(2.0)		ヶヤキ	柱目	柔製品	478
1509	S/X351C-2類	下枝	長(22.1) 頸(9.0) 厚(1.3)			板目		667
1510	S/X351D-3類	動物骨	口(18.9) 高(14.2) 高1.1	3/24	ヶヤキ	柱目	内外面万物痕 外部底面縫合面	439
1511	S/X351D-3類	動物骨	口(20.0) 高(13.5) 高1.6	12/24	ヶヤキ	柱目		419
1512	S/X351D-3類	動物骨	口(19.5) 高(13.2) 高1.1	20/24		柱目	内外面万物痕	414
1513	S/X351D-3類	動物骨	口(19.4) 高(13.0) 高1.8	7/24		柱目	内外面万物痕・焦痕	37
1514	S/X351D-3類	動物骨	口(19.8) 高(13.5) 高1.1	12/24		柱目	内外面万物痕	429
1515	S/X351D-3類	動物骨	口(22.2) 高(15.4) 高1.4	3/24		柱目		367
1516	S/X351D-3類	動物骨	口(22.0) 高(15.6) 高1.3	4/24		柱目	内外面万物痕	424
1517	S/X351D-3類	動物骨	口(21.0) 高(15.2) 高1.4	1/24		柱目		455
1518	S/X351D-3類	動物骨	口(17.9) 高(15.0) 高0.6	6/24		柱目		454
1519	S/X351D-3類	動物骨	口(19.6) 高(15.2) 高2.1	8/24		柱目		34
1520	S/X351D-3類	動物骨	口(17.2) 高(15.6) 高1.8	4/24		柱目	内外面万物痕・焦痕	366
1521	S/X351D-3類	動物骨	口(19.3) 高(15.0) 高1			柱目	底部外側に縫合「本口」	430
1522	S/X351D-3類	動物骨	口(17.1) 高(15.0) 高1			柱目		788
1523	S/X351D-3類	円形骨物	径(17.4) 高(3.0)					347

表55 出土遺物観察表⑤

番号	遺傳・部位	分類	法 量	残存率	樹 種	木取り	特 徴	登録番号	
1524	S X 1351 D-3期	円形骨盤	径15.5	厚0.1			刃物痕・付着物あり	381	
1525	S X 1351 D-3期	円形骨盤	径17.5	厚0.9			中央部に穿孔	192	
1526	S X 1351 D-3期	円形骨盤	径18.0	厚1.3			側面に凹穴	346	
1527	S X 1351 D-3期	直角形骨盤	長27.0	幅6.3	厚0.6	板目		345	
1528	S X 1351 D-3期	ヘラ状木製品	長25.5	幅6.5	厚0.7	板目		496	
1529	S X 1351 D-3期	火薬臼	長28.5	幅2.3	厚1.6	セミ版	板目	486	
1530	S X 1351 D-3期	不明品	長22.0	幅3.3		板目		497	
1531	S X 1351 D-3期	鋸物	長(29.3)	幅4.2	厚2.5	芯持ち		669	
1532	S X 1351 D-3期	鋸?	長19.4	幅6.3		芯持ち		668	
1533	S X 1351 D-3期	焼拂	長(3.4)	幅0.9	厚0.8			474	
1534	S X 1351 D-3期	箒	長23.2	幅2.7	厚0.6	スギ	板目	362	
1535	S X 1351 D-3期	箒	長23.2	幅2.3	厚0.3	スギ	板目	274	
1536	S X 1351 D-3期	箒	長19.3	幅2.5	厚0.7	セノキ科アヌクロ属	板目	273	
1537	S X 1351 D-3期	箒	長20.5	幅6.6	厚0.2		板目	655	
1538	S X 1351 D-3期	箒	長(18.3)	幅2.6	厚0.4		板目	652	
1539	S X 1351 D-3期	箒	長(4.2)	幅4.2	厚0.4		板目	250	
1540	S X 1351 D-3期	箒	長(4.1)	幅2.3	厚0.4		板目	656	
1541	S X 1351 D-3期	箒	長(4.4)	幅2.4	厚0.4		板目	397	
1542	S X 1351 D-3期	箒	長(4.1)	幅2.6	厚0.4		板目	272	
1543	S X 1351 D-3期	箒	長(18.0)	幅6.0	厚0.5	セノキ科アヌクロ属	板目	671	
1544	S X 1351 D-3期	箒	長(4.1)	幅1.4	厚0.3	スギ	板目	276	
1545	S X 1351 D-3期	刀身	長(6.0)	幅0.7	厚0.8		板目	673	
1546	S X 1351 D-3期	火薬臼	長(14.7)	幅1.4	厚1.1	アヌクロ	板目	542	
1547	S X 1351 D-1期	不明品	長(23.9)	幅2.0	厚0.9	スギ	板目	287	
1548	S X 1351 D-2期	箒	長18.3	幅0.7	厚0.5	スギ	板目	253	
1549	S X 1351 D-2期	下駄	長20.8	幅5.7	厚3.6	モクレン属	板目	149	
1550	S X 1351 A	箒	長(21.3)	幅2.4	厚0.4	セノキ科アヌクロ属	板目	346	
1551	S X 1351 B	柄	長(10.0)	幅0.6	厚(1.2)	芯持ち		660	
1552	S X 1600 C	逸物堆	口徑19.7	底径14.1	高2.1	17/24	ケヤキ	板目 内面刃物痕	695
1553	S X 1600 C	逸物堆	口(16.9)	底(13.1)	高0.9	11/24		板目 内面刃物痕	701
1554	S X 1600 C	逸物堆	口徑(30.5)	底径(15.8)	高3.3	4/24		板目 内外面刃物痕	713
1555	S X 1600 C	逸物堆	口(19.9)	底径(17.6)	高1.1	6/24		板目	705
1556	S X 1600 C	逸物堆	口(17.0)	底径(12.4)	高1.4	15/24	ケヤキ	板目 内外面刃物痕	694
1557	S X 1600 C	逸物堆	口(15.7)	底径(13.8)	高—		板目	710	
1558	S X 1600 C	逸物堆	口(21.0)	底径(15.6)	高1.6	5/24		板目 内面刃物痕 中央部に穿孔	709
1559	S X 1600 C	逸物堆	口(19.3)	底径(13.6)	高1.5	2/24		板目 内面刃物痕	708
1560	S X 1600 C	逸物堆	口(27.0)	底径(14.6)	高2.3	1/24		板目	700
1561	S X 1600 C	逸物堆	口(16.8)	底径(13.0)	高2.1	10/24		板目 内外混刃物痕	707
1562	S X 1600 C	逸物堆	口(21.2)	底径(15.7)	高1.7	7/24	ケヤキ	板目	714
1563	S X 1600 C	逸物堆	口(15.6)	底径(14.6)	高1.5	2/24		板目	706
1564	S X 1600 C	逸物堆	口(16.7)	底径(14.6)	高1.5			板目	699
1565	S X 1600 C	逸物堆	口(16.0)	底径(12.2)	高—			板目 外面刃物痕	696
1566	S X 1600 C	逸物堆	口(10.6)	底4.3				板目	690
1567	S X 1600 C	逸物堆	口(16.2)	底径(15.6)	高—			板目	684
1568	S X 1600 C	逸物堆	口(10.2)	底径(8.6)	高2	ケヤキ	板目	684	
1569	S X 1600 C	逸物堆	口(10.1)	底径(6.4)	高3.5	11/24	ケヤキ	板目 内面刃物痕	698
1570	S X 1600 C	逸物堆	口(8.1)	底径(17.6)	高2.6	23/24		板目 外外面刃物痕 ロクロモク3脚附	699
1571	S X 1600 C	円形骨盤	径17.3	高—			芯持ち	733	
1572	S X 1600 C	円形骨盤	径18.2	幅1.0				内外面刃物痕	731
1573	S X 1600 C	円形骨盤	径(17.6)	幅1.0				729	
1574	S X 1600 C	円形骨盤	径17.0	幅0.9				744	
1575	S X 1600 C	円形骨盤	径17.6	幅0.9				751	
1576	S X 1600 C	円形骨盤	径15.5	幅0.9				743	
1577	S X 1600 C	円形骨盤	径(15.4)	幅0.8				745	
1578	S X 1600 C	箒	長11.0	幅5.5	厚—	芯持ち		722	
1579	S X 1600 C	紡錘草	径4.6	厚1.2			板目	787	
1580	S X 1600 C	人形	高20.8	幅2.0	厚0.5		板目	601	
1581	S X 1600 C	人形	身13.2	幅1.7	厚0.3		板目	584	
1582	S X 1600 C	箒	長18.4	幅1.7	厚0.6		板目	600	
1583	S X 1600 C	箒	長14.0	幅1.7	厚0.3		板目	583	
1584	S X 1600 C	箒	長14.2	幅1.5	厚0.3		板目	582	
1585	S X 1600 C	箒	長17.1	幅8.1	厚0.4		板目	586	
1586	S X 1600 C	箒	長(8.5)	幅1.6	厚0.4		板目	590	
1587	S X 1600 C	箒	長(13.7)	幅1.7	厚0.1		板目	597	
1588	S X 1600 C	箒	長(18.9)	幅8.1	厚0.6		板目	585	
1589	S X 1600 C	箒	長(8.5)	幅1.9	厚0.3		板目	589	
1590	S X 1600 C	箒	長(14.9)	幅1.7	厚0.3		板目	287	
1591	S X 1600 C	箒	長(17.4)	幅1.7	厚0.3		板目	587	
1592	S X 1600 C	箒	長(18.9)	幅8.5	厚0.5		板目	588	
1593	S X 1600 C	箒	長(11.9)	幅6.6	厚0.7		板目	771	
1594	S X 1600 C	箒	長(18.3)	幅8.1	厚1.0		板目	785	
1595	S X 1600 C	小舟形	長(14.0)	幅2.0	厚1.0		板目	782	
1596	S X 1600 C	首状木製品	長(15.7)	幅0.6	厚0.4		板目	798	
1597	S X 1600 C	形代?	長(7.1)	幅1.1	厚0.5		板目	768	
1598	S X 1600 C	下駄	長(23.2)	幅9.7	厚3.6	クマシテ属イシダ跡	板目	262	
1599	S X 1600 C	不明品	長22.1	幅5.8	厚1.0		板目 刃物痕	281	
1600	S X 1600 C	不明品	長36.8	幅4.0	厚2.5			780	
1601	S X 1600 C	円形骨盤	径26.5	厚1.1				752	
1602	S X 1600 C	逸物堆	口(17.1)	底径(14.6)	高1.9	12/24		板目 外面刃物痕	697
1603	S X 1600 C	逸物堆?	口(19.0)	幅4.2		24/24		板木取り 中央部に径5.7 cmのF孔	715
1604	S X 1600 C	箒?	長9.9	幅(14.2)	厚(2.6)		芯持ち	723	
1605	S X 1600 C	箒?	長18.2	幅9.8				778	
1606	S X 1600 C	首状木製品	長16.7	幅0.7				779	
1607	S X 1600 C	不明品	長(11.1)	幅(1.9)	厚0.4			800	

表56 出土遺物観察表26

番号	遺物・部位	器種	性 型	既存寸	剖 面	木取り	特 徴	登錄番号	
1008	S X1600C	火薬口	長(7.5) 幅2.3 厚1.1		スギ	板目	刃物柄	720	
1009	S X1600C	～？状木製品	長(19.2) 幅2.5 厚0.6			板目		717	
1010	S X1600C	～？状木製品	長(20.9) 幅1.4 厚0.5			板目	先端に漆付着	718	
1011	S X1600C	破損	長(6.0) 幅4.5 厚0.8		イヌノキ			721	
1012	S X1600C	破損	長(4.8) 幅1.1 厚0.2			板目		807	
1013	S X1600B	人形	長(1.9) 幅0.5 厚0.3			板目		693	
1014	S X1600B	漆串	長(14.5) 幅0.5 厚0.4			板目		692	
1015	S X1600B	漆串	長(14.0) 幅0.3 厚0.4		セノキ科アヌロ属	板目		693	
1016	S X1600B	刀形	長(8.3) 幅1.4 厚0.3		マツ科モミ属	板目		719	
1017	S X1600B	舟形	長(4.7) 幅10.2 厚2.2		コナラ科コナラ属コナラ胸	板目		774	
1018	S X1600B	漆串	長(2.6) 幅1.5 厚0.9			板目		779	
1019	S X1600B	不明品	長(2.5) 幅6.2 厚0.8			板目	2箇所に木打	773	
1020	S X1600B	漆串	長(6.2) 幅2.9 厚1.6					775	
1021	S E1174	円形物	径(12.8) 厚0.5				中央部に穿孔	190	
1022	S D1185	円形物	径(8.6) 厚1.9				外周焦痕・漆皮結合	223	
1023	S D1185-井戸内側	円形物	径(6.0) 厚0.8				刃物柄・漆皮結合	226	
1024	S D1300-2層	陶器高台付皿	口径1.0 脊径15.4 高一				刃物柄	165	
1025	S D1300-2層	破損	長(3.9) 幅1.1 厚0.8				底部外周に加工痕・底 被損後の加工痕あり	130	
1026	S X780	破損	長(4.4) 幅(2.5) 厚0.8					142	
1027	S X778-1層	円形物	径(6.6) 厚0.5					無痕 木釘結合	218
1028	S X780	下駄	長(15.4) 幅8.9 厚3.8					148	
1029	S X1177	鏡	長(4.4) 幅4.5		スギ	板目		645	
1030	S X1200	円形曲物	径(16.4) 厚20.0					943	
1031	S E1217	陶物組	口径(19.6) 脊径(13.8) 高1.2	9/24				54	
1032	S D1229	破損	長(4.3) 幅1.1 厚0.9			板目		131	
1033	S E1217-1層	漆串	長(12.9) 幅1.4 厚0.4		スギ	板目		154	
1034	S E1217-井戸内側	漆串	長(14.8) 幅1.8 厚0.3		ヒノキ科アヌロ属	板目		159	
1035	S E1217-井戸内側	漆串	長(14.0) 幅1.2 厚0.4		ヒノキ科アヌロ属	板目		156	
1036	S E1217-井戸内側	漆串	長(11.7) 幅1.2 厚0.2		ヒノキ科アヌロ属	板目		161	
1037	S E1217-1層	漆串	長(0.1) 幅1.0 厚0.2		スギ	板目		155	
1038	S D1222-2層	漆串	長(15.1) 幅(3.9) 厚1.1		マツ科モミ属	板目		122	
1039	S X1227-2層	漆串	長(15.0) 幅1.2 厚0.8					143	
1040	S X1227-2層	漆串	長(15.0) 幅1.0 厚0.6					144	
1041	S X1227-2層	天板組	長(4.5) 幅2.5					244	
1042	S X1227-3層	陶物高台付皿	口径(19.9) 底径15.4 高2.5	9/24				55	
1043	S X1227	下駄	長(24.5) 幅8.7 厚3.4		マツ科モミ属	板目	内外邊に刃物痕・外周面部に施印	156	
1044	S E1217	円形物	径(65.2) 厚26.1				2箇所	157	
1045	S D1411-1層	円形物	径(16.4) 厚1.1					2箇所の曲物を上下に組合	942
1046	S D1414-1層	漆串	長(2.9) 幅(2.7) 厚0.8					264	
1047	S D1616d	陶物組	口径23.0 底径17.8 高1.3	22/24				125	
1048	S D1616d	漆串	長(35.4) 幅3.6 厚1.2			板目	内外曲刃物痕	884	
1049	S D1616d	漆串	長(35.4) 幅3.6 厚1.2			板目		935	
1050	S E1616e	漆串	長(15.4) 幅6.2 厚1.0			板目	木釘結合	890	
1051	S E1616e	漆串	口径(19.4) 脊径14.1 高1.3			板目	底部外周に刃物痕	616	
1052	S D1616e	人形	長(21.0) 幅6.9 厚0.9			板目	木釘結合	406	
1053	S D1616e	船	長(18.2) 幅(8.9) 厚0.7			板目	円錐曲物板転用	501	
1054	S D1616e	船	長(15.2) 幅6.3 厚0.9			板目		940	
1055	S D1616e	部材？	長(26.0) 幅16.5 厚1.8			板目	木釘結合	625	
1056	S D1616e	漆串	長(16.0) 幅6.5 厚4.4			板目	中央部に方眼穴	283	
1057	S D1616e	漆串	長(15.5) 幅4.2			芯待ち		856	
1058	S D1616e	栓	長(6.3) 幅4.0			芯待ち		635	
1059	S D1614c	陶物高台付皿	口径(17.0) 脊径12.5 高1.4	15/24				624	
1060	S D1614c	陶物組	口径(20.5) 底径12.8 高1.2	14/24				890	
1061	S D1614c	下駄	長(7.1) 幅6.0 厚2.0			板目	ロクロア式4箇所	886	
1062	S D1614d	漆？	長(7.6) 厚1.7			芯待ち		885	
1063	S D1614d	陶物組	口径(17.8) 脊径11.0 高1.3	8/24				ロクロア式	887
1064	S D1614d	陶物組	口径(24.0) 底径(19.6) 高2.3	8/24				853	
1065	S D1614d	漆串	口径(21.2) 脊径(15.6) 高1.4	1/24				内部底面印「吉」 内外面刃物痕	826
1066	S D1614d	陶物組	口径(17.0) 脊径(12.4) 高1.2	2/24				831	
1067	S D1614d	陶物高台付皿	口径(12.2) 脊径(7.2) 高1.3					841	
1068	S D1614d	陶物組	口径(22.4) 脊径(16.6) 高2.4	1/24				834	
1069	S D1614d	陶物高台付皿	口径(14.0) 脊径(10.2) 高1.3	6/24				837	
1070	S D1614d	円形物	径(8.2) 厚1.1					825	
1071	S D1614d	円形物？	径(16.2) 厚1.0					902	
1072	S D1614d	漆串	径(23.6) 厚1.2				漆付着	833	
1073	S D1614d	漆串	長(23.0) 幅(6.8) 厚1.1				側面に刻六	835	
1074	S D1614d	漆串	長(7.4) 幅(2.1) 厚0.3			板目		846	
1075	S D1614d	人形	長(14.2) 幅(2.2) 厚0.5			板目		832	
1076	S D1614d	下駄	長(26.3) 幅(4.7) 厚(2.7)			板目		836	
1077	S D1614d	馬掌	長(14.8) 幅(6.0) 厚1.3			板目		827	
1078	S D1614d	不明品	径35.0 幅8.3			芯待ち	穿孔あり	815	
1079	S D1614e	陶物組	口径(17.0) 脊径(12.0) 高1.9	8/24				882	
1080	S D1614e	陶物組	口径(20.4) 脊径11.0 高1.4	9/24				878	
1081	S D1614e	陶物高台付皿	口径(15.0) 脊径(9.8) 高1.3	11/24				875	
1082	S D1614e	陶物高台付皿	口径(17.0) 脊径(17.1) 高一					873	
1083	S D1614e	陶物組	口径(15.6) 脊径(6.4) 高1.1	3/24				823	
1084	S D1614e	花形彫漆製品	径6.3 厚1.1		セノキ		内外面彫り	813	
1085	S D1614e	～？状木製品	径20.0 幅6.8 厚0.6			板目	漆版・射穴あり	882	
1086	S D1614e	漆串	径8.5 幅6.0 厚0.4			板目		818	
1087	S D1614e	漆串	長34.8 幅1.5		タケ			941	
1088	S D1614e	不明品	長(50.0) 幅12.7 厚82.2			板目		936	
1089	S D1614e	不明品	長(61.3) 幅3.8 厚1.1			芯待ち		883	
1090	S E1502	漆	漆表面(55.3) 厚(7.8) 高3.4					625	
1091	S E1502	円形曲物	径57.2 高30.1					498	

表57 出土遺物観察表⑦

番号	遺構・部位	種類	法 量	残存率	明 確	木取り	特 徴	登録番号
1692	S E 1552	動物漆漆柄						441
1693	S E 1552	漆	長(4.5 幅1.5 厚0.2					431
1694	S E 1552	漆	長(3.9) 幅0.2 厚0.7				穿孔あり	330
1695	S E 1549	漆	長(4.5 幅1.7 厚0.3					641
1696	S E 1559	漆物合子	口径(2.0) 深(21.0) 高(12.0					463
1697	S E 1559	刀子柄	長(6.5) 幅1.8					639
1698	S E 1555	漆物把手	長58.2 幅10.8 厚1.3					791
1699	S E 1555	漆物把手	長58.5 幅(10.5) 厚4.2					792
1700	S D 1522-1層	漆物漆	口径18.0 深(12.3) 高(3.6	19/24			底部外周に漆痕	30
1701	S D 1522-1層	漆物漆	口径(16.0) 深(11.2) 高(6.8	8/24			内外面に漆物痕	465
1702	S D 1522-1層	漆物漆	口径(19.0) 深(12.0) 高(5.5	14/24			外周に無・有物痕	61
1703	S D 1522-1層	漆物漆	口径— 深(5.0) 高—		ケヤキ		底部外周に漆剥	27
1704	S D 1522-1層	漆物高台漆	口径(16.2) 底径(16.0) 高(1.6	3/24			底	19
1705	S D 1522-1層	漆物漆付漆	口径(15.5) 底径(10.0) 高(5.5	7/24	ケヤキ		底	68
1706	S D 1522-1層	漆物高台漆	口径(14.5) 底径(10.1) 高(5.6	9/24	ケヤキ		内外面に漆物痕	32
1707	S D 1522-1層	漆物漆付漆	口径(14.0) 底径(10.0) 高(2.2	7/24	ケヤキ		底	18
1708	S D 1522-1層	漆物漆付漆	口径— 深(5.0) 高—				底部外周に漆痕	17
1709	S D 1522-1層	漆物漆漆柄	口径(15.5) 底径(8.0) 高(4.7				底	145
1710	S D 1522-1層	漆物高台漆	口径(23.5) 深(17.4) 高(7.7	10/24			底	29
1711	S D 1522-1層	漆物漆	口径(17.5) 深(5.5) 高—				底	129
1712	S D 1522-1層	漆物漆	口径(17.2) 深(5.0) 高(6.6				底	128
1713	S D 1522-1層	漆物漆漆柄	口径— 深(5.0) 高—				底	132
1714	S D 1522-1層	漆物漆漆柄	口径— 深(5.0) 高—				底	1
1715	S D 1522-1層	漆物漆	口径(21.0) 深(10.0) 高(1.3	3/24			底	24
1716	S D 1522-1層	円形漆物	径18.8 幅1.2				漆皮結合	284
1717	S D 1522-1層	円形漆物	径18.6 幅1.0				漆皮結合	170
1718	S D 1522-1層	漆	径18.4 幅1.1				漆皮結合	119
1719	S D 1522-1層	円形漆物	径18.5 幅0.7				漆皮結合	172
1720	S D 1522-1層	円形漆物	径18.4 幅0.8				漆皮結合	107
1721	S D 1522-1層	円形漆物	径24.5 幅1.3				刀物痕 撃皮結合	105
1722	S D 1522-1層	円形漆物	径18.6 幅0.8				1	80
1723	S D 1522-1層	円形漆物	径20.0 幅0.9				本漆結合	310
1724	S D 1522-1層	漆	長19.9 幅5.0				漆皮結合	514
1725	S D 1522-1層	漆	長(9.5) 幅3.5 厚0.1				漆皮結合	590
1726	S D 1522-1層	漆	長5.5 幅1.9				漆皮結合	695
1727	S D 1522-1層	漆?	長13.0 幅2.2				漆皮結合	566
1728	S D 1522-1層	人形	長23.4 幅3.8 厚0.3		ヌギ		板目	167
1729	S D 1522-1層	金串	長13.1 幅2.4 厚0.5		ヌギ		板目	140
1730	S D 1522-1層	漆串	長14.5 幅2.2 厚0.7		ヒノキ斜アシロ属		板目	134
1731	S D 1522-1層	漆串	長(9.0) 幅2.0 厚0.4		ヒノキ斜アシロ属		板目	141
1732	S D 1522-1層	漆串	長(7.9) 幅1.4 厚0.6		ヌギ		板目	133
1733	S D 1522-1層	漆串	長(10.2) 幅1.8 厚0.6		ヌギ		板目	151
1734	S D 1522-1層	漆串	長(4.2) 幅1.2 厚0.7		ヒノキ斜クロベ属クロベ		板目	139
1735	S D 1522-1層	漆馬	長25.1 幅(19.2) 厚1.2		ヒノキ斜ヒノキ属		板目	60
1736	S D 1522-1層	不明馬	長(16.7) 幅2.4 厚1.1				板目	619
1737	S D 1522-1層	不明馬	長(15.9) 幅2.1 厚0.8				漆擦り	480
1738	S D 1522-1層	漆物漆	口径(17.0) 深(14.0) 高(9.9	13/24			漆孔	426
1739	S D 1522-1層	漆物漆	口径(16.4) 深(13.3) 高(10.5	4/24			外周方物痕	464
1740	S D 1522-1層	漆物漆	口径(20.1) 深(16.6) 高(10.7	15/24			底部外周に便印	423
1741	S D 1522-1層	漆物漆付漆	口径(15.0) 深(15.0) 高(1.3	4/24			内外面方物痕 ロクロアシロ属	434
1742	S D 1522-1層	漆物漆付漆	口径(16.0) 深(16.0) 高(1.3	3/24			便	67
1743	S D 1522-1層	漆物漆	口径— 深(16.0) 高—				便	36
1744	S D 1522-2層	漆物漆付漆	口径— 深(16.0) 高—				便	472
1745	S D 1522-2層	漆物漆付漆	口径(15.5) 深(10.0) 高(1.9	9/24			便	436
1746	S D 1522-2層	漆物漆付漆	口径(15.0) 深(14.5) 厚0.7	9/24			便	415
1747	S D 1522-2層	漆物漆付漆	口径(23.2) 深(16.4) 高(1.9	5/24			便	430
1748	S D 1522-2層	漆物漆付漆	口径(15.0) 深(14.5) 厚0.7	9/24			便	67
1749	S D 1522-2層	漆物漆	径(30.2) 幅1.1				便	309
1750	S D 1522-2層	円形漆物	径24.0 幅1.3				便	181
1751	S D 1522-2層	円形漆物	径(23.1) 幅1.6				便	285
1752	S D 1522-2層	円形漆物	径13.2 幅0.9				便結合	316
1753	S D 1522-2層	円形漆物	径15.8 幅0.9				便	291
1754	S D 1522-2層	円形漆物	径10.2 幅1.1				中央部に穿孔	473
1755	S D 1522-2層	円形漆物	径12.2 幅0.6				中央部に穿孔、釘結合	331
1756	S D 1522-2層	円形漆物	径12.2 幅0.5				中央部に穿孔、釘結合	338
1757	S D 1522-2層	漆馬	長19.8 幅(8.3) 厚0.7				穿孔あり	56
1758	S D 1522-2層	漆馬	長(8.7) 幅2.7 厚0.3				便	479
1759	S D 1522-2層	漆馬	長(8.9) 幅1.6 厚0.3				便	238
1760	S D 1522-2層	漆馬	長22.4 幅(10.7) 厚0.6				便	168
1761	S D 1522-2層	刀子柄	長17.5 幅2.7 厚1.7				便	618
1762	S D 1522-2層	便?	長25.5 幅3.7 厚2.2				便	613
1763	S X 1524	漆物漆	口径17.5 深(12.4) 高(1.4	14/24	ケヤキ		便孔	2
1764	S X 1524	漆物漆	口径(14.5) 深(10.5) 幅1.3	12/24	ケヤキ		外周方物痕 黑刷	31
1765	S X 1524	漆物漆	口径(15.0) 深(14.0) 幅1.2	10/24			外周方物痕	603
1766	S X 1524	漆物漆付漆	口径(15.3) 深(14.5) 高(0.8	2/24			便	38
1767	S X 1524	漆物漆付漆	口径— 深(16.4) 高—				便	48
1768	S X 1524	漆物漆付漆	口径(18.0) 深(13.0) 高(1.9	1/24			便	13
1769	S X 1524	改物漆付漆	口径(27.0) 深(20.6) 高(2.4	3/24			内外面方物痕	16
1770	S X 1524	改物漆付漆	口径(22.0) 深(14.4) 高(1.1	1/24			内外面方物痕	103
1771	S X 1524	円形漆物	径19.1 幅1.1				便	59
1772	S X 1524	円形漆物	径23.0 幅1.1				便	70
1773	S X 1524	円形漆物	径23.0 幅1.6				便	71
1774	S X 1524	改形円形漆物	長28.8 幅1.0				便	103
1775	S X 1524	円形漆物	径14.0 幅0.9				便	72

表58 出土遺物観察表28

番号	遺物・部位	器種	法 番	残存率	特徴	木取り	特 徵	登録番号
1776	S X1543	陶器	長(6.7) 幅1.6 厚0.2					790
1777	S D1631	漆器不明品	径6.2 厚1.2				征目	907
1778	S D1631	陶器高台付皿	口径(17.4) 高径(13.0) 高1.6	4/24		板目	内外面無刷	918
1779	S D1631	陶器皿	口径(17.0) 高径(12.8) 高0.9	11/24		板目		922
1780	780.K.98	陶器高台付皿	口径(21.4) 高径(5.2) 高1.6	4/24		板目	内面刃物痕	422
1781	780.P.25	陶器鉢	口径— 高径(9.4) 高—			板目		629
1782	第VIa層	不明品	長8.8 幅4.0 厚2.5			板目		485
1783	S K1409	漆器	長(16.4) 幅(2.3) 厚0.3			板目		602
1784	795.P.88	丁形曲物	径(16.7) 厚0.8					298

金属製品

報告書番号	器種	遺構・部位	法 番	特 徵	登録番号
1785	鉄製品・刀柄	S D1351C-3層	長:(26.4) 幅1.4 厚:0.5	円孔あり	19
1786	鉄製品・劍	S D1600C-1層	長:(12.1) 幅1.0 厚:0.3		39
1787	鉄製品・刀身	S D1600C-1層	長:(3.5) 厚:0.3		40
1788	鉄製品・斧合具(丸鋒)	S X778-1層	長:2.6 幅1.7 厚:0.5	黒色漆付有	10
1789	鉄製品・斧合具(丸鋒)	S X1215-1層	長:3.0 幅1.8 厚:0.7	黒色漆付有	9
1790	鉄製品・刀身	S I.1281	長:2.5 厚:0.5		14
1791	鉄製品・刀身	S D1622-1層	長:(13.0) 幅1.4 厚:0.5		2
1792	鉄製品・刀子	S D1622-1層	長:(4.5) 幅1.1 厚:0.2		3
1793	鉄製品・刀子	S D1622-1層	長:(4.0) 幅1.1 厚:0.5		8
1794	鉄製品・刀子	S D1622-1層	長:(16.6) 幅1.2 厚:1.6	柄残存	4
1795	鉄製品・刀子	S D1622-1層	長:(27.2) 幅1.9 厚:1.0	柄残存 床皮付	5
1796	鉄製品・刀	S D1622-1層	長:3.2 幅0.4 厚:0.6		1
1797	鉄製品・刃	S D1616C-3層	長:5.0 幅0.5 厚:0.4		21
1798	鉄製品・鉗頭	S D1616C-1層	長:(6.5) 幅2.7 厚:2.1		23
1799	鉄製品・刀子	S D1616C-1層	長:(11.3) 幅1.4 厚:1.0		24
1800	鉄製品・刀	S D1616C-1層	長:(20.5) 幅1.2 厚:0.7		22
1801	鉄製品・手鍼	S D1616e	長:(5.5) 幅1.1 厚:0.1		6
1802	鉄製品・鉗頭	S D1616e	長:4.8 厚:0.4		7
1803	鉄製品・鉗頭	S D1616e-2層	長:(9.4) 幅2.1 厚:0.3		20
1804	鉄製品・鉗頭	S X1616-1層	長:12.2 幅5.5 厚:2.7		35
1805	鉄製品・鉗頭	S X1616-1層	長:12.2 幅5.5 厚:2.7		33
1806	鉄製品・鉗頭	S X1616-2層	長:(21.5) 幅1.6 厚:0.3		34
1807	鉄製品・刀	S D1631A-1層	長:(15.9) 幅1.5 厚:0.3		25
1808	鉄製品・刀	S D1631A-1層	長:(31.5) 幅1.0 厚:0.5		29
1809	鉄製品・鉗頭	S D1631A-1層	長:(6.5) 幅1.8 厚:0.4		26
1810	鉄製品・刀	S D1631A-3層	長:(7.8) 幅0.6 厚:0.5		37
1811	鉄製品・刀	S D1631A-2層	長:(7.5) 幅0.7 厚:0.6		27
1812	鉄製品・刀	S D1631A-2層	長:(3.7) 幅1.9 厚:0.3		38
1813	鉄製品・刀	S D1631B-1層	長:(4.8) 幅0.7 厚:0.3		31
1814	鉄製品・刀	S D1631B-2層	長:(11.4) 幅0.8 厚:0.2		32
1815	鉄製品・刀子	S D1631B-2層	長:(13.0) 幅1.3 厚:0.3		33
1816	鉄製品・刀子	S D1631B-2層	長:(18.5) 幅1.4 厚:0.4		29
1817	鉄製品・刀子	S D1631B-3層	長:(17.3) 幅1.7 厚:1.2		28

表59 出土遺物観察表四

写真版のみ掲載の遺物

番号	区名	遺構・層位	種類	備考	登録番号
1820	20IK	S K1343-1層	織布		4818
1868	78IK	S D1502	土器		2591
1867	115IK	S D1646d	新鋸車	砂岩製 空孔径1.1cm 202.5g	5010
1866	78IK	S D1536-1層	新鋸車-短頭車	【外観】タキ→クロナデ→回転ヘラケツリ	2629
1869	69IK	S K1415-1層	土器	棒状 真4.8cm、幅1.50cm、重量12.7g、穿孔径0.4cm	903
1900	69IK	横出面	土器	管状 真3.4cm、幅1.35cm、重量5.4g、穿孔径0.5cm	968
1991	41IK	覆瓦	土器	管状 真3.7cm、幅1.45cm、重量5.6g、穿孔径0.5cm	71
1992	78IK	横出面	土器	管状 真3.8cm、幅1.40cm、重量7.0g、穿孔径0.4cm	3597
1993	69IK	第1層	土器	管状 真1.9cm、幅1.40cm、重量3.2g、穿孔径0.4cm	996
1994	18IK	第1層	土器	管状 真3.7cm、幅1.28cm、重量7.7g、穿孔径0.55cm	656
1995	79IK	S B1480-P34	土器	管状 真2.7cm、幅1.40cm、重量5.6g、穿孔径0.3cm	3843
1996	18IK	第1層	土器	管状 真3.2cm、幅1.15cm、重量3.9g、穿孔径0.35cm	655
1997	69IK	S D1429-1層	土器	管状 真4.1cm、幅1.15cm、重量5.9g、穿孔径0.4cm	756
1821	20IK	S X1351C-2層	輪型	外型	4418
1822	20IK	S X1351C-2層	輪型	外型	4406
1823	20IK	S X1351C-2層	輪型	内型	2042
1824	20IK	S X1351C-2層	輪型	内型	4412
1825	20IK	S X1351C-2層	輪型	内型	4408
1826	20IK	S X1351D-3層	輪型	外型	4421
1827	20IK	S X1351C-2層	輪型	内型	4404
1828	20IK	S X1351D-3層	輪型	外型	4420
1829	20IK	S X1351C-2層	輪型	外型	4411
1830	20IK	S X1351C-2層	輪型	内型	4422
1831	20IK	S X1351C-2層	輪型	外型	4414
1832	20IK	S X1351C-2層	輪型	外型	4417
1833	20IK	S X1351C-2層	輪型	内型	4407
1834	20IK	S X1351C-2層	輪型	外型	4416
1931	20IK	P24赤穴	鉄字板		1983
1932	69IK	第1層	円筒銀	体部穿孔	995
1933	69IK	横出面	円筒銀		4196
1934	20IK	S B1285赤穴	円筒銀	体部にヘラガキ	2015
1935	78IK	覆瓦	円筒銀	体部に透かし	3654
1936	78IK	横出面	円筒銀		3577
1937	69IK	第1層	円筒銀	体部にヘラガキ	1000
1938	69IK	横出面	円筒銀	体部にヘラガキ	4199

表60 出土遺物観察表(3)



特別史跡多賀城跡と市川橋遺跡 上空より

合成写真

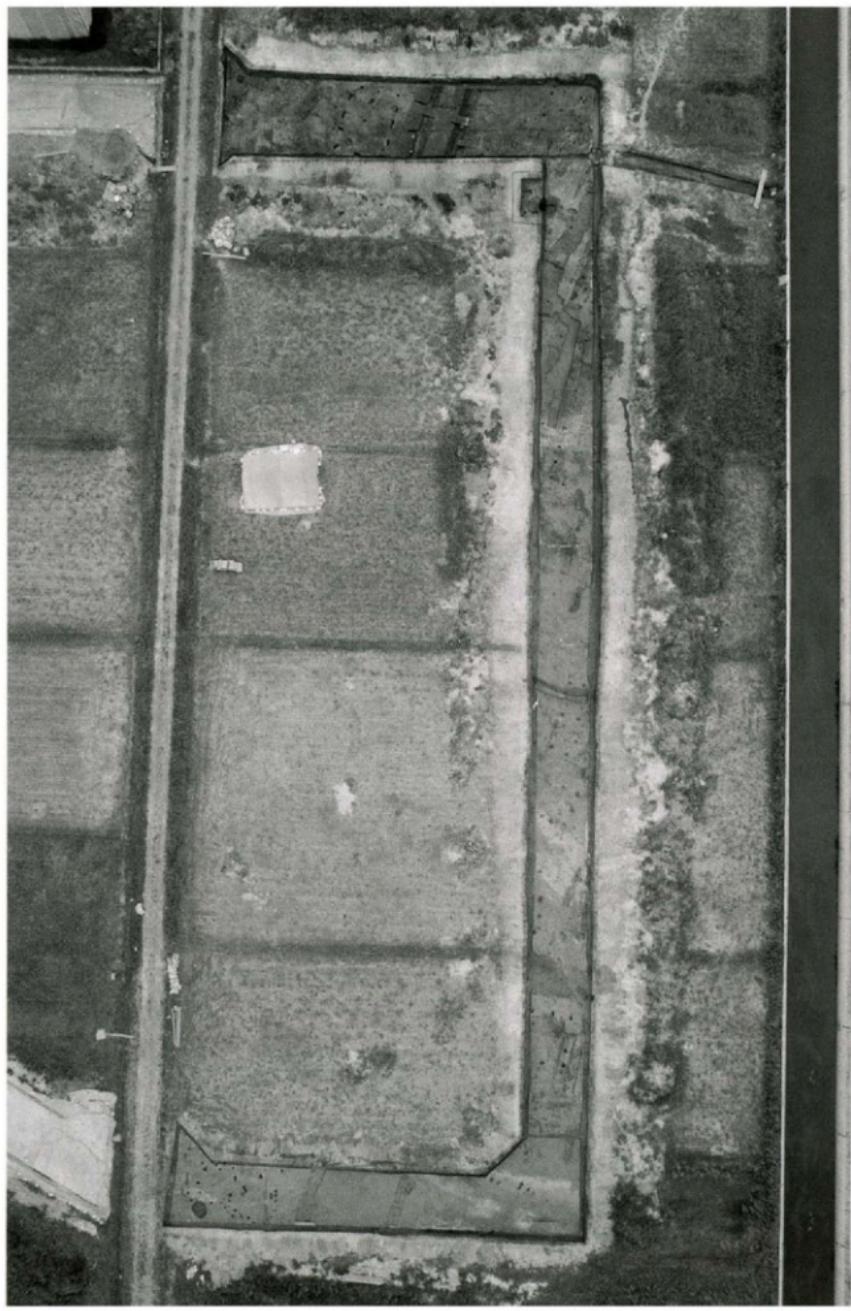


C区調査区全景

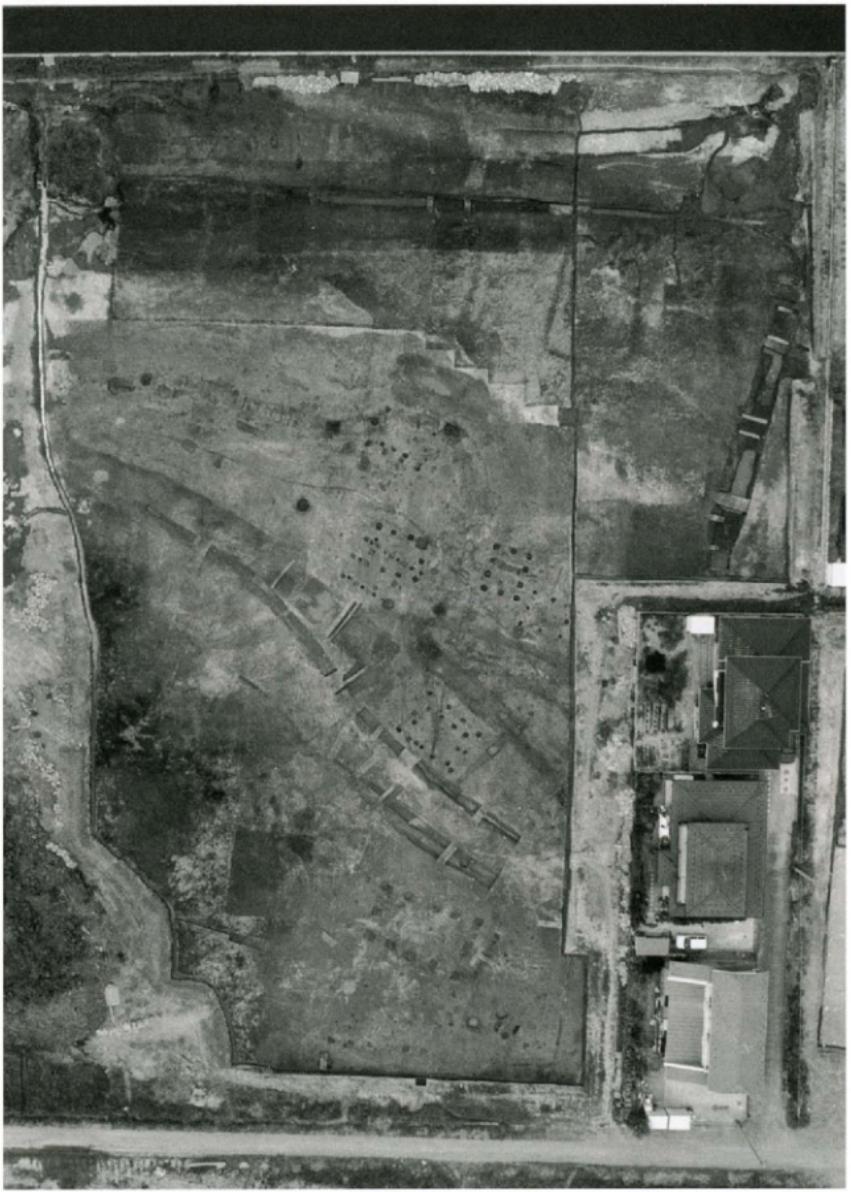
合成写真



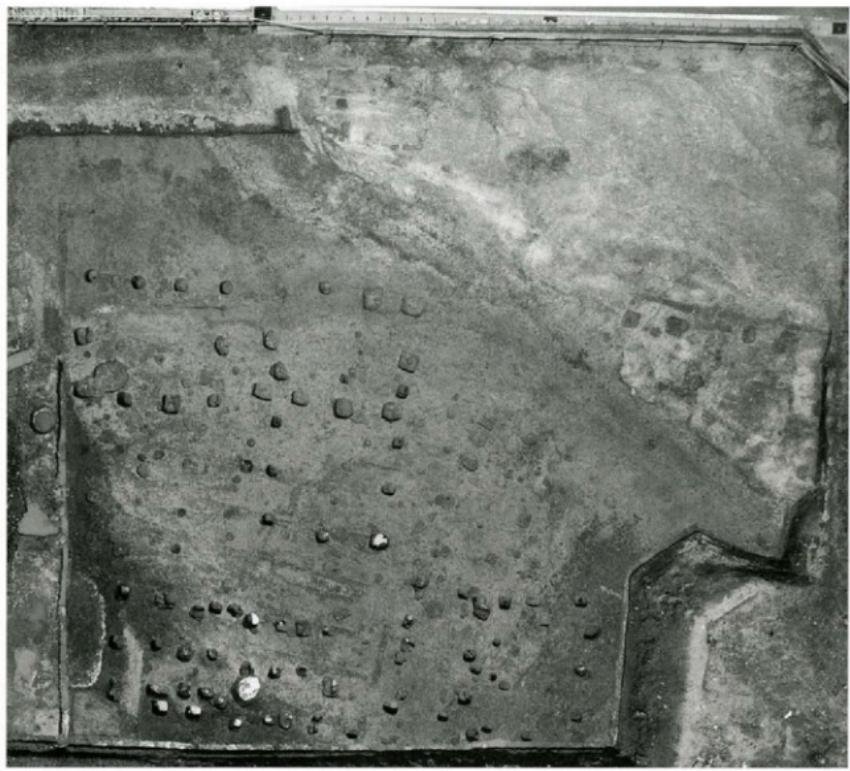
20区·68区·69区全景



18区·23区·41区全景



78区北半部 右側が北



1 79区全景



2 84区北半部



115区・116区全景 右側が北



1 115区・116区遠景 東より



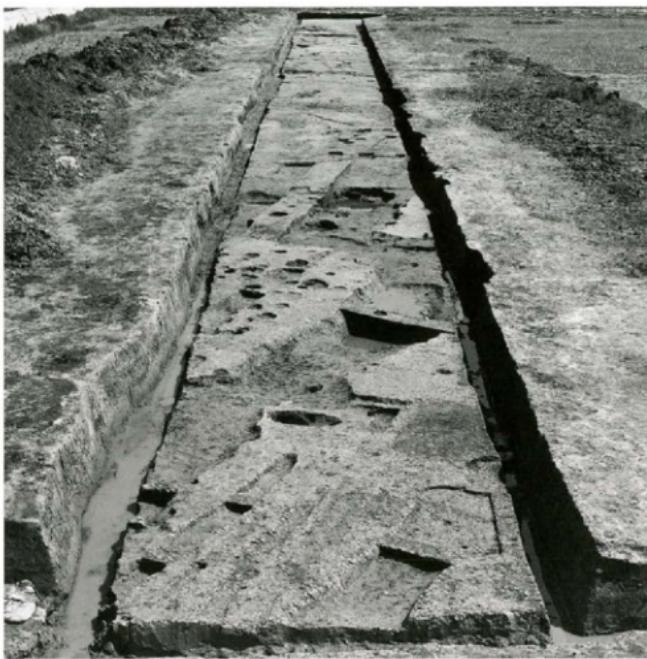
2 115区・116区遠景 西より



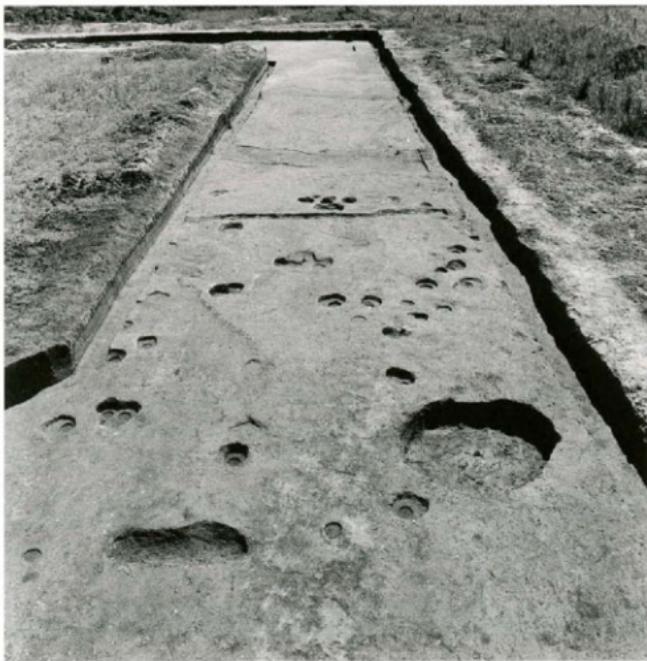
1 18区調査区全景 南西より



2 18区調査区全景 東より



1 41区調査区全景 北より



2 23区調査区全景 西より



1 69区調査区全景 西より



2 110区調査区全景 西より



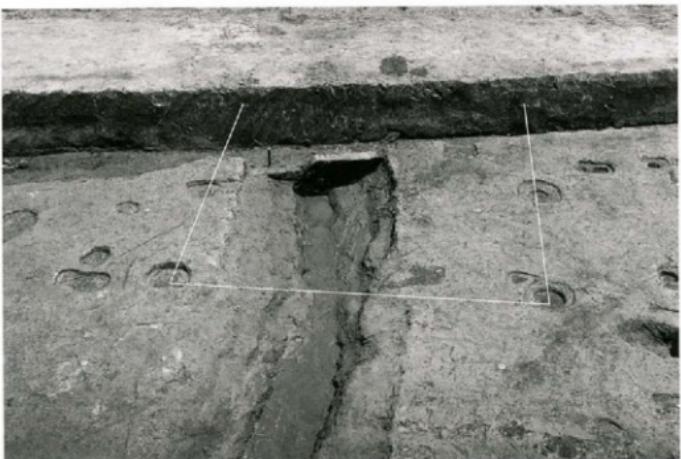
1 18区S X780東2道路検出状況 北より



2 18区S X780東2道路完掘状況 南より



1 18区S B1171・1180 南より



2 41区S B1236 西より



3 69区S B1466・1467・1468 北より



1 69区S B1466南妻棟通り柱穴半截
状況 南より



2 69区S B1469 南より



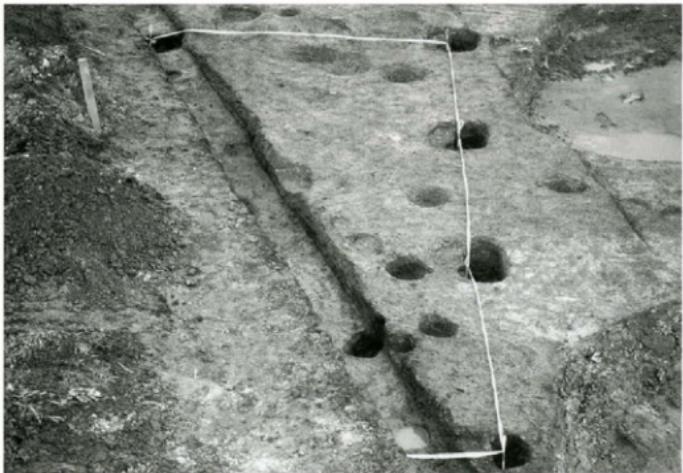
3 20区S B1393・1395 南より



1 20区S B1393・1395 東より



2 20区S B1381 南より



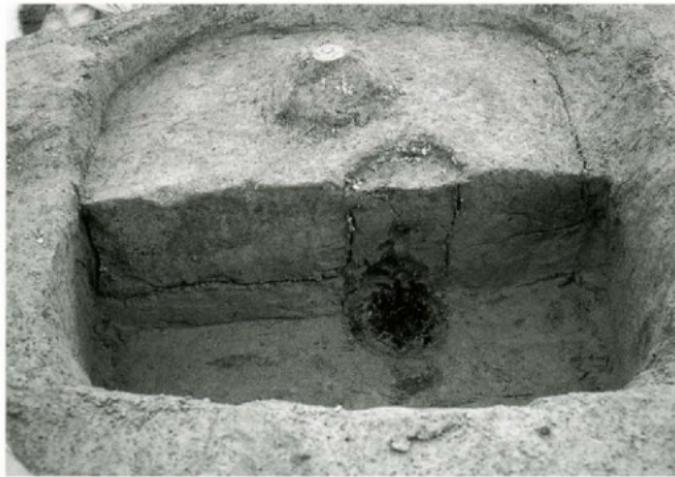
3 20区S B1382 南より



1 68区S B1396・1397 南より



2 68区S B1380 南より



3 68区S B1380北妻棟通り柱穴半截
状況 南より



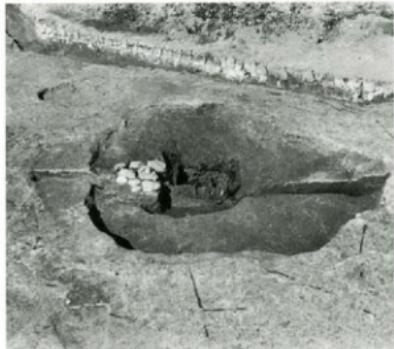
1 20区S E 1280・1281堅穴住居 南より



2 18区S E 1174 北東より



3 18区S E 1174底面坑出土状況 北東より



4 20区S E 1285 南より



5 41区S E 1217 北より



1 20区S X1351検出状況 南より



2 20区S X1351 南東より



1 69区 S D1411 北より



2 18区 S D1185遺物出土状況 東より



3 20区 S D1350 南より



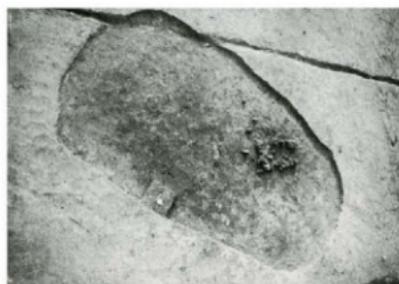
4 20区 S D1291 南東より



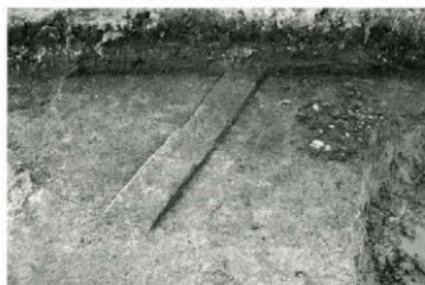
5 41区 S K1223絵馬出土状況 南より



6 20区 S K1343漆紙文書出土状況 東より



1 20区 S K787製塩土器出土状況 東より（左） 西より（右）

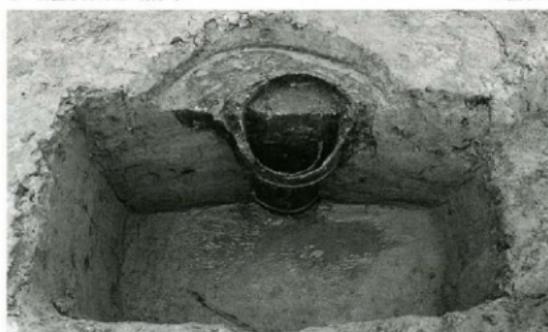


2 20区 S K1333製塩土器出土状況 東より



3 20区 S K1342 東より

4 41区 S X1227挽物高台付曲物出土状況



5 18区 S X1200半截状況 南西より



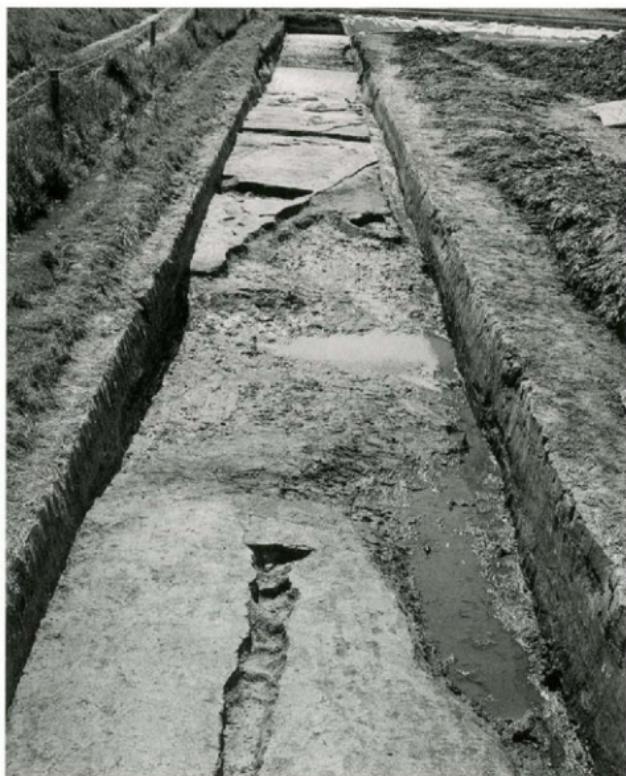
1 79区調査区全景 南東より



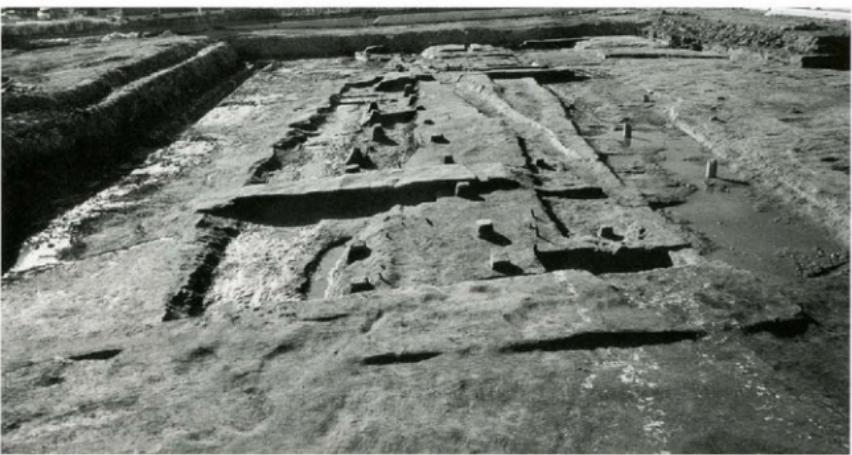
2 79区調査区全景 東より



1 71区調査区全景 西より



2 70区調査区全景 東より



1 115区S X1610東西大路東道路 東より



2 115区S X1610東西大路東道路南側溝杭列出土状況 南東より



3 115区S X1610東西大路東道路遺物出土状況 左：横笛 右：花形漆塗製品



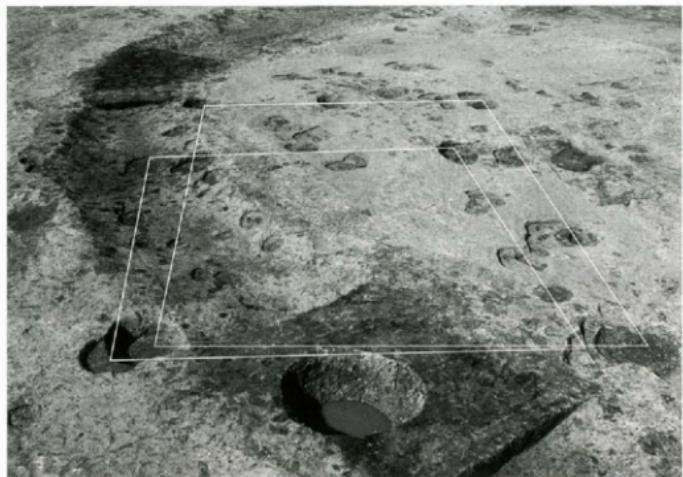
1 115区S X1630橋 南より



2 115区S X1630橋構築状況 西より



3 78区S X1607東3道路 南西より



1 78区SB1531・1546 南より



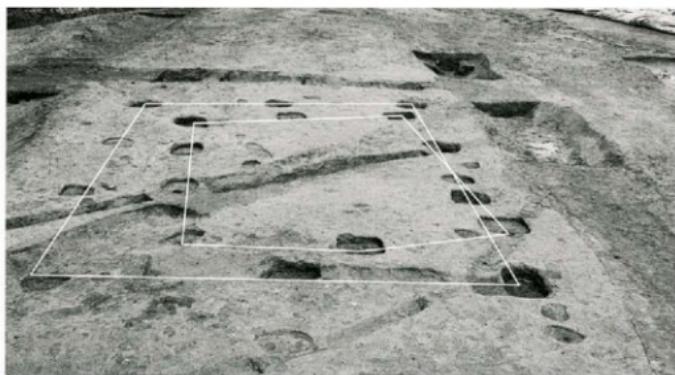
2 78区SB1532・1533・1534 南より



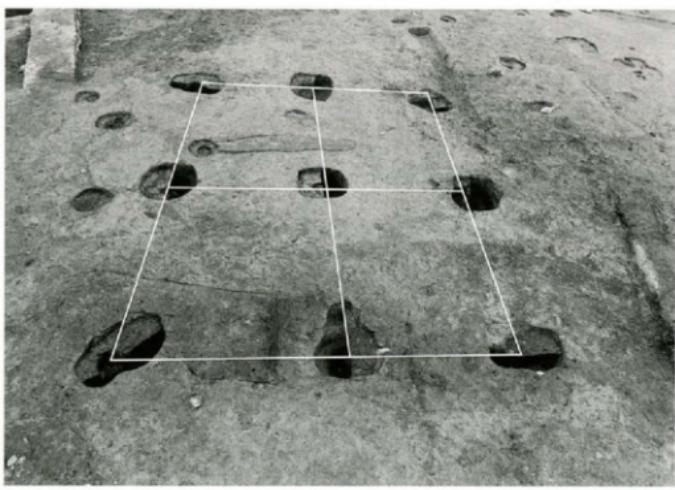
3 78区SB1539 南より



1 78区S B1541 南より



2 78区S B1537・1538 南より



3 78区S B1561 南より



1 78区S B1560 南より



2 78区S B1560柱穴半截状况 左：北西隅柱穴 右：南東隅柱穴



3 78区S B1562 南より



1 78区S B1563・1564 南より



2 79区S B1471 南より



3 79区S B1471・1472・1476 西より



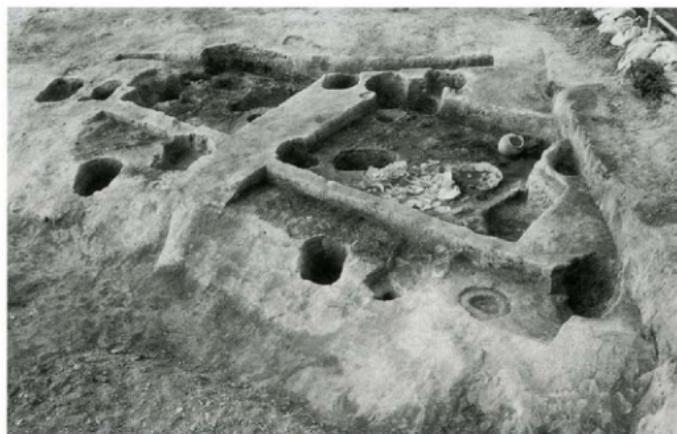
1 79区SB1472 南より



2 79区SB1477・1478・1480 西より



3 79区SB1473・1474・1475 西より



1 79区S I 1488 南より



2 79区S I 1488遺物出土状況



3 79区S I 1488遺物出土状況



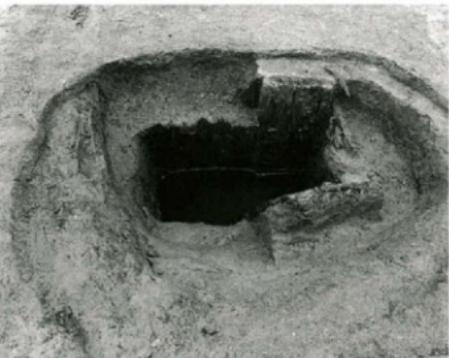
1 78区S E1535検出状況 南より



2 78区S E1535 東より



3 78区S E1549 南より



4 78区S E1545 南より



5 78区S E1565 西より



6 78区S E1552 北西より



1 78区 S D1522 南より



2 78区 S D1522木製品出土状況 北西より



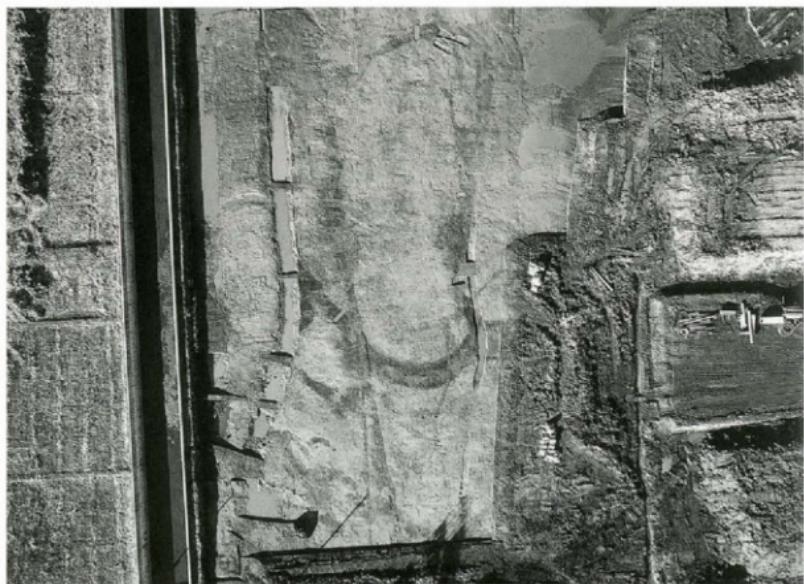
1 116区SK1622漆紙出土状況 南より



2 84区SB1408 東より



1 84区全景



2 78区南半部



227



228



229



249



250



254



255



282



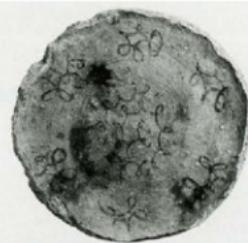
287



293



288



295

SX1351A・B・C出土土器 S : 2 / 5

図版35



298



316



318



320



地 (320)



320 (S: 1/1)



325

S X1351C出土土器 S : 2 / 5



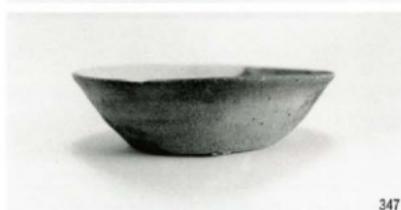
S X1351C出土土器 S : 2 / 5



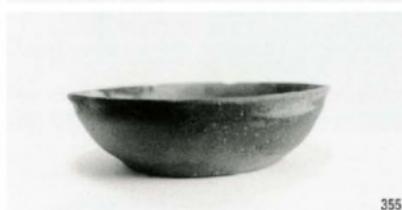
343



345



347



355



356



365



402



402 (S : 1/1)



402 (S : 1/1)

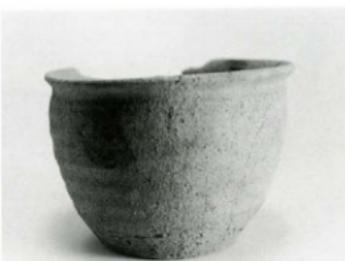


380

S X1351C出土土器 S : 2 / 5



375



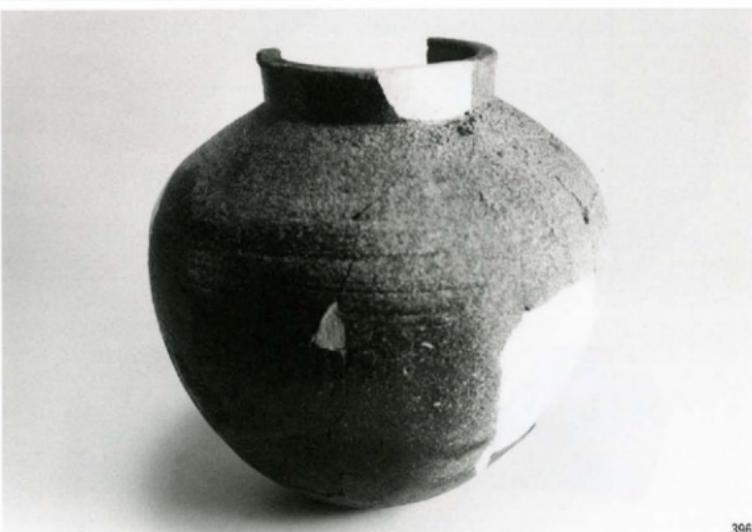
383



389



387



396

S X1351C 出土土器 S : 2 / 5

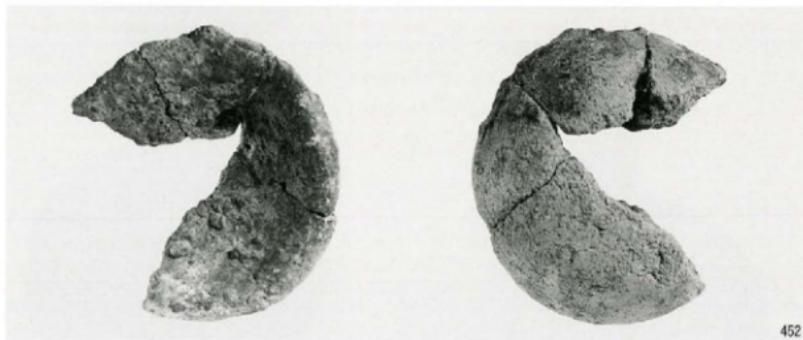
图版39



390



452



452



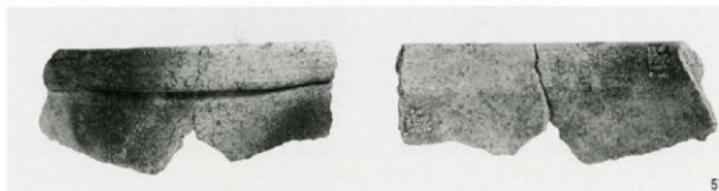
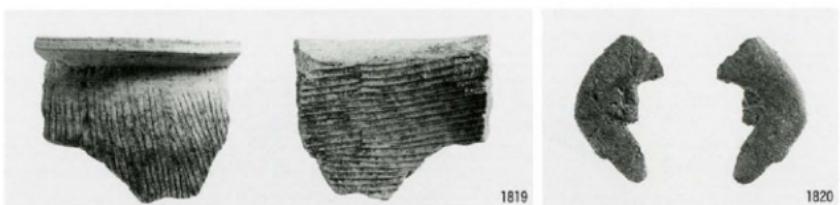
447



2188

2188

S X1351C · D出土土器 S : 2 / 5



S X1351D、SK1343出土遺物 S : 2 / 5

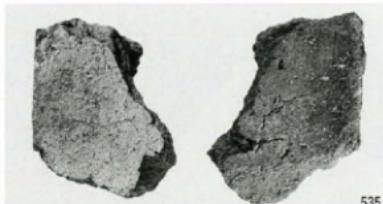
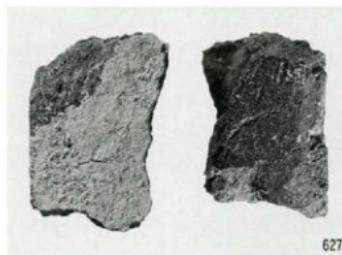
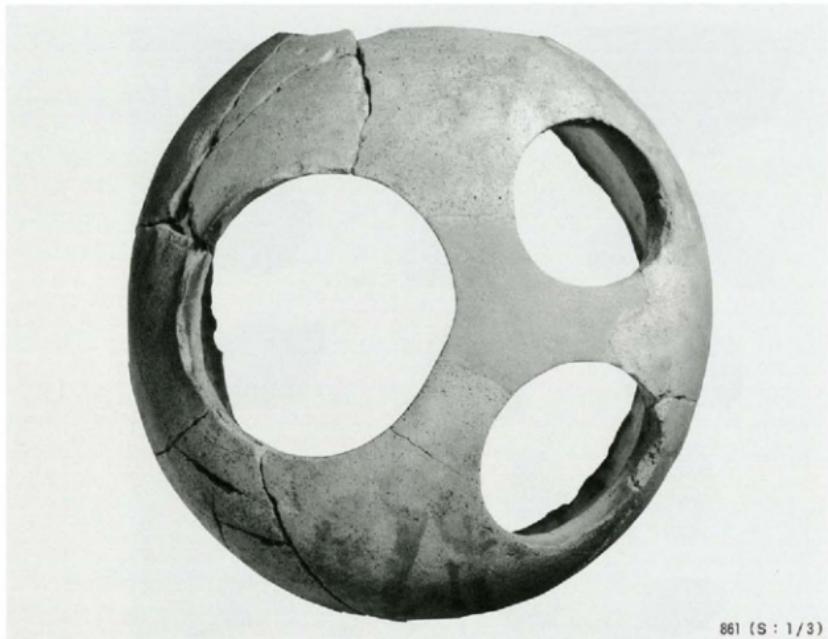


861

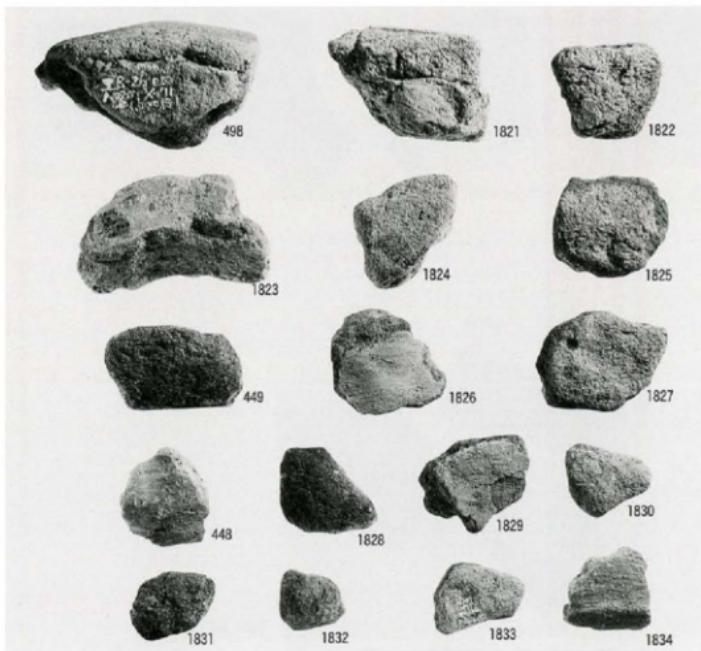
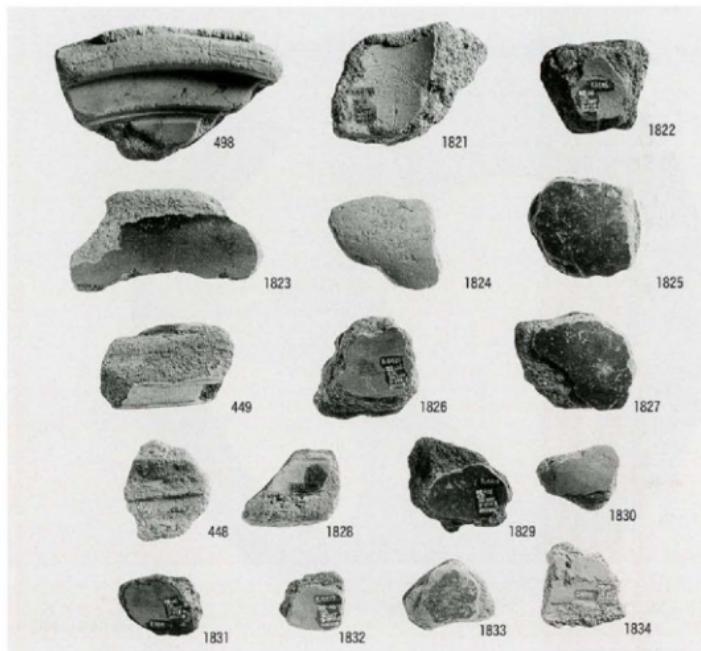


861

西半部遺構外出土遺物 S : 1 / 3



S X1351、S D1377、西半部遺構外出土遺物 S : 2 / 5



銅型 S : 2 / 5



446



444



444



444



444



670



670



670

西半部出土人面墨書き土器 1 S : 任意



669



671



665



672



672



666 (S : 1/3)



666 (S : 1/3)

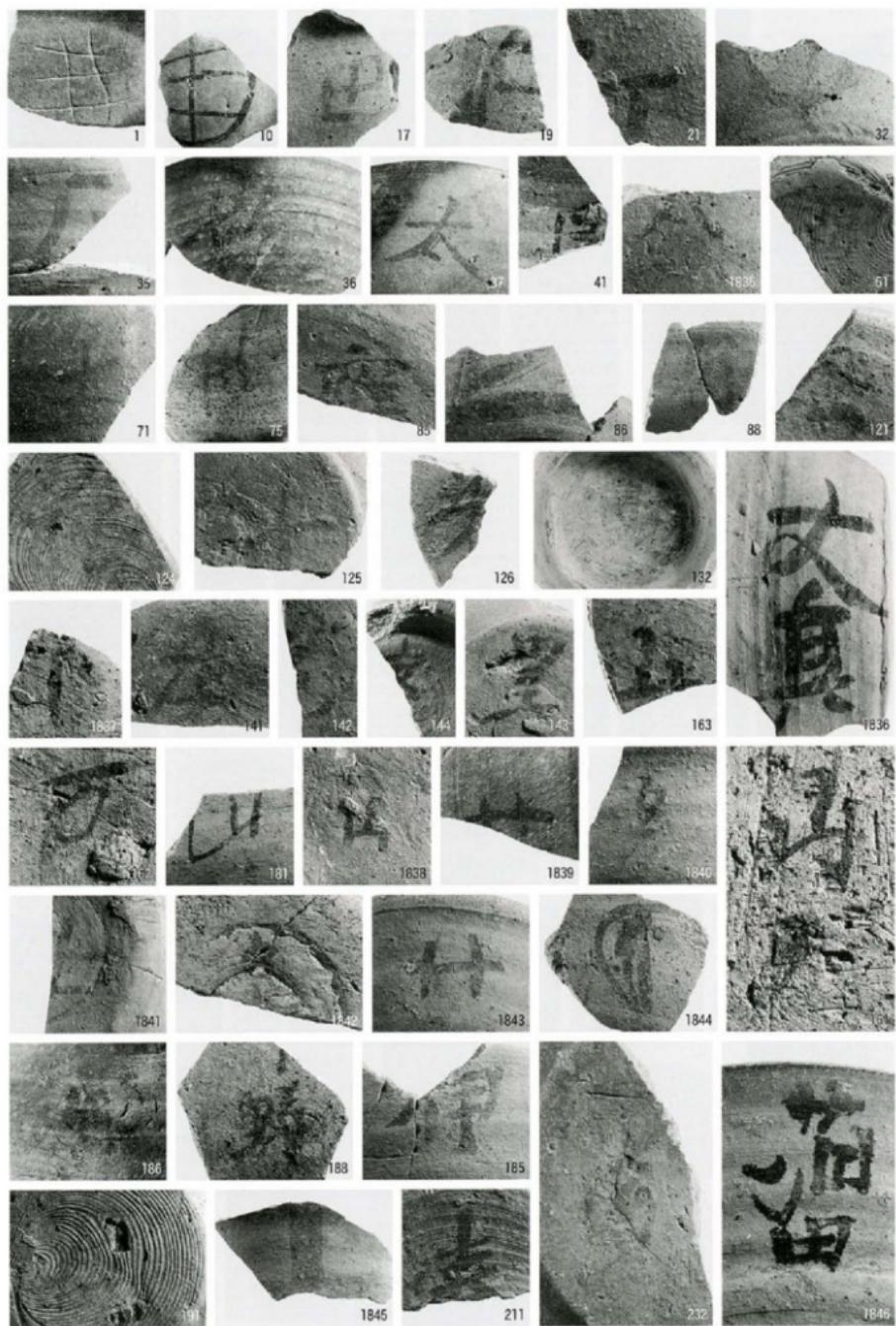


664

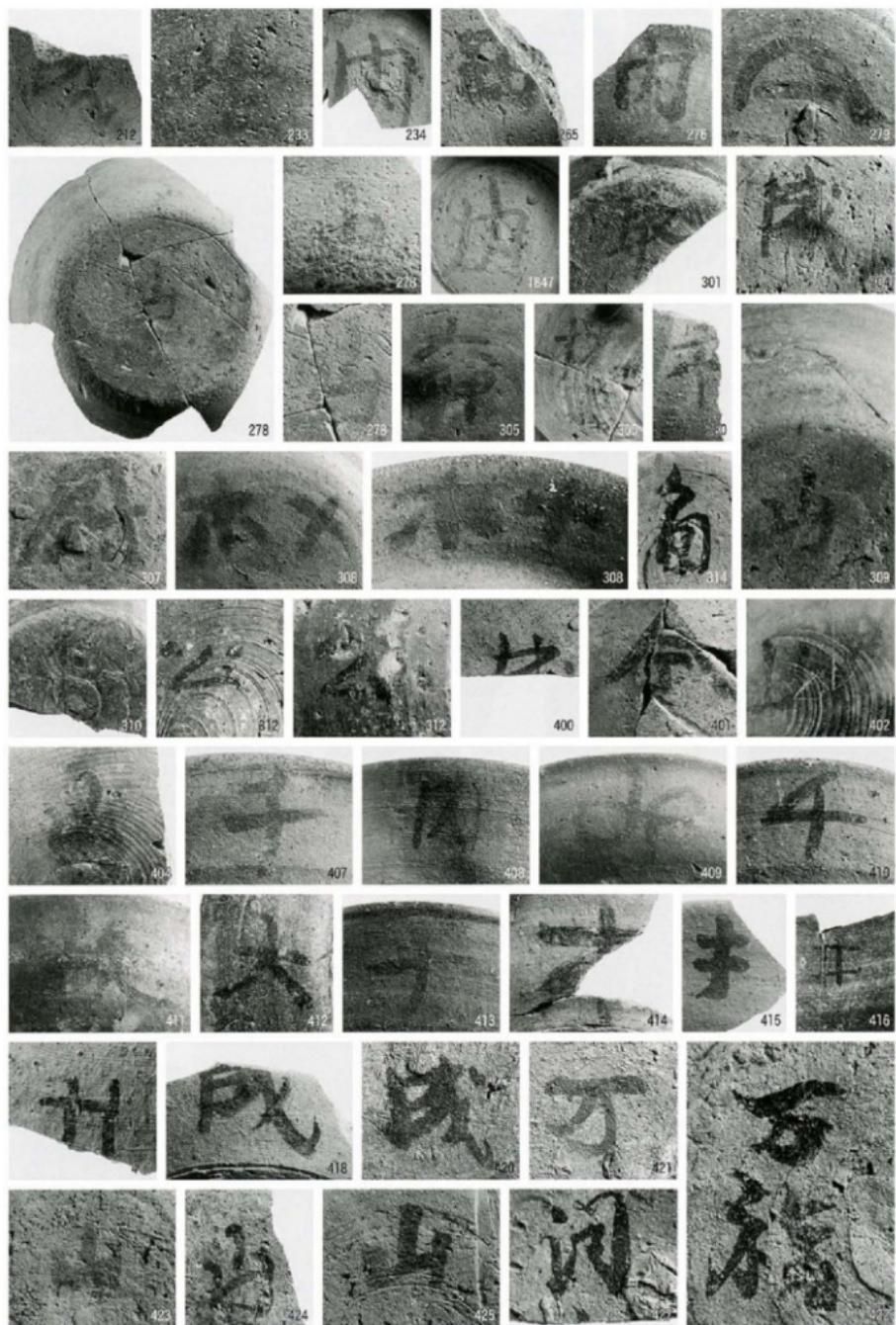


668

西半部出土人面焦書土器 2 S : 2 / 5

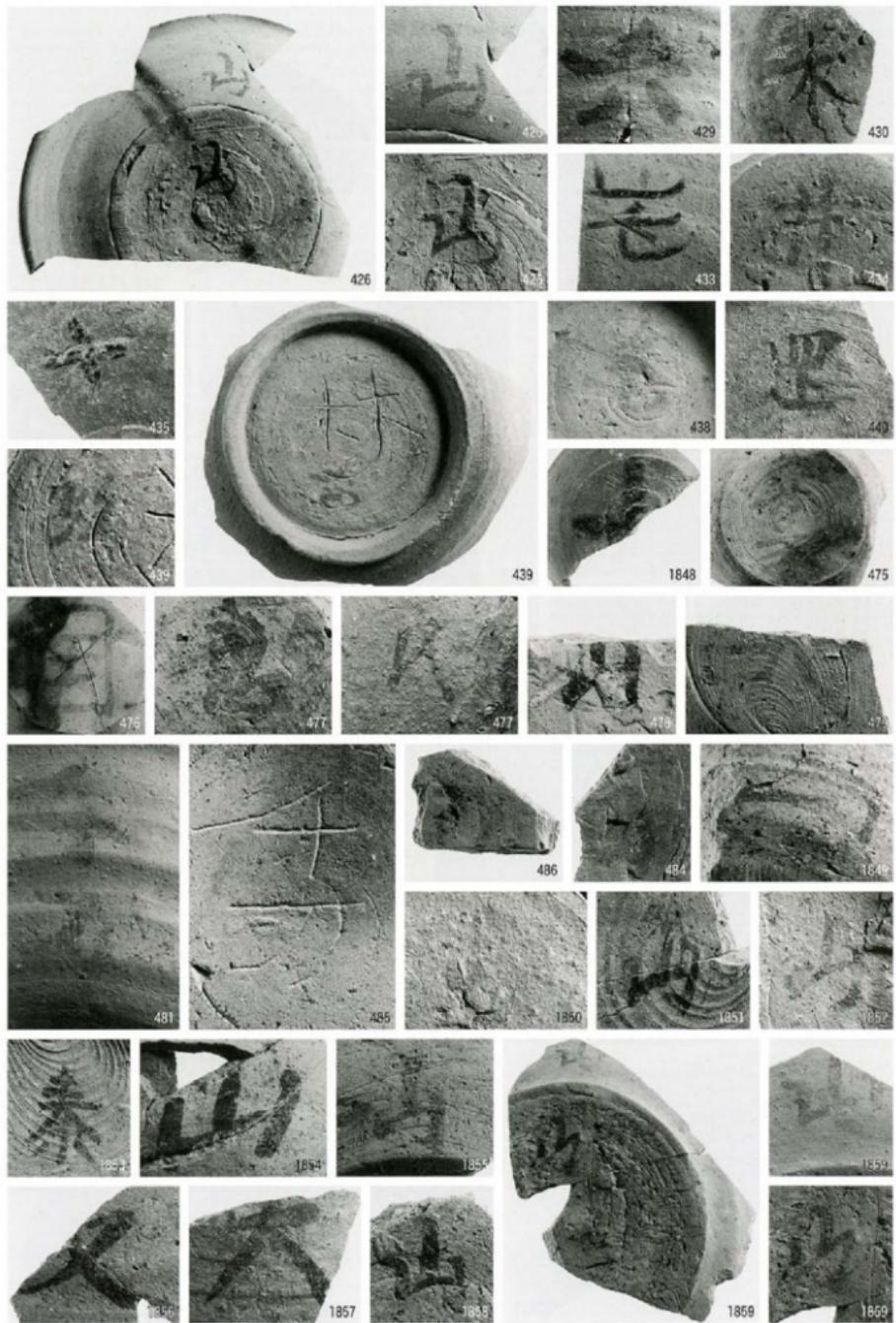


西半部出土墨書土器 1 S : 任意

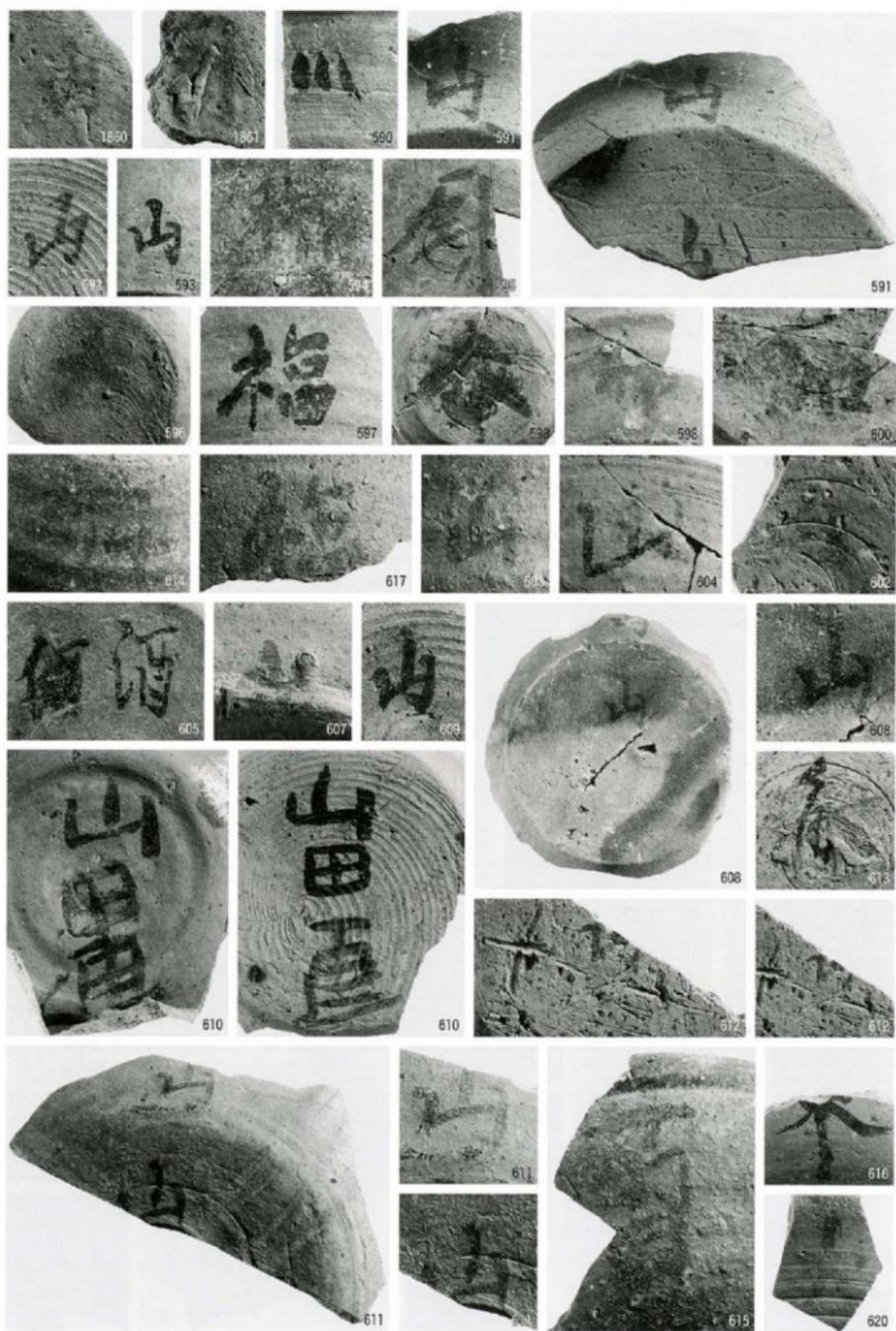


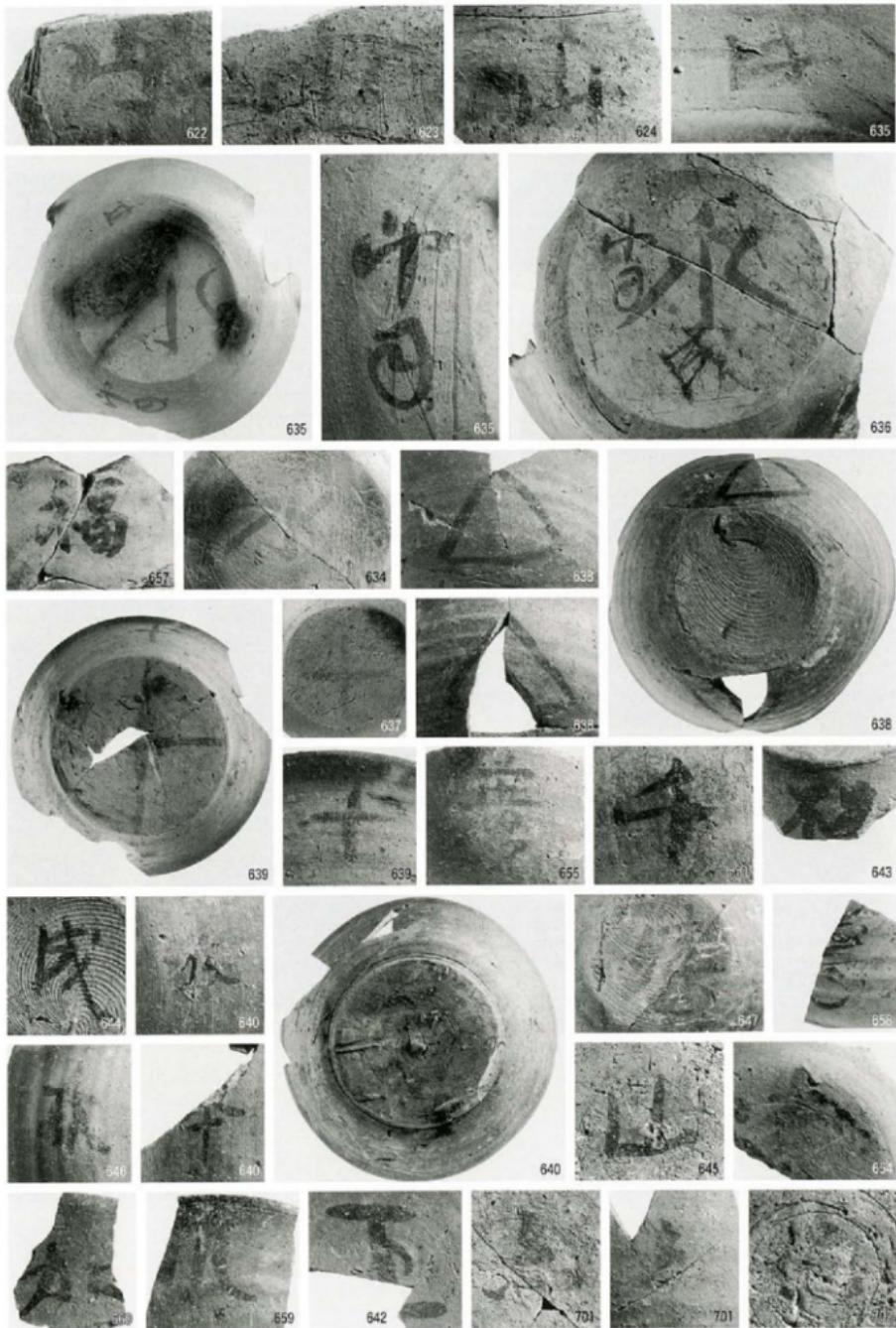
図版48

西半部出土墨書土器 2 S : 任意



西半部出土墨书土器 3 S : 任意





西半部出土墨书土器 5 S : 任意



西半部出土墨书土器 6 S : 任意



993



994



S I 1488出土土器 S : 1 / 4

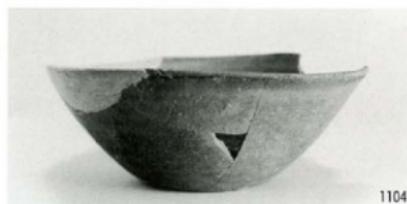
995



996 (S : 1/4)



991



1104



1116



1117

S 11488、SD1515出土土器 S : 2/5



1136



1137



1158



1165



1166



1171



1172



1176



1178



1180



1206



1237



1340

S D1515・1522・1501、S X1524出土土器 S : 2 / 5



1276



1386



1350



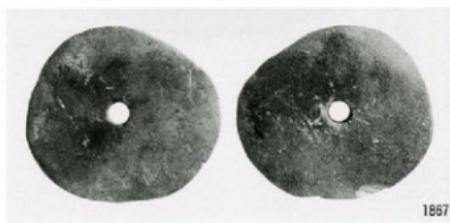
1388 (S : 1/1)



1388 (S : 1/1)



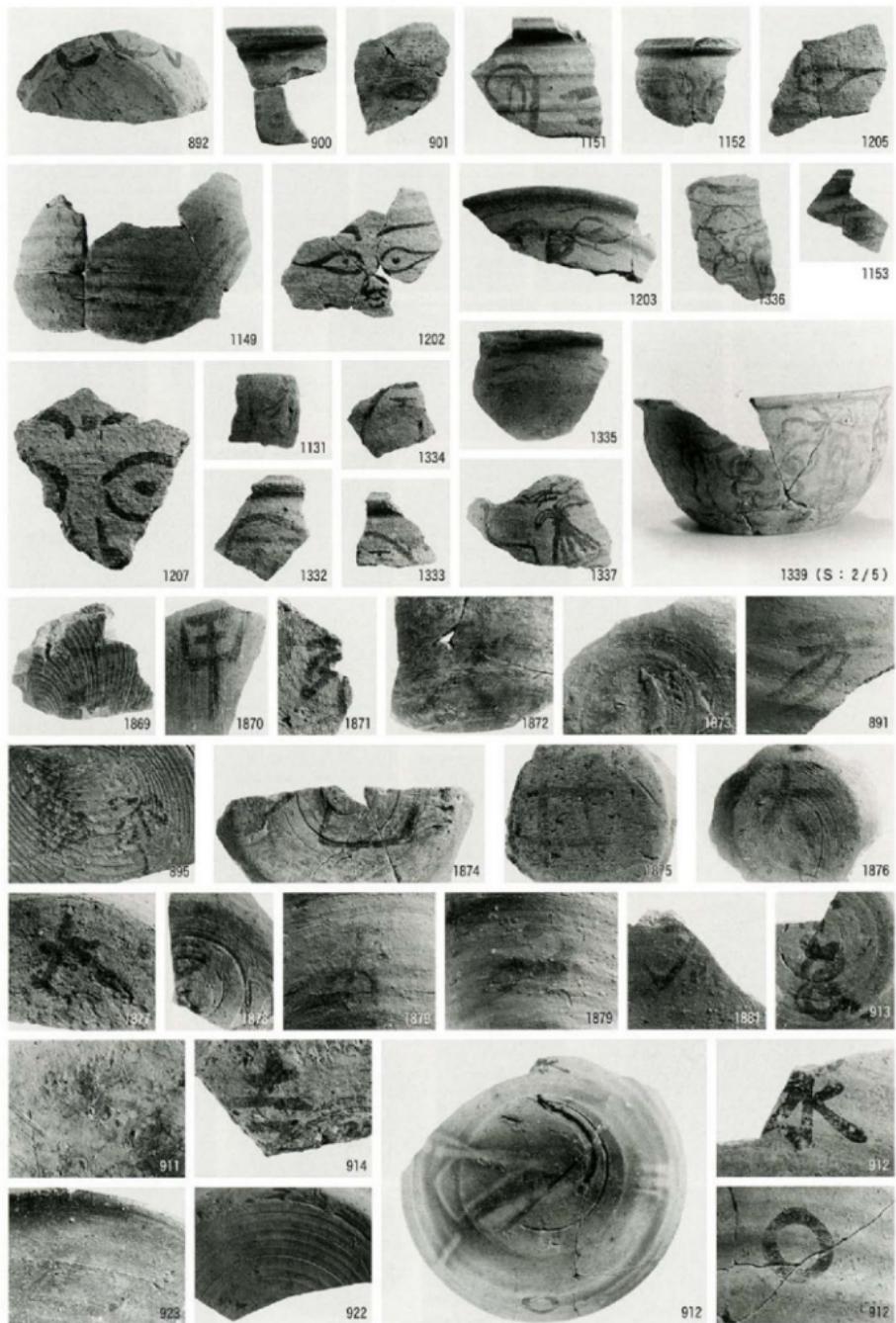
1388 (S : 1/1)



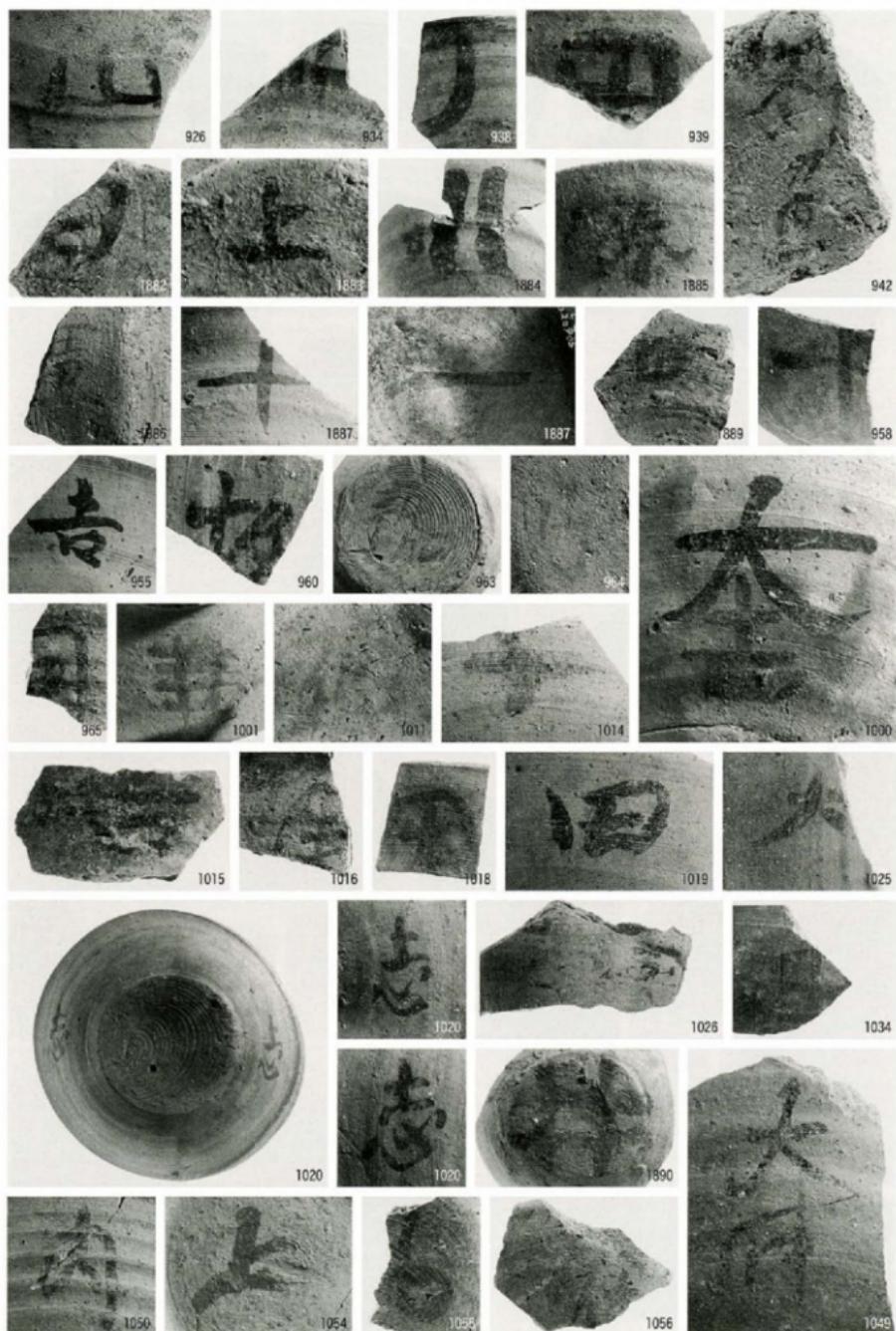
1867



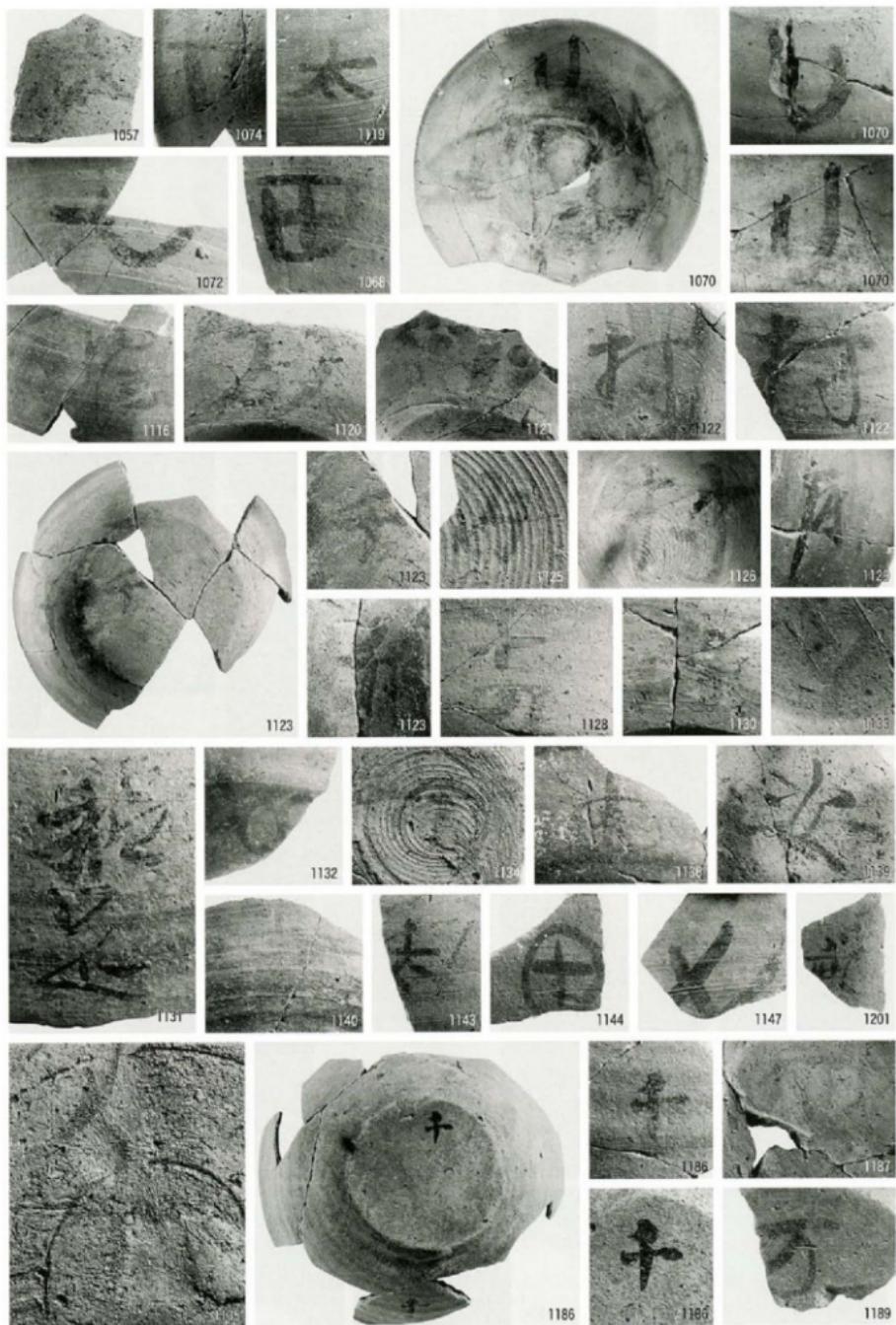
SD1536·1502、SK1571、遺構外出土遺物 S : 2/5



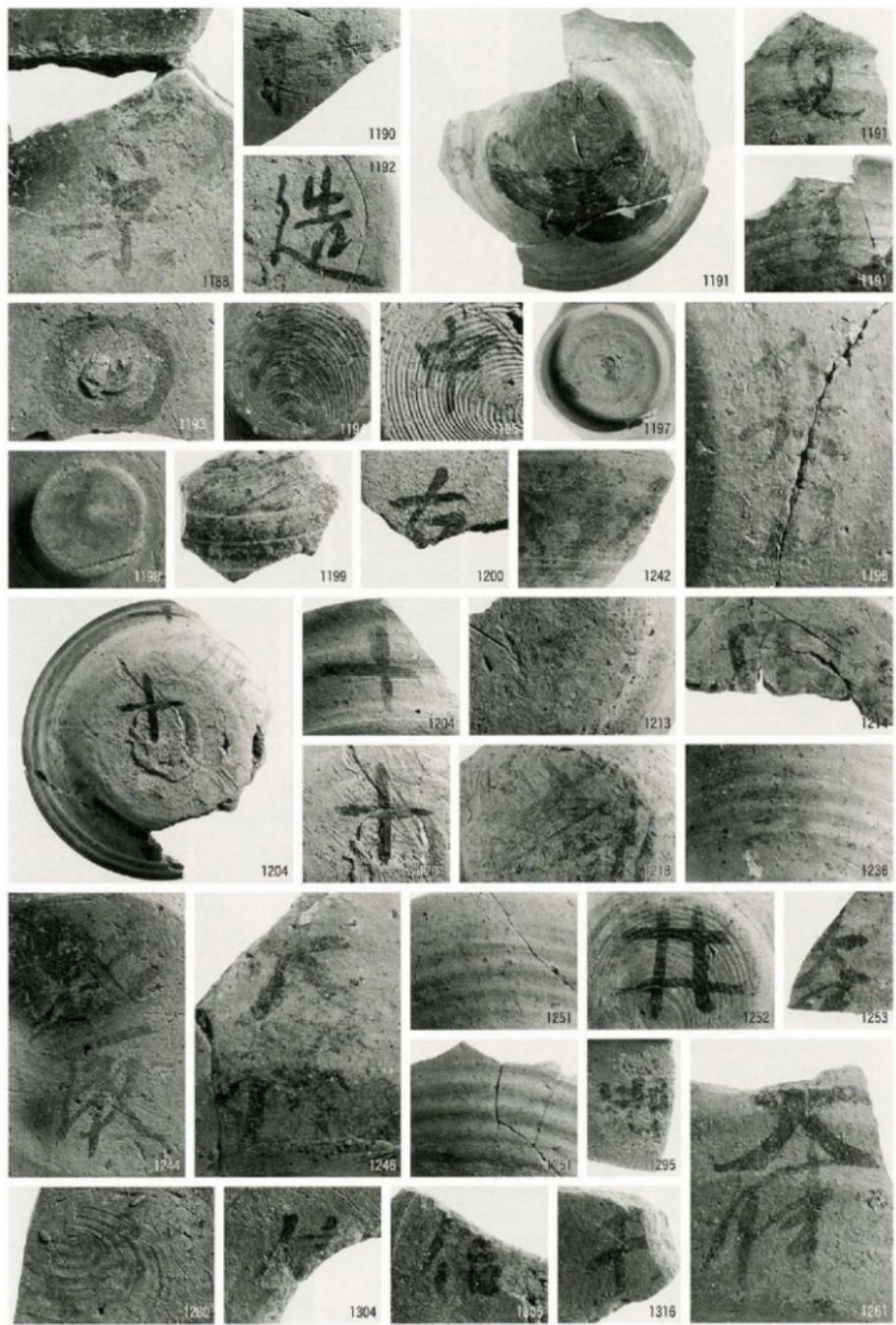
東半部出土墨書土器 1 S:任意



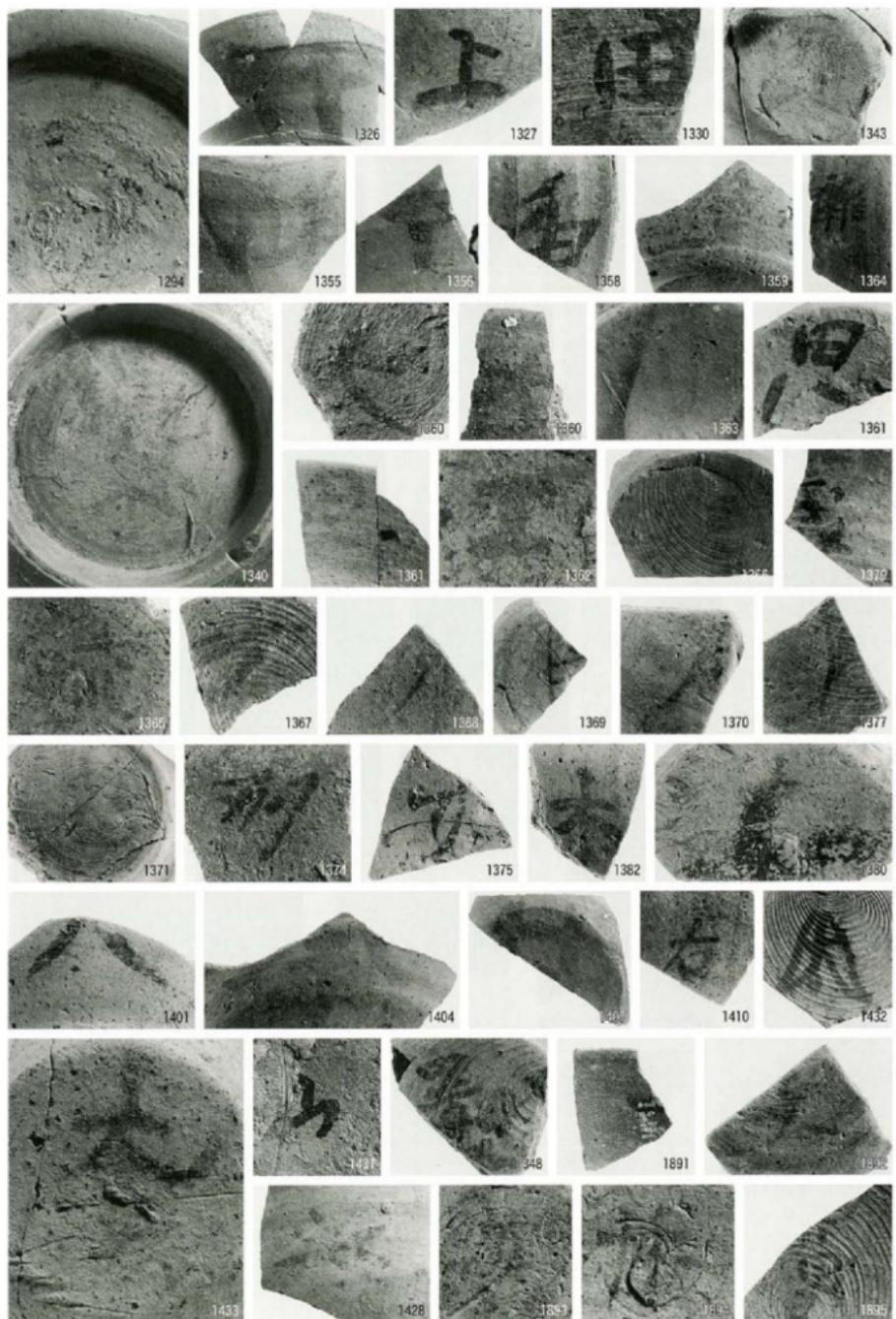
東半部出土墨書土器 2 S : 任意



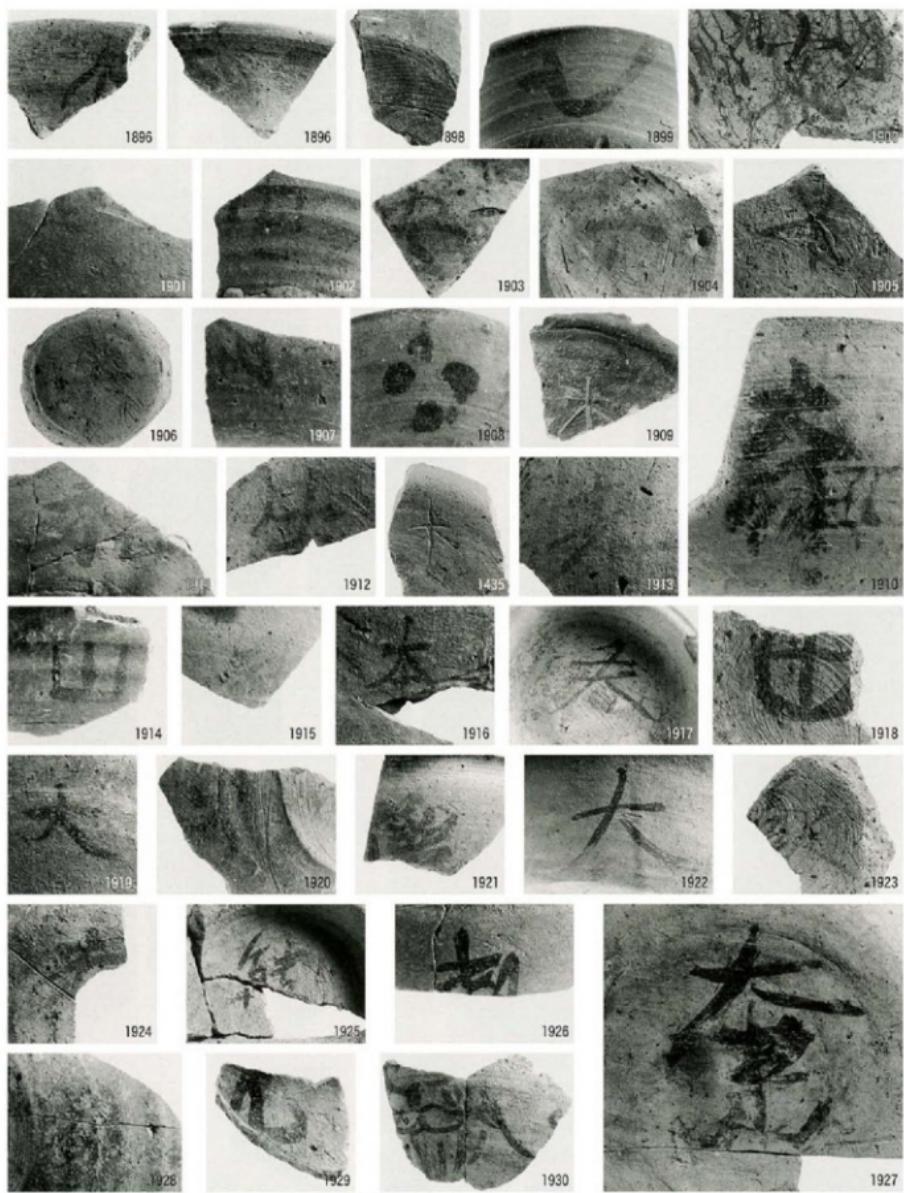
東半部出土墨書土器 3 S : 任意



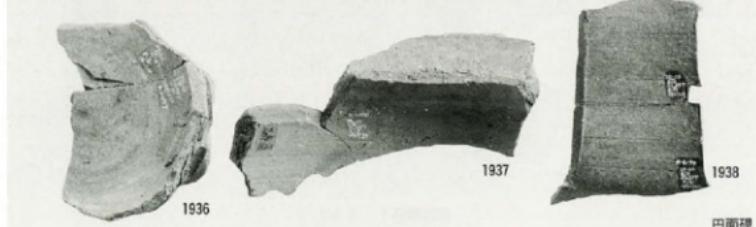
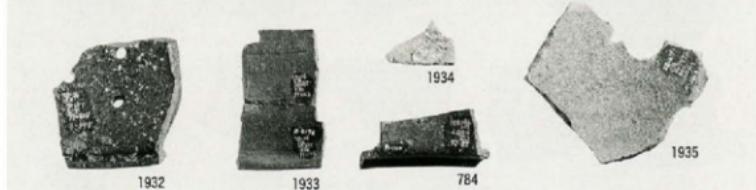
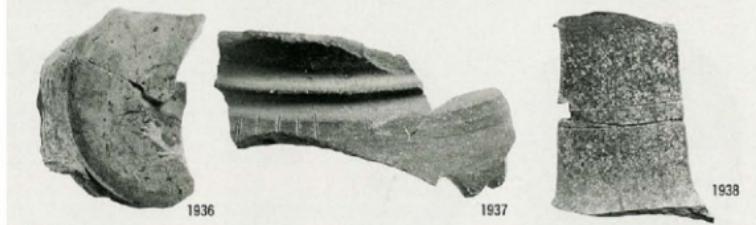
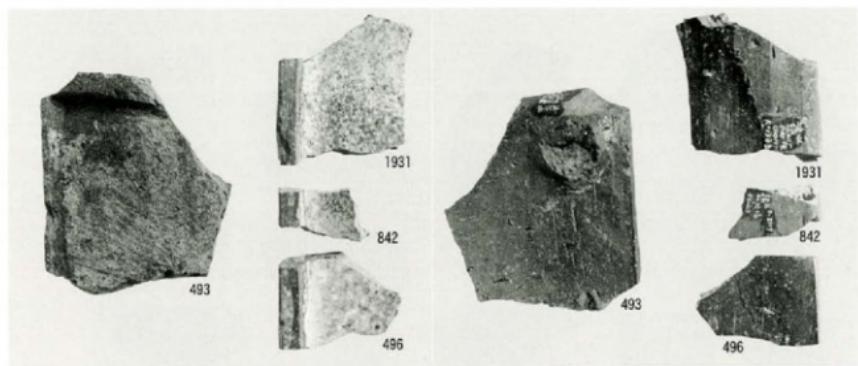
東半部出土墨書土器 4 S : 任意



東半部出土墨書土器 5 S : 任意

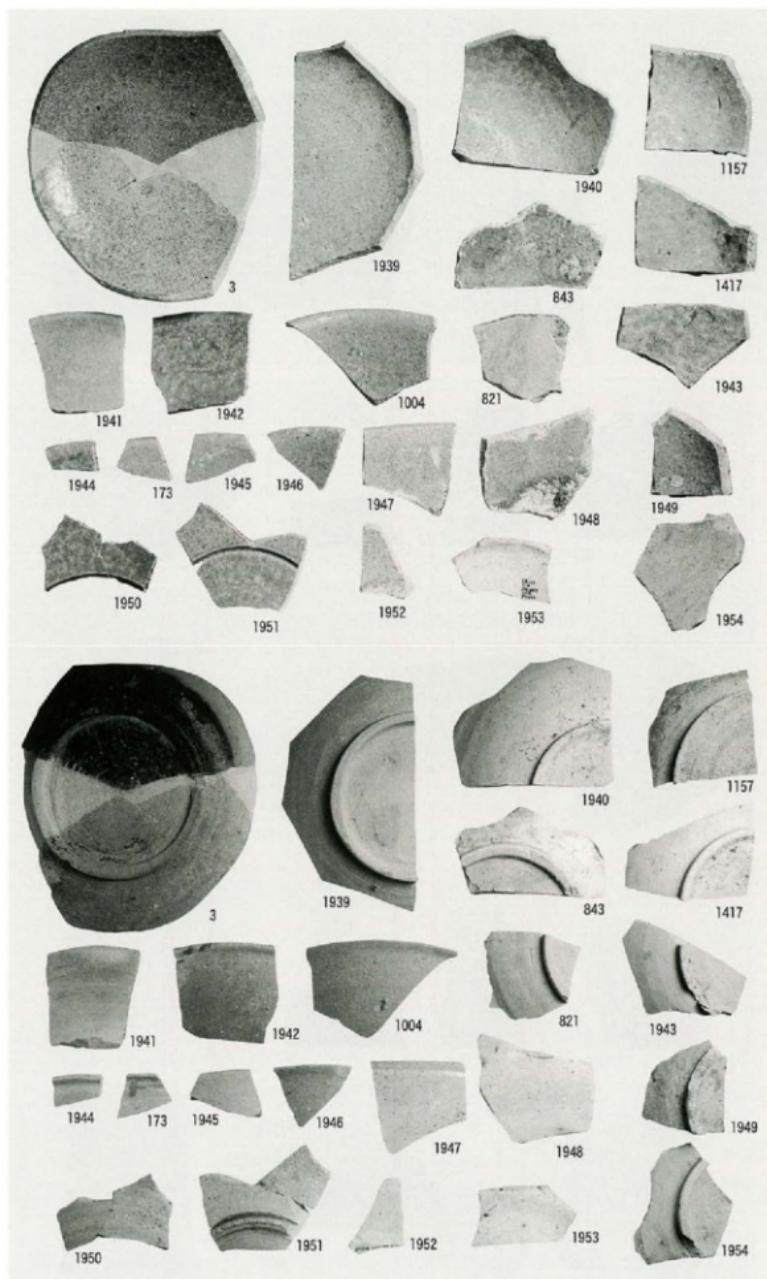


東半部出土墨書土器 6 S : 任意

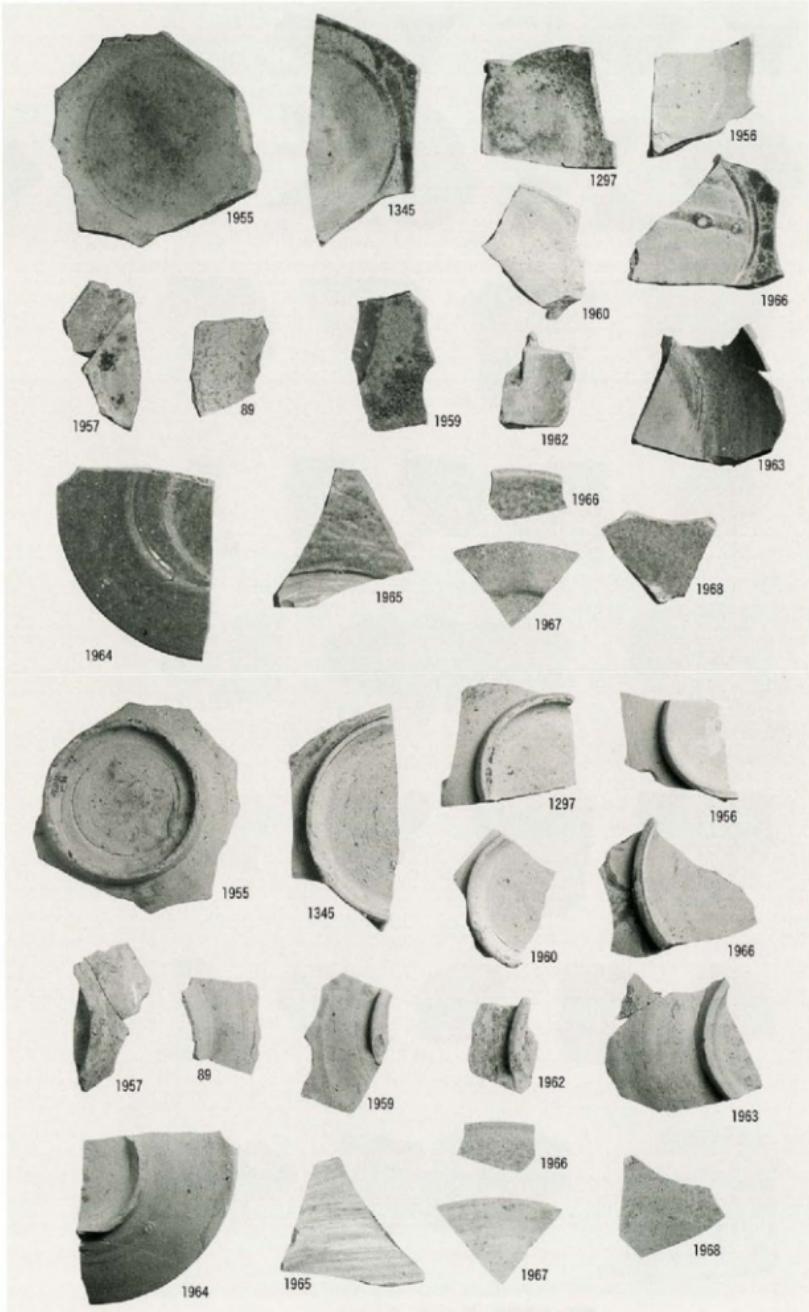


円面鏡・風字鏡 S : 1/2

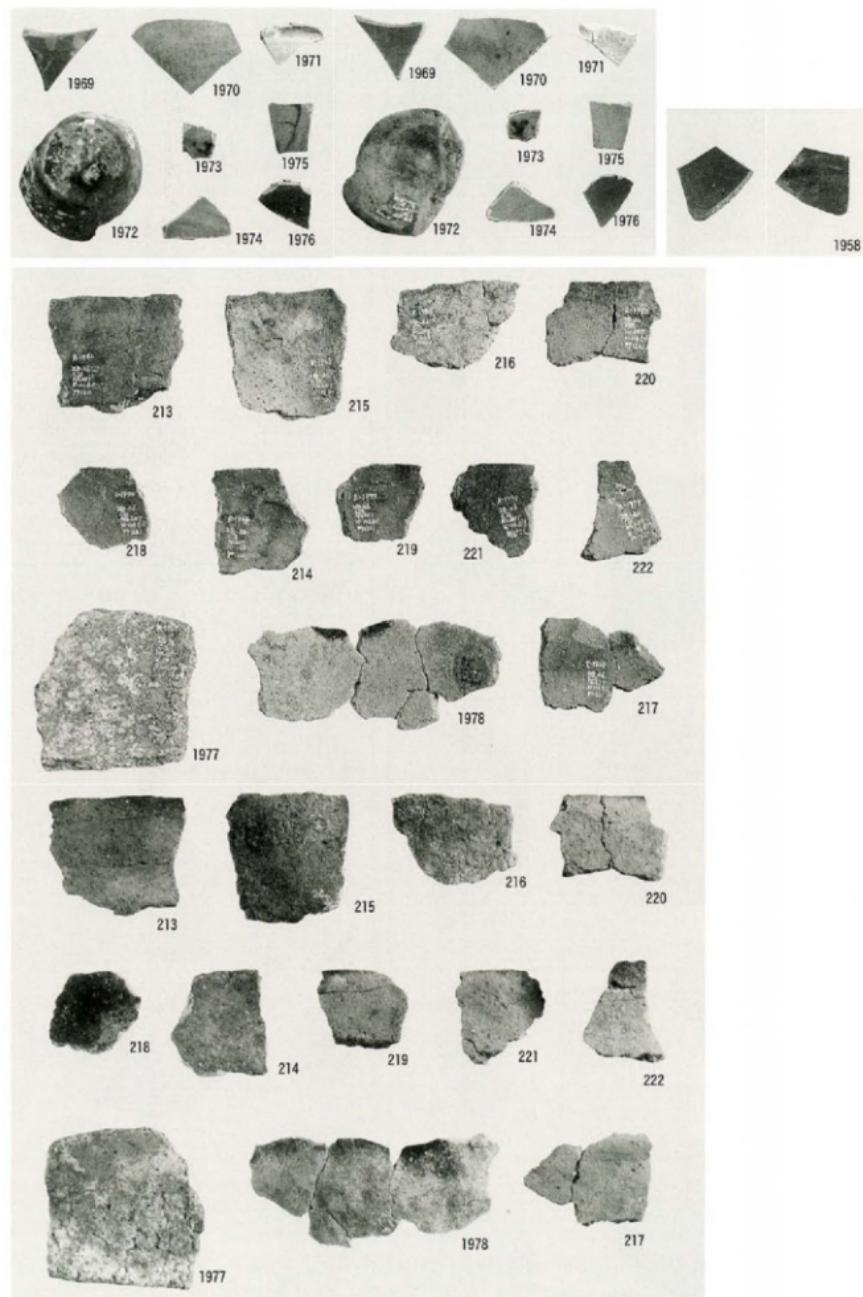
内面鏡



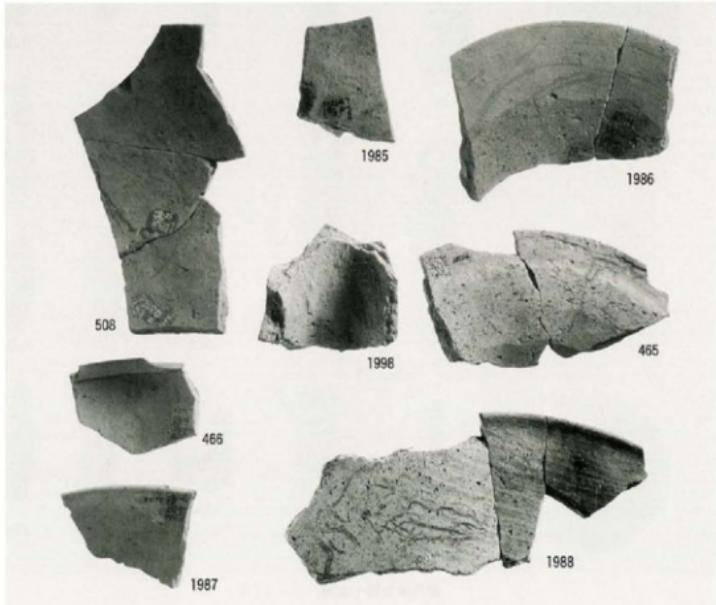
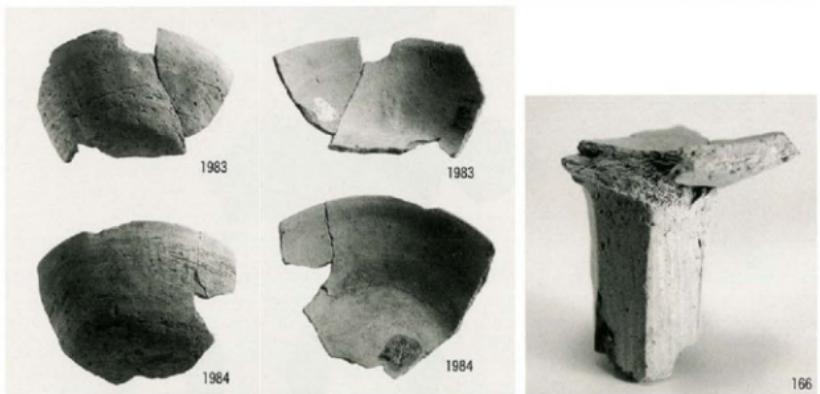
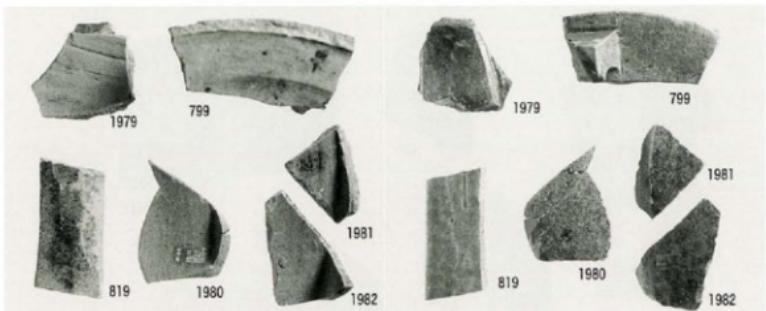
灰陶器 1 S : 2 / 5

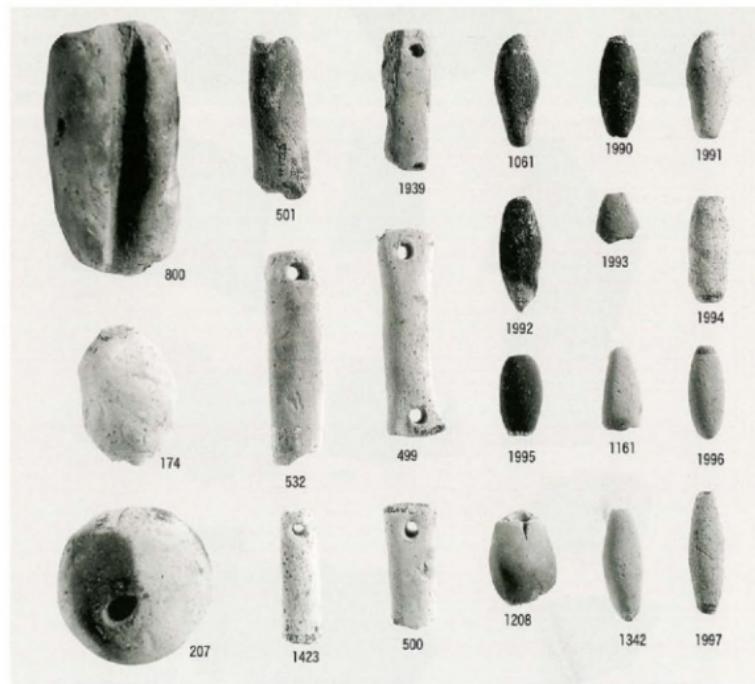
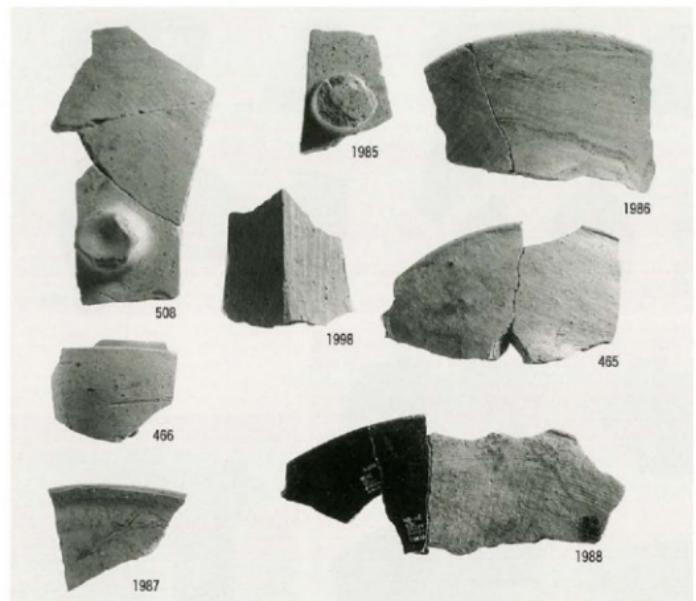


灰釉陶器 2 S : 2 / 5



青磁・綠釉陶器・製塙土器 S : 2 / 5





縄内系土器・土錐 S : 2 / 5



1410

1411



1442

1445



1462

1463

木製品1（挽物） S : 1 / 3



1464



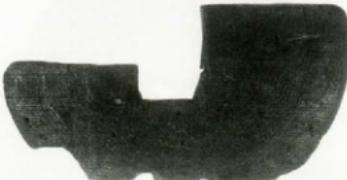
1631



1552

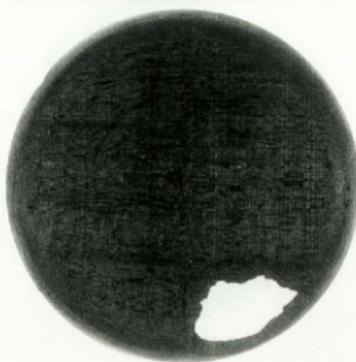


1556



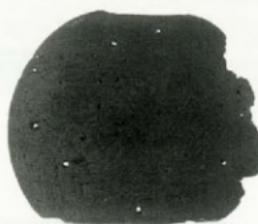
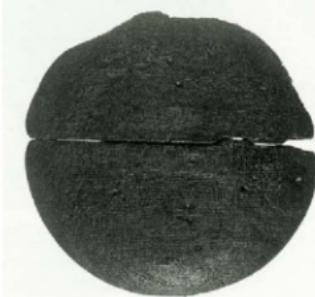
1558

木製品2(挽物) S: 1/3



1570

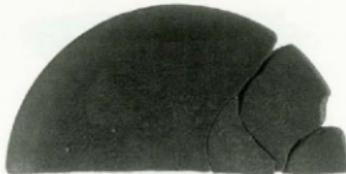
1700



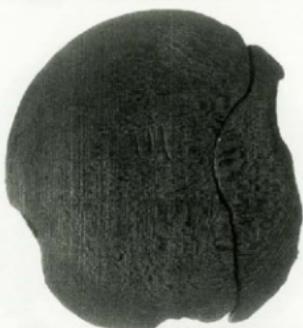
1738

1764

木製品3(挽物) S: 1/3



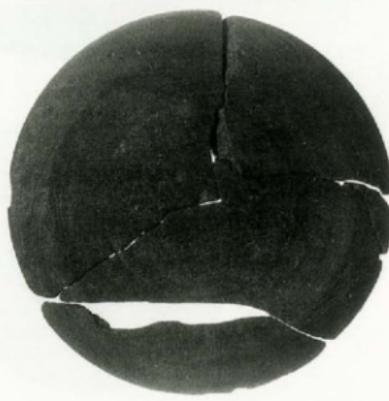
1740



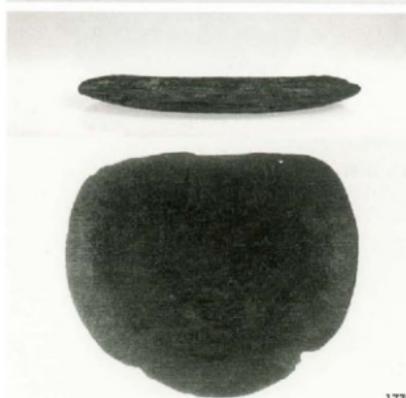
1660



1664



1647



1779

木製品 4 (挽物) S : 1 / 3



1519

1650



1466

1444



木製品5 (挽物) S : 1 / 3

圖版73

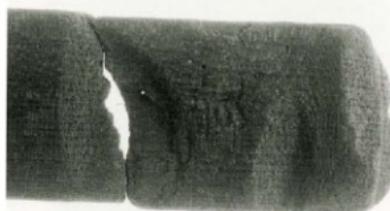
1468



1469



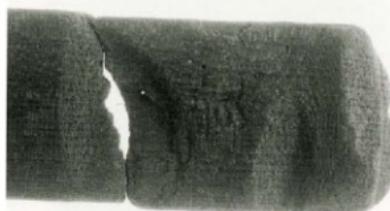
1562



1624-1



1624



1624-2



1706



1703



1708

木製品 6 (挽物) S : 1 / 3



1659

1741



1712

1660



1448



1446



1472



木製品7(挽物) S: 1 / 3



1696



1567



1603



1473-2 (S : 任意)

1473-1

木製品 8 (挽物) S : 1 / 3



1523



1447



1477



1478



1571



1645

木製品 9 (曲物) S : 1/3



1717



1716



1623



1525

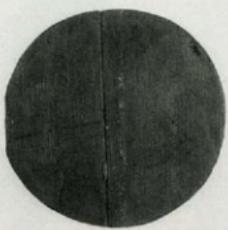


1524

木製品10（曲物） S : 1 / 3



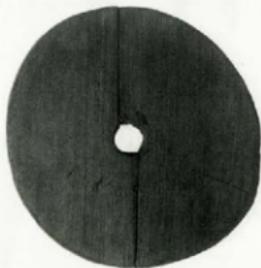
1672



1752



1671



1670



1755



1621



1649



1673

木製品11（曲物・指物） S : 1 / 3



1479



1480



1580



1613



1728



1652



1675



1758



1759



1497

1597

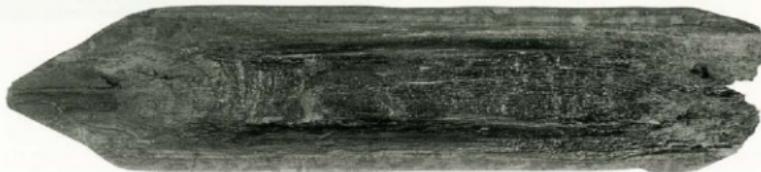


1759



1616

1815



1617

木製品12(形代) S : 1 / 3



1534



1535



1536



1538



1539



1540



1542



1451



1452



1453



1481



1482



1483



1484



1485



1486



1487



1488



1489



1490



1491



1550



1548



1634

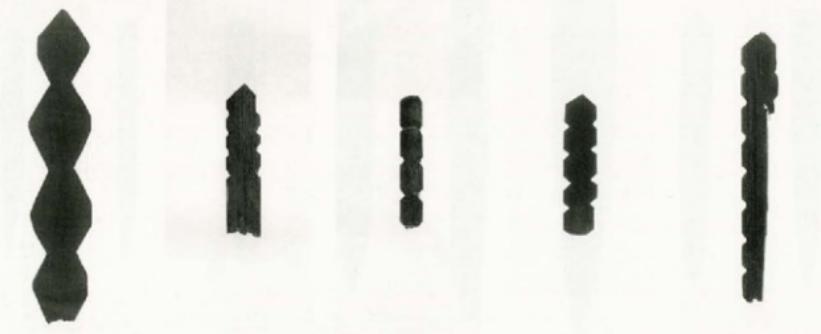
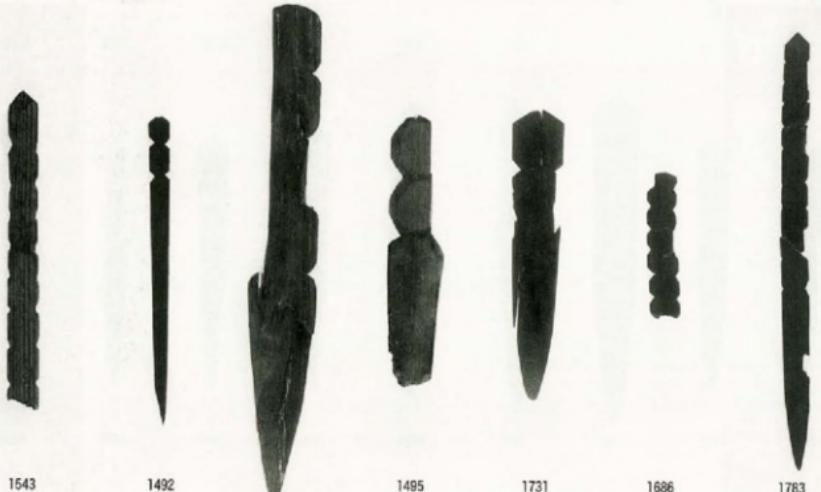
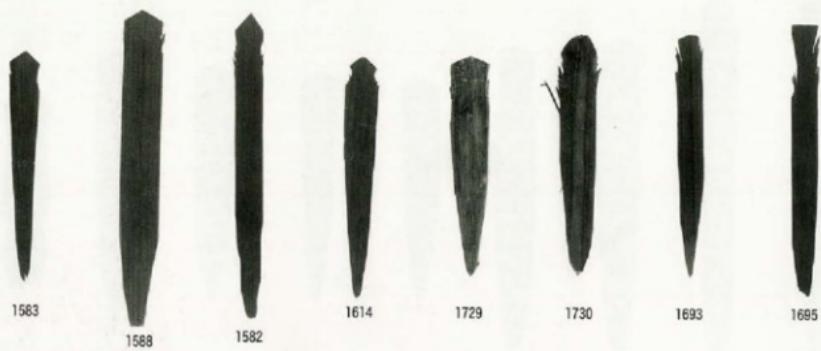


1635



1584

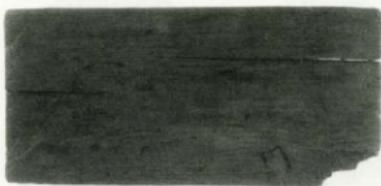
木製品13 (斎串) S : 1 / 3



木製品14(素串) S : 1 / 3



1757



1760



1638



1735

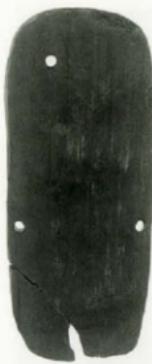
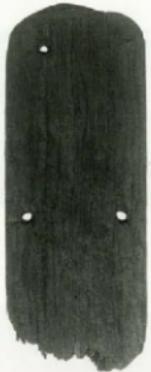


1687



1684

木製品15（絵馬・横笛・花形漆塗製品） S : 1 / 3



1509

1549



1643

1676

木製品16（下駄） S : 1 / 3
1598



1502



1503



1504



1528



1609



1604



1531



1501



1529



1532



1499



1652



1656



1657



1782

木製品17 (ヘラ状木製品・鍤柄・火鏡臼・錐 ほか) S : 1 / 3



木製品18(錐) S : 1 / 3

1690



1533



1611



1639



1625



1508



1677



1697



1551



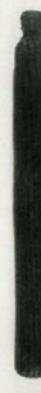
1761



1547



1619



1530



1454



1579



1648



1685



1655

木製品19（櫛・檜扇・刀子柄・紡錘車 ほか） S : 1 / 3



1698

木製品20 (曲物把手) S : 1 / 3

1699



1688



1620



1689



木製品21（残・不明品） S : 1 / 3



1808



1804

1800



1806



1809

1807



1816

1815



1794

1793



1795

1791



1786



1803



1797



1813



1811

1805



1785



1802



1787



1790



1788



1789

金属製品 S : 1 / 3 (1787・1790・1788・1789はS : 1 / 2)

第二六〇二九次調査（C区）出土木簡について

国立歴史民俗博物館
中央大学大学院
廣瀬 真理子
平川 南

凡例

一、积文に加えた符号は以下の通りである。（『木簡研究』より抜粋）

「」 木簡の上端・下端が原形をとどめていることを示す。
< 木簡の上端・下端などに切り込みのあることを示す。

○ 穿孔のあることを示す。

□□□ 欠損文字のうち、字数の数えられないもの。

□□ 欠損文字のうち、字数の数えられるもの。

『』 異筆・追筆であることを示す。

〔〕 校訂に関する注で、原則として积文の右傍に付し、本文に

置き換えるべき文字を含む場合。

カ 筆者、編者が加えた注で疑問の残るもの。

…… 同一本簡と推定されるが、折損などにより直接つながらず、

中間の文字が不明なもの。

一、各木簡については、法量（長さ・幅・厚さ）。欠損している場合は括弧付きで示す）、型式、出土遺構及び層位をまず記載し、続いて积文、形状を述べ、適宜解釈を加えた。出土遺構の詳細については本編を参照されたい。

一、型式番号は以下の通りである。（『木簡研究』より抜粋）

011 短冊形。

015 短冊形で、側面に孔を穿つたもの。

019 一端が方頭で他端は折損・腐食で原形が失われたもの。

031 長方形の材の両端の左右に切り込みを入れたもの。

032 長方形の材の一端の左右に切り込みを入れたもの。

033 長方形の材の一端の左右に切り込みを入れ、他端を尖らせたもの。

039 長方形の材の一端の左右に切り込みがあるが、他端は折損あるいは腐食して不明なもの。

061 用途の明瞭な木製品に墨書きのあるもの。

065 用途未詳の木製品に墨書きのあるもの。

081 折損・腐食その他によって原形の判明しないもの。

091 前肩。

一、写真および実測図の縮尺は約1/2である。写真は多賀城市埋蔵文化財調査センターで撮影し、実測図は同センターと廣瀬が共同で作成した。腐食その他によつて墨書きの詳細が不明なものについては、形状のみの実測としたものもある。

一、センター発行の略報や木簡学会『木簡研究』などで既報告のものもあるが、報告内容が異なる場合は本報告内容が優先するものとする。

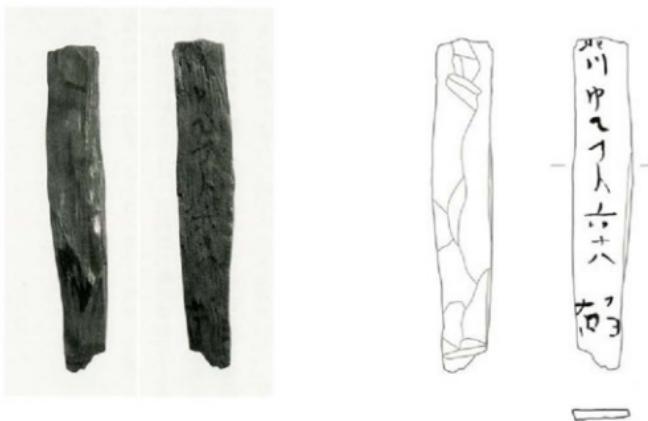
木簡の解説にあたつて、新井重行氏（東京大学大学院）、石崎高臣氏（岩手県文化振興事業団文化財センター）に協力いただいた。ここに記して感謝の意を表したい。

第八号木簡 (130) × (23) × 4 081 SD1614d-2層

□川部乙万呂六十八



上端・下端および左右両側面いずれも欠損する。オモテ・ウラ両面ともに表面が平滑に調整されているが、オモテ面にのみ墨痕を確認することができる。
人名と数字を記し、その下に割書している。「六十八」を年齢とみると、割書部分は年齢区分と身体的特徴などと想定できよう。六十八歳は耆老。



第8号木簡

第九号木簡 133×24×6 033 SD1616d-1層

- ・「延」
- ・「年」
- ・「延年」
- ・「内子」

完形。材の遺存状態は良好だが、墨痕はわずかに確認できる程度である。

オモテ面は下方にのみ墨痕が確認できるが、判読は困難である。

ウラ面の墨痕もわずかであるが、残画から「延暦」と判読した。年次は横画二本と縦画があり、「七」ないし「廿」であると思われるが断定は難しい。延暦七年は七八八年、同二十年は八〇一年にあたる。

第一一號木簡 52×15×5 032 SD1614c-2層

- ・「卅五」
- ・「内子」

完形。オモテ面は下端を面取りする。

鮭三十隻の付札。「内子」は「ココモリノサケ」と訓じる。

「内子」の付札の例としては、新潟県八幡林遺跡出土木簡がある。「内子五隻」と墨書きされたもので、法量は(一四五)×二九×三〇三三型式である(第二八号木簡)。『和島村埋蔵文化財調査報告書第三集 八幡林遺跡』(一九九四年)。また、「内子」の文言はないが、「卅五隻」と墨書きされた鮭と見られる付札も同遺跡から出土している(第五七号木簡)。

『和島村埋蔵文化財調査報告書第二集 八幡林遺跡』(一九九三年)。いずれも長さ一六〇mm前後であり、他の付札に比べて小さい。本木簡も五二三の非常に小型の付札であり、「内子」付札の特徴かもしれない。

第一〇号木簡 (155)×31×9 039 SD1614c-2層

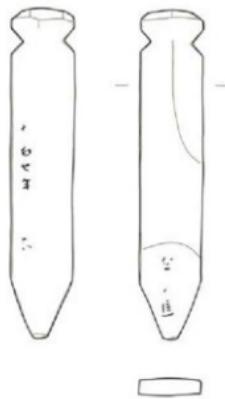
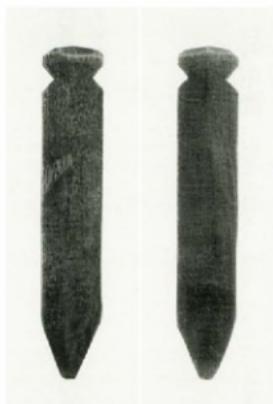
- 〔買カ〕
- 「進」
- 「米」
- 「七斗」

上端は山形に成形し、下端は欠損する。左右両側面は原形をとどめる。ウラ面は無調整であるが切り込み部より上を斜めに削っている。上三文字は墨痕が薄く、下三文字は墨痕が明瞭である。

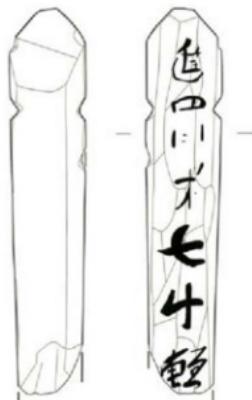
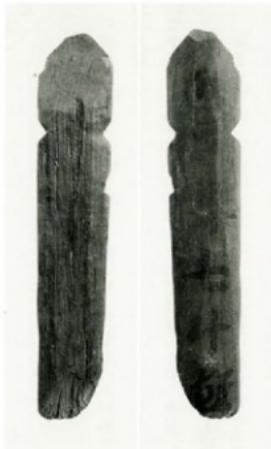
米七斗の付札。二文字目を「買」とみれば、本木簡は買米を進上したものと考えられる。



第11号木簡



第9号木筒



第10号木筒

第一一一号木簡 (139) × 35 × 6 039 SD1614c-1層

「▽

下端は欠損するが、上端および左右両側面は原形をとどめる。墨痕は確認できない。

第一一一号木簡 (106) × 22 × 5 019 SD1614c-2層

「一斗 11

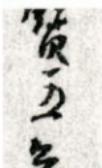
六片接合。上端は原形をとどめ、面取り加工がなされている。下端は欠損する。左右両側面は原形をとどめる。オモテ面のみ表面が平滑に調整されている。他に接合しない三片がある。

第一四号木簡 (139) × (19) × 4 081 SD1632-1層

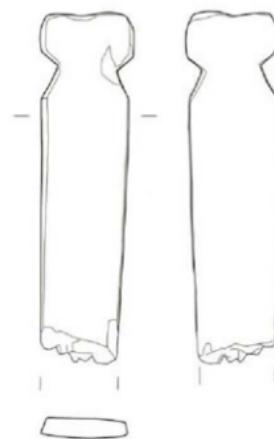
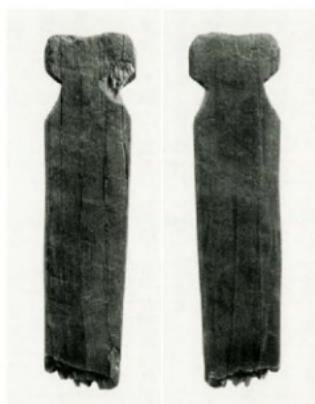
三丈 去□

11片接合。上端・下端ともに欠損する。左側面のみ原形をとどめ、右側面は欠損する。

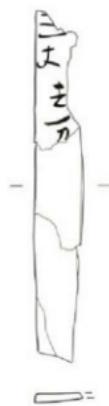
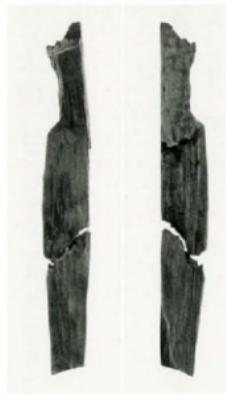
四文字目は上部が半存するのみで断定は難しいが、残画から判断すると「五」に類似する。「五」とみると「去五年料」の意とも解されるであろう。参考までに『正倉院文書』の「五」の類似した字形を掲げておく。なお、左側に縦画があるよう見えるが、材の剥離痕による影である。



『正倉院文書拾遺』所収
「写書所解」(拡大)



第12号木簡



第14号木簡

第13号木簡

第一五号木簡 (134) × (33) × 2 081 SD1614c・1層

- ・「□□宿」
- ・「文様」

三片接合。上端・下端ともに欠損する。右側面のみ原形をとどめ、左側面は欠損する。他に接合しない三片がある。

墨痕は両面に確認でき、筆跡は二種類ある。一つは、オモテ面の左半およびウラ面の左半にみえる文様のよろなもので、表裏ともその形状は類似している。ウラ面の左側面（オモテ面の右側面）は原形をとどめるが文様は切られている。したがって、文様を持つ木製品を木簡に転用したものと考えられるが、その用途は不明である。

第一七号木簡 (74) × (9) × 4 081 SD782d・1層

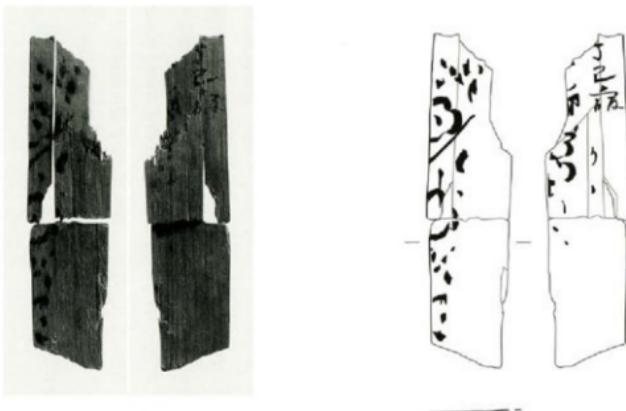


上端・下端ともに欠損する。左右両側面は原形をとどめる。オモテ・ウラ両面ともに表面が平滑に調整されている。墨痕は二文字分確認できわれるが、内容は不明とせざるを得ない。

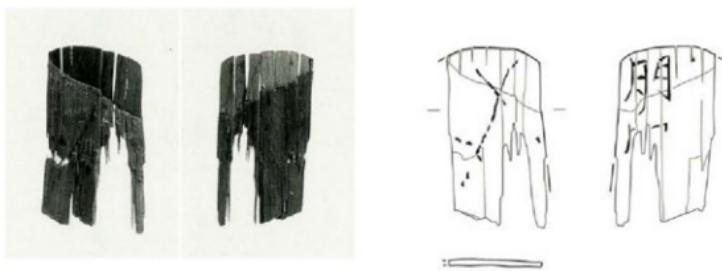
第一六号木簡 (71) × (39) × 2 081 SD1614c・1層

- ・「□□□」
- ・「□□」

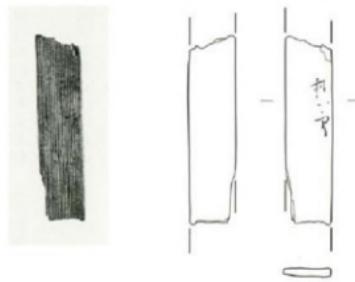
腐食が甚だしいが、上端および左側面は原形をとどめる。
オモテ面一字目は「朋」あるいは「明」か。



第15号木簡



第16号木簡



第17号木簡

第一八号木簡 (113)×46×6 019 SX1524・1層

「山作夫差人事 合□」

二片接合。下端は欠損している。オモテ面のみ表面が平滑に調整されている。曲物の材を転用したものである。

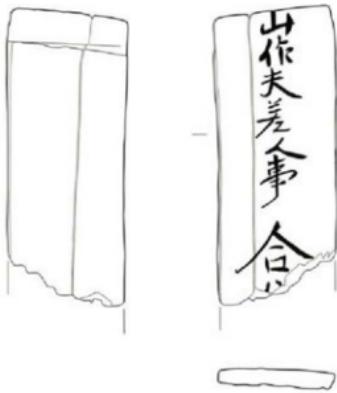
人夫差発に關わる文書木簡。「山作夫」の「山作」は正倉院文書にみえる天平宝字六年の石山寺造営に關わった「山作所」が参考となろう。例えば田上山作所には、監督者である領と、その下に司工、鉄工、雇工、様工、仕丁、雇夫などがある。本木簡における「山作」も多賀城ないしその周辺施設の造営・建築に關わるものであり、その人夫（夫）差發に關わる木簡であるといえるであろう。

第一九号木簡 (313)×23×8 081 SX1600C・1層

進上○□□○ ○○○○○」

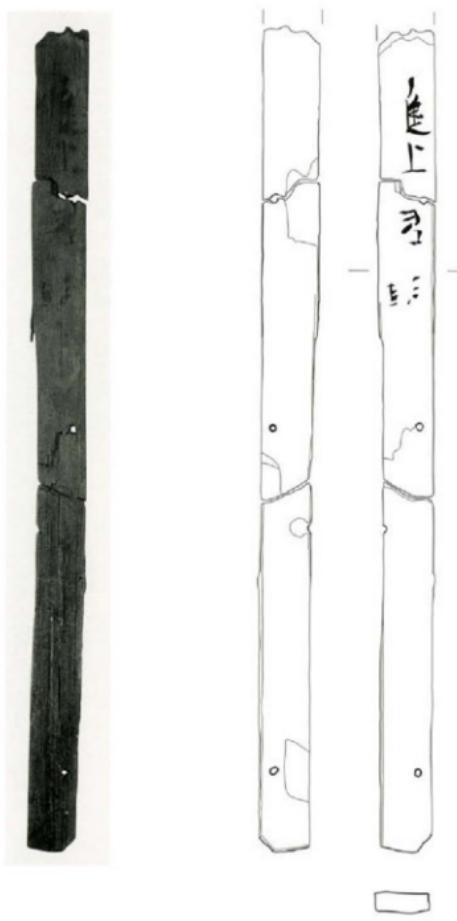
三片接合。上端は欠損し、下端は原形をとどめる。左右両側面は第二片の一部が完存している。オモテ・ウラ両面とともに表面が平滑に調整されている。ただしオモテ面については第二孔より下部、ウラ面は第一片と第二片の上部が削られている。穿孔が四カ所あるが、木簡廃棄後のものか。

内容は「進上」の二文字しか確認できないため不詳であるが、文書木簡である。



第18号木簡





第19号木筒

第一〇号木簡 (112) × (43) × 5 (81 SX1524-1層

□ 丈マ「」
□ 万呂
丈マ真丈
」
□ 阿戦万呂

上端は欠損し、下端は原形をとどめるが一部表面を削っている。左側面は一部原形をとどめるがそれ以外は欠損し、右側面も欠損する。オモテ面のみ表面が平滑に調整されており、墨痕が確認できる。

歴名簡。何らかの記録・帳簿の一部と考えられるが、詳細は不明である。

「六月大七月小 八月小 九月大 十月大十一月大十一月大」
○ 「丈部肥□」
△ 「首カ」
□ 合□□

完形。上端から約八mmのところの中央に孔を穿つ。その孔はU字状に欠損している。

オモテ面は右側にのみ墨痕が確認できるが、文字は判読しがたい。



第20号木簡

第一一一号木簡 284×62×4 011 SX135D・3層

(首カ)

□ 合□□

大



延 廉 24 年 (A. D. 805) 乙酉 大の月は 正月、3月、6月、9月、10月、11月、12月

《平年》 年間日数 355 日
[太陰暦]

(1) - 7 手未 (かのとねつ)	正・1	3・2	5・3	7・4 (立秋)	9・6	11・6	***	平未
(2) - 8 丑申 (みずのとく)	正・2	3・3	5・4	7・5	9・7 (寒露)	11・7	***	丑申
(3) - 9 寅酉 (みずのとく)	正・3	3・4	5・5	7・6	9・8	11・8 (大鵬)	***	寅酉
(4) - 10 未戌 (かのとく)	正・4	3・5	5・6	7・7	9・9	11・9	***	未戌
(5) - 11 亥卯 (かのとく)	正・5	3・6	5・7	7・8	9・10	11・10	***	亥卯
(6) - 12 戌未 (かのとく)	正・6	3・7	5・8	7・9	9・11	11・11	***	戌未
(7) - 13 丁丑 (かのとく)	正・7	3・8	5・9	7・10	9・12	11・12	***	丁丑
(8) - 14 戌酉 (つちのとく)	正・8	3・9	5・10	7・11	9・13	11・13	***	戌酉
(9) - 15 亥卯 (つちのとく)	正・9	3・10	5・11	7・12	9・14	11・14	***	亥卯
(10) - 16 戌未 (つちのとく)	正・10	3・11	5・12	7・13	9・15	11・15	***	戌未
(11) - 17 丙午 (みずのとく)	正・11	3・12	5・13	7・14	9・16	11・16	***	辛巳
(12) - 18 未午 (みずのとく)	正・12	3・13	5・14	7・15	9・17	11・17	***	未午
(13) - 19 辰未 (みずのとく)	正・13	3・14	5・15	7・16	9・18	11・18	***	辰未
(14) - 20 申午 (かのとく)	正・14 (雨水)	3・15	5・16	7・17	9・19	11・19	***	申午
(15) - 21 乙酉 (かのとく)	正・15 (驚風)	3・16	5・17	7・18	9・20	11・20	***	乙酉
(16) - 22 丙戌 (かのとく)	正・16	3・17	5・18 (風満)	7・19	9・21	11・21	***	丙戌
(17) - 23 丁丑 (かのとく)	正・17	3・18	5・19	7・20 (始春)	9・22 (開春)	11・22	***	丁丑
(18) - 24 戌子 (つちのとく)	正・18	3・19	5・20	7・21	9・23	11・23 (年忌)	***	戊子
(19) - 25 巳未 (つちのとく)	正・19	3・20	5・21	7・22	9・24	11・24	***	己未
(20) - 26 庚寅 (かのとく)	正・20	3・21	5・22	7・23	9・25	11・25	***	庚寅
(21) - 27 辛卯 (かのとく)	正・21	3・22	5・23	7・24	9・26	11・26	***	辛卯
(22) - 28 壬辰 (みずのとく)	正・22	3・23	5・24	7・25	9・27	11・27	***	壬辰
(23) - 29 癸酉 (みずのとく)	正・23	3・24	5・25	7・26	9・28	11・28	***	癸酉
(24) - 30 甲午 (かのとく)	正・24	3・25	5・26	7・27	9・29	11・29	***	甲午
(25) - 31 乙未 (かのとく)	正・25	3・26	5・27	7・28	9・30	11・30	***	乙未
(26) - 32 丙午 (かのとく)	正・26	3・27	5・28	7・29	10・1	12・1	***	丙午
(27) - 33 丁未 (かのとく)	正・27	3・28	5・29	7・30	10・2	12・2	***	丁未
(28) - 34 戌未 (つちのとく)	正・28	3・29	5・30	7・31	10・3	12・3	***	戊未
(29) - 35 巳酉 (つちのとく)	正・29 (驚風)	3・30	5・31	7・32	10・4	12・4	***	己酉
(30) - 36 戌子 (かのとく)	正・30 (驚風)	3・31	6・1 (立夏)	8・4	10・5	12・5	***	戊子
(31) - 37 手未 (かのとく)	正・1	4・2	6・4 (小暑)	8・5	10・6	12・6	***	辛未
(32) - 38 丑申 (みずのとく)	正・2	4・3	6・6	8・6 (白露)	10・7	12・7	***	壬寅
(33) - 39 寅酉 (みずのとく)	正・3	4・4	6・7	8・7	10・8 (立秋)	12・8	***	癸卯
(34) - 40 未戌 (かのとく)	正・4	4・5	6・8	8・8	10・9	12・9 (小寒)	***	甲戌
(35) - 41 亥卯 (かのとく)	正・5	4・6	6・9	8・9	10・10	12・10	***	乙巳
(36) - 42 戌未 (かのとく)	正・6	4・7	6・10	8・10	10・11	12・11	***	丙午
(37) - 43 丁丑 (かのとく)	正・7	4・8	6・11	8・11	10・12	12・12	***	丁未
(38) - 44 戌酉 (つちのとく)	正・8	4・9	6・11	8・12	10・13	12・13	***	戊戌
(39) - 45 巳未 (つちのとく)	正・9	4・10	6・12	8・13	10・14	12・14	***	己酉
(40) - 46 未戌 (かのとく)	正・10	4・11	6・13	8・14	10・15	12・15	***	庚戌
(41) - 47 辛卯 (かのとく)	正・11	4・12	6・14	8・15	10・16	12・16	***	辛亥
(42) - 48 壬辰 (みずのとく)	正・12	4・13	6・15	8・16	10・17	12・17	***	壬子
(43) - 49 癸酉 (みずのとく)	正・13	4・14	6・16	8・17	10・18	12・18	***	癸丑
(44) - 50 甲午 (かのとく)	正・14 (分)	4・15	6・17	8・18	10・19	12・19	***	甲寅
(45) - 51 乙未 (かのとく)	正・15 (小暑)	4・16	6・18	8・19	10・20	12・20	***	乙卯
(46) - 52 戌未 (かのとく)	正・16	4・17	6・19 (大暑)	8・20	10・21	12・21	***	丙辰
(47) - 53 丁丑 (かのとく)	正・17	4・18	6・20	8・21 (伏見)	10・22	12・22	***	丁巳
(48) - 54 戌酉 (つちのとく)	正・18	4・19	6・21	8・22	10・23 (小暑)	12・23	***	戊午
(49) - 55 巳未 (つちのとく)	正・19	4・20	6・22	8・23	10・24	12・24 (大暑)	***	己未
(50) - 56 未戌 (かのとく)	正・20	4・21	6・23	8・24	10・25	12・25	***	庚申
(51) - 57 手未 (かのとく)	正・21	4・22	6・24	8・25	10・26	12・26	***	辛酉
(52) - 58 王戌 (みずのとく)	正・22	4・23	6・25	8・26	10・27	12・27	***	壬戌
(53) - 59 貞酉 (みずのとく)	正・23	4・24	6・26	8・27	10・28	12・28	***	癸亥
(54) - 0 甲午 (かのとく)	正・24	4・25	6・27	8・28	10・29	12・29	***	甲子
(55) - 1 乙未 (かのとく)	正・25	4・26	6・28	8・29	10・30	12・30	***	乙丑
(56) - 2 戌未 (かのとく)	正・26	4・27	6・29	8・1	11・1	***	丙寅	
(57) - 3 丁丑 (かのとく)	正・27	4・28	6・30	8・2	11・2	***	丁卯	
(58) - 4 戌酉 (つちのとく)	正・28	4・29	6・1	8・3	11・3	***	戊辰	
(59) - 5 巳未 (つちのとく)	正・29	5・1	6・2	8・4	11・4	***	己巳	
(60) - 6 未戌 (かのとく)	正・30 (驚風)	5・2 (芒種)	6・3	8・5	11・5	***	庚午	

ウラ面は、右側に六月から十二月までの月の大小を列記している。八

十九世紀の間で想定するならば、月の大小の組み合わせから延暦二十四年（八〇五）の暦と断定することができる（湯浅吉美編「日本暦日便覧」）。

左側に入名が記されている。暦部分と人名部分との関係は不明であるが、人名は異筆と判断できる。おそらく暦が不要となつた後、人名が習書きされたのであろう。

暦の月の大小を記した木簡の例としては、藤原宮跡出土木簡がある。

五月大一日乙酉水平 七月大一日甲申 (107) × (7) × 1 (861)

月の大小、朔日の干支などを記し、慶雲元年（七〇四）の暦と推定されている。上端および左辺が欠損し、五月記載の左側には六月分の記載、七月記載の左側には八月分の記載があつたものと見られ、ウラ面上部に

九月から十二月の記載があつたものと考えられている（三上喜孝「秋田城跡第五四次調査出土八四号木簡（干支棒木簡）の再検討」『平成一二年度秋田城跡調査概報』秋田城跡、二〇〇一年）。

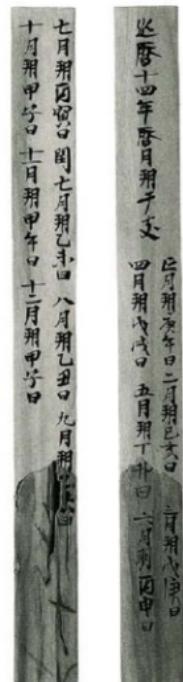
また、新潟県発久遺跡出土の月朔干支木簡も参考となる。

(154) × 40 × 8 019

× 三月朔丙申日

・ 乙未日
× 五月朔丙申日

発久遺跡出土第一号木簡



発久遺跡出土第1号木簡

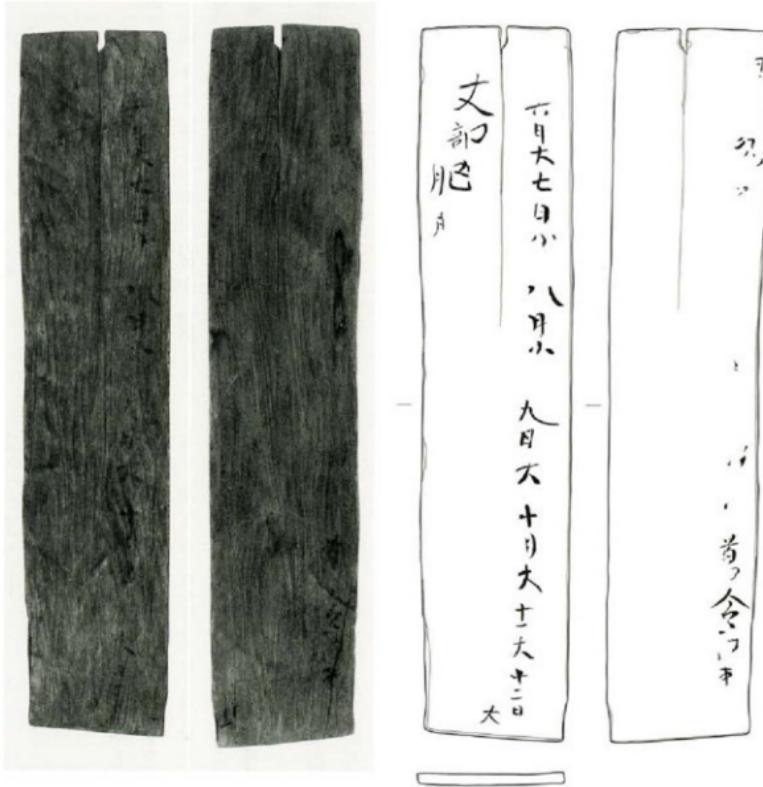
（復原複製・

国立歴史民俗博物館所蔵）

階で裏がえして残りの半年分を利用していた可能性も指摘されている。

（小林昌二、平川南「木簡について」『無神村文化財調査報告八 発久遺跡発掘調査報告書』、一九九一年）

以上のことから、木簡に暦を抄記する場合一年一箇で作成されることが推測でき、本木簡の場合も、延暦二十四年の正月から十二月までの月の大小を記した木簡である可能性が指摘できるであろう。さらに、本木簡には上部中央に孔が穿たれており、その部分が上部欠損していることから、一月から五月まではオモテ面を壁面に掛けおき、六月になった時点で裏返して年の後半部分を利用し、年が終わつた時点で壁面から本木簡を取りはずし、その際孔が欠損したと想定できるであろう。



第21号木簡

第一二二号木簡

(106) × 37 × 6 (86) SX1351C・2 番

・卷管廣五枚□

・長管□

上端・下端ともに欠損する。左右両側面は原形をとどめる。

儀式の調度品を記した木簡。オモテ面とウラ面は、内容から判断して一連のものと考えられる。「薦」、「管」などはいずれも儀式に使用する物である。「薦」には葦、藁、菅などを材料とした葦薦、藁薦、菅薦などがあるが、「管」とは「竹」の意（『大漢和辞典』）であり、したがつて「管薦」は竹で編んだ薦を指すものと思われる。

「薦」に関する木簡は、地方官衙遺跡では、埼玉県行田市小敷田遺跡、新潟県三島郡和島村八幡林遺跡、長野県更城市屋代遺跡群、東京都足立区伊興遺跡など主要な遺跡から出土している点が注目される（平川南・儀式用薦關係木簡）（『古代地方木簡の研究』、1993年）。

下端を刃物により切断している。上端より約30mmの側面に穿孔がある。表面はオモテ・ウラとともにカットガラス状に削っている。穿孔方法には、焼け火箸を使用する方法と錐を使用する方法の二種類があることが類例より知られる（館野和己氏、奈良国立文化財研究所『平城宮木簡五総説、一九九六年』）が、本木簡には焼け焦げの跡が無いことから、錐を使用した穿孔と推測される。

人名を記したカード型の木簡。墨痕は上端から32mmの所、側面の孔より少し下から始まっている。○一五型式の木簡は、①考課に關わるもの、②選叙に關わるもの、③兵士歴名に關わるもの（宮城県山王遺跡出土木簡）、④その他、に分類できる。本木簡は人名が記載されていることが確認できるのみであり、その詳細は不明とせざるを得ないが、個人ごとに作成されたカードの一つであり、一連の木簡を綴り、組み替えて何らかの文書を作成するために使用した木簡であることが推測されよう。

こうしたタイプの木簡は、古代地方官衙遺跡では山王遺跡の他、島根県三田谷遺跡、同出雲国守跡、宮城県多賀城跡などから出土している。

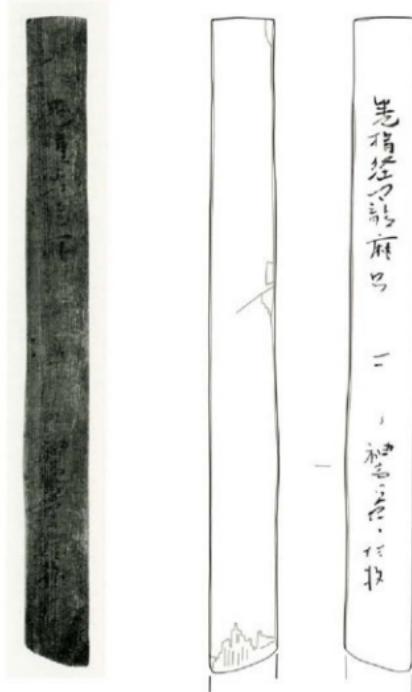
第一三三号木簡

(262) × 28 × 11 (015) SX1600B・1 番

□□□マ龍麻呂 □□神□□□



第22号木簡



第23号木簡

第一四号木簡 19×25×5 033 SX1351C・2層

・「 杵葉郷 戸主神人マ子□五斗
・「 延暦九年十月十八日」

完形。オモテ・ウラ両面ともに表面が平滑に調整されている。
貢進物の荷札であるが、物品名は記載されていない。延暦九年は七九〇年。

二文字目「桑」は「桑」の異体字である。「和名抄」には「杵桑郷」は存在せず、陸奥国伊具郡に「杵葉郷」がみえるが、六国史などの史料には「杵葉郷」は確認できない。「大日本地名辞書」は「杵葉郷」を現宮城県丸森町か、としており近世の木沼村（同町）を「杵葉」の転訛としている。これに従えば、本来「杵葉郷」と記すべきといふ、「葉」が「桑」と類似した字形であるため「杵桑郷」と誤記されたと考えられよう。あるいは、本来の郷名は「杵桑（桑）郷」であり、「和名抄」写本段階で「杵葉郷」と誤写されたという可能性も想定できよう。

第一五号木簡 (108) × 21 × 6 039 SX1600C・1層

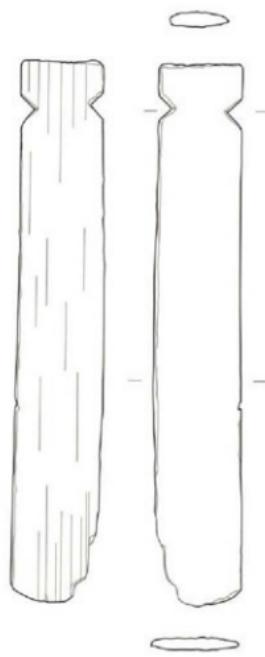
「 □□」

上端は山形に成形し、下端は欠損する。左右両側面は原形をとどめる。オモテ・ウラ両面ともに表面が平滑に調整されている。
オモテ面にのみ五文字程度の墨痕が確認できる。

第一一六号木簡 216×34×5 032 SX1600C・1層

・「 □□□」
・「 □□□」

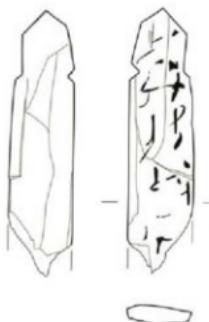
完形。下端左隅を一部欠損する。オモテ面のみ表面が平滑に調整されている。オモテ・ウラ両面に墨痕が認められるが字数等は不明である。



第26号木筒



第24号木筒



第25号木筒

第一一七号木簡 103×33×5 031 SX1600C・1層

「▽ ▽」

三片接合。完形。オモテ・ウラ両面とともに表面が平滑に調整されている。墨痕は両面ともに確認できない。

第一一八号木簡 98×28×6 032 SX1351C・2層

「▽ ▽」

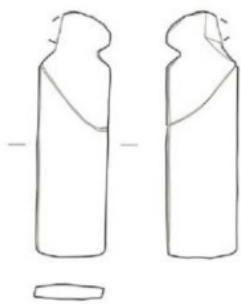
一片接合。右側面切り込み部より上が欠損する他は原形をとどめる。

オモテ・ウラ両面ともに表面が平滑に調整されている。墨痕は両面ともに確認できない。このような形状のものは木簡状木製品の可能性もあるが、本遺跡出土の類似のもの（第四〇号など）も含めて現段階では木簡の範疇にとどめたい。

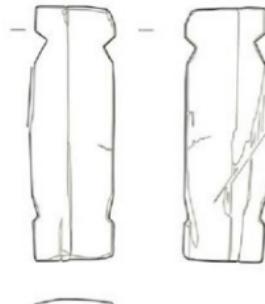
第一一九号木簡 (228)×34×5 039 SX1600C・1層

「○ ○ ▽」

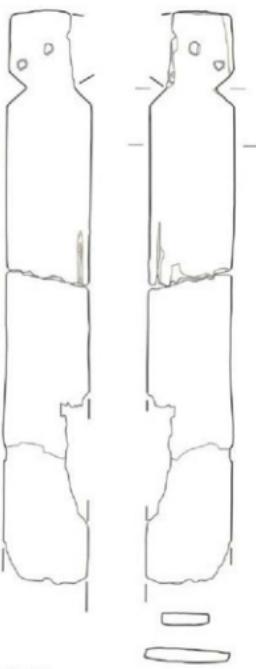
三片接合。下端および左側面切り込み部より上が欠損する。オモテ面は表面が平滑に調整されている。墨痕はオモテ・ウラ両面ともに確認できない。



第28号木簡



第27号木簡



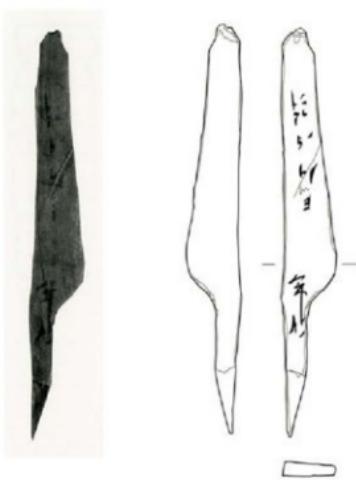
第29号木簡

第三〇号木簡 (184) ×21×6 061 SX1600C-1層

□□□□ 年□□

上端が欠損する他は原形をとどめる。本木簡出土遺構SX一六〇〇Cからは多数の形代が出土しており、本木製品も形代であろう。

オモテ面にのみ墨書が確認できる。判読は困難であるが、上二ヽ四文字目は天地が逆に記載されていることが運筆により確認できる。墨書と形代との関係は不明であるが、字を切つて成形していることから、木簡として使用され不要となつた後、形代に転用したものと推測できよう。



第30号木簡

第三一号木簡 333×50×7 065 SX1600C-1層

□□ □○ □○□○□○□○ □□

□○ □○□○□○□○ □○

□○ □○□○□○□○ □○

○○ ○○○○○○○○ ○○

○○ ○○○○○○○○ ○○

○○ ○○○○○○○○ ○○

○○ ○○○○○○○○ ○○

○○ ○○○○○○○○ ○○

○○ ○○○○○○○○ ○○

○○ ○○○○○○○○ ○○

○○ ○○○○○○○○ ○○

○○ ○○○○○○○○ ○○

○○ ○○○○○○○○ ○○

○○ ○○○○○○○○ ○○

○○ ○○○○○○○○ ○○

○○ ○○○○○○○○ ○○

○○ ○○○○○○○○ ○○

○○ ○○○○○○○○ ○○

○○ ○○○○○○○○ ○○

○○ ○○○○○○○○ ○○

○○ ○○○○○○○○ ○○

○○ ○○○○○○○○ ○○

○○ ○○○○○○○○ ○○

○○ ○○○○○○○○ ○○

○○ ○○○○○○○○ ○○

○○ ○○○○○○○○ ○○

○○ ○○○○○○○○ ○○

○○ ○○○○○○○○ ○○

○○ ○○○○○○○○ ○○

○○ ○○○○○○○○ ○○

○○ ○○○○○○○○ ○○

○○ ○○○○○○○○ ○○

○○ ○○○○○○○○ ○○

○○ ○○○○○○○○ ○○

○○ ○○○○○○○○ ○○

○○ ○○○○○○○○ ○○

○○ ○○○○○○○○ ○○

二片接合。二次的加工が施されている。オモテ面のみ表面が平滑に調整されている。ウラ面も墨痕が確認できるが腐食が甚だしく、判読は困難である。四カ所に穿孔があるが、木簡廃棄後のものであろう。

人名を列記した木簡。内容については不詳。



第31号木簡

第三三一一号木簡 (90) × (32) × 7 081 SX1600C・1層

「。○〔部カ〕
中勾依依□
□□○○○○」

上端および右側面は原形をとどめる。オモテ面のみ表面が平滑に調整されている。穿孔が二カ所ある。左下は穿孔部分より折れている。

墨書きは一行にわたって確認できるが、二行目は文字が半截している。

第三三四号木簡 (331) × (34) × 8 081 SX1600C・1層

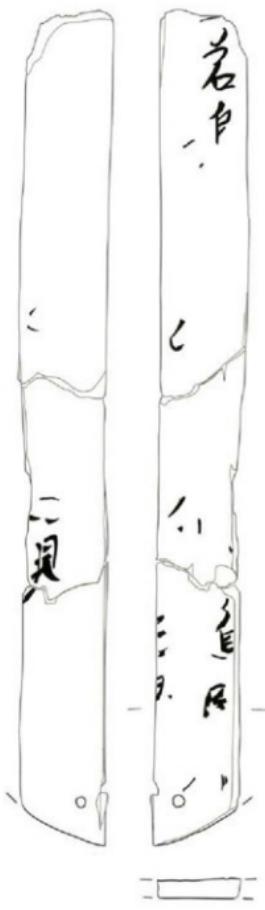
「□□□ □□□ ○」

三片接合。下端のみ原形をとどめる。ウラ面は腐蝕が甚だしい。

本木簡には下端に穿孔が一カ所ある。孔が本木簡に伴うものとすれば、整理・保管を目的としたものであり、一連の木簡を束ねるために使用されたこととなろう。ただし、本木簡出土遺構SX一六〇〇Cからは、木簡への転用材ないし木簡からの転用材が多数出土しており（第三〇、三一号木簡ほか）、本木簡の孔も木簡に伴うものではなく、木簡としての使用前あるいは使用後の用途に基づくものである可能性が高い。

□得□□

四片接合。曲物の側板を木簡として転用したものである。



第34号木简



第32号木简

第33号木简

第三五号木簡 (158) × 18 × 5 019 SX1600C・1層

□□
□□
□□

下端および右側面の一部が欠損する他は原形をとどめる。墨痕は確認できるが、判読は困難である。



第三六号木簡 (129) × (23) × 5 081 SX1600C・1層

□□
□□□

上端および左右両側面が欠損している。下端は二次的加工である。裏面は腐蝕している。



第35号木簡

第三七号木簡 (151) × 44 × 9 081 SX1600C・1層

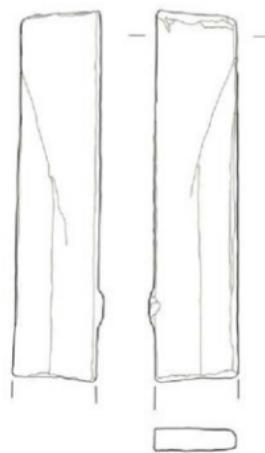
1片接合。上端・下端ともに欠損し、左右両側面は原形をとどめる。

オモテ・ウラ両面ともに表面が平滑に調整されている。右側面上部より下部に向かつて刃物を入れ、途中ほぼ中央で半截している。墨痕は両面とともに確認できない。

第三八号木簡 (124) × 28 × 5 081 SX1351C・2層

上端・下端ともに欠損し、左右両側面は原形をとどめる。オモテ・ウラ両面ともに表面が平滑に調整されている。墨痕は確認できない。

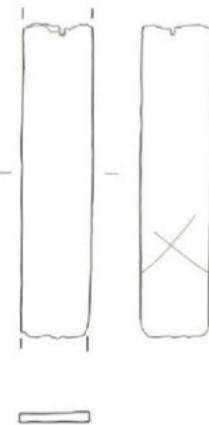
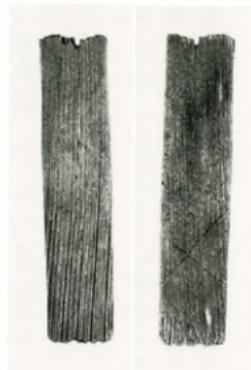




第36号木簡



第37号木簡



第38号木簡

第三九号木簡 (162) × (73) × 9 061 SDI522-1層

合

□里人 □十束

□丸 □十束 口上

二人口

□ □

□□

」



」

第四〇号木簡 (33) × 20 × 4 032 SDI522-1層

「V
」

完形。オモテ・ウラ両面ともに表面が平滑に調整されている。片面の上端を面取りしている。墨痕は確認できない。

第四一号木簡 (73) × 18 × 6 039 SDI522-1層

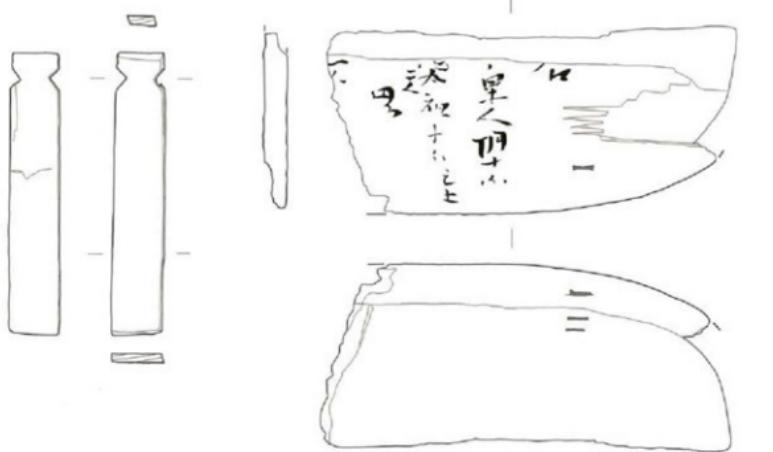
「V

下端は欠損する。左右両側面はともに原形をとどめるが、切り込み部より上は一部欠損している。オモテ・ウラ両面ともに一部が削れているが表面が平滑に調整されている。墨痕は確認できない。

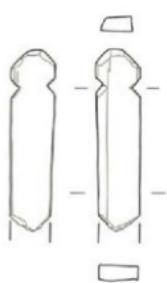
下端は原形をとどめる。折敷の底板を転用したものである。オモテ面のみ表面が平滑に調整されている。

オモテ面の内容は記録間。「□里人」および「□丸」は人名と推測される。「丸」字の下は「粗」等の字の可能性があるが、断定は難しい。十束単位で記されていることが注目される。出撃関係の帳簿か。

ウラ面は、オモテ面に直交する方向で墨痕が確認できる。三行にわたり墨書であることがわざかに判明する。



第40号木筒



第41号木筒



第39号木筒

第四一號木簡 345×21(径) 065 SD1522-2層

・「○ ○ □ ○ ○ 」
・「○ ○ ○ 」

□ □ □□□

二片接合。完形。直径二一■の笛状木製品。枝材の皮を剥いだあと、表面および上端下端の断面を丁寧に面取りしている。材の幅を抜き取りており、直径約七■の孔が貫通した状態を呈している。本木製品を笛と想定した場合の歌口に該当する部分は発掘時にえぐり取られているが、わずかに原形を一部とどめている。指孔に該当する孔は八つある。ただし現存する笛に比して指孔が小さいこと、不規則な並びであることなどから、現状で笛として機能したとは考えにくいだろう。笛以外の木製品である可能性も大いに残る。

正倉院宝物に八点の「尺八」と呼ぶ縦笛や四点の横笛があるほか、福島県江平遺跡、宮城県清水遺跡、同市川橋遺跡で古代の横笛が出土している（廣瀬千晃「福島県江平遺跡出土竹笛について」、『福島県文化財調査報告第三九四集 福島空港・あぶくま南道路遺跡発掘調査報告一二』、一〇〇一年）が、いずれも竹製である。上から一〇〇■の所に墨書が確認できる。

第四三號木簡 (182)×(16)×5 061 SD1522-1層

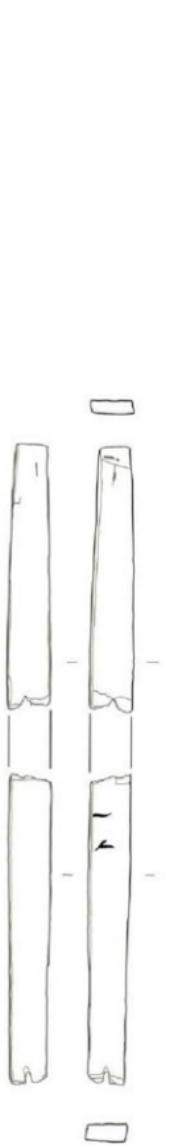
左側面が一部原形をとどめる他は、いずれも欠損する。折敷の材を木簡として転用したものと推測される。

墨痕は確認できるが、半截しており判読は困難である。

第四四號木簡 A片 (105)×17×6
B片 (124)×17×7 061 SD1522-1層
「□□

二片からなるが、接合はしない。

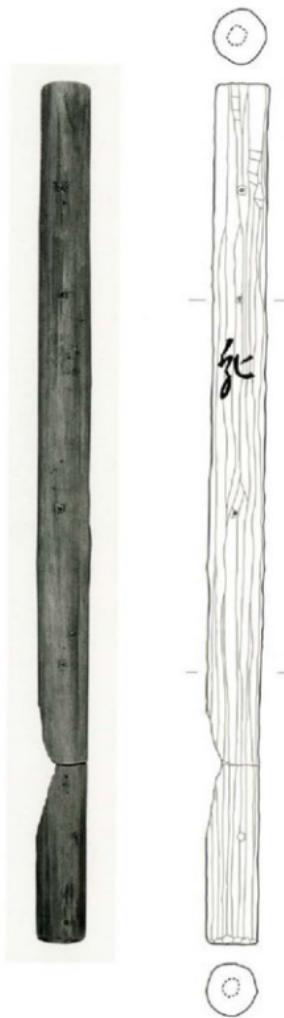
A片 上端は原形をとどめるが、下端は欠損する。左側面は一部原形をとどめ、右側面は欠損する。墨痕は確認できない。
B片 上端・下端ともに欠損する。左右両側面は、左側面の一部が欠損するほかは原形をとどめる。二文字分程度の墨痕が確認できる。



第44号木简
(上：A片、下：B片)



第43号木简



第42号木简

第四五号木簡 (108) × (25) × 3 081 78区P84・掘り方

□ □ □

上端は原形をとどめるが下端および左右両側面は欠損する。オモテ・ウラ両面共に表面が平滑に調整されているが、オモテ面の調整はやや粗い。四文字分の墨痕が確認できる。

第四六号木簡 (44) × (16) × 4 081 SD1522・1層

□

上端・下端ともに欠損する。左側面は原形をとどめるが、右側面は欠損する。一文字分の墨痕が確認できる。

第四八号木簡 091 SE1217・2層

□

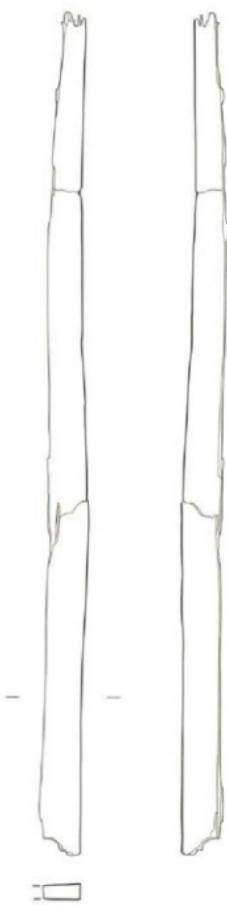
上端・下端ともに欠損する。左側面は原形をとどめるが、右側面は欠損する。墨痕は明瞭であるが、判読は困難である。

第四七号木簡 (333) × (16) × 6 081 SE1217・裏込め

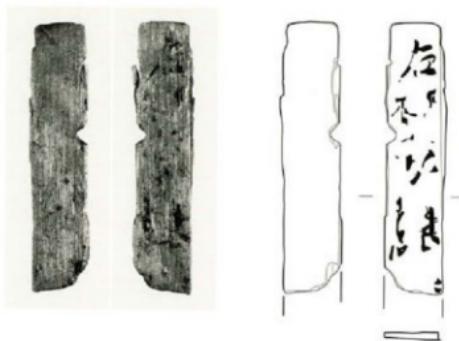
□ □

上端・下端とともに欠損する。左側面は原形をとどめるが右側面は欠損する。オモテ・ウラ両面ともに表面が平滑に調整されているが、ウラ面は一部腐食している。

墨痕はオモテ面にのみ確認できるが、字数などは不明である。



第47号木简



第45号木简



第46号木简



第48号木简

報告書抄録

ふりがな	いちかわばしいせき
書名	市川橋遺跡
副書名	城南土地区画整理事業に係る発掘調査報告書Ⅱ
シリーズ名	多賀城市文化財調査報告書
シリーズ番号	第70集
編著者名	千葉孝志、島田敬、鈴木孝行、斎藤稔、菊池豊、佐藤恵子、相澤正信、平川南、廣瀬真理子
編集機関	多賀城市埋蔵文化財調査センター
所在地	〒985-0873 宮城県多賀城市中央2丁目27番1号 TEL 022-368-0134
発行年月日	西暦 2003年3月26日

所取遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いちかわばしいせき 市川橋遺跡	宮城県多賀城市高崎字水入丸山、高崎二丁目	042099	18008	38度17分40秒	140度59分40秒	19990414~20000403~0831 20011002~1203 20020729~1029	16,841m ²	土地区画整理事業

所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
市川橋遺跡	古代都市	奈良・平安時代	道路、掘立柱建物、竪穴住居、井戸、溝、土塙、河川、橋	土師器、須恵器、須恵系土器、畿内系土師器、青磁、灰釉陶器、綠釉陶器、人面墨書き土器、墨書き土器、製壇土器、龜形土器、埴輪、土鍤、木筒、木製品(横笛、桧馬、人形、畜車、花形漆繪製品、檜扇、横櫛、馬櫛、下駄、火雞臼、鍔)、漆紙文書、灑布、金属製品(帶金具、刀、刀子、簪、铁鍼、铁斧、鎌、釘、釣針、釘、坊鍤車、獸脚、耳環)、石製品(石帯、鉄鍤車、砾石)	南北大路・東西大路交差点の南東地区において、東西大路東道路、東2・東3道路による区画を調査した。旧河川からは、畿内系土師器をはじめ多量の土器・木製品が出土し、特にロクロ土師器出現期の良好な資料を得られた。

多賀城市文化財調査報告書第70集

市川橋遺跡

—城南土地区画整理事業に係る発掘調査報告書Ⅱ—

平成15年3月26日 発行

編集 多賀城市埋蔵文化財調査センター
多賀城市中央二丁目27番1号

電話 (022) 368-0134

発行 多賀城市教育委員会
多賀城市中央二丁目1番1号
電話 (022) 368-1141

印刷 今野印刷株式会社
仙台市若林区六丁の目西町2-10
電話 (022) 288-6123



古紙配合率100%再生紙を使用しています
印刷には大豆インキを使用しています